RADICAL 紙のプロレス

1999 19

7·4迫る!
恐怖のM·ケアー戦はハルマゲドンか?
新生・高田の「独立記念日」か?
高田延彦

小川登場、リングスが抱える諸問題、
マット界の今後をCEOが激白!
前田日明

今度はリングス、パンクラス
にも咆吼三昧!
小川直也

押忍(敬礼)!
よろしくお願いしま〜す!
掣圏道、急速発進!!
佐山聡

奇々怪々!魑魅魍魎!
「九州発世界」の妖怪ランド
『世界のプロレス』に初潜入!!

S多重アリバイに
ドン荒川先生登場!

ここで悲壮感か!?
スポ根野郎じゃあるまいし

闘犬が『紙プロ』に噛みついた!
爆弾発言の真意を激白!
エンセン井上

発掘!海外武者修行出発前に語った
シュー・キムorパコの本音
アレクサンダー大塚

『K一通』PRIDE.6 SPECIAL
高田、小川、桜庭、小路の前に立ちはだかる
"怪物"たちを『紙プロ』的に大分析!
マーク・ケアー/ゲーリー・グッドリッジ
エベンゼール・F・ブラガ/ガイ・メッツアー

どうするどうなる
「W井上」第2弾 井上貴子

本誌初登場の
クレイジー・ウォリアー! TARU(C-MAX)

追悼再録対談!
由利徹 vs ユセフ・トルコ!!

団体の垣根を超えた交流戦
に向けてひと足踏み出す! 成瀬昌由

灼熱の総合格闘技界に風穴があいた!
ルミナを破り修斗ウェルター級王者に! 宇野薫

★類似教室『ミッドナイト道場』とはなんの関係もありません。ご注意ください

開講目前！
急いでいます ぐ
申し込め！

7/14 vol.1

青空プロレス道場

講師陣が自慢です!! スペシャル講師が毎回登場!!

［講師］本誌編集長・山口日昇&編集スタッフ（吉田豪、坂井ノブ、松澤チョロ、中村カタブツ君（36歳）、ジャイ子

ザッツ・エンターテイメント!!

「目をそらすな!!」

冬木&杉Jが語る
「日本のアメプロ`99」

講師
冬木弘道先生（FMW）&杉作J太郎先生

単なるトークショーが進化したもの、それが青空プロレス道場です!!

世間と、そしてプロレス業界とプロレスし続ける、孤高のドンキホーテ雑誌『紙プロRADICAL』が送る、門外不出のガチンコトーク・バトルが帰ってきた!! アッと驚く超一流のプロレスラーor格闘家（たまには超一流じゃない人も来ますが）を講師に招いて、プロレスの表と裏を語り尽くします!! 昨年春〜夏、昨年秋〜今年春と快進撃を続けて、みたび開催することとなりました！ 今回は少数精鋭で全6回！ そのぶん中身の濃いプロレス話が、危険球スレスレのコースで飛び交います！ もちろん、話が盛り上がれば二次会、三次会へと雪崩込んでいくのはいままで通り。プロレスファンだったら絶対に聞き逃せないものばかり。さあ、時は来た!! いますぐ予約だ!! 時代に乗り遅れるな!!

■日時／7、8、9月の第2&第4水曜日
18：30〜20：15

■開講日&回数／7月14日〜9月22日 全6回

■受講料／全6回通し券
西武C．C．会員16800円 一般18000円
1回券（会員&一般ともに）／3500円
（ともに消費税別）

【申込み方法】池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきますので、申込みはお早めに！ 受付時間は10：00〜18：20（日曜日は18：00まで。祝祭日は休館）

第2、第4水曜日は『青空プロレス道場』の日

※講義内容はあくまで予定なので、最終的に、しっかり確認を取ってください。『紙プロ』の講義ならではの土壇場の変更もあるので要注意です！

7月14日	ザッツ・エンターテイメント 講師／冬木弘道&杉作J太郎
7月28日	ダブルクロスとは何か？講師／未定
8月11日	道場伝説'99 講師／未定
8月25日	プロレス論 講師／未定
9月8日	ワルとは何か？ 講師／未定
9月22日	プロレス本大研究 講師／未定

【すべてのお問い合せ先】池袋コミュニティ・カレッジ TEL.03-3988-9281
（受付時間10:00〜18:20 日曜日は18:00。祝祭日は休館）

7・4マーク・ケアー戦、直前――。

髙田延彦は

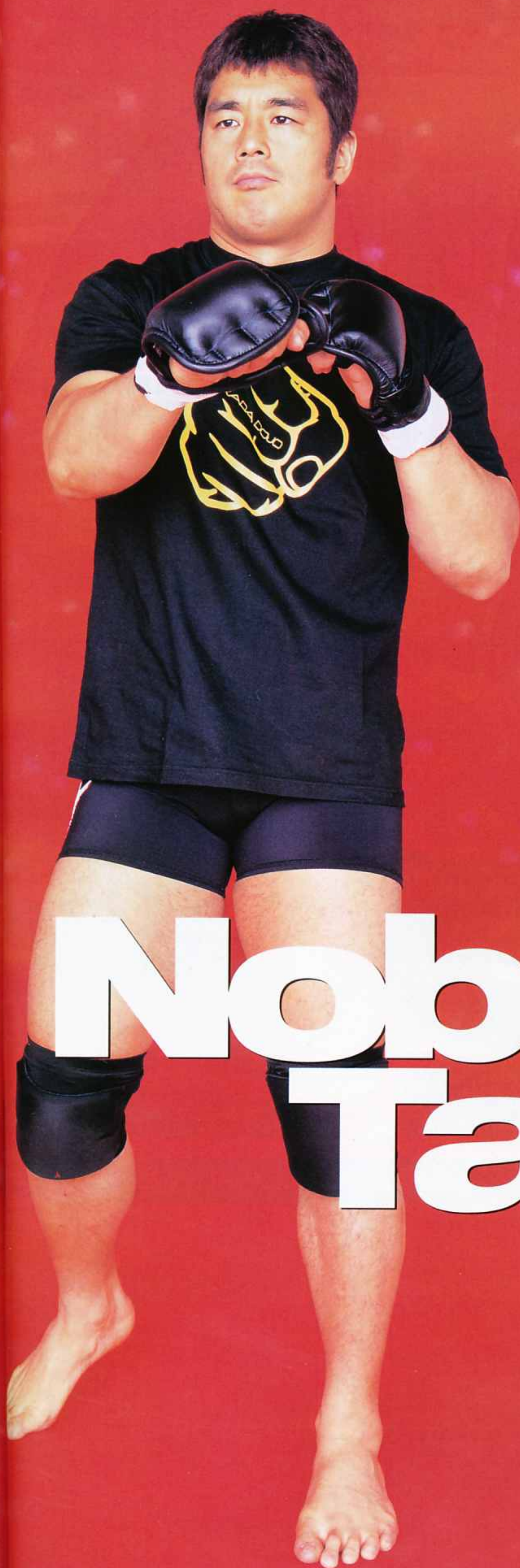
死ぬか!?

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス≒格闘技読本

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

Nobuhiko Takada
髙田延彦
［髙田道場］

去る4・29『PRIDE.5』。マーク・コールマン戦という難関を突破した高田延彦が、7・4『PRIDE.6』で“完全無欠のバーリ・トゥーダー”と対峙することになった。正直言って、高田の勝ち目は薄い。それでも高田延彦は悲壮感を払拭してリングに向かう。皆さん、こうなれば、「高田、大逆転」の札を、エネルギーを使って探し出すのが、プロレスファンのつとめというものです！

まさにメガトン級の意外さだった。この驚天動地のカードが発表された記者会見が行われたのは6月3日。「胸を借りるつもりで」という言葉を何回も繰り返した高田延彦の『PRIDE.6』の相手は、なんとマーク・ケアー！

4・29『PRIDE.5』で突破したマーク・コールマンさえ比較にならないほどの恐怖心を抱かせる、〝霊長類ナンバーワン〟のバーリ・トゥーダーである。

〝ヒクソンがもっとも恐れる男〟として世界中にその名を轟かせるケアー相手に、高田はいかに向き合うのか？　まずは、高田延彦自身の言葉に耳を傾けるしかない。

そして、この一戦のテーマとはなんなのか？　この闘いから立ち昇ってくる何を我々はキャッチしなければならないのか？そして、我々が直視しなければいけないこととはなんなのか？

例え20世紀が終わった後でもいい。そのことを汲み取れば、この一戦がいかに重要な意味を持った一戦なのかがわかるだろう

（※ケアーのプロフィールは、P12～に）。

――高田さんは、いま元気なんですか？

高田　え？　元気だよ。なんで？

――ケアー戦発表の記者会見の席では、妙に弱気な発言に終始してましたよね。

高田　ああ、あれね。

――「なにもケアーと」と、ボクも含めてほとんどの記者陣が思ったわけですけど、あの弱気・辺倒な発言は、もしかしたらカムフラージュですか？

高田　だから、もっとマーク・ケアーの強さとかをわかってもらいたいっていうのはあるよね（笑）。

7・4マーク・ケアー戦は、
高田延彦にとって“バルマゲドン”になるのか——？
マーク・ケアーは“アンゴルモアの大王”なのか——？
それとも7・4は「新生・高田延彦」の“独立記念日”になるのか——？

いま一度、高田延彦を注視せよ——。

——あぁ、「わかれよプロレスファン！」と（笑）。

高田　マスコミにもね。要するに、ケアーから一本取るということは、ヒクソンに勝つのと同等か、いまはそれ以上の価値があると思うんだ。それをサラッと普通の試合のように報道されると、ファンの人もそう見る。その試合の意味を伝えるのも、やっぱり大事なことなんで、そういう部分を伝えたいっていうのはあるね。

——プロ、あるいはメインイベンターたるもの、そういった興行的な部分も含めて、試合のテーマを汲み取った上で伝えなければいけない役割もありますからね。

高田　確かに、「やりたい」という欲望があったにせよ、急に決まったことで、準備不足は否めないっていう部分はあったんだよ。そういう部分は（会見で）多少出たけどね。ケアーの凄さっていうのは、わかってる人はわかってるんだけど、俺が弱気なことを言えば言うほど、さらにマーク・ケアーの凄さが伝わりやすいと思ったからね（笑）。

——なるほど！　そうだったのか（笑）。でも、「高田は負けたときの言い訳をしてるんじゃないか？」っていう声も記者陣から上がってましたね。

高田　その前に、「アンタら、俺が勝つと思ってんのか？」ってまず聞きたいよ。

——ボクは思ってますよ。やるからには勝ってほしいです！

高田　うん（笑）。

——で、その会見では、「恐怖心はヒクソンと（やるときと）は比較にならない」って言ってましたね。

高田　やっぱりヒクソンには、「壊される」っていう気はしないけど、ケアーだと肉体を破壊されるっていうイメージがあるよね。それだけのパワーを持ってるしね。兵器で言ったら、完璧な……最終兵器だと思うね。

——確かに完全無欠のバーリ・トゥーダーというイメージはありますね。「ケアーは霊長類ナンバーワン」とも言ってましたね。

高田　いまいる霊長類ではナンバーワンじゃない？（笑）。

——前田日明は「人類最強の男」アレクサンダー・カレリンとやった。だからその言葉を聞いて、まだ高田延彦には前田日明への、いい意味でのライバル心が残ってるんじゃないかっていう邪推をしてる奴がいるんですよ。それ、ボクなんですけどね（笑）。

高田　前田さんへのライバル心？　あの方はもう辞めた方ですから（ニッコリ）。

——意味シンな笑顔ですね（笑）。マーク・ケアーの怖さというのは、レスリングの技術なのか、圧倒的なパワーなのか、グラウンドのパンチも含んだ打撃力の怖さなのか、それともマーク・ケアーを包んでる全体的なイメージからくる怖さなのか、敢えて言えばどういうことになりますか？

高田　やっぱり、レスリングっていうものが身体と脳味噌に染みついていて、あれだけやってきたにも関わらず、レスリングシューズを脱いだでしょ。ある意味で、レスリングっていうものを捨てて、頭の先からつま先までバーリ・トゥーダーに自分を変えていく姿勢、そのへんの意識の現れっていうのが彼から見える。そのへんの怖さというのかなぁ。だから、コールマンとは同じレスリング出身なんだけど、まったく違ったイメージはあるよね。コールマンはレスリング・シューズを履いてるでしょ。いい意味でアマレスっていうものを背負ってるコールマンと、いい意味でアマレスを捨てて自分を変えているケアーと、似てるんだけど対照的な2人だよね。

——シューズを履いてくれてたお陰でコールマン戦を突破できましたからね（笑）。

高田　シューズを履いててくれたから、ヒール（・ホールド）を取れた（笑）。

——でも、マーク・ケアーも『PRIDE』のリングではまだ本領発揮してない部分もあって、マーク・ケアーの強さってどれくらいなのか、ファンもわかってないところはありますよね。

高田　日本でも、強い相手とやってるんだよね。

——（ブランコ・）シカティック、（ペド

【写真上】昨年10・11『PRIDE.4』では、“まだ見ぬブラジルの強豪”ウゴ・デュアルチを戦意喪失状態まで追い込んだケアー。とにかくこの人（人でいいのか？）の破壊力はすさまじい。『PRIDE.2』ではブランコ・シカティック、『PRIDE.3』では、ペドロ・オタービオをほとんど何もさせないまま下している（シカティック戦の正式裁定は反則勝ち）。【写真下】第14回、15回のＵＦＣヘビー級トーナメントを制しているケアーの脅威が高田を襲う。世界に君臨する強いアメリカを表現したかのような、強烈無比なボディを見よ！（撮影/長尾迪）

ロ・）オタービオ、ウゴ（・デュアルチ）ですね。

高田　ただ、彼らに試合をさせないで終わってるっていうことは、圧倒的に相手の力を消す、相手の全てを封印してるってことでしょ。試合的には非常に地味なんだけど、なかば相手が戦意喪失してる試合って多いじゃない。相手が（自分から）寝ちゃうとか、（ロープを）掴んで離さないとか、反則しちゃうとか。だから、裏を返せば、あれが彼の本領かもしれない。

――そう言われると、確かにそうかもしれないですね。

高田　そういう部分を切り取ってみても、俺は、いまいる中じゃトップなんじゃないかと思うね。

――相手の力を封印するのが本領かもしれないっていうのはわかりますよ。

高田　やっぱり、一見凄く地味で、サッと終わっちゃったけど、オタービオみたいなレベルの選手からスッとアームロックを取るというのは、並大抵のパワーやテクニックじゃないことは確かだよ。

――ただ、関節に関しては、高田さんのほうが上でしょう。

高田　うん。彼がアームロックをオタービオから取ったのは、力で持っていったのか、案外テクニックがあるのか、そこがいまひとつわからない部分だよね。彼のウィークポイントっていうのも見えないし。実際ケアーがピンチの映像ってないんだよね。

――あるならお目にかかりたいですね（笑）。

高田　例えばコールマンは、最初に飛ばしすぎてスタミナが目に見えて消えていくのが見えるから。そういうのが見えると相手にエネルギーを与えてしまうでしょ。そういう場面も見れない。マークの怖さっていうのはそのへんだよね。

――でも、4・29で桜庭（和志）選手と当たったビクトー（・ベウフォート）もウィークポイントはあまり見せてなかったけど、それを桜庭さんが見事にブチ破ってくれましたよね。そういう闘いを期待してますよ。

高田　俺に「飛べ」って言うの？（笑）。

――ガハハハ。高田さんが飛んでくれたらバッグンです（笑）。2度目のヒクソン戦ではヒクソン攻略のヒントを高田さんが全格闘家に与えたわけで、そういう部分でも面白いんですよね。会見では弱気だったものの、はからずも昨日の新聞（6月13日付けの日刊スポーツ）には「自信がみなぎってきた」という高田さんのコメントが載ってて、「いいぞ！」と思ったんですけど（笑）。

高田　とくにこのリングで闘うようになってから、自分より（バーリ・トゥードの）経験のある強い選手と当たることが多いでしょ。もともと自分の作り方に関しては、徐々に恐怖心とか、迷いみたいなものを消して当日の試合を迎える。それは昔から変わらないんだよ。今回も練習をやりながら身体を作ってるうちに、どんどんネガティブな部分っていうのが消え去っていってるね。

――コールマン戦の前には、重い気分の時期があったと言ってましたけど、今回はそういうことはなさそうですか？

高田　そんな暇ないよね、間が短かすぎて！　コールマン戦が終わっていきなりだから、そんなこと考えてる余裕ないよ（笑）。

――これから7月4日に向けて練習方法はどうするつもりですか？　シアトルに行くという話もありましたけど。

高田　日本でやる。

――ある種、コールマン戦はシアトルに行ったお陰で突破できたわけだけど、シアトルに行かないことで不安になりませんか？

高田　全然ならない！　でも行きたいよ、シアトルには。行くんなら1ヵ月単位で行きたいね。中途半端に行って帰ってきても、俺の場合、時差ボケがひどいから。4日から1週間くらい時差ボケが続くんだよね。アメリカはなんかやってるんじゃないの？

――どっかに高田延彦を時差ボケにする装置があるんですかね（笑）。

高田　うん、限定の装置がね（笑）。

――じゃあ行かないほうがいいですね（笑）。

高田　とくにロスとシアトルがね。とんでもないよね。

――「とんでもない」って、ロスとシアトルに訴えられますよ（笑）。

高田　具合悪くなっちゃうんだもん。向こう行って1週間くらいは、朝5時ぐらいまで寝れないんだよ。

――はぁ。ほとんど寝れないわけですか。

高田　ほとんど寝れないままで練習する。それで日本に帰ってきてから、また1週間くらい朝5時まで寝れないんだよ。

――それは完全にオーバーワークというもんです（笑）。

高田　だから滞在が短かけりゃ短いほどいいんだよね、数日だったら。中途半端に長いとダメなんだよ。

――わがままですねぇ、ホントに（笑）。

高田　わがままな身体でしょ？　体調を崩して帰ってきちゃうんだから。

――性格はわがままじゃないんですか？（笑）。

高田　いや、わがままなんだよ、根は。わがままな部分を削り取られちゃったね。

――なんででしょうね？

高田　人生経験でね。会社1個潰してるから！

――ガハハハ！　出た！

高田　1インタビューに1回は、これ必要でしょ？（笑）。

――これからは、わがままな高田延彦を

じゃんじゃん見たいですね。7・4では1回目のヒクソン戦のときのような、負けることへの恐怖心からくる悲壮感を背負った高田延彦は見たくないんですよ。「ここで悲壮感か？　スポ根野郎じゃあるまいし！」という感じで、ガンガン行ってほしいです（笑）。

高田　それ、CMのセリフじゃない（笑）。1回目のヒクソン戦のときのように、負けることに対しての怖さっていうのは、もうないね。

――高田さんは、マーク・ケアーよりプロのリングに上がってきた経験は長いわけだし、もうそろそろバーリ・トゥードのリングに高田さんのキャリアが生きてくる時期じゃないかなという望みもあるんですよね。

高田　それは水モンだからね。いつどこでパッと目覚めるというか、変化するかわかんないし。変化しないかもしれないし。リングに上がって、相手と闘って、その結果として出てくるものだから。わかんない、俺自身は。

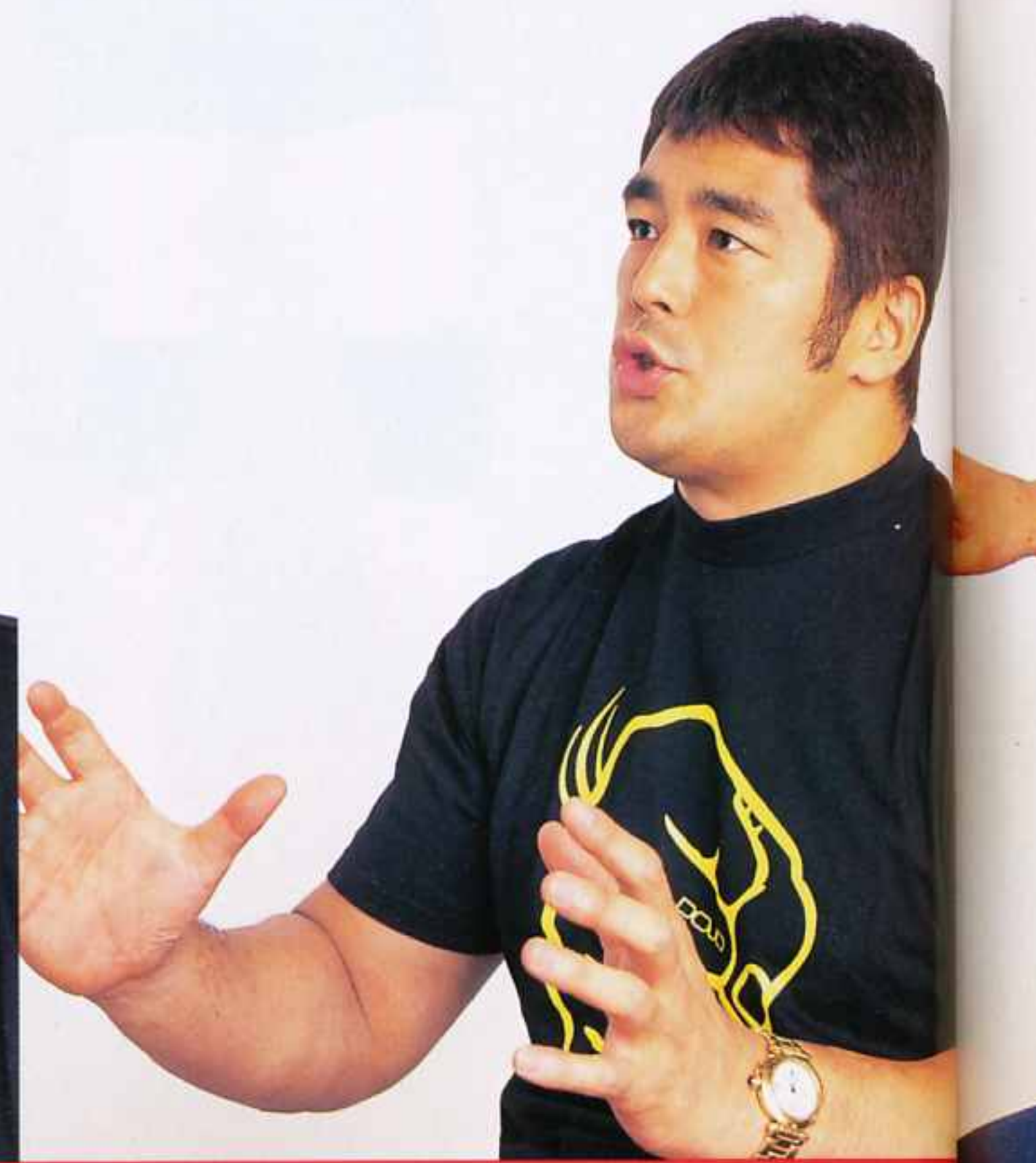
――でも、バーリ・トゥードのリングでは、高田さんはまだ本領を発揮してないっていう意識はあるんですよね？

高田　本領発揮？　本領発揮してないかな、俺？　でも、あんまり面白くないよね、バーリ・トゥードは。

――面白くない！　それは実に興味深い話ですね。

高田　うん、面白いなぁと思ったことはない。性に合わないんだよね。やっぱりこのリングに来たのは、自分が求めてる競技として来てないから。人を追って来てるからね。グレイシーを倒すための手段でしかないんだよ。

――向こうがそれ以外のルールでは受けないというところから始まってる。

バーリ・トゥードのリングに来たのは、グレイシーを倒すための手段でしかない！

Nobuhiko T

高田　うん。彼らはこっち（のルール）に来る勇気はないわけだから。ただ、「このリングはいいな」って思ったのが去年のドーム（98・10・11、2度目のヒクソン戦）だよね。そう感じるのは、自分が追っかけてる選手を倒すためにリングに上がるときなのかなって思うね。いまは、自分の可能性を試すために上がってるけど、試しながら自分が潰れちゃうかもしれない。この世界に足を踏み入れた以上は自分の可能性を試すために強い選手とやらせてもらってるけど、自分がバーリ・トゥードでどれだけ大化けするのかしないのか。バーリ・トゥードのルールの中で、自分が弾けるようなときが来るのか来ないのかっていうのはわからないよね。

――ぜひ弾けてほしいですね。今度のケアー戦の壁をブチ破れば、またグレイシーとの接点が出てくる可能性は広がってきますね。

高田　それだけが楽しみだね。ホイス（・グレイシー）戦、あるいはホイスに勝つことによって、（ヒクソンとの）3回目があるんじゃないかっていう可能性があるから、いまこのリングに上がってるんだよ。ただ、ファンの人とかマスコミとかも、「高田はこのリングで現役生活を終えるんじゃないか」って見てる人がいると思うんだけど、それは違うんだよ。決して、バーリ・トゥードを極めようという気持ちはないんだよっていうのをハッキリ言っておかなきゃね。俺の照準はバーリ・トゥードという競技の頂点を目指すんじゃなくて、あくまでもグレイシーを倒すこと！　そこに、これからはもう1回ピントを合わせ直したいんだよ。

――ただ「ヒクソンにはそんなに興味がなくなってきた」という発言を今年になってしてますよね。

高田　それは、要するに、いま自分がやろうと思ったって、まずできないでしょ。いまの自分の置かれてる状況ではできない。それがひとつ。できないものに興味は湧かないし、そこに辿り着くための段階を踏んで行かなきゃならない。別に、いまヒクソンがどうのこうのと、気にしてもしょうがないっていうことだね。

――敢えて気にしないようにしてる？

高田　敢えてっていうか、ホントに気にならない。結果を残しながらキャッチできるに越したことはないけど、おそらく3回目はないだろうし、彼も歳とってきてるし、俺を待つ義務はないわけでしょ。そう考えたときに、こだわる必要はないし、自分がいまガタガタとアピールしたって、向こうは2回、俺を完封してるわけだから。受ける理由はいまのところないしね。

――まぁ普通、2回はヤラせてくれたけど、「3回目は絶対にヤラせない」と言ってる女の元には通わないですからね（笑）。

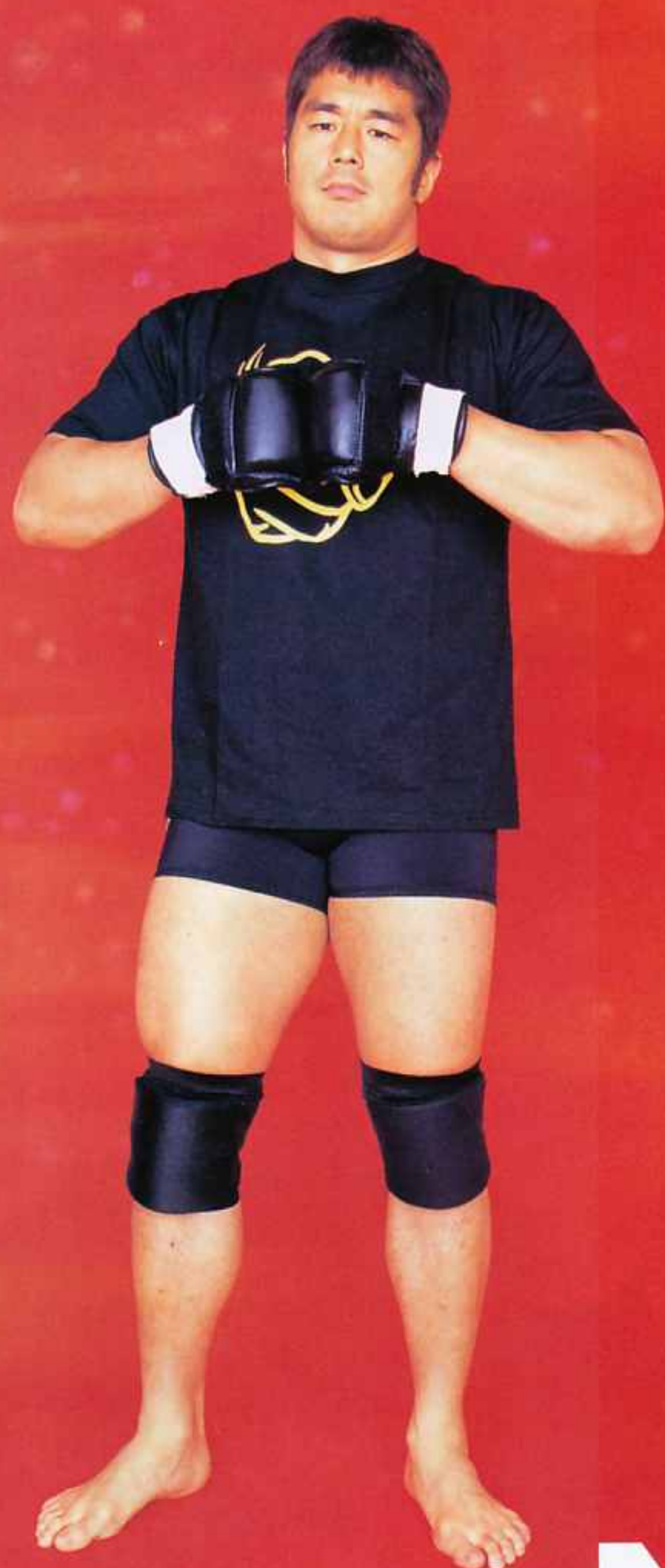
高田　……。そっちに持ってくわけね？（実に呆れた顔で）。

――ここは軽い話題で（笑）。

高田　シビアな話をしてるときにこれだからね。まったく、この男だけは！（笑）。

――そうすると、ホイスを倒すというのは高田さんにとって、どういう位置づけなんですか？

高田　それは、グレイシーに持ってかれたものを、グレイシーから返してもらいたいっていうのがあるから。そうするとグレイシーの馬場・猪木を倒すしかないわけ。あの2人は馬場・猪木だよ。

――グレイシーの馬場・猪木（笑）。

Nobuhiko
Takada

高田　そう（笑）。ホイスを倒せば、自分が持っていかれたものが3割か4割は返してもらえるなっていう気持ちだね。そういう意味であの2人のどっちかなんだよ。

――ヒクソン、コールマン、ケアーと辿ってきて、「この世界で頂点に立ってやろう」っていう欲求は出てこないですか？

高田　出てこないよ。そんなのは結果としてついてくればそれでいいよ。まして、この世界でのトップを決めるなんていうのは、非常に大変なことだと思うんだよね。選手の層が世界的に厚いし、出てくるジャンルっていうのも凄く広いでしょ。

――いろんな競技から選手が出てこれますからね。

高田　それに加えて、どんどん新しい人たちが出てくるから、なかなかそういうものを統一して、その中からナンバーワンを決めるっていうのは難しいと思うんだよね。ただ、ひとつの象徴として『PRIDE』のリングにもチャンピオンベルトがあってもいいんじゃないかな。チャンピオンって、いま見えてる人たちの中のナンバーワンという証だからね。『PRIDE』のリングには、その証を腰に巻ける選手が揃ってるよね。

――そうすると、ケアー戦が終わった後の今後の目標というかプランは？

高田　今回たまたまこういう形で、俺の深層心理の中で「やりたい」と思ってたマーク・ケアーに対しての思いっていうのが実現した。時期的に凄くジャストなんだけど、やっぱり、あの頃のナンバーワンといまのナンバーワンと闘うことができて、それによってひとつ、バーリ・トゥードと自分との関わりの線引きをしたいんだよ。気持ちの中でね。

――バーリ・トゥードで日本の選手がトップを取るのは、桜庭選手とかの世代に任せて、高田さんは自分のペースを取り戻して、自分のやりたいことをやっていくということですか。

高田　そうだね。自分がやりたくないことでトップを目指せないっていう気持ちもあるっていうことだね。そんなに甘い世界じゃないよ。それがヒクソンやホイスを倒すことによってトップと言われるならいい。コールマンを倒したことによってトップと言われるのも嬉しいしね。ただ、バーリ・トゥードの技術を磨きに磨いてね、あらゆる選手と積極的に闘っていって、なおかつ勝ち続けて、バーリトゥードという競技のトップになろうっていう欲も時間もないんだよね。

――高田さんは、あくまでもプロレスラーだということですか。

高田　俺は、高田延彦だよ。

――ただ、高田さんに限らず、プロレスラーがこういう場に出ていっても、一部の格闘技マニアやバーリ・トゥード関係者から、ある種、偏見の目で見られる部分はありますよね。高田さんを、まだ"ヨソ者"だと思ってる目もあるだろうし。

高田　どうでもいいよ（ぶ然）。

――逆に言えば、それだけバーリ・トゥードがひとつのジャンルとして確立しかけてるということだと思うんですよ。それはそれで見続けたいけど、ただボクらは、「高田延彦」を見てるわけで、「バーリ・トゥード」というジャンルを見てるだけではないんですよね。だから高田延彦がその歴史の中で、例えバーリ・トゥードからWWFに行こうが、まったくノー問題ですね。面白ければ（笑）。

高田　（頷く）。

――ジャンルをマニアックに見るよりも、誰か個人を中心に見ていった方が、そのジャンルの流れや本質がよく見えることってあるんですよ。高田さんがヒクソンとやったのをきっかけに、急速にヘビー級のバーリ・トゥードの世界が日本の中で大きくなっていった部分があるにも関わらず、それを理解しようとしない人が多すぎるんですよね。

高田　たまにはいいこと言うね（笑）。

――それほどでも（笑）。そういえば、エンセン（井上）選手が「高田さんが強いのか弱いのか、まだバーリ・トゥードの世界では全然わからない。高田さんがプロテニスの選手だとして、一番強い相手とやって負けたからといって、高田さんが弱いとも限らないし、強いとも限らない」とコメントしてるんですよ。

高田　うん。

――「高田さんは技術は絶対にあるんだから、心を見せてほしい」「殺しに行くか、殺されに行くか。それを見せてほしい」とも言ってるんです。それを聞いて率直にどう思いますか？

高田　それは彼の目指すものであって、そういうものを表に出してアピールするのは、彼の信念だと思うんだよ。でも信念というのは、人それぞれ全然違うんだよ。俺の表現の仕方とか、人への思いの伝え方とか、まったく彼とは違うんだよ。彼は、これまで通りやっていけばいいと思うよ。俺は俺で、いままで通りやっていく。それでダメならダメなんだよ。それが自分のやり方だからね。言いたくないことは言いたくないし、やりたくないことはやりたくない。高田延彦とエンセン井上は違う人間なんだよ。それは誰でもわかることだろう。

――高田さんはUインター時代を始め、積極的に強さを伝えてた時期がありますよね。バーリ・トゥードのリングではそれが伝わりきってない。そこにイレギュラーを起こしてるファンもいるでしょうね。

高田　うん。でも、それは偶然だよ。勝負なんて偶然だからね。いま言われた時期っていうのは結果がいいほうに転がっていってたから、そういうふうに見えていたんだよ。当たり前のことなんだよね。でも、俺の発言とか、表現の仕方とか、スタイルは一貫して変わってない。別に無理して、パフォーマンスとしてアグレッシブなものを作り上げて表に出してきたタイプじゃないからね。俺は俺自身、マイペースでこれからもやっていくよ。高田延彦のやり方でやっていく。

――そのやり方というのは？

高田　リングに上がる以上は、勝つための努力はする。あとは、さっきから言ってるようなことに繋がってくるね。

――そうすると、バーリ・トゥードという競技自体には区切りをつけて、高田延彦の可能性をいろんな方向で試しながら、グレイシーとの対戦も狙っていくということですか。

高田　そうだね。

――その可能性の中に、WWFとかWCWというのも高田さんの口から出てきてますよね。

高田　自分がプロレスの世界に入ったときは、キラキラした世界に夢を見て入って来てるわけだよね。それがだんだん成長してくると、真ん中あたりでいろんなことがあるわけでしょ？　夢を失ったりとかね。

――その道のりの中でってことですか？

高田　ユニバーサル（第一次UWF）だとか、いろいろあったでしょ。夢だけを見て走れない時代っていうのがあったわけだよ。その中で自分なりに頑張ってきて、いまの自分っていうものが形成されてきてるんだよ。だから、最後の自分の往く道っていうのは、もう1回キラキラした夢を見ながら終わっていきたいっていうのはあるんだよね。1回はWWFのリングにも上がってみたいし、WCWのリングにも上がってみたいし、チャンスがあるんなら

1回はWWF.WCWにも上がってみたいし、チャンスがあるなら新日本にも上がってみたい

新日本のリングにも上がってみたいしね。もちろん、リングスやパンクラスかもしれないよ。そのとき、自分が「上がってみたいな」と思うところには上がってみたいよ。可能性があるならば、トライはしてみたい。今月バーリ・トゥードの試合に出て、来月はＷＣＷ、その次は新日本さんお願いしま～す、みたいなね（笑）。

――それは夢が広がりますよ（笑）。方向性を絞るのが大事な時期と、広げるのが大事な時期ってありますからね。いまの高田さんは広げる方が一戦一戦テーマを持って動けるだろうし。

高田　そうだね。手当たり次第にフィールドを広げるっていうんじゃなくて、自分のやりたい相手であれば、一個一個が凄く大事な試合になると思うんだよ。その中にホイス戦があったりとか、いろんなジャンルの宝物を追い求められれば、凄く濃い最後の何年かになるんじゃないかなって思うんだよね。

――じゃあ、現役生活も残り少ないという意識があるわけですね。

高田　そうだね。

――あとどれくらいだと想定してます？

高田　あと……。いま平成何年？

――え～、平成11年ですかね。

高田　え～、（指を折りながら）11年、12年……。

――なんで平成で数えるんですか？（笑）。

高田　そのほうがわかりやすいと思って。昭和で行く？

――ガハハハ！　余計わかりませんよ！　西暦のほうがわかりやすいですよ。

高田　そう（笑）。う～ん、あと2年前後というところだろうね。

――2年前後……２００１年。

高田　それはわかんないよ。だって、怪我して辞めちゃうかもしれないし。そのくらいまでには、やりたいことを全部やっていきたいよね。

――ところで、そのやりたい相手の中に、高田さんに対戦要求している小川直也選手は入りませんか？

高田　まったく！

――1ミリたりとも？

高田　うん。

――7月4日に同じリングに上がりますけど、また挑発されたときにはどうするんですか？

高田　もうしないと思うけどね。しないことを祈るよ。

――猪木さんの弟子ですから、何しでかすかわかんないですけどね（笑）。

高田　ま、どうでもいいって感じだよね。いろんなヤツが集まってるんだからさ。

――そうなんですよ。いろんなタイプが集まる場が『ＰＲＩＤＥ』で、その面白さがある。今後『ＰＲＩＤＥ』が、そのバーリ・トゥードという競技の確立に向けて動くのか、『ＰＲＩＤＥ』自体も岐路に立ってますね。聞き忘れましたけどＷＷＦとかＷＣＷで興味ある選手はいないんですか？

高田　いまＷＷＦのトップはブルーノ・サンマルチノ？

――どんなギャグですか、それ（笑）。

高田　じゃあ、ビリー・グラハム！

――はぁ～。全然知らないじゃないですか（笑）。

高田　正直な話、あんまり選手知らないんだよ（笑）。ＷＣＷのトップがビル・ゴールドバーグっていうのは知ってるけどね。

――ホントにオファーが来たらビックリするでしょうね。どうします？

高田　この前も言ったけど、話は聞くよ（笑）。

――もし、ＷＷＦに上がることになったら、どういうキャラクターで出るか考えないといけませんよ（笑）。

高田　Ｔバックでも履いて出ようか（笑）。

――ガハハハ、文字通りミスターＴ！（笑）。

高田　だけどＯバックはヤだよ！　フロントＴもカンベンだね（笑）。あとはなんだろう……パンティーマン（笑）。

――は？

高田　強盗が被ってるやつ。

――へ？　それはストッキングです！（笑）。それを高田延彦がやったら凄いですけどね（笑）。

高田　あとは超日本的なものしかないでしょ。芸者とか。あと、籠かきキャラとか。

――ガハハハ！　籠かきキャラ！　それは新しいなぁ。

高田　でも、日本語でポピュラーなのは、まだスキヤキだよね。あ、スキヤキマン！　どう？（笑）。

――へ？「どう？」って言われても（笑）。どういうキャラなんですか？

高田　まずリングで肉を食べる。

――ネギ担いできて、リングに上がったら生卵を割る（笑）。

高田　ハハハハ。そうそう。

――向こうはキャラクター作るのにも命懸けだから、ある意味でバーリ・トゥードより厳しい世界ですよね。

高田　ま、いま言ったのは冗談としても、ケアー戦が終わったら具体的なプランを明かせると思うよ。いまはケアー戦に照準を絞っていかないとね。楽しみにしててよ。

――今後、高田さんがバーリ・トゥードに線引きするとしても、桜庭選手とか松井（大二郎）選手、豊永（稔）選手は、好きなようにさせていくわけですか？

Nobuhiko Takada

高田延彦バーリ・トゥード PLAYBACK in『PRIDE』

【97・10・11／東京ドーム『PRIDE. 1』vsヒクソン・グレイシー戦】１Ｒ４分47秒、逆十字、世紀の敗戦――。悪夢という名のリアルな現実を見せられた１回目のヒクソン戦。ここから高田延彦の現実と理想をクロスさせる「修行」が始まった
撮影/長尾迪

【98・６・24／日本武道館／『PRIDE. 3』vsカイル・ストゥージョン戦】迷わずに一足踏み出した高田の再起戦。相手は“入れ墨柔術家”カイル。一度はダウンを喫したものの、悪夢を振り払うかのようにヒール・ホールドを極めて快勝した
撮影/長尾迪

【98・10・11／東京ドーム／『PRIDE.1』vsヒクソン・グレイシー戦】１年前と同日、同じ場所で“世紀のリベンジ”に挑む。スタンドではリードし、膝でダウンを奪い、マウントも何度か返したが、１年前と同じ逆十字でリベンジを阻まれた

【99・４・29／名古屋市総合体育館レインボーホール／『PRIDE. 5』vsマーク・コールマン戦】２度目のヒクソン戦の後に立ちはだかったのは、「とんでもない圧力」（byノブ）のコールマン。初代ＵＦＣヘビー級王者から、まさに薄氷の勝利

高田　うん。やっぱり自分のやりたいことをね。ある意味で選手っていうのは自分がプロデューサーだからさ。もちろん手助けはしていくけど、やりたいことを、やりたいリングでやって行けることが彼らにとってベストだから。自分から「こういうのに出たいです」っていうのがあればもちろん考えるけど、こっちからムリヤリ別の方向へ引っ張りこむ作業はしたくないね。

――以前、高田さんは団体を引っ張る役割から、道場を運営する役割に変わって、「団体を引っ張るよりは全然楽だ」って言ってましたよね。でも、〝長〟っていう立場が大変なことに変わりはないようですね。

高田　やっぱり、1人じゃないっていうのは、こんなに不自由なことはないね（笑）。

――それが高田さんとか前田さんとかの世代の与えられた役割なのかもしれないですね。

高田　寂しがり屋なんだよね、ワタシたち（笑）。

――は？　高田さんと前田さんが？

高田　あなたも！（笑）。

――あ、ボクも（笑）。ボクが引っ張ってるものなんて紙屑みたいなもんですよ（笑）。

高田　でも、ワイワイ、みんながいると楽しいし。

――しょせん1人でやれることなんて、たかがしれてますからね。そういった意味では高田さんは凄く運があると思うんですよ。「ヒクソンとやる」と言ったら実現し、『PRIDE』という場を盛り上げるきっかけを作り、高田道場 を作り、まわりに常に人がいて、チャンスを確実に掴んでるわけだから。なかなか死なないですよね（笑）。

高田　なに？　俺を殺したいの？

――いや、そういう意味じゃなくて（笑）。生命力を感じるということです！　運の強さは自分では感じないですか？

悲壮感はまったくない！ 俺はどっちかというと スポ根野郎なんだけどね（笑）

高田　凄く感じる。

――今回のケアー戦にしてもそうだと思うんですよ。

高田　運とか、運命とかを感じるね。ケアーとやるのは運がいいのか悪いのかわからないけどね（笑）。

――高田さんや前田さんの世代は、マット界を引っ張って行く役割で、選手としてはリスクを背負ってる。でも、リスクを背負わないと運がつかないのかもしれないですね。

高田　そうかもしれないね。

――正直なところ、マーク・ケアーとは心の底でやってみたいという気持ちは本当にあったんですか？

高田　あったよ！　なかったら「闘いたい」なんて絶対言わない！　彼が怪我とかして、試合が流れたでしょ（4・29に一度決定していたエンセン戦がケアーの右肘手術により中止）。ああいうことがなければ、恐らくこのまま「昔、アイツとやりたかったんだよ」とか引退したあとに言ってたかもしれない。3～4年前だったら両手を上げて「ケアーとやりたい」って言ってたかもしれないよ、ヒクソンのときのように。だから、タイミングもそうだし、今回決まったのも「なにかあるのかな？」って思うよね。

――「運も実力のうち」って言い方しますけど、「運は実力」なんですよね。

高田　うん（笑）。

――ダジャレできますか（笑）。ヒクソンやケアーと闘いたいという格闘家はいっぱいいるけど、「じゃあ、その運を拾ってこいよ」ってことですね。

高田　そう。やりたかったらやればいいんだから。これは自由競争なんだから。単純なことなんだよ。

――7・4以降も高田さんの生命力を見せつけてほしいですよ。では最後にあらためて。マーク・ケアー戦に向けて悲壮感はないですか？

高田　まったくないね！

――「スポ根野郎じゃあるまいし」（笑）。

高田　俺はどっちかっていうと、スポ根野郎なんだよ（笑）。

――そんなことというと、スポンサーに怒られますよ（笑）。

高田　それ、やめてくれる？　それが一番怖いね。マーク・ケアーより怖いわ（笑）。

――マーク・ケアー戦では、見てる人に高田延彦の何を伝えたいと思いますか？

高田　自分の中では胸を借りるという気持ちに変わりはないんだよ。そういう思いがあるからこそ、俺はやってみたいと思ったわけだから。マーク・ケアーの待っているリングに自分が立つ。そして、自分が向かって行く姿をまずは見てもらいたい。

――タオルで前を隠さずに、フリチンで堂々と銭湯に入るみたいなもんですかね（笑）。

高田　銭湯だと、くつろぎに行くみたいじゃない（睨む）。

――いや、どうも、こういうとき下品になりますね（笑）。

高田　下品だねぇ、まったく。

――さっきケアーの本領の話をしましたけど、ケアーも、ある意味で強さを伝え切れてない部分はありますよね。

高田　俺にはわかるよ。やってる人間はわかってると思う。

――それはそうなんだけど、マーク・ケア

マーク・ケアーには勝つよ！勝ちに行くよ!!

ーの強さは観客に伝わりきってないんですよ。逆にさっきのUインター時代の話じゃないけど、高田さんは「強さを伝える」ことにかけては天下一品じゃないですか。

高田　凄く嬉しいこと言ってくるよねぇ。そうか、初めて知った（笑）。

——7・4ではマーク・ケアーの強さが伝わる試合になるのか、高田さんが強さを伝える瞬間を作るのか。勝敗は別にして、その興味もあるんですよ。ここは、バーリ・トゥードのリングから高田延彦の強さが伝わる試合を期待してますよ。

高田　マーク・ケアーには勝つよ！　勝ちに行くよ!!

——いいですね！

高田　負けても嘘つきって言わないだろうね？

——ガハハハ！　言いません。でも、ボクは桜庭さんと一緒で嘘つきですから（笑）。ホントに目一杯の試合を期待してます。頑張ってください！

高田　ウシッ！

【6月14日／六本木アートセンターにて収録】

Nobuhiko Takada

■本人が好むと好まざるに関わらず、「プロレス」を背負ってヒクソンと2度対峙し、奈落の底を覗いてしまった高田の苦悩と心中は計り知れないものがある。その高田が、またもやリスクを背負う闘いに足を踏み入れてしまった。

戦前の下馬評は、圧倒的にケアー。ヘタすると、秒殺というリアルな現実を見せつけられる可能性も高い。

そんな状況の高田に「悲壮感」を纏うなという方が無理な相談かもしれない。

しかし。打倒・グレイシーへの執念、バーリ・トゥードへの線引き、今夏には某プロレス団体出場の噂など、今後の方向性の部分も含めて、いまの高田には、生き抜くことの決意を固めた者、歴史を背負ってきた者にしか出せないギラつきのようなものが覗き見えるのだ。

高田は100%勝てないのだろうか？　いや、100%負けると最初からわかっているなら八百長と同じである。そんな馬鹿な話はない。

いまは、「負けは負け」という現実を理解する能力と体力を刻み込んでいる者だけしか、「逆転」の札は持てないリアルな時代だ。

一度はUWFムーブメントという、ある種バブリーな時期を経験し、高田はプロレスの世界で「最強」という名をほしいままにした。そしてそこから、2度に渡る“世紀の敗戦”により奈落の底に突き落とされ、しっかりと「負けること」を細胞に刻みこまれることになった。

高田が、あまたの格闘家には経験できない「負け」を知った意味は大きい。

それに加え、このビッグマッチを呼び込んだ恐ろしいほどの運。奈落の底から自力で這いあがろうとする生命力。

高田の「逆転」の札は、そのいずれかに隠れている。その札を出せれば、高田の本領はリング上から立ち昇るはずだ。

勝ち負けにはこだわらない。高田の生命力が立ち昇る瞬間が見たいのである。

「強いという状態」は誰の持ち物でもない。そのリアルな現実を心の奥底でわかったものだけが、また新たなファンタジーを生み出せる。ここ数年、砂を噛んできた高田にはそれを生み出せる力があるはずだ。

そして、もしもあなたがプロレスファンなら、リアルな現実と真っ向から対峙する勇気を持って、高田延彦にエネルギーを送り続けるべきである。

7・4の高田延彦は、ズバリ言って、これを読んでるあなた自身なのである。

※その他のカードは、P36に！

祈! PRIDE.6大爆発!! 世界の凶豪をみんなまとめて大解剖

紙のプロレス RADICAL 怪物通信 K-通 MAGAZINE PRIDE.6【特別編】

凄玉揃いの“闘いの動物園”を凝視せよ!!

南米の踏み潰し屋
Ebenezer Fontes Braga エベンゼール・フォンテス・ブラガ

ブレーキの壊れた暴走機関車
Gary Goodridge ゲーリー・グッドリッジ

黄金の壊滅男
Guy Mezger ガイ・メッツァー

恐竜戦車
Mark Kerr マーク・ケアー

7月4日、『PRIDE.6』という夢舞台に世界の強豪選手が次から次へドンドコドンドコやってくる! よくぞここまで楽しみなカードがズラリと並んだものだ。さながら“世界屈指の猛獣たち”が集う、格闘サファリパーク状態である。まさしく『四角いジャングル』だ。今回の『怪物通信』は、『PRIDE.6』直前特別編として、日本人と対戦する4人の怪物を徹底的に紹介して、その強さ、怖ろしさをこころの底から味わっていただきたい。はっきり言って、どいつもこいつもバケモノ級なので、そのビジュアルだけでも幻想が深まってしまうが、原稿を読めばより一層幻想が深まることは間違いない。

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス〝=〟格闘技読本

恐竜戦車
Mark Kerr

文／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／川崎浩市
photographs by Kouiti Kawasaki

エンセン井上との対決が延期になり、今回は高田延彦との対戦が決まったマーク・ケアー。世界の強豪選手とは対戦しているものの、日本人選手とは初の激突となる。いまでは、ヒクソン・グレイシーをも凌駕したといわれるその実力は天井知らず&負け知らずである。ハッキリ言って、どこまで強いかいまもってわからないのが、この男なのだ。人なつっこい笑顔の裏に潜む霊長類最強の野獣魂と残虐性をイヤというほど味わってほしい！

〝霊長類最強の男〟

高田延彦はマーク・ケアーをそう表現した。はたして、この男はどれだけ強いのか？　実績を見れば強いのは一目瞭然だが〝強さの底なし沼〟がどれほどの凄玉なのか、改めて知っていただきたい。

というわけで、まずはアマレスでの輝かしい成績から紹介してみよう。

ケアーは現在バーリ・トゥード界で活躍中の代表的なレスリング出身者と、対戦している。92年、NCAA（全米大学体育協会）のフリー100キロ級決勝戦の相手は元UFCヘビー級王者のランディー・クートゥアーだったのだ!!　94年には世界中から選抜された選手で争われたワールドカップで優勝している。そんなケアーだが、アトランタ・オリンピック代表選考戦では破れてしまう。ちなみに、このときケアーに勝ったのが、『PRIDE．5』で高田に破れたマーク・コールマンだったのは、何かの因縁か。

14年間レスリングに打ち込んだケアーだったが、この敗北でレスリングに挫折してしまう。

ここから酒浸りになり、ケンカをし、女とドラッグに走る――という、絵に描いたような人生の転落方法もあるだろう。しかし、そこでケアーが身を崩さなかったのは、レスリングで心身のバランス感覚を培っていたからだろうか？　とにかくケアーは8年来の知人ダン・スバーンの勧めによって、バーリ・トゥードの世界へと進む。コールマンやドン・フライら、レスリング出身者のバーリ・トゥードでの活躍にも刺激を受けていたようだ。のちにハンマーハウスに所属して、同じオハイオ州出身のコールマンらと行動を共にすることになる。

そして97年1月、ケアーはブラジルで、バーリ・トゥードのトーナメントに初挑戦し、他の参加者を寄せつけない恐ろしいまでの強さをいきなり発揮したのだった!!　1回戦ではパンクラス参戦経験のあるポール・ヴァレランスをタックルで倒し、ためらいなく顔面にヒザを落としてTKO。同じような調子で、2回戦でカポエラの選手を抑え込み、またもパンチを叩き込んで、なんと歯を2本も吹っ飛ばして完全KO。挙げ句の果てに決勝戦では、柔術の黒帯ファビオ・グージェウをブッ倒して上に乗り、ヒクソン以外にパス・ガードされたことがないグージェウからアッサリとパス・ガードを奪い、パンチ&頭突きでグージェウの顔を無残にも変形してしまった。

結局ケアーはブラジリアン柔術黒帯をも封じ込めるだけの地力を持った逸材であることをいとも簡単に証明してみせたのだ。当時のトレーナーは「ケアーはバーリ・トゥードをやれば、コールマンやエリクソンよりも上だ」と、気持ちよくブチ上げたそうだがじつに説得力がある。

ケアー自身はこの試合を振り返り、「当時の私は〝アマチュアレスラー〟に過ぎなかったよ」と謙虚に振り返っている。この謙虚さが、逆にスマートな皮肉に聞こえる。アマチュアレスラーに過ぎない私に

©長尾迪

バーリ・トゥードでメシを食ってる選手が負けてしまうのかい?、と。

しかし、ケアーは力任せの闘い方を反省して、バランスのとれた総合格闘家を目指して、レスリング以外の技術(打撃＆関節技)の修得にもチャレンジし始める。それが功を奏したのか、第14回＆第15回のUFCヘビー級トーナメントをぶっちぎりの強さで優勝すると、主戦場を日本に移して、さらなる快進撃をはじめる。

まず日本初上陸となった『PRIDE.2』では初代K−1王者ブランコ・シカティックと激突!! だが勝てないとわかったシカティックは反則で試合を投げた。『PRIDE.3』ではオタービオには何もさせずに腕を極めて完勝。このとき、いちばん近くで見ていた島田裕二レフェリーは「腕だけじゃなく、指の先まで極めてましたよ!」と証言していた。ケアー、おそるべし。藤原組長ばりの小技まで修得して、ますます手に負えなくなっている。極めつけは『PRIDE.4』だろう。ルタ・リーブリのボスであるウゴ・デュアルチに何もさせず、戦意喪失に追い込んだのだ。ウゴが寝転がっていたのは、ケアーがウゴの足を踏んだだけで、骨を折ってしまったからだという。

ここまで活躍すると、イヤでもその名が世界中に轟いてしまう。今年開催された夢の格闘油田『アブダビ・コンバット』にも当然、オファーがきた。そして、I・ミーシャやケビン・ランデルマンからも一本勝ちを奪った強豪カーロス・バヘットといきなり1回戦で当たったのだ。

いままでは、グランドで相手をコントロールして、殴って勝つのが主体だったケアーはここで初めて苦しい闘いを強いられることになる。バヘットの固いガードを攻めあぐねたが、上に乗り続けたことで勝利を拾った。

これが事実上の決勝戦となり、以後はケアーの一人舞台。リングスでおなじみのクリストファー・ヘイズマン、坂田亘をグランドでほぼ完封したショーン・アルバレスらを大差の判定でねじ伏せて完全優勝してしまった。

バーリ・トゥード転向後、1度も負けたことがない。しかも対戦している選手は超一流ばかりなのにだ。闘いに必要なすべての要素をバランスよく兼ね備えている、まさにMr.パーフェクトである。

何よりも怖いのは、その残虐性だろう。子供が無邪気に蟻んこを潰すような感覚で、無邪気に対戦相手を叩き潰す。ニコニコした人なつっこい笑顔の裏に潜む子供のような残酷さが怖ろしい。

この鋼(はがね)の肉体を持つ子供と『PRIDE.6』で激突するのが高田延彦だ。しかし、高田自身は闘う前から「やりたくない相手」と語っているほど、気持ち的にはのれていない状況だ。関係者によると、ケアーは「2年前からミスタータカダの試合は見ている。試合が組まれて光栄だよ、もちろん全力でぶつかるさ。手術したヒジの調子かい? 100%ノー問題だ!」と力強く話したという。

トータルバランスだけを考えれば完全にケアー有利なので、高田は打撃や関節技に活路を見出すしかない。これによって、ケアーのバランスが崩されれば勝負がどう転ぶかわからない。完璧なものほど、一度崩れたら脆いからだ。

※下になっている選手が安全な体勢がガード・ポジション。上になっている選手が、ガード・ポジションを崩すことをパスガードという

立ちつくすケアーに後ずさりするウゴ!! ケアーの怖ろしさが全世界に伝わったシーンだ

ヒジの回復は順調のようで、『PRIDE.6』には全快で出てくるだろう

【マーク・ケアーの主な戦績】

■97.1.19サンパウロ第3回WVCトーナメン決勝戦
○ファビオ・グージェウ(30分　判定3-0)

■第14回UFCヘビー級トーナメント　優勝

■第15回UFCヘビー級トーナメント　優勝

■98.3.15　横浜アリーナ　『PRIDE.2』
○対ブランコ・シカティック(1R2分14秒　反則)

■98.6.24　日本武道館　『PRIDE.3』
○対ペドロ・オタービオ(1R2分14秒　TKO)

■98.10.11　東京ドーム　『PRIDE.4』
○対ウゴ・デュアルチ(3R2分32秒　KO)
『'99ADCCサブミッション・レスリング・チャンピオンシップ99超級』

■99.2.24　アラブ首長国連邦
○対カーロス・バヘット(延長　優勢)
○対ジョッシュ・バーネット(10分ポイントによる判定)
○対クリストファー・ヘイズマン(10分ポイントによる判定)
○対ショーン・アルバレス(10分ポイントによる判定)

マーク・ケアー

1968年12月21日、アメリカ・オハイオ州トゥリーオ出身。フリースタイルレスリング100キロ級で'92N年のNCAAフリー100キロ級で優勝。'94年ワールドカップ・フリースタイルレスリング優勝。アマレスでの輝かしい実績を引っ提げて、第3回WVCトーナメント(ブラジル)で優勝。その後は第14回、第15回のUFCヘビー級トーナメントで優勝。'98年からは『PRIDE.』シリーズにレギュラー参戦して、ウゴ、オタービオ、シカティックに完勝。今年2月のアブダビコンバット98キロ超級でも優勝した。エンセンだけでなく、ホイス・グレイシーとの対戦も延び延びになっている。185センチ、113.5キロ。

怪物通信®
PRIDE.6
【特別編】

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス'=格闘技読本

文／中村カタブツ君
TEXT by Katabutukun Nakamura
試合写真／長尾迪
photographs by Susumu Nagao

ブレーキの壊れた暴走機関車

Gary Goodridge

1・4事変で橋本真也を襲撃して以来、襲撃！襲撃!!襲撃三昧を繰り返す小川直也がついに『PRIDE』のリングに立つ。だが、バーリトゥード・デビュー戦の相手は破壊王ならぬ破壊的パンチを持つゲーリー・グッドリッジ。かつて『UFC6』覇者オレッグ・タクタロフを一発で病院送りにしたハードパンチャーだ。一度ハマれば圧倒的強さを見せるゲーリーの怖さはいかな小川でもあなどれないだろう。なにより負けた時の小川の失うものはゲーリーに比べればあまりにも大きい。背負うものの差が試合のアヤとして絡まった時、なにかが起きる。そしてゲーリーには、それを呼び起こす一発がある。ゲーリーの強さに迫る！

襲撃！　襲撃!!　襲撃三昧!!!　小川直也がついにバーリトゥードのリングに立つ!!　だが、相手のゲーリー・グッドリッジは大きなタイトルこそものにしてないが、VTデビュー戦の相手としてはかなり手強い相手。

エンセン井上も「週刊プレイボーイ」の取材でこう語っている。「グッドリッジはまだトップじゃないのに危なくて強い選手。小川さんはグッドリッジと闘うのは凄い根性あると思った」と。

どの辺が危なくて強いのか？

それはグッドリッジが闘ってきた相手を列挙することによって浮かび上がってくるだろう。

●『UFC8』&『アルティメット・アルティメット』優勝のドン・フライ
●『UFC10及び11』優勝&初代UFCヘビー級王者マーク・コールマン
●『UFC6』優勝のオレッグ・タクタロフ
●『UFC7』優勝のマルコ・ファス
●『アブソリュート・ロシアン・オープンカップ3』優勝のイゴール・ボブ

ゲーリー・グッドリッジ

1966年1月16日、トリニダード・トバコ生まれ。世界腕相撲王者という肩書きを引っ提げて『UFC8』に出場。初出場ながら準優勝を果たす。『PRIDE.1』でオレッグ・タクタロフを失神KOするという衝撃の日本デビュー以降『PRIDE.』の常連外人となる。4月にはK−1のリングに参戦した。とにかく人をブン殴ることが好きな男である

チャンチンほか。
　いずれもバーリトゥード系の大会で優勝経験のあるエラ強の男たちばかりである。これだけのメンツを相手に剛腕パンチ一本でグッドリッジは闘ってきたのだ、これまで。
　まずドン・フライとは96年2月の『UFC8』のトーナメント決勝戦で対戦している。その日がバーリトゥード初出場のグッドリッジは、一回戦で喧嘩屋タンク・アボットや現UFCライト級チャンピオンのティト・オーティスにもレスリングを教えたポール・ヘレイラと対戦、ヒジ打ちを側頭部に8連打して12秒でKO。
　2回戦では、のちの初代UFCライト級チャンピオン、ジェーリー・ボーランダーを5分31秒でTKOしている。決勝ではドン・フライに破れてしまうものの、初出場で堂々の準優勝に輝いたのだから文句なし。
　ところが、3ヵ月後の『UFC9』でスーパーファイトをマーク・シュルツと闘うのだが、こいつのバックボーンがちょっとスゴ過ぎたのだ。なんとロサンゼルス五輪のアマレスゴールドメダリスト。アマチュアスポーツ界の最高峰を極めた男を相手にグッドリッジは本戦12分間を闘い抜いたが、結果はドクターストップ負け。
　翌年7月の『UFC10』では2回戦で全盛期のマーク・コールマンと当たって敗退。
　5ヵ月後の『アルティメット・アルティメット』では一回戦で再度ドン・フライと対戦するもリベンジならずと、なんか負けてばかり。どうしたゲーリー！　だが、相手が皆超一流なのだからしょうがないちゃあしょうがない。
　ゴールドメダリストのマーク・シュルツしかり、元祖ミスターアメリカと言われて強さの象徴の真っ盛りであったマーク・コールマンしかり、ドン・フライしかりだ。
　そう、グッドリッジの評価がいま一つ高くないのは"負け"という結果ばかりがクローズアップされてるからなのである。
　のちにグッドリッジはカーロス・ニュートンが所属していたサムライ・クラブで寝技を勉強するようになるのだが、当時は殴ることしか知らずにオクタゴンの中に入り、オリンピック代表選手やグラウンドのスペシャリストたちと渡り合っていたのだから素敵なほどに無鉄砲。
　KO勝ちか、KO負けというスリリングな闘い方は負ける時も多いが、ハマった時には圧倒的な強さを発揮する非常にリスキーな戦法というわけなのだ、当然。
　事実、97年にブラジルで行われた『IVC』ヘビー級トーナメントでは北尾光覇を倒したペドロ・オタービオを決勝で下して優勝し、同年の『PRIDE1』では『UFC6』覇者のオレッグ・タクタロフをも豪快にKOと破壊的強さを見せつける。
　エンセンが言うように「まだトップじゃないけど強くて危ない選手」というのはまさにズバリのグッドリッジ評だろう。
　そしてバーリトゥード初参戦の小川直也はそんな危険性を秘めた男と闘うわけなのだ。
　寝技の攻防にもっていけば安心という声も確かにあるが、『PRIDE．3』でのグッドリッジはルタ・リーブリの強豪中の強豪、マルコ・ファスを相手にマウントパンチを打ちまくり、結果としては負けているもののあと一歩というところまで追い込んでいる。グラウンドの防御もいまはできるようになってきているのである。
　メチャクチャ危険な闘いである。負ければこれまでオーちゃんが築いてきたものがすべて崩れて落ちてしまうかもしれないのだ。
　だが、勝てばケアーやヒクソンやエンセンたちと闘う道もすっきりと見えてくるはず。
　迷わずいけよ、いけばわかるさ!!

89年3月15日『PRIDE.2』で"路上の王"マルコ・ファスと対戦。負けはしたもののグラウンドでも終始おしまくる

【ゲーリー・グッドリッジの主な戦績】

■96年2月16日　『UFC8』ヘビー級トーナメント準優勝
●対ドン・フライ[2分14秒TKO](決勝戦)

■96年5月17日　『UFC9』スーパーファイト
●対マーク・シュルツ[12分00秒] ドクターストップ

■97年10月11日　『PRIDE.1』
○対オレッグ・タクタロフ[1R4分57秒 TKO]

■98年3月15日　『PRIDE.2』
●対マルコ・ファス[1R9分9秒カカト固め]

■98年6月24日　『PRIDE.3』
○対アミール[1R7分22秒　TKO]

■98年10月11日『PRIDE.4』
●対イゴール・ボブチャンチン　[1R5分58秒　TKO]

■99年4月25日　『K—1　REVENGE99』
●対武蔵 [1R2分15秒 反則](金的へのヒザ蹴り)

怪物通信
PRIDE.6
【特別編】

南米の踏み潰し屋!!

aga

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス=格闘技読本

文／中村カタブツ君
TEXT by Katabutukun Nakamura
撮影／長尾迪
photographs by Susumu Nagao

エベンゼール・フォンテス・ブラガ

1969年4月14日ブラジル・リオデジャネイロ生まれ。182cm、90kg。アカデミーア・ブドウカン（簡単に言うとルタ・リーブリの道場）所属。95年からVTの世界に入り、21戦17勝3敗1分の成績を残している。ちなみにマーク・コールマン率いるハンマーハウスのブランドン・リー・ヒンクルや、ジェレミー・ホーンには快勝し、負けた相手もケビン・ランデルマンやダン・スバーンなどかなりの強豪。安西次長が「日本では知られていないがメチャクチャ強い。試合はやめた方がいい」とブラガ戦を前にした船木に忠告したくなるほどの強者だろう。船木戦では船木を圧倒して高い評価を受け、今回『PRIDE』のリングで桜庭和志と対戦する。

『PRIDE5』で桜庭和志に負けたビクトー・ベウフォートは所詮お坊ちゃんなんですよ、ブラガと比べたら。たぶん。

そもそもグレイシー柔術は金持ちがやる護身術と言われたりする側面があるが、ならばブラガが学ぶルタ・リーブリは貧しい人間が喧嘩で生き残るための必死の格闘技といえる側面があると言ってもいいのではないか。

ルタと柔術の違いは96年、日本で行われた第1回UV大会の控え室の様子であからさまとなった。

柔術側の控え室では選手が黙祷とかしてるんだが、それが逆にピリピリした緊張感ばかりを醸し出しがち。一方、ルタ側は終始バカ笑いが絶えず、お祭り状態だった模様。まぁ、これだけなら、性格的なものとも言えるのだが、圧巻だったのはブラガの盟友ジョイユ・デ・オリベイラだ。

試合直前にバイクで事故って腕をケガしていたことは当時の報道でも伝えられていたが、実はもう一ヶ所、頭にも傷を負っていたのだ。

試合前のドクターチェックで、その傷を見た医者は絶句したという。まだ、縫合の糸がついている状態であり、しかもその縫い方はどう見ても素人がやったとしか思えず、さらには化膿しかけてたというから、医者ならずとも絶句間違いなし。

頭の傷を自分で縫うな！

その状態でバーリトゥードをやろうというのだからルタ・ドールの血、怖るべし。

医者は取りあえず抜糸して出場を取り止めるように言ったのだが、本人はテープで傷口を止めて出場。SAWの長瀬玲を相手に一方的な試合を展開して、よせばいいのに頭突きまでガンガン出して快勝してしまったのだ。ムチャにもほどがある。

ルタという格闘技は心に野性の魂を隠し持った、無鉄砲で好戦的な男たちが好むものなのである。

そしてブラガはそのルタでかなりブイブイいわせている正真正銘トップクラスの選手なのだ。

子供時代のブラガはアルマジロやオポッサムを取って飢えをしのいできた貧困野郎。毎日のようにどこかで銃声がすると言われる、危険なブラジル貧民街でブラガは生きてきた。

そこで必要なのは腕力。必要なのはとにかく勝つこと。そこでブラガは生き抜き、格闘技と出会ったのだ。

キックボクシングの試合は20試合ほ

Ebenezer Fontes Bra

今年4月、船木誠勝とノールール系の試合を闘ったエベンゼール・フォンテス・ブラガが『PRIDE6』のリングについに登場！　相手は高田道場の桜庭和志。ブラガを介しての船木VS桜庭戦とも言える、この闘いだが、ブラガの強さがいまーつ見えてこないという現状が非常に残念。船木戦では「ブラガのパンチを見切った」という船木発言ばかりがクローズアップされてしまったからなのだが、ブラガという男、実は強いんです。
元UFCヘビー級王者ビクトー・ベウフォートよりたぶん"もうちょっと強い男"ブラガに肉迫!!

ど行い、勝率は9割近く。ルタを学ぶようになってからはVTの試合を中心に行うようになり、21戦して17勝、たったの3敗しかしていない（ちなみに船木戦は判定なしの時間切れドロー）。なんと勝率約8割だ！

しかも負けた相手というのは現在UFCヘビー級戦線でもっともノリにノってる"密林の黒豹"ケビン・ランデルマンであり、ヒクソン門下の柔術の黒帯ジョルジ・ペレイラであり、元UFCヘビー級王者ダン・スバーンという名うての強豪ばかりなのだ。

特に97年6月ブラジルで行われたスバーン戦などは得意のパンチを振り回して、あのスバーンをKO寸前にまで追い込んでいる（結果はブラガの出血によるレフェリーストップ負け）のだから、打撃の実力はタダゴトではないだろう。

今年4月パンクラスのリングで船木とノールール戦を闘った時は、船木の「ブラガのパンチは見切った」発言がいろいろと物議を呼んだのだが、試合時間の大半に渡ってあの船木の上に乗ってマウントパンチを振るい、その顔面を腫れあがらせたのだから、グラウンドの技術だって決してあなどってはいけない。

そしてもっともあなどれないのはブラガがVT慣れしてるということなのだ。これまで一度もタップしたことがないのが自慢のブラガだが、試合中、痛みを堪えてバカみたいにただ我慢してるわけじゃ決してない。ブラガは自分が劣勢になった時の切札とも言える戦法をちゃんと持ってるから、タップせずに済んでいるのだ。裏付けはちゃんとある。

それは自分が下になってパンチをもらい始めたら体をずらしてリング下に自ら落ちてしまうという、目からウロコが落ちるような自分だけのエスケープルールを勝手に採用しているからタップしないのだ。

落ちてしまえば再び、自分の得意なスタンドからのリスタートになるわけだから非常に有効。ダーティーとはいえルールを利用したクレバーな計算があるからブラガは強いと言い切れるのである。

桜庭が上になって相手を殴っている場面はあまり想像できないが、ピンチになればブラガは出来ることは全部やってくることは必至。それに引きずられて、何度もブレークがかかり、スタンドの展開が多くなると、もしかしたら、もしかする可能性は十分にある。

巷間言われるようにブラガを介しての船木vs桜庭戦という見方以外にも、この試合はかなり見どころありってことだろう。

ダーティーな逃げを見せ始めたブラガをどう桜庭が追い詰めるか？

あるいはブラガが桜庭のイライラを誘ってどうスタンドの展開につなげていくか？

いずれにせよ、船木戦でVT大国日本（つまりビッグマネー）への足掛かりをつかんだブラガが、ただでリングを降りるわけがない。

闘いに名誉ばかりを求める姿勢を崩さない柔術勢より、食うや、食わずの子供時代を過ごした男が目の前にビッグマネーというエサをぶらさげられた時、見た目なんて気にしないガムシャラさを発揮するはずである。

それが怖いのだ。

正攻法以外の怖さを持つブラガは、そういう意味では元UFCヘビー級チャンピオンのビクトー・ベウフォートよりは確実に"もうちょっと強い相手"。

だが、桜庭もVTでローリングサバットをだす、ブラガとは違った意味で正攻法以外の怖さを持つ男。

頼んだぞ、サク!!

【エベンゼール・フォンテス・ブラガの主な戦績】

■96年4月5日　「第1回UV大会」
○対河村尚久　[3分17秒 KO]

■96年3月3日　「UVF6」
●対ケビン・ランデルマン [20分00秒 判定]

■97年6月7日　「第1回IVC」
●対ダン・スバーン [時間不明 TKO]

■98年8月23日　「第6回IVC」
○対ブランドン・リー・ヒンクル [12分33秒 三角締め]

■98年10月16日　「UFCブラジル」
○対ジェレミー・ホーン [3分26秒 フロントネックロック]

■99年4月18日　「BREAKTHROUGH TOUR」（パンクラス）
△対船木誠勝　[15分00秒 時間切れドロー]

現・IVCミドル級ランキング 1位

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス"＝"格闘技読本

文／中村カタブツ君
TEXT by Katabutukun Nakamura
撮影／長尾迪
photographs by Susumu Nagao

ガイ・メッツアーといえば元UFCライト級王者にして元キングオブパンクラシスト。まぎれもない強者なのだが、〝膠着野郎〟というイメージがつきまとうのが非常に残念。昨年9月のパンクラス日本武道館大会での柳澤龍志戦、12月のNK大会での近藤有己戦と時間一杯抱き合っていた感が印象的だから仕方ないのだが、だからといって『PRIDE6』での小路晃戦がつまらない試合になると思うのはそれは早とちり。なぜなら、メッツアーはちょっとシャレにならないぐらい困った情況に現在陥ってると、端から見てても思うからだ。

今年の3月5日『UFC19』のスーパーファイト「ライト級タイトルマッチ」でメッツアーはアマレス出身のティト・オーティスにTKO負けしたのだが、タイトルを失っただけならまだしも、男としてのプライドまでズタズタにされてしまったのだ。

97年の『UFC13』ライト級トーナメントの決勝で一度闘ってる両者。その時の結果はメッツアーのフロントネックロックによる勝利であったから、再戦前の彼の発言はやたらと強気。「この前の試合ではあんな弱いヤツを相手にみっともない試合をしてしまった」だとか挑発しまくりなのだ。

ところが、今回はティトが雪辱を果たしたから、さぁ大変。かつて喧嘩屋タンク・アボットに憧れて弟子入りしたこともある不良あがりのティト。〝ゲイ〟・メッツアーとプリントされた下品なTシャツをオクタゴン内で着込んでメッツアー&メッツアー陣営を逆挑発にかかったのだ。負けたメッツアーは文句を言えずに黙るしかないが、セコンドのケン・シャムロックが代わりに激怒。だが、ティトは金網越しに、しかもニヤニヤしながら「老いぼれ」と暴言を吐いて一触即発の事態を招いたのだ。

これこそ本物の〝なんでもあり〟で文句なしなのだが、可哀相なのはガイ・メッツアー。なにせ〝ゲイ〟だ（ちなみにアレクは〝パコ〟だ）。負けた上にこんなTシャツまで作られたら、男（つまりガイ）としても立つ瀬なんかありゃしない。ここまで辱めを受けたら、もはやプロとしての生活を守るとかいうビジネスライクなことを考えてる場合じゃないだろう。〝次は絶対に勝つ〟と思っているのは間違いないと思うがどうだろうか？

そうなったら人間、誰しももう必死。カッコなんか考えずにともかく勝ちにいくのは当たり前だが、メッツアーはルールを超えたところでガムシャラに勝ちにいった前歴がある。

94年12月、バーリトゥード・デビュー戦となった『UFC4』でメッツアーはスポーツライクな格闘家とは一線を画す、エゲツない裏技を披露しているのだ。

アカイ流武術という強いのかも弱いのかもまったく実力未知数のジェイソン・ファーンという選手と当時キックボクシングのチャンピオンだったメッツアーは打撃戦を展開。ところがファーンのパンチをくらってダウンし、直後にフロント・スリーパーをかけられてしまう。がっちり極まったスリーパーにメッツアーはタップ寸前。だが、メッツアーはレフェリーの見えないところでファーンの小指を折りに出て見事に脱出してのけた。当時は技術がなかったから仕方ないといえばそうなのだが、心にケダモノが棲んでいないと技術のあるなしに関わらず、こういうアポロ菅原チックな反則は普通しない。さらに数年後UFCライト級王者&キングオブパンクラシストとなったメッツアーはランディー・クートゥアーに勝ったばかりのエンセン井上に向けて「そのビッグマウスを叩き潰してやる」と発言。気性の荒さをも見せつけた。

【ガイ・メッツアーの主な戦績】

■94年12月16日　『UFC4』
○対ジェイソン・ファーン [2分13秒 TKO]

■95年4月7日　『UFC5』
○対ジョン・ドウディ　[2分02秒 TKO]

■97年5月30日『UFC13』UFCライト級トーナメント優勝
○対クリストファー・レイニンガー[15分00秒 判定]
(一回戦)
○対ティト・オーティズ [1分39秒 ギロチンチョーク]
(決勝戦)

■『Advance TOUR』キング・オブ・パンクラシストタイトルマッチ（パンクラス）
98年4月26日
○対船木誠勝　[30分00秒 判定]

98年9月14日
○対柳澤龍志　[30分00秒 判定]

98年12月19日
○対近藤有己　[20分00秒 判定]

■99年3月5日　『UFC19』
●対ティト・オーティズ　[9分55秒 TKO]

ガイ・メッツアー

1968年1月1日アメリカ・テキサス州生まれ。ライオンズ・デン所属。身長183cm体重97kg。キックボクシングUSAKAとWKKのヘビー級タイトルを引っ提げて94年12月16日『UFC4』に参戦してギブアップ勝ち。翌年4月7日『UFC5』でもTKO勝ちとノールールの世界でも頭角を現す。そして95年7月23日、グラウンド技術の師匠、ウェイン・シャムロックの紹介でパンクラスデビューを果たす。97年5月30日UFCライト級チャンピオンに輝き、98年4月26日キング・オブ・パンクラシストの座を手にする。同年12月19日近藤有己戦を制したのちキング・オブ・パンクラシストのタイトルを返上。今年3月5日UFCライト級チャンピオンの座をティト・オーティスに奪われる。7月4日『PRIDE6』での小路晃戦に猛烈に再起をかけるはず。

黄金の壊滅男
Guy Mezger

元キング・オブ・パンクラシスト、元UFCライト級チャンピオンと強さの称号を二つも手にしたガイ・メッツアーが『PRIDE』のリングに上がる！　対戦相手はヴァリッジ・イズマイウをTKOし、最近では“北の最終兵器”イゴール・ボブチャンチンと真正面から打ち合った小路晃。パンクラスと慧舟會のトップ対決とも言えるこの勝負はどちらも負けられない大一番。だが、ガイにはそういう図式以上に負けられない理由がある。リングで勝つ以外解決できない“男のプライド”がかかった勝負なのだ。その辺の事情にグゲッと迫る特別編。男がプライドを取り戻す場。それが『PRIDE』なのだ。

要するに小路にとってやっかいなのは、このケダモノ魂なのだ。パンクラス時代はスポーツライクな闘いを目指し、本人も技術の習得に励んでコツコツやって、ついにキング・オブ・パンクラシストの座を掴んだメッツアー。そして会得した技術を引っ提げてパンクラスとはルールが違うUFCライト級チャンピオンの防衛戦に臨んだのだが、その途端にティトに負け、赤っ恥をかかされてしまったと、こういうわけだ。

ホントに切ない。

キング・オブ・パンクラシストのタイトルは返上してしまった。UFCのタイトルは奪われてしまった。そして〝ゲイ〟・メッツアー。

可哀相なぐらいイイとこなしだ。

そうなりゃ、やっぱりスポーツライクな衣は脱ぎ捨てるしかないでしょ？

現キング・オブ・パンクラシストの近藤にも昨年勝ち、結局負けなしでタイトルを返上した、いわば〝リアル〟キング・オブ・パンクラシストとも言えるガイ・メッツアーのムキ出しのナマ身が垣間見れるかもしれないのだ。もし、そうなったらゾクゾクすること間違いなし！

その一方、小路も「今回はとことん勝ちにこだわる」と発言。ヘンゾ・グレイシーと引き分け、ヴァリッジ・イズマイウにもTKO勝ちし、イゴール・ボブチャンチンとは壮絶な打ち合いを展開した小路にも欲が出てきたのだ。

「僕は去年イズマイウ選手に勝ちました。そして、もしメッツアー選手に勝ったならばキング・オブ・パンクラシストという栄冠を争う闘いに参加させてほしいと思ってます」

タイトル挑戦についてはこちらがうんぬん言うべきことではまったくないが、一つ言えることは小路自身に栄冠を手に入れたいという、いい意味での貪欲さが芽生えたということだ。

その欲が勝敗にどう影響するかはわからないが、必死に勝ちにいく両者の闘いが面白くならないわけがないだろう。

必死に目を凝らしてみれば「元パンクラシストvs慧舟會の大決戦」という闘いの構図以外にも、二人の闘いは見るべきものが必ずあるはず。例え、膠着状態になったとしても二人の〝勝ちたい〟というムキ出しの欲望がチラチラと垣間見れることは間違いなしだ。

ただし、「そんなモンは面倒臭いぜってんだ、見たくないぜってんだ（『プロレス激本』風）」っていうチンケなお客さんもご安心。小路はさらにこう語る。

「もし膠着状態になってつまんない試合になったら僕がマイクでカバーしまッス」

プロフェッショナルだぜ、小路。その調子でガンガンいけや、ガンガン!!

怪物通信®
PRIDE.6
【特別編】

奇々怪々！ 魑魅魍魎!! 酒池肉林!!!
九州でとてつもないプロレスが
行われていた!!

潜入「世界のプロレス」

『世界のプロレス』を知ってるか？　今年1月に「外人選手を主体に“何が起きてもおかしくないプロレス”」をモットーとして旗揚げした九州発のインディー団体である。ここ数年、メジャー団体の全日、新日でさえ、外人勢の顔ぶれは固定され、外人好きの心を満たしてくれるプロレス＆格闘技興行は「PRIDE」だけとなってしまった感がある。「所詮インディーだろ!」とほざいてるキミ! インディーを軽～く超えたものが、世紀末の外人天国『世界のプロレス』なのだ。

チョロの世界うるるん滞在記

今年のマット界は、年頭から実に様々な事件がボッ発した。「小川 vs 橋本戦」「大仁田劇場開演」「みちプロ分裂」「馬場さん死去」「マサ＆前田＆ジャンボ引退」「二瓶組長逮捕」「佐々木健之介くん誕生」などなど、書き始めたら、すぐ朝が来るのであまり書きません（©村田卓実くん）。そんな中でボクが一番衝撃を受けたのが、「1・7『世界のプロレス（以下『世界の』）』設立記者会見」だった。何が衝撃かというと、『世界の』取締役兼ゼネラル・マネージャーとしてあのカルガリー・ハリケーンズのマネージャーだった安楽利則氏が就任したからである（実はよく知らない）。安楽氏と言えば、元ダイエーホークスの山之内を東京プロレスに入れた実績もあり（すぐ逃げ出したが）、これは『世界の』に注目して損はないと、俊二、いや瞬時に判断したのだ。さらにその会見で、『世界の』藤本会長から出てきた言葉がまた凄かった。「外人選手を主体に」「"何が起きてもおかしくないプロレス"をモットーに」「当面は九州中心で」「プロレス界に一石を投じたい」。これらの発言がいちいちボクの身体に染み渡り、これは『世界のプロレス』界に我が身を投じるしかないな、と思ったのだった。

思ったはいいが、旗揚げ第一弾シリーズ『黒船襲来』が開幕すると、マット界に「一石を投じ」るはずの『世界の』は、マスコミにほとんど取り上げられることなく、ノンストップの全5連戦は嵐のように駆け抜けていった。そんなこんなで、ボクの頭の中から『世界のプロレス』というイカした団体名が消えかかっていた頃、第二弾シリーズの発表が行われたのである。参加選手を見ると前回と同様、異常に豪華な外人勢、さらに日本人陣営として、アジアン・クーガー、相島勇人＆水前寺狂四郎のウエスト・ジャパン勢も出場（青柳館長は残念ながら不出場）ということで、『紙プロ』インディー番長としては、『世界の』へ向けて旅立つことを心に強く誓ったのだった。そうなると問題は金だ！　ウチみたいな貧乏会社が『世界の』行きを了承してくれるのか？　ダメもとでお願いすると、「世界でもどこでも行って来い！」とあっさりお許しが出た（往復交通費のみ）。ボクは気が変わらぬうちに激安航空券を買い、右も左もわからぬまま、熊本に向け旅立ったのだった。（続く）

9月から開催の熊本国体。大会マスコットが至る所に（左からヒックル、モックル、ミックル）総称：ひのっこ。

世界の プロレス
SEKAI NO PURORESU

6月2日の福岡・田川市大会から開幕した『世界のプロレス』旗揚げ第二弾シリーズ『黒船来襲Ⅱ』。紙プロ特派員の私・チョロは、熊本で行われた、第2戦、第3戦へ恐る恐る足を運んでみた。九州地方で夜な夜な繰り広げられている「世界」の宴とは？「あなたの知らない『世界』」を少しでも味わって下さい。夜も寝られなくなります。

2月1日の大分大会で、前日に亡くなったジャイアント馬場さんへの惜別の10カウントゴングが鳴らされた。世界で最初に馬場追悼セレモニーを行ったのが「世界のプロレス」だったのだ。

試合前には「圓和道」という韓国の演舞が行われる。「力道山あぁ力道山よぉ」とのセリフ付き。

♫あぁ力道山、力道山

チョロの「潜入！世界のプロレス」。始まりは小国ドームから。乗り換えも含め熊本空港から4時間も掛かってしまった。

怪しいと思って行ったらやっぱり怪しかった

6・2田川市での開幕戦。ペプシの首投げでトリプルK2号のマスクがスッポリ取れてしまうというアクシデント発生。中から出てきたのは、チョビ髭、耳はカリフラワーのオッサン。ファンから一斉に「大木金太郎コール」が起こると、次の日から大木金次郎としてファイト。この柔軟性こそ「世界の」の魅力でもある。

韓国の大巨人
トリプルK1号

全5戦を通して行われた、SHINOBIとアルカンヘル・デ・ラ・ムエルテによるゲレーロ州ウェルター級王者決定5番勝負。3勝2敗で勝ち越したアルカンヘルが第36代王者に輝いた。

地獄の弁護士
アルカンヘル・デ・ラ・ムエルテ

驚いたのがウエスト・ジャパンの水前寺狂四郎の人気ぶり。チータも真っ青。地元とはいえ女子中学生がその姿を見つけると、アッという間に水前寺の周りには女の子だらけの熊本大会に。

原爆頭突き
大木金次郎

コーラ・パワーズは「OK！OK！」等と流暢な英語で会話をしていたという証言もあるので、正体は英語圏のレスラーと見るのが妥当だろう。一方、そのリングネームからコーラ・キッドには韓国人説も。コーリア・キット？　コーリアまた失礼（寒）。

世界のプロレス田川大会

小川にNWA王者がケンカ状

大遅刻でグルグル 挑戦流れ激怒

小川

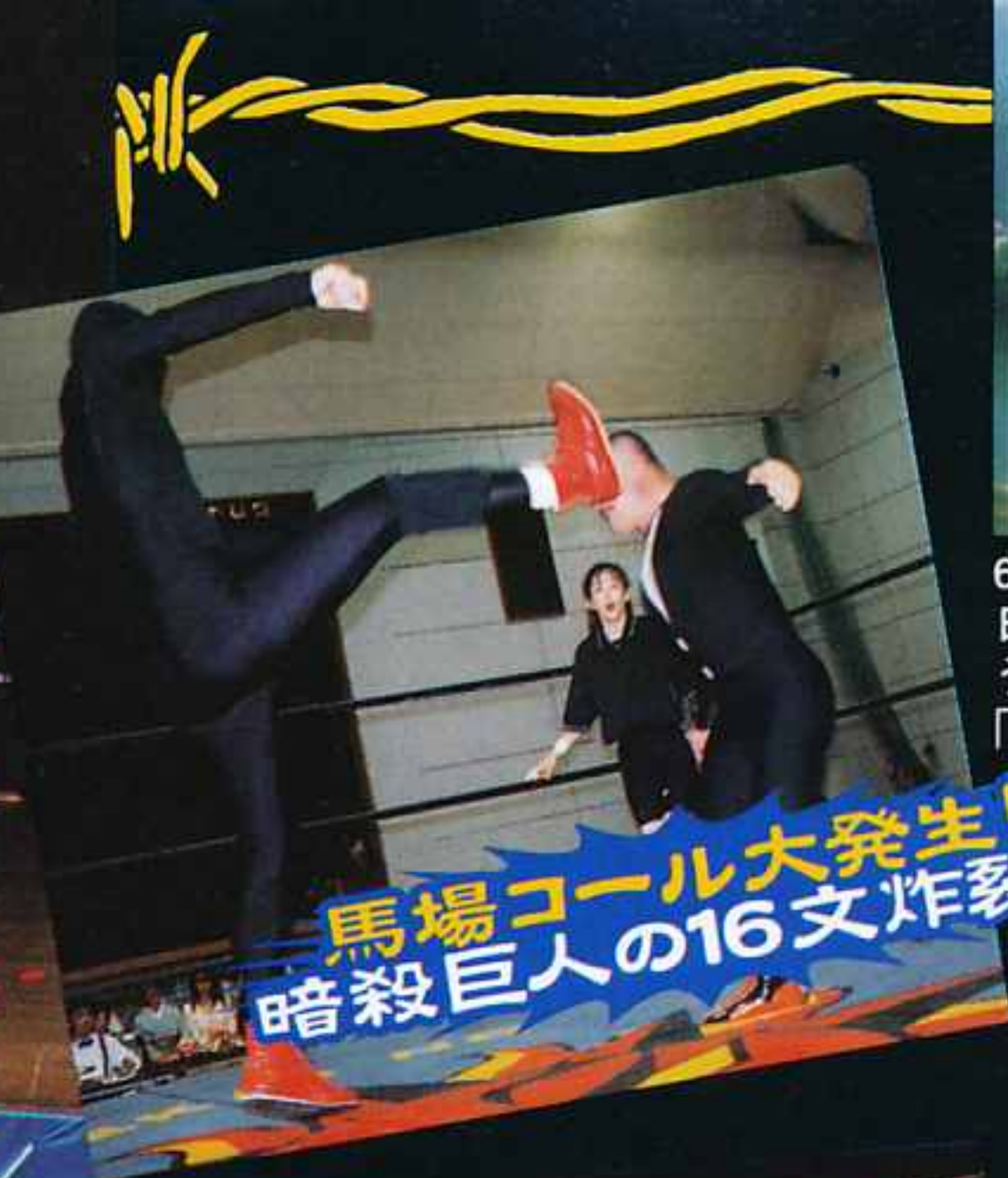
「世界のプロレス」へ来日中のブラザー・フッド。二人は来日直前に小川直也が持つNWAヘビー級王座への挑戦が決まっていたが、小川の飛行機トラブルによってキャンセルされたことに対し激怒！（九スポ6／3付け）

どっかの取材で全5戦に同行のダンプ松本。毎試合、休憩明けに登場すると本部席で観戦。そして毎回、KKKマネージャーのロッテリアンから難癖を付けられていた。結局、期待された直接対決は行われなかった。

チョロの世界うるるん滞在記

いい年こいて単独での飛行機初搭乗で、すっかり舞い上がり、スチュワーデスをボンヤリと1時間ほど眺めていると飛行機はすでに熊本空港に。
　今回の『世界の』シリーズでボクが狙いを定めたのは、第二戦の熊本・小国ドーム、第三戦の熊本・人吉スポーツセンターの熊本二連戦だ！「熊本来襲Ⅱ」!
　密航には欠かせない『週プロ』「団体別チケット情報＆観戦ガイド」によると、空港から小国に行くには、ひとまず阿蘇まで行かなければならないということで、空港からバスに揺られ約1時間。なんとか阿蘇に到着。近くにあったクマ牧場に行きたい欲求を抑え、今度は小国方面行きのバスに乗り換え。しかし、バスはいくら待っても来る気配すら見せない。駅に備え付けの時刻表も8年ものだし、地元の娘に道でも聞こうと懸命に駆けずり回るが、娘なんてどこにもいやしない。「都合よく、来ると思うな、バスと美女」とか言いながらも、なんとか試合開始5分前になって小国ドームへ到着。空港からの所要時間約4時間。『世界の』までの道のりはかくも遠く厳しいものだった。
　取り急ぎ会場に入ると、都内の会場でよく見かけるプロレスファン（スペル・テポドン1号・以下1号）から「おっ『紙プロ』さん！」と声を掛けられ、見知らぬ土地で不安だらけだったボクもホッと一息。話を聞くと1号は、旗揚げシリーズ最終戦を除き『世界の』皆勤賞で、今回も有給休暇を使いまくり、全5戦観戦というから『世界の』名だたるマニアと言えるだろう。同じく会場で会ったスペル・テポドン2号（以下2号）に到っては、これまでの『世界の』全試合観戦という凄玉。二人には今回の『世界の』特集には多大なる協力をしてもらった。感謝！
　試合前には、韓国のカポエラとも言える摩訶不思議な演舞が延々と続けられた。さすがは『世界の』と思い会場内を見渡すと観衆は約300人といったところか。豪華な出場メンバーを考えるとちっと寂しい入りだが、キッズはメチャ元気！　サイコパスに追いかけられては悲鳴を上げ、地元の英雄・相島＆水前寺にキャーキャーと歓声、ＫＫＫ1号のデカさに口をポカ～ン、ダンプにサインをねだり、コーラ＆ペプシと一緒にキメポーズ。キッズ大忙し＆大満足。子供心にビンビンに響きまくる、この健康的な空間こそ『世界のプロレス』の魅力なのだ。　（続く）

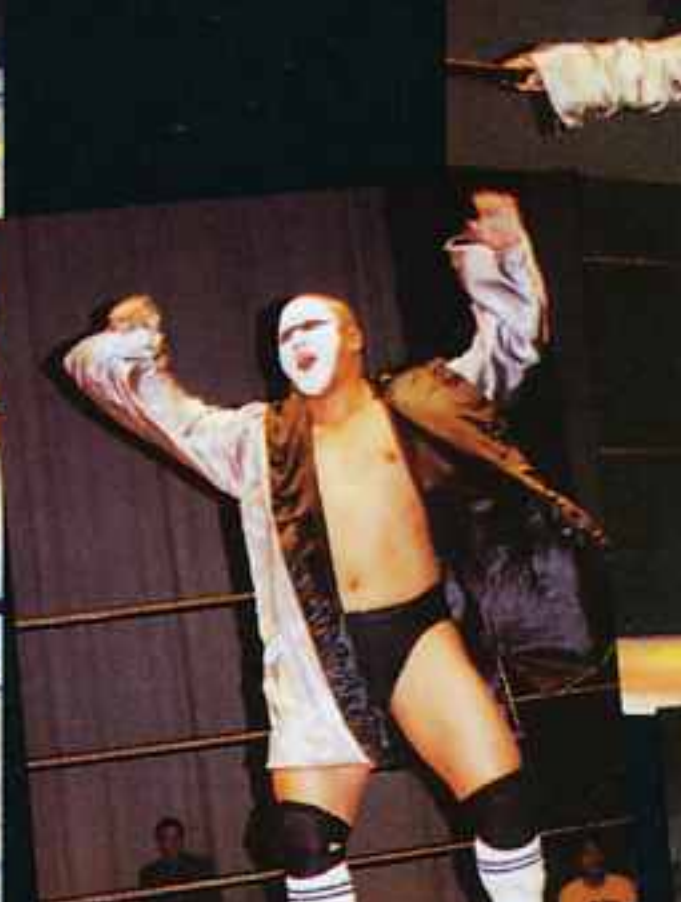
謎の美人マネージャー ロッテリアン

6・6最終戦の長崎ではロッテリアン（ん）のノボリを手に入場のロッテリアン。小道具にもトコトンこだわるのが「世界の」流。ロッテリアンは、前回のシリーズに来日のコリアン・キラー結社マネージャー"韓国マット界の手先"キン・キムチーの嫁だという。次回は夫婦での来日が望まれる。

馬場コール大発生！
暗殺巨人の16文炸裂!!

6・4「世界のプロレス」。この日の会場となる人吉へと向かう途中の電車内からの撮影。「世界の」車窓から。

6・4人吉での、相島、新岩、水前寺、クーガーによる4WAYコーナー（4人が同時に闘う）は、会場全体を使っての大場外乱闘空中流血肉弾戦には観客も度肝を抜かれっぱなしだった。

6・6長崎。伊藤力雄＆水前寺狂四郎＆新岩大樹による3WAYコーナー（3人が同時に闘う）。破れはしたがカブキ最後の付き人・新岩大樹の師匠ゆずり？の大流血ファイトに観客から大歓声が浴びせられた。

無駄に豪華、無駄に贅沢、無闇に面白いのが「世界のプロレス」

6・6長崎でのサイコパスvs相島勇人の一戦。リングアナの「相島勇人」コールを受けフードを取ると、フードの中から出てきたのは顔面蒼白スキンヘッド男。ゴングが鳴ると両選手は自分が誰だかわからなくなり困惑。もちろん観客もレフェリーもどっちがどっちだかわからなくなり困惑。どうやら試合はサイコパスが勝ったらしい。

世紀末に舞い降りた未知の狂豪！ ホーラス・ザ・サイコパス INTERVIEW!?

「世界のプロレス」マットで子供から大人、果てはグレース浅野レフェリーまで恐怖のズンドコに陥れている精神病院脱走男？ホーラス・ザ・サイコパスに命知らずに直撃！

――パンフレットによると、「ペンシルバニア精神病院に隔離されていた1972年9月16日生まれのジョン・エドワード・デバインだと推測されている」と書かれていますが？
サイコパス　…（キョロキョロ周りを見渡し）ノー。ワタシ、ホーラス・ザ・サイコパス！
――あっ、そうですか。いま何歳なんですか？
サイコパス　…（キョロキョロ周りを見渡し、指を折り数えだす）ワ、ワタシ、26歳（笑）。
――サイコパスさんは、日本のプロレスが大好きだと、風の噂でうかがったんですが？
サイコパス　ジャパンのプロレス、スキ！
――サイコパスさん、闘ってみたい日本人レスラーって誰かいます？
サイコパス　カ、カワダ、スキ！
――川田利明さんですか！　川田さんのどういったところが好きなんですか？
サイコパス　…（川田のマネをしてゴミ箱にサッカーボールキックを連発し）ス、スキ！
――ヒャハハハ。他には？
サイコパス　…（キョロキョロ周りを見渡し、いきなりヒップアタックをしてくる）
――リョ！　ビックリしたぁ!!　なにするんですか！
サイコパス　ワ、ワタシ、コ、コシナカ、ス、スキダッテ！
――越中詩郎さんですか。なかなか渋いッスね。ああ、だから白袴とか履いてるんですね？
サイコパス　…（キョロキョロ周りを見渡し電信柱にヒップアタックを連発！）
――（無視して）あ、あの～、他には誰かいます？
サイコパス　カニ、カニ（カニのポーズを取りながら遠くへ歩いていく）。
――サイコパスさ～ん、戻ってきて下さい！
サイコパス　（カニ歩きをしながら戻ってくる）カニ、カニ！　カニ、カニ！
――愚乱浪花さんですね？
サイコパス　……カニ、カニ（見知らぬ人の車のボンネットに上がりキョロキョロ周りを見渡して）ジャパン、ダイスキ。モットシアイシタイ。レギュラー、ナリタイ！
（挙動不審のため、おまわりさんに連行される）
――（手を振りながら）さようなら～！　サイコパスさん、ありがとうございました。
サイコパス　（振り向いて）にん！
【6月3日、熊本県小国ドーム外で収録】

チョロの世界うるるん滞在記

小国大会も終わり、ふと宿を押さえていなかったことを思い出した。しょうがない野宿でもしようと思っていたが１号のご厚意で民宿の同室に泊めてもらうことに。ありがとう１号と枕を濡らしながら熟睡。翌朝８時に起床し１号＆２号と共に熊本まで移動。２号の協力により、熊本市内で上田馬之助さん（P26参照）にお会いすることができ大感激！　その足で、この日の会場、人吉スポーツセンターへと向かった。ここでまた電車の乗り継ぎに手間取り、人吉まで４時間も掛かってしまった。会場に着くとなにやら騒々しい。何かと思えば会場隣では「熊本国体ひのっこキャラバン隊隊長」水前寺清子のコンサートが行われていたのだった。チーターには勝手に歌ってもらって、いざ『世界の』。この日も観客動員は冴えなかったが、乱入、乱闘、挑発、場外乱闘といった観客一体型プロレスを繰り広げ、観客一人一人の熱狂度指数は、全日武道館大会並であった（いやこれホント）。全試合終了後、『世界の』マットでも飛びまくり観客を驚嘆させ続けたアジアン・クーガー（P24参照）を取材。その後、酔いにまかせて夜の人吉をさまようが、街で見かけるのはレスラーばかり。しょうがなくビジネスホテルで一人淋しくビールを飲み爆睡。翌日朝８時起床で熊本空港へと向かう。電車の中で『世界の』魅力を１号＆２号と語り合う。１号は「『世界の』はイメージとしては旧国際みたいな感じですね。旧国際のプロレスが面白いと思った人はたぶん面白いと思う。独特のほんわかさがあるし、いかがわしさもあるし（笑）」と言っていたが、『世界の』はボクのように外人天国時代の全日ファンや、旧国際ファンなどにはたまらない団体であろう。「延長コール」が起きるとすぐさま延長などということは日常茶飯事。観客の誰もが自分の為に試合をしてくれていると錯覚を覚えるのだ。外人同士の４ＷＡＹ ＤＡＮＣＥという無駄な豪華さも『世界の』の醍醐味。『世界のプロレス』はアメリカのインディープロレスを唯一日本で見れる団体なのだ。古きよきプロレスを現在にタイムスリップさせた『世界のプロレス』に乾杯！　ありがとう！『世界のプロレス』。潰れるな！『世界のプロレス』。また行くぜ！『世界のプロレス』。後ろ髪を引かれつつ東京行きの飛行機へ乗り込んだ。（おわり）

人吉駅前のプチお城。人吉大会終了後、夜の人吉をブラブラ徘徊してると、いるわいるわ「世界の」勢。居酒屋にはペプシ、コンビニにはＫＫＫ１号＆大木金次郎。

コーラ・パワーズ
コーラキッド＆ペプシ・ボーイ

6月6日＝長崎でのＮＷＡ世界タッグ戦。60分3本勝負で行われ、互いに1本ずつ取り合い、迎えた3本目。ネルソンのエアプレーン・スピンがグレース浅野（ＮＷＡ公認）レフェリーに誤爆。うずくまるグレース。そこへ安楽氏（下参照）がリングインし3カウント。コーラ・パワーズがＮＷＡタッグ王者に！　観客はバンザ〜イ、しかし、安楽氏はＮＷＡ公認レフェリーではないため裁定は無効となりタイトル移動は、無しよ。その間にネルソンがペプシを押さえ込み（ロープ足掛け式）、王者組が驚異の66度目の防衛に成功した。

ＮＷＡ世界タッグチャンピオン
エリック・スブラッチャ＆ナックルズ・ネルソン

世界のプロレスゼネラルマネージャー
安楽利則の「世界」

世界のプロレスは、例え客入りが悪かろうとも選手は一生懸命やるということで、今は辛抱しながら地方をまわってるんですよ（苦笑）。今回はサイコパスが初来日だったんですけど、思ってた以上の選手だったんで、サイコパスに続くウチのカラーに合った外人発掘をドンドンやっていきたいです。ウチは外人選手も日本人選手も大型選手っていうのが基本ですから、それは守っていきたいですね。それとファンから、東京で見たいって声もあるので、マスコミさんの力で盛り上げてもらってですね（笑）、年内には後楽園ホールでやりたいと思ってます。やっぱり東京はファンの目も厳しいですから、選手もフロントもある程度、力をつけてから乗り込みたいと思ってますね。それと、八月には大阪大会を予定してるんでよろしくお願いします。

世界のプロレスのスタイルは、アメリカンプロレスのインディペンデントなんですけど、最終的にはＷＷＦを目指してるんですよ。それをいきなり出してもファンにはわからないと思うんで、しばらくは日本とアメリカのちょうど中間ぐらいのレスリングをやりたいと思ってるんですよ。

あと、私が発掘してきたコーラ・パワーズなんですが、肖像権問題とか言われてますけど、実際は訴えられるレベルまでいってないんですよ。まあ訴えられて初めて一人前なんじゃないかと（笑）。

世界のプロレスという団体名を付けたからには、世界のプロレスに名前負けしないような世界の大型選手を呼んで、さらに既存の選手プラス新規開拓でやっていかなきゃと思ってます。日本人も外人も「使ってくれ！」っていう人も結構多いんですよ。外国からビデオを送ってきたりとか。今の時点では、来たからすぐに受け入れるってことじゃなく、一線引いたところから見て、返事をしてるっていう感じですね。でもホントこれからもよろしくお願いします。これからウチが伸びるのも伸びないのもファンの皆様とマスコミさんにかかってますから（笑）。【談】

世界のプレゼント

抜群のデザインの「世界の」パンフ、パンフの図柄がバッグに入った「世界の」Ｔシャツ（Ｍ）、ＫＫＫ１号使用済サングラス（床に叩き付け踏み潰された逸品）、コーラ・パワーズ（コーラ・キッド＆ペプシ・ボーイ）サインボール。個性的なメンツ満載「世界の」の生写真をセットで１名様に。あと、大会ポスターを先着5名様に差し上げます。

取材協力■世界のプロレス／スペル・テポドン1号＆スペル・テポドン2号

「世界のプロレス」でも飛びまくり!
ジュニアの枠を飛び越えた
ムチャリブレ野郎!!

アジアン・クーガー interview

“デンジャーフライ”アジアン・クーガー。誰が付けたか、そのファイトスタイルはムチャリブレと称されている。とにかくクーガーの繰り出す技は、ムチャの嵐なのだ。油断してるとギロチン! 目を離すとトペコン!! それでもダメならクーガーロック!!! 特筆すべきは攻撃だけではない。その受けっぷりもまた豪快過ぎるのだ。ゴチャゴチャ言わんとクーガーのハードコアレスリングを一度見ろ! “マット界のジャッキー・チェン”アジアン・クーガー『紙プロ』初飛来!

—クーガーさんが最初にプロレス団体に入門したのはパイオニア戦志なんですよね。

クーガー いろいろとあって逃げちゃったんですけど（微笑）。その後もジムで体を作ってて、そうこうしてるうちにユニバ（ーサル）が旗揚げして。旗揚げ戦を見に行って、それで浅井（嘉浩・現ウルティモ・ドラゴン）さんのケブラーダに衝撃を受けたんですよ。

—今では当たり前のようになってますけど、初めてケブラーダを見た時は衝撃でしたよね。

クーガー はい。自分の目指してるものはタイガーマスクでしたから。やっぱりユニバはそういうスタイルだったじゃないですか。体のサイズも、失礼ですけどさほど変わんないかなと思って。これは自分の目指す団体だって見に行って実感したんで、それで旗揚げの年の年末に履歴書を送ったんですよ。

—すぐに入門できたんですか？

クーガー ユニバは当時、全女の道場で、週に一回合同練習をしてたんですよ。「年明け7日から練習を再開するんで、そこに来なさい」って新間（寿恒）代表から言われて、そこでモノ凄いテストを受けましたね（苦笑）。

—試験官は誰だったんですか？

クーガー その時は、浅井さんとか（グラン）浜田さんはメキシコに行ってて、だから今でいう、（スペル・）デルフィンさん、邪道さん、外道さん、サスケさん、東郷さんっていうメンバーでしたね。代表ももちろん来てましたけど。自分は先輩たちがリングで練習してる下で、腹筋とかしてましたね。そしたら「リングに上がってこい」って感じで言われて、全員とスパーリングしたんですよ。

—それは、地獄のようなスパーリングだったんですか？（笑）

クーガー はい（苦笑）。何回も何回もまわされましたね。

—その合同練習で一番よくお世話になったというか、シゴかれたのは誰になるんですか？

クーガー 外道選手ですね（笑）。

—外道選手ですか（笑）。

クーガー やっぱり練習してても外道選手ってリーダーシップ的なものがありましたね。やっぱり教え方も上手かったですから。

—ユニバはルチャの団体と言われてましたけど、クーガーさんは、ルチャをやろうと思ってたんですか？

クーガー 自分はルチャっていうのをあんまり深く考えてなくて、タイガーマスク的なスタイルにダブって見えたんで入ったんですよ。それで結局、それまでの練習の蓄積っていうか、そういうのが原因かわかんないですけど、入って半年後ぐらいに腰椎分離症っていうのがあるんですけど、そういう怪我で練習についていくのもツラくなってやめたんですよ。

—デビューとかは決まってなかったんですか？

クーガー デビュー戦も決まってたんですけどね。代表からダイナ・クーガーっていうリングネームをもらってたんですよ。ダイナミックのダイナを取って、あとクーガーっていうのを代表がどっかからもってきて。

—リングネームはやっぱり新間代表が考えるパターンが多かったんですか？

クーガー 全部代表が付けたんじゃないですか（笑）。

—巌鉄魁とかバッファロー張飛とかですよね（笑）。

クーガー はい（笑）。練習が終わってから事務所に全員集まるんですけど、凄いリングネームとか出てきたんですよ。ボクは和歌山出身でしたから、みかんキッドとか。でも、代表が言えばそんな逆らえないですから、そうなっちゃうじゃないですか。

—みかんキッドよりは、当然ダイナ・クーガーの方を選びますよね。

クーガー はい（笑）。ダイナ・クーガーは素顔で、アドリアン・アドニスみたいな感じで暴走族のようなキャラクターを代表はイメージしてたらしくて。革ジャン着て鎖を振り回して入場するという。

—それは人気出そうですけど、残念ながら、デビュー前に怪我で断念したということですね。

クーガー はい。腰を怪我して、それから4年ぐらいブランクがあってプロレスを断念してたんですけど、ユニバで一緒に練習生をやってたヘブンと、もう一回プロレスやってみないかって話になって。それであちこち団体をあたったりして、最終的に谷津（嘉章）さんのSP（WF）にたまたま知り合いがいて、その人に紹介してもらって入ったんですよ。それで、入ってすぐ2週間後ぐらいに巡業があって、その時に谷津さんからいきなり、「マスクマンでいくからマスク用意しとけよ」って言われたんですよ（笑）。

—「マスク用意しとけ」って言われたんですか（笑）。

—さすが谷津さん、トンチが効いてますね。

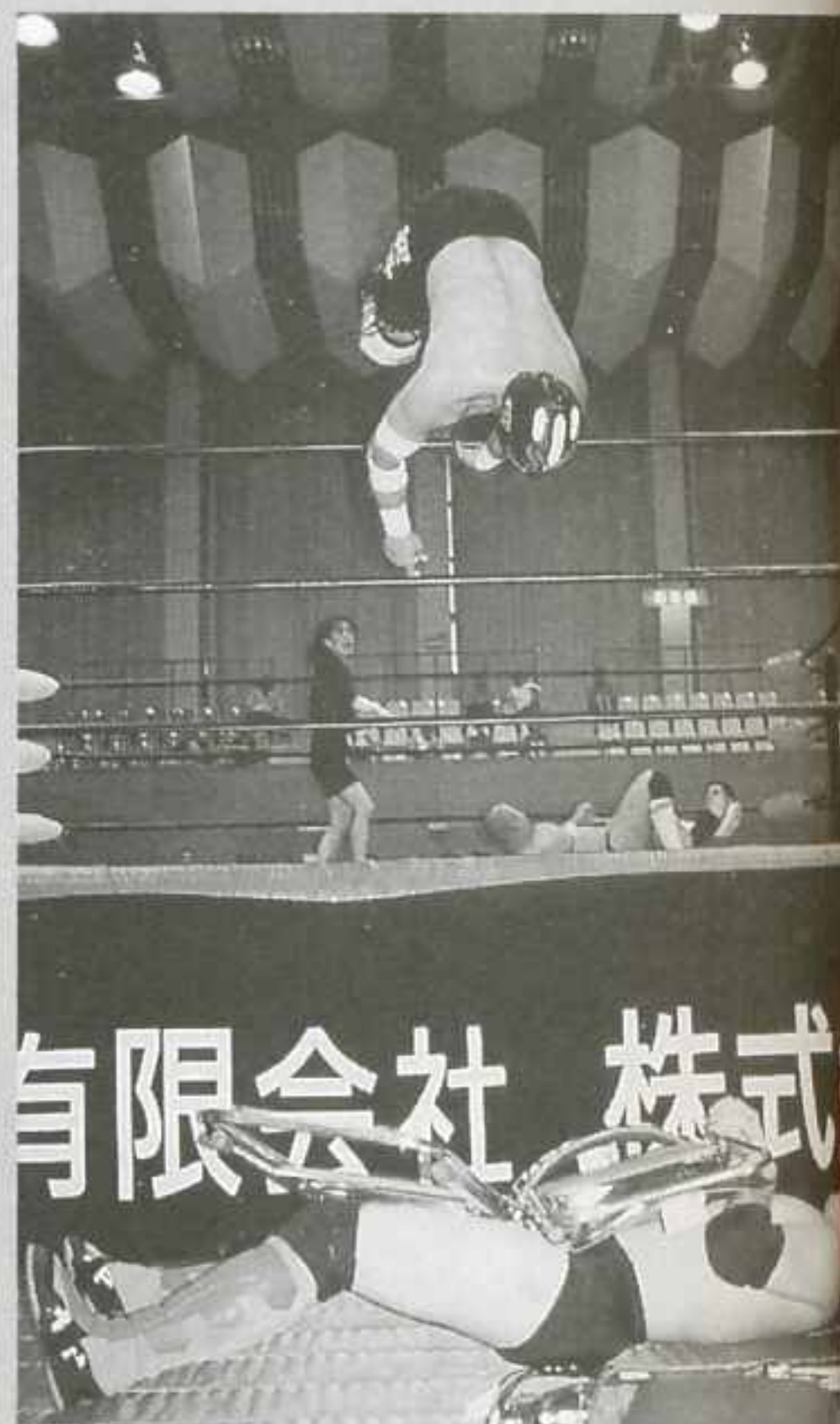
クーガー ムチャですよね（笑）。

—でも谷津さんのおかげで4年間温めておいた、クーガーが世に出ることになったんですね。

クーガー ダイナっていうのはあれなんですけど（笑）、クーガーは気に入ってて「クーガーっていうのを使いたいんですけど」って谷津さんに言ったんですよ。そしたら谷津さんが「2人でアジアン・エキスプレスでいこうか」って言って。で、自分も、「アジアン・クーガーでお願いします」ってなって。もう一人どうしようかってことになって、谷津さんが、コンドルってのが気に入ってたんですかね（笑）、わかんないですけど、コンドルになって、アジアン・コンドルとアジアン・クーガーで2人でアジアン・エキスプレスとしてSPでデビューしたんですよ。それが長かったですけど、デビュー戦になりますね。

—長い道のりでしたね（笑）。

クーガー はい（笑）。で、デビューしてからもボクらの試合はマスコミに全然載らないんですよ（笑）。でも、いくら地方だからっていっても自分たちは一生懸命に試合をしよう、と。たまにマスコミも来てましたけど、客席から「こいつらの試合を雑誌に載せてくれ！」って声が聞こえてくるんですよ。いつもコンドルとの試合ですから、他の団体の選手とのレベルの違いがわかんないじゃないですか。

—でもファンからのそういった声援があると、「結構イケるんじゃないか？」とかは思いませんでした？

聞き手／チョロ
interview by Cyoro
撮影／スペル・テポドン2号
photographs by Super TEPODON No2

外人ならサブゥー、日本人ならサスケと闘いたい！

クーガー　そうですね。結構自分らもイケるのかなって思って、他のジュニアの選手とからんでみたいなという欲求が出てきましたね。

——自分たちの力量を測るモノサシがなかったんですね？

クーガー　そうですね。でも、他のジュニアの選手を呼んで来たり、寺西（勇）さんともやってたんで、SPをやめる直前には多少なりとも自信があったんですよ。

——SPをやめてからは、フリーからジパングを経て、再びフリーとして様々な団体に上がるようになりましたよね。

クーガー　そうですね。

——クーガーさんの試合を初めて見た時、「この人は凄い！」って。ほんとムチャするなあって思って、その割にあまり知られてない（笑）。

クーガー　そうなんですよ。ほとんどマスコミにも取り上げてもらえなかったですからね（笑）。やっぱり全く無名の選手でも、いい試合して客を沸かせられれば、来てくれたファンの声とかによってマスコミも来るじゃないですか。

——ボクもファンの声を聞いてクーガーさんの存在を知りましたから（笑）。今回の「世界のプロレス」でもクーガーさんの飛びっぷりを見てお客さんも驚いてましたけど、クーガーさんは基本的に、目立ちたがり屋なんでしょうか？（笑）

クーガー　そうですね（笑）。あと、自分はジャッキー・チェンが好きなんですよ。ジャッキーってムチャクチャするじゃないですか。高いとこから飛んだり、落ちたり、転がったりしますよね。自分でもかなりムチャしてるなって思う時があるんですけどね。

——さすがにクーガーさんはスタントマンに代わりにやらせるってことは出来ないですからね（笑）。

クーガー　そうですね（笑）。

——クーガーさんは、得意技がトペコンであったりするんで、単純にルチャの選手って思ってる人も多いと思うんですけど、やっぱり自分の中では違うわけですよね。

クーガー　マスコミにそう書かれたり、クーガーってルチャの選手がいてるんだけどって他団体の選手に言われたりするんですけど。飛んでるからルチャっていうもんでもないですからね。ルチャってそんな簡単なものじゃないですよ。やっぱり奥が深いじゃないですか？　そういうのは自分でちょっと遠慮したいですね。実際にメキシコ行っても自分はルチャはできないですから。

——最初は初代タイガーに憧れてこの世界に入ってきたってことですけど、レスラーになってからは目標の選手って変わりました？

クーガー　憧れてたのはタイガーマスクですけど、プロレスを始めて、自分はルチャじゃなくてムチャをやってて（笑）、やっぱりムチャといえばサブゥーだと思うんですよ。

——あぁ、確かにサブゥーはムチャしますよね。それに自虐的で。

クーガー　サブゥーの試合もFMWとかで見て凄いインパクト受けたんですよ。（ロブ・）ヴァン・ダムもそうなんですけど。全日本に上がってる時はさほど影響を受けなかったんですけど、ECWの中で見ると凄くカッコいいんですよ。自分が今、影響を受けてるのがサブゥーとヴァン・ダムですね。

——それは良くわかりますね。サブゥーもヴァン・ダムも身体はジュニアクラスですけど、それを感じさせないですからね。クーガーさんも言ってみればハードコアレスリングですからね。

クーガー　だから自分も、スタイル的には、サブゥー、ヴァン・ダム系でこれからもやっていきたいと思ってますね。

——クーガーさんはジュニアへのこだわりってあるんですか？

クーガー　もちろんジュニアにはこだわりありますよ。自分はヘビー級にはなりたくてもなれないですし、ジュニアで一生を終わりたいですから。ジュニアの中に「アジアン・クーガー」こういう選手がいてるんだみたいな感じで、インディーの中でトップクラスという評価をもらえれば、それでいいですね。

——サブゥー選手、ヴァン・ダム選手っていうのは分かりますけど、日本人選手で意識する選手って誰かいますか？

クーガー　日本人選手では、（ザ・グレート・）サスケ選手ですね。

——確かにサスケさんも、ムチャしますし、いろんな意味で、ハードコアなところがありますからね（笑）。

クーガー　まだ、サスケさんはインディーのジュニアでトップだと思うんですよ。まだっていうのもなんなんですけど（笑）。

——アハハハハ。

クーガー　でも、なんだかんだ言ってもマット界で「ザ・グレート・サスケ」って有名ですよね。新日本、全日本にも上がってるし。スタイルも自分に似てるって言ったら失礼ですけども。ユニバの時代から、メインで出てる選手よりも前座の第1試合のサスケさんの方がジャンプ力から何から全然凄かったですから。

——サスケさんは頭もいいですし、逆に、バカなことも進んでやるし（笑）。ホントに先輩、後輩っていうのを抜きにしていい試合になると思いますよ。

クーガー　合いますかね？　アジアン・クーガーvsザ・グレート・サスケは。それで二千年にみちのく主催でスーパーJカップをやるような話があるじゃないですか。そこにゼヒ食い込みたいですね。

——それは狙って欲しいですね。充分資格はあると思いますし。

クーガー　多分、次は新日本の選手も全日本の選手も上がりそうじゃないですか。そしたら枠が少なくなりますけど、なんとかその枠に入れるように、名前も上げなきゃいけないですね。ただ、全く無名の選手なのに凄いことが出来る選手っていう方が、お客さんに与えるインパクトも大きいと思うんですよ。

——そういう意味では、第1回目のJカップでのハヤブサさんはインパクトありましたよね。

クーガー　でも、ハヤブサさんはマスコミとかにも結構露出してましたよね。ほとんど写真にも載らないインディの選手とかが「こういう選手もいてるんや！」っていうのを大舞台で出せれば凄いインパクトがあると思うんですよ。自分はそれを狙ってるんですけどね。

——クーガーさんは年齢は不詳ですけど（笑）、今のスタイルは長くはできないですよね？

クーガー　多分飛べなくなったら、アジアン・クーガーも商品価値がなくなるんじゃないですか。実際、飛ばない試合もしてみようかって思ったこともあったんですけど、今はとにかくムチャクチャにムチャリブレをやっていきたいですね。

——ムチャリブレって言葉は気に入ってるんですか？

クーガー　気に入ってますね。ムチャリブレって言うと「そんな言葉ないやろ！」みたいな感じでちょっとイヤなんですけど（笑）。まあ、自分は団体に所属してるワケじゃないし、上からそのスタイルで行けって言われてるわけじゃないですから、ホントにフリーで好きなことできますからね。

——その勢いで、ECW参戦であったり、サスケ戦をゼヒ実現させてもらいたいですね。

クーガー　そうですね。一応、ECWは話もあるんで、ゼヒ実現させたいですね。やっぱりサスケさんとやるには、アジアン・クーガーっていうレスラーがもっと広く知られないとダメだと思うし。それまではムチャしまくりますよ！

【6月4日、熊本県・人吉の居酒屋にて収録】

世界のプロレスのマットでも後先考えず飛びまくり、観客の度肝を抜きまくったアジアン・クーガー。初代タイガーに憧れ、レスラーを志し、パイオニア戦志に入団を果たす。練習生として六畳二間に8人で生活し、昼は肉体労働で体と精神力を鍛えた。その中には、金村ゆきひろ、松崎駿馬、板倉広史などがいた。

あじあん・くーがー■本名・不明、生年月日・不明、和歌山県有田郡出身。175cm、85kg。パイオニア、ユニバでの練習生を経て、SPWFでデビュー。その後、ZIPANGに所属するが、現在はフリーでIWA、DDT、世界のプロレス、WAR、インディ活性化、大仁田興行、ネオレディース等で幅広く飛行中。■試合日程は各自調査!

──ちっちゃい頃の『紙プロ』時代には馬之助さんに何度もお世話になりました。

馬之助　プロレスもね、引退したことだしね、（……しばらく沈黙）もうこれでプロレスのことは一切頭から抜けました！

──えっ、抜けちゃったんですか！　テレビとかもご覧になってないんですか？

馬之助　も〜う全然。現役時代からあまり見たこともないし。それはなぜかと言うと、まあ自分の受けきるプロレスを良しとすればね。やはり今のプロレスは悪いところだらけでね、もう怖くて見てられない。でしょうが？　まあ交通事故を起こして、もう4年目に入りましたよね。こういう具合にしゃべれるようになったのもごく最近。（……沈黙）もう……。（付き添いの女性に向かって）ちょっと（ベッド）倒して。（顔をしかめながら）イテテテテ。（病院に）来た当時っちゅうのはね、周りの看護婦さんとか、先生とかがツラくあたってきたけどもね。そりゃも

あした元気になあれ!!

スクープお見舞いインタビュー

構成&撮影／チョロ
Text & photographs by Cyoro

上田馬之助

激白　男の60分!

「世界のプロレス」の取材で訪れた熊本。ある親切なプロレスファンが「せっかくだから馬之助さんのお見舞いに行ったらどうですか？」と馬之助さんの連絡先を教えてくれたのだ。さすが火の国・熊本。どいつもこいつも温かいぜ！　平成8年3月16日、IWA仙台大会で一仕事を終え、東京へと向かう途中で交通事故に遭い、それ以降入院を続けている上田馬之助さん。現在馬之助さんは懸命にリハビリに励んでいるという。というわけで、ちっちゃい頃の『紙プロ』時代、何度も登場していただいた上田馬之助さん（東京シュガーベイブ会員番号2）にお会いすることができました。結論＝馬之助さんはやっぱり馬之助さんでした。

上田馬之助引退記念試合

昨年4月16日、熊本市体育館で行われた力道山ＯＢ会主催『上田馬之助引退記念興行』。新日本、ＷＡＲ、大日本、藤原組の協力という形で行われた引退興行に、ビシッと金髪で現れた馬之助。この日をもって37年間のレスラー生活にピリオドをうった。

う、とてもじゃないけどね、人に言い現せない痛さ！　最近はね、いろんな痛みもこらえらるようになったけどもね。今でも平然としてるようだけど、やっぱり手とか足とか……シビれるよな。

──痛みがとれないんですか。

馬之助　自分は自分でね、運動はしてるんだけどな。（腕をゆっくりと左右に振りながら）こうしたりしてね。よ〜うやくです。昨日、おとといかな？　ようやく手が届いてさ、自分で痒いとこ掻けるようになったのは。届くことは届くけど、肝心なとこが掻けないんだよ。『紙のプロレス』さんは、な？（突然、大きな声で）俺はその前に、も〜う少し早く来てくれるんじゃないかなぁと俺は思ってたけどな（ニヤリ）。

──も、申し訳ありません。貧乏会社なもので、なかなか熊本まで……（苦笑）。

馬之助　まあ気を使ったりとか、いろいろとあるんだろうと思いながらも、私は『紙のプロレス』さんはいつ来るんだろうなぁと思ってたの（ニヤリ）。

──それは申し訳ありませんでした（苦笑）。

馬之助　編集長が来たら、も〜う、追っぱらうつもりでいたんだけどね（ニヤリ）。でも、（付き添いの女性に目をやり）あの人を通じて来られたら、俺はな〜んにも言えなくなっちゃった。そっちも考えたなぁと思って（微笑）。

──いえいえいえ（苦笑）。金髪は入院中もズッと続けてるわけですか？

馬之助　金髪？　俺は丸坊主になりたいっちゅーの。

付き添い　鼻ヒゲも剃るとか丸坊主になるとか言うてるけど。

馬之助　病院におる間はな……。

付き添い　（話を遮り）そう言うけどね、馬之助という名前は……。

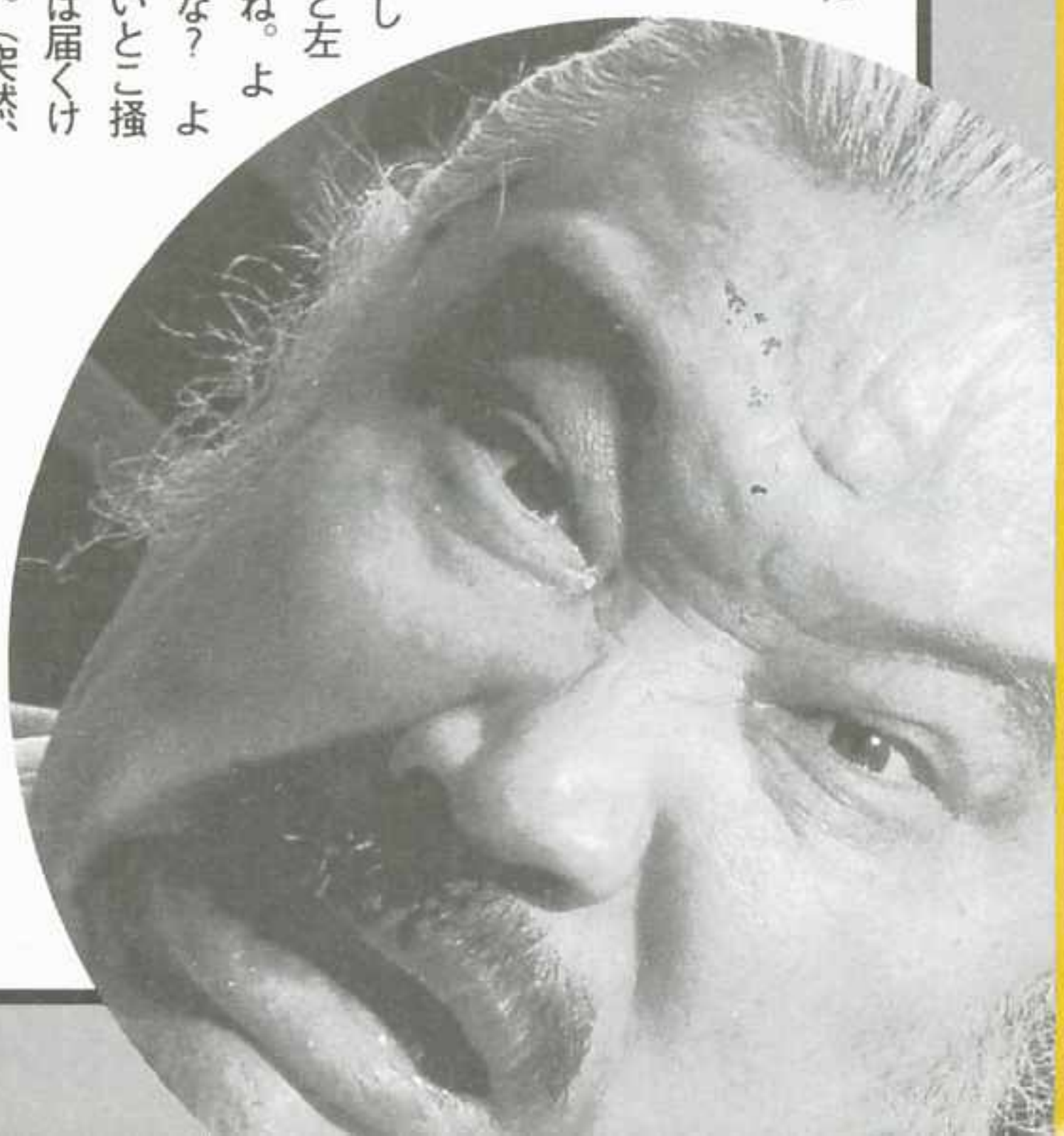
馬之助　（一段と大きな声になり）だからな！

付き添い　ちょっと聞きなさいったら!!

馬之助　だから（苦笑）、後はかつらをかぶればいいんだよ（ニコリ）。別に暴れるわけじゃないしさ。でしょうが？

付き添い　そうじゃなくても、馬之助という名前を残したのは、これは消えませんからね。パーマ屋に行って染めるのはキツかろうと思うけど、無理矢理に私が連れて行くんですよ。

馬之助　じゃあ、上田馬之助っていう名前は消しましょう！

──消すことはないじゃないですか。

馬之助　じゃあ、これから上田ヒロシになりましょう（苦笑）。

——えっ！　上田ヒロシさんですか（笑）。

馬之助　これから頭を真っ黒にするから。そうしたらそれで馬之助が消えるんだから。……もうプロレスの話はしなくていいだろ？

——そこを何とかお願いします（苦笑）。

馬之助　（付き添いの女性に）もうちょっと起こしてくれますか？　もうだいぶ良くなりましたから。（……沈黙）、身体がね、自由に動ければいいんだけどな。まあ、こうやって動けるようになったのも最近だから。

付き添い　やっとそのくらい動けるようになったの。声を掛けられても、振り向くこともできない。もうちょっとかな？（人差し指と親指を近づけて）あとこのくらい。

馬之助　（顔をしかめて）イテテテテ。新日本にアントニオ猪木さんがいて、もう辞めちゃったけどな。いつも私が言うけども、ただただ力道山が全盛でバーッとやってきてね、20何年前、力道山が亡くなってからも夜8時の時間帯でね。

——ゴールデンタイムですね。

馬之助　みんな見てたでしょうが？　それが時間帯がずれちゃって。今は深夜でしょ。まあ深夜にやってても見る人は見るだろうけど。テレビっていうのは7時、8時、9時の時間帯が一番なんです。これはみんな視聴者が決めることじゃなくて、レスラーたちが自分たちで考えてね、どうしたらみんなが戻って来てくれるかを考えるっちゅーのがレスラーですよ。

——そこまで考えて初めて一流のレスラーと言えるわけなんですね。

馬之助　今のレスラーというのはいまだにそれがわかってない、と俺は思う。それともう一つはね「俺が、俺が」が強すぎる。一つ一つの物をみんなで持ち上げて、ピラミッド型にパッと持ってくる。それがないんだ。今は逆三角形でな。我々は、いままでこうやってきたからな。レスラーだけが自分たちはリングに上がって仕事をやればいいってもんじゃない。やっぱりその切符を売る営業マンの気持ちになって、自分たちも一緒にチケットを売ると。それで、できればゴールデンタイムに復活してもらうと。それぐらいになったら（プロレスを）見てあげる（ニヤリ）。

——見てあげてもいいと（笑）。

馬之助　そうだな。今は素人でも出来るようなプロレスだからな。外人でも「なんだこれ、これがレスラーか？」と思う選手もいるだろうが？　な？

——はぁ、確かにいますよね。

馬之助　やっぱりレスラーっていうのは「凄いな、かっこいいな」というような感じでいかないと。な？

——はい。もちろんですよ、馬之助さん！

馬之助　（……しばらく沈黙）それと新日本さんの場合は、まあ猪木さんが若手とやったりしてね。もう自分たちの時代からは離れると。やっぱり負けるところは負けて、盛り上げてるもんな。でも全日本にはそれがないでしょ。馬場さんは還暦までね、ズーッとトップでほとんど負けたことがない。そんなバカなことはないでしょうが？

——はい。それは確かにそうですね。

馬之助　若手も、もうちょっと盛り上げてやるべきだったね。全日本さんは。俺はそう思う。だからいざって言うとき困っちゃうの。誰が社長だろうが、レスラーが社長になっちゃダメだっちゅーの！

——やっぱり社長レスラーはダメですか？

馬之助　社長レスラーということはね、自分中心になっちゃうだろうが？　だから新日本が取ったあれは正解だよな。途中で坂口が引退して社長になった。これが本当にいいです。（……沈黙）馬場さんは今年の1月31日かな、亡くなったのは。

——はい、そうですね。

馬之助　まあとにかく、私は日本プロレスが分裂した時は悪者になってるでしょうが？　それは、なぜそういう風になったのかというのを、私は猪木さんと一回話したいんですよ。だから『紙のプロレス』さんで対談させてください。

——えっ！　猪木さんとですか？

馬之助　そう。ぜひともお願いします。

——は、はい。伝えてみます。

馬之助　私も事故にあってからはカメラ向けられても怖い顔をせずに「みなさんハロ〜！　こんにちは〜！」っちゅう風にね、やっぱり変わってきましたね。変わってきたっちゅうか、変わらなきゃいけない。もう私のプロレスの人生は終わった。もう卒業しちゃったっちゅーか、引退したけども、まだまだ人生の引退は長いですよ、まだまだ。昔は短かったけどね。今はちょっと寿命が延びてるから……。今は、なんて言っていいかな。退院してからどういう形になるかはまだ分からないけどな。ただ、夢はあるんだよ。夢は大〜きく膨らんでる。

——えっ、それはどんな大〜きな夢なんですか。教えてもらえませんか？

馬之助　ナイショ（ニタリ）。今はその夢に向かってね、前に進むしかない！　もう後戻りはできない！！

——夢に向かって前進あるのみ！　凄い！　カッコイイです、馬之助さん！

今は夢に向かって 前に進むしかない！ もう後戻りはできない!!

病室には、村田善則先生謹製のお馴染みアントニオ猪木ブロンズ像とともに、同じく村田先生謹製の上田馬之助ブロンズ像が飾られてあった。ダイナミックで威厳のあるその像は、プロレスファンならずとも一家に一台は置いておきたい逸品である。

馬之助　……そういう感じです。まあ、これからも聞きたいことがあればドンドン突っ込んで来て。で、俺も答えられるものは答える。で、答えられないものは答えられない。でしょうが？（ニヤリ）。

——はい、わかりました（笑）。馬之助さん、突然お邪魔して申し訳ございませんでした。思ったより元気な姿を見れて……。

馬之助　俺、元気じゃないよ（苦笑）。（股間を見て）これが立たなきゃしょうがないだろうが（笑）。これが使えなかったらダメだよ。そうなって初めて活力が出る。グッフッフッフ。な？

——ウヒャヒャヒャ。男は馬之助！

馬之助　それで、いろんなアイディアも浮かぶ（ニヤリ）。

——ウヒャヒャヒャ。馬之助さん、早く退院できるように頑張ってください。

馬之助　こんなもんでいい？　編集長にも1回、熊本に来いっつっといてよ。

——ええ。来たら追い返してください（笑）。長い間ホントにありがとうございました。リハビリ頑張って早く「甦る金狼」となってください。

【6月4日、熊本市内某病院にて収録】

上田馬之助Tシャツプレゼント

上田馬之助引退記念試合で販売された、記念Tシャツを馬之助さんのご厚意により1名様にプレゼント。ちなみに一緒に写っている表札（事故直前、馬之助さん自身が彫ったという超貴重な逸品）は誰にもあげません。な？

偉大なる由利徹師匠が、5月20日、天国 or オシャマンベ・ワールドへと旅だっていった。そこで、本誌も由利徹師匠を偲び、版型のちっちゃい頃の『紙プロ』（16号）から衝撃の秘蔵対談を完全版として再録することにしちゃいました。対談相手は我らがユセフ・トルコ氏！

このトルコ氏の方は、「サイロク？　ああ、あのノド飴のコマーシャルに出てるヤツだろ。ンバッ！　違うの？　あれはエイロク（スケ）か。あ、あ、再録ね。どんどんやって、ドパーンとドヒャーンとやってちょうだい。『紙のプロレス』、バンザイ!!」と、人としても現役バリバリ！　いまだに「当年取って69歳、おヘソの下は40歳（かつてより5歳分UP）」らしく、その元気っぷりは、こちらがマジでたじろぐほどである。

さて、ちっちゃい頃の『紙プロ』に比べると、格段に専門誌化している『RADICAL』で、なぜこのような対談を再録する意味があるのか。それはズバリ言って、こういうことです。

戦後、ジャンルは違うものの、「プロレス」と「喜劇」の「創生期」をブルドーザーのような勢いで駆け抜け、両ジャンルの土壌をつくり上げてきた御両人。とんでもなくパワフルな「昭和」という時代を生き抜いてきた御両人。

その御両人が語り合う中には、猥雑でいかがわしくて不謹慎なデタラメ・パワーが生み出してきたものとは何か？　そして、そこから学ばなければならないこととは何か？　その答えがギッシリ詰まっているはずなのだ。というわけで、そこはかとなくそんなことを考えつつ読んでいただければ非常に幸いです。

さ、そういうわけで、早いとこ、ドン帳上げちまいますか！　♪ツ〜ンクツンク、チャカラカラン、ティラ、チ〜ンコロンツン、スカラカラン、イテェッってな。

主演／由利徹、ユセフ・トルコ

脚本・構成・野次／山口日昇（当時・昇）

キャメラマン／伊藤モトイ

小道具／シーバース・リーガル、岡埜の大福&桜餅

資料提供／ユセフ・オマー

【ゆり・とおるプロフィール】日本国民には説明の必要はなし。これでおしまいにしたいが、軽くいくとすると、日本の喜劇の草創期から喜劇一筋で50年以上にわたって活躍してきた俳優。代表ギャグには、東北弁を活かした「おしゃまんべ」（発音に注意）「カックン」。そして裁縫寸劇ギャグ「花街の母」がある。5月20日、肝臓がんで三途の川を渡る旅に出た

読者にも大好評だった（というより、絶賛あっけにとられ中だった？）、ちっちゃい頃の『紙プロ』16号に掲載された衝撃の対談。4年前のものだが、ジャケも最高だ！（自画自賛）

驚愕のオシャマンベ魂

vs 由利徹

この対談が行われたのは、95年4月。いまから4年ちょっと前のことである。実はこれ、ユセフ・オマー（トルコさんの本名）氏の「ダイジョブダイジョブ、俺が言っといたから」というデタラメなブッキングで決行したアポなし対談だったのだ（天国の師匠、その節はお世話になりました）。

新宿コマ劇場で行われていた「船木一夫ショー」に出演していた師匠の楽屋に、昼の部と夜の部の休憩時間、シーバース・リーガル1本を手みやげにゴーインに押し掛けて実現した「ゆけばしゃべるさ」対談。そういうわけで再び幕開きです。

第一幕 大福七変化

トルコ やあやあ、ハローハロー。由利ちゃん、ほら、岡埜の大福と桜餅、お土産に買ってきたから。ね。

由利 うん。じゃ、あとでみんなで分けるから。あんがとさんね。

——今日はトルコさんとの対談ということで、大いに話に花を咲かせていただきたいなと。

由利 対談っつったって、お前。なんにも聞いてないよ、俺は。

——ゲ！　トルコさん、言ってなかったんですか！

トルコ んばっ！　ほらほら、ウィスキー出してウィスキー。

——あ、はいはい。

トルコ あのね、その紙袋は、由利ちゃんの好きなウィスキー、「シーバース・リーガル」だから。ほら、この『紙の新聞』が持ってきたやつだから。

由利 あっ、そ。それじゃしょーがねえなぁ。やっか、対談。♪ツンツクツクツクツン（紙袋の中を見る）……あ、1本ね。

——あ、すいません（笑）。3本くらい持ってくればよかったですね。

トルコ そ〜だよ、そ。だ〜から言っただろ、俺が。3本は飲むって。1本じゃ足らないぞって言っただろ。で、なんの話しようか。

由利 ♪ツンツクツクツン。んじゃ、ま、今日は相手が相手だから、下ネタとか話すりゃ面白がるんだろ、みんな。

トルコ そういう話、最近みんなしないからね。みんなキレイキレイで。ゴルフのキャディーだってよ、そんな話してやりゃ喜ぶんだから。「トルコさんと回りたい」って言うんだから。ゴルフったって、そんな話ばっかりだもん。キャディーが球拾いに来たら、「やめなさい」って言って、こっちのタマ握らせてやんだよ。デャーハッハッハ。

——始まったばかりなのに何を言ってるんでしょう、この人は（笑）。下品なことを言わせたら、オスマン・トルコ魂が燃え盛りますね。

トルコ な〜んだ、キャメラマン凄いねぇ。ドドーン、バーンと。道具だけは凄いの持ってくるなぁ、『紙の新聞』は（笑）。

——『紙の新聞』って、まだうちの名前覚えてないんですか？（笑）。

トルコ おい、そういえば、『紙の新聞』よ、由利ちゃんに本を見せないと。ほら。

——あ、こういう雑誌なんですけど。よろしくお願いします。

由利 うん、うん。でも俺ぁ、プロレスなんて、ホントわかんないよ。

——いやいや、プロレスの話じゃなくて結構ですよ。

トルコ そうだよ。昔はよ、ここでプロレスよくやったんだよ。

——へ？　コマ劇場でですか？

トルコ そうそう、楽屋でね（笑）。南利明とさ。俺はあいつをいっつもイジメてたんだよ。でね、ビラを作って、楽屋に20人くらい客入れて、ちゃんとやってたんだよ。

由利 「入場料300円」ってな（笑）。

——ガハハハ、インチキですね〜（笑）。

由利 もう、この楽屋でね、ガツーン！　ドーン！ってやってんのよ（笑）。

——ガハハハ。で、そもそも、由利さんとトルコさんの出会いは、いつ頃なんですか？

由利 テレビかな？

トルコ いやいや、テレビじゃな〜いっ！

——映画ですか？

トルコ いやいや、映画じゃな〜いっ！　う〜ん……そっからじゃないんだよ。なんか面白いことからだよ。ん!?　女房……ん!?　そうだ！　由利ちゃんが女房と恋愛して……結婚前っ！　結婚前の由利ちゃんの女房が、ほら、俺の近所にいて。代々木上原の、ほら。

由利 うんうんうんううん。

トルコ そっから何か話が出たんだよ。で、どっかで会ったんだよ。

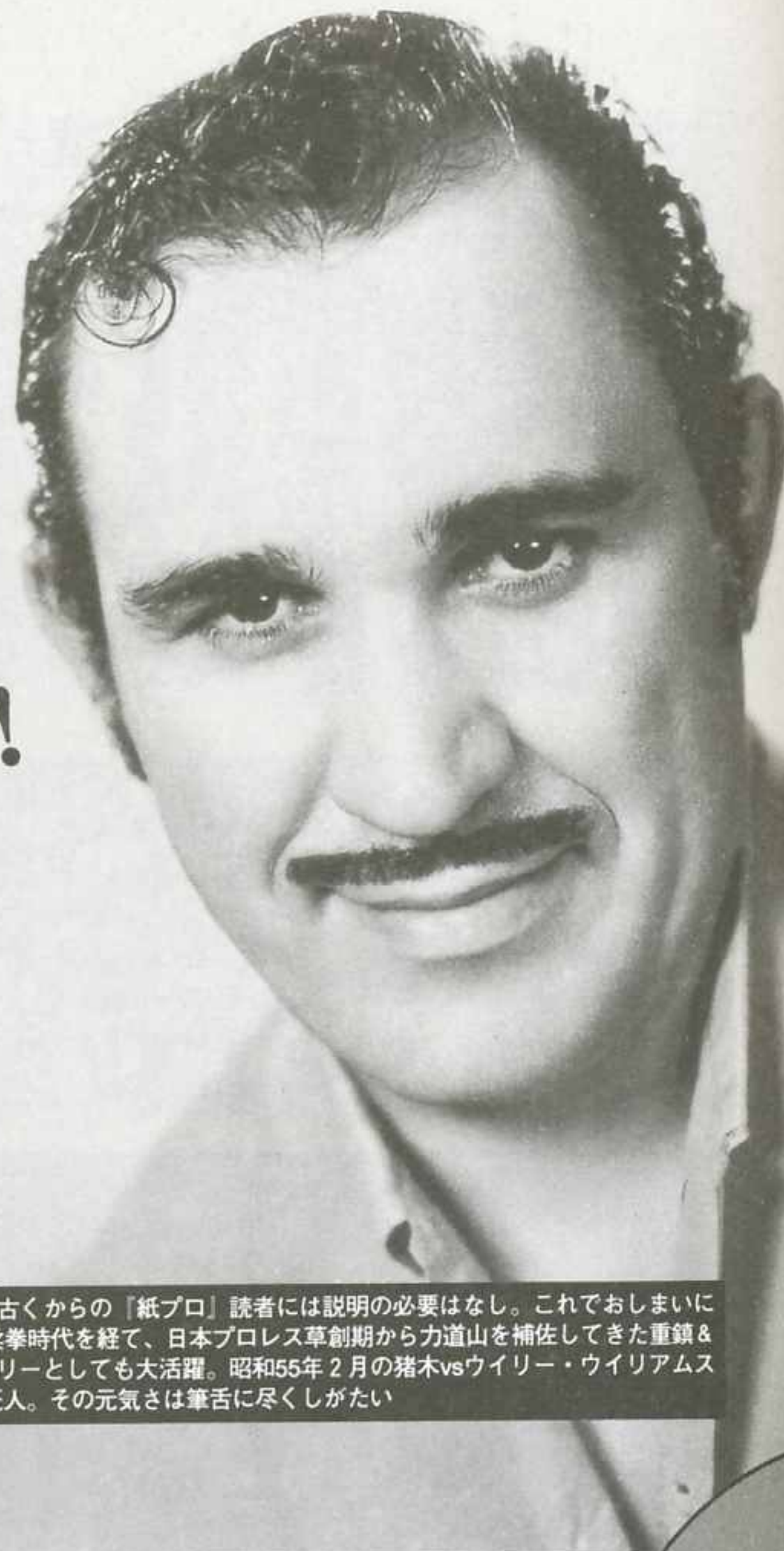
由利 うちの女房があの近所に住んでたからな。独身で。

トルコ で、で、結婚するってんで、それで知り合ったのかな。それからだな。うん、それからだ、しょっちゅう飲みに行くようになったのはな。飲みに行くのは凄かったよ、もう。ゴビゴビ、ガーッてな。

——トルコさんから見たら、由利さんの酒癖はどうなんですか？

由利徹師匠・
追悼記念特別公演

戦後のニッポン創生期を生き抜いた二人の男の衝撃秘蔵対談完全再録！マット界よ！ 世の中の人々よ！この揺るぎなき、デタラメ・パワーを見習え！

【ゆせふ・とるこプロフィール】古くからの『紙プロ』読者には説明の必要はなし。これでおしまいにしたいが、軽くいくとすると、柔拳時代を経て、日本プロレス草創期から力道山を補佐してきた重鎮＆悪代官（ンバ、ンバッ）。レフェリーとしても大活躍。昭和55年2月の猪木vsウイリー・ウイリアムス戦も裁いた生きるプロレス史の証人。その元気さは筆舌に尽くしがたい

戦慄のオスマン・トルコ魂

ユセフ・トルコ vs

トルコ　酒癖はね、面白い！（笑）。

──ガハハ、いいか悪いかじゃなくて、酒癖は面白い！（笑）。

由利　でも、こっち（小指を立てる）のほうの癖が悪かったけどな、ナハハハ。

トルコ　いや、これは同じ、お互いね。これはもう、飲んだらやりたくなっちゃうっていうね（笑）。こういう楽屋でもよくやってたからね。楽屋なんかじゃさ、休憩時間にチョコチョコっとやっちゃってな（笑）。

──元気ですね、しかし（笑）。お二人が酔っ払ってケンカになるとかはなかったんですか？

由利　ないな、んなこたぁ。だってケンカするったって、わかってるもん、なあ。やったら、こっちが大変だよ（笑）。

トルコ　そういうことは、俺たちはなかったよな。楽し〜く飲んでたね。

由利　よく飲んだなあ。

トルコ　飲んだよな。毎晩ね。

由利　そうそう。うん、俺がちょうど新婚のときだな。

トルコ　ちが〜うっ！　新婚じゃない。新婚になる前だよ。前。

由利　前か。

トルコ　それで、ほら、明日いよいよ結婚するってときに、税務署から電話が来て、「もしもし、由利さんのお宅ですか。明日ご結婚されるようですけど、滞納がいっぱい溜ってますが」って（笑）。「このままだと、明日、結婚式場に押さえ込みに行きますから」ってさあ。ガッハッハッハッハ。なあ。おっかしいよな。

──トルコさん、押さえ込んでどうするんですか。差し押さえですよ（笑）。

トルコ　あ、そうそう。差し押さえ、差し押さえ。そうしたら、由利ちゃんが慌てて、俺んとこへ電話かけてきたんだよ（笑）。「おい、明日、大変なことになっちゃうよ。ちょっと来てくれよ」って。

──ちょっと税務署を押さえ込んでくれって（笑）。

トルコ　そうそう。それで俺が、呼ばれて行ったんだよ。（笑）。そのへんから、だんだんグーッと仲良くなっていったんだな。それで、あ、そうだ!!　探しに行ったんだ。坊屋三郎と。いや、坊屋三郎じゃないや。違う……（パンッと手の平を叩き）小助!!

由利　空飛小助（笑）。そうそうそう。

トルコ　その小助さんを連れて、奥さんのアパートに行ったわけだ。そうしたらドアが閉まってるから、裏の窓から、小助を俺が肩車して中を覗かせたら、小助が、「いま、やってるやってる!!」って（笑）。やってる最中だったんだよ。それこそオシャマンベだよ！　なあ⁉

由利　なははは。バッカなこと言うなよ。いや、布団の中に入って、これから愛し合おうと思ったら、な〜んか小さい物が、窓の外にポコッと出てきてよ（笑）。小助の顔は小っちゃいからな。あそこは物干し場なんだよな。

トルコ　そうそう、クックククク。

由利　そこから、こ〜んな小っちゃい顔がポコッと覗いてんだ（笑）。

トルコ　そんで部屋へ入ったらさ、ババババッと起き上がってさ、座布団の上に座ったんだ。だけど、座布団の下から女物のパンツがチラッと見えてんだよ（笑）。あれは最高だったなあ。

由利　ビックリしたよ。あんのヤロ〜、ホントに（笑）。そんなことあったよね。

──由利さんがトルコさんに初めて会ったときの印象はどうでしたか？

由利　そりゃあ、おまえ、ヘンな外人よ（笑）。

──そのものズバリ！（笑）。

由利　とにかくヘンな外人で、な〜んか目がキョロキョロして。こりゃあウソつきそうな（笑）。絶対、こいつには騙されちゃいけねぇなと思って（笑）。

──ウソつきそうだっていうより、ウソつきますからね、きっちりと（笑）。

由利　ああ。ホ〜ントに笑っちゃうよ。それで、よく銀座のクラブに飲みに行ってな。

トルコ　うんうん。ある人と3人でね。

由利　女連れてよ。

トルコ　3人とも、お揃いの服着てさ。

由利　そうだよ。

トルコ　ズボンから靴から靴下からババーンと

本文中にもあるとおり、由利師匠の結婚前後は抱腹絶倒のエピソードだらけだったようだ。一番上の左が師匠で、右が奥さん。一番下が「変なガイジン」で、抱きついてるのが空飛小助だ！

全部。ネクタイからハンケチからビラビラビラと全部お揃い。ね。

由利　そうそう。

——共にいかがわしくも凛々しい青春を過ごしたわけですね（笑）。

トルコ　それで、毎晩行ったね。

由利　そう。俺がベッドに（女と）2人で寝てな、トルコっちは下へ2人で寝るんだよ。布団敷いて。真っ暗にして。で、俺はゆっくりしゃべっててよ、「さあボチボチ始めよう」と思ったら、なんか女が俺のポコチンを、こうやってハネのけるんだよ。俺が手を触ってみると、ゴッツイんだよ。でも女の手にしちゃ、毛が生えてんだよ、手の甲に。「アレ？」と思ったら、こいつが女のオマンチョん中に指突っ込んでやがんだよ、俺の女の（笑）。

——ガッハハハハハハハハ！

由利　どうも俺の手がオマンチョに届かねえと思って、ひょっと見たら、この野郎がな。ベッドの下から手を伸ばしててな。いやー、参ったよ（笑）。

トルコ　デッヘッヘッヘ。

由利　自分の女とはもう終わっててな、早いとこ（笑）。俺の女のところへ指を入れてんだよ。ど～も穴がないと思ったんだよ（笑）。

——俺の女に穴がない！　って感じですか。なんか哲学的ですね（笑）。やってることは下品だけど。

由利　ホントだよ。やるこたぁな。

トルコ　いやー、でもあれは笑ったね。

第二幕　インチキ七変化

——由利さんは、トルコさんの試合って見たことあるんですか？

由利　あるよ。

——どうでした？

由利　どうって、技術はうまいよな。日本人は、あんまりヘタだったからな。いかにも、もう日本人のプロレスっていうのは、次に何やるかだいたいわかったもん。うん。

——トルコさんの場合、何やるかわからないですからね（笑）。

由利　そう。とにかくね、間がいいよ。舞台で喜劇もやってるからな。間がいいんだよな。まともなとこはまともにいって、ハッとさせるところはハッとさせる、それで、笑わすとこはワ～ッと笑わすな。お客を笑わせながらやるって、それがなかなかな。あの当時のプロレスラーっていうのは、ヘッタクソ。いまでもヘッタクソだけどな。うん。

トルコ　やっぱりそれは、由利ちゃん先輩の芸を見てたから、ベンキョー、ベンキョーですよ。

——トルコさんはプロレスの世界、由利さんは喜劇の世界、それぞれの草創期を歩いてきたっていう部分で、お二人は共通点を持ってますよね。

由利　うんうん。

トルコ　でな、俺は由利ちゃんに、由利ちゃんが前にいたプロダクションに入れって言われてね。プロレス以外のときは、そういう芸能関係をポンポーンとやれってね。

由利　ここ（新宿コマ劇場）にも、ず～いぶん出てたよ。そいで、こいつが台詞覚えなくてなぁ（笑）。もうデタラメば～っかり。楽屋に来ちゃ、これ（再び小指を立てる）ばっかり探してるんだ。ホントに（笑）。

トルコ　デへへへ。ほれ、1回、エノケンさんと由利ちゃんと舞台でチャンバラやったとき、フッと見たら、由利ちゃんがいないんだよ。舞台から抜けて楽屋で競馬見てんの、競馬。テレビで（笑）。それで俺、由利ちゃんの台詞知ってたから、パーッとしゃべったわけだよ。そうしたら終わった頃にバーッと戻ってきてな。

由利　面白ぇよ。だって当時は、外人なんてあんまり出てないんだから。外人はいまはね、テレビやなんかいろいろ出るけどさ、面白くねえんだ、あれな（笑）。いまの外人は愛嬌がないよな。トルコっちはね、顔からくるおかしさっていうか、愛嬌があったの。出てくるだけでな。な～んかウサン臭そうなよ。ナハハハ。

——下品で、インチキで、ウサン臭い！　3拍子揃いましたね、トルコさん。スリー・セブンですよ（笑）。

トルコ　あ!!　それからね、そうだよ覚えてるよ。由利ちゃんは忙しいから（テレビに）いっぱい出るでしょ。いまはビデオだけど、あの時代はビデオないからね。生で本番だからね。台詞いっぱい、書いとくでしょ。それをわざと消しに行くんですよ。

由利　そうそう。つまりさ、舞台の床にな、白墨でカンニングの台詞をでっかく書いとくんだよ。こっちを向いたときには、こっちの台詞ってさ。そうすっと、こいつがカメラの後ろから、足伸ばして、それを全部消しちゃうのな、足で（笑）。いや～困ったよ。あの当時は生本番だからな。

トルコ　もう、そういうのないもんね。

由利　もうない。

——トルコさんは、コマ劇場とかには何の役で出てたんですか？

由利　ん？　外人よ。

——ガハハハ。そのまんまですね（笑）。

由利　そのまんまなのよ。向こうのさ、エジプトの御曹司で、もう大金持ちの。実はウソなんだよな（笑）。金だまくらかして逃げたっていうの。

——ガハハ、詐欺師ですね、要は。まったくそのまんまの役じゃないですか（笑）。

由利　そういうのが多いな。まあ、だいたい喜劇につきもんだよ。プロレスもね、やっぱり息抜きがないとダメなんだよ。要するに息抜きをやってくれるからいいんだよ、彼は。

トルコ　いまだってプロレスは、それがないだろ。ズルズルーッと、こうダラララララーッといっちゃってるだろ。

由利　チョンマゲものでもそうだよな。俺たちがマゲものでやったのは、ヤクザ同士が刀抜いて、これからいよいよ斬り合いが始まるっつうときに、「うちの助っ人まだ来ないな」「うちの助っ人も遅いな」って。そうすると、なんでか、片っぽには中国人の助っ人がきて「アチャチャ～」ってやって、こっちはわけのわかんない外人がフェンシングの刀持って出てくんの。そりゃどっちもア然とするよな（笑）。じゃあ面白いから、俺たちは斬り合いやめて、二人にやらそうじゃないかってやるんだ。これが、息抜きだもん。

——そのわけのわかんない外人をトルコさんがやってたわけですね（笑）。

由利　そうそう（笑）。

——いまは、プロレスでも芝居でも設備が充実された中でやってますけど、由利さんも、昔よりいまのほうがやりやすいですか？

由利　いんや。昔のほうが、そりゃ楽しかったよ。設備はあんまり完璧じゃなかったけども。いまはまあ、完璧過ぎてな。

トルコ　それはあるね、それはね。

由利　テレビにしても、VTRが多いだろ。要するに、みんな忙しいから。生本番の場合なんか、AとBって奴がしょっちゅう絡むような芝居だと、Bが仕事で忙しきゃ、Aは休まなくちゃいけねえんだ。いまは、VTRがあるから、「じゃあ後回しにします」ってやれるだろ。だから芝居が繋がんねえんだ、流れがな。生本番だと、そのままズーッと流していくけどな。

トルコ　それはあるな、それはな。

由利　その点、舞台は違うからな。（幕が）開いたら生だからな、まるで。こらぁ、待ったなし！だ。

トルコ　舞台は、台詞があって、稽古があって、台本読みがあって、それから……うーん、なんだ、立ち稽古があって、それから本番の前があって、それで本番だな。うん。だから4日ぐらいかかるな。だから、いつも人間みんなが一緒だよ。そいで終わった後は、みんなでワーッと飲みに行くわけだよ。コミュニケーションがあったよな。いまはそれがないなぁ。昔みたいな面白いのは。

由利　だから難しいのはね、舞台のが難しいよ。でも喜劇の場合はさ、相手が台詞忘れそうだなと思ったらさ、こっちが丸々覚えてたら、「お前、実はこう言いたいんじゃないのか？」「その通りだ、お前の言う通りだ」で、うまく話は終わっちゃえるんだけどな（笑）。カックン、と。

トルコ　そうそう。それは呼吸が難しいけどな、呼吸が。

由利　じゃなかったら、「私、こういう者ですが」って名刺出すと、忘れそうなところの台詞がずーっと書いてあんだよ（笑）。

トルコ　あるな、あるな。確かに舞台もプロレスも同じでさ、生だからな。舞台でも、出たときに自分の台詞がウケるといいもんな。グワーッて。気持ちいいもん。あれで、今日はウケそうだなと思ってて、ウケないとガッカリだからね。だから、舞台出たらやめられな

“ミスター・デタラメパワー”我らがトルコは、TV番組でも由利徹師匠（中央）と何回も共演していた。左は師匠と脱線トリオを組んでいた故・南利明。トルコさんの役は「変なガイジン」！

ユセフ・トルコが語る 由利徹 in Japan '99

今年は（ジャイアント）馬場ちゃんも亡くなったけども、ボクはどっちかっていうと、由利ちゃんのほうがショックだよ。馬場ちゃんは、オレのほうが大先輩だから。オレが教えたんだから、プロレスを。そういう意味では世話になったこともないだろ。でも、由利ちゃんには芸能界とか、いろんな関係で世話になったし、エノケンさんと一緒に舞台に出れたのも由利ちゃんのおかげだし。だからやっぱり一番ショックだったね。

亡くなったのは夜の9時頃でしょ？　亡くなった日に私と南州太郎が飲んでたの。それで、南州さんと「由利ちゃんが入院してるんだから、ダメでもいいから1回行こうよ」と。「あくる日でもどうだ」って話してたんだよ。そしたら、あくる日、死んだって知ってさ。新聞見たら、前の日の9時だってェから、アレッ？　と思って、すぐ南州さんに電話して、「オイ、オマエと『由利ちゃんのとこに行こう』としゃべってた時間に由利ちゃんが死んでるよ」って言ったら南州さんもビックリしてたよ。

だから、あれは神様じゃないけど、心が通じたのか、由利ちゃんの最後の呼び声だったのかなぁ？　と思ったね。

由利ちゃんと最後に会ったのは、この『紙のプロレス』で対談やったのが最後ですよ。あ、違～う！　あれから1回会った。去年、去年。由利ちゃんの自宅に行ったんだ。よく行くラーメン屋みたいなとこ行って、自動車屋さん紹介して、一緒にラーメン食べて別れて、それが最後だよ。そのとき、「12月のコマ（劇場）には出る」って言ってたから、南州さんとも「必ず行こう」って約束してたんだよ。そ～したら倒れちゃったろ。それも新聞見て知って、奥さんに電話したら、「（病院に）行ってもわからないよ。私が行ってもわからなくなっちゃったから、もうちょっと待って」って言われてね。「じゃ、少しでも回復したら教えて」って奥さんに言って、それっきりになっちゃったなぁ。

彼は俺のやってる栃木のホテルに来たときもね、シーバースをいつも2本ぐらい飲んじゃうの。栃木の年寄りの奥さん連中呼んでパーティーで一席やるっていうのにさ、あんなに飲んで大丈夫かな、と思ったけど、イザそうなるとパッパッと酔いも覚めて、奥さん連中を面白く笑わすんだよ。大したもんだと思ったね。普通あんなに酔っ払ったら、ロレツ

由利徹師匠・追悼記念特別公演

ユセフ・トルコ vs 由利徹

いっていうのは、そこだよな。だから由利ちゃんなんか、ズーッと、ほら、舞台でしょ。ほいで、舞台出れば、自然に飲む時間も増えるわけだよ。みんなと飲み行くから。

――飲む時間が増えますか（笑）。さっきも舞台をちょっと見させてもらいましたけど、由利師匠もとてつもなく元気ですね。

由利 そりゃそうだよ。舞台ってのはそういうもんでな。お客さんが満タンに入ってるときは、疲れなんてのを見せたら、もう笑いがない。喜劇にならない。俺なんか、笑わしてナンボだからな。

――トルコさんもプロレスの中で三枚目だったんですよね。

トルコ それはまあ、最初はな。レフェリーやってからは、また違ってくるよ。レフェリーは、今度は逆に憎まれ役だよな。そりゃ、うんと憎まれたら憎まれたほど、試合が良くなるわけだよ。いまのレフェリー、全然それないだろ。やっぱりレフェリーっていうのが演出家であり、プロフェッサーであり、主役でもありな。結局、その試合の運び方なんか見ながらやって、それで客に「うわぁ、こん畜生！ ブン殴ってやりたい」とか言われてさ。そりゃ辛いよ、こっちは。だけど、それでツーペーよ。それがプロだからな。

由利 だから、あれだな。プロレスでも、敵役と良い役があるだろ。それで例えばレフェリーが敵役のほうに応援して、いい技がかかったところで、「ブレイク、ブレイク！ 離れろ！」なんて言ったら、ブーイングだよな。ブーブーよ。「バカ、何やってんだトルコ、この野郎！ なんで離すんだ、バカ野郎！」って。

――「このインチキ外人！」とか（笑）。

由利 うん、そうそう（笑）。そういうのがなきゃ、つまんねえよな。確かにな。す～んなり最後まで終わったんじゃ、つまんねえよ、そりゃ。うん。

――由利さんは、よく「素質5割、チャンス3割、努力2割」って言いますよね。トルコさんなんかは、もともと喜劇役者的素質を持ってたんでしょうね。

由利 そう！ あんだよ、絶対にね。だから、珍！ ミスター珍とかいたじゃないか、中国の。本当の中国だかどうか知らないけどよ。それが三枚目の格好して、ヒゲ生やして出たりするだろ。やっぱり、あんまり面白くないんだよな、そりゃ。

トルコ プルプルプル（携帯電話が鳴る）。はいはいはいはいはい。もしもし。うん、いまコマ劇場。あと1時間で終わる。

由利 あと1時間もしゃべんねえって！（笑）。

トルコ （電話を切る）それで、由利ちゃんね、この『紙の本』ってのはさ……。

――だから『紙のプロレス』ですよ（笑）。

トルコ あ、そうだそうだ。この『紙の新聞』はさ、俺はあんまりプロレスの本ってのは好きじゃなかったんだけど、とにかく読んでるとね、なかなか深～く掘って書いてるわけよ。で、ウソがないのね。他の新聞だとね、ウソばっかり書いてるんだよ。とんでもない弱い奴をボンボーンと神様みたいに強く書いてさ。でも彼はね、俺の言ってることとゼーンブ書くから。だから、みんなビックリしちゃうんだよ。大仁田（厚）のことなんて「この電気屋！」ってね（笑）。しようがないよ、事実なんだからさ。ねえ。若い奴はチンドン屋だしな。だからね、由利さんみたいな人にね、リングサイドで見てもらって、それで感想を聞いたら面白いんだよ、ねえ。昔のがいいか、いまのがいいかってことがわかるわけだよ。ま、古い人は昔のほうがいいって言うけどね。

由利 そりゃそうだ。

トルコ でも、いまのやつを見たいとは思わないよ。だから喜劇でもさ、エノケンの時代から、由利ちゃんがやってた昔のほうが好きだもんな。いま新しい、大阪のバカみたいな奴が出てくるけれどもさ、全然面白くないもん（笑）。ただ、ドワー、ウワー、オーマイガーとかって騒いでな。役者じゃないんだもん。自然じゃないからな。そこが違うんだよ。由利ちゃんなんか、飲んで騒いでるときだって、自然に酒飲んで、作って騒ぐわけじゃないから。自然にやってるわけだから。

――キャラクターが自然に背中に張り付いてないとダメってことですか？

トルコ そーゆーこと！ いいこと言うねえ、寿司喰いねえ、ほら（笑）。

――トルコさんは、いまのプロレスの悪口言わせたらトルコ共和国で3本の指に入るんですけど（笑）、由利さんは最近の若手のコメディーとか見るんですか？

由利 いんや、ほとんど見ねえな。テレビじゃやってるけど、ありゃもう、見る気しないよ。最近は「コメディー」なんてもんがねえんだもん。だってバラエティーじゃない。バラエティーの中にコントがちょっと入ってるだけで。トークショーだよな。

トルコ 結局、東京は、もう喜劇の若い奴はビョーンと育たないの？

由利 劇場がないからな。小さな劇場があればね。昔からあるような、浅草のロック座とかみたいなね。ああいうところがあると、育つんだ。だいたい、手とり足とり教えるもんじゃないから。

トルコ そうだね。

由利 岡目八目でな。やっぱり、見て覚えるものだ、こういうもんはね。あとは自分の素質がなかったら、ど～んなに見て覚えたってダメなんだよ。

トルコ それはプロレスも同じだよ。ね。力道山なんか、あの人が偉いのは、いっつも鏡で自分の身体を見てるわけよ。身体の肉が落ちてるか落ちてないか。それで構えたときの顔とかね。いろんな顔見てる。いまのレスラー、コピー、コピーだから。全部真似してるわけだよ。自分で覚えようとしないもの。だから、この前の東京ドーム（95・4・2『夢の懸け橋』）のプロレス見ても、みんな同じ。はじめからお終いまで。最初の女のプロレスが面白かったのは、そこなんだよ。女はやっぱりね、勉強してるよ。うん。それで、自分のスタイルでやろうとしてるもん。男は全部コピーで、それだけだもんな。つまらねえよ。だからいま、見てごらん。昔はリングサイドっていったら、芸能人みんな見に来てたよな。まわり全部、俳優だとかね。

由利 うんうん。

トルコ いまいないでしょ？ 来てんのバカみたいなのばっかりだよ（笑）。

由利 いまは華やかじゃないな、ホント。昔は華やかだったなぁ。

――昔のプロレスのほうが華やかでしたか。

由利 うん。そうだよ。

――逆に照明とかショーアップの部分では、いまのほうが華やかなんでしょうけどね。

由利 まあ、そりゃそうだよな。でも、なんつーか、華やかさの奥行きが違うんだなあ。

昭和34年公開、新東宝の『坊ちゃんとワンマンおやじ』に出演した師匠と我らがトルコ（一番右）。由利師匠を担いでるのは、二人とも元レスラーで、右が故・金子武雄氏、左が長沢英幸氏だ

第三幕 デタラメ七変化

トルコ 俺のサインも、あれは全部、由利ちゃんが教えてくれたんだよ。「お前、サイン頼まれたら、こうやって書けよ」って言って、それから始まったんだよ。だから、由利ちゃんは俺の師匠。まあ、こっち（小指を立てる）のほうは俺のほうが師匠かもわかんないけどな。ババババーンってな。

――そんなこと誰も聞いてませんよ（笑）。

トルコ あ、聞いてないか、そうか。デッヘッヘッへ。

――例えば、よく言われるじゃないですか、いまの若い人たちは根性がないとか。由利さんのところのいまのお弟子さんなんかは、どうですか？

由利 いや、いまの弟子どもはね、何やっても食えるからいけないんだ。昔はね、食えないだろ？ だから一生懸命、先生のところへ行って、床磨いたりよ。それも飯食うためだからな。それで小遣いを月いくらかもらってな。いまは違うから。舞台でも若い連中が出てるけれども、自分の出番が終わったら、スーッと帰って、アルバイトのほうへ行っちゃったりな。

トルコ ああ。そうだそうだ。

由利 だからね、自分の出番が終わっても、人の芝居を袖から覗いて、どこで笑わすのかとか、いままで笑ってた客が泣いたときは、どこで泣かすのかなとか。そういう違いを覚えようとしないの。見てりゃ、だんだん覚えるんだけどな。覚えようとしない。そんなのばっかりだ。

――いまはプロレスの控室も、役者さんの楽屋も、何かを作り上げていく過程にある熱気みたいなものが、昔ほどないんだろうな、というのは漠然とは感じますね。

も回んないけど、彼はそういうときはサッとしゃべれる。そのとき彼は本当の役者だと思ったね。本当のプロ。素晴らしい！

昔も一緒に飲んで、遊んでね。いろんなタレントたちと彼も飲んだりしてるけど、実際にいろいろ打ち明けて裸になって飲んだのは私ぐらいじゃないかなって思うよ。それと、彼の素晴らしいとこは、人の面倒をよく見るよな。それと、人を立てる、威張らない！ 彼は本当の大衆だよね。大衆のための役者だよ。森繁（久弥）とか、そういうのと違うね。大衆で生まれて大衆で育って大衆のために演じたっていうのが由利ちゃんじゃねぇかなって思うんだよ。

猪木がよく「プロレスを通じて終生大衆に尽くす」って言うだろ？ 由利ちゃんも、お笑いを通じて終生大衆に尽くしたんだよ。焼鳥屋だろうが、どこであろうが、入っていけるのが彼だよ。他の人はちょっと有名になると「俺は違う」とかな、「タレントだ」とかな、「金よこせ」とかな、絶対なるだろ！ フザケンナってんだよ。由利ちゃんに呼ばれて、私の友達が運転して行くとな、その彼にギャラの半分ぐらいババーンと上げちゃうんだから。俺、ビックリしちゃったよ。さすがだよ。やっぱり、ああいう人は二度と出てこないだろうなぁ。

ね！ ビックリしたね！ 享年、78歳だろ。あれだけ酒飲んだら、普通なら1回か2回ぐらい入院するでしょ。だからボクが「由利ちゃん、よく病気しないな」って言ったら、「いや～、病気が逃げちゃうんだよ。おしゃまんべ」って言ってたもんな。そんだけ倒れるまでは元気だったよ。

それだけ我々が元気でいられるのはね、なんだと思います？ 言うんですか？ それはね、やっぱし女性を大事にすること！ 俺たちはよく仕事して、よく飲んで、よく女性と遊びました。はい。女性を大事にして、女性と楽しくするのがパワーだと思います。女性がなくなったらね、男はみんな老けちゃうし、病気しちゃうと思うよ。それがパワーですよ！ だから女性と遊ばなかった馬場ちゃんは早く逝っちゃうんだよね。女房だけじゃなく、女性がいたらパワーが違ったよ。吉田茂があれだけ長く生きたのも、葉巻吸ってるだけじゃないよな。やっぱし女性を大事にして芸者呼んで遊んでたからだよ。俺はそう思うよ。女性に嫌われる人はダメですよ。自分も楽しむ代わりに女性も楽しませる。それがパワーの源！ プロレスだってそうだろ？ 自分だけ満足しちゃダメ。お客さんを楽しませないとね。由利ちゃんだって、そうだよ。みんなを楽しませる。それがパワーになってあんなに長い間元気でいられたんだから。

でもな、本当に惜しい人を亡くしたよ。だから俺が由利ちゃんの代わりに、もっともっと女性を楽しませると。ね。そういうことです。紙のプロレス、バンザ～イ！

【99・6・17収録】

由利徹師匠・追悼記念特別公演

ユセフ・トルコ VS 由利徹

由利　うん、そうな。なんかね、いま見てるとな、昔のプロレスなんか、画面で見てても、リングサイドには芸能人がズラーッと座ってるんだ。それでわりと品が良かったよ。これから闘うレスラーがガウン着て、こうして入ってくるじゃない。昔はさ、「力道山、いいぞー！」って拍手したもんだけど、いま違うもんね。もう立ち上がって、お客さんのほうがスターみたいだよな。ンギャーンギャー騒いでな。だからね、主役のレスラーにあんまりライトが当たらねえんだ。

トルコ　だから、あの時代はね、ピアノと同じなんだ。ドレミファなんだよ。前座から一つめ、二つめ、三つめ、で、だんだんと盛り上がって、それで力道山が出てきたときにグワーッとくるんだよ。だから、舞台もそうだったよな。面白いところでガガガガーンッとくるの。それが、あの大阪のバカみたいな奴らのテレビで見てるとさ、みんな最初からガーッといっちゃってるんだもん。いまほとんど喜劇は大阪でしょ？　ほら、桃太郎じゃなくて、ほら、ヨシ、なんだ……。

——は？　桃太郎？　もしかしたら吉本のことですか（笑）。

トルコ　それそれ。吉本だろ。みんな食われてんだ。だから新東宝の映画なんていうのもさ。

由利　新東宝、ずいぶん出たなぁ、俺な。

トルコ　由利ちゃんの喜劇映画なんていったら、ほとんど全部、新東宝だからね。それで近江俊郎監督ね。もう台本なんかないよ。台本作ったってその場で変わっちゃうんだから。ね。もうアドリブが良かったら、すぐそれだよ。あんないい監督ないよ。アドリブが良かったら、それがズーッとだから。バババババーッとさ。

由利　テスト少ないしな。「はい、1回テスト。もったいないからね、時間がね。ヨーイ、ハイ！」って言って、カーッとやると「じゃあ、いまの良かったから本番にしちゃおう」って（笑）。俺が東宝の撮影終わってさ、自分で車を運転していくと、近江さんがスタジオの前で台本振って「こっち入れ、こっち入れ」って手招きしてんだよな。最後はポケットから財布出して、それ振ってんだよ。そうすると俺はそれにつられてグーッとハンドル切って、入っていくんだ（笑）。そうすっと小声で「由利ちゃん、これ黙ってとっておいて。な。税金なし」って5万円くらいくれるの（笑）。そんでもって「ちょっとカツラつけて、やってよ。何でもいいから」「どんなのがいい？　じゃあ、俺が会社の社長で、ハゲの奴が出てるから、カツラかぶって」って、もうみんな達者な奴さんがポンと手を叩いて「よし、それでいこう。じゃあ本番」「テストは？」「なし」（笑）。

トルコ　ホントそんなもんだよね。

由利　そんで終わったら「由利ちゃん、明日何時に終わるの？　あ、そ。じゃ、明日また待ってるから」って（笑）。それで結局、映画が完成してみると、俺が主役だよ（笑）。「ちょっとだけ」が主役になっちゃうんだから。あ、そりゃ面白かったなぁ。

トルコ　最高だね。

由利　いま、時たまやるんだよな、東京駅の近所の映画館で。昔のやつを。『カックン超特急』とかな（笑）。

——いいですね、『カックン超特急』！（笑）。それを聞くと、いまは映画でもテレビでも僕らの出版界でも、アドリブを排除して無駄な打ち合わせばかりって気がしますね。

トルコ　だからね、近江先生っていうのは大したもんだったよ。パッと見て、そのままやらせるんだからね。

由利　よその映画よりは出演料は安いけど、本数が多いもん。俺が300本ぐらい撮ってるんだよ。いま300本撮った役者なんかいないよ。まあピンからキリまであるけどよ。でも、主役もずいぶんやったよ。歌までできたもんな、ありゃ。

トルコ　あ、歌やったね、歌。

由利　由利徹の『カックン・ルンバ』ってな（笑）。

——くわー、『カックン・ルンバ』！　ぜひ復刻させたいですね（笑）。そういえば、昔は、楽屋の天井からヒロポンがぶら下がってたらしいですね（笑）。

由利　ああ、そうそうそう。でもあれはヒロポンじゃないよ。注射器だよ（笑）。注射器がさ、横浜セントラルの文芸部の部屋の天井から、ゴム紐でぶら下がってて、作家とかが自分でポンッと打ってよ、パッと放すと、ビョ〜ンって上がってくんだ（笑）。

トルコ　デャーハッハハハ。

由利　あの頃はさ、ヒロポンは売ってたんだから、薬屋で。

——なんか、いいですね（笑）。やっぱりデタラメな中から生まれてくるというか、突き抜けてくるパワーを感じますね。

由利　うん。そうだよ。それはそう。そういう生活してないと、やっぱりね、なんつーか、力っていうのはついてこないよ。肌で覚えるからな。

トルコ　よく遊び、よく飲んでな。それと、俺たちの時代は、やっぱり先輩たちが後輩の面倒見てたな。それは確かかね。いまなんか、若い俳優が出てくると、古い奴がイジメるなんて聞くけどもさ、そんなことは絶対なかったからな。

由利　だいたい芸能界っていうのは、古いよ。そういう礼儀作法に関して。それはいいことなんだよ。古い、いいところの礼儀作法を必ず教えてたな。いまはね、昨日今日そのへんを歩いてる奴が、テレビに出るともうスターになったつもりでやってるから。

トルコ　そーだよ、それはプロレスでも一緒！　ね。なんか勘違いしてんだよね。テレビに映ったから名前売れたのに、自分の力と思っちゃってるんだよ。いまのレスラーがみんなそうだよ。いまの日本の芸能界も同じだよなぁ。

由利　それは誰がそうさしたんだか、わかんねえけんども。結局のとこ、当人じゃないことは確かなんだ。

——由利さんは、もう、このコマ劇場の楽屋で生活して、どれくらいになるんですか？

トルコ　凄いんじゃないのか。地主じゃないの？（笑）。

由利　もう何十年だよな。最初はな、エノケンさん、ロッパ（古川緑波）さんが出てたんだから。昔は、この辺りは沼だったんだからな。もう、ひどいもんだよ。……ありゃりゃ、こんな時間だ、もう。もう、いいだろ？　休む暇ないよ、お前。まだ夜の芝居あんだから。本日はこれまで！（笑）。でも、まあ、こんなズーズーしい取材なんてないな（笑）。え？　当日いきなり来てよ、シーバース1本しか持って来ないで。あとでゴッソリくれるんだろうよ、な？（笑）。

——うちのギャラはペソなんですよ（笑）。

由利　はあ、カックン！（笑）。

トルコ　トルコ・リラじゃないのか（笑）。

由利　ホ〜ントに。時間もタップリとりやがって、この野郎ども。ロクなもんじゃないよな（笑）。

——あの〜、ズーズーしいついでに、もうひとつだけお願いがあるんですけど。

由利　なによ？

——『花街の母』の裁縫ギャグを見せていただきたいんですけど。

トルコ　ああ、あれいいな。ああいうパントマイムは、他の役者にゃ真似できないもんな。

由利　うん、できないよ。そりゃ、何十年もやってるからな。しょうがねえなあ（『花街の母』実演が始まる）。こうやってな、こうきて、こうきて、そんで針を頭に差して、「イテェッ！」ってな。

——いいな、いいな、ブラボー（拍手）。

トルコ　それをポコチンに刺したらどうだ（笑）。

由利　刺さないよ、そんなの（笑）。これは音が入らないとな。♪ツ〜ンクツンク、チャカラカラン、ティラ、チ〜ンコロンツン、スカラカラン、イテェッってな。

——いいな、いいな、日本一（拍手）。

由利　ま〜ったく、いろんなことやらせやがるなあ、ペソで（笑）。

——いや、重ねがさね、本当にありがとうございました、どうも。

由利　（部屋の外に向かって）オーイ！　帰るよ、もう。そこ開けてやって、どんじゃかどんじゃか追い出して（笑）。

トルコ　じゃあ、山口さん、またな。

——「またな」って、トルコさんはまだいるんですか？

トルコ　そうだよ。俺は夜の部に緊急特別出演することに決めたから、いま。

——はあ、カックン（笑）。

【95年4月19日、新宿コマ劇場、「船木一夫ショー」昼の部と夜の部の休憩時間、故・由利徹師匠の楽屋にて収録】

■はぁ〜、カックンのおしゃまんべというわけで、この二人が生きてきた時代の猥雑で貪欲で不謹慎でいかがわしい時代の空気と、ナンピトたりとも幸福にさせるそのデタラメ・パワーが、この対談から伝われば幸いなのである。

●マット界も少しはこのパワーを見習えっちゅーんだ（馬之助調）。カッコばっかしつけてんじゃねえぞ、平成人！（ンバ、ンバッ）。

★それでは、「すべての道がローマに通ずるならドン・キホーテよ、『デタラメにゆけ！』」とばかりに素敵にデタラメに転がり続けた由利徹師匠にみんなで合掌しましょう！　イーチ、ニッ、サンッ、おしゃまんべ!!

特別公開「花街の母」縫い物の一席

♪ツ〜ンクツンク、チャカラカラン、ティラ、チ〜ンコロンツン、スカラカラン

イテェッ

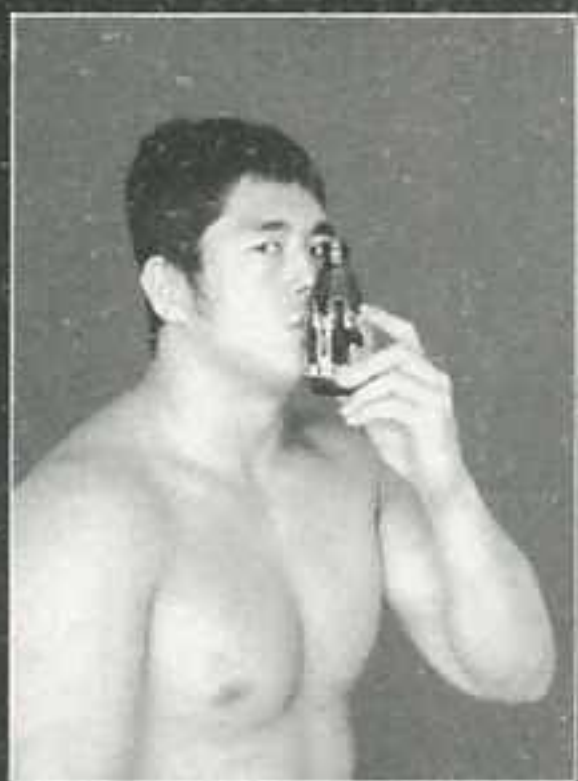
紙のプロレス RADICAL

1999 No.19 CONTENTS

●真樹日佐夫先生の『無比人』、『RADICAL BOUT REVIEW』は今回お休みで〜す。次号をお楽しみに。

RADICAL特製ピンナップ
【マット界美女紀行ピンナップ・その1】
AYAKA（C-MAX）

RADICAL特製ポートレート
【大日本プロレス大特集】
予告編・本間朋晃

どうしても言わなきゃいけないんだったら『ニクボウ』ですぅ……（byジャイ子）

Art Director
出田さん● San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん● Kun Hisa
マツ● Matsu
村松さん● San Muramatsu
セッキー&グッチー● Sekky & Gutty
Saotome no jimusho
トメオ● Tomeo
ハナエ● Hanae
Cover Model
高田延彦● Nobuhiko Takada
Cover Photo
斉藤ユーリ● Yuri Saito
Styling
Nobuhiko Takada
Hair & Make
Nobuhiko Takada

※「RADICALとは何か？」む〜、わかんない（泣）。「根源的」「根本的」って意味なのぉ？ ふ〜ん、ジャイジャイ。

※ピンポンパンポーン。Show氏様、Show氏様。ご忠告頂いたので、ここで発表致します。前号の『ハガキ劇場』内『ジャイ子淫タビュー』は、ノー問題で〜す。ピンポンパンポーン。

NOBBY・Yのサブウェイ・トーク

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス'=格闘技読本

オーバー・ザ・プロレス

「プロレス」を越えたものが「プロレス」である

聞き役／デブ
kikiyaku by Debu

今号のテーマは、『オーバー・ザ・トップ』ですよ！
あ、それは高野拳磁が歌ってた曲？
じゃあ、違う。
今号のテーマはね……あ、あの本なんだっけ？
Show氏君がつくった本。あ、『オーバー・ザ・シュート』か。

あれは、いままでのShow氏君がつくった本の中では出色の出来だよね。いや、あくまでもShow氏君がつくった本の中ではだよ。面白かったよな、あれ。読んでないけど。編集後記だけは余計だったよね。でも、いつもの不快な自己主張が少なくて真面目さが感じられてグーですよ。パーでもいいけど。

でも、コンセプトというか、テーマがダメ。現在のプロレスにとってのテーマは、『オーバー・ザ・シュート』じゃないもん。

『オーバー・ザ・シュート』っていうのは、つまり、馬場さんの「シューティングを超えたものがプロレスである」っていう言葉をモチーフにしたものなんだろうけど、要するに「シュートを超えろ」「シュートを超えたプロレスが見たい」っていうことでしょ？　いま「シュート」って言ってるのは、競技の修斗のことじゃないよ。当たり前だけど。

でもね、いまプロレス界が抱えてるテーマは、「シュートを超えたプロレス」なんていうよりも、むしろ「プロレスを超えたプロレス」だと思うんだよ。

つまり、『オーバー・ザ・プロレス』。

馬場さんの言ったプロレスが、「シューティングを超えたもの」だとするなら、いまの修斗なんかは、「プロレスを超えたもの」って感じだよね。

試合内容から試合の質から観客動員からファン

の質から、すべてプロレスを超えたものにしようというコンセプトでやってるわけじゃない。

いや、これは関係者やファンの人たちから「そんなつもりは毛頭ない」って言われたら、それまでなんだけどね。

じゃあ、いまあるプロレスがなにを目指せばいいのかっていうと、その「修斗を超えたプロレス」でもなければ「K―1を超えたプロレス」でもないでしょ。

やっぱりさ、「プロレスを超えたプロレス」なんだよね。

それはどういうもの？

こっから先は説明するとつまんなくなっちゃうから、あんまりしゃべりたくないんだけど、例えば4・29の桜庭和志vsビクトー・ベウフォート戦なんて、「プロレスを超えたプロレス」だったよね。

あれはバーリ・トゥードの試合だけど、バーリ・トゥードやアルティメットの文脈でもなければ、修斗の文脈でもない。UWFの文脈でもなければ、ましてや従来のプロレスの文脈でもないでしょ。

ホント、「プロレスを超えたプロレス」だったよね。

完全にソフトとしてバージョンアップしてる。

で、逆側でWWFとかがやってるエンターテインメント方面も、思いきり針を振り切ったものは、ある意味で「プロレスを超えたプロレス」でしょ。

WWFもソフトとしてバージョンアップしてる。

だから、これからの「プロレス」は、「シュート」を超えるんじゃなくて、どんどん「プロレス」を超えなきゃダメなんじゃないかなぁ、RADICALに。

敵は内なるものにあり、ですよ。

は？　そんな言葉はない？　意図を組めよ、意図を。あ、「行間を読んでほしい」にしとこうかな。激本風味で。

というわけで、今号のテーマは『オーバー・ザ・プロレス』！

あとは、各自調査！　by たくみ君だね。

プロレスは、内なるプロレスを、自分で殺すしかない。

大丈夫、自分の内なるプロレスを殺しても、プロレス自体は死なない。プロレスの生命力は凄いんだぞ、お前。

あ、今号の裏テーマは生命力だから。わかっ……おい！　おい！

寝るな、デブ！　殺すぞデブ！　おい！　お～い！

ほぼ月刊誌なりの緊急速報!

6・24後楽園ホールに大リングスコール勃発!! リングス捲土重来!

前田衝撃発言!!「延長料金請求されそうなんですよ! ちょっとすいません(苦笑)」どうなる、山本宜久vs小川直也!!

文/チョロ text by Choro

リングス創始者・前田日明の引退後、観客動員の低下、名古屋、大阪と大会の連続中止、rAwチームとのトラブルなど諸問題が一気に露呈した形のリングス。

興行形態の変化にともない久々に後楽園ホール大会を6・24に開催した。今回リングスから提供されたとびっきりの極上カードに2020人(超満員)ものファンが集結。

第1試合で上山龍紀がW・ピータースを破る金星を上げ、続いて、滑川康仁が高田道場の豊永稔相手に気迫と技術を見せつけ完勝したあたりから、場内は異様な雰囲気に……。

3・22NK大会のリベンジマッチとなる坂田亘vsボリス・ジュリアスコフの一戦は、坂田が腕十字でキッチリとお返し! 金原vs成瀬の一戦は、30分間休むことなく激しい打ち合い極め合いの末、金原が判定で成瀬を破ると両者に嵐のような声援が浴びせられた。そして、なんといっても圧巻だったのがハンvsザザ、タリエルvsカステルの外人対決。試合をしている本人たちはいつもと変わらぬファイトなのかもしれないが、後楽園クラスの会場で見るリングス外人勢による国籍を超えたド迫力の大肉弾戦には、客席から「コイツら人間じゃねぇよ!!」と驚嘆の声がひっきりなしに飛び交った。この迫力は出そうったってそう出せるものではない。試合数は少なくても構わない、田村、高阪らによるハイレベルな技術の攻防を見せつつ、タリエル、ハンなどを始めとする有無を言わせぬ大型外国人対決を売りにドンドン後楽園クラスの会場でも興行を開催して欲しいものだ。

そんなこんなで、場内の盛り上がりも最高潮となりメインに突入。先の有明大会でタリエルを破り一年振りにベルトを奪回した田村。一方、UFO小川直也への対戦表明をしてから一躍時の人となった山本宜久。ノンタイトルながらもお互い負けられない状況で行われたこの日の対決は、まさにベスト・オブ・リングスとも言える非の打ち所のない試合内容となった。田村の強烈な張り手でスタートしたこの一戦。お互いの強烈なシバキ合いにどよめきっぱなしの館内には、「田村コール」、「山本コール」が交差、気が付けば時計の針は10時をゆうに回り、その激しすぎる熱闘に満足しきった観客からは「オレが延長料金払ってやるぞー!!」という声援が飛んだ。

田村と山本は互いにフラフラになりながらも気迫と気力の塊を相手にぶつけ合い、ボリュームアップした「大田村コール」、「大山本コール」の大合唱は、古田リングアナの「残り時間3分!」のマイクとともに「大リングスコール」へと変わっていった。日明兄さんが試合後、両選手に「前田賞」を渡したくなるのも当たり前だの試合は時間切れドローという結果に終わった。

観客の声援に後押しされ前へ前へと攻めまくる選手と、その姿にストンピングで応じる観客、選手と観客のハードコミニュケーションによって全試合終了まで天井知らずな盛り上がりを見せたリングス後楽園劇場。

リングスにとって仕切り直しともいえるこの日の興行は、終わってみれば試合後、日明兄さんが言っていたように〝捲土重来〟リングスの持つ底力をまざまざと見せつけることとなった。

リングスはノー問題! 世界最強の男はやっぱりリングスがきめるのだ! でしょ?

試合後、発表が期待された山本宜久vs小川直也戦について聞こうと、多くのマスコミ陣が前田CEOのもとへと詰めかけた。そこで前田CEOはズバリひと言。「10時半過ぎると延長料金請求されそうなんですよ。今日はちょっとすいません(笑)」

結局、山本vs小川戦の正式発表はこの日は見送られた。

好試合が続出し終始ご機嫌だった前田CEO。期待された山本vs小川戦の正式発表はこの日は行われず。

試合後、コメントを出している最中、突然前田CEOが現れ、「オッ、ベストバウト!」と前田賞を贈呈。山本は「ちょうどお金がなかったんで」と満面の笑みを浮かべた。

PRIDE.6 その他のカードはこれだよ! あの言葉出るよ!「素晴らしい!」

7·4 横浜アリーナ 18:00開始

黒澤浩樹【黒澤道場】vs 角田信朗【正道会館/日本】

“日本狼”黒澤浩樹が、『PRIDE.1』以来、ついに復活!! 黒澤と言えば極真時代、指の骨を露出させながらも突きを繰り出し続け、最後まで試合を投げなかった空手魂の塊。対する角田はK−1のリングで強豪外人たちを倒してきた“光る男”。この両者が、空手ルールのもと『PRIDE』のリングに立つ。火花散る“男の意地”の激突を見届けるべし!!

松井大二郎【高田道場/日本】vs カーロス・ニュートン【ローニン/カナダ】

高田道場の特攻隊長、俊介改め松井大二郎が三度び『PRIDE』に参戦! これまで小路晃、菊田早苗といった日本の実力者と対戦して引き分け、善戦というイメージが強い松井だが、そろそろ結果を出したい時期。だが、そこに立ちはだかるのは、昨年、桜庭和志とVT史上に残る名勝負を展開した“褐色の宮本武蔵”! 新たな難敵を前に“突貫小僧”松井の魂が炎上する!!

イゴール・ボブチャンチン【ウクライナ】vs カーロス・バヘット【カーウソン・グレイシー柔術チーム】

カーウソン・グレイシー軍団、重量級最強の男カーロス・バヘットがついに登場! 今年のアブダビコンバットではあのマーク・ケアーと堂々と渡り合い、94年、日本で開催されたUVFではリングス・ロシアのイリューヒン・ミーシャをチョークで破った。その長い手足から“蜘蛛男”の異名を持つ不気味な男が“北の最終兵器”と激突!! マニア垂涎のド迫力対決だ!!

カール・マレンコ【格闘探偵団バトラーツ/アメリカ】vs イーゲン井上【グラップリング・アンリミテッド/アメリカ】

アレクに続き、我らがバトから第2の刺客が『PRIDE』を急襲!! その名は、グレコ改めカール・マレンコ。“プロレスの神様”カール・ゴッチのシュート・レスリングの流れを汲む、マレンコ道場出身の猛者だ。バーリトゥードは4戦3勝し、一昨年に行われたIVSでは優勝!知る人ぞ知る実力者である。そんなバトラーツの隠し玉が、なんとエンセンの兄、イーゲンと対戦。ゴッチの座右の銘は「エアガイツ」(ドイツ語で大和魂を意味する言葉=ゴッチ談)。対する井上一族の座右の銘は、もちろん「大和魂」。エアガイツか大和魂か? ゴッチ流シュート・レスリングか、柔術か? プロレス者必見のスリリングな好カード!! 『PRIDE.6』の裏メインはこれだ!

【問い合わせ】ドリームステージエンターテインメント 03·3552·6300

新しい武道って何ですか？
UFOとはどうなったの？
猪木さんと揉めたんですか!?

つい3ヶ月前まで、さんざん『UFOジャパン代表』として誌面を賑わしていた佐山聡が、本誌に内緒で『撃圏道』なる"武道"を旗揚げしていた!!　まぁ、それはいい。なにせ、佐山の頭脳は、本気が巨大すぎて冗談にしか聞こえない、紙プロさえも理解不能なアンリミテッド状態なのだ!!　もう、誰も佐山を止められない。理解できるやつ、デテコ〜ヒ!!

You can't STOP!!

格闘マッドプロフェッサー
佐山聡インタビュー

Marshal Arts
撃圏道
SEIKEN-DOH
ボディーガードコンセプト
市街地型実戦武道

撃圏道

撃とは相手の行動をおさえて、かってにさせないという意味で、敵を組み伏せ動けなくさせることをさします。

圏とは範囲をさし、格闘技では各攻撃の距離を意味します。あらゆる攻防は圏から成り立つという、佐山格闘理論の基本です。

撃圏とは打撃・組み・寝ワザの、総ての格闘圏内を撃し、組み伏せることを意味するのです。

道　撃圏道は武道により、規律と信頼を養うことを目的とします。

撃圏道　創始者
佐山 聡

撃圏道の特徴

市街地を想定している
警護あるいは自己防衛を想定している
対武器あるいは武器携帯を想定している
礼儀と規律を重んじ、自己の信義感を錬磨するものである

規律と礼儀

撃圏道では武道精神である自己を押さえて忍ぶという押忍（オス）を、最上の方法として敬礼で表します。姿勢を正しくし脇を締め、手の平を内側に向けて自己の押忍の姿を表します。

『掣圏道』とは何ぞや!?

What's SEIKEN-DOH

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス=格闘技読本

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／千葉ブラジル君
text by Burajirukun Chiba
撮影／デブリを隠せないデブ
photographs by Debu

——佐山さん、冷たいじゃないですか!! 掣圏道の設立記者会見にウチを呼んでくれないなんて!!

佐山 すいませ〜ん、紙プロさんとナイタイさんには、リリース送るの忘れちゃってたんですよぉ（笑）。よろしくお願いしま〜す。

——ガハハハ、ウチとナイタイ（笑）。いきなり記者会見（5・27）してるからビックリしましたよ。いまの佐山さんには山ほど聞きたいことがあるんですよ。どうせ、はぐらかされると思いますけど（笑）。

佐山 なんでも答えますよ〜。

——信じられませんね、それは（笑）。とにかく掣圏道ですよ、掣圏道!! まず、ボディガードのコンセプトというのはどっから出てきたんですか?

佐山 いやこれはもう、以前から〝市街地でやる格闘技〟っていうコンセプトが頭にあって、スーツ（を模した道着）でやろうって発想はあったのね。だって、いまどこも格闘技は関節技とかやってるけれど、市街地だと噛まれたりとか、複数の相手には通用しないでしょう!! マウントとってる間に後ろからボーンと蹴られたりとか、そういう例もいろいろ聞いてますし。つまり、モデルは藤原敏男!!

——へ!? 通称・トシちゃんでおなじみの佐山さんのもうひとりの師匠ですか?

佐山 酔っ払ってるときに新宿で、10人ブッ飛ばしたりしてますから。

——ああ、伝説の武勇伝ですね。

佐山 ああいうふうにならないと、いけないと思うんですよ（キッパリ）。

——は? いけないんですか?（笑）。

佐山 ハイ!! やっぱり本当に強いものを見てみたい!! 市街地での強さ。ボディガードとして誰かを守るための、それから自己を守るための。たとえば、昔の町民とかが武士になりたくて、武道の剣道場に行くのは、そういう技術を身につけて、何かあったら使いたいからでしょ? それをね、現代のみなさんにも身につけてほしいなって思ってたんです。

——イザというときのために、ってやつですか?

佐山 スポーツの格闘技も、それはそれで立派だと思いますよ。けれども、礼儀だとか、実戦でも使えるものを身につけてほしいなってことなんです。

——だから礼儀を大切にすると。それで、掣圏道の挨拶を敬礼にしたわけですか?

佐山 ええ、敬礼です。オス、オス、（敬礼）。よろしくお願いしま〜す。

——オス（笑&敬礼）。『押忍』って「押して忍ぶ」精神のことですよね?

佐山 そうです。自己を押して忍ぶという。普通の敬礼は掌を相手に見せるんですけど、ウチは自己を押さえる意味をこめて、掌を自分に向けて「押忍!!」と敬礼するんです。「おはようございます（敬礼）」とか「おつかれさまです（敬礼）」とか、挨拶からしっかりやっていきますから。

——はぁ、こうですか（掌を自分に向けて敬礼してみる）。オス!!

佐山 オス!! シューティングとかボクシングでは、そういうのを教える機会があまりないんですよ。スポーツとして強くするには、「いいよ、いいよ、よくなったよぉ〜」ってワイワイホメてあげる世界でいいんです。でも、武道の世界はビシッとした「押忍」の精神ですから。そういう武士道を作りたいなぁと前から思ってたんですよ。

——それは何年くらい前から思って

CASE 01

「たとえばナイフを持った敵が来たときの対処法」

——ナイフ編

「うわぁ〜。死ね〜」いつ、何時、どんな●チ●イ（with刃物）が襲ってくるとも限らない。こんなとき、撃圏道ならどう対処するのか？

これが市街地型実戦武道『撃圏道』の護身術だ!!

要人(VIP)を守れ!

たんですか？

佐山　いや、ずっと前からですよ。

——「ずっと前」っていつですか（笑）。

佐山　7、8年あるいは10年以上……よくわかりません、オス（敬礼）。

——ガハハハハ、つまりシューティングをやってるときにも、構想はあったんですね？

佐山　ありました。格闘文化を持ったしっかりした男を育てたいなって。スポーツは16世紀のフランスでブルジョワ階級から始まったもので、武道っていうのは元を辿れば殺し合いでしょ？　これはスポーツとは一線を画するものでしょ？　いま、コソボで戦争やってますけど、ああいう殺し合いの中にもマナーがありますからね。

——スポーツを作り上げるときには、それとは別のものにしないといけないですからね。シューティングはスポーツ格闘技のひとつの形として作り上げたわけですね。

佐山　スポーツ格闘技としてはいいんじゃないですかね。

——ひとつのものを作り上げたから、佐山さん自身は次の段階に行くということですね？　「ウィンドウズ'95」から「ウィンドウズ'99」にバージョンアップをすると。

佐山　次は、「ウィンドウズNT」（※「ウィンドウズ」シリーズのプロ仕様バージョン）です。ウフフ。

——それはつまり、「人間社会はいつ何時、殺し合いの時代に突入するかもわからない」という危機感が佐山さんの中にあるから、そういう発想になったわけですか？

佐山　人間社会の中で、人を殺すのが正当な時代があったわけですね。その中で闘いのマナーが生まれてきたんです。我々はその子孫なんですよ。だから、我々の時代の中でも、気持ちの中でマナーだけはしっかり身につけておこうということなんですよ。だから撃圏道は武器を持った練習もやりますから。

——あ、佐山さんはそこで、武器を作るのに熱中したりしてないですか？（笑）。

佐山　いや〜、その棒をさぁ、こう右腕に仕込んで殴ると同時にスパーンと飛び出てスパパパーンってさせようかなぁ〜とか考えますね、ウフフ。

——やっぱり（笑）。そういうことを考えたら止まらなさそうですもんね。ところで、話は変わるんですが、先日のミスター空中追悼興行の佐山さんの試合は抜群に面白かったですね。

佐山　道着を着ていったのは、撃圏道の宣伝とかではなくて、デブりを隠すためなんです（キッパリ）。

——ガハハハハハ!!　そういうオチですか（笑）。

佐山　「空中さんの追悼だから、UWF時代のスーパータイガーのコスチュームで出てくれ」って言われたんです。そしたらタイツですよね？　ところが体重が105キロあったんですよ〜。

——旭川でラーメン食いすぎて（笑）。

佐山　そうそう、ウフフフ。それで「あ、そうだぁ！　撃圏道やってるんだからこれを使っちゃえ」って、北海道で道着買って、パソコンでマークを作ったんですよぉ。「これはいい考えだぞ♥」って。デブりを隠せますからぁ、アハハハハァ。

——早くも撃圏道を隠れ蓑にしてますね（笑）。

佐山　ホントは黒の道着がよかったんですけどね。黒だと細く見えますから。

——だったら、道着は白でも、思いっきりぶっとい黒帯を締めたらよかったかもしれませんね（笑）。

佐山　そしたらマワシと間違えられちゃいますよぉ、アハハハハァ。

——ガハハハハ、最高です！　だいたい入場のとき素顔で、リング上でマスクするタイガーマスクなんて初めて見ましたよ!!

佐山　あ、あれは、マスク屋をイジメてやろうと思っただけです。

——どういう意味ですか（笑）。

佐山　いやぁ、実際につけたマスクをどうこうって契約があるんで、試合前からそいつが「マスクつけてくださいね」ってうるさいんですよ。だからリング上で「アイツいまごろ慌ててるだろうなぁ〜」って（笑）。

CASE 02

「たとえば拳銃を持った敵が来たときの対処法」

——ピストル編

「うわぁ〜。死ね〜」いつ、何時、どんな●チ●イ（with拳銃）が襲ってくるとも限らない。こんなとき、撃圏道ならどう対処するのか？

まずは危機回避から。どんな格闘技でも、これが基本だろう。拳銃は正しく叩き落とすべし！　相手が右手で銃を持ち出したら向かって左側から払え！

まずは胴タックルで相手を止める。相手が半狂乱ならば、それだけ止めやすい。VIPに刃物が刺さるとシャレにならないので早く潰せ！

いちばん危ないナイフを取り上げる。ワキ固めの要領で腕をねじり上げると刃物を簡単に離すことが出来る。

ヒザを載せて、相手の動きを"掣"するのだ。急いでVIPに110番通報をしてもらおう。

What's SEIKEN-DOH

——単なる嫌がらせですか（笑）。素顔で出てきて、掣圏道の新しい動きを見せてくれるのかなと思ったら、いきなりローリング・ソバットをやってるから、ひっくり返りそうになりました。

佐山　あっ、掣圏道にはローリング・ソバットもありますよ。

——逆さ押さえ込みもあったりして（笑）。でも、あれこそプロレスの原点のような試合でしたね。

佐山　そうですか？　ありがとうございま～す、オス、オス（敬礼）。

——道着はある、マスクはある、エルボードロップはある、逆さ押さえ込みはあるし、ドン荒川もいる（笑）。まさにアンリミテッドですよ（笑）。いまの時代で、逆さ押さえ込みでフィニッシュする人はいませんよ。

佐山　ズレてますか？

——いや、そのズレが10年先を行ってるんですよ（笑）。で、いまアンリミテッドの話なんですけど、掣圏道にもアンリミテッドという部門があるんですよね？　「アンリミテッド」は直訳すると「無制限」ですかね？

佐山　これは掣圏道の内での無制限という意味ですね。掣圏道のアマはルールを持った「押忍」の世界ですけど、アンリミテッドは「押忍」がないわけです。アンリミテッドの中には『S.A』つまり『掣圏道アソシエーション』というものがあるんです。『掣圏道アソシエーション』のなかでも、さらに『S.Aプロレスリング』と『S.A.ボクシング』に分かれますから。

——はあ。

佐山　『S.A.プロレスリング』はUFOみたいなヤツですね。だからプロレスです。『S.A.ボクシング』には、今度ロシアから選手が来ます。『S.A.プロレス』と『S.A.ボクシング』が同時に進行していきますから。

——『合気道S.A.』というのもありますけどね（笑）。

佐山　そうなんですよ。後から気づいたんです、でも「ま、いいか」って。

——ガハハ、そこで「ま、いいか」って思えるのが凄いですね（笑）。で、掣圏道全体が武道なり格闘技の総合デパートってイメージですかね？

佐山　そうなんです!!　3段階に分かれてまして、アマチュアの『武道』とプロの『アンリミテッド』、さらにプロは『S.A.プロレス』と『S.A.ボクシング』にね。将来的にはバーリ・トゥードだとか、いろんなことをやっていくと思いますよ。で、『虎の穴』みたいなところを作りますから!!

——へ!?　『虎の穴』!?

佐山　プロの養成部門です。世界中から選手を集めてきて、ちゃんと住まわせて、合宿形式にして、食事もちゃんとして、本物のプロを作りますよ!!　すごい構想ですから、よろしくお願いしま～す。オス（敬礼）。

——すごいですよぉ！　すごすぎてつかめません!!　オス!!

佐山　いやぁ、もう具体的になってきてるので、大丈夫です!!　北海道のある地域で、かなり大きな規模で『虎の穴』の計画をします。本当に強い選手を育てますんで。

——アマチュアで活躍した選手がプロになるわけですか？

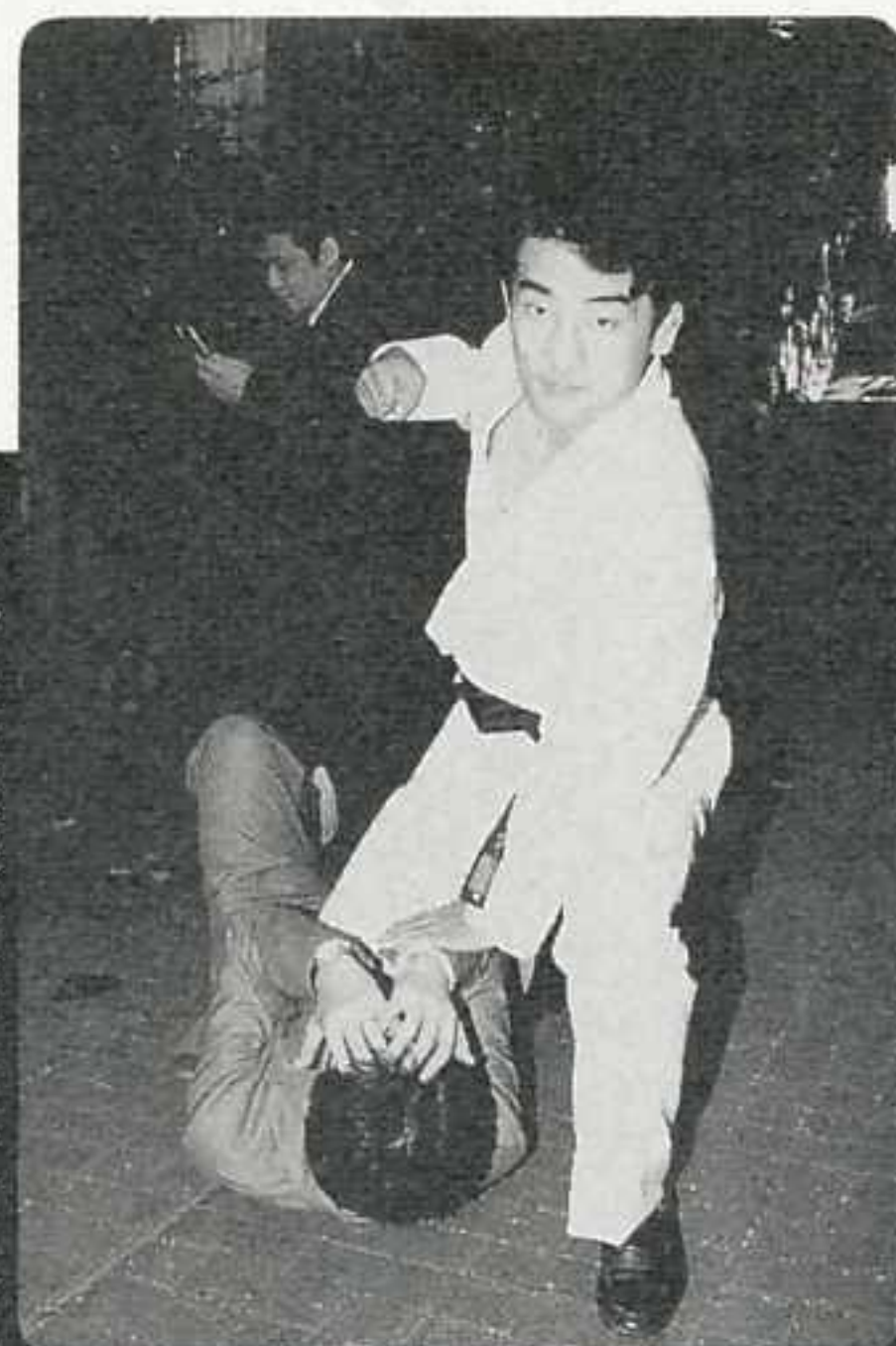
佐山　そこからプロになろうとしても、なれません。掣圏道はただの武道ですから、アンリミテッドとは全然関係ありません。

——ますますわかんなくなりましたけど、いや～掣圏道というのは、つまり『佐山道』の集大成と考えていいんですか？

佐山　いやいや、そんなことないですよ。ボクの集大成なんてやばい話だとかで大変ですからあ。ウフフフ。

蘇れ！ 昭和プロレス伝説
初代タイガーマスク？ in6・9の空中追悼

道着に、素顔という、タイガーマスクでも何でもない格好でやってきた佐山は、リング上でいきなりマスクを被り始めた。つかみはＯＫだ!! さらにローリング・ソバットやキレ味鋭いハイキックは、いつまでも変わらない。変わったのはスタミナだろう。対戦相手の日高郁人のヒールホールドに苦しめられ、さらにセコンドのドン荒川に苦しめられながらも、最後は逆さ押さえ込みという、じつにプロレスの直球ド真ん中な技で決着が付いた。

安全を確認してから胴タックルに入れ！拳銃さえ何とかしていれば、あとは楽勝だろう。

ニープレスの状態になったら、周りを見渡して、安全を確保。あとは殴るなり、極めるなりして、「オス！」の精神をたたき込め！

——それこそアンリミテッド（笑）。

佐山　そう、これは自分を戒めるためのものですから。

——掣圏道は佐山聡を戒めるための格闘文化（笑）。じゃあ話を整理しますけど、掣圏道には武道のアマチュア部門があって、アンリミテッドのプロ部門がある。そのプロ部門は、『S.A.プロレス』と『S.A.ボクシング』に分かれると。

佐山　はい。

——この構想は、ひらめきなんですか？

佐山　いえいえ、考えてますよ。もしひらめきだったら、こんなに自信ないし、どっかがおかしくなってきます。これは絶対におかしくならないです。全部計算し尽くしたうえで、やってますから。

——確かに佐山さんの発言の多くは実証されてますよね。たとえばシューティングだって……。

佐山　シューティングは、たとえば自分から寝技になっちゃうでしょ⁉　掣圏道はとにかく絶対に上にならなきゃいけない。打撃でまずやりあって、タックルにこられても絶対に強い‼　これが本当に街中で使える技術でしょ⁉　投げもあるから、打撃とのバランスですよ。足腰のバランスが優れていれば絶対上になれる。『be above』（常に上になれ）というコンセプトです！　これを競技としてやりたいんですよ。だってね、ボクが一番悲しいのは、総合格闘技のなかでも、こうやって腕を振りまわすパンチをやってる人いるでしょ。ああいうのは嫌なんです。キックボクサーのキックはカッコイイし、ボクサーのパンチもカッコイイ。そういうのを兼ね備えて、ふたつともパーフェクト以上にそろって、それがひとつの競技になったものを見てみたいんですよ。総合格闘家ってそうならないとダメだと思うんです。

取材中もあらゆる連絡をケータイで仕切りまくる佐山。「iモードだと、インターネットでメールのチェックもできますよ〜。でももうすぐdopaに変えま〜す」

もし、VIPが街の中で襲われて、ボディーガードが自分からガードポジションになったら、守ってる人に怒られますよ‼

——なるほど。佐山さんも誰かを守りたいという気はあるんですか？

佐山　……いやいや、ないで〜す。

——あ、ない（笑）。

佐山　この前だってある格闘技の選手がケンカして、マウントとったのに殴られたりしてる。だからこそ、〝ニープレス〟（ニー・オン・ザ・ベリー）ですよ。すぐに他の対処ができますから。

——佐山さんは記者会見で「とにかく試合を見てください」って言ってましよね。ボクもたしかに幻想は広がったけど構想がデカすぎて、見るまでは把握できないですね。まず、武道の部分とプロの部分を分けた上で、両方ともやるというのはどういう意味を持ってるんですか？

佐山　…………意味はないですね。

——ガハハハハ‼　意味はないってことはないでしょう⁉

佐山　プロというのは精神的なものではないですから。お客さんの見る目に耐えられる、ほぉんとうにすごいヤツらが、ほぉんとうにすごいことをやる。これがボク、プロだと思ってますから。『虎の穴』構想の中でそういうヤツを育ててね。試合は、アマでは完全にシミュレーションですけど、プロは30％がシミュレーションで、70％が本物の闘いですから。それが「闘い」の本筋ですし、膠着はありませんから。

——「闘い」を見せるってことですね。そのなかにプロレスがあるっていうのは、どういうことなんですか？

佐山　やっぱり総合格闘技の選手もいますから、立ち技だけじゃ納得できない人もいるでしょうしね。それとプロレス人気っていうものもありますから。よく僕はプロレスを殺してるっていわれるんですけど、そんなこともなくて。プロレスは選ばれた人間しか出せませんから。

——なるほど。本来、プロレスラーは選ばれた人間しかなれないということですね。

写真で見る佐山革命資料館

1984 2.1

スーパータイガージムがオープン!!
佐山革命の夜明け

山崎一夫らとともに理想の格闘技　シューティング　の完成を目指してスーパータイガージムをオープンした。佐山の一人革命はここからスタートした。

1984 12.26

第1次UWF後楽園ホール
佐山が馬場に!?

UWFにも参加していた佐山。こんなのんきな仮装バトルロイヤルにも出ている（G・馬場の仮装）

1985 9.2

第1次UWF大阪大会
前田vs佐山のシュートマッチが勃発

理想を追求してUWFの改革を打ち出す佐山と、会社をひっぱっていこうとする前田のあつれきが試合で爆発した!!

1986 ~92

シューティング確立にまい進
過激なプロレス批判も連発!!

この頃の佐山はシューティングの確立に専念する。一時はプロレスマスコミを取材拒否したほどだ

佐山　『虎の穴』はかなり厳しい場所ですから。自分がプロを育てるっていったら中途半端じゃないですからね（キッパリ）。だから、そういうところから上がってきた選手は、堂々と胸を張ってやってほしい。ガッチガチにやって筋力も体力も技術もあって、試合も面白くやって、ヘタしたらニューヨーク（＝WWF）にだって出ていきますよ。2メートル何10センチってヤツもいますから。

――うわぁ！　それは夢が広がりますね！『虎の穴』からプロレスラーが生まれてくる可能性もあるんですか？

佐山　もし、そこからプロレスに噛んでいくとしたら、半端な選手は育てませんから。「誇り」と「プライド」と「実力」を兼ね備えて、それで楽しいものを見せられる選手を育てます。（キッパリ）

――佐山さんは掣圏道のプロ部門で試合したりするんですか？

佐山　いえいえ、試合はしません。

――やるとしたら模範試合ですか。

佐山　型をやるでしょうね。僕の型はすごい独特だと思いますよ。特に足技とか、場外でクルッと1回転したりとか……それはないか。

――ガハハハ！

佐山　そしたら重くて飛べなかったりして、アハハハァ。

――いや、実に、佐山さんの頭脳はアンリミテッドですかね!?

佐山　今回はナアナアの世界にはしませんから。上下関係はしっかりさせます。だから敬礼なんです。

――風の噂で聞いたんですけど、武道部門には大佐やら大尉とか、軍隊みたいな肩書きがつくらしいですね。

佐山　大佐や少佐の佐は補佐の佐ですし、大尉や中尉の尉はいろんな人間を集めて教育するって意味ですから、そこまで考えた、キチンとした組織をつくりますよ。自分は創師という肩書きです、オス（敬礼）。

――しかし、そんな上下関係がしっかりした世界では、佐山さんもジョークは言えなくなるんじゃないですか？

佐山　言えないです、言えないです！

――ストレスが溜まりませんか？

佐山　いや、ボクは外で言いますか

掣圏道とは何か？

（6月現在のですが、実際に見るまで確信がもてませ〜ん）

1 掣圏道はアマチュアとプロでは全然違う

●掣圏道（アマチュア）

武道スタイルで、スーツを模した道着を着用、強化プラスチック製防護マスク着用、オープンフィンガーナックルプロテクター、ファウルカップ、シンガードシューズ、インナーボディープロテクター着用。

【ルール】

勝敗は一本によって決する。一本とは

1．寝技で相手を掣する形で約2秒半片膝を乗せた体勢を取る
2．相手が打撃のダメージで倒れた場合
3．投げ、打撃、寝技でトータルポイントを10ポイント獲得した場合

●掣圏道アンリミテッド（プロ）

市街地でのボディーガードをコンセプトにしたプロ競技。グローブ、ノーレガース、ショートタイツ着用。

【ルール】

・1R3分、1分インターバル　・3R／4R／5R
・ノックアウト・ギブアップ　・判定によって勝敗を決する・階級別制度でわける
・スタンドバランスが主体で、グランドに規制あり。膠着になるとブレイクがかかる。俗にいう「猪木vsアリ状態」でもブレイクがかかる
・投げやタックルはすべて認めている
・極め技（関節技）は1パターンのみ許され、極まりそうになると「キャッチ」とコールされる。が、極まらずに技が外れると、即ブレークとなる。
・ヒジ打ちは禁止

2 挨拶は敬礼。常に押忍の精神を忘れてはならない！

自己を押して忍ぶという意味で、「押忍！」と言いながら敬礼をする。普通の敬礼は掌を見せるが掣圏道では、自己を押さえる意味をこめて、掌を自分に向けて敬礼するという。

3 今度の新武道では経営もしっかり考えている

いままでの経験を踏まえ、過去を反省して、計算尽くで発進した今回の掣圏道は、採算を考えているという。「北海道だけに限れば、新日本プロレス以上の営業力がある」とのこと。ちなみにアマチュアスタイルのジムは入会金が10万円である。これは、変なアンちゃんがケンカを習いに来るような環境にはしたくなかったためらしい。本当に採算は大丈夫なのか？

4 極真会館と掣圏道が同じ場所に道場を出す!?

六本木の交差点の近くにアマチュアの道場を出すという掣圏道。そこには極真会館も城南支部を置き、お互いの交流も考えているらしい。何がおこるかわからない、格闘技の磁場となりつつある掣圏道。池袋に新設される総合的な格闘技道場では、極真空手とジークンドー、バレストラなどと掣圏道を並行して学べる道場が出来るらしい

5 アンリミテッドは7月に興行を打つ！　必見！

そこにはロシアから超強豪選手が来日する予定の他、4代目タイガーマスク、田中稔らも参加する予定だという。

What's SEIKEN-DOH

1994 3.16

新日本プロレス・東京体育館
佐山が新日マットに電撃登場!!

「新日本プロレスのファンのみなさんに何か恩返しをしないと」と言っていた佐山。その5年後は…

1994 5.1

新日本プロレス・福岡ドーム大会
佐山、ニタニタ笑いで謎のスパーリング

戦闘用コスチュームを着て、骨法技で立ち向かうライガー。それに対して、なぜか試合中にニタニタし続ける不思議な佐山。のちに「お芝居」と発言した。

1994 7.29

修斗・VTJO94
ヒクソン日本初来日!!

日本初のバーリ・トゥードのトーナメントを開催した佐山。自身はエキシビジョンマッチのみの出場だったが、興行は大成功！

1999 1.4

新日本プロレス・闘強導夢
戦慄の小川vs橋本戦＆大乱闘

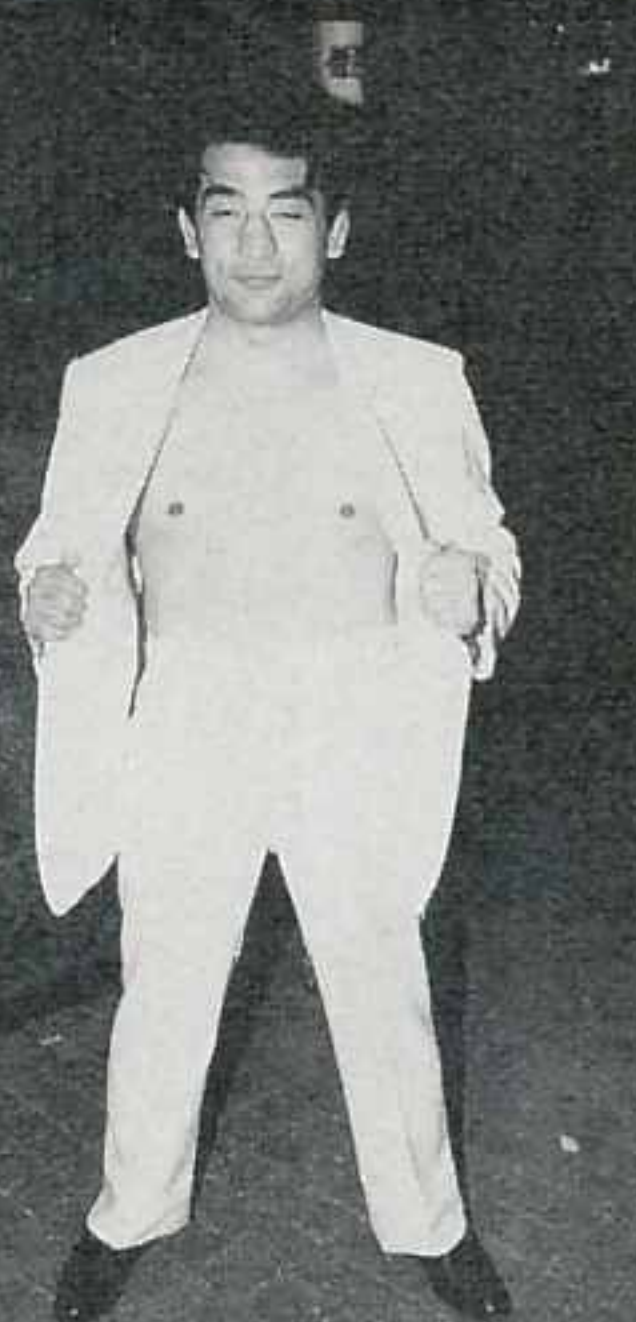
破壊王・橋本真也が小川直也にケンカマッチを仕掛けられ、そのままUFOvs新日の大乱闘に発展。佐山には誰も手を出さず、長州がニラむにとどまった。

ら。ウフフフ。
——またワケわかんなくなってきた（笑）。いや、わかるんですけどね、非常に構想がデカすぎますよね。デカいし、広いし、深いですよ。
佐山　重いってよく言われます（笑）。
——ガハハハ！　でも真面目な話、佐山さんの凄いところはやりたいことが、常にあるところですね。飽くなき好奇心というか。
佐山　信念がありますから。やらざるを得ないんですよ。この構想は溜めに溜めて、これはゴムでいうと引っ張って伸びきった状態ですから。それは自信がなきゃ引けないですよ。
——UFOをやってるときも、その構想はあったと思うんですよ。だったら、UFOをそういう世界にもっていけたらとは考えませんでしたか？
佐山　UFOは猪木ワールドですから。猪木さんの補佐として、黒といえば白も黒の世界ですから。そこで自分の構想を全部ドカンっていうのは、できませんよね。
——なるほど。いやね、佐山さんがUFOの離脱について語る場がないから、いろんな憶測が飛んでるんですよ。じゃあ離脱の理由は、この掣圏道構想を実現するためだったんですか？
佐山　そうですね。やっぱり、思想が違うわけですから。で、UFOもある程度のものは作ってきたと思うんですよ。だから、もういいんじゃないかと。
——はぁ～、なるほど。
佐山　じつは裏ではつながってますけどね、アハハハァ。
——ガハハハ。ここで言ったら裏にならないですよ（笑）。じゃあ、UFOについてはマスコミはいろいろ書いてますけど、佐山さんの中では、どういう表現になるんですか？
佐山　いや、離脱、脱退、なんでもどうぞですよ。ただモメたとかではないですから。
——あ、猪木さんとですか。
佐山　いまだにメシ食って葉巻ももらって、しょっちゅう会ってるのに。ほら、猪木さんと仲がいいと、誰かがジェラシー持つから。だからですよ。でもいいじゃないですか、時が解決してくれます……こんなこと、かわいいもんですよ（笑）。
——かわいいもんですか（笑）。確かに猪木さんの場合は一夫多妻制みたいに、「猪木さん」を取り合ってある意味で妻がいっぱいいますよね（笑）。
佐山　そうそう（笑）。そうすると別れさせたいんでしょうね、ボクと。UFOも潰したいんですよ。力をつけてほしくないってなる。それはわかりますよ。同じビジネスとしてはね。
——なるほど。『修斗読本』（日本スポーツ出版社）という本のなかで浦田（昇・修斗コミッショナー）さんが、「（佐山さんは）バーリ・トゥードのプロレスをやることに一番屈辱を感じていたんじゃないか？」という発言していたんですよ。
佐山　それはないですよぉ。それは浦田さんがボクをかばおうとして言ってくれたことだと思いますよぉ。まあ、言う時がきたら全部言えるわけですよ!!　でもね、いま全部言ったら

この男がきっと掣圏道のキーパーソン

知ってる人にはとっくにバレバレ
初代修斗ウェルター級王者

掣圏道大佐 渡部優一を『知ってるつもり』

——初期の修斗の選手っていうのは、みなさん必ず『先生あってのボクです』って言うじゃないですか。佐山さんは結構いろいろある人なのに（笑）、その絆の深さが尋常じゃなくて、不思議なんですよ。
渡部　いやあ、それはもう師匠ですから!!　しかも一緒に創る苦しみって感じてますから。いまみたいに出来上がったところに入ってくるんじゃなくて、ルールにしろなんにしろ、お客さん呼ぶにしたって、一緒に全部さみしいところでやってきましたから。それはみんなでね、マスクかぶってた段階から思考錯誤繰り返しながらやってきたことだから。そういう面でやっぱり絆っていうのは深いんじゃないですか？
——確かに普通の師弟以上ですね。渡部選手は、その、佐山さんの突発的な行動には……。
渡部　もう、慣れてますよ!!（笑）。今日のこの取材にしても昨日の今日ですし、電話で言われて「ハイ、わかりましたぁ!!」ですよ。先日も雑誌の取材でいきなりムエタイの元ルンピニー3位の選手とスパーリングですからね。どうしてもダメなときはありますけど、たいていは大丈夫なようにしますよ。勤務体制も対応できるようにしてありますから（笑）。
——渡部選手はご自分のお子さんにも『修斗』って名づけるくらいですから、佐山さん以上にシューティングの方に思い入れがあるのかなと。
渡部　いやあ、いまはもうないですね。あれだけの格闘技で初代のチャンピオンになれたことは誇りですし、ラッキーだったなぁと思ってますけど、組織そのものもルールも自分のころとは変わって、なんか別世界のようですからね。それに修斗が好きだからでもなくて、その「斗いを修める」という言葉の意味合いをもってつけていますからね。世の中の斗いすべてを修めて勝利者になれるようにって。
——掣圏道でもルールだとかを話し合って決めたんですか。
渡部　いや、掣圏道ではもう、先生がUFOやめられたって聞いて心配して、何回か電話では話していたんですよ。そしたら「大丈夫、新しい格闘技をやるのが夢だったから、いままでの失敗を繰り返さないしっかりしたものをやるから」ということだったんで。「手伝ってもらうこともあるだろうから待っててくれ」と言われてたんです。
——そしたらある日突然電話がかかってきたと。
渡部　そうですね、UFOを3月に離れて4月の前半に電話があって、5月の中ごろにはもうやるからと（笑）。資料見せられて、まさかここまで出来上がっているとは思いませんでしたね。自分が聞いてから1ヶ月ですから。
——ところで足利工大高で同級生だった三沢選手とはいまでも付き合いはあるんですか？
渡部　でも向こうは偉くなっちゃいましたからねぇ!!（笑）。いまも近所で試合があると見に行きますよ。三沢もオオ！って声かけてくれて、川田も「先輩」ってたててくれます。すごいいいヤツらですよ。でも、社長になるとは思わなかった（笑）。まあ、変わらないと思いますけど。
——川田選手も副社長ですからねぇ。
渡部　いや、こっちも掣圏道の大佐らしいですから（笑）。
——ガハハハハ!!　社長より大佐の方が強そうですよ（笑）。

1962年11月9日生まれ。足利工大付属高校から日大入りし、レスリング部主将を務める。卒業後は社会人となるが、巨漢柔道家との路上マッチで総合格闘技に目覚めシューティング入り。91年、草柳和宏を下し初代ウェルター級王者となる。その後の活躍は一応秘密らしい。

らおかしくなっちゃうんですよ、サッチーvsミッチーみたいに（笑）。そんなの言いたくないですからぁ。

——佐山さんはサッチーですか、ミッチーですか（笑）。

佐山　どっちでもいいで〜す（笑）。

——いや、猪木さんと佐山さんは、愛憎が絡んだホントに素敵な師弟関係だなあ。

佐山　あっ、そうそう。今度、都内の六本木に道場ができるんですよ。

——そうなんですか！まさに『六本木ソルジャー』ですね（笑）。

佐山　真樹先生には、先日『知ってるつもり!?』（梶原一騎特集＝7月中にＯＡ）の収録のときにお会いしましたよ。

渡部　先生も人生を卒業されたら、絶対に『知ってるつもり!?』に出ますよ。

佐山　へ？　ダメだよ、絶対にヤバい話も出てきちゃうから（笑）。

渡部　いや、でも、大丈夫です。絶対に出ますよ!!

——この師弟も素敵だなぁ（笑）。でも道場が六本木にできるなら、早く見たいなぁ。

佐山　六本木はアマチュアだけですけど、北海道の『虎の穴』は、とにかく……施設がそろってるんです。

——まったくイメージできません（笑）。シューティングの大宮ジムみたいな感じですか？

佐山　ああいう施設じゃなくて、食事から何からとにかく全部揃ってます。

——食事もですか!?

佐山　そう、全部！　世界中から選手集めてきますから！　ロシアだけじゃなくて、アメリカ、ヨーロッパ、ブラジル、とにかく全部!!　注射もありますから、アハハハァ（笑）。

——それはあぶない（笑）。

佐山　ステロイドみたいなクスリも、ボクはダメなんです！　いま結構、薬でうまくいったヤツが強いわけでしょ？　そんなのは街でケンカでもしてればいいんですよ。

——佐山さんは以前から「このままいったら、どの薬がいいかの競争になってしまう」って言ってましたね。

佐山　それが現状じゃないですか？　信じられないですよ、ボクからしたら!!　なんで副作用でインポになる心配しないの!?　信じられないですよ!!

——ガハハハハハ！　そっちの心配ですか（笑）。しかし、佐山さんは新しいものを作る時以外は、執着心薄いですよね（笑）。シューティング作ったのも佐山聡ですよ？　ＵＷＦルールだってそう。いま修斗がプロとしてブレイクしかけてるのに、「あれはオレが創ったんだ!!」っていうのはないんですか？

佐山　う〜ん、ないなぁ。ボクのなかで、修斗は終わったことですから。なのにいまさらモメたりするのは、嫌ですから。あそこは武道の世界にしてこなかったから。みんながみんなテンパってて、そういう中に入りたくないです。

——不思議な人ですよね、佐山さんは。人間ってみんな、「オレが、オレが」って自分のものにしようとしがみつくじゃないですか。

佐山　そういう行為は、バカみたいですよね。アハハハァ。

——ＵＷＦにしても、タイガーマスクも、ＵＦＯも佐山さんの中ではすべて終わったことになってるんですね。つくっては壊し、壊してはつくりの繰り返しですね。

佐山　いえいえ、壊してないですよ。ちゃんと残ってますから、ええ。

——あっ、失礼しました（笑）。オス（敬礼）。つくっては残し、残してはつくりの繰り返しですね。そしていま、掣圏道が始まるわけです。いやぁ、楽しみだなぁ。ものすごく構想も伝わってきたし、期待も持てるんですけど……まだ全貌がつかめません（笑）。

佐山　とにかく昔からずっと、「本当に強いヤツを見てみたい」っていうのがあるんですよ!!　「オバケみたいに強いヤツの集まりをプロとしてやってみたい」「武道としても一般の人にも広めたい」って、両方の気持ちがあったんですね。今回は、そういう信念で動いてますから。

——そういう意味では『佐山道』の完成ですよね。

佐山　そうかもしれませんねえ。別に武道でも、茶道でも何でもいいんですけどね。アハハハァ。

——ガハハハハ！　掣圏道のＳは佐山のＳですよ。

佐山　オス（敬礼）。よろしくお願いしま〜す。

——今日はありがとうございました、オス（掌を自分に向けて敬礼）。

【99年6月11日、品川区高輪プリンスホテルにて収録】

文字どおりアンリミテッドな人生を歩み続ける佐山の新たな革命に注目だ!!

Kenji Kawaguchi

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス゛＝格闘技読本

聞き手＆撮影／中村カタブツ君
interview by Katabutukun Nakamura

修斗初代ライトヘビー級チャンピオン

川口健次が初期修斗＆佐山聡を語る!!

修斗初代ライトヘビー級王者の川口健次はファッション化が進む修斗の中では異質だ。泥臭いとも言えるだろう。
ところが先日行われた5・29修斗プロ化10周年記念大会では、そのドロ臭さゆえに逆にドエライ輝きを見せつけたのだ。
どこかU系の闘いを彷彿とさせるような川口の動きは、桜庭和志と好勝負を展開したカーロス・ニュートンのムーブと不思議に噛み合って、結果的に破れはしたものの現シューターたちの試合とはまた違った輝きを放ったのだ。
佐山聡から“闘い”の基本を直々に叩き込まれた唯一人の現役シューター、川口健次が体感した佐山聡とは、修斗の変遷とは？

5・29修斗10周年記念興行はポジショニングという技術を導入した新生修斗の祭典ともいえるものであった。だが、U系技術の根幹をなす〝打・投・極〟にこだわり、最先端の技術と闘った初代シューターの川口健次は佐藤ルミナや宇野薫にも負けない輝きを放った。その輝きの元はやはり佐山聡だ。佐山と初期修斗を探ることで〝U系〟の源について改めて考えてみたい。

川口　〝チャーシュー〟、ちょっとコレ持って。（と小太りの練習生に用事を頼む川口）

――〝チャーシュー〟って、もしかして佐山さんがつけたアダナですか（笑）。

川口　そうです、そうです（笑）。

――ワハハ！　坂本さん（一弘＝サステイン代表）は芦原空手出身だから〝アシワラ〟っていうアダナだったし、ベタなアダナが好きだったんですね、佐山さんは。

川口　ええ（笑）。

――しかし、〝チャーシュー〟っていうのもよく付けますね。自分のことを棚にあげて佐山さんは（笑）。

川口　フフフ。まぁ（笑）。

――ところで取材を申し込んだ時に川口さんは「佐山さんについて皆さんは誤解してる」って言ってたみたいですけど。

川口　だから、僕からすれば佐山さんは自分から泥沼に突っ込んでいく感じです。

――泥沼（笑）。

川口　泥沼っていうのも変な例えですけど、一つのものを達成したら、また次のモノをっていうのがありますよね。やっぱりタイガーマスクを辞めた時だって、あれだけの地位と名誉を投げ捨ててシューティング（修斗）を始めたわけですから。

――そうですね。

川口　で、シューティングも完成されて来たらまた新しいモノって。

――またプロレスに戻って（笑）。

「男なら美人の女房をもらえよ」って佐山先生は言ってたんです

川口　う～ん（微笑）。

―佐山さんがプロレスに移る時、引き止めたかったんじゃないですか。

川口　そうですけど、佐山先生はこう思ったらもう絶対に聞かないところがあるんで。だけど、離ればなれになっても僕らの先生ですから。やっぱり佐山先生がいたから今の生活があるんですから。人生の恩人でもあり、生活の恩人でもあるんですよ。それに佐山先生は「男だったら美人の女房を貰えよ」って言ってたんですよ。

―ん？　奥さん自慢なんですか？

川口　そうじゃなくて男だったら銀を狙うより金を取れっていう感じですね。「よし！」って思いましたね（笑）。

―どうせ狙うんだったら金星ってことですね（笑）。

川口　そういう部分では影響がありましたね。だから、個人的には僕は佐山さんに5月29日には来てほしかったですよね。

―先日行われた修斗の10周年記念興行に。

川口　そうですね。それにシューティングに携わった石川雄規選手とか、長井満也選手とかも来てほしかったですよね。そういう人たちが身体ごとシューティングの門を潜った中でいまのシューティングはあると思うんですよ。ホントにシューティングの歴史って深いんですよ。

―考えてみれば、その通りですね。石川雄規さんや、本間聡さんは、川口さんの後輩にあたるんですよね。

川口　僕が入門したのは高校入りたての頃ですが、彼らはかなりあとですよね。石川は僕が高校を卒業したぐらい、長井選手は僕が高校3年生ぐらいに入門したんですよ。本間なんかは僕がプロデビューするぐらいに入ってきたんですね。

―大先輩ですね（笑）。皆さんについてはどんな印象を持ってますか。

川口　長井さんは優しそうで格闘技に向いていないのかもと思いましたね。

―いまも"闘うお父さん"としてK―1でガンバッてますね（笑）。

川口　だけど、僕はそういう人が大好きなんですよ。

―石川社長は？

川口　ハートが強いですね。彼も人が良かったですね。人が良すぎます。一生懸命やるところが好きですね。

―一緒にメシを食ったりとかは？

川口　あんまりなかったですね。よく一緒に練習しましたね。

―プロレスにいった人で一番仲が良かった人は誰ですか。

川口　渡辺（優一）さんですね。

―仮面をかぶった人ですか。

川口　そうです、そうです。渡辺さんなんかはもの凄く強かったですよ。

―勉強不足でした（泣）。佐山さんがプロレスを攻撃し始めた時って川口さんはどう思ってたんですか？

川口　僕はこの格闘技をやってればいいやって思ってただけで、よくわかんないんですよ。

―興味がなかった？

川口　気にしなかったですね。

―ところで川口さんはスーパータイガージムでバックドロップの練習はかなりやってたみたいですね。

川口　そうです。僕はバックドロップで人で倒せるとばっかり思ってたんですね。

―え!?　倒せないんですか？

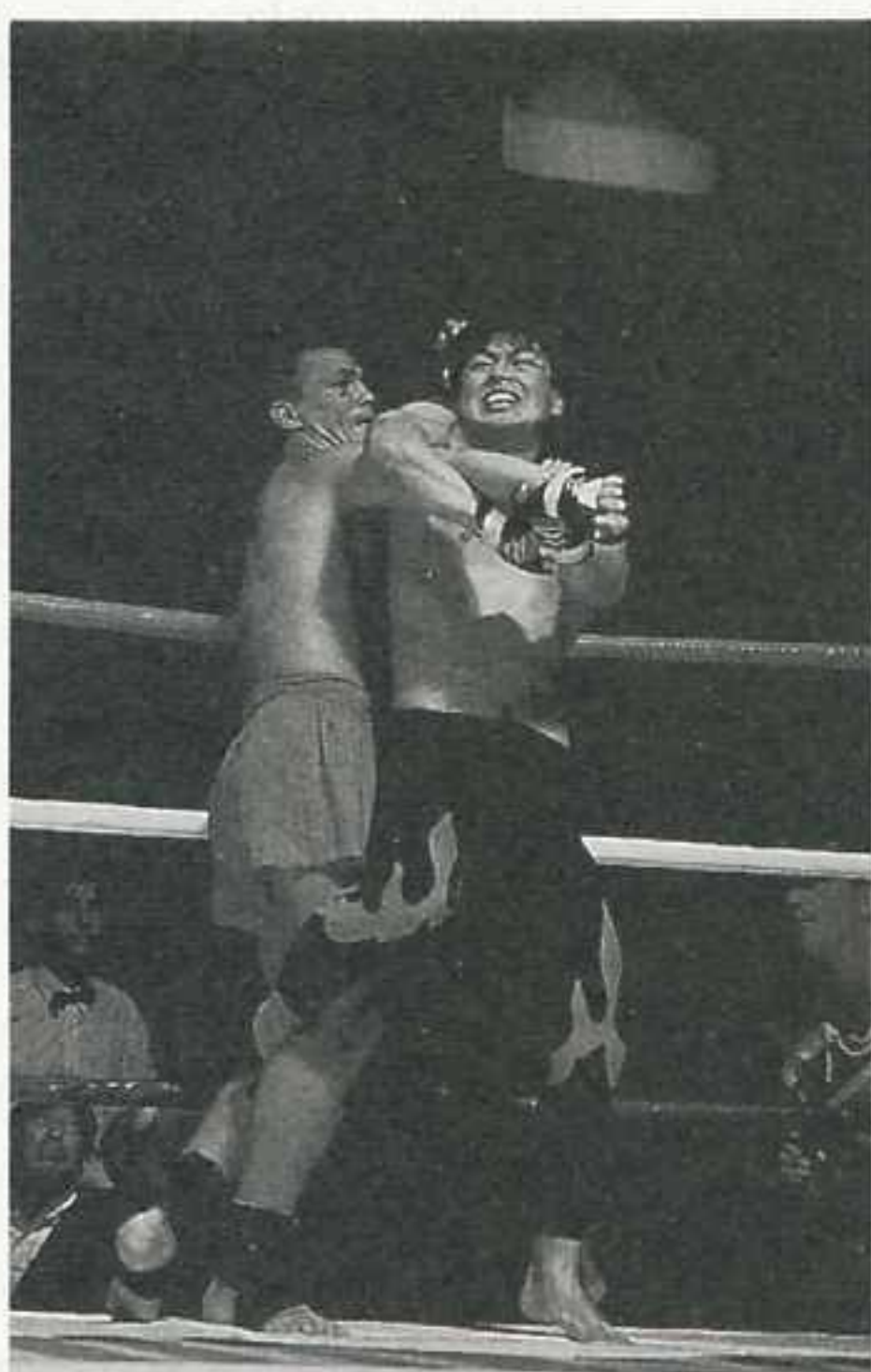
川口　あれは一発じゃ倒れないですよ。

―町中でやれば効きませんか？

川口　僕はやりました！

―ワハハハ！　やったんですか（笑）。アスファルトの上でやっても倒れないんですか。

川口　倒れないです！　頭から落としました、僕。

―うわぁ～、ムチャしますね!!

川口健次【かわぐち・けんじ】1968年8月10日、神奈川県生まれ。89年5月18日プロデビュー。初代ライトヘビー級王者。デビュー当初から実力の高さを買われ、新格闘プロレスとの対抗戦時には"修斗最強の戦士"と紹介される。

川口　一回投げて動きが止まったんで上に乗って殴ったんですけど、やっぱりそのあとに起きてきましたよね（笑）。「アレ？」って思いましたね（笑）。

―効かないですかぁ。ちゃんとヘソで投げました？（笑）

川口　アマレス流のちょっと捻ってやるやつなんですよ。だから、受け身がうまかったのかもしれないですね（笑）。

―ですかね、わかんないです（笑）。タイガージムの生徒は最初はプロレスファンが多かったんですよね。

川口　プロレスファンはすぐに辞めちゃうんですよ。それで北原（光騎）さんが練習の指揮を始めたころから変わってきましたね。当時、北原軍団って言ってよく練習するメンバーがいたんですよ。僕とかと何人か。その時は北原さんとか平（直行）さんとかに殴られに行ってるようなもんでした（笑）。

―当時はどんな練習を？

川口　とにかくスパーリングです。北原さんはまだ良かったんですけど、平さんの時はもうヒドかったですよね。

―ヒドかった（笑）。

川口　当時の人はみんな言ってましたよ。「あれは練習に言ってるんじゃなくて殴られに行ってるんだ」って（笑）。

―イジメ？

川口　イジメじゃなくて平さんは当時、練習のパートナーがいなかったんで闘志ムキ出しで、僕らもいくら強い人でも絶対に負けるかってやってたんで。

―ガツンガツンと（笑）。

川口　ハイキックをもらった時は一週間ぐらい頭痛がしてましたからね。

―え！　そんなに思い切り蹴ってたんですか。技術とかルールとかいろんな面で混沌とした時代だったんですね。

川口　競技としてはいまの修斗が一番いい状態じゃないですか。

―ルール的にも興行的にも。興行的には特に坂本プロデューサーのイメージ戦略がうまく当たったんだと思いますけど、どう思いますか。

川口　いいと思いますよ。やっぱり選手のことを思ってますし。

―それに坂本プロデューサーが狙っていたオシャレキッズたちが会場にちゃんと集まってきましたからね。

川口　そうですね。

―ただ、そういうお客さんと昔のお客さんとは明らかに違うじゃないですか。それについての寂しさみたいなものはありますか。

川口　朝日さんとも話したりするんですけど、「オレらの時代ってやっぱり違うんだね」って。「もう少し遅く生まれてくれればよかったな」とか言うんですけどね（笑）。

―ワハハハハ！　女の子が多いですからね（笑）。で、そんな最中に佐山さんは市街地型武道団体『掣圏道』を創りましたが。

川口　いや。掣圏道がどんな技術なのか、僕にはわからないんですけど。

―なんか、資料を読むとボディーガードがどうのこうのとか。技術的には相手の上に乗った時点で一本を取るルールみたいですよ。

川口　それについてはよくわからないですね。

―たぶんまだ誰もわからないと思います（笑）。佐山さんを一言で言うと怖い人だったんですか。

川口　僕からすればイイ人だったと思いますよ。僕は佐山先生のイイも悪いもホントに好きなんで。

―悪い面っていうか、さすがにこれは嫌だなっていう部分は？

川口　練習を厳しくするところですね（笑）。それだけですね。ホントに嫌なところってないですね。

―いい部分は？

川口　ウソがキライな人でしたね。

―ウソだぁ（笑）。ところで川口さんは新格闘プロレスとの対抗戦（94年

佐山さんはウソがきらいな人でした

Kenji Kawaguchi

3月18日、後楽園ホール）に出場してますよね。

川口　当時、修斗の中に僕の相手があんまりいなかったですよ。本間選手、山田学選手っていう、この二人をズーッとローテーションでタイトルマッチをやってたんで「少し相手が増えたな」っていうぐらいにしか個人的感覚としてはなかったんですけれども。

——修斗の看板を背負う意識ってありました?

川口　ありましたよね。

——実は相手の深谷有一選手は寝技の練習を始めたばかりの空手の選手だっていうのは知ってました?

川口　そうですね。多少は寝技もできるのかなって思ってたんですけど。それよりも第一回の他流試合だったんでそういう期待っていうのはありましたね。

——なんか30秒ぐらいで勝ってるんですよね。なんだぁ、プロレスなんて大したことないやっていう風には思わなかった?

川口　それはなかったですね。僕はどんな相手にも「大したことない」って思ったことは一度もないです。

——朝日さんは、打倒プロレスという部分でずいぶん燃えてたみたいですよ。

川口　そうなんですかぁ（笑）。選手によって考え方が違いますからね。

——川口さんの場合はどういう風に考えてたんですか。

川口　僕の場合は来た相手は必ず勝つっていう形で。どんな相手でも。

——プロレスラーだろうとシューターだろうと。

川口　そうですね。結局は修斗のルールで勝った者が一番強いって思ってますから。いまの修斗のルールは打撃系も寝技系の選手もそんなに不利なルールになってないと思うんですよね。例えば寝技が得意で打撃がまったくできない選手でも大丈夫だし、打撃の人に対してもそれは同じだと思うんですよ。ただ、その中で自分のペースに持っていくかっていうのが勝敗の別れ目になると思うんですよね。理屈から言えば打・投・極が全部揃ってれば強いと思いますけどね。

——理屈でいうと非常にそんな気がします。

川口　ただ、これをうまく使いこなすのが難しいんですよね（微笑）。だから、いまで言えば桜井（速人）選手なんか一番理想のシューターかもしれませんよね。

——そんな感じはしますね。

川口　スタイルなんか初代シューターと近いもんはありますよね。打撃で徹底的に痛め付けて、それから寝技で仕留めるような闘い方をしますね。

——気持ちいい闘い方をしますよね。

川口　そうですよね。

——ちなみに川口さんは修斗時代の山田学さんには全勝してるんですよね。

川口　そうです。勝ってます（照）。

——それでパンクラスに行ってからは山田さんはウェイト的に合う選手もいっぱいいるし、脚光の浴び方も全然違ったじゃないですか。そういう部分で悔しい思いとかはなかったんですか。

川口　ないですね。僕はもう単純にこの修斗っていう格闘技が好きだから始めたんですよ。もうこの修斗をやっていきたいっていう思いだけなんですよ。単純なんですよ（微笑）。

——先日の5・29のカーロス・ニュートン戦だったんですけど。

川口　残念な結果に終わってしまったんですけど（笑）。試合前は絶対に勝てるなって思ってたんですけどね（笑）。

——十分に勝算はあったと（笑）。

川口　技でも、そんなにねぇ。ビデオを見てくれるとわかると思うんですけど、バックをワザと取らしてる部分ってあったんですよ。それでバックからのヒザ十字とかも狙ったんですけど、そこら辺はニュートンのが一枚上だったですね。

——桜庭vsニュートン戦はご覧になられました?

川口　桜庭さんは組み技とかがうまいと思うんですね。

——試合は面白かったですか。

川口　面白かったですね。

——桜庭さんと闘いたいと思います?

川口　なんとも思わないですね。

——実は川口さんは桜庭選手と同じ年ぐらいなんですよ。

川口　あ、そうなんですか。結構自分もまだまだ出来るのかなって感じがしますね。

——まだまだいけますよ。で、あの日の試合はホントに面白かったんですよ。川口さん自体はそういう意識がなくてもU系VS柔術、打・投・極スタイルVSポジショニング・スタイルというか、そういう対立概念が見えて面白かったんですよ。ほかの試合とは明らかに違ってたじゃないですか。

川口　そうですね。今回はヒザ十字にこだわって、ああいう関節技だって使えるんだよっていうのを見せたかったですよね。

——ヒールホールドは極まる寸前までいってましたね。

川口　手応えはあったんですけどね。かなりバキバキって音がしてたんで。いつもは技でやってたんですけどあん時ばかりはパワーで思いっきりやりましたね（笑）。

——ホントに折るつもりで（笑）。ただ、あと一秒余裕があれば2ラウンドになってたんですけど（笑）。

川口　だけどあれは伸びてバキっていってからですから。僕の場合はいつもヤっちゃってからタップするんで。

——ヤってからですか（笑）。

川口　いつもそうなんですよ。持つかなって思ってるとバキっとなっちゃうんですよ。もう遅いですよね（笑）。

——遅いですね（笑）。さすがに佐山さんに心の部分を鍛えられてきた選手は違うなって感じがしますよね。

川口　そうかもしれないですね（にっこり）。

——ところで次のUFCでジャーミー・ホーン戦の噂がありますが。

川口　僕としてはどんどん強い選手とやっていきたいですよね。ホントにやれる時にやらないと。

——そうですよね。ジャーミー・ホーンについては?

川口　試合内容よりも勝ちにいきます。できることなら早く。一本を取りにきます！　僕はもう奇麗さっぱり！

——素晴らしい！　期待してます。ところで『修斗読本』では入場曲はその時の気分によって決めますって書いてありますよね。で5・29では『バビル2世』で入ってきましたけど、いったいどんな気分だったんですか（笑）。

川口　アレはエンディングで歌が入ってないバージョンがあるんですよ。あれを使う予定だったんです。あれは向こうのミスです（笑）。

——ミスだったんですか（笑）。川口さんは三つの下僕に命令したいのかなっとか思ったりしたんですけど（笑）。

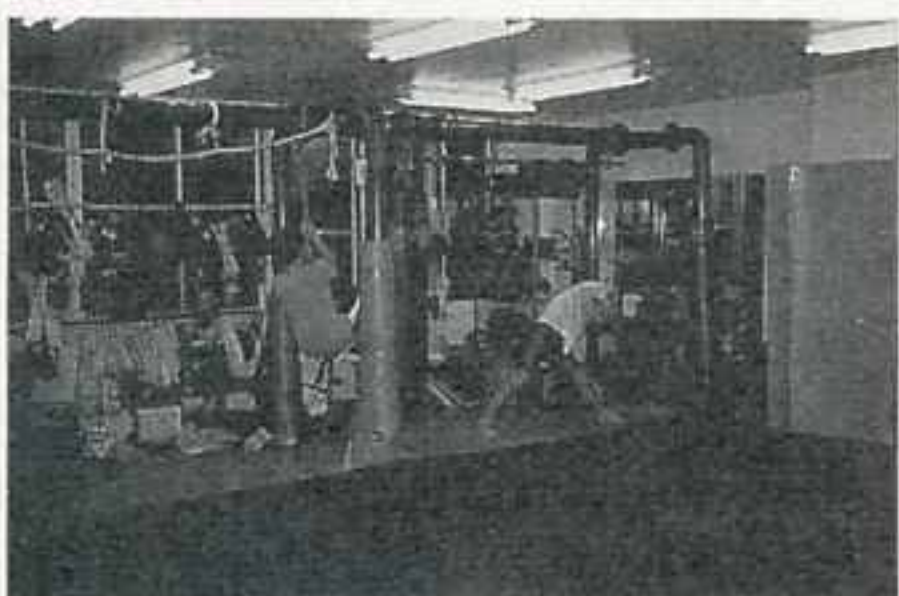
川口　修斗を十何年やってて一番恥ずかしかったですから。

——よりによって十周年の大会で（笑）。

川口　そうですよね（笑）。よく考えてみればいろいろな人がきてましたからねぇ～。ホント恥ずかしい、あれは（笑）。

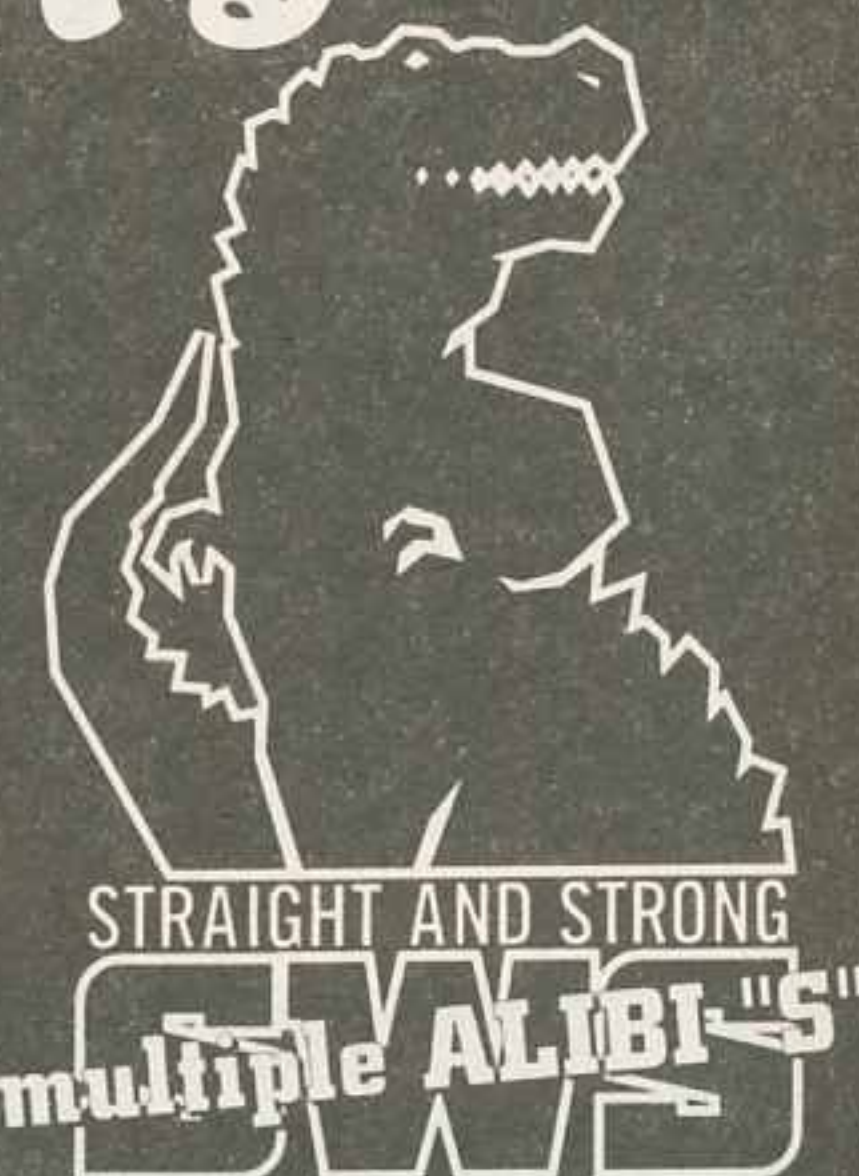
——次の試合はテーマ曲からもう闘いというか、〝打倒・曲〟って感じですか（笑）。

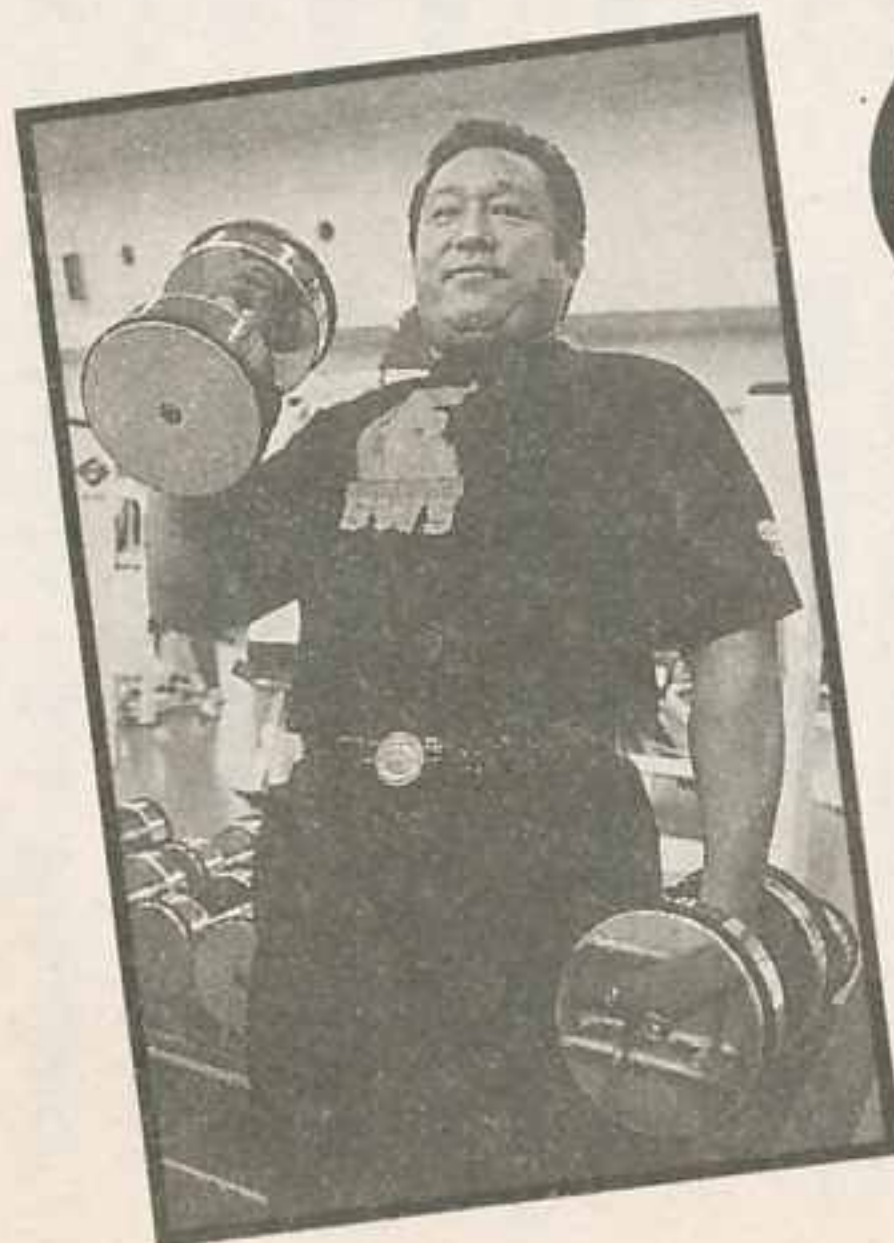
川口　そうですね（笑）。ガンバります。

【99年6月8日／STG横浜にて収録】

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！　豪傑一代記！

紙のプロレス RADICAL

STRAIGHT AND STRONG
multiple ALIBI-"S"
SWS

スーパースター列伝

昭和新日とSWSの裏・首領(ドン)登場!!

第9回 ドン荒川 PART.1

今回は、現役唯一の「SWS所属プロレスラー」として活躍するドン荒川の登場だ。6月9日の『ミスター空中7回忌追悼興行』では2年振りの試合だというのに、決して色褪せない「ひょうきんプロレス」という一代芸を披露して、異常に元気なところをアピールしたばかり。この人がリングサイドに顔を出すだけで、会場の雰囲気が昭和・新日に様変わりしてしまうのだ。というわけで、今回はほとんど語られることのなかった荒川の経歴を振り返りつつ、その上でSの話も聞いてしまおうという『紙のプロレス・スーパースター列伝』＆『S多重アリバイ』の、ちょっとお得なダブルネーム企画なのである。「レスラーは酒を飲め！」「喧嘩はしろ！」という猪木イズムを注入され、ゴッチノートを盗み見しつつ、セメントの練習を繰り返し、塀のブロックにも頭ガンガンぶつけてきたミスター・トンパチぶりをいますぐ体感しろ！

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／坂井ノブ
Photographs by Nobu Sakai

アマレスの試合でドロップキックやったら反則負けになっちゃった!!

——これまで藤原組長との対談や『青空プロレス道場』でもたっぷりお話を聞いてきたんですけど、今日も昔話を含めていろいろと聞かせていただきます。

荒川　はいはい（と、身を乗り出す）。

——荒川さんって、子供の頃から全然キャラクター変わっていないんじゃないですか?

荒川　どうなんでしょうねぇ。まぁ、あんまり深刻に考えたり落ち込む方じゃないですよね（笑）。

——新日時代もそうですけど、子供の頃にしても荒川さんはいつでもどこでもふざけたポーズで写真を撮られてるんですよね（笑）。

荒川　私は調子の良さと元気の良さ、昔からそれだけですから。ホントに（笑）。

——ダハハハハ!　それともちろん強さという要素もあると思うんですけど、そもそも荒川さんにとって格闘技への目覚めは柔道だったんですか?

荒川　ホントは相撲取りになりたかったんですけどね、背も何もかも全て足りないんだからしょうがない（笑）。柔道はまぁ、小さくてもそれなりに闘い方がありますからね。

——柔よく剛を制す、と。それでアマレスに転向すると、試合でドロップキックやっちゃうわけですね（笑）。

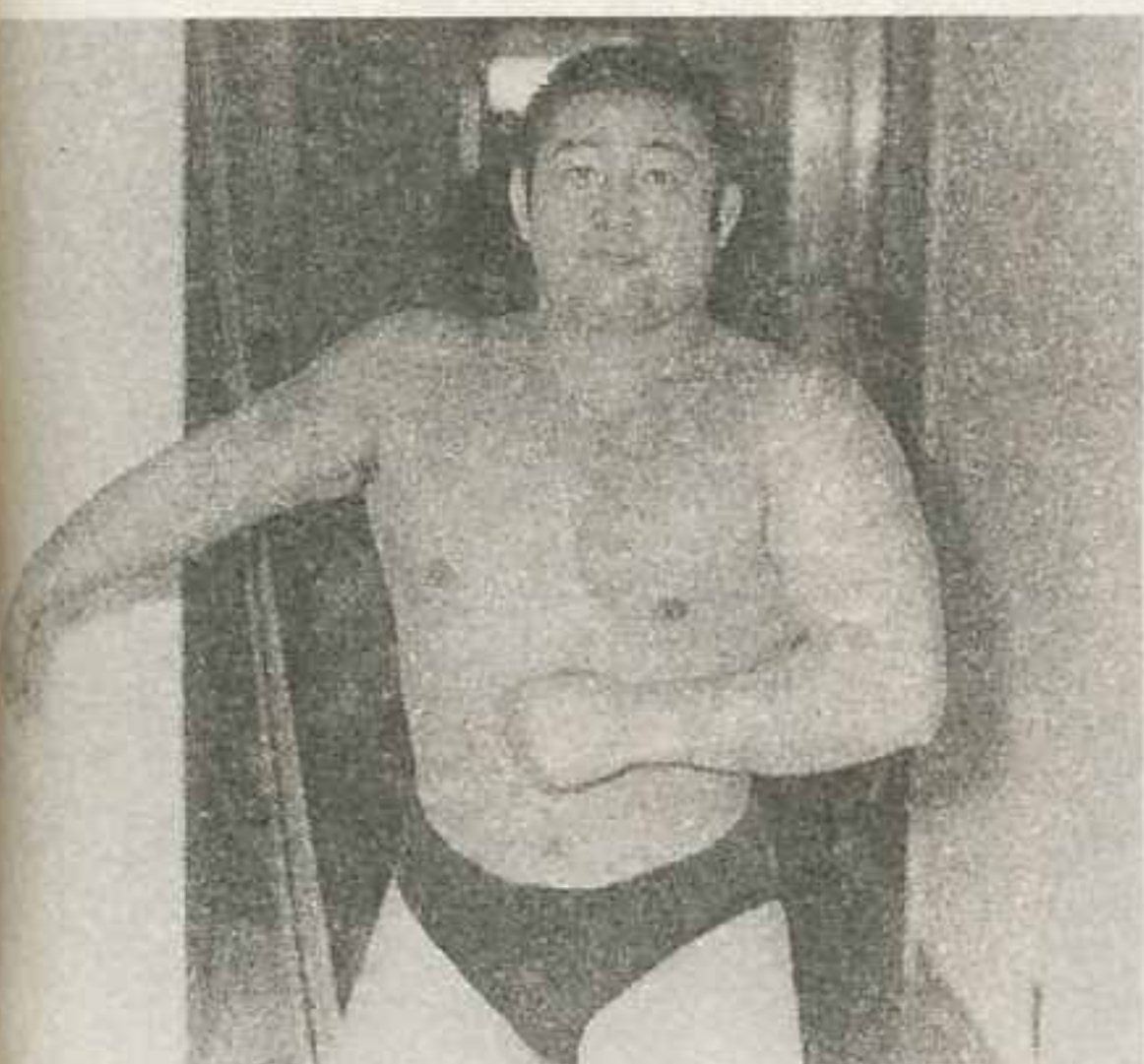
荒川　そのときは反則負け（笑）。

——そりゃ、そうなりますよね、あの松浪健四郎さん（長州力や馳浩の先輩として知られるアマレス界のビッグネーム）にドロップキックなんてやっちゃったら。いまや国会議員なんですから（笑）。

荒川　逃げ回ってたね（笑）。「殺される～っ!」ってってね（笑）。

——ちなみに、柔道からアマレスへ転向した理由は何だったんですか?

荒川　いや、拓大に柔道の練習行ってた時に誘われたんですよ。

——あっ、荒川さんも拓大一派だったんですか!?　その頃の拓大っていうとコーチに〝柔道の鬼〟木村（政彦）さんがいて、異常に厳しかったって伝説になってますよね。

荒川　そう!!　あと、山下（泰弘）のコーチだった佐藤って人がいてね、俺と同じ熊本出身の人だったんだけどムチャクチャ強かったの。その人に稽古付けてもらいに行ってたの。

——拓大には九州出身の人が多いですよね。慧舟會の守山代表や、いま拓大柔道部の監督をやられている岩釣兼生さん（昭和46年に全日本柔道選手権の頂点に立った日本人初のサンボ世界チャンプ。アマレスの八田一郎ラインから全日入門の話も舞い込むが、馬場にシュートマッチを持ちかけため、話は消滅したという…。詳細は『悶プロ3』参照）もそうだと思うんですけど。

荒川　うん、そうそう!　岩釣さんは1つ上の先輩だね。

——じゃあ、ああいうシャレにならない稽古を一緒にしてたんですね!

荒川　あの頃は徹夜で稽古してたよ!　岩釣さんに聞いてみりゃわかると思うけどさ、もう死ぬかと思ったよ（笑）。あれから比べりゃどんな練習だって屁でもないからね（笑）。

——つまり、昭和新日の道場ですら屁でもないわけですか（笑）。

荒川　まあね。2人で会うとさ、「昔はよくあんなバカな練習やったな」って言うんだけど、ああいうバカバカしい練習やんなきゃダメなんだよな!　若いうちはああいうバカなことをさぁ……（ここで荒川の携帯電話が鳴る）はい!　もしもし!!　どぉもどぉも、ごぶさたしてます!（電話であっても異常に元気な荒川）失礼!!　今の、黒沢年男さんだったよ。

——えっ!?　時には娼婦のように!　そんなパイプまであるんですか!?

荒川　私は知人、友人が多いですから!　たぶん、あなたも知ってる人ばっかりだと思うよ!　いいですか……（と携帯電話のメモリーを見せる）。

——山下真司さん（俳優）に中野浩一さん（競輪）、それにやっぱり巨人の長嶋監督まで入ってますね（笑）。

荒川　ベイスターズの佐々木主浩に元ホエールズの加藤博一……。それに永源遥!　すごい人たちばっかりですよ。これは某飲料メーカーDの社長。他にも社長ばっかしよ!　調子いいですよ（笑）。黒沢さんなんかとは、もうスゴく仲いいのよ。

——つくづく顔が広いですよね、荒川さんは。長嶋監督との出会いはマラソンのコースで待ち伏せしてたって伝説を聞いたことがありますけど（笑）。

荒川　違う違う、最初はサウナでバッタリ会ったんですよ。次に会ったとき「荒川さん、時間ありますか?　メシでも食いませんか」って言われたの。時間あるに決まってるよ!　何かあっても蹴っ飛ばして行くよ（笑）。「あそこの鰻屋を知ってますか?」って聞かれたから、知らなかったけど「よく知ってます」って調子よく答えてさ（笑）。「そこで1時にどうですか?」って言うから12時位から待ってたのよ（笑）。監督は12時半に来たんだけどね（笑）。

——それから関係が続いている、と。長嶋監督はSWSの会場にも来てましたもんね。しかし、岩釣さんとの繋がりは初耳でしたね。じつはボクも昔、インタビューしたことがあるんですよ。

荒川　そう?　俺達はバカで有名だったのよ（笑）。私の話をしたらビックリするよ!　それこそ彼は木村先生の直の弟子。あんまりバカだから木村先生には私、風呂で背中流すとき、熱湯かけちゃったことがあるんですよ（笑）。あがっちゃっててね。木村先生、「アチーッ!!」だってさ（笑）。で、ごまかそうとして「先生でも熱いって言うんですか?」って言っちゃって（笑）。「バカヤロー!!　熱いものは熱いんだよ」だって（笑）。慌てて水かけたんだけど、もう背中真っ赤になっちゃっててね（笑）。

——拓大柔道部でも、そんな感じだったんですねぇ（笑）。そういえば卒業式に柔道着で出たそうですけど。

荒川　いや、それは小学校（笑）。

——ダハハハハ!　その頃から柔道好きだったんですか（笑）。

荒川　そうね、いま私の同級生は出世してそうそうたるもんですよ!　社長になったり。築地警察署の署長から上がって本社!　いや、本庁か（笑）。もう一人、防衛大学出たのがいてさ、こっちの人事部長終わって、いま兵庫のトップやってんだ。

——それは拓大の仲間ですか?

荒川　いや、拓大じゃないよ。私、拓大は出てないから。私は小学校中退だから（笑）。入学してたんじゃないですよ。稽古しに行ってただけ

STRAIGHT AND STRONG
SWS

これは貴重なデビュー当時の写真だが、胸の筋肉の張り具合などは現在と何の遜色もない立派な筋骨隆々ぶりである

（笑）。昭和38年から40年にかけてね。一生懸命やってましたよ。

——ああ、拓大は出稽古先だったんですか。あそこの稽古は立木を相手にガンガン打ち込みしたり、空手の巻き藁を突いたりするんですよね。

荒川 そう、電信柱みたいなのを相手に打ち込みをやらされるんです。うさぎ跳びとかもしたね。いまはヒザに悪いとかいってやっちゃいけないことらしいけど、あの頃はうさぎ跳びの全盛期だったからね（笑）

——全盛期（笑）。

荒川 ヒザが、もうガクガクなるんだから（笑）。あれで逆にヒザが強くなったんじゃねぇの（笑）。だから、いまでもやりますよ！

——うさぎ跳びをやってますか！

荒川 気持ちいいですよ！（笑）。

——ダハハハ！ しかし拓大柔道部にはいい話が多いですよね。木村先生も近所の犬を殺して食べてたらしいし。

荒川 そう！ 近所にさ、学校があるんだよ。朝礼やってる所に行ってさ、「おはようございますッ!!」って怒鳴ってダーッと逃げてくんのとかやらされたよ（笑）。岩釣先輩の代わりに授業受けたこともあんのよ！ ダハハハハ!! いいかげんだよな！ 「何聞かれても『押忍！』って言っとけ！」なんて言われてさ（身を乗り出して）、ホントに『押忍！ 押忍！』って言ってたら大丈夫だった（笑）。ニセ学生もいいとこだよ！（笑）

——荒川さんは拓大に行ってた当時、本業は何をやってたんですか？

荒川 無職ですよ（笑）。拓大からの推薦で柔道の学校に入れてもらったけどね。

——学生でもないのに（笑）。

荒川 ワハハハハ！ だからお世話になったね、うん。

——そのあと「麻薬とかあるし、何かあるんじゃないか？」って理由で香港に行くわけですよね。

荒川 そう、あれは●●●の用心棒やってたの（笑）。

——ダハハハハハ！ 本当ですか!?

荒川 本当だよ！ 人間ってのは、危ないところには余計に行きたくなるじゃないの（笑）。「死にたくはないけど行ってみたいなあ、まぁ、いちかばちか行ってみよう」と思って行ったんだけど、何ともなかったね（笑）。行ってみなきゃわからないよ！ 3日いられりゃ何ともないよ。慣れだよ、慣れ！ でも、さすがに腕時計とかはしなかったね。ナタで腕ごと盗られちゃうんだから。ホント！

——物騒ですねえ。香港にはどれぐらいいたんですか？

荒川 3ヶ月かな？ あんまり詳しく聞かないでよ（笑）、フフフ。●●●が来ちゃうからさ（笑）。

——そんな人がプロレス界に入っちゃったんですねえ（笑）。

荒川 うん、私は（アントニオ）猪木さんだって怖くなかったよ（笑）。ケンカになったって「刺しちゃったら俺の方が強い！」と思ってたから（笑）。

——ダハハハハハハ！ 刺しちゃダメですよ、猪木さんを（笑）。

荒川 「プロレスなら負けるけどケンカなら勝つ！」ってね（笑）。「なんでだよ！」って猪木さんが聞くから、「小便してるところを後ろから刺しちゃう」って言ったんだよ。そしたらもう、こんな顔してたもん（呆れる猪木のマネ）。ワハハハハ!!

——物騒な人ですねえ（笑）。用心棒からプロレスラーへ転身したきっかけは何だったんですか？

猪木がいて、藤波がいて、坂口がいて、ストロング小林（金剛）がいて、乾杯の音頭はもちろんドン荒川。これが昭和・新日のあるべき風景である

荒川 用心棒ってったってさ、アンタねぇ。旅行会社に入ったら、そこが●●●が経営してる会社だったんだよ！ わからないじゃない、そんなこと（笑）。●●●だったら給料なんか出ませんよ。でもそこは一応普通の会社だから給料が出てたんだからさ。

——じゃあ、しょうがないですね。

荒川 それで新日入る時はね、面白い人と一緒に行ったんですよ。もう亡くなったけどジプシー・ザンマ。拓大のずっと先輩なの。ロープでこう首吊って（ジェスチャー付き）鍛えてたりした人（笑）。その人と「猪木が団体作ったそうだ」「じゃあ行きましょうか」ってジープで乗り付けたんだ（笑）。

——ジープで（笑）。その頃、荒川さんはプロレス好きだったんですか？

荒川 そう！ もうケンカ大好きだったから（笑）。その延長みたいなもんですよ。で、受かってすぐ行きました。楽しかったですね！ 山本小鉄さんもすごく可愛がってくれたし……。みんな鬼軍曹って言いますけど、私は「あんな優しい人いない」と思いますよ（笑）。練習時間だけこうウーッ（山本顔マネ）と厳しい顔してるけどさ、私は全部手ェ抜いてたからね（笑）。

——山本さんが見ているときだけ一生懸命にやってみせるんですよね（笑）。

荒川 藤原（喜明）なんか本当に一生懸命やってんだ。だから「そんなにやったらもたないよ」なんつってやってさ（笑）。私はここ一番の時にガーッと力を見せてやるの。ベンチプレスで160キロ挙げるヤツなんか他にはいなかったからね。

——あの頃の新日本で仲が良かったのは誰ですか？

荒川 みんなと仲良かったですよ！ とにかく揉めごとが大嫌いなんだ、私は！

——殴り合いは好きだけど（笑）。

荒川 そう！ 揉めたらすぐ殴り合えばいいんですよ（笑）。で、潮が引くみたいにパッと引けばいいんですよ。そしたら根には持たないでしょう？

——そういう時代に佐山（聡）さんとの耳を噛みちぎったという道場マッチがあったんですか？（詳しくは「はあい、やっちゃいました。果たし合い。」と佐山が語るラジカル2号参照）

荒川 酔っ払ってたから何があったんだかわかりません！（笑）。覚えてません！ あっちも覚えてないらしい（笑）。前田（日明）に「包丁投げてすごかったんだから」と言ったときも、「あぁ、それでみんな俺の顔見ると逃げんのか」と言ってましたけどね（笑）。前田もミスター高橋の手を包丁で刺したことがあるんだけどなあ。他の人に話聞くと、私は酔っぱらって帰ってくると道場の手前から全部脱いで行くらしいですよ（笑）。裸になって、パンツ1枚でね（笑）。

——そんな調子で佐山さんの耳に噛みついたんですか？

荒川 全然覚えてないスよ！

——OKです（笑）。藤原さんともよくケンカしたんですよね。（ラジカル4号&5号の藤原&荒川対談参照）

荒川 数え切れないくらいやったからそれも詳しく覚えてないですよ、い〜っひひひひ（笑）！ あきれられてるから、もうみんなにも放っ

multiple ALIBI "S"
STRAIGHT AND STRONG
SWS

ておかれてしまう（笑）。お互いにこう（顔面ボコボコ）なって「もうやめようや」「そうですね」ってやめるの。

――まあ、そんなことばっかりしてたら、やっぱり強くなりますよね（笑）。

荒川　スパーリングなんかどつきあいだもんなぁ。だからあんまりエスカレートすると「テメェたち！」って猪木さんが怒って、プッシュアップの棒で藤波（辰爾）なんかがボコボコ叩かれんだけど。

――そこで荒川さんはサッと逃げて（笑）。昔から要領がいいわけですね。

荒川　怒るのは顔見てればわかるからね。「やっぱ怒った！」って内心おかしくてさ！　「クーッ！」って、一人で笑いをこらえてますよ（笑）。全部猪木さんのツボが判ってたからね。ここで怒る、ここで怒らないってのはお手の物ですよ。

――タチが悪いですねぇ（笑）。当時の新日の道場は凄かったんでしょうけど、荒川さんもまた凄いですね！

荒川　いや、普通だったんじゃないですか？　いまはそういったバカがいないだけでしょう。ちゃんと教育されてっからね。

――荒川さんなんか、練習しながら酒飲んでたらしいですね？

荒川　昼になるとビールをね、栗栖（正伸）とかとね、昼間っからビンで1ダースは飲んだよ（笑）。

――ダハハハハ！　当時スパーリングで強かった人といいますと？

荒川　いやぁ、みんな強かったですよ！（キッパリ）

――（ウィリアム・）ルスカ（元・柔道金メダリスト）が強かったとか、よく言われてますよね。

荒川　うん、ルスカは強かったね！　初めは関節技とか知らなかったんだけど、コツ覚えたらすぐ強くなりましたよ！　3ヶ月柔道家を鍛えたら勝てなくなっちゃいますよ。小川（直也）がいい例ですよ（笑）。

――なるほど！

荒川　あれはもうコツ全部覚えちゃってるから、もう誰も勝てない!!　小川に文句あんなら誰か挑戦してみなさいって（笑）。

――それでも最初はルスカにも勝てたわけですよね。

荒川　だって最初はプロレス知らないんだもの！　でもルスカは1回極められたら、2度とその技食らわないからね。柔道は正攻法でしょう？　プロレスとか柔術はそれとは正反対の汚い闘いだからね！　誰だってパアンと（目突きのジェスチャー）やられたらびっくりしますって！　で、脇をサッサと取られて極められたらどうしようもないよ（笑）。

――ケツに指つっこんだりとか、いわゆる裏技と言われているものが、プロレスにはありますからね。

荒川　そうですよ。そんなんばっかしだよ（笑）。

――そんなんばっかし（笑）。イワン・ゴメス（10年以上前に新日に留学してきたブラジルのバーリ・トゥード・チャンピオン）はどうでした？

荒川　足取るのが上手かったね、ヒールホールドが。まあ、それしかないんだけど（笑）。僕なんか足短いからさ、取られそうになったら立っちゃうんだ（笑）。

――足が短いから極められない（笑）。（カール・）ゴッチさんもスパーリングのときに荒川さんの足を極められなかったって伝説がありますからね。

デビュー前から入場券150枚売ったよ!!　あの記録は誰も破れない!!

荒川　……だってゴッチさんはあのとき50歳だったもん。全盛期じゃないから自慢なんかにはならないですよね。

――でも、そういうバックボーンがあった上で、ふざけたプロレスやってたってのがすごいじゃないですか（笑）。

荒川　でなきゃ何10年とは持たないですよ（笑）いまも、ものすごくコンディションがいいんです。毎日トレーニングやってんですから。毎日最低10キロ、多いときは20キロ、必ず走ってますからね!!

――下手したら、若いレスラーより体の張りがいいぐらいですからね。

荒川　まあ、どっちが凄いかは、それは皆さんが判断することですけどね。ワハハハハ!!

――それで話は戻るんですけど、荒川さんがデビューしたばかりの頃って試合スタイルはどうだったんですか？

荒川　いやぁ、全く変わらないですよ。私はデビューした時からこんな調子です（笑）。ふざけたとこも変わらない。

――新日の前座といえば、やっぱりネチネチした試合をやらなきゃいけないものだと思うんですけど。

荒川　寝技ってのはねぇ、覚えたちゃえば楽よ（笑）！

――楽！　あの時代の新日を楽だと言い切るのはすごいですね！

荒川　みんな「きつかった、きつかった」って言うけどさ、「あぁ、荒川はしょうがねぇや、楽してたから」って言うもんね（笑）。私だって一生懸命やってたよ。ベンチプレス上手かったんだし（笑）。スクワットなんかにしてもね、足が短いから上げ下げが楽で人一倍やれた。足が長い藤原とか藤波はハンデがあるけど、私はチョコンチョコンって（笑）。人生楽してますよ（笑）!!

――練習は楽だから途中で酒は飲むし（笑）。地方巡業に行けば、どこでも荒川さんのタニマチがいたそうですね。

荒川　山本さんに「オマエは全国各地に必ず知り合いがいるなぁ」って言われたね（笑）。藤原も「荒川さんの顔は3万坪ある」って言ってたよ（笑）!!

――酒の席でもこの調子で人のハートを掴むわけなんですかね。

荒川　ハートっつうかねぇ、あんまりペコペコしないんですね。タニマチはもちろん社長が多いんだけど、社長だって気が付いてから、いきなりかしこまるなんてできないじゃないですか（笑）。日本語だけでしょう、こんなに敬語がすごいのは。年中敬語だったら私なんかもう気が狂って、やってらんないですよ（笑）。

――だから、いつでもどこでも調子良くやってるんですね（笑）。

荒川　それが上手く行き過ぎて怖いね（笑）。ただいつもね、感謝の気持ちを私は持ってるんです。私はどんな時にも朝5時に起きて、これは自慢じゃないけど……いや、自慢ですね（笑）！　柏手打って「ありがとうございます」って3回感謝します。気持ちがスーッとしますね。それからゆっくり深呼吸をね、これも3回。鼻から吸って口から吐いて……。

――タイガー・ジェット・シンみたいですね（笑）。

荒川　で、老眼にならないために遠くをずーっと3分間見る。これは目の悪い方にはぜひやってほしいね！　そうしたら目は良くなりますから！　ホントですよ！　私は顔は悪いけど目はまだいいですから（笑）。

――それはメガネスーパー的に大丈夫なんですか（笑）。

荒川　じつは田中（八郎＝SWSのオーナー）会長も目は悪くないんですよ（笑）。奥さんもメガネなんかかけてませんから（笑）。それで、「目が悪い人のために」ってメガネスーパーやってんだもん！（笑）。だから、暗いところで本読むのだけはダメ。会長が言ってんだから間違いな

STRAIGHT AND STRONG
SWS

い（笑）!!

——まあＳＷＳの話は後ほどたっぷり聞きますんで、新日の話に戻らせていただきます。荒川さんは酒とヤクザ担当っていうイメージがあるんですよ。

荒川　それは、その通り！

——ダハハハハハ！　それで先日、古館（伊知郎）さんが深夜番組（『第4学区』）で話してたんですけど、ハンセンがからんできたヤクザと腕相撲してわざと負けてあげたら「弱いな」とか言われてブチ切れてヤクザの手をガラステーブルに叩き付けて破壊しちゃった、と。それでヤクザの軍団がビジネスホテルに乗り込んできたときに、酔っ払った荒川さんが相手をしたとか言ってたんですよ。覚えてます？

荒川　あれは、たしかジョージ（高野）じゃない？　ジョージがヤクザをぶん殴ってね。

——ストリートファイトでドロップキックを使ったっていう（笑）。

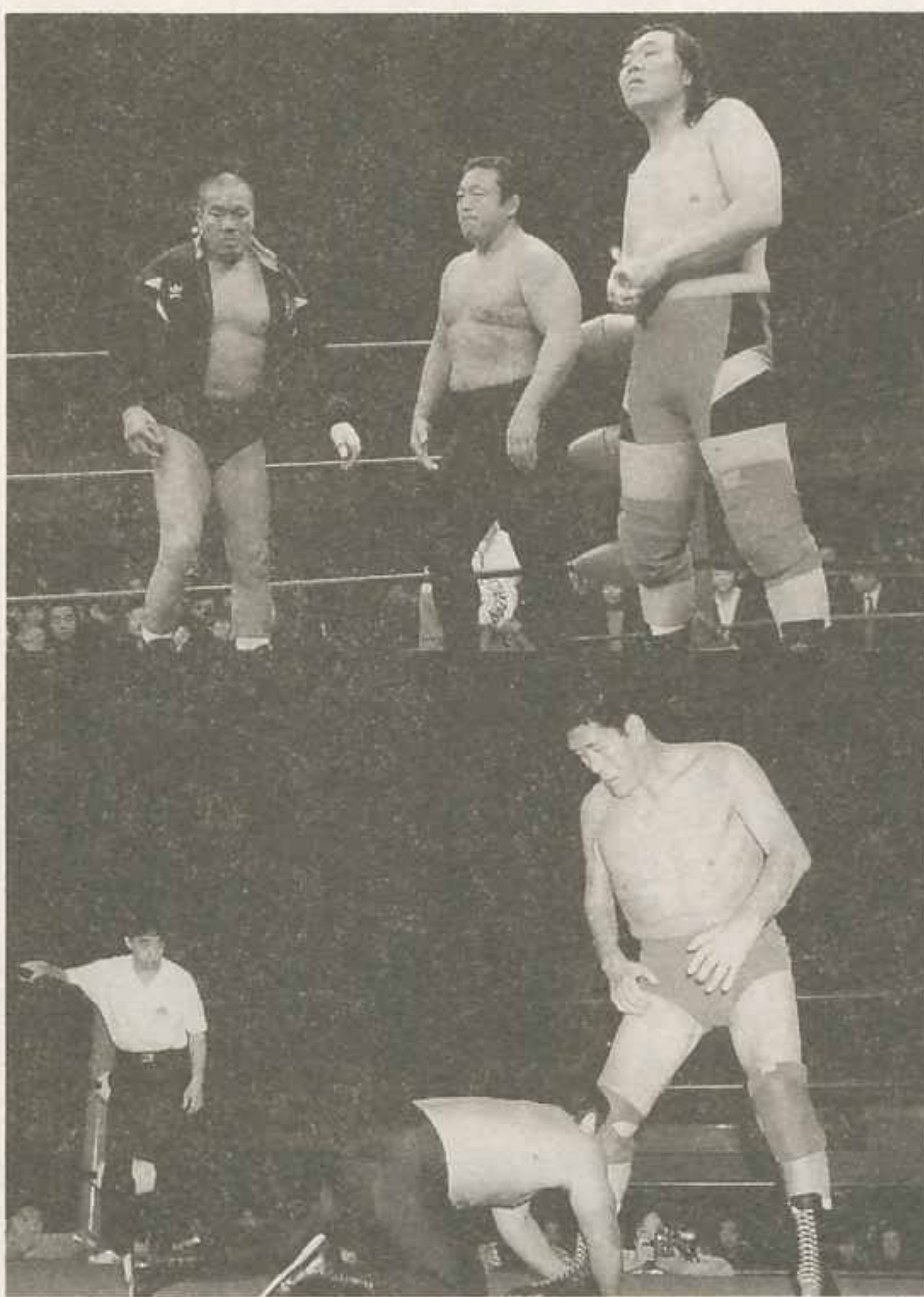
荒川　そうそう（笑）。ヤクザがホテルのロビーまでやってきて、猪木さんも止めに行ったのに逆にぶっ飛ばしちゃって、火を着けちゃった（笑）。

——「大丈夫ですよ。冷静に話を付けますから。ヤクザと喧嘩しちゃ駄目なんです。ただ謝って殴られるのが男らしさなんですよ」とか言っておいて、いざヤクザがかかってきたらスリーパーで締め落としたらしいですね（笑）。

荒川　だからヤクザもおさまりがつかなくなっちゃって、「弾持ってこいや!!」とか言ってるし。で、（机をバンバンと叩き）そこは私の出番ですよ！

——そうきますか！

荒川　もう言いたいだけ言わせて、親分に「社長！　ここはひとつ私の顔を立てて……」と（笑）。向こうは「社長」なんて言われるのは初めてだから「ムムム！」となっちゃって「飲みに行こう！」となるわけですよ。

——そういうものなんですか!?

荒川　アンタ達できる？　できないでしょ？　向こうはホンモノだよ！　映画とは違うんだから。一歩間違えたらダダダダダーッて（指を全部切るマネ）なくなっちゃうんだから。私だって怖いけどね、怖れを見せちゃいけないんですよ。人間みんなそういうのは怖いの。私なんか特にも人見知りはするし、もう全然喋れないし（笑）。でも2回会った人とは親戚みたいになっちゃうけどね（笑）！

——じゃあ、荒川さんのおかげで新日は危機を脱してきてるわけですかね。

荒川　いや、この調子のよさがあればどんな修羅場もくぐり抜けてみせます!!　だからプロレスしてなくてもメシが食えるわけです（笑）。

——新日にとってのピンチが、荒川さんのチャンスになるわけですか（笑）。

荒川　そう、もっと事態が動かねぇかな～と3歩引いて観てる（笑）。ワハハハハ！　いまのピンチなんか大したことはないよ。我々の頃なんか本当に団体がなくなりそうだったんだから。本当にひどいときなんか、切符の割り当てがきて、私が全部さばいてた（笑）。

——営業もやってたんですか（笑）。

荒川　私はデビュー前から１５０枚売ってたんだから！　あの記録は誰も破ってないよ。営業部なんか全然売れないのにね。だいたいね、10軒回れば1軒は買ってくれるもんなんだよ！　新間（寿）さんに「営業に転向してくれないか」なんて言われたこともあるんだけど（笑）、冗談じゃないよね！

——そういう実績があれば、誰も文句は言えないですよ（笑）。危ない所へ行かなきゃいけないときは、よく藤原さんと行かれたわけですね。

荒川　そう。危険なことはだいたい私か藤原さんのところに話が来るんです。

——誌面では書けないようなムチャクチャ話もそうとうありますからね（笑）。

荒川　坂口さんが読んだら（坂口調で）「荒川……あのバカ！」って思うだろうねぇ（笑）。

——「前座の力道山」なだけあって、酒と喧嘩と●●●対策っていう昔ながらのプロレスラーらしい部分を荒川さんが担当していたんですね。

荒川　私は●●●のツボもわかってるんですよ。「今日は飲みに連れていかれんだろうなぁ」とかね（笑）。で、●●●に飲みに連れて行かれたときに「帰りてぇなあ」と思ったらね、「失礼します！」って言ってアイスペールにレミーマルタンをザババザバーッと全部入れて、一気飲みするんですよ（笑）。で、「もう一本いただきます！」なんて言うと、向こうも「さ、みんな、そろそろ帰ろうか」ってなるんだよ（笑）！

——そういうものなんですか（笑）。

荒川　坂口（征二）さんが（荒鷲口調で）「荒川～っ」って助け求めてきたら「よし、まかせろ！」って、それをやる。向こうは泡食っちゃうからさ（笑）。さすがにレミーを何本も飲まれたら、向こうもたまらないでしょ（笑）。

——そういう席で、日本酒一升を一気で空けたりとかしてたわけですね。

荒川　全然平気ですよ。ポーンと。でもこの前やってみたら5合が精一杯だったですけどね（笑）。俺もバカだな！　まだ5合なら負けないよ！（笑）。50歳を過ぎたお父っつあんがいまだにそんなことやってんだ（笑）。これから教育しなきゃいけない立場にある人間が、逆に教育されなきゃなんないんだ。恥ずかしいよ、全く（笑）!!

——いや、それでこそプロレスラーですよ（笑）。

荒川　そう？　みんな酒は強かったですけどね、ムチャ飲みは私が一番強かったんじゃないですか？　新日で酒の音頭は全部私が取ってたから。

——猪木さんも強かったんですよね。

荒川　強かったですよ！　こう（顔マネ）やってクッとビール飲むんだ。速かったね!!　ビールなら猪木さん、日本酒なら私だね。間違いないよ。記録保持者だよ（笑）。

——それで荒川さんは新弟子にもガンガン飲ませてたわけなんですかね。

荒川　あれは要するに、酒に強いか弱いか、酒癖悪いかどうかを判断してたの。飲みに連れてったとき、お客さんに迷惑かけちゃマズいでしょ？

藤原組長と共に、全日本プロレスの札幌大会にも出場したドン荒川。いつでもどこでも自分流を貫くドンは、馬場さんの股の下をくぐったり、ファミリー軍団との対戦では、対戦相手まで笑わせてしまうというガチンコお笑いプロレスを炸裂させた

佐

3月18日、後
ますよね。
川口　当時、
あんまりい
手、山田学
ズーッとロ
ッチをやって
たな」ってい
覚としてはな
――修斗の
ました？
川口　ありま
――実は相
の練習を始め
っていうのは
るのかなって
川口　そうで
れよりも第
そういう期待
ね。
――なんか30
すよね。なん
したことない
かった？
川口　それは

だから試さなきゃならないから（笑）。でも結局、酒飲んで一番迷惑をかけてたのは私だよな（笑）。逆に新弟子に面倒みてもらってたですね。

――橋本さんと、よく飲みに行ってたらしいですけど。

荒川　橋本（真也）にはお世話になったですよ！　いっつも飲みに行くたびに送ってもらってね、ホントに（笑）。いやあ、でもいま、彼ら橋本、蝶野（正洋）、武藤（敬司）が新日本を引っ張っていてねえ（しみじみ）……。いまはどうなってるか知らないけど、素晴らしいことじゃないですか。

いつでもトレーニングを怠らない荒川。先日も荒川マラソンを完走!! 衰えを知らない50代である

――橋本さんといえば、ヒロ斉藤さんとのシュートマッチ（※Uターンしてきたジャパン・プロに対して、異常にライバル心を抱いていた橋本が、試合中にヒロを必要以上に痛めつけた）がありましたけれども、あのとき橋本選手にああいう試合内容を指示したのは荒川さんだって説もありますよね。

荒川（感慨深げに）あれは小倉でだったですね。10何年前の話だよ。控室には確か猪木さんもいたなあ。俺は「いつものペースでやれ」って言ったんですよ。「一発やれ！」なんて言ってないよ！

――つまり、「いつものペース」というのは「喧嘩みたいな昭和新日の前座」ってことなんですかね。ヒロさんとの試合後、橋本さんは長州（力）さんとマサ（斉藤）さんに呼び出されて、そこで色々あったらしいですけど……。

荒川　ああ……。試合後に私がジョギングしてたらね……。

――えっ、ちょっと待ってください！　荒川さん、まさか試合後にもトレーニングしてたんですか？

荒川　毎日やってましたよ！　体力が有り余ってるからね！

――ダハハハハハ！　いちいち素晴らしいですね（笑）。で、ジョギングしてたら、何があったんですか？

荒川　橋本と蝶野が向こうに座ってるんだ。「どうしたんだ？」って聞いたら「食らわされました」って言うの。「誰に？」って聞いたら、「長州さんと斉藤さんに」って。「何で？」「『変な試合やりやがって!!』って」。だから、「『変な試合』ってどんな試合なんだよ！　あれでいいじゃねぇか！」って言ってやったよ。

――ボクも全く同感ですね（笑）。それで橋本さんは当時、この事件にすごく怒っていて、靴下の中に刃物を隠し持ってたりとかしてたそうですけど。

荒川　毎日道場で「殺す!!　殺す!!」って言ってたよ。まだ若かったしね（しみじみ）。感情の起伏が激しい時期だし、ホントにやりかねなかった。有望な選手が刑務所に入ったりしたらえらいこっちゃ（笑）。もしあの時私が「殺れ！」って煽ったらホントに刺しちゃったかもしれないね（笑）。

――荒川さんの場合は、本当に煽りかねないから怖いんですけど（笑）。

荒川　いやあ、だから「絶対そんなことするなよ」って言っておいた（笑）。

――ところで、荒川さんが橋本選手の手を刺したっていう物騒な話も橋本選手から聞いたことがあるんですけど、これもやっぱりその頃なんですか？

荒川　それは違いますね。あいつがお客さん（タニマチ）の前で行儀が悪かったから。「手ぇ出せ！」って言ったら、あいつも「はい！」って出すんだもん。しょうがないから割箸をブスって（笑）！　ホントは指の間に刺そうと思ったんだけど、私も酔っぱらってましたから、手元が狂って突き刺さってしまった、と（笑）。

――無茶苦茶しますよね、まさに新日本の裏のドン（笑）。

荒川　裏のドンならぬドジですよ（笑）!!　だけど坂口さんなんかとも今でも会ってますから。（ジャイアント）馬場さんの葬式のときも電話きて（ビッグ・サカロ調で）「荒川ぁ、オマエ行くのかぁ～」「行きますよ」「何時に来るんだぁ～、一緒に行こぉ～」とか（笑）。当日、会場で俺を見つけると袖を引っ張ってくるのよ（笑）。それで2人でお参りしてきたんだ（笑）。

――当時の繋がりは今でも生きている、と。一しかし緒にバカやった仲間は最高ですねぇ。巡業の思い出っていうのはやっぱりノゾキですか（笑）？

荒川　ノゾキってのはつまらないですよ！　ありゃあ（笑）。いまだったら金もらってもやんないね（笑）。当時は結婚前ですからね、好奇心ですよ。まぁ、みんなで楽しんでたけど（笑）。思いきり前に乗り出さなきゃ見えないんだから、仕切りから頭ズラーッと並べてガーッと乗り出してね（笑）。首の鍛練にもなるしプッシュアップにもなる。みんな風呂で練習してたようなもんですよ（笑）！

――覗きがトレーニング！

荒川　一歩間違えたらオーエン・ハートみたいに即死だね。洒落にも何にもなりゃしないけど（笑）。

――それにしても、道場や試合でケンカまがいのことばかりやって、試合が終われば酒飲んでノゾキやってたんですから、つくづく素晴らしいですよね。

荒川　楽しかったね！　それで新日本っていうのは、そういうのもやって成り立ってくる世界だから、太っ腹なんですよ（笑）。だから今はリングの上でタバコ吸おうが何しようが構わないんだよ（笑）。

――大仁田（厚）さんのことですね。今年の初め頃、荒川さんは「新日があんなことするんだったら、俺が道場破りしてやる！」とか怒ってたから、あれでまたボクの中では荒川幻想が膨らみましたよ（笑）。

荒川　じゃあ煙草なんて吸わせなきゃいいじゃないの、って（笑）。懐が深いんですよ、新日は。海より深いよ！　まあ、私がもしまだ新日に上がってたら、葉巻くわえて行くね（笑）！

――蝶野ばりに（笑）。そういえば1月4日に、奇しくも荒川さんと仲の良かった橋本さんが小川（直也）さんとああいう試合をしちゃったわけですけど、荒川さん的にはどう思われました？

荒川　まあ橋本選手は何回でもやればいいんですよ。団体の壁に関係なく。でも、いまは会社の事情で出来なくてもいずれまたやる時期が来るんじゃないの？　あっちには猪木さんがいるんだしねぇ。

――ちなみに、あの試合を観ての率直な感想はいかがですか？

荒川　つまんないですよね。

――つまんない!!

荒川　なんで橋本は噛みつかなかったのかなって。私だったら鼻を噛みちぎってるな（笑）。

――そっちの「噛みつく」ですか（笑）。

荒川　だって動物のケンカってのは、噛むのが基本なんだから。鼻食いちぎったら相手はもう街歩けませんからね！　それくらいの気持ちでやらなきゃダメです（キッパリ）！　私は負けると思ったら噛みますね！　新聞には叩かれるだろうけどさ。『荒川、やっぱりバカだった』とか（笑）。でもやりますよ（キッパリ）。

――負けるぐらいなら咬む、と。要するにvs（イベンダー・）ホリフィールド戦の（マイク・）タイソンみたいなもんですね。

荒川　噛むことは本能的なものなんですよね。俺と共通してんですよ。あいつもバカだから（笑）。ワハハハ！　普通何回も刑務所には入りませんよ。バカだから入るんですよ。私がそうならないのは、寸前まで行くとサッと冷静になれるから。だから、まだ私は本当の大バカじゃないのかな……。小バカだな。大バカになりたいな（笑）。

――荒川さんにも、そういうシュー

ト的な試合の経験はあるわけですよね。

荒川　いつもやってましたよ、私は（笑）。毎日、常にシュートマッチ。カーブマッチか（笑）？　ひょうきんプロレスも真剣にやってるから！

——あれも真剣勝負ですか（笑）。

荒川　言っとくけど私、試合中に笑ったことは1回もないんだから（笑）。試合で笑ってる写真があったら持ってきて見せて下さいよ！　この前、全日本での試合写真が載った本を見たら、私が真剣な顔してタッチしようとしてるのに、馬場さんと永源さんがハラ抱えて笑ってんだから（笑）。

——顔だけは真剣勝負、と（笑）。プエルトリコにいたときも、やっぱりそんな調子だったんですか？

荒川　そう！　どこ行っても口は誰もかなわないから!!　「俺は世界で一番強い、熊でも蛇でも何でも持ってこい！」って言ったら、ホントに熊連れてきやがった（笑）。

——プロモーターが言われた通りにしちゃったんですね（笑）。

荒川　しょうがないから闘ったよ。俺は熊のケツとかを蹴っとばしたの。痛くないところを（笑）。そうしたら熊が立ったんで、懐に入ってベア・ハッグをやりに行ったよ!!

——熊にベアハッグですか！

荒川　だけど逆に倒されちゃった。しょうがないから私は死んだふりですよ（笑）。そしたら手で胸をガーッと揺するんですよ。目を空けたら熊の顔がすぐ前にあって、目と目が合った（笑）。「ヒャーッ！」となってまた死んだフリですよ（笑）。でも、そのまま手を置いてるところでカウント3取られちゃった、ワハハハハ!!

——熊相手にもひょうきんプロレスしてたんですね（笑）。ちなみにマサさんが熊と闘った感想は「臭かった」の一言だったんですけど。

荒川　臭いも何も、恐怖心だけだよ（笑）。死んだふりなんか通じないよね！　口に輪を付けてもらってなかったら、噛まれて鼻がなくなってたよ。

——向こうでは、どういったポジションで試合をしてたんですか？

荒川　プロモーターの力でメインイベンターだったんだ!!　気持ちよかったね（笑）！　柔道着のズボンにツルツル坊主のスキンヘッド、髭を生やしてさ。でもヒールってよりはやっぱりマイペースでやってたよ（笑）。

——プエルトリコといえば治安が悪いというイメージなんですけど、物騒な目には遭わなかったんですか？

荒川　遭わなかったなぁ。「俺の町」って感じでよく雪駄履いて散歩してた（笑）。日本人なんか誰もいねぇのに。まあ危ない所が合うんでしょうね（笑）。試合ではコップに入った小便が飛んでくるんだけど（笑）。私はひょいひょいと避けてましたけどね。ヒヒヒヒ！　帰りはビール飲んでチキン食って、本当に楽しかったね！

——どんな所でも楽しくやれるんですねえ（笑）。

荒川　そう！　私はどんなところにでもなじめますから。墓場であっても住めば都！　ワハハハハ!!

※いつでも、どこでも、異常に元気なドン荒川。今回は、あまり語られなかった、荒川のプロレス人生を振り返ってみたが、これでまた荒川のナチュラルな力人ぶりがおわかりいただけたと思う。荒川幻想が、より深まったのは間違いない。そして次号では、遂にSWSの衝撃事実が明らかになる！　マット界に衝撃が走ることも間違いない!!　首を長くして次号を心して待て！

【99年6月3日、東京・厚生年金スポーツセンターにて収録】

multiple ALIBI "S"
STRAIGHT AND STRONG
SWS

どん・あらかわ■本名・荒川真。昭和20年3月6日、鹿児島県出水市出身。昭和47年9月19日、新潟市体育館でvsリトル（現・グラン）浜田戦でデビュー。ケンカの強さは天下一品。ガチガチのストロング・スタイルで昭和・新日の前座戦線に君臨。藤原喜明がカール・ゴッチの教えを記したノートを盗み見したりしながら心と体を鍛え上げた。黒のロングタイツ姿から"前座の力道山"の異名を取る。新日を円満退社して、SWSに移籍。S崩壊後もただ1人、メガネスーパー（陸上部）に残る男。田中社長とメガネをかけた人、お世話になる人には感謝の気持ちを忘れない。170センチ、97キロ。

蘇った昭和・新日本伝説!!
6・9Mr.空中追悼興行インサイドレポート!!

佐山の試合ではセコンドの鬼っぷりを発揮!!

次第に興奮してきた荒川は立ち上がって、会場中に響き渡る大声でアドバイスを飛ばす!!

会場内をウロウロして、元気に飛び回っていた荒川だが、佐山の試合は気になるようでしっかりセコンドについた

ついにエスケープしようとする佐山に対して、ロープを引っ張って妨害を始める。会場中がドッカンと盛り上がる！

いまにも手を出さんばかりの勢いでセコンドをこなす荒川。なぜか佐山がロープ・エスケープするとしきりに悔しがる

マット界一顔の広い男、大暴れ!!

UWF＆藤原組で空中氏と親交のあった船木らも会場に現れた。セレモニー終了と共に帰ってしまったが、荒川にはしっかりと挨拶。

入場直前なのに、なぜか客前でストレッチを始める荒川。あまりに自然な感じなので、観客も呆気に取られた

試合を終えた佐野の控室まで祝福にやってきた荒川。嗚呼、昭和新日伝説がまたひとつ蘇った!!

試合ではつぼ原人を相手に、ひょうきんプロレスで真っ向から挑んだ荒川。さすがのつぼもカンチョウには怯んだ

佐

3月18日、
ますよね。
川口　当時、
あんまりい
手、山田学
ズーッとロ
ッチをやって
たな」ってい
覚としてはな
——修斗の
ました?
川口　ありま
——実は相
の練習を始め
っていうのは
川口　そうで
るのかなって
れよりも第一
そういう期待
ね。
——なんか
すよね。なん
したことない
かった?
川口　それは

お蔵出しインタビュー

VT（バーリ・トゥード）をもう一回やってもいいと思う。そのもう一回の相手は

ヒクソン!!

んむはぁ

アレクサンダー大塚

［格闘探偵団バトラーツ］

A lex ander Otsuka

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス〟=.格闘技読本

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito
撮影inプエルトリコ／ユージ★サンタマリア
photographs by Yuri Santamaria

去る5月18日に、無期限の東方大遠征ならぬ海外武者修行に出たアレク。

最近は、無軌道な飛びっぷりを見せるUFOイズムがちょっぴり入ってきているので、突然帰国することもありえると思っていたら！「いや、これホント」的に、もうすぐ帰ってくるようである（早すぎるっつーの）。

バトラーツ側からの要請もあり、急きょ、バトラーツ夏の風物詩『ヤング・ジェネレーション・バトル99』（通称ヤンジェネ、いつまでヤンジェネ？）に凱旋帰国が決まったのだ。

ところで、日本を発ってからのアレクの道程は、5月19日からのプエルトリコ3連戦からスタート。しかし、しょっぱなからつまずき、ルチャ・リブレの奥深さを叩き込まれることになった。

ルタ・リーブリの強豪、マルコ・ファスを破ったさすがのアレクも、これには鼻を明かされ、ルチャの奥義を修得するために5月22日にメキシコ入り。そのメヒコでは、FILLという独立系団体のマットに登場し、〝東洋出身の謎のマスクマン〟シュー・キムに転身して大暴れしている（シュー・キムの「シュー」は「シュート・ファイター」から来てると

いう説もある）。

実はこのインタビュー、アレク出発前日に収録したものだが、もう少し長い期間になるだろうと踏んで、敢えて前号では載せなかった。長期遠征になったら、出発前の心境も新鮮に聞こえるだろうから、そのときに載せようと思ったからである（決して前号に載せるのを忘れたわけではありません。んむはぁ）。

しかし、これだけ帰国が早いと、週刊専門誌誌上で、メキシコ入りしてからのインタビューが既に掲載されてしまったりしているので、逆にところどころかなりタイムラグが感じられるインタビューになってしまった。

ま、そこはズバリ言って面白ければノー問題。時事ネタを飛び越えたドッキリ発言も飛び出すアレクインタビュー。迷わず載せろよ、載せればわかるさの精神で、イキマスカーッ！

イーチ、ニー、サンッ、ヨイショッ、んむはぁ!!

——今回、プエルトリコから入ることが決まりましたけど、最初、WWFに行きたいって言ってましたよね。

アレク そんな話がまとまりつつあるようなことも言ってたんですけど、もう忘れましたね、いつごろからか（笑）。

——ところで、アレクはプロレスラーになって初の海外修業。長期に渡って家を空けるのも初。仲人をやった人間として聞いておくけど、家庭は大丈夫なの？（笑）。

アレク え～、大丈夫です。んむはぁ。

——実際、どれくらいの期間行ってるんですか？

アレク わかんないんですよ、ホントに。会社から「帰ってこい」って言われたらしょうがないですけど。会社が後押ししてくれれば、行ける限りは行ってたいです。

——家庭でなんかあったの？（笑）。

アレク とんでもないです！ 自分の勉強のためです。

——脱出じゃないんですね（笑）。

アレク まぁ1年、長くて2年も行ってれば、かなり勉強になるかなぁ、と。

——なるほど。そもそもアレクって英語はじゃべれるんですか？

アレク いいえ、単語並べるぐらい。日本とアクセスするためにノートパソコンを手に入れようとしたんですけど。たぶんこのインタビューが終わってからギリギリで入手できそうなんですよ。

——誰かに貰えるんですか？

アレク おかげさまでファンの人から。やっぱりインターネットの力は凄いですね。最初は間違えて5千円って書き込んじゃった。5万円ぐらいで買おうと思ったんですけど（笑）。そしたら使ってないっていう人がいて。凄くいい人で、いろんなソフトも入れといてくれるみたいで。

——持つべきものはファンと嫁！

アレク は～い。大切ですよ～。んむはぁ。

——昔は若手から実績を積むと海外修業に出て、大きい凱旋試合を組んでもらってスターダムにのし上がるというシステムがあったんだけど、小川（直也）選手の今回のNWA防衛戦サーキットや、アレク選手の海外遠征は、プロレスの黄金時代を彷彿とさせて、実に夢があっていいですよね。

アレク は～い。前の号の『紙プロ』に書いてありましたよね。ボクと小川選手と村上（一成）選手のユニットは夢があるって。

——だってマンガチックじゃない、いい意味で（笑）。

アレク あ！ もう一つボクが海外遠征でイメージしてるのは、『ザ・カミナリマン』なんですよ。

——ガハハハ！ カミナリマン！ なんのキャラ？

アレク 『1・2の三四郎2』ですぅ。

——ああ、『2』はまだ読んでないんですよ、パラパラッとしか。

アレク 三四郎が海外遠征から帰ってくるとこからスタートするんですけど、アメリカでは『ザ・カミナリマン』というキャラで、頭ギザギザでヒールでガチガチの試合ばっかりやってたんですよ。

——は、ヒールなのに相手の技も受けないの？

アレク そうなんですよ。ボクは三四郎とは逆で、こっちでガチガチやってるんで、向こうではナチュラルに。

——こっちでバチバチ、向こうでグニャグニャ（笑）。当然、違うキャラに変身することも抵抗なし？

アレク 全然ないです。ボクには変身願望があるんで。そうじゃないとパーマンなんてやってないですよ～。んむはぁ。

——その変身願望があるっていうのは、なんなんでしょうね？

アレク なんなんですかねぇ？？？

——普段、自分を出してないってわけじゃないだろうし、なにがそんなに変身願望を持たせるんでしょう。

アレク ホントの自分っていうものを見られたくないんですかね？

——いや、俺に聞かれても（笑）。自分の核心をボヤかしたいんですかね。

アレク どうなんですかね？ でも、普段ボクはストレート過ぎるほどストレートだし。しゃべることも大人じゃないというか、社会人であれば道理を考えて言うべきことを、思ったままズバッと言っちゃって失敗することも多いんですよ。それはそれで自分では悪い部分でもあり、いい部分でもあると思ってるんですけど。

——いい部分ですよ、きっと（笑）。

アレク そういう部分がありながらも、本質的な芯の部分は見せたくないのかなと、いま思ったんですけどね。

——見せたくないというか、石川（雄規）社長もそうだけど、謎が好きなんじゃない？（笑）。石川社長とはまたタイプは違うけど、なんとなく自分の中で秘め事というか、謎を持っていたいというか（笑）。

アレク 神秘的な存在でいたいっていうのがあるのかもしれないですね。んむはぁ（微笑）。

——そこらへんがプロレスの世界にいる一番の要因でしょうね。今回の遠征は、さらにステップアップするためには、いいリフレッシュ期間になるかもしれないけど、いままでのプロレス人生を振り返ってみて、ターニングポイントになった試合はなんですか？

アレク やっぱり……大阪でリングスに初めて出た試合（97・4・22）。

——（クリストファー・）ヘイズマン戦！

アレク あれが凄くいいきっかけになった。あれで、もっともっと強気に出れるようになった気がしますね（結果は、ドクターに止められ無念のTKO負け。しかしその半年後にキッチリとリベンジ）。それで、その次としては、その1年後ぐらいの社長戦ですかねぇ。

——（98年）1月のやつ？

アレク そうですそうです。前の年に

ボクが海外遠征でイメージしてるのは、『ザ・カミナリマン』なんですよ。

んむはぁ

Otsuka Alexander

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス＝格闘技読本

遅ればせながら アレク in プエルトリコ

ヤンジェネ勝って、バンバーンと来て、池田（大輔）さんにも勝って、勢いに乗ってきてたところを社長に足を引っ掛けられた。それが逆によかったんじゃないかな、と。負けちゃいましたけど、試合内容はボク的には凄く好きだったし。

――バトラーツの原点っていう趣の試合でしたね。その前のヘイズマン戦は、自分の実力がリングスでも通用するっていうのがわかったから？

アレク そうですね。あのころはまだバトラーツもU系から分かれたっていう見方をされてたじゃないですか。でも、なんだかんだ言っても、ファンの目は、リングスとかパンクラスに行っても「どうせダメだろう」っていう感じだったと思うんですよ。でもボクの中では『PRIDE』のマルコ・ファス戦もそうでしたけど、紙一重の差だと思ってたんですよ。

――バトラーツは団体もちっちゃいし、なんせ度を越えてフザけてますからね（笑）。団体もアレクもまだ知名度のないそのころは、なおさらそういう先入観で見られてましたよね。

アレク 紙一重って考えられるようになったのは、ボクはアマチュアレスリングっていう下地があってこの世界に入ってきたけど、スパーリングとかやるとグチャグチャにされて、関節技っていう部分で悩んでたことがあったんですよ。

――ああ、なるほど。

アレク そんなとき社長に、「ある程度までくればわかってきて、その後は紙一重なんだよ」って言われたんですよ。

――石川雄規らしい、猪木イズムな言葉ですね（笑）。そういえば、TK（高阪剛）が「アレクっていうのは自分の中でパズルを組み立てられる人だ」って言ってたんですよ。あれは言い得て妙だなと思いましたね。マット界のいろんなパズルピースを拾ってきて、自分の力で、自分なりのパズルを組み立てられる人ですよね。そういう人、少ないから。マット界の宝ですよ。

アレク んむはぁ（微笑）。みんなのおかげです。

――いや、たぶん、のものも（嫁さん・元『紙プロ』の破壊嬢）のおかげでしょう（笑）。

アレク ボクはすごくいい人に巡り会えたと思ってます。まわりの環境ですよねぇ。カミさんはカミさんでホントにそうだし、会社とか『紙プロ』とか『週プロ』とかも含めて、みんなのおかげです。ボクがグニャグニャと道を進めるっていうのは。

――ガハハハ！ グニャグニャ進む！ いい表現ですね。普通「真っすぐ進む」って言うのに（笑）。

アレク んむはぁ（微笑）。それを、自然と違和感なく遠回りさせてもらってる環境にあるから。楽しみながら。楽しい反面、大変なこともいっぱいあるけど、それが苦にならずに、遠回りしながらも頑張れてるかなって。近道したほうが、もっと成長できる可能性もあるけど、それってつまんないじゃないですか。見るほうも面白くないと思うし。

――実に冒険心に富んでますね（笑）。

アレク 木に例えたら、枝がたくさんあったほうが幹がしっかりしてる。それだけ太い本道みたいなものがあれば、いろんな枝が広がるかなって。

――うまい！

アレク んむはぁ（照）。

――そうすると、アレクの中の本道っていうのはどういうこと？

アレク やっぱり、リング作り……。

――ガハハハ！ やっぱり。

アレク やっぱりボクはそれがあったからこそ、ここまで来てる。

――それだけは外せないと（笑）。まさか海外でリング作りはやらないよね？

アレク う〜ん、わかんないです。それか、向こうでリング屋になるとか（笑）。「WWFにいよいよ出ることになりました！ リング屋で！」っていうのはどうですかね？（笑）。

――ガハハハ。「アレク、アメリカン・ドリーム達成、WWFでリング屋に」（笑）。「コイツは日本から来たリング作りのマスターだぜ！」（笑）。

アレク それはそれで面白いですよね。

――ところでこの前、新日本プロレスに出ましたけど（4・10東京ドーム）、メジャーといわれる新日本マットの感触はどうでした？

アレク 言葉は悪いかもしれないですけど、ボクにとっては利用すべきとこですよね。自分が一番ですから、そう考えると利用って言葉になりますよね、敢えて本心で言っちゃえば。ボクも、少なからず『PRIDE』を利用した。新日本さんも、『PRIDE』で名を上げたボクを利用したわけだし、そう考えればお互い様ですよね。そういう部分でいえば、アレクサンダー大塚というレスラーの大きさをファンの人にホントに確信してもらうには、これからも利用していかなきゃいけないリングかなと思いますね。

――逆に、メジャーにはどんどん、アレクサンダー大塚を利用してもらいたいと。

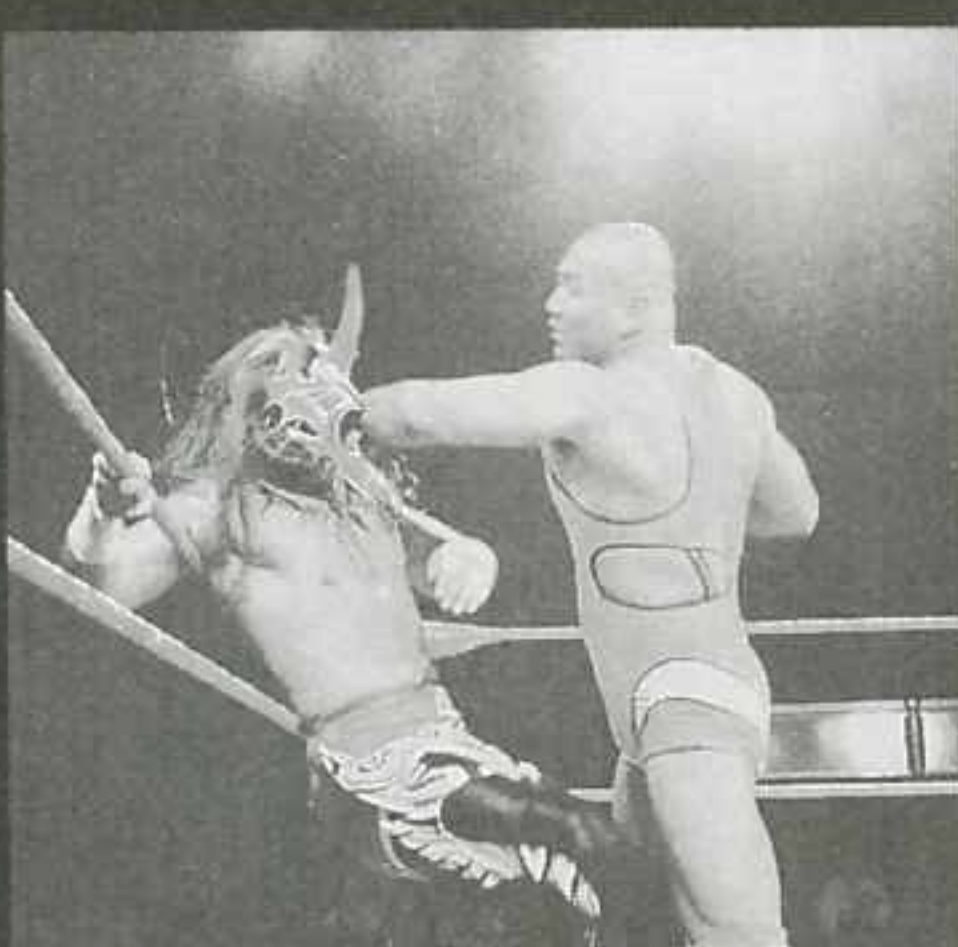
アレク はい。そのためには、今度の海外遠征っていうのはウェイトが大きいと思いますね。前回、新日本さんが、アレクサンダー大塚というレスラーに求めてたのは、「格闘技」の部分のウエイトが大きかったから、ああいうマッチメイクになったんだと思うんですよ。

――社長と組んで、相手が山崎一夫&藤田和之組ですからね。

アレク 純粋にプロレスラーとしてのボクの価値を見出だしてくれてれば、もっと違ったカードが組まれてたと思うんですよ。そういう部分では悔しい部分がありますよね。山崎選手や藤田選手が悪いっていうんじゃないんですけど、メジャーな「プロレス」を体験したかったっていう部分では、望んでたカードが組まれなかったですね。

――例えば誰とやりたかったんですか？

アレク 蝶野（正洋）さんとか、グレート・

初日（5月19日＝現地時間）から大ブーイングを浴び、パコ（オカマ）呼ばわりされたアレク。遠征2日目（20日）には、「誰だかよくわからない」(byアレク) アギラにまさかの敗退！

アギラとの一戦は、IWAJr.ヘビー級王座決定トーナメント1回戦として行われたが、不慣れなルチャのペースにファイヤーバードスプラッシュで敗れる。「マルコよりアギラの方が強い。んむはぁ」(byアレク)

この時期、プエルトリコには日本人レスラー5名が集結！ 左からTAKAみちのく、アレク、サスケ社長、田尻義博、タイガーマスク。飛びっぷりと男っぷりのいいメンツが集まった

全員タイガー！ 正体は、左からTAKA、アレク、本物。さてここでクイズです。前列で虎のかぶりものをしている人は誰？ 答えを書いて下の宛先まで（テロップを指さすポーズ）

ムタとか、（獣神サンダー）ライガーさんとか。

——ああ、そういった部分でのメッセージもあって、あの試合ではプロレス技を全面に出して勝負してたわけですね。

アレク　はい。

——社長は藤原イズム全開でやってましたけどね（笑）。あのときの社長も素敵でしたね（笑）。

アレク　んむはぁ。だから、そういう部分で海外に行って、プロレス的に一皮も二皮も剥けるはずのボクに対して、もし今度呼んでいただけるとしたら、新日本さんはどういうカードを組むのかなっていうのも興味ありますね。

——全日本には興味ないんですか？

アレク　いまはまだ、馬場さんが亡くなったばかりでゴタゴタしてるんで。それと、対戦相手っていうのを考えると、いまは思いつかないですね。

——これから全日本もどんどん変わってくるでしょうからね。

アレク　そういう部分では魅力ありますよね。あと、プロレスの基本がしっかりしてるっていう部分では習いたいことがいっぱいあります。

——具体的にどんなとこ？

アレク　やっぱり馬場さんが言うところの「基本中の基本」である受け身ですよね。

——いま言ったように、純プロレスとバーリ・トゥードって、基本は全然違いますよね。アレク選手は、それをスッとスイッチングできるんですよね。

アレク　ボクはできますね。できたからこそ結果が出てると思うんですけど。

——それができるっていうことは、つまり、両方とも基本ができてるっていうことですよ（笑）。だからアレクの場合、プロレスの試合も格闘技の試合も安心して見ていられるんですよ。バトルの選手はみんなそうですけどね。4・29『PRIDE．5』では小川直也、村上一成と共に挨拶でリングに上がったわけだけど、また『PRIDE』のリングに上がる可能性もある？

アレク　あります！　ああいう試合をするのは、ボクはもう一回だけはやってもいいと思ってるんですよ。その一回の相手っていうのは……。

——ん!?　その相手というのは!?

アレク　ヒクソン!!　んむはぁ。

——あうっ、ヒクソン！

アレク　マルコ戦が終わった直後は、もうバーリ・トゥードはやらないと思ってたんだけど、ファンの人の声を聞くと、結局みんな、ヒクソンが一番強いっていう迷信みたいな、まやかしにあってる人がたくさんいるじゃないですか？

——迷信（笑）。言いますね！　盲信的っていうことですね。

アレク　そういう人たちの目を……。

——覚まさせてあげたい、と（笑）。

アレク　そうですね。小川さんの言葉を借りるなら。ボクはヒクソン戦ならやってもいいかなって思いますね。

——おお、頼もしい。考えれば、マルコ・ファスが「ヒクソンに一番近い男」って言われてたわけだから、マルコに勝ったアレクにはヒクソンと対戦する権利はあるはずですよね。

アレク　かといって、ウチのリングではお金払えないんで（微笑）。

——ガハハハ！　多古町でやりますか！　それかT—FMで（笑）。

アレク　それこそ社長の夢のように6万人並ぶかもしれないですねぇ（笑）。

——でも、ヒクソンとやりたいっていうのは意外でしたね。いままでとくに興味示さなかったでしょ？

アレク　興味なかったんですけど、ファンの人たちにホント「目を覚ましてください」って言いたい。ファンの人たちがそんなに引きずらなければ、ボクもそんなに思わなかったでしょうけどね。

結局みんな……ヒクソンが強いっていう、まやかしにあってる人がたくさんいる

——大ちゃん（池田大輔）が言ってたんだけど「最近の格闘技のブームは、東京と大阪だけのブーム。田舎町でオレがマルコ・ファスに勝ったとしても、お爺ちゃん、お婆ちゃんには全然わかんない。だから、あんまり『おいしくない』」っていうようなこと言ってたんだけど、それに対してはどう思います？

アレク　それはボクもそう思ってましたけど、おいしくないわけじゃないですよね。いまボクがこういう状況にあるっていうことは、やっぱり「おいしい」です。そして、『PRIDE』みたいな場でボクが勝つことによって、全プロレスラーがおいしい目にあってほしいと思ってますから。

——いま、はからずも大ちゃんの話が出ちゃいましたけど、バトラーツは、前からバラバラな考えをもった人たちの集まりですよね（笑）。

アレク　そうですね。んむはぁ（微笑）。

——アレクの目には、いま現在のバトっていうのはどう映ってるんですか？

アレク　う〜ん……今年の頭に『原点回帰』っていうテーマでやりましたけど（1・12後楽園大会）、ちょっとみんな、バトラーツ旗揚げ当初の芯の部分をホントに忘れちゃってるのかなっていう気がします。

——それは、そこそこうまくいってるから？

アレク　そこそこうまくいって、他団体に行っても評価されてますよね、みんな。

——みんないい評価受けてますね。

アレク　だけど、いい勉強になったものを自分にうまくミックスしないで、〝自分〟を外に忘れてきちゃってる。なんか、〝外のもの〟で闘ってるような気がするんですよ。

——わかりやすくいうと、自分に吸収しきれてないということ？

アレク　そうですね、自分のものになってないというか、本当の自分を忘れてるというか。だから、着ぐるみを着たまま試合してるような感じですかね。だからちょっと傷がついたら、すぐにボロが出ちゃうような。

——でも、石川雄規とアレクサンダー大塚は、着ぐるみ着てませんよね。

アレク　そう思います。ボクはアレクサンダー大塚っていう基本があって、まわりのものをどんどん吸収してうまくミックスして、どんどん新しい自分というものに変えていきたいんです。ただ着るだけじゃなくって、自分の血とか肉とか皮膚にしたい。

——実にいいこと言いますね！　服に着られるんじゃなくて、服を着こなすということですかね（笑）。

アレク　ええ。ただ洋服を揃えるだけじゃなくって……言葉にすると面白いですね。ボクも言ってて「おぉ、よくこんなことをしゃべってるなぁ」って思いましたよぉ。

——「アレク、自分の言葉に酔う」（笑）。会話してるといろんな発見がありますね。会話というのは大事ですねぇ（笑）。

アレク　だからいろんな洋服を手に入れて、その中でカッコいい要素を見つけたら、それを取り入れて自分で新しい洋服を作らないといけない。ああ、今日はうまく服に例えられましたね。んむはぁ（微笑）。

——ガハハハ！　さすがオシャレな「ダイエット・ブッチャー」がついてるだけのことはありますね（笑）。バトラーツをこう変えていきたいっていうのはありますか？　将来こうなってほしいとか。

アレク　う〜ん、もっとボクを自由にしてほしい！

——それは個人的な願望

Alexander Otsuka

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス゛=.格闘技読本

（笑）。

アレク　う〜ん、バトラーツっていう団体を新日本、全日本と同等に見てもらえればいいと思います。

——それは、ドームに6万人入れたいっていうことではないよね？

アレク　お客さんが何人入ったっていうんじゃなくて、お客さんの考え方とか見方の部分ですね。

——バトラーツは一枚落ちると思われてたのを、リングスや『ＰＲＩＤＥ』のリングで差はないと証明したのと同じように、全日本、新日本相手にも、そう見られるように持っていきたいということですか。

アレク　そうですね。

——やっぱりアレクも情念の人なんだなぁ（笑）。

アレク　新崎人生さんとの試合（3・6徳島）が終わってからは、精神的な部分を大切に闘いたいと思いましたね。新崎さんの影響が大きい部分があるんですけどね。八十八箇所巡礼って回ったことないですけど、新崎さんと闘いたいと思うようになってから、実際に闘うまでの間って巡礼してたような気がするんですよ。試合が決まったときもそう思ったんですよね。二年半という月日をかけて、新崎戦に辿り着いた。辿り着いて、新崎さんと試合してる35分という短い時間の間、そこでも巡礼して回ってた気がします。試合が終わったあともすごくそう感じましたね。

——いいこと言いますねぇ。

アレク　んむはぁ。

——馬場さんの「受け身が基本」って言うのは、ボク的に解釈すると、試合中にレスラー同志の〝対話〟が成り立たなきゃダメだということだと思うんですよ。つまり、対話する以上、「人の話を聞け」ということですよね（笑）。

アレク　んむはぁ。

——でも、ここのところ、基本的には対話を必要とせずに、一方的にしゃべらなければ勝てない「格闘技」というものにプロレスが浸食され始めてた。そこで「コイツらは人の話を聞かないから」と逃げるんじゃなくて、格闘技という一方的にしゃべる人たちの輪の中に入っていって、そういう人たちにも話を聞かせてしまう。アレク選手が『ＰＲＩＤＥ』に出たのは、ある種そういう作業だと思うんですよ。そういった、ある意味、力のいるコミュニケーションをもいとわない精神力を持ってるのがバトラーツの強さですね。

アレク　そうですね。会社に対してさっき聞かれたじゃないですか。いま言われたようなことも含めて、いまのバトラーツは、無理して横道に行く冒険をせずに、本道の脇を歩いてラクしてるような感じがするんですよ。そういう部分では今回の遠征はボクのためだけのチャンスかもしれないけど、ボク的には会社のためでもあるんですよ。だからもっと後押しして出してもらいたいです。もっと会社にチャレンジしてもらいたいですね！

——いま小川選手が面白いのもチャレンジ精神ですよね。言葉にすると陳腐に聞こえるけど、本来プロレスというジャンルの根っこにはチャレンジ精神がなきゃダメですよね。

アレク　だから、今回は会社にチャレンジ精神を持ってもらってボクを海外に長くいさせてもらいたいですね（笑）。んむはぁ。

——ところで、帰ってきてからのプランは？

アレク　そこまで考えてないですけど、しいて言うなら『1・2の三四郎』みたいに会社がなくなるようなことにはなってほしくないです。

——んむはぁ（笑）。

アレク　なくなってても逆に面白いかもしれないですけど（笑）。

——ガハハハ！　帰ってきてバトラーツがなくなってたら面白いですね。バツグンですよ！（笑）。じゃあ、最後に読者にひと言お願いします。

アレク　いつ帰ってくるかわかんないですけど、大きくなって帰ってくるのを楽しみにして待っててください！

といいながらも、アレクはもうすぐ帰ってくる（だから早いっつーの）。しかし、そこはアレク。短期間ではあるものの、海外で着た洋服をただ着るだけじゃなく、自らの血と肉と皮膚にしていることだろう。アレクが、いったいどんな新しい服をつくったのか。これで『ヤンジエネ』が俄然面白くなってきたぞ。要注意だ！　んむはぁ。

【〈『ヤンジェネ』の日程は、P104〜105を見てね〉5月17日海外遠征出発前日に収録】

アレクのプエルトリコ3連戦に同行したユージ★サンタマリアが語る
アレク海外武者修行

現地の美女マネジャーとだらしない笑顔で写真に収まる島田裕二。「載せるな」というので、ご要望通り載せました。んむはぁ

プエルトリコではいきなりジュニアのトーナメントに入れられて、本人もちょっと戸惑ってましたね。プエルトリコ初戦はバトルロイヤルでしたけど、サスケ社長と肌を合わせましたよ〜。実は、2人はファースト・コンタクトだったんですよ。ちょっと嬉しそうにしてましたね。は〜い。2日目にビクター（・キニョネス）が当ててきたアギラはWWFの現役バリバリ。いきなりアレクをWWFに上げられるかどうかのテストだったんじゃないですか？　でも試合は、アギラが三枚くらい上手だったですね。観客の心は掴むわ、試合ペースは掴むわ。この試合でへこまされた〝ルタ（・リーブリ）を破った男〟は、打倒・ルチャに向けてメキシコに転戦したんですよ、は〜い

今日、そのメキシコから電話があったんですけど、同室のアメリカからの出稼ぎレスラーと仲が悪くて、それが一番ムカつくらしいですね。は〜い。試合はだんだん上の方に上がってきたようですけど、実は『シュー・キム』という怪しいマスクマンとしてやってるんですよ。マスクは口の部分が塞がってて、息ができないという（笑）。さらに、メキシコって高地だから酸素が薄いでしょ。そのお陰でえらくスタミナついてるらしいですよ！『もうフルマラソンにも出れる！』って言ってましたよ。は〜い。帰ってきたら、ホノルルマラソンでも出させますか？　ハハハハァ。

突然の帰国？　いや、バトラーツも、やっぱり地方興行ではアレクがほしいんですよ〜。ウチもこの夏を乗り切れないかもしれませんよ！　でも、『紙プロ』よりは先に潰れないっスよ、絶対！『紙プロ』にだけは負けないっスよ！　ケンカのつもりで死にものぐるいでガンバリますよ！　は〜い。アレクの帰国は7月に入ってからですね。TFMホール大会（7・20）では元気な帰国第一声が聞けるでしょう。『ヤンジェネ』にシュー・キムで出るか？　それじゃアレクを帰ってこさせる意味がないじゃないですか。アホですか、あなたは？　ハハハハァ。

【6月16日、アンディにて収録】

プエルトリコでは体調を崩し元気が足らなかったというサスケ社長が、アレクの背中で元気を取り戻したの図　inプエルトリコ

6・9故・ミスター空中氏7回忌追悼興行　at後楽園ホール

すべての歴史は「プロレス」にあり

猪木+藤原÷2+情念=石川雄規

試合には敗れたものの、メインに登場した石川雄規は、この日も元気！　写真のように“イノキ”が出る場面もあったが、全体を通して揺るぎない「ユーキっぷり」を見せた。メインは、その石川社長とジョーさんのバックの取り合いから立ち上がった、実にクラシカルで藤原組チックな展開。観客席を“猪木イズム”“ゴッチイズム”“藤原イズム”溢れる世界へと誘い込んだ。ハイスパートな展開に慣れたファンには物足りなかったろうが、そういう声に対してはひと言だけで十分！「わからない奴がバカなんダーッ!!」（石川雄規調）。そういうことです！

マレンコイズム爆発

久々に来日したジョー・マレンコは、カール・マレンコと組み、「ニューマレンコ・ブラザーズ」として登場。バトの“平成ＢＩ砲”石川雄規＆池田大輔組と激突。ジョーの動きはまるでカール・ゴッチを思わせるかのように力強く、マレンコ道場の凄みを存分に見せつけた。この日から、「グレコ」の名を捨てて「マレンコ」の名を継いだカールは、7・4『PRIDE.6』に出撃。エンセンの兄、イーゲンと対戦する！　エアガイツだ、カール！

ドン先生登場!!

「メガネスーパー・ワールド・スポーツ」とコールされたドン荒川先生が、つぼ原人を迎えうった異次元対決がこの日のオープニングマッチ。「来てみぃ！」と往年のド元気なかけ声も健在。市役所固めで先生がキッチリとフィニッシュ！

ゴッチ・イズム――。

すべての根源はここにある。

10年前にこう書けばリアリティがあっただろうが、いまのマット界の状況を考えれば、遠い過去のことのようにしか思えないかもしれない。

しかし、ゴッチイズムは生きていた。

どこに？

驚くことにバトラーツにである。

この日は、バトラーツの主催興行ではない。

だが、メインを張った４人のうち、石川雄規、池田大輔、カール・マレンコはバトラーツのレスラーである。もうひとりのジョー・マレンコは第一次ＵＷＦ、藤原組に来日していた「マレンコ道場」の継承者だ。

マレンコ道場といえば、カール・ゴッチ直伝の技術を継承するマット界の名門一家である。

ミスター空中さんは、第一次ＵＷＦではレフェリー兼選手として活躍し、藤原組でもレフェリー兼ブッカーとして手腕をふるった人だ。マレンコ道場と日本マット界のパイプもシッカリと繋いでくれた。

空中さんはゴッチさんの娘婿。

つまり、日本マット界が忘れかけていたゴッチ・イズムを、日本マット界に取り戻してくれた人物だといってもいい。

ゴッチさんが唱えていたのは、「バック・トゥ・レスリング」だった。

ストロング・スタイルを日本にほう芽させたアントニオ猪木、ＵＷＦの骨と血を残した前田日明、シューティングを創設した佐山聡――。

みんな、“きっかけ”を辿ればゴッチさんに行き着く。

ゴッチさんの考えを形成している骨格は、関節技とグラウンドを主体にした「プロフェッショナル・レスリング」である。

繰り返すが、いまのマット界の状況を考えれば、こんな話は過去の遺物のようなものかもしれない。

そんななかで、石川雄規は「過去へのリスペクト」を唱え続けている。

それはつまり、「歴史をねじ曲げる必要はない」という、揺るぎない石川雄規イズムである。

この日は、ジョー・マレンコがいた。佐山聡がいた。佐野友飛がいた。バトラーツ勢がいた。ドン荒川がいた。そして芳賀元太までがいた。

そこには、いま言われているような「プロレス」と「格闘技」の稚拙な二元論はない。

すべての歴史は「プロフェッショナル・レスリング」、つまり「プロレス」にあるのである。「プロ」と「レス」の分裂が始まってから稚拙な二元論は始まってしまった。

６・９は下地を持った者たちが繰り広げる「感謝祭」だった。

この祭りを空中さんは、目を細めながら眺めているに違いない。

プロレスはハート・ウォーミングなものなんていうことは、尻の穴が裂けても言わない。

ただ、すべての歴史は「プロレス」にあるのである。

文／個礼翻戸
text by Kore Honto

撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

船木も来た!!

空中さんの７回忌追悼興行だけに、藤原組に在籍していた現パンクラスの船木誠勝、冨宅飛駈、國奥麒樹真、稲垣克臣も大歓声に迎えられて来場！　セレモニーには、石川社長、ドン荒川、佐野友飛、ジョー・マレンコも列席。遺族に対して追悼の意をあらわした

佐山、時代を逆さ押さえ込み

この日、出色の面白さだった初代タイガーマスクvs日高郁人のUFO対決（?）。道着に素顔で入場しリング上でマスクを着けるという、実に佐山チックな場面から始まったかと思えば、日高の素早いタックルを、“掌底押し”で捌く、掣圏道チックな動きを瞬間的に見せる。かと思えば、ローリング・ソバットなど往年の虎殺法も駆使し、ロープブレイクを狙う初代の先ではドン荒川がロープを遠ざける。そしてフィニッシュは、なんと逆さ押さえ込み！　カウント2・99の攻防やラリアットだらけの展開が主流の昨今では、“届かない”試合に属するのだろうが、ノー問題！　VIVA、佐山！

モハ、元気!!

この日、唯一平成プロレスの文脈にのっとった試合展開となったのが「モハメド・ヨネ＆マッハ純二vs小野武志＆土方隆司」戦。この興行のあとのシリーズでも「池田のバカーーッ！」と叫んでいるモハは、とにかく元気だ！

佐野、防衛!!

５・14札幌で奪取したＦＭＷジュニアヘビー級王座を臼田勝美相手に、初防衛した佐野友飛。バーリ・トゥードとプロレスの間を飛び回る佐野の新しいスタンスは、今後のマット界にどういう影響を与えていくのだろうか。そういえば、臼田もＶＴ経験者だ

いや、これホント!!

バト初代営業＆マレンコ道場卒業生、本誌でおなじみ、伝説の格闘家・芳賀元太が、エキシビションとはいえ、遂に姿を現した（いや、これホント）。「さぁ来い！（歯を突き出す）」というかけ声は聞けなかったが、マウント、パスガード、下からの逆十字など、柔術をベースにした見事なムーブを見せ、３代目マッハ隼人相手に「むしゃしゅぎょ～」の成果を存分に発揮したのだ

稔＆タイガーがまさか!!

「田中稔＆タイガーマスクvs愚乱・浪花＆望月成晃」のＪＹＢタッグ対決。新日ジュニアの最前線に躍り出た田中稔がまさかのフォール負け。ピンを取ったのは、望月ことモッチー（逆か？）！　やるぜ、モッチー。タイガーの動きもＶ－Ｖ Ａだった

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

※「紙のプロレスRADICAL」創刊号からNo.4までは完売しました。

No.5 ★打倒ヒクソン！「最後の刺客」

高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
伏せ字だらけの超過激対談パート2
ドン荒川vs藤原喜明
前田日明の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす！
佐山聡（タイガーキング）
★長井満也／柳澤龍志／ディック東郷／愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ／長与千種／ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー／パンクラス旧合宿所誌上大公開！

No.6 ★特集「"プロ"と"レス"融合か分裂か！」

ｎＷｏ総帥**蝶野正洋**ロングインタビュー
前田日明の人生相談＆パンクラス問題に
日明兄さんブチッインタビュー
テキサス・ブロンコ**テリー・ファンク**
ゴリさんこと**アレクサンダー大塚**の
みちのくひとり旅日記'９７／
高田×ヒクソン戦直後、
Puffyに独占インタビューを敢行！
桜庭和志／近藤有己／ザ・グレート・サスケ／TAKAみちのく
★全女分裂４大インタビュー
井上京子／井上貴子
角掛留造／松永高司

No.7 ★特集「反骨の剣」田村潔司ロングインタビュー

読者もシビレまくり！
黒いパンツの心意気・激白**木村健悟**
酒、煙草、男、三禁なんてクソ食らえな
大型不良新人！**中原奈々**（現在失踪中）
「凶器しか使わないプロレスをしたい！」
みちプロ経営危機の真実を
ザ・グレート・サスケが独占告白！
……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載！
前田日明の「人生は語らず」
冨宅飛駈／垣原賢人／モハメド・ヨネ／冬木弘道／MEN'Sテイオー／タンク・アボット

No.8 ★特集「格闘技世界大戦前夜!!」

戦闘スマイル全開**桜庭和志**ロングインタビュー
アントニオ猪木「元気」と「気づき」の
ロングインタビュー
ヒクソンとの再戦が決定！
高田延彦の意気込みを聞け！
「プロレスラーはホントは強いんです記念」
格闘家から見たプロレス
エンセン井上／村浜武洋ロングインタビュー
波動砲！**前田日明**の人生相談
『人生は語らず』
必読！黒いパンツの心意気ＰＡＲＴ２
木村健悟が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る！
業界内外で話題騒然**吉田豪**の書評の星座ＰＡＲＴ２

No.9 ★アントニオ猪木・闘魂連鎖！ 無礼講大特集!!

前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番／ターザン山本／石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前ロングインタビュー＆
炸裂人生相談
日プロＯＢ**吉村道明＆ユセフトルコ＆遠藤幸吉＆駿河海**
大反響!!『格闘家から見たプロレス！』
朝日昇
★谷津嘉章／佐野友飛／ラスカチョ

No.10 ★特集「灼熱の地殻変動'98」

大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談！
とにかく元気！**高田延彦**ロングインタビュー
またもや大爆発！
谷津嘉章インタビュー第２弾！
社長＆会長対談
ザ・グレート・サスケvs松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!
ダイアナ＆宮内美穂
大噴火!! **ターザン山本**の
プロレスマスコミ表紙批評!!
『紙のプロレス』スーパースター列伝 **北沢幹之**
冬木弘道（金村ゆきひろ＆伊藤豪）
ロングインタビュー

No.18

紙プロ読んでスカッとさわやか！

モデル／世界のプロレスで大活躍のスカッと爽やかコーラ・パワーズのペプシ・ボーイ選手とコーラ・キッド選手。

★特集「格闘STAR WARS」
カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVA VIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー
高田延彦／エンセン井上／イーゲン井上／小路晃＆宇野薫
格闘ＳＴＡＲ ＷＡＲＳ座談会
★『Ｓ多重アリバイ』第８弾 **将軍ＫＹワカマツ**

「外人さん、いらっしゃ～い」
F・シャムロック／G・グッドリッジ／R・グレイシー
『怪物通信』G・アイブル
『闘魂猪木塾とは何か？』

No.11 ★特集「格闘Viagra'98」

高田延彦vsエンセン井上エネルギー
エクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後
初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評！
「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）／福田雅一
★ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本
★バト両国進出記念
石川雄規／トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるＳＷＳの真実
「Ｓ多重アリバイ」**アポロ菅原**

No.12 ★特集「格闘TEPODON!!'98」

ヒクソン戦直前！ **高田延彦**ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ！祭り囃子を鳴らせ!!」
浅草キッド登場
人気大炸裂！
「Ｓ多重アリバイ」第２弾 **アポロ菅原**
★桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本健一／神取＆北尾／八木淳子／ダンプ松本
猪木イズム世界一決定戦
石川雄規＆ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ**前田日明**人生相談
「人生は語らず」!!
話題騒然!! What is プロ格闘家？
菊田早苗＆郷野聡寛

No.13 ★特集「四角いジャングルRADICAL」

実写版『１・２の三四郎』
降臨！ **アレクサンダー大塚**インタビュー
『10・11 ＰＲＩＤＥ.4』とは何か？
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中を
リアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
『高田vsヒクソン戦』!!
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
『10・11 ＰＲＩＤＥ.4』
大反響！『Ｓ多重アリバイ』第３弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／松永光弘／リッキー・フジ／堀辺正史

No.14 ★特集「格闘DREAM CAST」

前田日明独占ロングインタビュー
これが**カレリン**の発した言葉だ!!
池田美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中！ **金原弘光**
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!
『高田道場 1999！』
高田延彦／桜庭和志／佐野友飛
松井駿介／豊永稔
『Ｓ多重トンパチ』第4弾 **折原昌夫**
★『虎の尾を踏む男たち'99』
小路晃／４代目タイガーマスク
村上一成／宇野薫

No.15 ★特集1「格闘MARS ATTACKS!」

橋本戦の核心を語る
小川直也with.Ｓ.Ｓインタビュー
佐山聡／４代目タイガーマスク
ＵＦＯ襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明ＵＳＡ特訓を直撃！
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド／アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場！**ＳＡＳＵＫＥ**
『語ろう**マサ・サイトー**！』
『Ｓ多重アリバイ』２連発！
佐野友飛＆Ｍｒ.Ｗ

No.16 ★特集1「格闘ノストラダムス'99」

修斗ヘビー級王者
エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／村上一成／マーク・コールマン／石川雄規／ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占ロングインタビュー！
大好評！「語ろう」シリーズ第２弾！
『語ろう**ジャンボ鶴田**』
大反響！ＳＷＳを再検証せよ！
『Ｓ多重アリバイ』第7弾**石川孝志**

No.17 ★特集1「格闘MAKE JUNGLE」

ＵＦＯ襲撃三昧**小川直也**インタビュー
桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木／豊永稔／マグナムＴＯＫＹＯ／池田大輔／宮戸優光
★特集2「新生リングス Bone&Blood」
前田日明／山本宜久／成瀬昌由
Ｒ・クートゥアー
★タイガー・戸口／矢口壹琅／『怪物通信』
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）

●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、
〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。

●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。
代金はNO.5～NO.10=680円 NO.11～NO.18=780円
送料1冊=310円 2冊=340円 3冊～4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円

●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ

“猪木イズム”を叩き込みますよ!! U系といわれるところに

この号が出る頃には、6・29UFO大阪決戦を終えている小川直也。しかし、直前に控えた『PRIDE.』初出陣! 高田延彦への挑発! そして実現一歩手前のリングス・山本宜久との8・19決戦と、常に懐に時限爆弾のスイッチを忍ばせているオーちゃん。襲撃三昧は、今夏一段とパワフルになりそうだが、今回咆吼する先はズバリ言って、U系だ! 飛行機ポーズで快進撃を続けるオーちゃんを止める奴、デテコ～ヒ!(4・29バージョン)

襲撃三昧、さらに本格化!!

小川直也

PRIDE出撃直前INTERVIEW

8・19山本(リングス)戦実現間近!

聞き手/山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影/斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

UFOは「すべての格闘技はプロレスに通ずる」という会長の理念を現した団体

オーちゃんが、5月下旬から6月上旬にかけてのNWA世界ヘビー級王座防衛サーキットinUSAを完了し帰国したのは6月13日。その翌日、ジックリと話す機会を得た。UFO&小川直也周辺のサザ波は、リングス、パンクラス、『PRIDE』、高田延彦、ヒクソン・グレイシー、新日本プロレスへと広がっている。プロレス・ファンの皆さま！　小川直也周辺のサザ波から目を離さないでくださーい。

——いま小川さんは、どんなものが「面白い」と思うんですか？

小川　何の気なしに見て面白そうなものですね。

——へ？　よくわかりませんけど、例えば嫌いなものでも「面白そうだ」って思うことはあるんですか？

小川　ありますよ！　見てるうちに考えが変わったりね。

——ああ。そこらへんがキャパシティーの広さでしょうね。普通は「嫌いなものは嫌い」って近寄らないでしょ。

小川　「嫌いだけど、とりあえずは見てみようかな〜」と思うんです。どんなものにもそれを好きな人はいるから、「みんなこれのどこが好きなんだろうな？　どこが面白いんだろうな？」って、かえって考えてしまう（笑）。

——好奇心旺盛なとこも猪木イズムですね。もしかして、小川さんの登場で、「嫌いだけど、とりあえずは見てようかな〜」という格闘技ファンも多いかもしれませんね。

小川　ハハハハ。それはそれでいいんじゃないですか？『紙プロ』っていうのは、プロレス寄りなんですか、格闘技寄りなんですか？

——もちろん、プロレスです！　でも格闘技でも面白いものならOKです。

小川　『紙プロ』とUFOのスタンスっていうのは思いっきりかぶってるね！（笑）。

——ガハハハ。だけど、新日本や高田さんを始めとして、UFOはなんで嫌われるんですかね。

小川　会長（アントニオ猪木）は、最後の業界の巨頭なのにね。

——たぶん面白すぎるんでしょうね（笑）。でもこれは猪木イズムの謎ですが、いつも多勢に無勢になっちゃいますね（笑）。UFOの存在もアウトロー的だし。そこからどう挽回していくかというのが見てて面白いんですけど。

小川　やってても面白いですけどね。いまUFOのノリは若干、弱小ですけどね。カードもなかなか決めてくれないし（笑）。

——ズバリ言って、発表も遅いし（笑）。

小川　でも、会長、ロスで暴言吐いてましたもん。俺がいる時、「マスコミが早くカード発表してくれなきゃ困る」って日本から電話があったんだけど、「うるせぇ！　カードのマスコミ発表なんかいらねぇよ！　当日会場来た奴にコピーして渡せ！」って。「カードなんて当日発表でいいんだ！」って（笑）。電話を取り次いでた俺も、電話してきた人に向かって「うるせぇって言ってます」とか言っちゃったりして（笑）。

——ガハハハ！　凄い！　細かいことなんかどうでもよくなりますね。いまのはなんか、凄くスッキリしました（笑）。ところで、アメリカではなにか収穫はありましたか？

小川　いや、毎日が面白すぎてね（笑）。アメリカは広い！　ダラス、ボストン、アトランタ、ペンシルバニア、フィラデルフィア、ロスアンジェルスと回ったんだけど、不思議なのはね、必ず移動の飛行機が朝一番（笑）。なんなのかな、あのスケジュールは。何もない時でも朝一番なんですよ（笑）。

——朝イチって何時なんですか？

小川　6時半とか、7時半とか。

——比較的、ローカルな会場での防衛戦でしたね。

小川　あ〜。でも、最後の会場（ニュージャージー）はわりと入ってたね。千何百人入ったんじゃないの？　高校の体育館だったんだけど。その前は雨でシラケて、ダラスはダラスで入らないし（5・28ダン・スバーン戦）。ダラスはパッと見で800人くらいかなぁ……。

——小川直也ともあろう者が、そんな小さな会場で試合をやった感想は？

小川　それはそれで。何でも経験ですよ！

——そのダラスの翌日には、飛行機がエンジントラブルを起こして防衛戦が飛んだんですよね。

小川　こっちはヒヤヒヤもんだったですよ。地元の人に、「この時期は（朝イチなら飛行機が空くから）大丈夫ですよ！　1時間半前に着けばいいですから！」（空港には）って言われてたけど、その言葉とはうらはらに空港はギッチリ混んでてね。朝5時に空港に着いたにもかかわらず「ヤバイな、これは！」と。ズッと待って、やっとカウン

■NWAサーキット完了!!

途中でトラブルは多々あったものの、5•28のダン・スバーン戦を皮切りに、6•2ゲイリー・スティール、6•4ダグ・ギルバート、6•5フレデリック・ヘルムと連破し、アメリカをサーキットしながらNWA王座を4連続防衛した小川。写真は5•28のスバーン戦（ダラス）。最初は柔道着を着て闘ったものの、途中からいつものUFOスタイルへとチェンジ。「会場が暑いんでやめた。ちょうどスバーンに柔道着を引っ張り回されて脱げかかったんで、『脱いじゃえ』と。『脱がしてくれてありがとうって感じだね』」。スバーンとは両者リングアウト防衛だった。

ターにたどり着いたのが離陸15分前。満席でいきなりキャンセル待ちになって。「どうする?」って聞かれたけど、こっちこそどうすりゃいいのか聞きたかったよ（笑）。「次の便にするか?」って聞かれて、迷惑料っていうことで6ドル渡されてね。

――それはまたチンケですね（笑）。

小川　「これでメシ食ってくれ」ってさ（笑）。

――そうすると、5・29の防衛戦が流れたのはエンジントラブルじゃなかった?

小川　そう言われてるけど、実際は飛行機に乗れなかった（笑）。試合は夜からだって聞いてたから、まだ間に合うと思って次の飛行機に乗ったんですよ。そうしたらスチュワーデスが「電話がかかってる」と呼びにきて。それが会場からで、「もうこっちは終わりそうだから」だって（笑）。

――ガハハハ! 夜じゃなくて昼間の興行だったんですか?

小川　休日の関係で繰り上がっちゃったらしくてね。だから「話が違う!」と言ったんだけど。でも「間に合うかもしれないから、とりあえず来てくれ」っていう話になってね。「行くだけムダだよ! ボストンに行くより、そのままダラス経由でアトランタに行った方がいい」とは言ったんだけどね。会場に行ったら案の定終わってた（笑）。でも日本人のファンが観に来てるからねー。

――記念撮影をしてお茶を濁したと（笑）。

小川　それでアトランタに向かうんだけど、その飛行機もやたらと早い時間でね。

――いまさらながら大変ですね、サーキットというのは。結局防衛戦は4回やったことになりますが、一番印象に残ったのが、6・29で再戦することになったゲイリー・スティールなんですか?

小川　最初のダン・スバーンにも苦戦しましたけどね。スティールはこれからの選手って感じで、まだ若いんですよね。

――25歳だそうですね。

小川　うん。イギリスでレスリング・オブ・ジ・イヤー取った選手とかで、前評判が良くてね。けっこうガタイがよくて、マーシャルアーツもやってたとかで。この間の試合は雨の中だったからね。リングも雨の重みで真ん中とかが沈んじゃったりして。

――またちゃちなリングですね!（笑）。

小川　ま、雨でスッキリ決着というわけにはいかなかったんで、NWAからはもう一回やり直し、指名試合ということになって、6・29の再戦が決まったんですよ。

――なるほど。グッドリッジといい、ここんとこ、ゲーリーづいてますね。6・29には『大巨人』というのも来るらしいですね。最初のカード発表も『大巨人』だったけど、名前はないんですか?

小川　これは凄い! 名前はビッグバン・ベイダーUFO! アントニオ猪木・談（笑）。オマケに『UFO』までつくんだから。類似品にはご注意なんだけど、こっちのベイダーの方が凄いって話ですよ。

――どんなヤツなんですか!?

小川　メチャクチャ強いらしい! もともとはアマレス、フリースタイルのユナイテッド・チャンピオンだという話ですね。打撃もフリーファイトの経験があるからできるし、プロレス団体にも出てるらしいし。地元のヘビー級のタイトルを持ってるのが『大巨人』らしいですから。カナダ出身で、アダ名は『ベアー』らしいです。（マーク・）コールマンとスパーリングやって、タップ取ったこともあるらしいし、地元ではマーク・ケアーより強いんじゃないかとも言われてますよ。

――ゲ! ケアーより強い! それが本当なら、UFOは凄玉を発掘しましたね! ゆくゆくは小川さんともやることになりそうですね。「小川直也vsビッグ・バン・ベイダーUFO」! それはぜひ見たいですよ!

小川　そうなるでしょうね～。怖いな～（笑）。でも、マジで強いらしいですよ、コイツは。体もデカいんだ! 身長2メートル、体重145キロで筋肉質! それで宙返りができるくらい身軽! コーナーポストに登るのにもひとっ飛び!!

――それはゼヒ見たい!!

小川　見たいでしょ!?　会長もそれ見て唸ってましたもん（笑）。

――夢がありますね！　6・29のベイダーUFOの相手は日本人じゃないですね。

小川　会長が言うには「外人だから対日本人にするなんていうのは考え方が小っちぇえ！」ってことです（笑）。

――猪木さんがそう言うなら、そうなんでしょうね（笑）。

小川　UFOは、アメリカにも視野を向けてますから！　会長は、「日本人だろうが外人だろうが俺は関係ねぇよ。面白けりゃいい」と言ってます（笑）。

――そうなると、UFOにはまだまだ未知の強豪の参戦が期待できますね。

小川　そうですね。話を聞いてると、俺もぜひ見たい連中ばかりだから。

――俄然楽しみになってきました。さて、いま騒がれているのは、小川さんのリングス参戦ですね。山本（宜久）選手が小川さんに対戦表明してきましたが。

小川　いや、俺は挑戦されるほど偉くはないから（微笑）。こっちは襲撃専門！　乱入専門!!

――ガハハハ。とんだ専門家ですね（笑）。

小川　こっちは挑戦するほうなのにね。挑戦なんてされたら、ミイラとりがミイラになっちゃったみたいなもんで（笑）。

――山本選手いわく「強いと言われている選手と闘ってみたい」ということですね。

小川　まぁ、でもいまは目の前の6・29のUFOのほうが大事ですからね。実現できればいいとは思いますけどね。

――小川さんは「リングに乱入してくれば対応せざるをえない」というコメントを出してますよね。

小川　そう言っとけば、6・29には来てくれるかな、と。「来いよ！」とまで生意気には言えないから。

――今日は実に謙虚ですね？（笑）。

小川　「乱入したら面白いんじゃないの？」とかね（笑）。本当は「来い！」と言いたかったんだけどね。「目を覚ましてください！」もそうなんだけど、つい丁寧になっちゃって、イマイチ根性がないのかな、と（笑）。

――ガハハハ。そうなんですか？（笑）。

小川　でも、リングスさんにはウチに来てほしいんですよ、やっぱり。多くの人に見てもらうために、少しは盛り上げてほしいかなと。俺が行く前に、どんな形にしろ、大阪に来てもらわないことには始まらないんだけどね。

――この本が発売されるころには大阪大会は終わってますけど、状況はどうなってるんですかね？

小川　「待ってま〜す」って感じですね。試合で負けてたらごめんね〜、と（笑）。

――リングスは、いわゆるUWFの流れを組んでるわけだけど、盛んに小川さんが対戦要求をしてる高田（延彦）さんもそうだし、小川さんが対戦要求したりされたりしてる相手がU系に寄ってきてますよね。パンクラスの渡部（謙吾）選手もTVで「小川選手とやってみたい」と言ってましたし。

小川　渡部選手ってR系じゃないんですか？

――は？　なんですか、それ？

小川　ラグビーのR！

――そのまんまですよ！（笑）。

小川　くだらなかったっスね、すいませ〜ん（笑）。いや、U系の選手が重なったっていうのは偶然です。あまりそういう感覚にはとらわれてない……たまたまですよね！

――それはまた説得力ないですね！

小川　偶然かタマタマか。挑戦されるタマでもないし、と（笑）。

パンクラスって乱入はダメなんですよね、あそこは？　キビシイよな〜

Naoya Ogawa interview

――ダジャレか（笑）。でも「もうUの時代じゃない！」という意識はあるんじゃないですか？

小川　う〜ん。UFOもUだからね（笑）。

――どっちのUが本当のUかはっきりさせようということなんでしょうか？

小川　どうなんでしょうかねぇ（意味シンな笑み）。やっぱりUWF系っていうのはひとつのジャンルに固まっちゃってる。UFOは何でもありだからね。何が起こるかわからない！　UFOには引き出しがいっぱいあって、開けるといろんな物が一杯出てくると。「猪木イズム」というよりは「猪木ワールド」、そういうふうに考えればいいんじゃないですか？　観てくれて「面白かった」っていうのでいいと思うんですよ。その上で深く考えてもらうっていうのはいいと思いますから。考えるファンもいてくれていいし。U系も細かいこと言わずに、やりたかったらやりましょうということですよ。とにかくファンが望むものを提供できるのがプロレスラーだと思うし。「いつ、何時」っていうね。だいたいU系もなにも、元の源流を辿れば全部会長じゃないですか。そのわりには猪木イズムのカケラもないんじゃないですかね。

――いまのU系に猪木イズムを叩き込んでやる！　ということですか？

小川　叩き込むしかないでしょう！

――（大拍手）！

小川　基本スタンスとしては、僕は他人が何してようが、何言ってようが、全然関係ないんですよ。他人にかまけてるよりは、UFOでいまやってることをやっていかなければいけないっていう部分がありますから。

――小川さんには今後、細分化したマット界を、闘いを通じてまとめあげていくという野望はないんですか？

小川　まとめるっていうより、UFOに全部吸収……いや、そんなことを言うとまた角が立っちゃうな（笑）。これだけはなるようにしかならないんじゃないスか！　時代の流れに沿って「ゴーイング・マイウェイ」で行きましょうということです（笑）。

――ところでさっき話に出た、パンクラスには興味あるんですか？

小川　渡部選手とはファンが観たければやらなきゃならないでしょうね。それをきっかけに交流戦とかできたら面白いかもしれないし。全然、他の選手の名前知らないんですけどね（笑）。船木（誠勝）選手は広告のポスターとかでよく見て知ってますけど（笑）パンクラスさん、UFOを無視しないでねと。

――小川さんとパンクラス勢の絡みっていうのは、ある意味どうなるのか想像できませんね（笑）。

小川　乱入はダメなんですよね、あそこは？

――ズバリ言って、非常にダメでしょうね（笑）。

小川　キビシイよなー（笑）。

――パンクラスで乱入なんかしたら、もう驚天動地ですよ。

小川　また「帰れ！」って言われるんだろうな。ファンにこういうこと言うのはいけないんだけど、「そこまで言わなくたっていいじゃねぇか！」って思うね。とりあえず見てから文句言ってほしい（笑）。

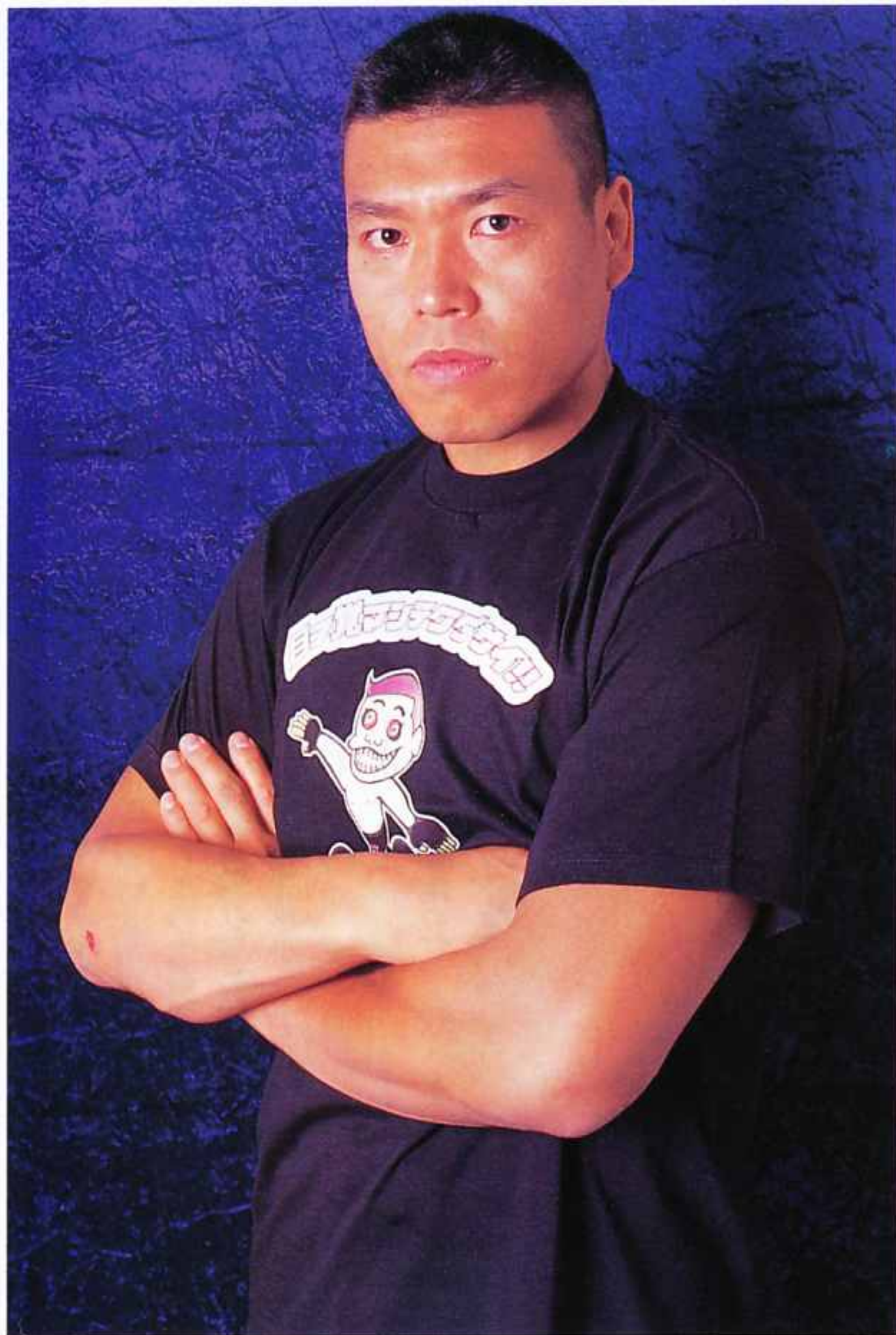
――高田選手には、今後も対戦要求はしていくつもりなんですか？

小川　がんばってはいるんですけどね。ここまで膠着状態になっちゃうと……「またいつかお願いしま〜す」って感じですね（笑）。

――ガハハ！　また謙虚モードだ（笑）。

小川　押してダメなら引いてみな、ということですよ。引きすぎても、なくなっちゃうから難しいんだけどね。その引くタイミングについては僕は素人なんで、もっと知りたいです（笑）。

――押すタイミングだけは玄人（笑）。前号で、高田さんは「一応この世界で20年やってるんだから、自分のプロレスラー論というものも持ってる。オマエに『オマエ』って言われたくないよ」と言ってました。

小川　う〜ん。確かに「ごもっとも！」な意見ですね（笑）。高田選手には高田選手なりの理想があるんでしょうから。でも俺にとっては、夢を与える仕事をやってる以上、そして自分自身を奮い立たせる意味でも、これは大きな意味があると思うんですよ。少なからず高田選手はメジャーな選手だし。ただ、一度はやってみたい選手じゃないですか！　だから、自分自身の励みにしたいという意味では、素直に「お願いします！」という気持ちなんですが、闘うのに先

エンセンにわかってほしいのは、あれが俺の仕事!! 俺のやり方なんです!! 以上

輩後輩は関係ねぇですから!! 高田さんに限らず、俺は強気で行く! ということですね。

—7・4にはゲーリー・グッドリッジ戦が決まってますけど、その高田さん自身が「小川戦をやる意思はない」と発言している今後、『PRIDE』での標的はどうなっていくんですか?

小川 う〜ん、ぽっかり穴が開いちゃったね。勝ち負けはともかく、高田戦がやりたくて『PRIDE』に来たわけだから。グッドリッジ戦をステップにして、次に高田さんとやるというのが理想だったんだけどもね。高田さんに勝てば、次はヒクソン(・グレイシー)とかそういう大きな標的も見えてくるだろうし。

—ヒクソンは、4・29でリング上で花束を渡しましたけど、実際リング上で会ってみてどうでした?

小川 あの日はデモンストレーションだけで、完全な試合向けに作ってきた体じゃなかったから、あの場だけでは何とも言えない。格闘技は記録競技とは違うから、「何秒出せれば勝てる」というのもないし。1対1の勝負だから、やる時に調子のいい方が勝つと思うし。

—オーラは感じませんでしたか?

小川 う〜ん、オーラっていうかね、いざ会ったら、ああいう身長だったからね。

—小川さんの方が頭一つ大きかったですね。それにしても花束渡しに行った瞬間はドキドキしましたよ(笑)。

小川 俺も「何かやんなきゃいけねぇかなぁ」って気持ちだったんだけど、それはドリームステージ側からきつく止められてね(笑)。「キャンセルされたらどうしてくれるんだ!」って。「キャンセル料払え!」って言われたらこっちも困っちゃうしね(笑)。

—飛行機会社と同じ相場なら、ドリームステージに迷惑料6ドル払えばいいんですけどね(笑)。

小川 ハッハハハ! 6ドル渡して「これでメシでも食ってくれ」ってね(笑)。

—ヒクソンが小川さんのパフォーマンスに対して激怒したとも伝えられていますね。

小川 激怒? してないでしょう! 「何やってんだ? バ〜カ」と思ったかもしんないけど。

—ガハハハ! そう思われてていいんですか?

小川 むしろ向こうよりバカで行こうと! バカの方がラクだし面白い!

—この間亡くなった由利徹さんみたいなこと言いますね(笑)。ヒクソンには、やはり選手として魅力を感じますか?

小川 魅力っていうか、あそこまで強いっていう伝説を作ってる選手ですからね。勝ち負けはともかく、一度はやりたいですよ。勝負ですから、確かに結果は時の運ですよ。でもまぁ……やる前に負けることを考えてはやらないですけどね!

—「やる前に負けることを考えるバカがいるかよ!」by猪木ですね(笑)。小川さんには、高田さんよりもぜひヒクソンとやってもらいたいですね。

小川 そうですね、でも、とりあえずいまはUFOでいろいろあるんで、そっちの方が面白いんですけどね。『PRIDE』とか、高田戦やヒクソン戦だけがどうこうじゃなく、興味ある目の前の対戦を一つ一つやっていきたいですね。行けばわかるさ!

—目前に控えた7・4のグッドリッジ戦ですけど、対策は練ってるんですか?

小川 一応ね。ンムフフフ。

—グッドリッジが出したメッセージが、「小川は先日の『PRIDE.5』でわけのわからないパフォーマンスをやって、神聖なリングを汚した失礼極まりない奴。パフォーマンスがやりたければ俳優にでもなったほうがいい。俺様のパンチでそのよく動くアゴを砕いて黙らせてやる!」というものだったんですけど。

小川 賢いメッセージだよね(微笑)。

—賢い?

小川 ケンカに言い訳つけたたっていう。ひと言「テメェは生かしておかねぇ!」って言うだけなら、俺はブルブル震えてたに違いないのに。なんか賢いコメントだから面白ぇなあと思って(笑)。

—いや、そういう小川さんもバッグンに面白いです(笑)。

小川 ひと言だけなら怖かったのに、長いメッセージだからニヤニヤしちゃいました(笑)。怒ってるっていうわりには長いですよ、それ。本当に怒ってりゃ、ひと言で終わるところだろうに。まあ、どっちがリングに伸びてるかは当日になったらわかるでしょう。

「NEWオーちゃんTシャツ」を着て飛行機ポーズを取ってくれたオーちゃん。このイラストは、悪魔をモチーフにしたものらしい。「着たいやつ、デテコ〜ヒ!」

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス≒格闘技読本
SPECIAL

—そういえば、4・29の高田挑発に関して、エンセン(井上)選手が「小川さんの乱入で一番最後にサーカスみたいになっちゃった」って言ってたんですけど。

小川 ?? サーカスって言われりゃサーカスなのかなぁ(笑)。

—なぜそこで認めるんですか!(笑)。

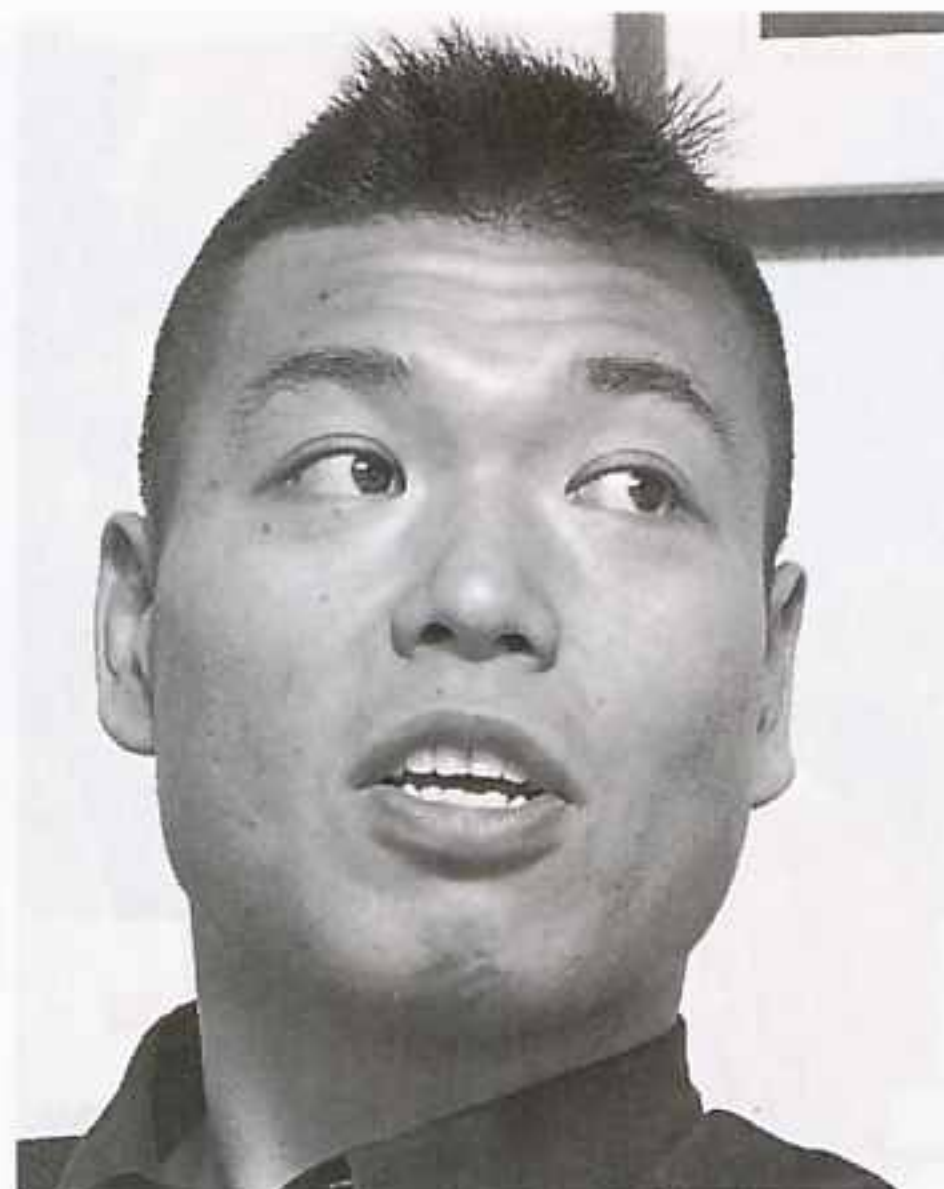
小川 何とでも言えるからね。エンセンがそう見たなら、そう見たでいいし。でもそれが気に触るようだったら「ごめんネ」ってことですよ(笑)

—「さっきはごめんね」っていうことですか?

小川 それが気に入らなかったらごめんなさい! でもエンセンにわかってほしいのは、あれが俺の仕事なんです! 俺のやり方なんです! 以上!!

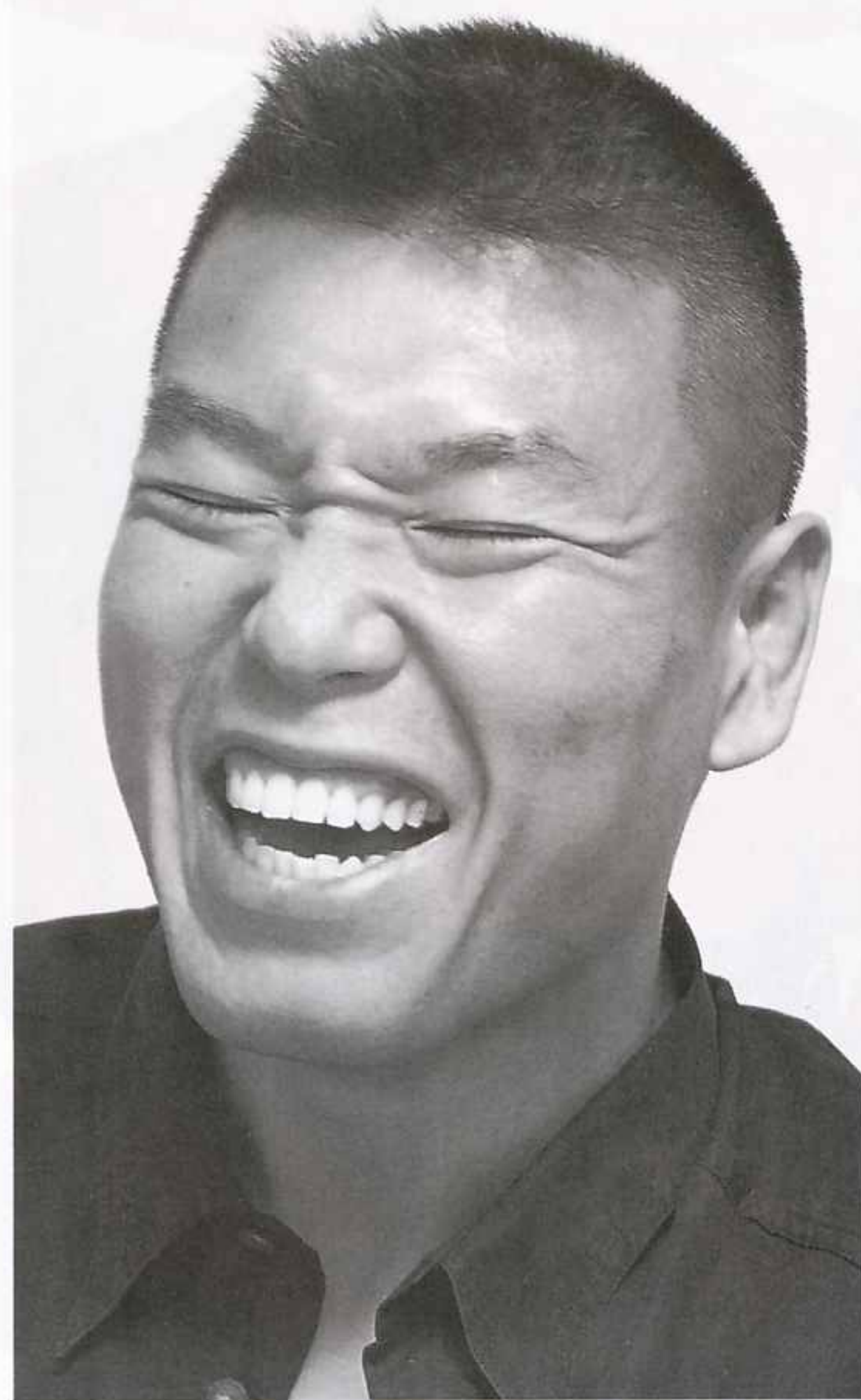
—さすが乱入専門ですね(笑)。でも、どうも小川さんのやり方は嫌われるようで『週刊プロレス』には、「プロレスと格闘技の棲み分けを願う多くの格闘家にとって、スタンスの曖昧な小川の登場が気に触るのは当然」と書かれてます。まるで小川さんが邪魔かのように書かれてますよ(笑)。

小川 『週刊プロレス』は一時わかったのかなぁと思ったんだけどね。いいこと書い

てくれたし。でも、またわけわからなくなっちゃったね。UFOのスタンスは、プロレスと格闘技をひとつにまとめて素晴らしいものにしようということですから。「すべての格闘技がプロレスに通じる」というアントニオ猪木の理念を現した団体ですから！

——「すべての格闘技がプロレスに通じる」！　いい言葉です。

小川　はい！　そこに所属しているということは、それを訴えていかないといけないわけですからね。早い話が、「観ていて面白ければいいんじゃないの？」っていう話！　格闘技だってプロレスだってつまんないものはつまんない。ボクシングだってKOで決まれば「面白かった」となるでしょう？

——ボクシングもバーリ・トゥードも膠着しちゃうと面白くないですからね。

小川　いまは何でも「これはこっち、それはあっち」って自分の範疇で括っちゃってる。やるほうは一つでやって、ジャンル分けは観る方が分けてくれればいいんですよ。

——それは新しい意見ですね。

小川　チョイスするのはお客さんの勝手なんだから。いいものもあれば悪いものもあるんだから。ウチらは風呂敷広げてナンボですから。

——いまは、むしろ選手側やマスコミが「プロレス」と「格闘技」の線引きをしてる傾向がありますね。

小川　そうなると、どうしても閉じこもって、狭いほう狭いほうへ行っちゃう。そんなに選ばずに、ざっくばらんにワ～ッとやってればいい。俺個人の考えとしては、面白ければいいんじゃない？　と思ってます！

——面白くなきゃダメ、というのはごもっともです。

小川　細かい話は抜きにして、それを観て感動したり、熱く語ったりして、お客さんがひとときの時間を過ごせればいいんじゃないかなぁと（笑）。

——ひとときを過ごしますか（笑）。

小川　1・4に橋本（真也）選手とやった時も、凄く（インターネットの掲示板上に）書き込みがあった。浅草キッドなんか、もう裏ビデオ以上に50何回も擦り切れるくらい、あの試合を見てくれたらしい（笑）。それくらいみんな時間費やしてくれるんだから。

——観る方もエネルギー使うわけですよね。

小川　自分の中で納得行かない部分があれば書き込みして、そこでもエネルギーを使うと。だから、ウチらがエネルギーを与えてあげないといけないんじゃないでしょうか。

——これからもどんどん問題提起をしていくということですね。

小川　こっちはもう、俺のことをキライだったらキライでいいと。好きだったら「どうもありがとう」と（笑）。

——実にわかりやすいですね！（笑）。

小川　俺も良き師匠に恵まれてるから。環境は人を作るって言いますからね。

——猪木さんは環境問題の専門家ですしね（笑）。

小川　バックアップには言葉にならないくらい感謝してますよ。

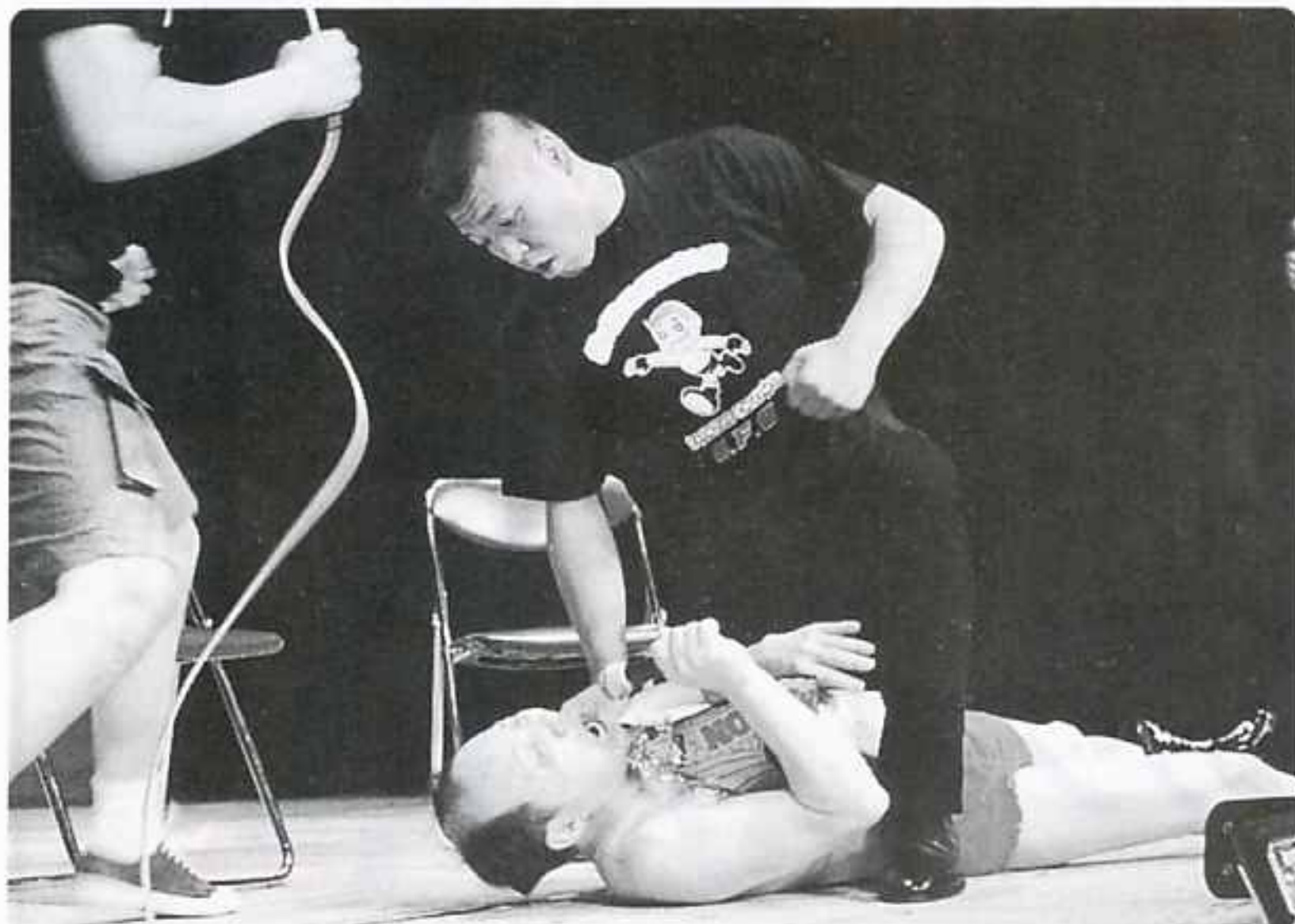
——新日本や全日本の、いわゆる「純プロレス」と呼ばれているところで試合をやることに関しては？

小川　ファンが望めば全然、OK！

——まずはファンのニーズなんですね。

Naoya Ogawa interview

6・14、オーちゃんは本誌の取材が終わった直後、新宿シアターサンモールで行われた「浅草お兄さん会」に乱入！　浅草キッド相手にトークでNWA王座を防衛し、最近舞台づいている“冬の恋人”ターザン山本にも「目を覚ましてくださ～い」とばかりにマウント・パンチをお見舞いした！

最強？

小川　だって「勝手にやってくれ」とお客さんに言われたら一番空しい（笑）。新日本との対抗戦だって、まったく可能性がなくなったわけじゃないからね！　やれば、やっぱりあの時を思い出して「こんチクショウ！」ってなるだろうから。だから停戦協定が解かれれば、いつでも武力行使で仕掛けますよ！

——武力行使!!　橋本選手もようやく復帰しましたね。

小川　そうだね。そういった意味ではいつでも武力行使したいですね。武力行使されちゃったんだから、ウチは、1・4で。1人死にかけましたから。多勢に無勢でね（1・4の乱闘時にUFOの村上一成が新日本勢に囲まれ集団リンチ状態になった）。大勢の大衆の前でイビキまでかいてましたから。本当はあそこまでやられたら常識的には訴訟起こしてもいいんだけど、敢えてUFOは闘いの場を残した！　羽交い締めにして相手を殴り、さらに気絶してる相手を足蹴にする行為なんていうのは、ハッキリ言って人間のやることじゃない。村上選手もちゃんと1対1でやりたいって言ってます！　やった奴は覚えてるそうだから。

——いやぁ、これからもUFO周辺には物騒な話が続きそうですね。

小川　俺も新日本のやり方っていうのは許せないしね！　あれは一種のリンチですよ！　気絶したら普通はそこで終わりですよ。それをさらに踏みつけたりするなんてね。殺しちゃったらどうするつもりだったんですかね。1対1の闘いで死ぬなら仕方ないけど、あれは闘いでも何でもない。ウチは忘れたわけじゃないですよ！　ウチはいつでも再開OKです!!　新日本プロレスの皆様、1・4を覚えておいてください!!　まあでも、UFOは、ひとつの方向に拘らずに、行けばわかるさ！　この精神でいきますよ!!

——まさに、いつ何時、なにが起こるかわからないですね（笑）。その飛びっぷりに期待してます。

小川　墜落しないようにしないとね（笑）。

【6月14日／京王プラザホテルにて収録】

6・29　UFO大阪決戦　星取り表！

■勝ったほうにマル。負けたほうにバツをしましょう■

NWA世界ヘビー級タイトルマッチ
□小川直也vsゲイリー・スティール□
□村上一成vsビリー・スコット□
□ダン・スバーンvsジャスティン・マッコリー□
□ジェラルド・ゴルドーvsフレデリック・ヘルム□
□ビッグバン・ベイダーUFOvsエリック・オルリッチ□
□石川雄規（バトラーツ）vsリー・ヤングガン□
□小幡太郎（JJA）vsジェイソン・ブレス□
□日高郁人（バトラーツ）vsショーン・マッコリー□

※カードは6月23日時点での発表のもの。ビッグバン・ベイダーUFOの相手がビビり、変更という話があるので、カード編成は変わるでしょう。ま、「カードなんて当日発表でいいんだbyアントン」ということで。

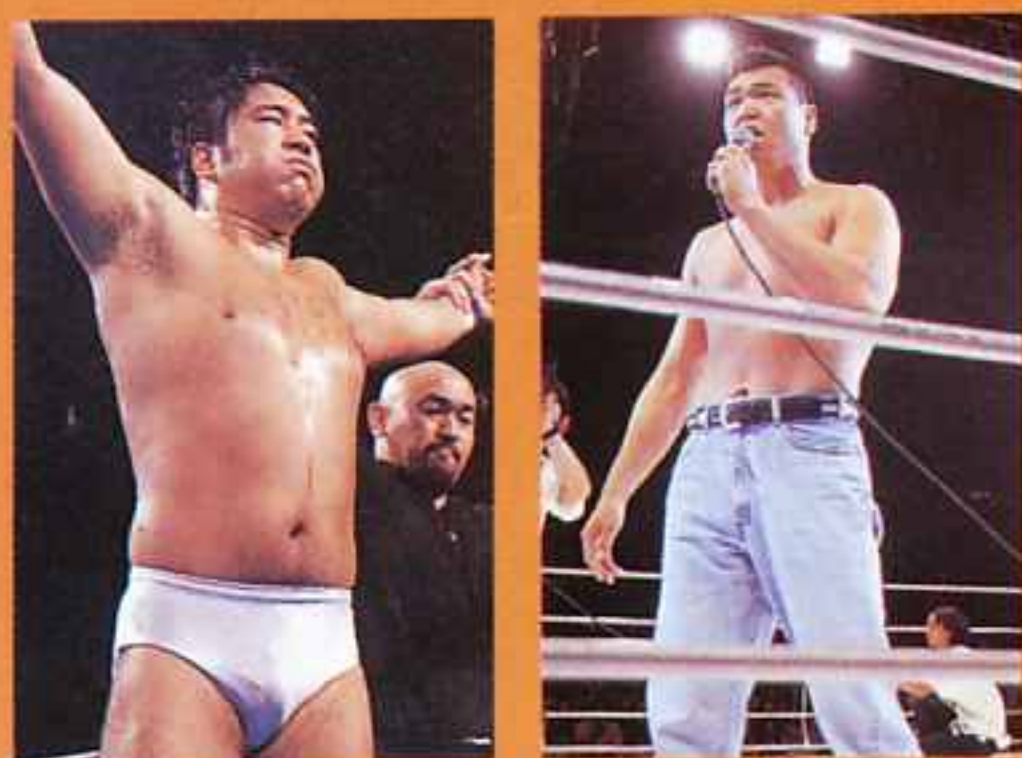
小川直也、遂にバーリ・トゥードに初出陣！
PRIDE.6　7・4　横浜アリーナ　18:00開始
小川直也vsゲーリー・グッドリッジ
【問い合わせ】ドリームステージエンターテンメント　03・3552・6300

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス≒格闘技読本
SPECIAL

白熱の時間切れドローとなったメインの田村潔司vs山本宜久戦以下、鮮烈無比な試合が続いた6・24後楽園ホール大会。「大リングスコール」が響きわたったこの大会は、新生リングスの可能性を見せつけることになった。この大会が行われるまでリングスは揺れに揺れた。6月の愛知大会中止、rAwチーム直前キャンセル問題、『噂の真相』誌上での中傷記事、興行形態の変化、バーリ・トゥードの脅威、そして小川直也に対する山本の対戦要求！　いま、前田日明総帥は何を考えているのか――!!

前田日明

CEO INTERVIEW

小川問題、rAwチーム問題、リングスの諸問題、マット界の今後、前田総師の視線の先を探れ!!

「小川が挑発してきたら？『俺がリングに上がる前にお前が降りてこい』って言うよ」

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga

批判と侮辱は違うんだよ！ 侮辱は絶対に許さない！ 誰であっても!!

ここのところ、あまりいい話題のなかったリングス周辺だが、山本宜久が小川直也に対戦表明したあたりから、ジワリと熱を帯びてきた。

そして、6・24後楽園。大リングス・コールが爆発した!!

観客動員の低下、6月の愛知大会中止、『噂の真相』誌上での中傷記事掲載、rAwチーム直前キャンセル問題、興行規模の変化、バーリ・トゥードの脅威など、リングスの頭上を覆ってきたこれらの暗雲を振る切るためにも、さまざまな諸問題について前田総帥について語ってもらった。

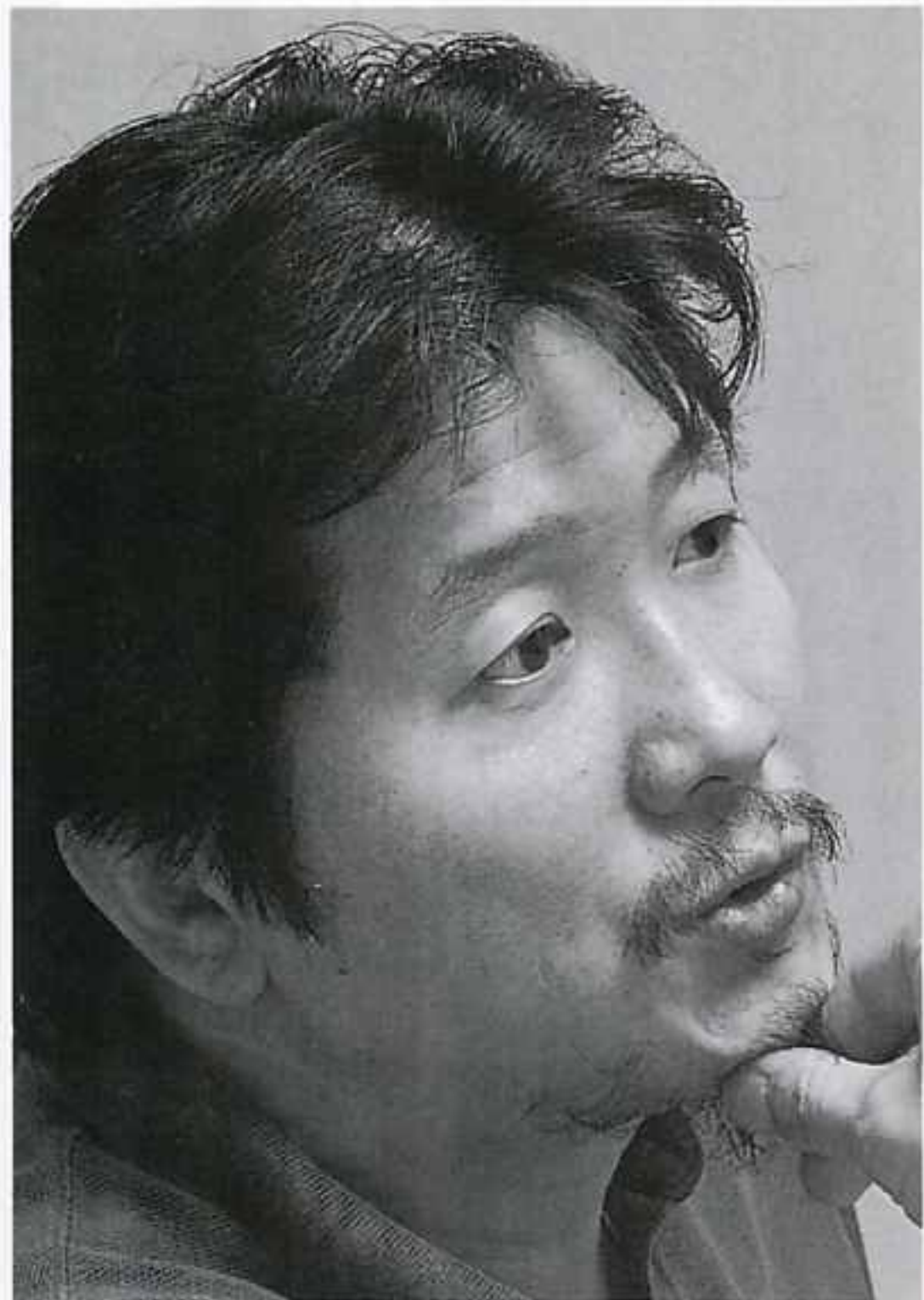
——前田さん、今日は単刀直入にズバリと聞きます。リングスは大丈夫なんですか？

前田　全〜然、大丈夫だよ。

——いや、どっかの雑誌に「リングス大暴走」とか、「いつ潰れてもおかしくないほどの惨状」な〜んて書いてあったんで（笑）。

前田　アホか！　現にいまもやってるやんけ！

——まぁ、このところrAwチーム問題やら興行の中止やら周辺にいろいろあったんで、リングスのファンからも「大丈夫なのか？」「どうなってるんだ？」という声が上がってるのは事実ですよね。

前田　ウチらのホームページにもいろんなのが書きこんでくるよ。実際にファンなのか、ファンを名乗った業界の奴なのかわかんないけどね。批評でも批判でもなくて、侮辱としか思えないようなことがあるよね。ファンの中でもヒステリックに書いてくるヤツがいるんだけど、「キミたち、いい年こいて、人にものを言うときには言い方があるでしょう」という感じやね。「あなたたちが言ってるのは無礼ですよ」「そこまで言うんだったら自分の目で調べて言ったんか！」と。それだけですよ。批判とか批評はいい。でも、誹謗や中傷は全然違うんですよ、ホントに。

——批判はいいけど、侮辱は許さないということですね。

前田　絶対に許さない！　誰であっても!!

——前田日明が侮辱を許すようになったら前田日明じゃないですよ（笑）。『噂の真相』（6月号）に中傷記事が出ましたよね。ウチにも「あれはホントなんですか？」とか問い合わせがあるんですよ（笑）。リングス周辺も、ここのところ小さなゴタゴタが続いてたんで、前田さんの口から『噂の真相』の真相を教えてください（笑）。

前田　ゴロツキみたいな雑誌に書かれてることを真に受けてる人がいるから言うけど、この間も、どうしようもない人間を何人かクビにしたんだよ。ある営業の奴なんかは、ある女性社員とデキてた（笑）。

——もしかしてオフィス・ラブってやつですか！（笑）。

前田　それは別にいいんだけど、そいつ、チケットを何枚売ったかっていったら、多分何十枚の世界ですよ。

——営業というのはチケットを売るのが仕事ですよね？

前田　そうそう。そのくせ、仕事で大きくなるんだったらまだしも、チ●ポばっかりデカくなってね。

——ガハハハハ。

前田　女子社員に手をつけて、会社の電話で深夜にラブコールしてる。ダメですよ、そんなの。だから、ダメだよってクビ切ったら、あっちこっちであることないこと言ってるんだよね。他にも何カ月もいるにも関わらず、何十枚すらも売ってない奴がいた。もし俺に反省があるとしたら、社員を採るときに見る目がなかったっていうことだね。でもね、俺も長いことといろんな社員を見てきたけど、こいつらは、かつて見なかったほどヒドかったね。

——僕も、「俺に見る目がなかったな」っていう反省は多々ありますね、最近（笑）。

前田　ビックリするよ！　レベルが違うんだもん。

——ダメさのレベルが違うんですか？

前田　いままでは「ダメだ」って言っても、なんとかなるダメだったんだけど、いまはどうしようもない。（『噂の眞相』を持って）おまけにこういうのにあることないこと言いふらして。コイツら、見つけたら絶対ただじゃおかないよ！

——うぅー、こ、怖い。この雑誌に、「実は前田さんは反省文や謝罪文を書かせるのが好きなんですよ」って書いてあるんですけど、そうなんですか？

前田　だから、何回言っても聞かないし直らないから。自分のやったことに対して確認をとるために、間違いを繰り返さないために、全部やったことを挙げろって言ったんだよ。あまりにもヒドイから。去年の福岡大会のときに、二人で2ヶ月間営業で行って何枚売ったと思う？

——二人で？……2000枚とかですか？

前田　50〜60枚だよ。

——うわー。ドン荒川さんは、営業でもないのに、デビュー前に150枚売ってたらしいですよ（笑）。

前田　それでね、「不景気だから」とか言うんだけど、じゃあ、例えば、こないだ新宿梁山泊っていう劇団に行ったんだよ。それ見たら、500人ぐらいのコヤも埋まってる。なんでかって言ったら、みんな必死に売ってるからだよ。そいつらは、売らない、能書きは垂れる、動かない、怒ったら拗ねる、反省しない、謝罪文書かせても認識しない。どうすればいいかってなったら、クビにするしかないじゃない。

——それはその通りですね！

前田　どうする？　山口君が経営者だったら？

──いや一応いまも経営者なんですけど（笑）。……蹴ると思います（笑）。

前田　でしょ？　もう真剣に「コノヤロー」と思ったこと何回もあるよ。堪えて堪えて堪えて堪えてやってたけど、どうしようもない。2ヶ月福岡に張り付いて何十枚って聞いた日には「お前らなにしに行ってんねん？」ってならないほうがおかしいやんけ。

──「以前よりも団体に人気がないから」とか言い訳するわけですか？

前田　「やったけど売れませんでした」って。一人は福岡出身のヤツだよ。

──地元のネットワークあるじゃないですか（笑）。

前田　「オマエら、なにやってるんや！」ってなるよ、いい加減。言わないと日報も上がってこないし。最低の社員だったよ。

──じゃあ、その人たちかどうかはわからないけど、前田さんやリングスに逆恨みをしてる人間が『噂の眞相』にリークしたというわけですか。

前田　そうでしょ。で、そいつら、まだオマケがあってさ、労働基準局に行って「不当解雇だ」とか言って、金取ろうとしてるんだよ。ホンット、見つけたらタダじゃおかないよ！

──ウゥーッ、怖い～。でも、この記事を読むと、ボクでさえ「リングス大丈夫なのかな？」と思いますよ（笑）。

前田　実際そんなんだったら、いまやってないでしょ、ハッキリ言って。そういうヤツらがいたから大変だったけど、いなくなったから大丈夫になりましたよ。

──「前田の愛人が社内で女帝化」とか、「旧日本軍化してる」とか、凄いじゃないですか。これがホントだったら、面白いですよ、こんな会社。見てみたいです（笑）。

前田　「旧日本軍化」って、なんや、それ？

──わかりません！　前田さんが俗に右寄りと言われてる文化人とたて続けに対談してるからじゃないですか。この雑誌は全共闘の残りカスみたいなもんだから（笑）。

前田　（1・21の）武道館で俺が怒鳴ったって書いてあるでしょ。

──あれはウチでも書きましたよ（笑）。

前田　大会が始まったら、観客はリングの上を見るっていうリズムができてるんだよ。それは絶対壊しちゃいけないの。あのときはWOWOWが生中継をやるっていうんで、「中継のために、絶対間ができないように打ち合わせをシッカリしろよ。開始時間遅らせてもいいから」「やってます」「やったか？」「やってます」。で、当日10分開いてんだよ。どうすんねん！

──入場式のあと、第1試合までかなり時間が開きましたね。

前田　あと、トーナメントの表彰式のときも進行の打ち合わせがなんにもできてないから、肝心の優勝チームを誰が呼び出していいのかわからへんねん。放ったらかしや！　そんなバカなことってないよ！

──場内放送で優勝チームをリングまで呼び出したんですよね（笑）。

前田　大笑いだよ、そんなの。だから俺がブチ切れたんだよ。

──武道館の2階まで聞こえてましたよね、怒鳴り声が（笑）。

前田　どうしようもない若いのが多い、ホントに！　できることって言ったら、人を羨むこと、人を恨むこと、人のマネすること、それだけしかできない。なんか、クルクルパーみたいな、なんていうの？　白痴のオカマみたいのが多いんだよ。

──ガハハハ！　白痴はオカマになんないと思いますけどね（笑）。

前田　仕事がうまく行ってるときに、意味もなく「ちょっと出て来い！」ってバンバン殴ったら旧日本軍ですよ。でもね、軍隊っていうのはチームワークの部分で、一人のミスによって部隊全員が全滅することだってあるんだよ。その部分で自分の役割っていうのをよく認識させる訓練をやってた。それ自体をいいとか悪いとか言ってるなんて、そんなバカなことないですよ。会社も、ある意味でそうなんだよ。最低限やらなきゃいけない部分で「こうしなきゃダメだよ」って優しく言ってたのに、日報すら上がって来ない。「（小さい声で）日報出せよ」「（少し声を大きく）日報出してな」「（さらに声を大きく）日報出せよ！」「（声を荒げて）コラ、日報なんで出せへんのや、ボケ！」ってなるでしょ！　段階を踏んでやってることですよ。

──ボクに怒らないでくださいよ（泣）。

前田　ホント、地上最低の社員やった。日報も書けない、営業に出したら2ヶ月で50枚しか売れませんでした。アホか、オマエら。その間に、オマエら会社の金いくら使ってると思ってんねん。

──ウチの会社も似たようなもんですよ（笑）。

前田　あるヤツなんか、名古屋に営業に行かせてさ、ビックリするほど売れてないんだよ。ポスターの1枚も貼ってないし。それで選手がプロモーションで行く。準備もなんにもできてない。「オマエ、なにやってたの？」って聞いたら、「地元のイベンターに全部任せてました」って。それでヘーキなんだよ。

──フォローすれば、たぶん彼らの

Akira Maeda interview

レベルでは一生懸命やってるんでしょうね。ただ、「その一生懸命じゃないんだよ」っていうのは、ボクもイヤというほど経験してますよ（笑）。

前田　俺が「こうしなきゃいけないよ、こうせーよ、あーせーよ」って言うと、「わかりました、やります、わかりました」って言ってね、全～然やってない。

――ガハハハ。わかるなぁ、その気持ち（笑）。ウチも似たようなとこあるけど、「それはね、山口さんが人を育ててこなかったからいけないんだよ」って言われるんですよ（笑）。

前田　そういう話じゃないよ。みんなそうやって言うんだけど、いまね、能力っていう部分で若い人は、極端。「コイツはよくできるな」って思うヤツか、「なんだコレ、白痴か？」っていうヤツか、どっちかだよ。真ん中はいない。俺らも若いときはバカだったけど、バカはバカなりに素直でね。言われたことをバカみたいにやったじゃない。山口君が出版界に入って編集長になったのだって「俺は中卒だ」っていうコンプレックスがあったから素直になれたんだよ（笑）。

――ガハハハ！　やっぱそうですかね。

前田　俺は毎日、日雇いやってね。親に捨てられた少年みたいに頑張ったしさ。なんでも言われたらバカみたいに「ハイ、ハイ」ってやったんだよ。やりすぎて笑われながら怒られたりとか、そんなんだったじゃない。いまのヤツはね、言ってもやらない、聞いて、空返事して忘れてる。そんなんばっかりだよ。

――「こうやんなきゃ上に行けないよ」って言われたことを、真に受けてやってるだけなんですよね、こっちは（笑）。

前田　そうそう。それだけの話だよ。「あいつに言ったらなんでもやる」とか言われて、俺なんか「トンパチ」って言われたわけでしょ。

5.22有明プレイバック

ビターゼ・タリエルを下し、1年ぶりに無差別級王座に返り咲いた田村。王座とともに、リングス・スタイルをどう守っていくのか、今後はさらに目が離せない

UFCで走り続けるTKとヤマヨシが激突。ド迫力のシバキ合いを展開後、最後はヤマヨシがTKを制した。TKは2連敗。7月のUFCでは本領発揮か

ダン・ヘンダーソンとスペシャルマッチを闘うはずだった金原弘光をKOで下したヴァレンタイン・オーフレイム。G・アイブルといい、脅威は突然やってくる

鎧のようなボディを持つヨープ・カステルは、イリューヒン・ミーシャにアキレスを取られタップ。カステルにはここのところ本領発揮が見られない

アーリー・リングスチックな雰囲気だった5・22有明。リングス創生期を支えたV・ハンに90キロ以下の交流を呼びかける成瀬が敗退してしまった

6・24後楽園では、高田道場の豊永稔を下した滑川康仁。5・22でもサラ・ウーマーからタップを奪う。今年の滑川はちょっと違う（だいぶ違う）ところを見せつけた

――前田さんが言うように、俺なんか中卒だから、大卒が飛び抜けて頭いいもんだとばっかり思ってましたからね。だから言うこと聞いとけば間違いないか、な～んて真に受けてやってましたね（笑）。

前田　そういうのが、いまないんだよ。俺らの時代は、バカはバカなりに「やらなアカン」と思ってるじゃない。いまのバカはね、ホントにバカ！

――ガハハハ！　そのまんまですよ。

前田　俺らはなんとか這い上がろうとするバカ。アイツらはホントにバカ！

――「そういった連中に教えるような人間を作ってこなかった社長が悪い」っていう論理になるんですよ、世間は（笑）。

前田　俺は教えてるよ。聞かないんだもん、しょうがないよ。やってないことを「やってる」とか嘘つかれたら、これはどうしようもない。そんでね、中間のヤツを置かなきゃいけないとか言っても、ウチらみたいな中小企業で、中間もクソもあれへんよ。でしょ？　町工場みたいにタコ社長がいて、寅さんがいてっていう世界で、なんで真ん中に人を置かなアカンの？　大企業の真似事しても社長がパッといたら終わりやねん。始まらないんだよ。

――ところで前田さん、この『噂の真相』の記事を読んだ率直な感想は？

前田　西田健とかいうヤツを絶対捕まえる！

――書いたヤツですね。

前田　こいつを絶対捕まえる！　草の根分けても捕まえる！　俺の全人格、全人生懸けても絶対捕まえる！

――恐ろしい！（笑）。

前田　侮辱だけは絶対に許さへんねん！

――大山倍達総裁もこの雑誌にあることないこと書かれたんですよね。

前田　あ、ホント。なんて？

――大山倍達は人殺しを指示して、スケベで、サーカスの芸人で、みたいな感じの中傷記事ですね。対立流派が流した云々って聞いてますけど。

前田　へぇ（ぶ然）。

――それを見た総裁は「ああ、何とでも言え。ああ、ワタシはサーカスをやって食ってきた。スケベっていったら、まぁ、スケベだ。人殺しを指示？　したことはないが、年中、土手っ腹に風穴あけてやれ、と言ってるな。全～部言ってる通りだ」と言って嬉しそうにしてたらしいんですよ。

前田　そうなの。ほんで？

――で、そう言った後に、「ただし！」と言って、ひと呼吸置いて「ハゲと言ったら許さんぞ！」と言ったらしいんですよ（笑）。

前田　ワハハハハハハハ。ああ、聞いた聞いた。それ、なんかで聞いたわ。

――ボク、その話大好きなんですよ。さすが大山倍達！って感じですよね。怖いし、トンチが効いてますよ。前田さんもそういうふうに言ってれば、すべてが丸く収まりますよ（笑）。

前田　俺もあと20年くらいたったらそうなるよ。いまは、まだムキになってしまうねん。へっへっへっへ。

――いや、それはそれで素敵です。それから、5・22の有明ではrAwチームの件がありましたね（参戦決定と発表されていたrAwチームのランディ・クートゥアーとダン・ヘンダーソンが直前になって参戦中止。期待されていたカードが飛んだ）。

前田　rAwチームの件って言っても、これは、ハッキリ言って、なんで俺らが責められなきゃいけないんだって感じなんだよね。正直言って。

――『週刊プロレス』では、この件に関して「リングスはこうした直前の変更が多すぎる。これまでは選手の負傷によるものだっただけにいたしかたない部分もあった。だけど今回はファンは突きつけられた事実に対して怒る以外に術がなかった」というよ

うな書き方をしてるんですよ。これはファン側からしてみると、確かに一理あると思うんですよね。

前田　このへんの事前の変更に関しても、さっき言った大ボケの社員たちが、言ったのにやってなかったりしたことがあったんだよ。それもあるし、rAwチームに関しては、1回目のランディ・クートゥアーのとき（3月に初参戦）もOKの返事をもらった際に「告知してもいいですか?」と聞いた。そうしたら「いいですよ」と。「じゃあ、契約書送りますから、サインして送り返して下さい」。そういうやり方だったんだよね。それとまったく同じやり方を今回もしたんだよ。なのに契約書が返って来ない。「どうなったんだろう?」と思って電話してみたら「ギャラ2倍よこせ」って言い始めてね。仲間内で意見が食い違ってどうのこうのっていうのを言ってたけど、ハッキリ言ってこっちには関係ない話だよ。

——となると、リングスも被害者というわけですか。

前田　土壇場でその条件を飲んだら、悪循環になるんだよね。アメリカの連中はよくこういうことやるんだよ。

——一度それを飲むと、ギャラの高騰という問題にブチ当たりますからね。

前田　俺はね、リングス旗揚げ以来、いろんな海外のヤツと交渉をやってきました。いろんな海外の組織の立ち上げから発掘から全部やってきました。でも、こういうことは1回もなかったですよ！　こういう問題起こすのってリングス以外のとこでやってた連中じゃない、ハッキリ言って！

——ドリームステージ（・エンターテインメント）の社長とは会ったんですか?

前田　近々会うよ。

——ドリームステージ側は「rAwチームには声をかけてない」と言ってますよね。

前田　rAwチーム側は「ドリーム・エンターテインメントからリングスの倍のギャラで誘われた。だから倍出してくれないか」っていう話をしてきたんだよ。俺は事実しか言えない。

——rAwチーム側の言い分はそうだったということですね。

前田　そうじゃなきゃ、ウチが大会直前になって、団体の威信に関わることなのにキャンセルなんてする必要がないでしょ?

——それはそうです。なんの得にもならないですからね。前田さんは5・22にこの件で会見したときに、「口約束じゃないかと言われるかもしれないけど、この格闘技業界はそういうふうにやらんとできない」って言ってましたよね。

前田　できないやんけ。いまはWOWOWと話し合って、とりあえず今年はふた月に一回という興行ペースをテストケースでやってみようっていうことで合意してもらった。だけど、いままではひと月に1回だった。交渉して、ギャラとかいろんなもの決めて、合意したとこで「リリースしていいか?」「OK」「じゃあ契約書にサインして返してくれ」ってやっていかないと、ビザ取ったりとか並行してやらなきゃならないことがあるからできないんだよ。だから、ひと月に1回のペースでは口約束の元に信頼関係を築き上げながらやっていくしかない。絶対できないよ。どうやってやんのよ? ひと月に1回試合するっていうことはそういうことなんだよ。そういう大変さもある。

書いたヤツを捕まえる！　草の根分けても捕まえる！　俺の全人生、全人格を懸けても捕まえる！

——それも含めて2ヶ月に1回のペースに変更したってことですか?

前田　そう。でもね、ウチほどちゃんとやってるとこはないよ。選手が試合するときには必ずワーキングビザ取るし。じゃあ他団体はどうなんだ? ウチほどシッカリやってるなんて言わせないよって。そこまでやってるから時間がかかるんだよ。

——ところで、小川（直也）選手の件なんですが。猪木さんとも何回か会ってるんですよね。

前田　あ、そういえば猪木さんな、こないだ小川の件で会ったら、葉巻用のケースを持ってるんだよ。トリニダットっていう25本入りの、ハバナ産で一番高い葉巻。本人は、これまた有名な葉巻を吸いながら、「おう、前田。これトリニダット半分ぐらい入ってるから、やるよ」って、くれたんだよね。で、また大きな話をし出すんだよ。

——ガハハハ。なんかワクワクしますね（笑）。

前田　「俺がキューバ政府から宝島をもらって、そこにはスペインがアステカだかインカ王朝から取った宝物がドッサリある。周りの海から宝物が出たら政府と自分と国と3等分とか4等分にしなきゃいけない。でも、海じゃなく土地から出てきたら、自分と政府の2等分だけでいいんだ」とか大きな話をしてるんだよ。何十億だか何百億だかの話を。それを聞いて、「あ〜、また始まった」と思いながら、もらった葉巻の箱をパッと開けたら、入ってないんだよ！　肝心のトリニダットが！

——ガハハハ。入ってない！

前田　25本の半分だから、12〜13本は入ってるはずなんだけど、入ってない。「おかしいなぁ」と思って怪訝な顔しながら猪木さんのほうを見たら、今度は違う話になっててね。「キューバの人脈を利用して、パキスタンで葉巻を売れば儲かる。俺は（アクラム・）ペールワンに勝ったから、猪木ペールワンという称号を持ってる。だから、猪木ペールワン印の葉巻を売れば大儲けになる

小川直也の「なにやるかわかんない」なんて、全然大したことないよ!!

はずだ」とか言ってるんだよ。

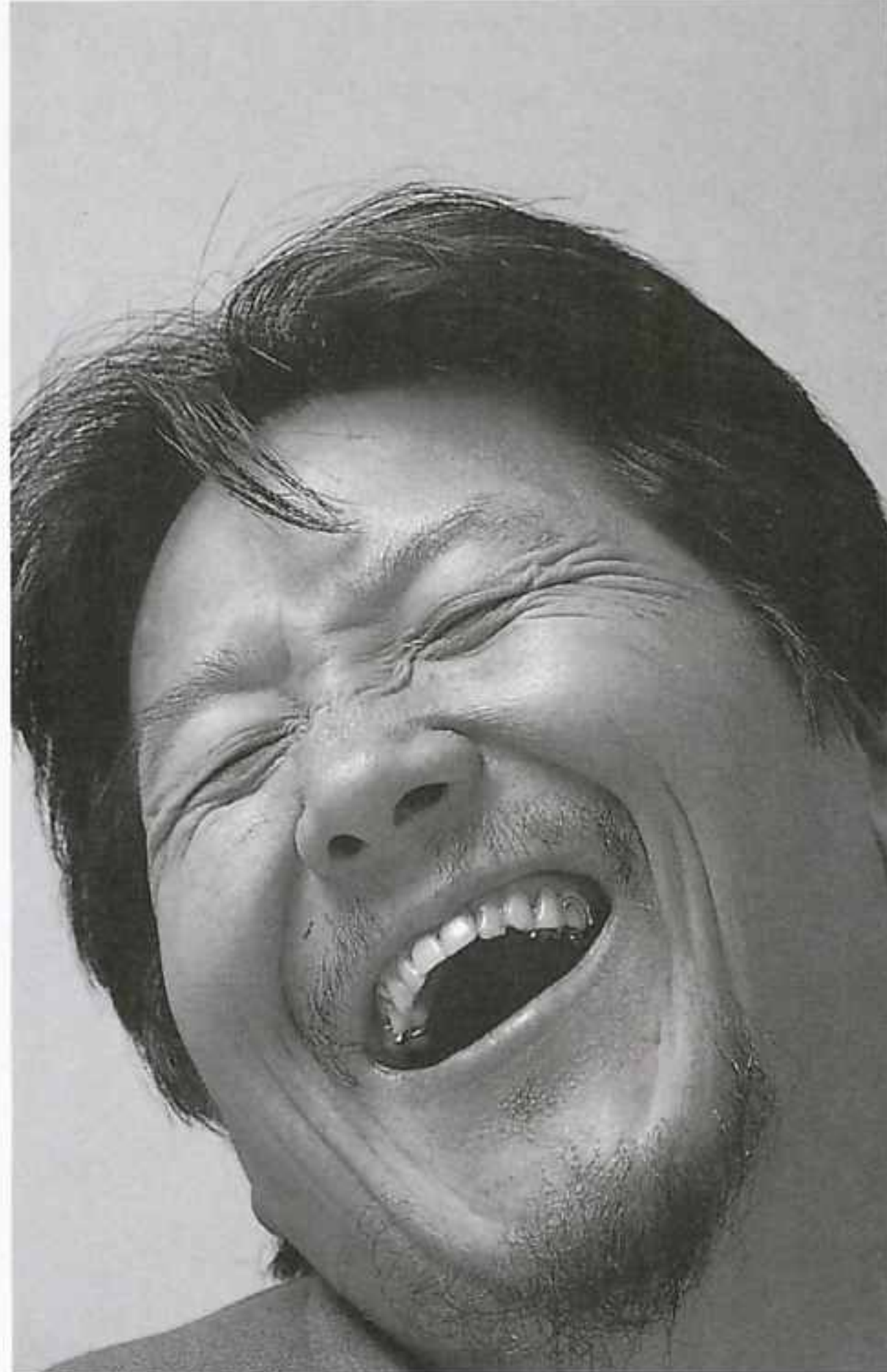
――猪木ペールワン印の葉巻！（笑）。素敵だなぁ。

前田　「あ～、また言ってるよ」と思って、もう1回箱を開けて確かめたら、やっぱりトリニダットが入ってない。それで、「猪木さん、トリニダット入ってないんですけど！」って大きい声で言ったらさ、どうしたと思う？

――想像もつきません！（笑）。

前田　自分のテーブルの上の袋からゴソゴソと2本取り出してさ、「あ、な～んだ、2本しかくれないんだ」と思ったら、そのうちの1本だけくれんねん、1本だけ（笑）。それも「あ、入ってなかったか？」とか言ってイヤそうにさ（笑）。

――ガハハハ。バツグンです（笑）。

前田　それで、そのトリニダットもカストロからもらったって言うんだよ。「カストロ専門の葉巻職人がカストロのための葉っぱを3年間熟成して、葉巻に巻いたあとも3年間エイジングさせて出したヤツだから、普通に売ってるヤツとは全然違う味なんだよ」とか言ってさ。それを持って俺、いつも行く葉巻の店に行ったんだよね。そこは日本でも何本かの指に入る、葉巻に詳しい人が何人かいる店でね。そこで、「凄い葉巻だ」って言いながらみんなで吸ったんだよ。そしたら、みんなが一斉に「ん？」っていう顔をする。「どうしたんですか？」って聞いたら、「これ、味おかしいよ」って言うんだよね。で、よく吸ってみたら、全然違うんだよ、スカスカで。「おかしいなぁ」と思って全部並べてみたら、長さはマチマチ、ラベルの位置もマチマチ。普通、そんなことありっこないんだよ。

――要するに、バッタもんだった？

前田　要するに、ハバナに行ったら露店でいっぱいそういうのを売りに来てる業者のヤツがいるんだよ。本物売ってるヤツもいるけど、ニセモノ売りつけるヤツもいる。そういうのから買っといてね、「カストロからもらった」とか大ボラ吹くから、俺が恥かくんじゃ！　俺、顔真っ赤になったもんな。「アントニオ猪木がカストロ首相からもらった葉巻だ」とか自慢げに持っていったのにさ（笑）。

――ダハハハ！　猪木さんも騙されたのかもしれない（笑）。それをまた、自慢げに見せちゃう前田さんも素敵ですね（笑）。

前田　最初っから「ハバナで買ったんだよ」って言ってくれれば、「ハバナには、そういうニセモノ売るヤツがいますよ」で済んだのにな。

――それ、前田さんが新弟子の頃と一緒ですね（笑）。猪木さんに「前田、これやっとけよ」って言われて、素直に一生懸命やってしまうという。挙げ句の果てにはUWFまで作ってしまったんですからね（笑）。

前田　あの人といると、不思議と、いっつもこっちが恥かくことになるんだよ（笑）。

――ああ、もっとそういう話聞きたいけど、先を急ぎます。それで猪木さんとの話はどうなったんですか、小川選手の問題は。

前田　小川のことは、結局、猪木さんじゃなんかよくわかんないんだよね。でも仲介してくれる人のことは俺もよく知ってて、その人だったら間違いないかなっていうとこだね。

――ズバリ言って、8・19には山本宜久vs小川直也戦は実現しそうですか？

前田　山本は、今月（6月）末くらいからキャンプ張らせてトレーニングに入りますよ。

――6月の末にUFOが大阪で興行やるんですけど、小川選手は、まずそこに山本選手に来てほしいって言ってましたね。

前田　いや、練習してるから！　話を盛り上げたいんだったら、お互いにキャンプ合戦で、どっちが素晴らしいキャンプをやってるかってやったらええねん。

――ガハハハ！　どっちが素晴らしいキャンプか。挑戦状を持って行ったりはないということですね？

前田　挑戦状もクソもないよ。いまは昔と違って、サーベルを口にくわえて「アントニオ猪木の頭蓋骨を割って脳味噌ススってやる～！」っていう時代じゃないんだよ。その試合に対してどれだけ勝つ気でやってるかっていうのを見せないと。小川に対して試合をやりませんか？　っていうオファーだから、挑戦とかなんとかじゃないんだよ。山本は山本で、真面目なヤツだから、小川のキャリアを見て「力を試させてください」って言っただけの話なんだよ。

――ゼヒ実現させてほしいですね。でも、ひとつ心配なことがあります。もし小川さんがリング上から「前田さん、上がって来てください」って言ったら？

前田　上がってなにを話すんの？

――いや、小川さんも、なにやるかわかんない人だから（笑）。

前田　小川のなにやるかわかんないなんて、全然大したことないよ。なんかさ、カタギになったフランケンシュタインみたいじゃない。

――ガハハハ！　カタギになったフランケンシュタイン！

前田　面白くも怖くもなんともない。フランケンシュタインならそれらしくせい！　カ

タギにならんでえぇんじゃ！ってね。
——でも、『PRIDE』で高田さんを挑発してるし、まかり間違って、前田さんを挑発したら……。
前田　俺が上がってなにすんの？　上がったら「どうしたらいいんですか？」って聞くよ。
——その方が怖いです（笑）。
前田　その前に、「人に上がれって言う前におまえが降りて来い！」って言うよ。それだけの話ですよ。
——怖い。いまは小川選手のことだけじゃないですよね、動きがあるのは。
前田　いろいろやってんだけどね。シューティング（修斗）だとかパンクラスだとか、成瀬（昌由）が「やりたい」って言うからWOWOWが仲介になってやってるんだけどね。WOWOWもいい条件を出してると思うんだけど、それでもうまくいかないね。なんでなんだろうね。
——マット界の不況を吹き飛ばすことをやってほしいですね、リングスには。
前田　マット界は膠着しちゃってるね。衰弱してるね、衰弱。
——あ！　今度、佐山聡さんが掣圏道というのを始めるんですよ。
前田　なにそれ？　セイケンドウ？
——アマチュアの市街地型実戦武道と、プロ部門があるんですよ。
前田　佐山聡は1回も実戦やったことないやんけ。そうでしょ？　格闘技界のバッタもんですよ。
——こ、怖い（汗）。
前田　武道っていうのは生涯教育なんだよね。生涯教育って人格だとか人間面とかでしょ。佐山聡が武道ね。どうなんかね。
——リングスでもバーリ・トゥードを行うようになりましたけど、ブラジル勢に対して、前田さんの中でなにか認識は変わってきてますか？
前田　俺の認識が変わってきたとすると、グラウンドでの打撃、パンチっていう部分だろうね。ハッキリ言って俺らにその技術は導入されてなかったからね。実際にグラウンドで殴る闘い方っていうのは、自分自身も経験なかったんで、わかんなかったよね。カール・ゴッチさんがヒジの使い方とか言ってたけど、だからと言って、仲間うちでそういうのはできなかったからね、危険すぎて。でも、実際ブラジル勢にも、桜庭（和志）がボンボン勝ったりしてるでしょ。だから、ウチらの方が対応力が全然あると思う。向こうの連中にウチらみたいな対応力があるかって言ったら、正直言ってそんなにないでしょ。応用力っていう部分では俺らの方が全然底辺が広いと思うんだよ。取り組み方も違うし。ただ、グラウンドにおいて打撃を入れるために押さえるっていう技術は考えもしなかったし、ちょっと無視し過ぎたなっていう反省はできるよね。
——とはいえ、ブラジル勢はバーリ・トゥードルールでしかやりませんよね。掌底ルールだと出てこないじゃないですか。
前田　いや、ウチらもグローブでいいんだよ。いいんだけど、ウチらはプロとして試合を観客に見せるためにやるんだから、観客が面白いかどうかでルールが作られるんだよ。膠着したらブレイク。「観客がおもろないからブレイクせい」。それだけだよ。そういうのをなくしたら、「ヨーイ、ドン」で初めて、先に抑えたほうが勝ちだよ。
——バーリ・トゥード系もU系も、どちらも「選手層拡大」って言ってる。その部分だけ見たら交流していけばいいわけですよね。でも、前田さんは『週刊ゴング』で、「みんな交流交流って言うけど、仲良しクラブじゃないんだから」と言ってましたね（笑）。
前田　交流って言ってもね、負けたら終わりやんけ。負けてホントに「惜しかったなぁ」っていうのも稀にあるけど、「負けたけど頑張りました。頑張ったことを評価してください」って言うんだったら、アマチュアになればいい。アマチュアはそういう世界だからね。プロは勝ったヤツがお金をもらう、地位も上がる、名誉もつく。それだけの話なんだよ。
——確かに最近の選手は闘う前に「絶対に勝つ」というふうには、あまり言わないですよね。「精一杯頑張ります」系の発言が多いじゃないですか。なんでだと思います？
前田　簡単や。負けるかもしれないからでしょ。それはいいんだよ。でもね、キミたち、アメリカのヘビー級タイトルのボクシング見てみなさいよ、と。あいつら、対戦する2人で一緒に、公開討論しながらアメリカ全土を巡業したりするんだよ。試合前に罵りあったりな（笑）。

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス≒格闘技読本
SPECIAL

「負けたけど頑張ったことを評価してください」って言うんならアマチュアになればいい

—あれ、メチャメチャ面白いですよね。

前田　あれをなんでやるかというと、観客動員のためだよ。そういうのもプロとして真剣にやってるんだよ。

—かえって外人の方がプロモーションでもなんでも真剣にやりますよね。

前田　そういうのを理解すればね、坊ちゃん嬢ちゃんみたいな発言じゃなくて、勝てる見込みがあろうとなかろうと関係なしに「勝つ」と言えるんだよ。「（可愛いらしく）ボク、負けるかもしれないから、みんな見に来ないでくださ〜い」とか言っても、誰も見に行かないでしょ。誰も見に来なかったら客が入らない。客が入らなかったらプロモーターが大損する。そしたらアナタのギャラは払えないよ、と。せっかく身体痛めて勝負して、怪我してギャラも入りませんでしたっていうんじゃ最悪だからね。

—格闘技だから生真面目にやらなきゃいけないっていうのが妙に張り付きすぎても困りますよね。リングスの選手は発言とかもプロらしいし、プロ格闘技の選手としてのたたずまいがあるけど、でも、全体的に最近のU系はおとなしいですね。風呂敷広げるのがいけないんだったら、モハメド・アリはどうなるんだってなりますからね（笑）。

前田　笑える話があるねん。幕末に黒船が来たじゃない。昔から武士にとって、戦場に一番乗りするのって凄く名誉なんだよ。それでね、黒船が来たときに旗本のなんとかってヤツがさ、全身に刀とか槍とかいっぱい差して、ダーッと上がっていって「一番乗り〜！」ってやったんだって（笑）。

—ガハハハ！　バカですねぇ。

前田　だけど、どやどやと白人に囲まれて、通訳に「何のご用でございましょうか」って聞かれて、その上ワインかなんか飲まされて上機嫌になって、わけわかんなくなったっていう話がある（笑）。

—ガハハハ！　マット界にもそういう素敵なバカがいれば面白くなりますよ。それでは、リングスに「骨と血」を残すためにも、リングスを見続けてきたファンに対して、ここのところの不安な状況を吹き飛ばすようなメッセージをください。

前田　ファンがファンなのはいけない。

—いや、ダジャレじゃなくて（笑）。

前田　あなたたちが見てるのは、空想なんですよ、空想！　あなたたちが俺のことを見たようなつもりで言っても空想なんですよ。「そうに違いない」病や。前田って口も態度も悪い。乱暴者に違いない。理由もなく怒るに違いないってね。そういう観点で全部人に委ねるんだよ。そういう「違いない病」は、もういい加減、ええ歳こいてやめたらどうやと。そんなの社会のどこ行っても通用しないよ。

—固定観念というのは怖いですからね。

前田　空想科学小説「違いない病」や。

—ガハハハ！「違いない病」をやめて、自分の目でしっかり見ろということですね。

前田　俺を見るな、自分を見ろ！　ですよ。俺たちはね、力道山、大山倍達、前田日明は、M78星雲から来たウルトラ一族と同じように、日本民族、格闘技界を助けるために来てるんだよ。夢を与えるために。心配しなくてもこれから面白くなっていくよ。

—夢をつくり出す！

前田　そう、つくり出す！　なんかね、知恵遅れのオカマみたいなのとね、チンタラチンタラやってられないんですよ。……あんまりオカマオカマって言ってると、そのうちオカマに怒られそうやな（笑）。

【6月15日／リングス事務所にて収録】

前田日明総帥が「これから面白くなる」と言った通り、6・24後楽園大会は、実に素晴らしい大会となった。なにが素晴らしいかというと、"熱"があった。"闘い"があった。"華"があった。新生リングスは、絶賛進化中だ！　膿を出し切れば生体は甦る！

リングスという生体の生命力を、ボクらが見せつけられるのは、むしろこれからのようである。でしょ？

リングス6・24 後楽園ホール

観衆2020人（超満員）

20分1本勝負
○上山龍紀（18分5秒TKO）ウィリー・ピータース●
○滑川康仁（9分51秒グランドフロントネックロック）豊永稔●
○坂田亘（6分49秒腕ひしぎ逆十字固め）ボリス・ジュリアスコフ●
ランキング戦30分1本勝負
○金原弘光（判定）成瀬昌由●
○グロム・ザザ（判定）ヴォルク・ハン●
○ヨープ・カステル（6分1秒アームロック）ビターゼ・タリエル●
20分1本勝負
△田村潔司（時間切れ引き分け）山本宜久△

前田日明フィギュア販売！

8月下旬に「前田日明」のフィギアを発売予定。凄ェ！
販売価格は¥1,500（予定）
会場販売・通信販売はもちろん全国の玩具店、プロレスショップ等でも購入できるぞ！

リングス選手入場曲集2枚組CD近日発売!!

リングスファン必聴！
『RISE』（仮）
なんと、2月21日　前田日明と歴史的な闘いをくりひろげた人類最強の男「アレキサンダー・カレリン」の入場テーマ曲も収録（発売：ポリスター）

毒舌炸裂!! 綺麗な花にはトゲがある!!
蘇れ! W井上伝説第2弾!!

Inoue
井上貴子
［全日本女子プロレス］

『蘇れ! W井上伝説』と題して、前号で井上京子にインタビューを敢行したところ、W井上再結成について「プロだから、お客さんの要望が多くなったら考える」との答えが返ってきた。では、もう一方の貴子はどう考えているのだろうか? 今年からはフリーの立場となって、リング上の活動と芸能活動の両輪を回していくという。アイドルレスラーから脱皮し、いまや女子プロレス界No.1のビジュアルクイーンだと胸を張って推せる〝いい女〟となった貴子に「W井上再結成」、「全女」、「女子プロレス界全体のこと」を聞いてみた。他の誰とも違う自由な立場から女子プロレス界を冷静に見つめる貴子の目には、果たして何が映っているのか?

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

――5月5日の井上京子戦は久しぶりに貴子さんのいやらしさが全開でしたね。

貴子 負けたんで、大きいこと言えないんですけどね。負けて勝ちを得るっていうか、負け試合なのに「あの試合、貴子らしくて良かったよ」って言われるんですよ。プロなんで、試合で負けても最終的にお客さんの心に残ったのが私のほうであれば、それはもう大成功（笑）。私の勝ちです。

――スタンガン使ってましたよね。

貴子 まあスタンガンでKOしたのは相手が頑丈な京子だったからできたって感じですね。

――スタンガン以外でも、あの試合は殴る蹴るっていう攻撃が普段の試合以上のエグさでしたね。逆に分裂後、初めて対戦したとき（'98・12・26、Jd'有明大会）には貴子さんが京子さんのラリアットで失神させられてましたけど。

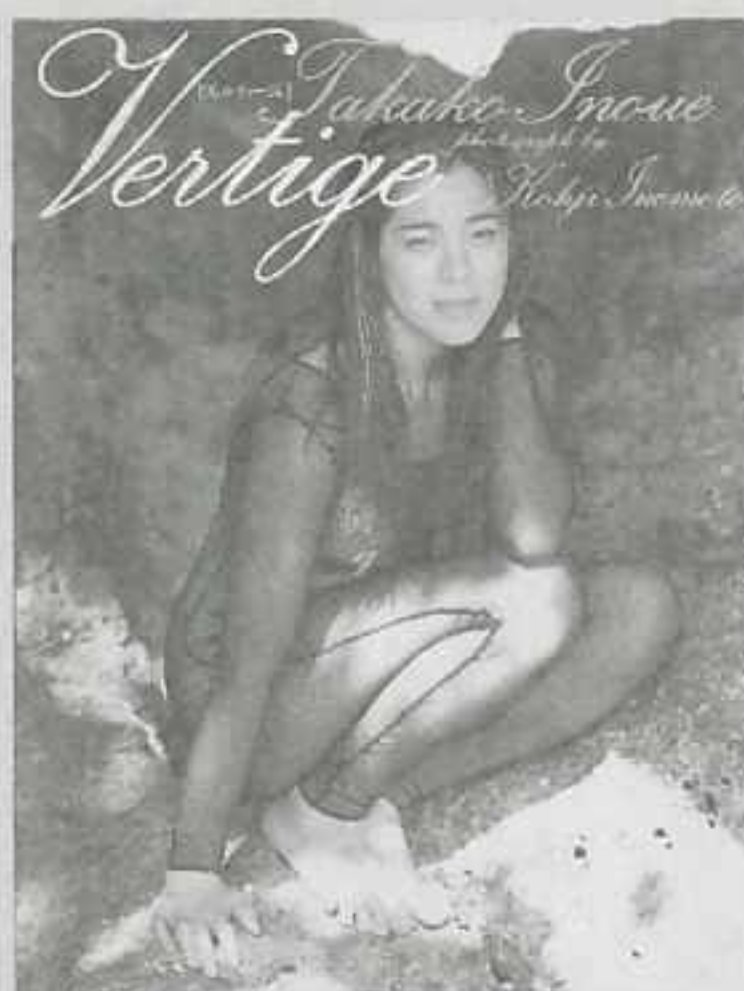
貴子 あのとき、瞳孔が開いてたらしいですよ（笑）。ほんとに殺されると思いましたね。

――プロレスには最低限、お互いの信頼

志穂美悦子や和田アキ子に憧れる貴子。芸能界に進んだとしてもパワフルな存在になることは間違いない

蘇れ!!
W井上伝説

関係って必要ですよね。
貴子　ええ、普通は鍛えられない部分は狙わなかったりとか、そういうことはお互いやらないですよね。でも、そういう部分は越えてました。
——一時、貴子さんは「壊されたくないから、（京子とは）試合したくない」って言ってましたよね。
貴子　ほんとに殺されると思いました。だから、自分で自分を守りきれないって思ったからやりたくなかった。
——たしかに貴子さんの目指すプロレスと、京子さんの目指すプロレスの方向性も違うし、やっても噛み合わないんじゃないかなとは思ってたんですよ。貴子さんはやっぱり、強さは見せるんだけど、女っぽい華麗さを織り込むじゃないですか。
貴子　いや、スタイルは違うんですけど、たぶん方向性は一緒だと思う。自分が納得する前に、まずお客さんを納得させるところかなあ。だから大きく見ると方向性は一緒だと思う。自己満足よりも、お客さんが満足してくれることが大事。
——そうですか、京子さんに聞いたら、「プロレスラーはとにかく強くなきゃダメ」って言ってましたけどね。
貴子　プロレスラーとして「強い」っていうのは試合で勝つことなのかな？　だから、試合で負けても中身で勝ってれば、勝ちだと私は思うんですよ。
——その「強さ」の話を京子さんに聞いたら「ケンカしても男に負けないことだ」って言ってましたけどね（笑）。
貴子　アハハハ。そのへんはちょっと食い違ってますねえ。
——最近も酔っ払って男と殴り合ってるらしいですよ（笑）。
貴子　あれだけデカいと自信もあるんでしょうねえ。
——まあ、そういう違いはありますけどね。正直なところ、2人の因縁をウチの雑誌が火をつけちゃったかなって気もするんですよ。いちばん最初に京子さんが貴子さんのことをこき下ろしたのがウチの雑誌だったんで。
貴子　あ、それ見た……ファンの人がご丁寧に持って来てくれたんで（笑）。
——そこで本誌は、いまこそW井上復活をぜひ提唱したいんですよ。京子さんのちょっとブッ壊れたところと、貴子さんの毒が合わさって邪悪なパワーが蘇るはずですよ。
貴子　たしかに昔、組んでたときは噛み合ってたとは思うんですけど。でも、タッグを組んで何をするの？
——ターゲットは当然、吉田万里子さんです。
貴子　アハハハ！　でも、イジめがいがないでしょう。
——でも、いまアルシオンのチャンピオンですよ。
貴子　たいしたことないじゃん。アルシオンなんて、私からしてみたらたいした団体じゃないから。
——うわっ!!　そこまで言いますか？
貴子　アルシオンが仕掛けた引き抜きっていうのは最悪の行為だと思うんで、私、アルシオンは嫌い。
——それを仕掛けたのは社長のロッシー小川さんだと思うんですが……。
貴子　私、もともと小川さん嫌いですから。小川さんも私のこと嫌いなんですよ。もし小川さんに目をかけられてたら、私、いまごろすごいケガをして引退してますよ。だから、嫌われてよかったと思う。
——小川さんに好かれたら周りからやっかみで潰されるんですか？
貴子　ううん、そうじゃなくて。
（ここで、ダンプ松本の影武者も務め、極悪同盟のプロレスラーとして活躍した経験もある、全女の芸能マネージャー田口かほる氏が登場）
田口　その子に合ったプロレスじゃなくて、自分の中にあるプロレスを託しちゃうところがあるからね。

Takako

写真集『Vertige』では久々の現役女子プロレスラーのオール・ヌードで話題を呼んだ

最近の全女のヒット企画『ガレージマッチ』のトークショーに貴子も出演、次世代アイドル・ミホカヨにトーク指導をする余裕のステージさばきをみせた

W井上は過去にCDを出したこともある。その際は、「パッション・ルージュ」なるユニット名だった

――それだと選手に無理が来てしまうということですね？　そういえば先日、試合中の事故で門（恵美子）選手が亡くなるという悲しい事故がありましたけど。

貴子　（表情が急に暗くなり）……門選手はデビューして10試合しかしてなかったんでしょ？　チャンピオンの吉田と対戦してたんですよね……もう少し時間を掛けて、成長を待ってからでもよかったと思うんですよ。ウチでは絶対に新人とチャンピオンは当てませんから。

――まあ、それぞれの団体が、いろんな方針があっていいとは思いますけど。たしかに全女の新人育成法は2、3年かけて、じっくり押さえ込みのレスリングをやってから、徐々にプロレスを教えていくスタイルですよね。

田口　たとえ3、4年経ってようが、レスラーとして身体が出来てなかったら絶対にチャンピオンとは当てないよ。

貴子　だから、技なんかドロップキックと基本的な投げしか教えないですから。それが伸びてきても、やっぱり雑草は抜かないと、トゲのある綺麗な花が目立たないでしょ？

――もちろん、それは貴子さんのことですよね（笑）。

貴子　そうですよ（笑）。やっぱり抜かれても生えてくる出てくる雑草は本物ですよ。全女の中でも、モモ（＝中西百重）とかは本当に褒めるしかないですよね（6月13日Jd'後楽園大会で、柔道全日本王者の薮下めぐみを相手にバーリ・トゥードで60分を戦い抜いて壮絶なドローとなった若手NO．1の選手）。

――たしかに全女の若手はホントにタフですよね。アルシオンやガイアの新人も騒がれてはいますけど、ホントに脅威なのは全女の新人ですよ。

貴子　以前の全女だったら人気が出てきた子、プロレスがうまくなってきた子、出てくる杭みんな上が叩いてたじゃないですか。ふるいにかけて、残った人だけが上に行けるシステムでしたから。

――だからなのか、若手の押さえ込みを否定した団体と全女では若手の体力的な違いを感じますね。

貴子　あー、ガイアやアルシオンの新人は、あんまり興味ない。なんかマインド・コントロールされてるようにやってるじゃないですか。

――たしかに長与（千種）選手は某誌のインタビューで「（新人を）マインドコントロールしてる」って言ってましたね。

貴子　それがいいと思ってやってるんでしょうから、いいとは思いますよ。

リング上でも「悪女」ぶりを発揮する貴子。いい意味での“タチの悪さ”は男を惑わす

昨年12月28日のJd'有明大会で京子と約１年半ぶりに激突、完全に失神してしまった貴子。再結成はあり得るのか？

元・全女関係者が激白!!

W井上の凶悪事件簿

再結成を期待するなら
この２人の痛快なる
邪悪さを感じ取れ!!

その1　貴子と京子はホントに新人時代から仲が悪かったのか？

京子が「貴子のことは入門当時から大嫌いだった」と証言して、話題を振りまいたが、果たして本当にそうだったのだろうか？　ＷＷＷＡタッグ１００代王者になった頃などは、最高に息のあったところを見せつけてくれただけに不思議である。そのへんの疑問に答えてくれた元・全女関係者がいたので話を聞いてみた。「まあ、よく嫌いあったり、好きになったりしていました。アザラシの習性みたいに、近づきすぎるとケンカを始めて、離れ過ぎると逆に近づこうとする。適当な距離を保っていなかったように思います。今回、京子選手と貴子選手の因縁がクローズアップされましたけど、あれぐらいのことを新人時代から何回も繰り返してましたよ」とのことだった。あれぐらいのこと？　女子プロレス界でも他に類を見ない大喧嘩かと思ったら、アレが日常茶飯事だったとは……。

その2　吉田万里子とW井上はホントに仲が悪かったのか？

前出の全女元関係者は続けて語る。「W井上のパワーと毒がいちばん発揮されたのが、２人で吉田万里子をイジメてたときです」。なぜ、同じ昭和63年入門の同期であるにもかかわらず吉田をターゲットにしたのだろうか？　いったいそこまで溝が深くなった原因は何なのだろう？　「吉田が豊田派閥に入ったことでしょう。当時の全女の中で、会社の後押しがいちばんあったのが豊田、それに反発したのが京子でした。その感情的な対立を表面化させたのがフリーダム・フォース（以下ＦＦ）の結成です」この頃、吉田は必要以上に狙われて身体がボロボロになってしまう。感情モロ出しで潰しあう、非常に物騒なプロレスが展開されたのだった。

「同期で組む」という発想を取り払って結成されたフリーダム・フォースが当時のW井上のターゲットだった

その3　なぜW井上は『週P』を取材拒否したのか？

W井上が第１００代のWWWAタッグ王者になった頃、『週P』は女子プロ界に新風を吹き込んだFFをプッシュした。特にT・Y編集長に気に入られてしまった豊田は、『週P』の年末恒例のカレンダーを1人で独占したほどだ。坊主憎けりゃ袈裟まで憎い方式で、W井上は『週P』の取材拒否を宣言した。「当時、K記者が『ガラガラの会場で、寂しい思いでファイトさせたくない、という一心でアオってきたのに、ガーガー文句を言われることになろうとは――』って、試合リポートでぼやいてました。W井上にも『ああいうことはやめたほうがいい』って会社内部から声が上がったようですが、『だって嫌いなんだもん！』って言ったみたいです（笑）。他にも元『LG』のKさんが取材しようとしたときに、「食事おごってくれなきゃしゃべらない!!』とかダダをコネてたみたいですね。いまは、２人ともすっかり大人になったそうですね。当時のこともいい思い出ですよ（笑）」

——昔の全女はそれこそ1年かけて新人がデビューしてたんですよね。そういう意味じゃ、いまはアルシオンとかに限らず女子プロ界全体で事故が起こりやすい環境になりつつありますよね。

貴子　上の人はみんな苦しんでると思いますよ。いまはどこの団体も中堅が少なくて、ベテラン選手と若手が多いですよね？　中堅どころが集まってる団体は彼女たちがトップ張ってるわけじゃないですか。だからバランスが狂ってきてるんですよ。

——そう考えると、将来は厳しいですね。

貴子　だから早く抜けたモン勝ちですよね（笑）。っていうのは冗談ですけど、立て直すんだったらいましかないですね。

——その点でアルシオンは、ルチャと格闘技を融合した、京子さんは「気持ち悪い」と思ったらしいですけど、新しいプロレスを新人もやってますよね。

田口　でも、どういう方針なのか知らないけど、府川がしょっちゅう顔面を打ってボコボコになってるもんね。あの子はかわいいんだから、違うやり方で売っていけばいいのに。

貴子　アルシオンに行ってから、顔面を打ちすぎてブスになったよね（笑）。

——え～、そんなことないですよ!!　いまでもアイドルとしてバリバリ活躍してるじゃないですか？

貴子　だって府川は全女にいたころはもっとよかったもん。したたかだったし。目を掛けてたんですけどね。アイドルをやるにも自覚が必要なんです。アイドルって、初め弱くてもいいんですよ。

——初めっていうのは押さえ込みの試合をやってるような時期ですよね？

貴子　そう。その頃はボロボロにやられて、可哀想なところを見せてれば、それが売りになるんですよ。府川なんか、特にそうですよね。あの子がぶたれて、蹴られて、ボコボコにやられるところを見たいんですよ。本人にも言いましたよ。「アンタが強いところなんか、誰も見に来ないから。とにかく相手の技を全部受けなさい」って。

——それじゃ割に合わないですよね。

貴子　他のレスラーとアイドルは成り立ち方が違いますから。

——アルシオンは各団体でそういうアイドルをやってた選手を集めてますよね。

貴子　そうするとアイドルの中でも役割分担が出てきますよね。だから本当の意味でのアイドルは各団体に1人だけですよ。アルシオンなら府川です。

——チャンピオンみたいですね（笑）。

貴子　うん。そうですよ。だからって、JWPみたいに変にアイドルを作ろうとすると大変ですよね。

——うわ～、いったいJWPのどこが変なんですか!?

貴子　本谷（現・美咲華菜）って、そんなにかわいくないでしょ？

——そんなことないですよ!!　メチャクチャかわいいですよ!!

貴子　そう？　まあ、男受けする顔とか、女受けする顔とかありますからね。でも、アイドルは誰が見てもかわいくないといけないんですよ。Jd'のブラディーが、全然かわいくないのに私とキューティー（鈴木）ちゃんの水着を足して2で割ったようなのを着てましたけど、ああいうのは全然ダメ！　もっと覆面で顔を隠すとか、そういうプロデュースをしないとね（笑）。

田口　その子がいちばん伸びそうなところをのばしてあげないと。それぞれ限界みたいなもんがあるから。

——まあ、それがいちばん無理のないやり方なんでしょうね。

貴子　選手生命は長くなりますよね。うん。気付くのが早い人が、上に上がっていけるんじゃないですか。

——そうですね、そういうプロデュース能力みたいなものを持ってる人は上に行けますよね。その点、W井上はセルフプロデュースだったけど完璧でしたよね。

貴子　そうかもしれないですね（笑）。

——なにしろ2人で『週P』を取材拒否しちゃうんですから。

貴子　アハハ、そうですね。あの頃はとんがってたから「私を誰だと思ってんの」って感じでしたもん。いまになってみれば、ああいう時期も必要なのかなって思いますけどね。

——その一方で『紙プロ』では人生相談をやってるんですから。

貴子　アハハ、あれは答えになってなかったでしょ？

——いえいえ、メチャクチャ面白かったですよ、毒舌と下ネタで満載で（笑）。

貴子　でも、いまなんか逆に大変ですよ。腰低くなっちゃって（笑）。

——いや、今日話を聞いた限り全然大丈夫ですよ（笑）。

【99年6月9日、港区一の橋『Quant!』にて収録】

雑草は抜かないとダメ！綺麗な花が目立たないでしょ？

いのうえ・たかこ■1969年11月17日、茨城県取手市出身。88年10月10日、vs井上京子戦でデビュー。デビュー以来、アイドル路線をばく進するが、93年の団体対抗戦以降は、他団体を相手にイジワルなファイトとキャラクターが定着。『アサヤン』（テレビ東京）で、シャ乱Qのつんくにプロデュースしてほしい芸能人募集という企画に応募したことがきっかけになり、今年2月にはフリーとなったが、これは芸能活動を考えた上でのこと。大人の女チックな魅力でますます色っぽくなっている。164センチ、64キロ。

Takako Inoue

蘇れ!! W井上伝説

初 ジャイ子、インタビュー

WAR 石井智宏（いしいともひろ）

ドキドキ。ジャイ子、初インタビューなのぉ（除・プチインタビュー）。お相手は、前IJジュニアタッグチャンピオン、キャプチャーでは毎回ボコボコのシバキ合いを繰り広げる一方で天龍源一郎の付き人も黙々とこなし、新日の巡業にも同行してるWARの石井智宏選手！　みなさん知ってる？　え、知らないのぉ？　それじゃあジャイ子が教えてあ・げ・る♥　石井選手は凄いんだよ。こないだ試合が終わった直後、ジャイ子が試合の話を聞こうと思ったら、鼻血を流しながら「いつ飲みに行きます？」だって。ジャイ子、絶句しちゃいましたぁ。ジャイ子の飲み仲間or頑丈番長・石井智宏、世界初インタビューで〜す。

聞き手／ジャイ子
interview by Jay-Jay

コーラス／チョロメ〜ン
chorus by Cyoromen

撮影／ジャイ子&チョロ
photographs by Jayko & Choro

ジャイ　よろしくお願いしま〜す……。……む〜（言葉に詰まり、何も聞かないうちからテレコを止める）。

石井　なにやってんスか（激怒）！

ジャイ　ご、ごめんなさい。舞い上がっちゃって……。じゃあ、入門のきっかけから伺います。「押しかけ入門」ってデビュー当時の記事に書かれてましたよね。

石井　最初は知り合いの紹介で入ったんですけど身長がないッスから、一回「辞めろ！」って言われて。それから、かなりしつこく道場行ってたんで「押しかけ」なんスかね？

ジャイ　（舞い上がって聞いてない）格闘技経験ってなかったんですよね？　格闘技やろうとか思わなかったんですか？

石井　プロレスが一番だと思ってたッスからね。他のやるより最初っからプロレスのほうがいいかと思って。それが失敗だったんスけど（笑）。

チョロ　ジャイ子は全女のオーディションを受けたんだよね？

ジャイ　うん。2回書類で落ちた。身長が足りなくて（嘘）。

石井　え〜、ホントッスかぁ？

ジャイ　こないだ石井さんに話したよぉ！　すぐ忘れるぅ（怒）。んっ、ん〜（タンが絡む）。石井さんはデビュー当時から身体できてましたよね。

石井　いや、そんなことないッスよ。

ジャイ　（否定されたので突然話を変える）ジャイ子が「石井さん、面白いな」って最初に思ったのは、キャプチャーの試合見たときなんですよ。

石井　ホントですかぁ？

ジャイ　試合後に会場を破壊してたじゃないですかぁ。（チョロに向かって）撤収してたらね、天井から下がってるブラインド落っことして、大騒ぎだったんだよ。

石井　ウハハハハ！　それが面白かったんスか？　アレ、最初っから壊れてたんですよ。

ジャイ　でも知らんぷりしてたじゃないですかぁ。ジャイ子は手伝ったんですよぉ（怒）。あの日のタノムサク（鳥羽）戦は素晴らしかったですよ。果てしない殴り合い（笑）。で、その一方でジュニアでも活躍されてるじゃないですか。

石井　ジュニアの試合なんて誉めたことないじゃないですか！

ジャイ　なに言ってるんですか？　こないだの望月（成晃）戦（4・23クラブチッタ川崎）のとき言ったじゃないですか！

石井　聞いてないッスよ。

ジャイ　なんでジャイ子が言ったこと片っ端から忘れるんですか？　卑怯ですよ。あ〜、もうインタビューにならない……（泣）。

チョロ　（冷たく）そのほうがジャイ子らしくて面白いよ。

ジャイ　（無視して）でね、キャプチャーの試合とジュニアの試合、言ってみれば両極端なことをやってるわけじゃないですか。

石井　でも、試合やるうえでの気持ちは一緒なんスよね。

ジャイ　（もはや話を聞く余裕がまったくない）もともとはプロレスファンだったわけですよね。キャプチャーには最初からずっと出てますけど。

石井　キャプチャーができてから、関節とか打撃とかやり始めたんスよ。

ジャイ　やり始めて面白さに気付いたんですか？

石井　最初は、正直言って興味なかったんスけど、「こういう関節はこうやるんだ」ってイチから始めたのがキャプチャーだったんスよ。WARは「やられて覚えろ」って感じだったんで。最初はボロ雑巾のようにやられてましたよ。だから関節覚えて見返してやろうかなって（微笑）。いまは面白いッスね。U系の試合も昔はわかんなかったから興味なかったんスけど、いまは見てて面白い。

ジャイ　ふ〜ん、そうですか（次の質問を考えるのに夢中で約2分沈黙）。

チョロ　ジャイ子、がんばれ（興味なさそうに）！

ジャイ　うん、なに話そう？　あ、こないだ5・3新日の福岡大会のあと朝まで飲んでて、次の日新宿でキャプチャーの試合だったんですよね。しかも昼夜興行（笑）。3試合もしちゃって。

石井　なぜか福岡って飲んじゃうんですよね。4月のキャプチャーのときもそうだったじゃないですか。

ジャイ　あのときは試合前日に朝まで飲んで、会場設営のときに「マットの感触を確かめる」という名言を吐いてマットに寝てたっていうイイ話を入手してるんですけど（笑）。

石井　ウハハハハ！　あれは受身を取ってたの！

ジャイ　あの日も昼夜興行でしたよね。試合終わったらまた朝まで飲んで（笑）。

石井　ウハハハ！　2連勝したじゃないッスか！　楽しく過ごせば試合でも力が出るんスよ。

お茶の間ではこちらのほうが有名かもしれないセコンド姿。黙々と雑用をこなしつつ他の新日選手の研究にも余念がない勉強家。

地下室マッチの定番・ニーハオ戦では鼻血を流してエキサイト。キャプチャーの興行には欠かせない選手のひとりである。

【いしい・ともひろ】昭和50年12月10日生まれ・神奈川県川崎市出身・身長172センチ・体重91キロ・愛称はともぴょん・平成8年11月2日vs超電戦士バトレンジャーZ戦でデビュー。プロレスと酒を愛し、明日のWARジュニアを支える注目株。キャプチャーでは顔色ひとつ変えずに相手 を叩きのめす乱暴者。動物を可愛がる意外な一面もある。そして、ファンレター＆合コン相手絶賛募集中でもある。

石井選手の今後の試合予定

キャプチャー

7月4日（日）
東京・大田区民プラザ
（19時30分試合開始）

7月18日（日）
静岡・清水市クレッシェンド
（14時試合開始）

問い合わせ
キャプチャー
044-959-3333

WARの日程は決まりしだい随時ジャイ子がお知らせしま～す♥

6月20日に引退となった安良岡裕二とは2度に渡りIJジュニアタッグチャンピオンを奪取。残念ながら今回は防衛戦も行なわれずの返上となった。

ジャイ あれは単純に「プロレスラーってスゴいなぁ」と実感しましたね。
チョロ そこは天龍イズムですよね。
石井 それでヘンな試合とかしてたらアレですけどね。楽しく遊んで、試合はちゃんとやって。酒の話ばっかりじゃないですか！ プロレスの話はしないでいいんですか！
ジャイ む～、いいの!!（逆ギレ）。試合も遊びもキッチリやってるからスゴいって話をしてるんですよ！ 貪欲なとこがいいなって。
石井 でもスタミナないッスよ。
ジャイ グフフ。メチャメチャあるじゃないですか（笑）。なかったら徹夜明けで3試合できませんよ（笑）。そのあと平気な顔して会場の撤収してたじゃないですかぁ。試合中だって相手がダウンしてるときにスクワットしてるし。あれは驚きましたね。石井さんだって何回もダウンしてたのに。「いいから休めよ」って思いましたもん（笑）。意地悪ですよねぇ。
石井 ウハハハ！ ビデオで見ると、相手がかわいそうって思うんですけどね。
ジャイ でしょ？ ジュニアの試合だと、あんまり意地悪なことやらないですねぇ。
石井 必死なんスよ（笑）。
ジャイ グフフ。意地悪してる場合じゃないと。ジャイ子、意地悪な人、大好きなんだけどなぁ（ニヤニヤ）。
石井 まぁ、僕はクリーンファイトを心がけてますからね。WARではファン獲得作戦ってことで。
ジャイ んっ、ん～（タンが絡む）。そのファンをキャプチャーで捨てる？
石井 ウハハハ！ オレ、さわやか路線のはずなんですけど。
ジャイ いま、天龍さんの付き人されてて、新日の巡業も行ってますよね。んっ、ん～（タンが絡む）。練習って新日の選手と一緒にやってるんですか？
石井 やってますよ、普段も新日の道場行って。遠いんで朝が大変で。6時起きッスよ。
ジャイ 6時まで起きてるのは平気じゃないですか。
石井 なに言ってるんスか！ この人失礼ッスよ！
ジャイ （無視）んっ、ん～（タンが絡む）。スパーリングもやってるんですか？
石井 みんなとやってますよ。石沢（ケンドー・カシン）さんはハンパなく強いッスね。石沢さんにはキャプチャーで自分がジム生にやってることを、そのままやられましたからね。あれからジム生にもちょっと優しくなりましたよ（笑）。
チョロ 石沢さんはリング上ではそういう強さばっかり見せずにプロレスとうまくミックスしてますよね。
石井 自分、張り手とかされると意地になっちゃうんスよ。それに付き合っちゃう。「倒してみろ！」って意地になって受けちゃうんスよ。それで負けちゃうんスよ（笑）。
チョロ 意地になって受けちゃう（笑）。
ジャイ 今年のスーパージュニアに出てた新日以外の選手って、石井さんほとんど対戦した選手じゃないですか。折原選手、望月選手……。
石井 二人だけじゃないッスか！ ちゃんと調べて来たんスか？
ジャイ 二人っていったら、ほとんどでしょぉ～!!（逆ギレ）。その二人にシングルで勝ったことあるじゃないですかぁ。
石井 ありませんよ。
ジャイ （得意気に）ありますね～！ 折原選手には反則勝ちですけど。「なんでオレをスーパージュニアに出さねぇんだ！」とかはありませんか？
石井 それはないッス。
ジャイ む～～！（否定されて半泣き）
石井 いずれは出たいですけどね。実績つくって。
ジャイ これからもジュニアの試合もやりつつキャプチャーでもやっていくんですか？
石井 そうですね、キャプチャーはお呼びがかかれば。
チョロ 他団体で興味あるところってありますか？ ジュニアだと、闘龍門なんてどうですか？
石井 闘龍門と言えば、黒木（マグナムTOKYO）って浅井（ウルティモ・ドラゴン）さんの運転手みたいのやってるときからファンがいましたからね。女の子が後楽園ホールの駐車場で待ってたり。その時点で負けてましたね。いまやスターッスから。
ジャイ 石井さんは海外のマットには興味ないんですか？
石井 ないッスね、日本がいい。ホームシックになっちゃいますよ。
ジャイ グフフ。淋しがりやさんですね。ジャイ子と同じ！
チョロ （無視して）強さとか、巧さとかありますけど、石井さんにいま欠けてるのはなんだと思いますか？
石井 試合数じゃないッスか？ もっと試合がしたいッスね。
ジャイ んっ、ん～（タンが絡む）。望月選手みたいな感じでいろんな団体に出るっていうのがベストなんですかね。
石井 そうッスね。いろんな団体に出たいッスね。
チョロ ジュニアヘビーにこだわりってあるんですか？
石井 はい、自分は一生ジュニアですよ。
チョロ 飛んだり跳ねたりっていうスタイルは目指してないんですよね。
石井 目指してないっていうか、できないんで。自分、飛べないんッスよ。いまは高岩さんみたいなスタイルが目標ッスね。
チョロ ジュニアの中のパワーファイターって感じですね。
ジャイ タッグ組んでみたい選手とかいますか？
石井 そうッスね、望月さん。
ジャイ んっ、ん～（タンが絡む）。一緒に練習したりするんですか？
石井 自分、武輝道場でも練習したことありますよ。一番最初にキックの練習したのが武輝道場なんッスよ。
ジャイ え、誰に習ったんですか？
石井 望月さん。それでキャプチャーで本格的にやり始めて。あ、違う！ 一番最初はマグナムTOKYOだ！
ジャイ えぇ～っ!? あ、そうか。マグナムさん空手やってたんですもんね。
石井 「オレが腕立てとか教えるから、キック教えて♥」って（笑）。
ジャイ グフフ。そんな裏取引してたんだぁ。
石井 マグナムに教わった膝蹴りとかやってたら望月さんが「キックやってんの？ 巧いじゃん」とか言ってくれて、一緒に練習するようになったんスよ。
ジャイ いまはキャプチャーで若いジム生と一緒に練習してるんですよね。
石井 ジム生とはいえ、中村（和信）さんとかは最初からいるから、関節技では同期なんスよ。
チョロ でも中村さんはアマチュアじゃないですか。やっぱりプロレスラーとしては負けられないっていうのはありますよね。
石井 そうですね、こないだダウン2回取られちゃいましたけど（笑）。
チョロ いま、キャプチャーみたいな総合格闘技って盛んですけど、そっち方面はあんまり興味ないんですか？
石井 『PRIDE』とか？ ないですよ。自分はキャプチャーだけ。
ジャイ キャプチャーには愛着があるんですかぁ？
石井 そうですね、練習も試合も最初っからやらせてもらってるし。
チョロ ああいうのに出るプロレスラーって基本的にU系の選手じゃないですか。WARから出たら面白いし、一気に名前が上がると思うんですけど。
石井 自分はプロレスで名を上げたいッスから。
ジャイ さすが天龍さんが「石井はわがままな膝小僧」（本当は「石井はプロレス好き小僧」）って言ってただけのことはありますね。
チョロ （無視して）プロレスの試合とキャプチャーの試合ってどっちがダメージ残るんですか？
石井 自分、ダメージ受けないんで（笑）。
チョロ WARの選手ってみんな頑丈ですからね（笑）。
石井 まわりに人がいなくなると痛がってるんですよ（笑）。キャプチャーはいかに受けないか、プロレスはいかに受けて勝つかですからね、全然違いますよ、どっちも難しい。
ジャイ ふーん（まとめの言葉が思いつかず、1分沈黙）。……最後に読者に一言お願いします。
石井 応援してください、特に女性のかた（笑）。自分、ファンいないんスよ（涙）。
ジャイ ジャイ子、ファンだよぉ。

●

チョロ これはジャイ子初めてのインタビューだったんですけど、冷静に考えて何点ぐらいですか？
石井 う～ん、95点。
ジャイ ウソ～、なんでぇ？ 100点じゃないのぉ？
チョロ （無視して）その予想外の高得点はどういう理由なんですか？
石井 いや、僕もインタビュー受けるの初めてなんで、ホントのインタビューってどういうもんかわかんないんですよ、ダッハッハ。
ジャイ これ、ホントのインタビューなんだけど……（涙）。んっ、ん～（タンが絡む）。

【6月11日・桜新町の喫茶店にて収録】

ジャイ子のあまりのダメっぷりに鉄拳制裁!! 嬉しそうに殴る石井に復讐を心で誓い、拳を握りしめるジャイ子。

ふぅ～（ため息）。こんなにションボリしたのは久しぶり、こんなに泣いた（編集部に戻るなり号泣）のも久しぶり。もう死にたい（嘘）。やっぱりジャイ子はダメな子だったのぉ？ 机に飾ってあるペプシマンがジャイ子を笑ってるよ（涙）。こんなダメダメインタビュアーにお付き合いしてくれた石井選手、ステキでしょ？ 「こんなインタビューじゃわかんねぇよ！」とお怒りのみなさん、ごめんなさい。石井選手の試合を見てご確認ください。

最後まで逆ギレし続けるバカ丸出しなジャイ子相手に、呆れながらもキチンと付合う優しさ溢れる石井。

紙のプロレスから特選情報おとどけします!!

場所も変わり、判型も変わり、変化し続けても あくまで強さにこだわる 格闘放浪コラム

ナーがナンだか!?

「ワザと言うしいぜ〜 さわるぞ リアル!!」

「乗り!!」

「むしゃしゅぎょー!!」

グンゼ

だのもおぉ〜!!

「行かねば!!」

花くまゆうさく『リングの汁』

梵婆家の店長『魁！裏ビデオ御開張』

プナニ酒井（エンセン井上マネージャー）『もうひとつの大和魂』

杉作J太郎『プロレスを見て女にモテろ!!』

椎名基樹&せきしろ『ザ・検証』

当コラム イメージキャラクター 先日、後楽園ホールの リングで素晴らしい 闘いを披露した 伝説の放浪格闘家& 名コピーライター

ハガゲンタ

この扉ページを ハガゲンタに捧げ、 リスペクトします。

グリズリービット・コラム

リングの汁 RADICAL

はなくまゆうさく

馬カラス

修斗10周年大会の満員ぶりや、エレファントカシマシが今の位置にいるのは、数年前なら考えられんことだ。コツコツやり続ければ報われるのか。この頃、奇跡は続く。

そんで宇野もやった。コツコツ努力し、ひとつずつハードルを超え、ついにルミナを倒してしまった。まるで漫画『キャプテン』の谷口くんがコツコツ努力し上がっていく様子を実写で見たような感じだ。今後、五味（隆典）選手が目の色変えて向かってきそうですが、なんとかがんばって下さい。宇野商店も夢じゃない！ ルミナもまたガンガンいってくれ、修斗もこのまま進んでほしい。でも今回のような大会場でのヨソ行きの大会では、試合数減らしてはじめからニュートンのような客を掴む人を出したほうがいいと思うのですが……前半お客さんつらそうでしたよ。

そんなマジメ話はさておき、大会後に友人5人でちゃんこ屋に行き、ちゃんこ5人前たのんだんですよ。そしたらやってきたのは、どうみても5人前じゃねえんですよ！ どうみたって3人前だ！ やられたよ、ボラれた！ インチキだよ！ フェイクだ！ ぬけぬけとそんなことをされて、ナメられてると憤慨しても面と向かって何も言えない奥ゆかしい日本人気質がたっぷり染み込んだ己のDNAを呪い、我々はおとなしくそのちゃんこをむさぼり食いました（たんなる小心5人組？）。やっぱ作戦ミスというか素直すぎたと反省会です。あれは、まず2人前を注文してから後に3人前たのめばよかったんでしょうか。

そんでちゃんことといえば、維新力。上田馬之助と出刃包丁振り回してた頃がなつかしいですが、去年からパーフエクTVの『レッツトライチャンネル』で「将棋入門必勝駒道場」という番組にレギュラー出演してメチャクチャ面白かったのをみなさんご存じでした。

この番組は将棋素人の維新力と無名女性タレントが毎回対戦し、マスターしていこうという内容で、はじめの半年がパート1、つぎの半年がパート2と1年間放送されました（たぶん）。パート1ではまだお互い素人なので維新力にも余裕があり勝ったこともありまして（でも自分の勝ちにきづかない）、和気あいあいしていましたが、パート2になってからのこの番組は凄かった。女性タレントのほうはそれなりに半年分進歩しているのだが、維新力は進歩せず、だんだん差が出てきました。毎回、悪手というかそれを飛び超えた不思議な手ばかり指す維新力にスタジオの空気が止まるように見える。維新力のセコンドにつく女性棋士も、はじめはやさしく指導していたが、進歩しない維新力にイライラするのか、だんだんビシビシ厳しい質問ばかりして攻めるのだ。もちろんそんな質問に答えられるはずもなく困った顔するしかない。将棋では目の前の無名女性タレントに攻められ、味方のセコンドからは厳しい質問攻めで維新力は放送中ずーと四面楚歌だ、そんな放送が半年もつづく。

「もうやめたいよ、こんな番組！」と維新力の心から染み出るソウル（魂）がブラウン管越しにビシビシ伝わってくるのは、けっして私だけの幻覚ではないでしょう。

それでも維新力はなんとか将棋を差す、だがまたどう見たってそこじゃないだろ！という所に駒を置く。ドリフ亡きあと、テレビの前のお茶の間は久々に「志村うしろ！ うしろ！」感覚を味わうのでした。

「違うよ維新力！ そこじゃないよ！ 6八！ 6八だよ！ 6八になにか指せ！」と。

紙のプロレス
サクラバ七変化!!
前号表紙 ココの表情サイコー

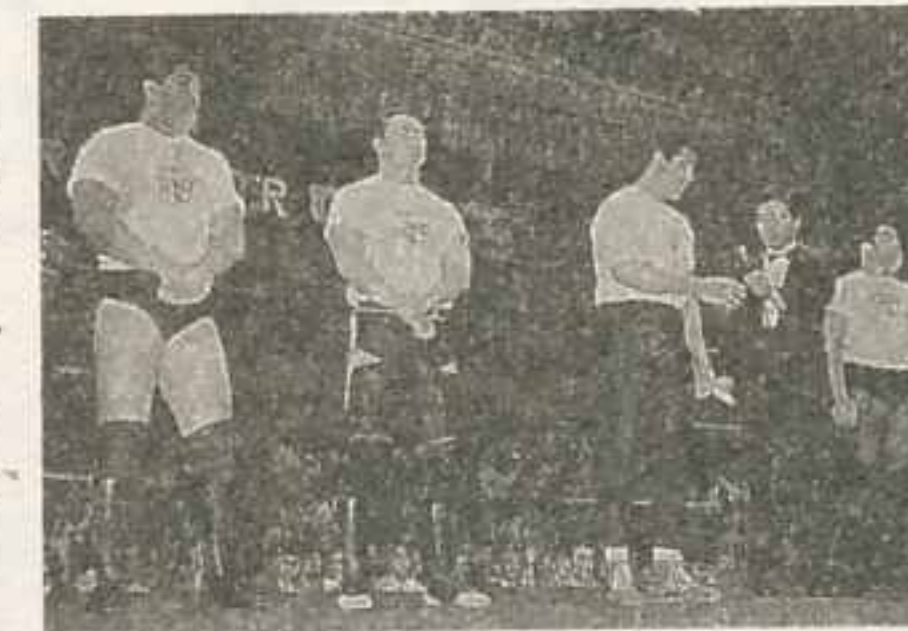
はなくまゆうさく■高円寺を歩いていたら本当にビル・ロビンソンが、目の前を歩いていた

魁！裏ビデオ御開帳

大庭敏幸（「梵婆家」店長）

第五回 昭和61年3月1日 後楽園ホール 藤波&木村&越中vs前田&藤原&髙田

ついに橋本が復活しましたね……といっても、この原稿を書いてる時点ではまだ試合してないんですが、何しろvs小川戦をしなければダメ！ 今回はそんな異物同士が化学反応でいい結果に転んだ試合のビデオです。

これは新日vsUWFが初めて接触した試合で、テレビでは放送していない、正真正銘の裏ビデオです。

プロレスの野次が激化したのは、この頃ですね。UWFファンが、「折っちゃえ」とか「蹴り殺せ」とか、血気盛んだったんですよ。UWFのファンは、なんとなく暗い……ようなイメージがありましたよね、この頃は。

笑ったのはU系のダフ屋さんがいたこと。「UWFが新日に負けるわけねえだろ！」とか凄みながらチケット売ってましたから。会場内で見かけると、だいたいケンカしてましたね。怒った新日ファンも意地になって言い返します。そんな感じで、よく新日ファンとUファンがよくケンカしてました。どっちつかずで真ん中にいると、ケンカに巻き込まれるやばい状況でしたね。

この頃は、「猪木さんがいるから」っていう理由で、とにかく新日を応援してました。ただ、「UWFの闘い方はキックと掌底とスープレックスでリアリティがある。果たしてプロレスの技って、本当に効くんだろうか？」っていう疑問が生まれ始めたのが、この頃でしたね。U勢にいいようにやられてしまう木村健吾を見ながら、そんなことを考えていました。でも、なかなか見ることが出来ないケンゴの腕ひしぎ逆十字などを拝めるのは嬉しかったし、個人的には思い入れのない全日から来た越中は蹴られても蹴られても元気いっぱいなのが不思議で……ますますプロレスがわからなくなりました。

実際、かなりエグい蹴りが新日勢の頭とか腹にめり込んでいるのが、客席の中にあるカメラで撮った映像でもわかります。新しい何かが生まれるときの激しくぶつかり合う試合ですね。

ダウンしてる選手の頭を蹴っ飛ばすシーンもあったりして、小川vs橋本戦に近いものを感じます。

この試合、藤波が最後にアルゼンチン・バックブリーカーを高田に決めてるのがハイライトシーンで、そこに前田のニール・キックが炸裂するんです。そして、最後は藤波がジャーマンで高田をピンフォールして幕を閉じました。

正直言って、メチャクチャ面白いです！ 特に越中vs高田はいい攻防をしてました！

これを見ていると、噂されている新日と全日の対抗戦も、すごく噛み合ったいい試合になるんじゃないかと思いますね。ずっと新日ファンの私ですが、渕は大好きなんですよ。カール・ゴッチ、ルー・テーズに手ほどきを受けてる渕が弱いわけありません。是非、新日勢と、ゴッチ・イズムをぶつけ合ってほしいです。欲を言えば、藤原教室の優等生第1号・保永が現役だったら対決を見たかったですね。長州顔面襲撃のときの前座で、山崎vs保永という試合があったんですが、その試合の保永はUスタイルには付き合わないんですが「オレは出来るんだぜ」という匂いをプンプンさせて……そのビデオはまたの機会にしましょう。

ぼんばいえのてんちょう■梵婆家は、表・裏を問わず、圧倒的な量のプロレスビデオが揃ったプロレス居酒屋です。オリジナルTシャツも販売中（P142参照）お問い合せはTEL.03-3323-5629まで

賢い野蛮人エンセン井上のマネージャー日記

もうひとつの大和魂

ブナニ酒井

第5回　交渉、大好き!!

この連載を始めて、「エンセンってもっと過激なんじゃないの?」と聞いてくる人がいます。たしかに、いままで書いていないトラブルもありますが、それは絶対に載せられないネタなので勘弁してください。とはいえ、エンセンの行くところにトラブルあり、です。今回は、何事にしてもこだわる性格ゆえのトラブルを紹介します。

エンセンはマクドナルドが大好きです。フィレオフィッシュ、ナゲット、ポテトやアップルパイなどを注文します。特にナゲットは大好きで、バーベキューソースをたくさん欲しがります。それは、あるマクドナルドのドライブスルーでのこと。

エンセン　ナゲットちょうだい。バーベキューソースは5個つけてネ!

店員　あのぉ、お客様。ナゲットひとつにバーベキューソースはひとつしかつけられないのですが。

エンセン　エッ!?　こんなちっちゃいのひとつじゃたりないヨ!　前に来たときはいっぱいくれたのに!

店員　でも、ダメなんですよ本当は。

エンセン　わかった。じゃあバーベキューソースだけ買うヨ。いくら?

店員　バーベキューソースのみの販売はしておりません。

エンセン　なにそれぇ!?　お客さんが買いたいのに売らないの、そんなのおかしいヨ!

店員　決まりになってますので…。

マニュアルどうりの対応しかしてくれない店員に対し、後ろに並んで待っている車がクラクションを鳴らしているのにもお構いなしでエンセンが続ける。

エンセン　もう、あなたでは話にならないヨ。支配人いないの?　連れてきて!

結局、マネージャーにバーベキューソースをたくさんもらって喜んでいました。「またあの店いった時はこれでいこー!」とか言っていました。そのときの店長の苦虫を噛み潰したような表情は忘れられません。

エンセンのタチの悪さ、問題児ぶりはこれだけではありません。

ファミリーレストランに行った時にも同じ様なことをします。メニューにはクリームソーダしかないのですがエンセンが欲しいのはメロンソーダ。エンセンは「クリームソーダのクリーム取って、その分メロンソーダをたせばそれでいいヨ!」と言ったのですが、これまた「出来ません」という店員と押し問答になり、最終的にはマネージャーを呼び出してメロンソーダをゲットしました。

「支配人呼んで!」はエンセンの常套手段です。別に困らそうとして言っているのではなくて、ただ単に交渉が好きなのです。メロンソーダやバーベキューソースといった、小さなことでも、交渉次第で自分のものに出来るのが嬉しいのでしょう。

そして、マニュアル社会の日本をかき回して、人間の本来の姿を問いにかけているのかもしれません。規格外とか自由人だとか言われますが、ストレートにそして自然に生きています。

エンセンは言います「問題があった方がおもしろいじゃない!」と。このねちっこさが格闘技に向いているのかもしれませんね。でもマネージャーとしては大変です。

ぶなに・さかい■前号に引き続き、修斗くんの子犬を希望される方で、その生涯をワンオーナーで飼育できる方に限り販売します。問い合わせはTEL・0493-54-5515修斗くんクラブ、やなせ迄

エンターテイメント・レスリング・コラム

プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

四十八手の五　セーブル訴訟騒動大研究の巻

う〜ん、底が深い!

浅いのかな?

いや、やっぱ深いか。

でも浅いかも……。

という具合に、底が深いのか、浅いのか、考えようによってはどっちにもとれるのが6月初旬、世界150ヶ国を股にかけたグレートオナペット、セーブルがWWFに対して慰謝料134億円を請求した訴訟騒動だ。事件を振り返ろう。5月中旬のWWFロー・イズ・ウォー大会でWWF女子王者のセーブルはデブラを相手に防衛戦を行った。その試合形式はコミッショナー、ショーン・マイケルズの提案したイブニングドレスマッチ。相手のドレスをひんむいた方が勝ち……なのではないかという暗黙の了解の下、試合開始のゴングは鳴った。そしてその数秒後。アッという間にセーブルはデブラのドレスをビリビリに引きちぎることに成功。セーブルが見事、王座防衛を果たした……と思ったその直後。マットに登場したマイケルズは、WWFのルールでは先に肌を露出した方が勝ちだと、セーブルの勘違いを指摘した。かくして新王者になったデブラ。口をとがらせてブーたれるセーブル。

いやぁ、おもろい劇やねェ、おみやげ、おみやげ……てな寸法で（古い寸法でスンマセン!）知能指数ゼロメートル地帯の痛快劇は幕を閉じたはずだった。ところがなんとセーブルはこのマイケルズ裁定に、

「これは陰謀だ!」

と、不服を表明。訴訟となった次第である。おまけにセーブルは自分自身がリーダーだったWWFのエロ路線に対しても、

「低俗かつ品性下劣である!」

とバッサリ。ハッキリ言って、考えるのもヤボで面倒な出来事ですが、ムリヤリ考えればここでいくつかの推理が成り立つ。推理1　引退料代わりに訴訟を起こした。推理2　訴訟も劇の一環である。推理3　すべてシュートである。

ま、どれでもいいよーな気がするけど、実際、どれでもいいんだろーな。

なぜならば、それが世の中だからですよ。話は急にスライドするけど、男女間の関係なんてのはまさにそんなもんだね。騙されてるのか、騙してるのか。本気なのか、本気じゃないのか。ナニの時の派手なアクションは演技なのか、演技じゃないのか。二十代前半まではすべてを真実と見てハッスルするも青春の良き思い出になるだろうが、俺も今なら言えるよ。わからんね、これだけは、と。

だいたい、恋愛の高熱が程度の差こそあれいつか必ずクールダウンすることを考えても、どこからどこまでが真実だったかは、自分自身でもわからないものなのではないか?

だからといって最初からクールを気取ったのでは何事もおもしろくならないから、要は持続させようと思うならば、立ち止まるな、振り向くな、ということなのだろう。

すぎさく・じぇいたろう■夕方にビール4本飲んだら眠くなったので寝てしまいましてこの原稿書いてるのは朝の5時　今日はいい天気になりそうです

椎名基樹&せきしろの

ザ・検証

勝つのはハガキ道場か、それともハガキ劇場か？ 興味あるふりしてしまいました こめんなさい というわけで、いきなり心のこもってない謝罪から始まった ザ・検証 そんなことよりヒロ・斎藤フィギアが発売されていました フィギア向きのルックスだけあってなかなかの出来 てもなんて越中は出ないの？ 出してくれたらカートン買いするのに開封用、保存用、開封しないで飾る用、お風呂で遊ぶ用、結納用、死んた時に棺おけに入れてもらう用などなど何体あっても足りません あと個人的にゴルドーが欲しい

ザ・検証

【今月の検証】

平成維震軍復活

by せき詩郎

平凡な日々、月並みの日常が、あとから考えると幸せだったと実感することがある。残念なのは〝あたりまえの日々〟を過ごしているその時に、それが幸せだと実感できないことだ。過ぎ去ることによって思い出として美化されるからこそ、実感するものなのかもしれないのだが。

プロレス中継にチャンネルを合わせると維震軍が暴れまわっている、その光景はあたりまえのことだと思っていた。休憩前の6人タッグ、前座とメインのボーダーラインファイト、自ら雨を降らせて地を固めるチームワーク、定期的に組まれる越中vs蝶野戦……。どれも当時はあたりまえの光景だった。その光景に終わりが来ることなんて想像したことも無かった。永遠に続くものだと思っていた……。

しかしそれは大きな間違いであった。維震軍解散のニュースは突然舞い込んできた。

解散自体はすんなりと受け入れられた。多分どこかでそうなる予感はあったのであろう。自分でも驚くほどにあっさりと納得した。が、ひとつだけ納得できないことがあった。越中の本隊入りである。

越中&吉江組、越中&飯塚組、越中&平田組……。頭に浮かぶ最悪のタッグ編成。そして現実として突きつけられた越中&健介組。

維震軍としての越中&後藤組、越中&小林組などのタッグはもう見ることはできない。選手会ではない越中はもう見ることはできないのだ。当然のことととして考えていた光景はもうない。過去には戻れない。

それでも自分の部屋に掲げてある維震軍の旗はそのままの状態だった。越中が「必勝」と書かれた日の丸の鉢巻を意味もなく頭に巻いている姿のミニパネルも外さなかった。新日とUインターの対抗戦のパラレルワールドで行われた越中vs高田戦のポスターも同様だ。それらはまるでかげ膳のように、ひっそりと飾られていた。それは維震軍復活、もしくは越中本隊離脱への期待だったのかもしれない。あるいは単に面倒くさいだけだったのかもしれない。

そんな時、一冊の本に出会った。タイトルは「Let,sダチ公」。その中にこんな記述があった。

「本来は梅林の番格で、他の学校へ入学するの！ そして普通の生徒でいるらしいの！ 事が起こったとき、内部から行動を起すのよ！ その時草番として役を果たすわけよね」

他の学校へ普通の生徒を装い入学し、内部からその学校を破壊する番格、草番。一種のスパイである。マンガの世界の非現実的なこの記述を、大人なのに本気になって読んだ時、今まで点として散在していたものが、強引に繋がれ線となった！

越中の本隊入り、あれはスパイ行為なのだ。カモフラージュに過ぎないのだ。そう、越中は『Let,sダチ公』でいうところの〝草番〟なのだ。きっと本隊の中に忍び込み、内部からぶっ潰すつもりなのだ。維震軍解散記者会見で越中は「やるべきことはやった」と言ったが、あれは嘘。本隊を安心させるための作戦。維震軍は蝶野以上にクレバーだったのである。そんなことに気づかなかったなんて。私は自分を恥じた。

早速この、じつは根拠の無い「越中スパイ説」を公表したところ、この説（というか妄想）が真実であることを裏付けるある情報を入手した。それは「AKIRA（野上）が蝶野と結託したのもスパイ行為」というものだ（情報、というか妄想提供・S.O.Dさん）。この情報が、さきほど強引に線としたものを、その上から油性の極太マジックでなぞったくらいの必要以上に太い線へと変化させた！

維震軍がいつ復活しても良いように後藤&小原が居場所を確保しつつ、越中は本隊を内部から破壊、野上は蝶野周辺を破壊しつつムービースターとしてVシネマクラスの俳優（竹内力とか）を維震軍シンパとして取り込む。それを健吾が温かく見守り（健吾の政界進出→国会を内部から破壊、というプランは大きすぎて失敗）、その間に邦明は体を本調子に戻しつつも新幹線の食堂車のメニューを全部食べてしまうというある意味破壊行為を行い、彰俊は新生維震軍の合宿に向けてパスポートを取りに行く（前回の合宿に彰俊はパスポートが期限切れで不参加）のであろう。新生維震軍を作り上げるために、それぞれがそれぞれの準備を進めているのだ。その間だけの偽装解散だったのである！

こうなると考えるべきことはただ一つ、維震軍復活、新生維震軍誕生はいつになるか、その一点だ。すぐ先のことなのか、それとも遠い未来なのか、そんなことを考え始めた頃、ちょうど越中vs後藤&小原の挑発合戦が始まった。

「誰でもこいって!! 武藤、フライ、小原と後藤もまとめて叩き潰す。みんな今のうちにホザいてろって」（越中）

「どっちでもいいから1対1でやってやるって。武道館でいいって。日にち、会場、はっきりと決めた指定試合だって」（越中）

「越中は俺らの付け人になれよ、付け人に」（後藤）

「そうだそうだ、新弟子として一からやり直せって。おれ達のパンツとか洗えって。かばん持ちにしてやる」（小原）

「あいつら、ただ髪の毛を黄色にしただけじゃないか。俺に言わせりゃ後藤も小原もただのゴミ。面倒クセーからいっぺんに来やがれ。まとめて相手してやるって」（越中）

「新日本にいられないように燃やして、すっ飛ばしてやるって」（越中）

「武道館にタッグのベルトもってこいって。シングルマッチでタッグのベルトかけろって。ベルトかけなきゃやらないぞ」（後藤）

「武道館は2対1だ。サムライ・シローって呼ばれてて、サムライなら約束守れよ」（小原）

「越中！ オレ達の強さを見たか。いつまでも逃げてないで勝負しろ、このヘッポコヤロー」（小原）

日ごとにヒートアップし、かつ子供の口喧嘩へと変化していく3人の発言。このやり取りを見ているうちに私の頭の中である事がひらめいた。越中vs後藤戦が組まれた6月8日の武道館大会、この興行が維震軍復活の日となるのではないだろうか、と。

確証はあった。それは後藤の〝シングル戦なのに「タッグのベルトを持って来い」発言〟である。維震軍が再結成するためには越中&佐々木組が持つベルトは邪魔であった。ベルトはどうなるのであろうという疑問が私の中に絶えず存在した。再結成後、ベルトを返上するのか、それとも健介が維震軍入りするのか、色々考えたがどれもしっくりこない。そこに後藤のこの発言。

6月8日の武道館大会で越中がタッグのベルトを持参し試合に臨む。試合中、小原が乱入。これに怒った越中のセコンド（本隊）も乱入。が、越中が攻撃したのは小原ではなく本隊。リング下に蹴散らされる本隊。そしてリング上では維震軍復活宣言。そのままベルトを強奪。ベルトにスプレーで〝覇〟と書き殴り、維震軍のベルトにしてしまう。一見理不尽な後藤の〝シングル戦なのに「タッグのベルトを持って来い」発言〟だが、裏ではこんな年密な計画があったのだ。

6月8日の武道館大会が維震軍復活の日。もう疑う余地は無かった。『トップ・オブ・スーパー・Jr.』というシリーズタイトルが『トップ・オブ・スーパー・維震軍』と変化する日であることは間違い無いのだ。

このように妄想を爆走させながら待ちに待った当日がやってきた。越中vs後藤戦は第3試合。予想よりは心持ち早めの試合だが、早めに見られることに越したことは無い。きっと維震軍が再結成してリングジャックしてしまうのだから、第4試合以降は中止になってしまうはずだ。橋本復帰戦も中止。会場に橋本のコスプレをした人がいたが、中止になるかもしれないのにかわいそう、そんなことを思ったりもした。

天山&ヒロvs健吾&木戸という、ルックスからのみ判断すると、サウナでの喧嘩を見ている錯覚に陥ってしまう試合を見て、次にリング上を所狭しと縦横無尽に動き回る（以上棒読み）ジュニア戦士達の8人タッグを観戦。そしてついに第3試合！

まずは越中の入場。ガウンは着ていない。臨戦態勢だ。ついでにベルトも持ってきていない。いやな予感がしたが、あとで彰俊か野上が持ってくるだろうと無理矢理ポジティブシンキングを実行した。次に馬の助のコスプレをした後藤&小原の入場。突然、越中が後藤に張り手を見舞った！ この音がゴング代わりとなり、試合開始。

越中のケツ攻撃に怒った後藤がマウントを取りパンチを連打。これに怒った越中がマウントを跳ね返し、張り手を浴びせる。またまた怒った後藤が越中に膝蹴り。越中も負けじと怒って再び張り手&パンチ……。

観客の歓声はほぼゼロ。静寂の中でこれでもかと殴り合う2人。それをセコンドの小原も静かに観戦。

お互い殴り合い、その後友情を再確認する、そんなシーンが古いドラマによく出てくるが、そんなシーンとダブりそうでダブらない。なぜなら越中のパンチがどんどん

力強くなっていくのだ。最初は張り手だったのに。「この2人、本当に仲が悪いのか」と思ってしまうほどのパンチを越中は後藤に浴びせた。よろける後藤。そこにケツ。そしてパワーボム。

あっけなく試合は終わった。越中の勝利。後藤&小原は何のアクションも起さずに控え室へと向かう。

結論から言うと、この日維震軍は復活しなかった。長々と述べた復活説は間違っていたのだろうか？ それは違う。試合後、越中は「小原、今ここでやってやるよ！」と挑発した。結局その日越中vs小原戦は行われなかったが、次シリーズで対決は実現するだろう。そう、維震軍復活はその時に延期になっただけなのだ。次シリーズで復活するに違いない。考えてみると、越中はまだ本隊を内部から破壊していない。きっと彰俊もまだパスポートを取りに行ってないのだろう。野上もまだ竹内力と仲良くなっていないのだ。復活するための準備が今回はまだ整っていなかった、そう考えるのが妥当であり、個人的には都合が良かった。

最後に、少々心配なことが2つ残った。ひとつは越中と後藤&小原の仲が本当に悪そうな印象を受けたこと。これは予想外だった。

そしてもうひとつ。越中を草番に例えたが、先に挙げた草番の記述には続きがあったこと。草番として他校に入学したはいいが、「でも、そのまま卒業しちゃう場合もあるんだって」とそれは続いていた。越中も本隊に入りこんだはいいが、そのまま引退してしまうかもしれないのである。

これら（特に最初の心配事）を考えると維震軍復活の夢は儚く散ってしまう可能性が大きい。が、心配は要らない。反選手会同盟を作ったきっかけとなったジョージ・ハリスンの再来日という起爆剤がまだ残っているのだから。再来日がいつなのかは知らないけれど。

ザ・検証

【今月の検証】

ドラゴン犬神説

by 椎名基樹

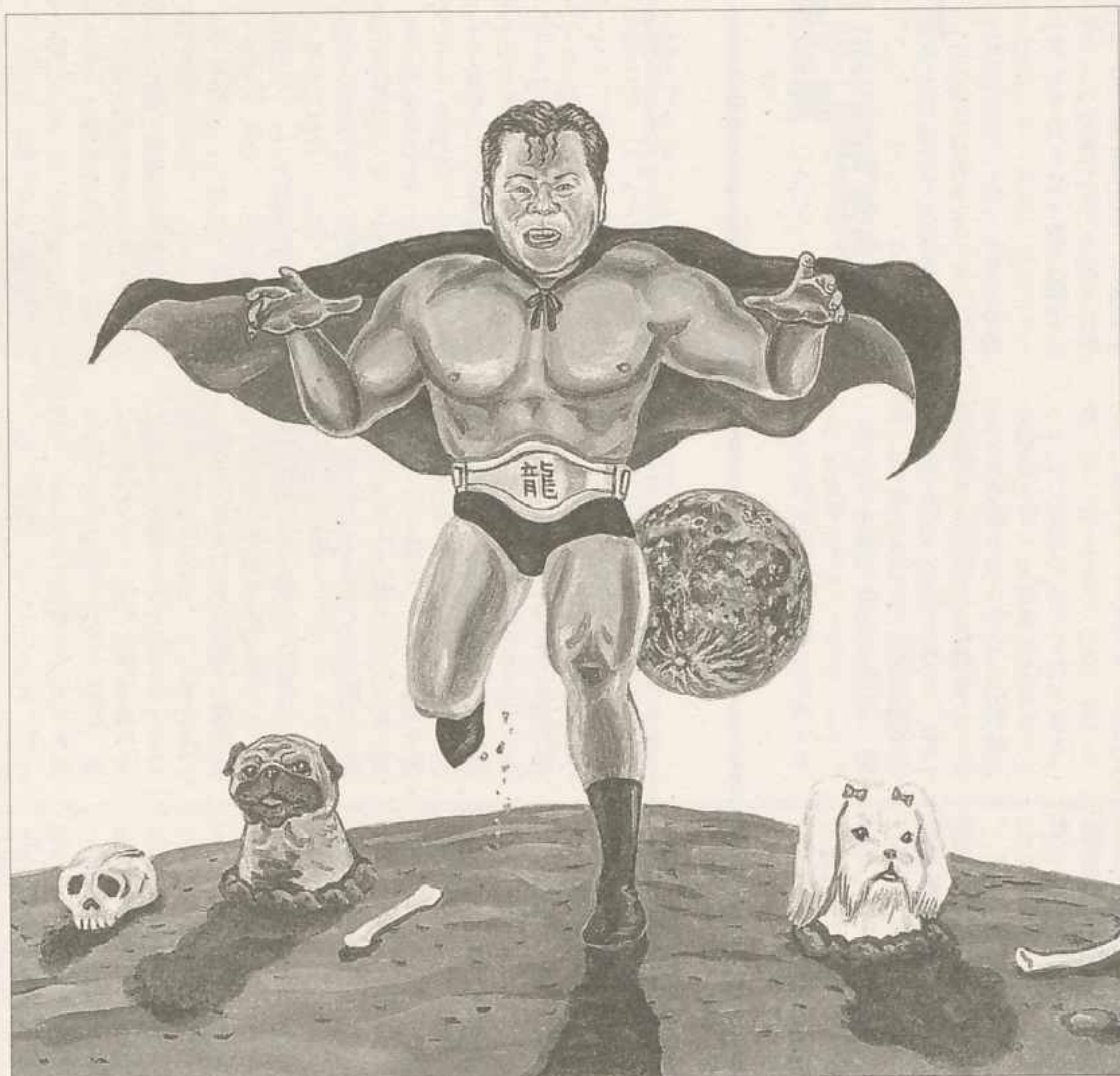
『わし流プロレス絵ンマ帳』、否、『悶絶！プロレス秘宝館』の発売以来、プロレス本に古書価値が発生し、『山本小鉄のあっ、ちょっと待ってください！』や菊地孝大先生の『プロレス ゲラゲラBOOK』がプレミア価格で売られるという、冷静に考えると面白過ぎる状況が生まれている。

そういう俺も、どこか納得できない気分ながら、1500円とか2000円とか出して、プロレス古書を購入している。そして、俺の場合、そこまでして手に入れたいと思わせるほとんどが『藤波本』なのである。

痛快に笑いたいなら、やはり『猪木本』が一番だろう。プロレスの裏を知りたい、または、本気で感動したいなら、もっと他の本がたくさんある。なにせ『藤波本』は、武勇伝皆無、暴露話NOTHING、苦労話の悲愴感は0の三無主義なのだ。それどころか、多くの著作のほとんどの内容は、かおりLOVE、徳川家康RESPECT、鶴田戦実現の夢と、どうでもいい素っ頓狂で的外れな話がこれでもか、これでもかと繰り返されるばかりなのだ。しかし、逆に言えば『藤波本』ほど、無自覚な素、つまり無我をさらけ出しているものはなく、これほど突っ込みがいがある、面白いブツはないのだ。

そんな、藤波に関する、とても気になる記述がある。それは『悶プロ2』の吉田豪の『猪木本』特集の中に見つけた「藤波はイタズラ好きである。うちで一番ではないかな？たとえば、犬を埋めて首だけ出して動けないようにして、セッセとエサを運んでいる」という猪木の言葉だ。これは猪木の『今こそ燃えよ・君よ苦しめ、そして生きよ』という、支離滅裂なタイトルの本の一節だそうだ。これに対し、吉田豪は「藤波のヤクザチックなエピソード」とコメントしている。俺も最初これを読んだ時、新日合宿所伝統のブラックなイタズラだと解釈した。しかし同時に、前記した藤波の素っ頓狂で無我なパーソナリティーと相反する印象も受けていた。

だが、あまりにも面白いので、俺はこの犬埋めの話をよく友人に聞かせていたのだ。そして、ある四国出身の友達にこの話をした時、驚くべき答えが返ってきたのだ。「それは、四国に伝わる〝犬神〟っていう有名な呪術だよ」。ぬな〜!? 死国の呪術〜!? 犬神とは、犬を首まで地中に埋め、エサを口が届かないギリギリの所に置き、犬の飢えが限界に来た時首を撥ねると、恨みを特定の人に飛ばせる呪術だというのだ。

俺はこの話を聞いた時、震えた。あまりに合点がいくことが多かったからだ。まず、藤波は大分県出身、四国に非常に近い。しかも、藤波は「小さい時は、牛の代わりに耕運機を引いていた」ほどの、現代とは考えにくいドメスティックな土地で育ったというのだ。さらに、猪木の藤波に対する、あまりにムゴい仕打ちが頭に浮かんだ。猪木は著書の中で「藤波を後継者と思ったことは一度もない」などと、わざわざ明言して話題になったが、それに対し藤波はよせばいいのに、最新著作『無我』の中で返答している。それがまたメチャクチャいじましく、未練タラタラのネタミ節なのだ。「猪木さんは自伝の中で、私を後継者と思ったことはないと語っているが、私自身そう思ったことはない」と語っておきながら、猪木の引退試合&UFO批判をして、最後に「あえて言うならファンの望みはやはり猪木・藤波戦ではなかったのか？」と言い放っている。思えば『藤波本』の文体は、ほとんどこの調子で、散々愚痴った後「俺は言わないけど、みんなが言ってる」という、他人のせいにしたネタミ節ばかりなのだ。

そして、極め付けが『ドラゴン炎のカムバック』の一節だ。この本は腰痛に襲われた藤波が、それを「男性ファンの霊がついた」と思い込み、心霊治療に著しく傾倒していく（のちに『無我』の中で、まやかしの東洋医学呼ばわりする）様が描かれた名著である。その中の『かおりの闘病秘話〜証言③』にものすごいことが書かれている。「ある人に言われたんですよ。お宅に犬を飼ってるでしょう。犬の具合が悪くなかったですか、というんです。本当に飼ってた犬（マルチーズ、4歳）の調子がおかしかったんですよ。主人の腰がよくなるにつれ、犬の〝ウイリー〟の状態がズンズン悪くなっていた。そして〝ウイリー〟は、私に抱かれながら最後のお別れに尻尾を 振ったような感じで死んでしまった。つまり、藤波の痛みを貰っていったのかな、と思うんです」。

猪木の引退試合、最後に闘魂注入されたのは、無我の西村だった。その西村は……嗚呼、ネタましい、ネタましい。ネ・タ・ミ・ハ・ラ・サ・デ・オ・ク・ベ・キ・カ。怖い！

PS■栃内良氏の『フラッシュバック プロレスラー激白コメント99』に藤波と犬に関する面白い記述があったので、最後に書いておく。「インタビューするために藤波の部屋を訪れたことがある。そのとき、ドアを開けると同時に10匹ほどの犬がキャンキャンと吠えながら飛び出してきた。驚いて思わず聞いた。〝全部飼ってる犬ですか〟〝いやー、同じマンションに住んでる人たちの犬だよ。昼間働いてる人が多いでしょ。だから、ペットって留守のとき心配でしょ。今日みたく休みのときはウチであずかってるの〟」。………。

イラスト／藤本康生

『紙のプロレスRADICAL』読者投稿ページ「PRIDE.0」5戦勝ち抜き記念!
武田いづみちゃんについで殿堂入りとなった真下純子さんの
「PRIDE」シリーズ全5戦をここに完全プレイバック!

真下さんへの『おめでとう』と 真下さんからの『ありがとう』

ましたじゅんこさん

あいさつ。
只今ご紹介に預かりました真下です。この度は私もいづみちゃんのいらっしゃる殿堂に入れて頂けることになりました。「顔じゃねぇ」と言われようとも嬉しいです。自分に一票入れたりと姑息な真似をした甲斐がありました。これでもう書かなくてもいいのでチビッ子を集めて野球でもしようかと思います。
この間、インターネットの某掲示板で、「真下純子ってイイか?」という書き込みを発見しました。けなされるのは仕方ないですが、「イイか?」というメッセージが世界中に発信されたと思うと夫や娘や両親に申し訳なく思いました。まさか私が読むなんて露にも思わなかったんでしょうが、しっかりHN(ハンドルネーム)は記憶しておきました。こんなんでもいいって言ってくれる夫がいるんだよ。おぼえときな、ぼうや。
それでは本当に皆様ありがとうございました。

真下純子

第1戦『猪木と乾杯した日』

皆さんは友人知人の結婚披露宴に出席し、「この式は生涯忘れられないなぁ」などと思ったことがおありか。自分のではなく他人ので、である。とりわけ私などは「これが名古屋の嫁入りだぎゃー!!」と植木等が絶叫する尾張名古屋の人間である。新郎新婦がゴンドラから降りて来ようが象から降りて来ようが「最近はこんなんもありか」程度の感想しかない。だが私にはモノ凄い結婚披露宴に出席した思い出がある。
さてその前に。平成六年一月四日・東京ドーム。この日、天龍源一郎対アントニオ猪木戦が実現した。その時私は、当時、新間&美人秘書の告発により絶賛イメージダウン中の猪木がどんなファイトをするのか注目していた。きっと「クリーンな猪木」をアピールするような試合になるであろうと。ところがこの日の猪木は「超キラー」。しつこい程のチョークスリーパー、顔面へのヘッドバッド、ロープブレイクにも腕ひしぎ逆十字を離さず、ついでに天龍の指をへし折りにかかるしまつ。で、結局パワーボムにて敗戦。スキャンダルの泥沼をバタフライで泳ぐ猪木の心の中が覗けるようなちょっぴり涙の味がする、でも最高に猪木らしい試合だった。
その約一ヶ月後、平成六年二月某日・大安吉日。E・K御両家結婚披露宴。私は新郎側友人として宴の席にいた。そこに何と!! 同じく新婦側来賓として参議院議員・スポーツ平和党の猪木寛至氏も参列したのである。
後に新婦であるその友人に訳を聞いてみると、彼女のお父さんはかねてから猪木と親交があり、羨ましいことに一緒に焼肉を食べたりボーリングをしたりするような仲、ということらしい。ちなみにそのお父さんは名古屋では名の通った企業の社長さんである(ここらへんのことを突つくとヤボになるが)。
この日はアホほど雪が降り、新幹線のダイヤも乱れ猪木は少し遅れてやって来た。大きな扉が開き、猪木が入場してきた衝撃は忘れられない。誰もが心の中で『炎のファイター』を響かせたであろう。モーニングに身を包み黒い蝶ネクタイをした猪木。ざわめき、色めきまくる会場。
そして猪木がマイクを握るひとときがやって来た。
「一言お祝いを申し上げる前に――私は最近、大変スキャンダルが多いというか、週刊誌・テレビ等で色々賑わしておりましたが、まあ余り言い訳をするつもりは無いんですが、一切そういったことは無いと!!」
「これから飛び立っていく若いふたりに教訓というか……自分の人生を振り返ってみれば何回か出直しをしておる訳でして……」
「月並みな言葉ではありますが、ふたりの信頼といいますか、強い絆でもって荒波を越えて行ってもらいたいと。私も二十二歳年下の妻がおりまして…この一連の問題で身体が半分になってしまうような大変な苦労をさせてしまいまして。これから一生大事にしてあげないといけないな、ということで共に夫婦の道を歩んでいってるわけですが……」
「私も夢多き男というか、夢を果たそうと思えば思うほど女房に苦労をかけてしまうわけでして……先月も四日にドームで試合をやりまして、六万人が声援を送ってくれました。そういったプロレスファンに対してもリングで夢を果たしていきたいと思っております」
「何かおふたりにもっと素晴らしいお祝いの言葉を、と思ったんですが、つい自分の人生を振り返ってしまいました。つたない私の経験ですが何か参考になるかと思いまして……」(なるか!!)とまあ自分のことを語ったからとはいえ、さりげなく忌み言葉を折り混ぜた素晴らしいスピーチを贈り、宴は最高に盛り上がった。
ここは名古屋、娘が嫁に行く時は出来る限りのことをしてやらなければならない地域だ。その晴れの舞台に猪木を呼ぶ。凄いインパクトである。「今はちょっと時期が悪いかなぁ」とも思ったかもしれない。しかし猪木のスキャンダルは忘れても自分が参列した式に猪木が一緒だったということは皆簡単には忘れないだろう。誰もが「こないだの結婚式、猪木が来てさぁ」などと語ったであろう。皆の記憶に残る披露宴。これを「親心」と言ったら語弊があるだろうか? ないね。
そういえばスピーチの中で「ジョージ・フォアマンとの異種格闘技戦を……」と言っていた猪木だったが、今UFOに乗って遠~い処に行ってしまったし、もう忘れちゃったかなぁ。
さて「ここんちに生まれたかった…」と私を羨ませたこの友人、猪木はおろかプロレスには全く興味がないそうである。ぎゃふん。

(紙のプロレスRADICAL NO14より)

第2戦『二千二百円目の馬場』

子供がいるのでガチャガチャ(正確にはガチャポンというらしい)は私にとってかなり身近なものだ。
『PRIDE0』第2戦でいづみちゃんが書いていた通り、最近のガチャは二百円モノが出回っている。これがちょっと様子がおかしい。例えば『HG』と呼ばれるシリーズ。ロボコンや東映ロボット(ジャイアントロボなど)。ロボコン走行形態を手にして小学生が喜ぶか? ロボGETして「マッ」とか言うか?
これらのターゲットはちびっ子ではなく大の大人達なのであろう。
さてそこで、皆さんもうご存じだろう。遂に我々プロレスファンが二百円を投入しレバーを回しまくる時がやってきた。
「YUJIN SRシリーズ全日本プロレス王道メインイベンターフィギア」。
秋山、小橋、三沢、川田、田上、そしてジャイアント馬場が約20分の1のフィギアとなり、手足をもがれ、カプセルに収まっているなんともシュールなこの代物。お母さんサイフゆるみっぱなし、トリコじかけのあけくれである。とにかく良くできている。似てるのだ。
小橋の「イーッ」とした顔。田上の首から肩にかけてのライン。三沢の口元。そして乳首の位置の正確さ。
きっと中国あたりの工場でひとつひとつ流れ作業で彩色されているのだろう。見知らぬ国のレスラーの乳首をちょん、と筆先で描きながら作業員はどんな思いを馳せるのかしら……。ロマンチック。
添えられた紙には「誤って飲み込まないように」などと書いてある。どこかの病院では子供を抱え取り乱した母親が飛び込んで来て、「この子が三沢の腕を飲み込んでしまって!!」なんて医者に泣きついたりする光景が……。
さて、ロボコンではガンツ先生がなかなか出ないように、やはり馬場さんはなかなか出てはくれない(そういえばプロレスラー消しゴムもシークばっか出してたわ私)。「また小橋かよ~」なんて試合会場では絶対言わないようなセリフを思わず吐いてしまうこともしばしば。
私の場合、三沢・小橋3体ずつ、秋山・田上2体ずつを出してようやく馬場さんにありつけた。川田出ず。
約10㎝ちょいの馬場さんを組み立て、「やっぱり馬場さんはでかいなぁ」と再確認させていただいた(他は約9㎝)。大きいから「お得感」「当たり感」がある。馬場さんは。
そうそう、添付の紙はアンケートになっていて、次回フィギアにして欲しいレスラーのリクエスト欄があった。
ファミリー軍団、出ないかな~。ラッシャーさんのもがれた腕ウィズマイク。組み立てたいわ~。
そして鶴田も。馬場さん今度はガウン姿がいいな。ああ、きっと私はそれらを出すため両替を繰り返し、確実に家計を圧迫するだろう。子供に示しがつきませんよ、全く。
新日のブリスター路線も確かに時代に沿ったやり方だとは思う。しかしプレミアが付いたり、買える場所も限られていて敷居が高い感じは否めない。
私は玩具屋やスーパーの軒先に並ぶのを選んだ全日の心意気をリスペクトしたい。それに、結構効率悪いし、全部集めようと思ったらかなりお金かかりますよ。あったまいい、馬場さん。
P.S. 新日橋本フィギア、色黒すぎ

(紙のプロレスRADICAL NO15より)

第3戦『シンデレラと呼ばないでチョンマゲ!!』

『別冊宝島プロレス読本』。私の愛読書の一つである。

忘れた頃に書店に並んだりしているので見つけると購入するようにしている。季刊っぽいペースで出版されているからタイムリーな情報とは言い難いが、豪華な執筆陣によるコラムやレスラー・格闘家のインタビューはバラエティーに富み、わりと毎回お得感のある一冊となっていると思う。

お題に沿った思い入れたっぷりのコラムが並び、感銘を受けたり時間の無駄になったりと定価分は充分楽しませて貰っている。

しかし、「こいつ何言ってんだ?」ということを堂々と書いているライターをこの本により発見させて頂いた。

○田○了。

彼は「プロレス読本Files Vol・2死闘本場所!プロレス×格闘技」で船木誠勝vsロベルト・デュランの一戦について書いている。

「この一戦のために伊藤みどりの取材を人に代わってもらい」、「当時は船木と面識はなくデュラン派で」、「でもデュランはブタになってて仰天し」、「デュランは負けたけど、この時船木の素晴らしさを知り」、「あの時慌てて新幹線に飛び乗ったのも、船木に出会うためだったのかも」という内容だった。

それは置いといて。

その「デュランがブタでショックだった」時の気持ちの比喩として彼はこう表現した。

「昔シンデレラ姫と呼ばれ可愛かった天地真理」が太り、「ガラガラになった声で歌っているのをテレビで見た時のショック」だったと。さらにこうだ。「真理ちゃん、僕はファンクラブにも入っていたんだぜ」。待て待て待てーッ

!!

天地真理は「白雪姫」だろうが

!!

揶揄を書くのなら事実確認を怠らず責任を持って書いて欲しい。これは「桃太郎侍」を「金太郎侍」と言うような大変罪深い誤りだ。「デュラン=太った真理ちゃん」と繋げ、「笑かし」にかかったのかもしれないが、「笑かし」の元が間違っていたらどこで面白がればいいのか読み手はわからない。「真理ちゃん」を引用することによって特定のひとたち(現在中年おやじ)に電波を送ったつもりだろうが、そこで「シンデレラ」なんて書かれると奥歯に物がはさまった感甚だしくイライラする。

「ファンクラブに入ってた」なら間違えないでしょ、普通。アル○○○マーっすか? 更にこんなユルイ間違いに気付く自分の年寄り加減にも嫌気がさす。

昭和も遠くになりにけり、と。

とにかく。

こんなつまらない誤認によって私は彼の書きものを信頼出来なくなった。

シンデレラと白雪姫の区別もつかない男、という烙印をじゅっと押しつけさせて頂いた。学校で粗相をした人間が一生「うんこもらし」呼ばわりを受けるように。

真理ちゃんに土下座するなら許してあげてもいいけど。

あらやだ。

なんでこんなミクロなことに目くじら立ててるのかって?

だって持ってたんだもん。

「真理ちゃん自転車・白雪姫号」。

※主婦らしく人の悪口を書いてみました。訴えられたりして♥「天地真理→白雪姫」を立証するためダメもとでインターネットでサーチしてみましたら「天地真理ホームページ」がちゃんとあって、なんだかとてもびっくりしました。

(紙のプロレスRADICAL NO16より)

第4戦『プロレステラピー』

私はよく母に子どもを預けて観戦へ行く。大抵は快く預かってもらえるのだが、時々「なんでプロレスなんかを観にいくの?」と小言をもらったりする。

そこで、

「そんなこと言うんだったらなんで母さんは劇団●季のミュージカルなんて気っ色悪いもん観にいくのさ」とか言い返したいところだが、気を損ねられても困るので言わないでおく。母に限らず私にこういうことを言う人は多い。

今に始まったことではないが世の人々は「プロレス好き」ということを何かと揶揄する傾向があるようだ。

例えば主婦仲間に「私はプロレスが好き」と言ってみると、かなりの確率で「あらやだ」といった反応をする。

マダムズにはオール・スカンといった趣である。人のシュミなんてものはパーソナルなものだから、人に嫌な顔されても観るのをやめたりしないし、無理に同意してもらわなくても全然かまわないけれど、それにしたってあんまりな反応ではある。

世の中がプロレスを蔑ろにするようになったというのには長い歴史があり、もうどうにもならないところに来てしまってはいるが、私は小さい頃からプロレスが好きだ。考える力がついて、プロレスについての様々な矛盾点にも気がついてしまうようになっても、決して絶望したり反発することなく見続けている。

しかしあんなにも「なんでプロレスなんか」と言われると、「そういやなんでこんなにプロレスが好きなんだろう?」と思わないこともない。私にとって「プロレスの魅力」とはなんだろう、と。

そしてこんな結論を出してみた。

例えば悲しいことや辛いことがあったとき、プロレスを観ると都合がよい。

これは決して「夢をありがとう」系の考えで言っているのではない。

パンツいっちょの男達がマットをトタタ、トタタと駆け回り、掴みあい転がり飛んで落ち……なんてのをながめていると、その瞬間だけは確実に自分の現実を忘れていられるからだ。これは私にとって最大のプロレスのチャームポイントなんである。

目の前でバカなことをしている人々を見るのはバカな私にとって最高に心地良いひとときだ。時に負けたレスラーと自分を重ね、煩悶が倍増したりするけどそれもまたよし。

くだらない試合だったらば、塩の味を称した言葉を発してブーブー言うのもまたよし。

これは「癒し」の一種だと思う。ってことは私にとってプロレスは「アロマテラピー」みたいなものなのかもしれない。ハーブなんかのアロマの匂いを嗅いでリラックスしたつもりになっても肝心の身体の中身がどうにかなるわけじゃないってのと、プロレス観てストレス発散した気になっても自分の現実はなんにも変わりはしないって点は似てなくもないと思うのだがどうでしょう?

しかしアロマテラピーに癒しを感じてる人がたくさんいるように、プロレスに癒しを感じている人もきっとたくさんいるはずだ。少なくとも私はプロレスに癒されている。だからいくら矛盾や不条理に満ちみちていても、プロレスはとても魅力的なものなのだ。プロレスを観ることによって少しでも慰安を感じるのなら、これはきっとテラピーだ(言い切られても困ると思うが)。

私はアロマのいい匂いよりも「管理のずさんなサファリパーク」のキッツイ匂いの方に癒されたいのだ。

だからお母さん、主婦仲間の皆さん、ほっといて下さい。

おわり。

(紙のプロレスRADICAL NO.17より)

第5戦『難しい時期』

さて、このあいだの作文で、わたしは「プロレスに癒される」と書きました。今でもその思いに変わりはありませんが、ここ最近、今年に入ってからでしょうか、いえもっと前からでしょうか、見ていても今のプロレスが面白くないような、なんか以前のように楽しめなくなってしまっています。

ほんの少し前までは、試合を見に行ってもTVを見てもビデオを見ても本を読んでも楽しくて楽しくて仕方ない、といった感じでした。

プロレスについて、わたしなんぞはまだまだ知らないことがいっぱいあります。まだまだ見たい試合も読みたい本もいっぱいあります。

知りたいのに見たいのに楽しめない、ひょっとしたらこれは学習のプラトー期というやつでしょうか。プロレスを好きなことは変わりはありませんが、ムキになれません。エンドルフィンを垂れ流すことができません。

癒されてはいるものの、なんかこう残ってるようなすっきりしないような。

なんぎです。

好きなレスラーはたくさんいますが、でも、聞かれて真っ先に好き、と言えるレスラーが実は、いません。もうちょっと前でしたら、いました。

そのレスラーが活躍していたころ、そのひとの強さと絶対性に猛烈にひかれていました。そして、同時にそのひとの持つ不思議なもろさ、頼りなさも猛烈にしびれました。あまりに好きだったので、そのひとの引退試合は見ていてもどこか架空のことのような、現実味のないような感じがしたくらいです。

今のプロレスを楽しめない理由のひとつは、そのひとがいない、という喪失感によるものかもしれません。

そのひとはたくさんの反乱を起こしてきました。

見ているわたしたちにも荒々しい闇を突きつけてきました。

今のプロレス界は闇は闇でも、ちょっと目をこらせば見通せる闇のように思えます。

すいません、生意気なことを言って。でもそう思っちゃうもんですから。

今でも抜群に面白い仕掛けをするあのひとに、物凄く期待をしてしまうのはわたしだけではないでしょう。

きっといつかまた何かを突きつけてくれる、くれるといいな、と思います。

それは妄想かもしれないけど、なんだかきっといつか必ず起こる現実のことのように思えてなりません。

さて、わたしには小学生低学年の娘がおります。

何かと難しい時期のようです。赤ん坊の頃から早く大きくなれ大きくなれと思いつつ育てて参りましたが、ここまで大きくなりますと本人にも色々考えることもあるのでしょう、反乱めいたことを起こしたりします。いちいちムキになって怒ったりしたりもしますが、反乱というのは気の済むまで起こさないと次の段階に行けないのかもしれません。

昔のことは忘れましたが、きっと私もそうやって子供時代を過ごしてきたのだと思います。

今わたしがプロレスを楽しく見られない、と思うのもわたしなりの反乱なのでしょうか? そうかもしれないし、全然違うかもしれないですが、とりあえずセンチメンタルな思い入れはしまっておいて今のプロレスを見ます。

楽しめない、という感情なんか、すっかり忘れる時もきっと来ると信じています。迷わず見ます、見れば判ります(多分)。

ちなみに、わたしがプロレスを好きだということを、娘は嫌がっているフシがあるようです。いいんですけどね。元気に育ってくれれば。「元気が一番」ですから。

娘は母のわたしをどう思ってるのかなぁ? こんな思いかなぁ? 行きますかーッ。

おわり。

(紙のプロレスRADICAL NO18より)

『PRIDE.0』初代殿堂入り　武田いづみの

げんこつ山のパルチザン日記

ジャイジャイ日記

元気ですか

いづみちゃんに「お母さんとの2ショット写真送って」とお願いしたところ、左の写真とお便りが送られてきました。「あたしにも写真はやめろって言うくらいなので、お母さんと一緒写真はムリでした。仕方ないのでスピード写真に「元気ですか」と書いた紙を持ち込んで撮りました。でき上がったらハナの穴くっきりでした。母のキモチがわかりました。お母さんが『ジャイ子さん、家にちゃんと帰ってるのかしら』と心配してます。かなり真剣です」三日に一度、二時間程度なら帰ってるので安心してください、治子さん。

5月14日

夜、ジャイ子さんから電話がある。母はどうもジャイ子さんに興味があるらしく、この前も電話の主がそうだと知ると「ほんとにー?　じゃあ話せばよかった」と言った。「なに話すの?」「あなたがジャイ子さん?って」……不毛!!　今日も私に電話を取り次いで「あの人ジャイ子さん?　だって普通だったよ」と問題発言。でもファンらしく「声がかわいかった」とほめていた。今度電話に出たらなにか話せ」と言うと「なんて?　ジャイジャイって?」わかってんじゃん。

5月16日

『リングの魂』を見る（録画）。私は芸人の柔道や“女だらけの腕ずもう大会”は、男子じゃないのでノーサンキュー。でも今回は動く「浅草キッドvsターザン山本」が見られて満足。続く新日中継も見る。前は1時間番組をちゃんと1時間かけて見てたのに、最近1時間番組を15分くらいで見てしまいます。どうにかしてください。

5月20日

電車で私の席の前に立った人が『週プロ』を読んでた。破壊王が小顔に!

5月21日

学校のパソコンでやっとインターネットを始める。小心&初心者なので、ビクビクしながら操作。ぶっ壊したら逃げる用意万全。そのうち慣れてきたので、プロレス団体のHPを見ようと思って新日、全日、バトラーツ、みちのくのHPをのぞいてみる。ここで疑問。新日のところには、なんでいまだにアントンとUFOの情報満載なの?　関係ないけどUFOは「ユーフォー」であって「ユー・エフ・オー」じゃないと信じたいけど、どうなの?　その他ファン同士の掲示板も見る。話が濃すぎて胃がきもちわるくなった。それでもずっと読んでいくと、議論が白熱してケンカ腰になってるところをけっこう見かける。「○○さんは、もう二度とここへは来ないでください」等、イヤな熱さだ。「ここへは来ないで」って、やるなら徹底的にやろうぜ、もやしっ子クラブ!

6月3日

水道橋駅周辺には「阪神大震災の、おねがいします」という曖昧な言葉をかけてくる人たちがいる。もちろん無視!　でも気になってたので、今日は一部始終見ることにした。以下、その様子。

男が信号待ちをしているベビーカーを押したお母さんに声をかける。お母さんは快く署名。さあ、ここからだ、あたしが見たかったのは!　男は当たり前のように千円要求。優しそうな人だし、払っちゃうかなと思ったが、お母さんも一家の台所を守る立場。「千円は出せない」とつっぱねた!　「じゃあ六百円」男も妥協、というか、募金や寄付なら善意で出すものなのに、なぜオマエが金額を決める?　出すか、お母さん!?　「(財布を指して)ここにあるだけでいい?」ねばるね、お母さん!　ナイス!!　それでも渋る男──ここでお母さん根負け。六百円渡す。男はかわりに新聞みたいのを渡す。一応これを「売った」ということらしい。こんな新聞が!?　定価千円(値引き可)!?　ここで終了。とにかくこの人たちはなんとも文章にしがたい因果なモノを感じさせてくれるので、水道橋へ行ったら署名してあげてはどうですか。イヤですか。私は気が向いたらどこまで値切れるのか確かめようと思います。

6月4日

今月中に仕上げればいいと思ってたレポートが実は今日までだと判明。それも8本!!　現在この日記を書いてるということは、手をつけてないってことです。まだ『紙プロ』No.18も『週プロ』も読んでません。つうか読めません。さようなら。

いづみちゃんからのメッセージ
「名前の最後に『ちんこ』をつけるなどとは、最近の女子高生はなにを考えているのでしょうか。こんなハレンチ学園、女子生徒はもっとフィーチャーしてください。FROMたけだいづみちんこ」いづみちゃんに励ましのお便りを!

5月27日

『プロレス激本』とかいう本が「紙プロに挑戦状を叩きつけられた」と被害妄想全開なことを書いてたのはみんな、知ってる?　しまいには「山口日昇と吉田豪出てこい」とか身の程知らずなことを言い出したの。へんでしょ?　山口と吉田が出るまでもないので、カタブツ君とジャイ子が行ってディベートしてきましたよ。対戦相手は編集長の黒須田&デスクの自称・爆笑王(名前忘れた)。

ひどいんだよ、夜の8時に呼びつけといて、ご飯も出ないの。お菓子持ってってよかったぁ。それにしても、お話にならないね、激本。黒須田は「吉田さんに話があるんだ」とか言って逃げるし、爆笑王はつまんないし。だってね、ジャイ子の恥ずかしい話をカタブツ君がバラしてんのに、爆笑王は男のクセに初体験の年令も言えないんだよ。女々しい!　それぐらい言えよ。ホント、なんにも言わないで頷いてるだけなんだもん。顔の半分ぐらいの大きさのメガネかけてるし。顔じゅうレンズなの。ダッサー。なんか7月1日にも対決するらしいけど、勝負できるのかなぁ、爆笑王。ま、精一杯頑張ってね。　あ～、お腹すいた。

すっかり勝った気分の『激本』の二人。見るからにつまんない男でしょ、レンズマンこと爆笑王（奥）。たぶん女と付き合ったことないよ。グフフ、ジャイ子シュート仕掛けちゃったぁ?

5月29日

DDT板橋大会。しばらく見ない間に凄いことになってたのね、DDT。ホワイトブリーチのボーイズ&ガールズが多いのは相変わらずだったけど。お金持ちのネオ・レディースの篠社長が作ったネオDDTには、前号で自ら読プレくれていい人だと思ってた菊澤選手が加入、金で転んだのね、ヤな奴ぅ～。控室にコメント取りにいくと篠社長が「ジャイ子さんもネオDDTに入りますか～?　ウチはお金持ちですよぉ～」と誘われ、さっそく加入。やっぱ金だよね、菊澤さん。でも特になにももらえなかった。ショボリ。加入を直訴して、「シャーク土屋に勝ったら」という条件を突き付けられた国際の佐野直選手に帰りぎわ「ジャイ子、ネオDDTに入っちゃいましたぁ～」と言ってみると、本気で羨ましがられた。ガンバレ、佐野!!

そういえば、ジャイ子5・5の川崎大会でシャーク土屋に「お姉さん、猛毒隊に入らない?」って言われたんだけど、アレはどうなったんだろう?　と、思った矢先に「あ、『紙プロ』だよね、覚えたよ」と、声かけられた。今度は「ヒゲ生やせ」って言われるかも。ドキドキ。

今日は修斗も興行があったんだよね。修斗といえば、こないだ修斗の記者会見に行ったのね。で、初対面の桜井マッハ速人選手に挨拶したら、「ジャイ子」って名前に興味を持ってくれたらしく「ジャイ子ぉ?　本名?　漢字はどうやって書くの?」と興奮してくれた。グフフ。ジャイ子大満足。いつか『紙プロ』に出てね。

5・5川崎大会で井上貴子が使ったスタンガンをDDTの控室で発見!　篠社長が貴子から買取ったんだって。マジで火花バチバチ出て恐いよ、これ。（撮影・菊澤光信選手）

6月1日

つぼプロの旗揚げ戦の会場で、前号を読んだテッド・タナベからさっそく脅迫電話がかかってきた。「テメェ、今度会ったら覚えてろよ」だって。ジャイ子すぐ忘れちゃうよ、テッドさん。あと「小坪に旗揚げおめでとうって言っといて」と言われたけど言うの忘れたからここで書いとくね。小坪さん、テッドさんがそう言ってましたぁ。ジャイジャイ。

紙のプロレスから特選情報おとどけします!!

紙のプロレス NEWS 1.2.3

世の中、何が起こるかわかりませんよぉ!!
今度『だんご3兄弟』に変わって
『ヴァーゴン3兄弟』
売り出しますから!!
いつになるかわかんないですけどね、ガハハハハハハハ

さあ、さあ、寄ってらっしゃい、見てらっしゃい!!　本誌特選の耳より情報が満載だよぉ〜　えっ?　情報でページを埋めるなんて、『紙プロ』っぽくない?　というわけで、タダの情報ページじゃつまらねえので、本誌秘伝の「見方」という隠し味をつけた、他じゃ手に入らない特別なネタで勝負します!「金があるヤツは金を使えばいいが、金のないヤツは知恵を使え」ってどこかの偉い人が言ってましたが、そんな創意&工夫で味付けした、とっておき情報満載です!

イメージキャラクター／マット界の情報には地獄耳を持つ(?)との噂のザ・グレート・サスケ社長(みちのくプロレス)

【緊急ニュース】6月24日（木）新日本プロレス「ドラゴン電撃社長就任」■締切間際にビッグニュースが飛び込んで来た。坂口征二社長が急遽退陣。次期社長には、なんと藤波辰爾の就任が決定! 「サミット開催」「全日との交流」「UFOとの和解」をテーマに掲げている模様。詳しくは次号で!!

提携を発表した。今年の７月からは三沢ら全日四天王のクラスが特別講座として出来ることになった。プロレスファンはもちろんだが「プロレスを知らない人にもプロレスに興味を持って欲しいと思っていた。こういう話を頂いて、光栄に思います」と語った。

6月16日（水）新日本プロレス
「大仁田怪文書送付事件!」

■本誌編集部に、大仁田に関する怪文書がたまに郵送されてくるのだが、それではなくて、大仁田が新日＆武藤に挑戦状を送りつけたと、この日発売の『東スポ』が報じている。7月21日、札幌大会でＩＷＧＰに挑戦要求を突きつけた。すでに新日は、武藤vs小島のＩＷＧＰ戦を7月20日に行うことを発表しているが、果たしてどうなるか？　ちなみに大仁田は7月21日には高校の臨海学校があるそうだが、「それをキャンセルしてでも札幌に行く！」と息巻いているという。今年の夏には『高校生クイズ』にも出場するなど、高校最後の１年を満喫している大仁田。どちらも必見である！

試合情報

告 新日本プロレス
「サマーストラグル99」日程

【７月】
1日（木）岐阜・岐阜産業会館
3日（土）滋賀・滋賀県立体育館
4日（日）神奈川・相模原市立総合体育館
5日（月）東京・後楽園ホール
6日（火）茨城・水戸市民体育館
7日（水）山形・米沢市営体育館
8日（木）福島・福島体育館
10日（土）宮城・石巻市総合体育館
11日（日）秋田・鹿角記念スポーツセンター（15：00）
12日（月）青森・八戸市体育館
13日（火）盛岡・岩手県営体育館
14日（水）青森・青森市民体育館
16日（金）北海道・旭川市総合体育館
17日（土）北海道・帯広市総合体育館
18日（日）北海道・岩見沢スポーツセンター（15：00）
20日（火・祝）北海道・札幌中島体育センター（15：00）
21日（水）北海道・札幌中島体育センター
［参加外国人選手］
マイケル・ウォールストリート、ドクトル・ワグナーJr
nWoスティング〈７月５日から最終戦まで〉

告 全日本プロレス
「'99サマーアクション・シリーズ」

【７月】
4日（日）東京・後楽園ホール（12：30）
6日（火）愛知・豊橋市総合体育館
7日（水）富山・富山産業展示館テクノホール（18：00）
9日（金）岐阜・サンライフ中津川
10日（土）三重・三重県立ゆめドームうえの（18：00）
11日（日）大阪・門真市なみはやドーム（15：00）
13日（火）高知・高知県民体育館
14日（水）岡山・倉敷山陽ハイツ体育館
16日（金）千葉・松戸市運動公園体育館
17日（土）東京・後楽園ホール
18日（日）東京・メッセ昭島（15：00）
19日（月）長野・松本市総合体育館
20日（火・祝）新潟・五泉総合体育館（15：00）
23日（金）東京・日本武道館
【三冠ヘビー級選手権】
三沢光晴vs川田利明
【世界タッグ選手権】
エース&ガンvs大森隆男&高山善廣
※記載のあるもの以外は18：30試合開始

告 7月29日（木）AKIRA夫人・佐伯玲子プロデュース・ライブ
『闘魂伝笑Ⅱ』

東京・北とぴあ内つつじホール（JR王子駅前）
■AKIRA夫人、佐伯玲子さんプロデュースのライブにチーム2000のリーダー・蝶野＆ムービースター・AKIRAが出演！　もちろんおなじみ春一番に、革命戦士・神奈月が出演。プロレス大好きの春風亭昇太師匠、よくプロレス会場で見かけるMANZAI-Cら、濃いメンツでお届けします！
■出演／春一番、神奈月
■GUEST／春風亭昇太、MANZAI-C、あさりど
■CAST／原口あきまさ　オーディン
■PRO-WRESTLING　GUEST／蝶野正洋、AKIRA、今井良晴（リングアナ）、田山正雄（レフェリー）
■企画・プロデュース／佐伯玲子
※参加予定の芸人が、けがやスランプ等の理由で出場できない場合がありますので予めご了承下さい。
開場　18：00　試合開始　18：30
前売り￥3000　当日￥3300
受付＆整理券発行は17：00
お問い合せ　フレッシュハーツ03-5272-2007
【前売り】
❶ チケットぴあ　03-5237-9988
❷ お問い合わせ先に残席状況を確認の上、下記口座にて購入も可能。入金が確認され次第、お客様のお名前で当日受付にてご用意させていただきます。
【振込先】
第一勧業銀行　千歳船橋支店
普通口座　1861722　アイティピー

告 新日本プロレス『G1 CLIMAX』

8月10日（火）大阪府立体育会館（18：00）
8月11日（水）大阪府立体育会館（18：00）
8月13日（金）両国国技館（18：00）
8月14日（土）両国国技館（18：00）
8月15日（日）両国国技館（15：00）
【参加選手】
Aブロック●藤波辰爾●武藤敬司●佐々木健介●永田裕志●小島聡●安田忠夫
Bブロック●蝶野正洋●橋本真也●越中詩郎●山崎一夫●天山広吉●中西学
※各ブロック総当たりリーグ戦をおこない、最高得点者同士が最終日に優勝戦を行う。

告 8月28日（土）新日本プロレス
『G1 JINGU CLIMAX ～BATTLE OF LAST SUMMER～』

東京・神宮球場（17：00）
※雨天の場合は翌日の同所同時刻に変更
■グレート・ムタvsグレート・ニタの電流爆破マッチが行われる可能性が大きい。さらに永島勝司取締役は「ストロングスタイルの他団体の超大物を招へいします」と大胆発言。『週刊ファイト』7月1日号には高田延彦という名が挙がっていたが……？

告 7月10日（土）ワールドスポーツプラザKINGS
「新日だけでなく全日までも！　新プロレスショップがオープン！」

■新日グッズは比較的手に入りやすかったが、全日グッズはなかなか会場以外では手に入らなかったもの。そんなワケで日本最大級のプロレス＆格闘技のグッズSHOPがオープン！
【場所】東京都渋谷区神宮前1-9-5消防署前ワールドスポーツプラザWEST　1F
TEL.03-3462-1001（通信販売）
TEL.03-3462-7775
【営業時間】11：00～20：00（通販営業）
11：00～19：00

5月31日（月）大阪・大阪府立体育館
■新日本でも光を放つ田中稔。本格的に新日ジュニア戦線に食い込んでいきそうな快進撃で大谷に快勝!!。

連載　佐藤正行
kämpfer
第3回
大仁田めがけて物が乱れ飛んだ！
大荒れ、新日本5・31大阪決戦――
田中リングアナ激怒事件とは…

『週刊プロレス』NO.920
コラム『kampfer』でケロちゃん激怒事件が明るみになった。アントニオ猪木調にいえば「新日の会場が乱れ、混乱したときこそ、ケロちゃんの出番！」というか。

④この後の試合中、ケロちゃんがマスコミ席に「オマエらが面白がって書くから、こういうことになるんだよ！モノを投げるなって書くべきだろ！」と怒鳴り込む。ケロちゃん幻想、再び！

復帰戦でいきなり天龍と一騎打ちに臨んだ破壊王。動きは素早くなったが、軽くもなった。やはり、最後には小川との一騎打ちでキッチリとした決着を望みたい。

紙のプロレスNEWS

新日本／全日本／大仁田厚

チョイスマン　ノブ

99年5月21日　新日本プロレス＆大仁田厚
■後楽園飯店で約10分間の密談をした大仁田と蝶野が、ガッチリと握手。新日首脳陣をターゲットに再び動き出す！

①三沢体制になったことで、全日本プロレスは様々な部分で変革を迎えている。新たなる波に乗り切れ！

②変革している全日本の象徴が、ノー・フィアーである。吼えまくる高山はホントに怖い！　大森のアックス・ボンバーもいいぞ！

③このただずまいが異様にかっこいいミング（プリンス・トンガ）。なんで、トンガ系のレスラーはこんなに強そうなんだ？　痺れる！

5月19日（水）新日本プロレス
『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア6』（開幕戦）

埼玉・久喜市総合体育館

■武輝道場の望月、バトラーツの田中、メビウスの折原ら、他団体からの参戦が多数あり注目の大会である。他団体に厳しい新日のジュニアだが、どうなることか？

5月21日（金）新日本プロレス
『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア6』東京・後楽園ホール

■田中稔がケンドー・カシンに挑んだこの一戦。アルゼンチン・バックブリーカーを繰り出したり（「バカの技を使ってしまった」試合後のカシン談）するなど、余裕を感じさせたカシン。最後は足取り腕ひしぎ逆十字固めで勝利を挙げた。しかし、田中稔は「これじゃあ、金本さんのベルトに挑戦したいなんてとても言えない」と落胆。

5月22日（土）全日本プロレス
『スーパーパワー・シリーズ』（開幕戦）東京・後楽園ホール

■三沢新社長率いる全日本プロレスが新しい門出を迎えた。第1試合終了後、リングに上がった三沢は「馬場前社長の遺志を継ぎ、全日本らしさを胸に、レスラー、社員一同、いままで以上に一丸となって頑張っていきますのでよろしくお願いします。（写真①）

■高山＆大森組が大躍進。高山のヒザ蹴りが川田の顔面に入り、鼻から大出血。川田も張り手を返して険悪な空気が漂った。田上は「あいつら頼もしいねえ」と太鼓判。（写真②）

5月26日（水）『メンズウォーカー』
「『Shall we ダンス？』の周防正行監督が全日ドーム大会をメッタ斬り！」

■「あえて言えば力道山派」という映画監督の周防正行氏が、G・馬場の引退記念興行の観戦記を書いている。あまり熱心に追い続けていない中間層のファンが気負わずに書いたので、「『明るく楽しく激しいプロレス』の将来は決して明るく楽しく激しくないように思えた。だって説得力ないもん。ごめんね、馬場さん。」と、一般誌ならではの遠慮のない切り口でズバズバと書いている。ただ、エンターテイメントを生業とする映画監督ならではの視点で非常に鋭い。

5月26日（水）新日本プロレス
『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア6』富山・魚津市総合体育館

■この日からミング（＝キング・ハクorプリンス・トンガ）が新日に合流した。（写真③）早速、蝶野は「彼は向こうでテレビに出ているＴＶスター。ウチにはムービースターのAKIRAもいるし、彼には俺たちの仲間に入る資格がある」と、勢力拡大に余念がない。あの三つ編みヘアやコスチュームなど、日本人があそこまで突き抜けられればいいのに。中西（学）があの恰好はいちばんハマリそうな気はするが。

5月31日（月）新日本プロレス
『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア6』大阪・大阪府立体育会館

■かねてから噂に上がっていた蝶野正洋と大仁田厚の新ユニットが結成された。その名も「チーム2000」で、スローガンは「打倒　長州力!!」という、相変わらずフロントにかみつき続ける蝶野らしさ全開！　この日の試合後「面白いものをみせてやる!!　カモン・ミュージック!!」と呼び込むと、大仁田のテーマ曲鳴り、大仁田厚が現れた。「よく聞け！　世紀末ミスタープロレス・大仁田厚だ！　みんな大仁田の声が聞きてぇか!?」と蝶野。やおらマイクを握った大仁田が「おぅおぅおぅ、狙うは長州の首ひとつ！」と、いつものセリフで締めくくった。もちろん、コップやペットボトルが乱れ飛んだのは言うまでもない。（写真④）

6月4日（金）新日本プロレス
『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア6』香川・高松市総合体育館

■武藤がグレート・ニタとの対戦を示唆するコメント。「ひょうたんから駒」じゃないが、ダジャレがここまで現実味を帯びた話になってしまうのが、プロレス界の痛快なところ。

■この日、発売された『東スポ』紙上で、蝶野が「チーム2000」構想を語った。「フライはベルト回収特攻役」「大仁田は対フロント用の戦略係」で、最終目的は「とにかく4人で新日に毒キノコのように生息するフロント派閥を消滅させる」と息ましている。この前日は、主張通りに、役員レスラーである藤波辰爾を痛ぶり続けたというから、かわいそうなのはたっつあんだろう。

6月4日（金）全日本プロレス
『スーパーパワー・シリーズ』北海道・札幌中島体育センター別館

■高山、大森のノーフィアーが人生、ハヤブサ組からアジアタッグ奪取。ハヤブサ＆人生は、これにて全日参戦には一区切りをつけた。

6月8日（火）新日本プロレス
『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア6』（最終戦）東京・日本武道館

■橋本真也が天龍と155日ぶりの復帰戦を行った。135キロから118キロまで絞った橋本が、天龍に立ち向かった。週刊誌などで見ると、精悍だがどこか破壊王らしくない、きわどいビジュアルになっている。「おい、新日本！　なんでこんな半病人とやらなきゃいけないんだ！」と天龍はマイクで挑発する。チョップをビシバシと喰らいたまらなく切なく見える破壊王！　巻き返しに期待！（写真⑤）

■越中vs犬軍団の模様はP92〜のせきしろさんの力作原稿を読め！　必読！

■カシンと金本のスーパー・ジュニアの優勝決定戦がメインイベントで行われた。本命・カシンが見事優勝。すると、やってくれた。トロフィーを踏んづけて、表彰状は破り捨て、小切手は真鍋アナウンサーに預けて、「お前が換金して寄付しといてくれ！　ネコババすんなよ！　コソボだよ、コソボ！」とカシン劇場炸裂！　こんなカシンに負けたら……金本が大泣きしたのもわからなくはない。が、カシンは素晴らしい！

6月9日（水）全日本プロレス
『スーパーパワー・シリーズ』宮城・宮城県スポーツ・センター

■ジョニー・エースとバート・ガンのコンビが小橋、秋山組から世界タッグを奪取。ムーブメントが動き出した。最近、秋山や大森から「エース嫌い」という発言が度々出ているが、どこが嫌いなのだろう？　聞いてみたい。

6月11日（金）全日本プロレス
『スーパーパワー・シリーズ』（最終戦）東京・日本武道館

■高山、大森のノーフィアーが川田、田上組を破ってしまった！　次は世界タッグ王座に挑むこととなったが、大森＆高山は吼える！「エース？　ガン？　怖くないぜ！」（大森）「オレら100年早い？　オメエら（田上＆川田）が100年戻れってぇの！」（高山）「（人差し指で正面を指しながら）ノーフィアー！（二人あわせて）」。このポーズ、この夏流行ると確信！

■三沢と小橋の三冠戦は昨年10月の年間ＭＶＰを獲得した試合以上のハイテンション。最後は幻の秘技「エメラルド・フロウジョン」でフィニッシュ！　「タイガードライバー91」やこの「エメラルド・フロウジョン」など、他団体がマネして使うと事故になりかねない技がボンボンと飛び出す展開に、改めて全日の壮絶な受けの凄みを見せつけた！

6月15日（火）全日本プロレス
「三沢社長が先生になる？　全日が専門学校と提携」

■新宿区にある「総合学園ヒューマン・アカデミー　スポーツ・カレッジ」で、全日本プロレスとヒューマン株式会社の

マンスがやりたければ、俳優にでもなったほうがいいんじゃないか？　オレ様のパンチで、そのよく動くアゴを砕いて黙らせてやるぜ」という、抜群のコメントに対して「プロレス流にデフォルメして紹介し、取材陣の失笑を買った」と書く始末。何が言いたいんだ、『週プロ』（の巻頭記事）!!

6月6日（日）（現地時間5日）UFO

アメリカ・ニュージャージー州ホルムデン

■ゲーリー・グッドリッジと対戦することになった小川。この前日はダグギルバートを相手に、セコンドの乱入という思わぬ運を味方に付けて、反則勝ちを収めた。この日は、スウェーデンのフレデリック・ヘルムを腕ひしぎ逆十字で破り、4度目の防衛を果たした。これでアメリカサーキットの全日程を終了。小川の視線はすぐさま、『ＰＲＩＤＥ．６』に向けられた。「オレは高田とヒクソンを目標にして『ＰＲＩＤＥ．』に上がっているんだ！　その“ゲーリー・ナントカ”と闘って、高田につながるのか？」と吼えた。さらに、6月29日のＵＦＯ大阪大会で防衛できれば、グッドリッジとの試合もタイトルマッチにすると仰天プランを明かした。

6月7日（月）UFO

「猪木が小川にでっかいエール！」千葉・成田空港

■この日、アメリカで小川と合流するために猪木は日本を発った。空港ではしきりに高田を挑発する小川に「高田にこだわらず、視野を広げろ。こだわりは捨てろ！」と語り、小川vs山本戦に関しても「ルールとか細かいことはどうでもいい。あとは小川がどう反応するかだ」とひたすらスケールの大きなアドバイスを送り続けた。

6月9日（水）（現地時間2日）UFO

「小川、負傷でショボリさん」
アメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルス

■合宿先で小川は左肩を負傷していることを明らかにした。『東スポ』によれば、最終戦のフレデリック・ヘルム戦で負ったものだということ。なれない連戦で疲れもたまっていたのだろうか。大事に至らないことを祈る。

6月11日（金）UFO

「フライ&ナイマンのUFO 6月9日大会参戦が正式決定！小川のNWA王座に挑戦か？」

■リングス・オランダのエース格だったディック・フライ&ハンス・ナイマンが、リングス・オランダ総裁クリス・ドールマンの元から円満独立した。現在は2人で『オランダ・フリーファイト・ジム』を経営しており、5月15日に独自興行を開催して新軍団まで結成したという。フライは「俺たちは、もはやリングスの人間ではない。対戦相手は誰でもいいが、ＵＦＯなら、まずは小川が挑戦を受けろ」とブチ上げた。

■小川に挑戦をブチ上げた2人組が日本にもいた。誰あろう、あの浅草キッドである。これは15日に行われる『浅草お兄さん会』でNWA世界ヘビー級タイトルマッチとして行われ、より観客にウケた方が勝ちという世界初のお笑いルールで争われることになった。この日、キッドは港区内にあるＵＦＯ事務所を襲撃、小川が新日道場から盗んできた猪木パネルを強奪しようとして関係者に止められるというちょっとしたハプニングが起こった。この小川のお笑い挑戦に関して、ビートたけしは「本当に強いヤツがお笑いをやるというのは、オイラがベネチア国際映画祭でグランプリを取った後もお笑いをやるようなもので、すごく評価している」と語っていたとか。果たして、小川は、勝手の違う強敵を相手に防衛できるのか？

6月11日（金）PANCRASE

『1999 BREAK THROUGH TOUR』東京・後楽園ホール

■この結果を報じる『東スポ』。柳澤龍志vs伊藤崇文（結果は引き分け）を「大器、なすび男を切り崩せず」と報じる。高橋vsローバー戦も、ローバーが反則の肛門攻撃を繰り出せば、見出しは「高橋がアナル攻めに悶絶激怒」他誌にはないパンクラスのイジリ方がにセンスが光る。パンクラスを読むなら『東スポ』（というか高木記者）だ。

■ドロップ・キックまで披露！　菊田早苗は1分20秒チョークスリーパーでエリック・ゲデックを秒殺してデビューを飾った。（写真③）

■ジョン・ローバーのセコンドとして、ティト・オーティズが来場した。参戦することがあるなら来年1月以降だという。（写真④）

6月14日（月）UFO

「小川、NWAを守りきって凱旋帰国」

■アメリカから帰国するなり、リングスの山本を挑発した。「そんなにやりたいなら何かアクションを起こせ。29日のＵＦＯ大阪大会に殴り込んでこい」と乱入を逆要求した。6.29、山本宜久はどこに……？（写真⑤）

6月15日（火）UFO

「小川、浅草キッドを相手にNWAベルト防衛！」

■『浅草お兄さん会』で浅草キッドとお笑い勝負に挑んだ小川だったが、見事に観客のハートを掴み、浅草キッドに勝ってしまった。この勝利に気をよくしたのか『ＰＲＩＤＥ．６』で勝った場合はリング上でコマネチを披露すると約束した。さらに、この日はステージで全裸を晒した史上最低の落武者ターザン山本のステージにも乱入、マウントパンチで気持ちよくボコボコにしてくれた。

6月16日（水）UFO

「ビッグバンベイダーUFOが登場！」

■ロサンゼルスで道場破りをやって名を売っている身長2メートル、体重150キロの大巨人がＵＦＯの大阪大会にやってくる。猪木の発案により「ビッグバン・ベイダーＵＦＯ」というとんでもないリングネームがつけられた。あのマーク・コールマンでさえも一発でやられてしまい、実力はマーク・ケアー以上とのこと。巨体のわりには宙返りもでき、運動神経も抜群。さすがの猪木も「危ないと思った」と語り、小川との対戦を見送った。

6月20日（日）RINGS Holland

「G・アイブル、セーム・シュルトをTKO葬！」

■本誌前号の『怪物通信』で取り上げたギルバート・アイブル（リングス／ランキング1位）が、大巨人セーム・シュルト（パンクラス／ランキング1位）を2Rでマットに沈めた！　観戦に行った前田も「オランダ人にはリングスもパンクラスも関係あらへん。シュルトもいい選手だったけど、今回はアイブルが2Rに放った左右のフックが勝敗をわけたね」とアイブルを絶賛！（写真⑥）

6月24日（木）RINGS

『RISE 4th』東京・後楽園ホール

■メインの田村vs山本は20分間ドローだが、その約半分はバッチンバッチンのシバキあい、半分はクルクル回転し続けるレスリングを展開で、珠玉の名勝負となった。会場も大爆発で「リングス」コールまで起るほどの大盛り上がり状態。試合後、充実した試合内容に前田もご満悦で、前田賞（ご祝儀）まで飛び出した。

■滑川vs豊永の再戦は、滑川のアグレッシブさが光り、グランド・フロント・ネックロックで滑川の勝利!!

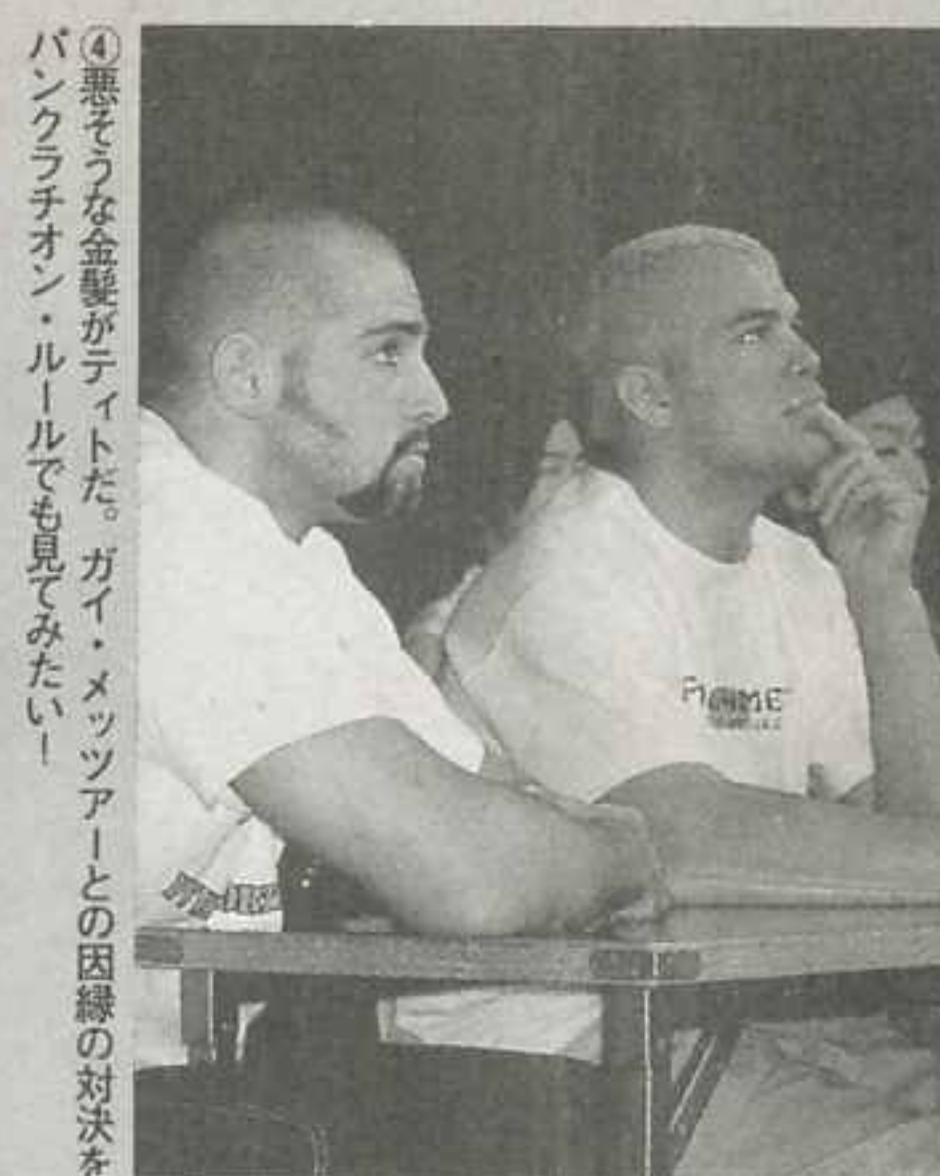
試合情報

告 7月16日（金）UFC21対戦カード候補

【ヘビー級】
マルコ・ファスvsモーリス・スミス
高阪剛vsティム・ラジェイク
【ライト級タイトルマッチ】
パット・ミレティック（王者）vs
アンドレ・ペデネイラス（挑戦者）

④悪そうな金髪がティトだ。ガイ・メッツアーとの因縁の対決をパンクラチオン・ルールでも見てみたい！

5月31日ＷＣＷ■『マンデー・ナイトロ』のヒューストン大会に、かなりスリムになったタンク・アボットが乱入、スティングに一撃を見舞って逃げ去っていった。そして6月、レフェリーデビュー。

⑤日の丸の扇子を広げて、久々に日本の空気を満喫した小川。気持ちよくリングス山本宜久に乱入を逆要求！

⑥リングスもパンクラスも関係ないと言っていた前田だが、その心中は？　オランダでも大注目のカードだったらしく、ポスターの扱いも非常に大きい。

紙のプロレスNEWS
UFO／UFC／RINGS PRIDE.／PANCRASE

チョイスマン Nobu/Nobby.Y

①小川は地獄のNWAサーキットで連戦の辛さをキッチリと体験。村上もアメリカで3カウントルールの試合をするなど、貴重な体験を積んだはずだ

5月30日付『東京スポーツ』■裏一面を使って、猪木が掲げる「世界中の未知の怪物」を集めて行う壮大な『格闘五輪』の構想を紹介している。猪木の公式ホームページ『INOKIISM』を通じて呼びかけるという。すでにスタートしている『INOKIISM』のアドレスはここだ！ http://www.antonio-inoki.com/

②会見には森下DSE社長も出席。前田日明の「DSEがrAwチーム招聘に横やりを入れた」という主張には「そのような事実はない。リングスと話し合う準備もある」と、発言した。

③菊田早苗は上々のスタートを切った。いままでも、新宿スポーツ会館で練習しており、パンクラスの選手も参加しているという

5月21日（金）UFO
「NWA本部が小川を挑発!!」

■NWA世界ヘビー級王者である小川直也のアメリカ連続防衛サーキット『ブロークン・ボーンズ・ツアー』のスケジュールが20日になってようやく決まった。『東スポ』によれば、NWA本部は小川ひとりでアメリカに来るように要求しており、その裏には小川に対するリンチ計画が見え隠れしているという。

5月23日（日）PANCRASE
『1999 BREAK THROUGH TOUR』

愛知・名古屋市千種スポーツセンター
△渋谷修身（引き分け）美濃輪育久△
○ジェイソン・デルーシア（優勢勝ち）柳澤龍志●
○山田学（優勢勝ち）リオン・ダイク●
○國奥麒樹真（優勢勝ち）山宮恵一郎●
■國奥は9月18日NKホール大会で近藤のキング・オブ・パンクラシストの王座に挑むことが内定。
■菊田は挨拶のみで登場した。

5月26日（水）UFO
「猪木が小川vs山本にゴーサイン！」千葉・成田空港

■この日、帰国した猪木は、リングスの山本が小川に挑戦表明した件について「UFOはどこへでも出ていくよ」「やるのは小川だから。やれば小川はいろいろな意味で経験が出来る」と語り、実質上の対戦許可を出した。また、前田日明リングス社長と近々会談することも明かした。

5月27日（木）UFO
「小川、陰謀だらけのNWA防衛ロードに出陣」千葉・成田空港

■NWAの度重なる渡米延期の裏工作とリンチ計画など、様々な思惑が渦巻くNWA防衛ロードに、小川が村上一成を伴って出発した。（写真①）「とりあえず（出発できて）ザマーミロという感じ。UFOスタイルで強さをアピールしていきたい」と語った。また、この日リングス・オランダのディック・フライとハンス・ナイマンが小川に挑戦状を送りつけてきたことが明らかになった。

5月28日（金）UFO
「初防衛は大成功！　一転、王座剥奪の危機！」
アメリカ・テキサス州ダラス

■小川の初防衛戦の相手は、前王者のダン・スバーン！　柔道着に身を包んだ小川には大ブーイングが飛び、スバーンには大コールが飛ぶという敵地ならではの異様なムードに緊張が走る。途中、道着を掴まれることが多くなると小川は柔道着を脱ぎ捨てた。結局、両者は関節を場外で取り合ってるうちに両者リングアウトでドローとなった。納得のいかない両者は再度5分の延長戦を行うが、これもドロー。後味の悪い結果となった
■この試合が終わったのが午後11時。そして次の大会は2600キロ離れたボストンで行われるために、小川は午前4時にホテルを出なければならなかった。しかし、いざ飛行機に乗る段階になって、エンジントラブルが発生。結局、小川は試合に出ることなく、会場についたときには試合は終わっていた（詳しくはP65～の小川インタビュー参照）。この大遅刻に、NWAと共闘しているヘビー級ボクサーのピーター・マクリーニー氏（マイク・タイソンと対戦した経験もある）は激怒して「お前にベルトを巻く資格はない！　返上しろ」と迫った。が、これはあくまで不可抗力。NWA本部も正式に小川を世界王者として認定した。

6月2日　PANCRACE
「渡部謙吾物語、アッパーズに集中連載開始！」

■驚いた。何が驚いたって、この項のチョイスマン（この言い方は恥ずかしすぎる）のボク（Nobby.Y）が、一番好きな漫画誌『ヤングマガジンUppers（アッパーズ）』でこの日発売の号から、「世紀末覇王伝説　渡部謙吾物語」なる短期連載漫画が始まったのである。連載第1回目では、主人公の謙吾は、チンポの先にタトゥーを入れる「性器」末覇王ぶりを発揮し、今後への期待をつないだのだった。
■連載第2回めで、謙吾はこうつぶやきましたね。『俺や高橋（義生）さんが“野獣”なら、船木（誠勝）さんは“闘うサラブレッド”だ』。その船木は少女漫画のように瞳がキラキラしている。“ああ～、結局やっぱこの路線か”と思い、ぷぷぷぷ、と笑いながらページをめくってみると、さすが巨匠・平松伸二先生を起用しているだけに、この漫画は侮れなかった。謙吾が「マンズー・スクワット」なる必殺技を見せてくれるのだ。この技は、ヒンズー・スクワットの要領で腰を上下させながら、お姉ちゃんとFUCKするという素敵な離れ技。これをソープに行った野獣・謙吾が披露してくれちゃうのだから、たまらない。いままでのパンクラスのメディアへの露出の仕方を考えれば、たとえ漫画とはいえ、格段の“進歩”だろう。狂信的パンクラスファンが「こんな下品な男、応援できないよ」と言い出さなければと、こちらが余計なおせっかいを焼いてしまうほどである。短期連載のため、7月7日発売の第3回が最終回となるようだが、謙吾の「性器」末覇王ぶりの行く末はもっともっと長く見ていたかったのである。

6月3日（木）(現地時間2日) UFO
アメリカ・ジョージア州アトランタ

■この日もNWA王座の防衛戦を行った小川直也。屋外会場での興行だったのだが、突然雨に見舞われてしまう。リング中央がへこんでおり、そこに水たまりができるという最悪のコンディションだったが、それでも試合は強行された。相手のゲイリー・スティールは、193センチ、114キロの巨体から強烈な打撃を繰り出し、突進してくる。一瞬たじろいだ小川だが、キッチリと勝利を収めた。だが、スティールの実力を感じ取ったのか、試合後は、「いずれ面白い選手になると思う」と珍しく手応えを感じた様子だった。

6月3日（木）DSE(ドリーム・ステージ・エンターテイメント)
『PRIDE.6』カード発表記者会見東京・京王プラザホテル

■この日、DSEが記者会見を開き、高田vsケアー、桜庭vsブラガ、小路vsメッツアー、小川vsグッドリッジを発表した。高田はなぜか、弱気な発言に終始。「心の底の一番深い部分では『やりたい』と思ってましたけど、でもやりたくない相手だったので、（エンセンのケガがなければ）一生封印してあの世に行ってたと思います」「バーリ・トゥードのリングにあがったキッカケも、やはり当時“最強”と言われていたヒクソン（・グレイシー）とやりたいがゆえ。悔いを残さないためにも、こういう降って涌いた偶発的な状況の中で、考えた末に胸を借りるつもりで……。また、いろんな意味でニュー『PRIDE.』シリーズということで、高まりつつある『PRIDE.』の、みんなが闘いによって作り上げたいイメージを持続するためのひとつの材料に自分がなるならば、と思います」と語った。対戦相手のマーク・ケアーについては「霊長類最強の男」と、「人類最強の男」アレキサンダー・カレリンの上をいく評価をしていた。（写真②）
■この会見があった翌週の『週プロ』は巻頭記事で、『PRIDE.』の展望を書いていたのだが、いちいちひっかかる表現が多かった。特にゲーリー・グッドリッジの小川に対してのコメントなどは、厳しい載せ方であった。「オガワは先日の『PRIDE.5』で、ワケのわからないパフォーマンスで神聖なリングを汚した失礼極まりないヤツだ。パフォー

■「エンセン井上&修斗君が洋服屋さんの『CLUTCH』の広告モデルになる」

オレにはファッションがよくわからないので文化女子大卒のジャイ子に聞いたところ、若い人らに人気らしい『CLUTCH』。雑誌『H』と『smart』に広告が掲載された模様だが、修斗勢とファッションの関係はますます深まる今日この頃。プレス担当の中屋美奈子さんにエンセン起用について聞いてみました。「社長がエンセンさんのファンなんですね。私はちょっと格闘技のことはよく知らないんですけど撮影の時にお会いしたら、すっごくカッコよくてホントもうビックリしましたね!」とエンセンの印象について興奮気味に語る中屋さん。広告の反響については「意外だったのは男の子よりも女の子からの反響が大きいかったことです」とのことだ。中屋さんといい、エンセンったら女心を鷲掴みしまくりじゃねぇか。その調子でいけ! ところでジャイ子にスペルマ(ジャイ子は精子のことをなぜかこう言う)をかけた修斗君は撮影時も大活躍。今度は五木田さんという男性にサカッていたらしい。やっぱりなんでもいいんだね、修斗君。ジャイジャイ!!(写真⑦)

『CLUTCH』の問い合わせは03-3473―5775。

6月12日(土)和術慧舟會

『宇野薫祝勝会』(和術慧舟會東京本部)

■5・29修斗興行で修斗ウェルター級チャンピオンの座に輝いた宇野薫クンの祝勝会が開催された。小路ら慧舟會のトップ選手をはじめ、マスコミ関係者も大勢集まった模様。女の子が大勢集まった、オレもいけば良かったと後悔しきりのイイ飲み会であった様子。(写真⑤)

6月26日(土)修斗&慧舟會

『ネプイいっ!』テレビ朝日

■お笑いトリオ、ネプチューン司会の番組に小路晃とエンセンが出演。「出張ネプ投げ」はスカート姿の女子を巴投げで投げて、パンチラショットを徹底的に狙うコーナー。エンセンと小路は『PRIDE6』の成功と選手の安全を祈願して巴投げを受ける。なぜだ!?

6月29日(火)修斗

『吉本ばかな』日本テレビ

■お笑い芸人二人が大和魂を学びにエンセン選手のトレーニングを受ける。なぜだ!?

試合情報

告 7月11日(日)歌手と佐山聡による最強タッグ

『99SUMMERファイティングディナーショー』赤坂プリンスホテル

■藤原敏男、佐山聡、徳間ジャパン所属歌うリングアナ大川裕貴が赤坂プリンスホテル・クリスタルパレス(新館2F)において"ファイティングディナーショー"を開催する。ロックンローラーの美女も出演、皆さんも一緒にdance dance dance!(プレスリリースより)

★藤原敏男と佐山聡のエキシビション
★佐山聡がここで語る……UFOでのこと
★K―Uチャンピオン小林聡選手と佐山聡は

【料金】1名 ¥23000
【会場】赤坂プリンスホテル・クリスタルパレス(新館2F)
【時間】開場18:00
ディナータイム 18:00〜19:30
ショータイム 19:00〜21:30
【お料理】フレンチフルコース
【お飲物】フリードリンク
[問い合わせ先] 03―5603―0767 ビッグシティプロモーション

告 8月6日〜17日 格闘写真展

『長尾迪格闘写真展"FIGHTS"』

■『UFC』『PRIDE』『プロ修斗』『パンクラス』の試合写真なら右に出る者なしの長尾氏(本誌でも『怪物通信』をはじめ、迫力ある試合写真は氏の手によるもの)が名古屋パルコで写真展を開催することになった。双葉社刊の『格闘写真集FIGHTS』収録作品に加え、4・29『PRIDE5』、5・25『修斗10周年記念興行』、7・4『PRIDE6』の写真を展示。新たなブームを巻きおこす総合格闘技の現在がひと目でわかる。さらに8月8日(AM10:00より)には修斗ウェルター級チャンピオン宇野薫が来場し"宇野商店"を一日オープン。藤原ヒロシプロデュースによる宇野Tシャツ等レアグッズが多数。さらにさらに、修斗やパンクラスのオフィシャルグッズ、その他格闘モノTシャツなどを連日販売。格闘技ファンならずとも必見、必買!(写真⑥)

[問い合わせ先] 052―264―8111 名古屋パルコ

試合情報

告 7月16日(金)修斗

『SHOOTO THE RENAXIS 1999』(後楽園ホール)

【決定カード・試合順未定】

勝村周一朗(K'z FACTORY)vs マモル(シューティングジム横浜)
川勝将軍(PUREBREDシューティングジム大宮)vs和田拓也(K'z FACTORY)
葉山智昭(K'z FACTORY)vs 谷村勲(パレストラ)
藤井勝久(PUREBREDシューティングジム大宮)vs佐藤耕平(JJA)
藤原正人(WILD PHOENIX)vs 倉持昌和(シューティングジム横浜)
ラリー・パパドポロス(AUS修斗)vs 佐々木有生(フリー)
桜井マッハ速人(木口道場)vs X

道場情報

7月10日 前田道場

『前田道場』が入門テストを開催する

【応募資格】
❶年齢が二十歳未満の男性は、身長が180cm以上、体重70kg以上 ❷年齢が二十歳以上の男性は身長が180cm以上、体重85kg以上

【必要書類】
❶履歴書(身長、体重、スポーツ歴、B・W・H、足のサイズ、合格した場合いつから入門できるかを必ず明記のこと)❷写真(全身及び上半身裸の短パン姿で前・後から撮影したもの 各一枚)❸医師による健康診断書 ❹両親または保護者の承諾書 ❺自己PR文

【書類送付先】
〒150―0036 東京都渋谷区南平台13―1 サトウビル202
(株)リングス 前田道場入門テスト係宛て
*書類審査の上、パスした方にのみ入門テストの詳細をご連絡致します。応募締切は7月3日(到着分)です。

『和術慧舟會』入門案内

◎ビギナーズスクーリング(初心者向けコース)

初心者を対象に基本からのカリキュラムで行われており途中参加でも十分に追いつけるよう配慮されています。

【期間】2ヶ月間【練習日】火、木、日
【時間】午後6時30分より1時間
【会費】1ヶ月分 ¥10,000/学生¥9,000.

◎ミドルクラス&プロクラス(中級上級者向けコース)

【練習日】毎日【時間】午後5時〜午後10時
【会費】1ヶ月分 一般 ¥10,000/学生 ¥9,000
[問い合わせ先]
東京都文京区湯島1―12―6 高関ビルB1F 03―3833―1117

6月10日、シュートボクシングVSドラッカ(投げあり、タックルありの打撃格闘技)第2弾興行が開催された。また、同大会の話題の中心でであったおかまキックボクサー、ノントゥム・パリンヤーは土井広之と対戦するも対日本人、初黒星となってしまう

⑤6月12日 和術慧舟會東京本部において『宇野薫・修斗ウエルター級チャンピオン祝勝会』を開催。勝利に乾杯!!

⑥8月6日から長尾迪写真展が名古屋パルコで開催される(左の写真は怪物通信で使用したケビン・ランデルマンで、もちろん長尾氏の撮影によるもの)。ノールール系の迫力をこの写真展で存分に味わってほしい。GO FOR パルコ!!

⑦エンセン井上を起用した『CLUCH』広告がコレだ!! エンセンのみならず、修斗君まで絶賛大フィーチャー!

⑧和術慧舟會では生徒を募集中。強くなりたい、健康のため、宇野クンと知り合いになりたいなどどんな希望もかなえる夢の道場だ!

紙のプロレスNEWS

修斗／慧舟會／K−1 プロの登竜門的道場

チョイスマン　ブチ

5月27日、掣圏道協会の記者会見が行われた。そしてこれが掣圏道のスーツ型道着だ。ジャケットには胸ポケット、ズボンにはピシッと折り目が入った完全スーツ仕上げ。街中での闘いを想定した、まさに実戦的なスタイルだ

①5・27のメインで桜井隆多を下した佐々木有生はライトヘビー級王者エリック・パーソンと闘いたいと表明。修斗の重量級戦線に有望な新人が登場だ!!

②5・29『修斗プロ化10周年記念興行』のメインで佐藤ルミナを下した宇野薫。試合後はかなりの取材攻勢にあってる模様だが、チャンピオンだから止むなしか？　ちなみにベルトを巻いてるのは廣野。

③6・6『リングスアマチュア大会』後、日明兄さんを囲んで記念写真。下の写真も記念撮影。ん？左下の慧舟會勢が着てるのは『紙プロTシャツ』では!?　ちょっと宣伝ッス！

④6・6『K−1 SURVIVAL99』で北米王者トミー・グランビルをKOした安生洋二のスペシャルカット。ついにK−1初勝利。ガンバレ、200％男!!

5月27日（金）修斗

『下北沢修斗劇場第3弾〜SHOOTER'sPASSION』
下北沢タウンホール

■修斗10周年記念大会の二日前に行われたこの大会はキャパが小さいとはいえ超満員。下北大会らしい男っぽい熱気に包まれた。（写真①）

【試合結果】

第1試合・ウェルター級
丸山弘通（WILD　PHOENIX）［ドロー］
南部陽平（横浜）

第2試合・ウェルター級
○竹内幸司（横浜）［2R1分30秒、三角絞め］
松本光央（WILD　PHOENIX）●

第3試合・ウェルター級
○三島☆ド根性之助（格闘サークルコブラ会）
［1R4分、スリーパーホールド］小谷ヒロキ（八景）●

第4試合・フェザー級
坂本光広（大宮）［ドロー］
西山典男（K'z　FACTORY）

第5試合・ミドル級
○谷村勲（パレストラ）［判定］
レッド・スレイヤー・ガイ（夢想戦術）●

第6試合・ミドル級
○川勝将軍（大宮）［判定］
大河内貴之（パレストラ）●

第7試合・ウェルター級
○藤崎諭（横浜）［判定］石川真（大宮）●

第8試合・ライトヘビー級
○佐々木有生（フリー）［1R2分、ヒールホールド］
桜井隆多（総合格闘技TOPS）●

5月29日（土）　修斗

『SHOOTO THE RENAXIS 1999 修斗プロ化10周年記念興行』（横浜文化体育館）

■メインの宇野薫vs佐藤ルミナは文句なしの激闘＆熱闘。1Rで佐藤のスリーパーをしのぎ切った宇野が3Rにスリーパーを返してタップを奪い、修斗ウェルター級チャンピオンの座に輝いた。試合後の控え室では小路晃や廣野剛康がベルトを腰に巻きあったり、と子供のように大はしゃぎ。無邪気でいいぞ、慧舟會！　大会翌日には僕は格闘技ショップ『新宿ファイター』で桜井マッハ速人と遭遇。一緒に前日の試合ビデオを見るという贅沢なひと時を過ごさせていただいた。「1Rで見せた浴びせ蹴りは素晴らしかった」と正直な感想を言うと「そうスか、そうスか。巻き戻してもう一回見よ」と子供のように喜ぶ、マッハ。クゥ〜、無邪気でいいぞ、この自然児！（写真②）

【試合結果】

第1試合・ライト級2回戦
○阿部裕幸（RJW）［判定］高山義幸（横浜）●

第2試合・ライトヘビー級2回戦
○竹内出（K'z　FACTORY）［判定］
アーメット・ラジジ（チームRONIN）●

第3試合・ミドル級3回戦
○デイブ・メネー（アメリカ）［判定］
デニス・ホールマン（アメリカ）●

第4試合・ライトヘビー級3回戦
○マット・ヒューズ（アメリカ）［判定］郷野聡寛（無所属）●

第5試合・ミドル級2回戦
○加藤鉄史（大宮）［判定］中尾受太郎（横浜）●

第6試合・ライトヘビー級2回戦
○カーロス・ニュートン（チームRONIN）
［1R5分腕ひしぎ逆十字］川口健次（横浜）●

セミファイナル・ミドル級3回戦
○桜井速人（総合格闘技木口道場）［判定］
マセロ・アグア（ブラジル）●

メインイベント・修斗コミッション認定第4代ウェルター級王座決定戦
○宇野薫（慧舟會）［3R4分2秒、スリーパーホールド］
佐藤ルミナ（K'z　FACTORY）●

6月1日（火）エンセン井上兄

『スーパー・ブロウル12』ハワイ

■イーゲン井上がヘウソン派のマセロ・チグレとバーリトゥード系の試合をすることで話題を集めた大会。数年前、柔術の大会で井上兄弟はヘウソン・グレイシー一派と乱闘となってしまい、それ以来両派は非常に仲が悪いわけだが、そんな両派がリング上で対決。もちろん無事に済むわけもなく、チグレはグラウンドで頭を蹴ったりなどの反則を再三おかして失格負け。このマナーの悪い試合態度に当然、エンセンはブチ切れてもたしても乱闘寸前となる。『PRIDE6』で小指を骨折したばかりなのに、やらなきゃいけない時にはやるエンセン。　YO、ヤマトダマシイ素〜晴らしいィ。

■同日『修斗公式戦』がハワイで行われる
○植松直哉［1R1:52　アキレス腱固め］
ライアン・ディアス●
○五味隆典［1R3:06　スリーパーホールド］
ステファン・パリング●

6月6日（日）リングス・アマチュア

『第6回リングスアマチュア大会』（新宿・スポーツ会館）

■慧舟會やアニマル浜ロジム、シューティングジム八景、キャプチャーら所属の選手が多数参加した大会。審査員には前田日明、山本宜久、田村潔司、金原弘光といった選手が並び、アマチュアたちの熱戦を見守った。試合後、田村がグラウンドの技術についてアドバイスし、金原はスタンドの技術をアドバイス、山本はスピリットの部分で選手たちに注意点を与えていった。ちなみに山本の心を打った魂ある試合をした小木正人選手と根本隆史選手には「山本賞」が贈られた。（写真③）

【各階級の結果】

◎60㌔級
優勝・小西良徳（SAW本部）
準優勝・藤村卓也（慧舟會）

◎70㌔級
優勝・石田光洋
準優勝・小木正人（アニマル浜ロジム）

◎80㌔級
優勝・森素道（スポーツ会館）
準優勝・仁尾和紀（無名塾）

◎80㌔超級
優勝・芳岡博之（YMC）
準優勝・守光博史（木口道場）

同日　K−1ジャパンシリーズ

■『K−1 SURVIVAL99』（北海道・真駒内アイスアリーナ）
安生洋二は北米スーパーヘビー級王者トミー・グランビルを2R、KO。K−1初勝利を挙げる。また長井満也はK−1初参戦のトファン・ピラーニと対戦。2R終了時にピラーニがドクターストップとなり、ノーコンテスト。長井は故郷での初勝利をものにできず、残念!“闘うパパ”の初勝利はいつだ!?

■セレモニーには藤原組時代に空中氏のお世話になったパンクラス勢の船木、冨宅、稲垣、國奥が出席。某週刊誌で“パンクラスに行けなかった選手たち”と書かれたバトラーツの面々が企画したセレモニーに、しがらみや垣根を超えてパンクラスがやってきたのだ。何とも気持ちのいいシーンである。パンクラスの懐も深い！　しかし鈴木みのるがいないのはいただけない。6・9、鈴木みのるはどこに？（写真⑥）
■全試合開始前、カール・グレコがリング上から挨拶を行い、「マレンコ」の名を引き継ぐことを宣言。マレンコ家とは血縁関係もあり、観客も拍手で“ニュー・マレンコ兄弟”を受け入れた。

6月11日（金）FMW
「アダルトの風吹き荒れる！」東京・ディレクＴＶ本社

■本誌で好評連載中の“杉Ｊ”こと杉作Ｊ太郎先生の知り合いである“クィーン・オブ・ＡＶ女優”若菜瀬奈ちゃんが、ＦＭＷでマネージャーを務めることになった。見てみぃ、この胸！　見てみぃ、この顔！　見てみぃ、この目！　日本プロレス史上最高の上玉がＦＭＷを席巻する！　これから瀬奈ちゃんの取り合いやドレス剥ぎマッチなどに発展することを祈りつつ、今後の推移を注意深く見ていきたい。（写真⑦）
■この日はＩＷＡを退団した元川恵美（少し痩せた？）の入団も発表された。セクシー路線の女子プロとどう絡むか？

6月12日（土）みちのくプロレス
『ちゃぐちゃぐルチャっ子'99』（開幕戦）

■大日本プロレスから離れていた藤田穣が晴れてみちのくプロレスに留学した。初戦の相手は、昨年11月23日バトラーツ両国大会で軽くあしらわれたＴＡＫＡみちのく。この日は３分でツブされた。みちのくプロレスに藤田が留学するのは、全面的に大賛成。適材適所！

6月15日（火）FMW
『メイキング・オブ・ニューレジェンド』改め『さよならハヤブサシリーズ』東京・後楽園ホール

■第１試合終了後、なぜか唐突にリッキー・フジが尻を見せまくり、嫌がらせのようなダンスを繰り広げた。何とも言えない後味の悪い余韻を引きずりながら、冬木コミッショナーが登場。「ハヤブサにマスクを剥ぎ、素顔になれ」と通達すると喝采と罵声が飛び交った。同時にシリーズ名も変更となった。「キャラクターに縛られている」との声も一部では挙がっていたハヤブサだけに、大爆発のチャンス到来か？
■誰のマネージャーに付くか注目の的だった若菜瀬奈ちゃんだが、なんと超大穴フライングキッド市原と肩を組みながらやってきた！　「なぜ、あいつに？」という観客や対戦相手の邪道の疑問に対して、瀬奈ちゃんはズバリと答えてくれた。「ワタシ、強い人よりも優しい人が好きなの！」。「いつの時代もそんなもんなんだよ」と、このセリフを聞いた本誌鬼畜編集長が寂しげにタバコをふかしながら呟いた。非常に実感のこもったセリフだった。（写真⑧）
■中山香里改めミルキー香里が登場。バトン・トワリングの経験をいかした爽やかＨ路線に落ち着いた模様。ストリッパーのお姉さまから授けられた過激な秘技は、いずれ出してくれることだろう。このまま行ってほしいものである

6月20日（日）大日本プロレス
『B・Jエキサイトシリーズ』北海道・札幌テイセンホール

■5月30日に山川が奪取した大日本デスマッチ王者のベルトに本間が挑戦、会場を血で染めながら初防衛に成功。五寸釘、札幌といえばバトラーツ。あのときは、誰も落ちることのなかったあのボードを使ったのだろう。じつにたくましい。

試合情報

告“夏の総当たりリーグ戦”バトラーツ
『ヤングジェネレーションバトル'99』

【7月】
［20日（火・祝）東京・TOKYO FMホール］
石川vsモハメド　池田vs田中
カールvs臼田　小野vsラスタマン
［21日（水）新潟・上越市厚生南会館］
石川vsラスタマン　アレクvs田中
小野vsモハメド
［22日（木）石川・石川県産業展示館１号館］
～真夏の金沢３大スーパーファイト～
石川&モハvs松永光弘&ラスタマン
池田vsアレク
【FMW認定ジュニアヘビー級選手権】
佐野なおきvs田中稔　臼田vs小野
［29日（木）埼玉・本川越ペペホールアトラス］
石川vs池田　田中vsモハメド
臼田vsラスタマン　カールvs小野

【8月】
［8日（日）千葉・多古町民体育館（16：30）］
池田vs小野　アレクvsカール
モハメドvsラスタマン
［11日（水）島根・益田市民体育館］
石川vs小野　アレクvsラスタマン
池田vs臼田　田中vsカール
［22日（日）北海道・札幌テイセンホール（15：00）］
石川vsアレク　田中vs臼田
池田vsモハメド　カールvsラスタマン
［23日（月）北海道・岩見沢スポーツセンター］
石川vs田中　アレクvs臼田
モハメドvsカール　池田vsラスタマン
［26日（木）静岡・ツインメッセ静岡］
石川vs臼田　アレクvsモハメド
池田vsカール　田中vs小野
［29日（日）東京・TOKYO FMホール（13：00）］
石川vsカール　アレクvs小野
モハメドvs臼田　田中vsラスタマン
［29日（日）東京・TOKYO FMホール］
優勝決定戦
※時間の記載がないものは18：30試合開始
※ヤンジェネ公式戦はすべて20分一本勝負
［問い合わせ］バトラーツ：0489-63-0005

告7月31日（金）、札幌“磁場”伝説×2
札幌『リングパレス』で、嬉しいイベントが行われる。

【第1部　（14：00～）】
田中稔&日高郁人が夢のサイン会を開催!!
リングパレスで８月のバトチケットもしくは、グッズ購入者を対象にしてサイン会を行います！　リングパレスにて整理券を配布中なので、ミノラー＆ヒダカーは集まれ！
【第2部　（14：30～トークにあきるまで）】
“北の最終兵器”日野氏PRESENTS『国営トークPART1』
常にマット界の磁場を憂う『リングパレス』のオーナー・日野氏がプロレス国営化に向けて激論を振るう！ゲストは何とバトラーツのスーパーレフェリー・島田裕二氏＆本誌鬼畜編集長・山口“札幌大好き”日昇!!　カモン!!
［問い合わせ］リングパレス　011-261-5580

告 4年に一度のマスクマン世界一決定戦!!
みちのくプロレス『第2回ふく面ワールド・リーグ戦』情報
7月17日（土）岩手・矢巾町民総合体育館（開幕戦）
［お問い合せ］みちのくプロレス　0196-26-1333
【参加選手】ドスカラス（メキシコ）、ザ・グレート・サスケ（日本）、タイガー・マスク（日本）、愚乱・浪花（日本）、ブラック・ウォリアー（メキシコ）、カレー・マン（インド）、ホワイト・ベアー（ロシア）ダッコCHAN（南アフリカ）、ダートバイク・キッド（イギリス）スーパー・ボーイ（アメリカ）

6月9日（水）『故ミスター空中氏追悼興行』
■バトラーツに上がると様々なオールド・スクールが輝きを増す。伝説のジュニア王者佐野なおきもその１人。臼田を相手に貫禄の勝利！

⑤掣圏道とは？　ホール中の目が釘付けになった佐山の試合だが、結果的には佐山の独壇場！　マスク＆道着ってビジュアル的には相当レベルが高い

⑥パンクラス勢はコメントは出さずに帰ってしまった。どんな気持ちで参加したのか知りたかった。鈴木みのるはバトラーツにあがれば、光るのではないだろうか？

⑦そのうちポロリとかあるのか？　今後のＦＭＷはＷＷＦやＷＣＷのようなエロ路線も充実していきそう。最近は目くじら立てて怒るファンもいなそうなので、いっちゃって～!!

⑧「強さ」よりも「優しさ」。フライングキッドのビジュアルとはがっちりハマるね。７月31日（土）の後楽園ホール大会でも何かがおこる!?

紙のプロレスNEWS

みちのく／バトラーツ
FMW／大日本

チョイスマン ノブ

①このページの団体中で個人的には山川に5月のMVPを差し上げたい。とにかく素晴らしい見栄の切りっぷり

②最も怖ろしいシーンだった山川in棺桶への火炎放射攻撃。あわてて『神風』が消化器で消す！

③日本マット界屈指の論客となった冬木。それよりも、くだらないこともひっくるめて完全にエンターテイメントな路線に突入したFMWに刮目せよ!!

④杉J＆北野誠氏プロデュースで誕生した『ミルキー香里』。『トゥナイト2』（テレビ朝日系列月～木曜日の23：55スタート）では頻繁にプロレスネタを取り上げている。必見!!

6月6日バトラーツ
東京・『プロレスマニア館』
■久々に石川＆池田のバト版BI砲が復活してサイン会を行った。終盤、退屈してきた社長に、レンズにサインされそうになった

6月9日（水）みちのくプロレス
「サスケがCM出演!!」
■『TSUTAYA』のCMに起用されたサスケ。ギャラは『ふく面ワールドリーグ戦』の賞金にプラスされる。

[現地時間] 5月20日（木）・21日（金）バトラーツ
「プエルトリコにて、アレク（パコ）海外修行の第一歩を踏み出す!!　そして、オースチンが死亡!?」

■ビクター・キニョネス主宰のＩＷＡプエルトリコの興行にアレクが参戦した。アギラ（＝ミステル・アギラとしてＣＭＬＬの日本興行に何度か参戦した）に破れたが感触は掴んだ模様。「ルタ（・リーブリ）には勝ちましたけどルチャ（・リブレ）には負けました。んむはぁ」と言ったとか、言わなかったとか。それ以外の試合には勝っただけに、すべり出しは好調！　まだまだアレクの快進撃は続く！　ちなみに奥さんの大塚のものも（元本誌編集姫）が、遠征中のアレクに「オーエン（・ハート）が死んだ」という情報を「（スティーブ・）オースチンが死んだ」と間違えて教えてしまった模様、ほえ～。誰か、メキシコに行く際は、アレクにちゃんと教えてあげてくださぁい。

[現地時間] 5月30日（日）バトラーツ
「アレク、メキシコで覆面レスラーに変身!?」

■メキシコのモントレー・コロセオ・アリーナで2000人を集めて行われた大会でアレクは６人タッグマッチに出場したのだが、“SHOO KIM”（シュー・キム）と名乗り覆面レスラーとして出場した。アレクは「いきなり会場に行ったら覆面で、しかもへんてこなリングネーム。でも、何事も修行！　こっちで慣れたら日本でもこのスタイルで登場してみたい!!」と早くも大胆発言。頼もしい限りだ。パコ（＝おかま）人気、爆発寸前。

5月30日（日）大日本プロレス
『新川崎伝説'99』神奈川・JR新川崎駅小倉陸橋下広場

■大日本が送る久々のビッグマッチ。この日のメインはシャドウＷＸvs山川竜司の“ノーロープ有刺鉄線デスパレットカフィン＆ファイアーデスマッチ”……とは書いてみたものの「何が何だか？」な読者のみなさまも多いと思うので軽く説明しよう。会場の端に停められたトラックの上に凶器が入った棺桶を置いて、先によじ登って取ったら、それを使ってもよいというルールである。さらにリングに２人が入るとトーチに火がついてファイアーデスマッチに移行するというもの。複雑すぎてわかりにくいルールだったが、そのへんは試合のテンションが異常に高かったのでノー問題。ちなみに棺桶に入っていた凶器とは、火炎放射器と蛍光灯だった。（写真①）

■山川竜司は、バトラーツ勢と闘うと“酔いどれどチンピラ”（サッポロビールとジャックダニエルを愛好）なキャラだが、大日本ではライダーポーズをビシッと決めて大喝采を浴びる“正義のヒーロー”風のキャラ。一方のシャドウＷＸは、正規軍のリーダー的存在だ。ヒールとベビー・フェイスの区別がなければ、遺恨もない、どっちが凄いかを競い合う狂気のデスマッチが展開された。この日の山川が受けた攻撃をざっと挙げてみよう。

・トラックのコンテナ上から投げ捨てパワーボム！
・蛍光灯で殴られた回数は数知れず。おまけに背中に蛍光灯の破片が刺さり５センチ近い深さの裂傷を負う
・棺桶にぶち込まれて、火炎放射器で焼かれる。（写真②）

この日のデスマッチを前田日明的に表現するならば“底抜け脱線ゲーム”かもしれない。が、ベテラン選手のデスマッチにありがちなダレた空気は一切なく、大惨事ギリギリまで受けきって見得を切りまくる。特に山川はアクシデントにも強かった。なかなか点火しない火炎放射器に苛立ちながらも、客に突っ込まれれば「うるせえ、バカ野郎！」と血まみれの笑顔でやり返す、素敵なプロ根性は光りまくっていた。とにかくスゲエ！　「どチンピラ」なキャラクター以上のものが、山川から発散されていた。

■試合に勝った山川はベルトを天に掲げてフラフラと自力で歩き出す。客に囲まれながら、たどり着いた先は救急車。この日の山川はあまりにカッコ良すぎた。観客も完全に山川に酔っていた。ただし、エスカレートする一方なので事故が起こりかねないのは課題であろう。今回は複雑な仕掛け以上に極限でのプロ根性と人間としての強さで客を酔わせた“人間ジャックダニエル”山川竜司に乾杯！

5月31日（月）FMW
『FMW統一機構最強タッグリーグ戦スーパーファイト』
東京・後楽園ホール

■5月5日に「リストラを発表する」とブチあげたコミッショナー冬木。注目のリストラ選手は「気に入らないから」という理由で、田中将斗に決定！　ただし、「この先、無期限で１敗でもしたら」という条件が付いた。悪のコミッショナー＆悪の社長コンビが誕生したわけだが、後楽園ホールの観客はこれに大声援を送った。「ビンスのマネか！」という声も挙がったようだが、最初は模倣でもオリジナリティは後から出てくればいいんです！

■この日のメインイベントは正規軍vs冬木軍の5vs5のイリミネーション。新ルール（目新しい変更点は、場外でのフォールも可能な点＆金的やったら即負けになる点）の特性を最大限に活かした正規軍の前に、冬木軍は次々と破れ去り、いつ間にかストレート負け。試合後、冬木はハヤブサに「次回（後楽園大会）の主役はオマエだ！」と宣告！　ますます試合以外の部分にも力を入れていくというＦＭＷ（フユキ・マッチョバディ・レスリング）に注目！（写真③）

6月8日（火）FMW
「中山香里、お色気体得大作戦」テレビ朝日『トゥナイト2』

■ＦＭＷ女子部の最後の灯火・中山香里が、冬木コミッショナーの命令により、強制的にエロ路線を歩むこととなった。その模様が『トゥナイト2』で放送され、中山はその中で浅草フランス座で現役ストリッパーから悩殺ムーブを習ったのだった。次第に照れが消えてくると、中山もあの体型、あの顔、あの巨乳を精一杯駆使して、あの手、この手で男性客の心を揺さぶるガチガチのエンターテイメント・レスリングの裏技を修得していた。（写真④）

6月9日（水）リングスタッフ主催興行
『故ミスター空中氏七回忌追悼興行』～ミスターレフェリー・フォーエバー～　東京・後楽園ホール

■新日本、ＵＷＦ、藤原組と、日本のマット界のキーポイントとなる団体で、レフェリーやブッカーといった裏方として支え続け、日本マット界に多大なる貢献をしてきたミスター空中氏。その七回忌興行が、パンチ田原率いるリングスタッフ主催で行われ、団体の枠を飛び越えて様々な選手が集まった。ドン荒川、初代タイガーマスク、東京初参戦となった“なおき”バージョンの佐野らが出場した。

■“伝説の放浪格闘家”芳賀元太が、初めて公の場に姿で闘いを披露した。三代目マッハ隼人を相手に止まらずに動きまくり、積極的に技を仕掛けていった。その闘いにハガゲンタ幻想が一気に高まったことは言うまでもない。マレンコ道場の卒業生の名に恥じぬ、素晴らしい試合だった。現在は「パレストラ」で練習をしているらしいので、大宮フリーファイトあたりに出たら面白いと思う。

■内藤恒仁のファイトが光りまくっていた！　ホーデス・ミン（＝ポイズン澤田）＆橋部昌浩（内藤のパートナーはキャノンボールKAZU）を相手にキレまくり、元気なところを見せつけていた。でも、いつも笑顔なのはなぜ!?

■初代タイガーマスクとして、カードに名を連ねていた佐山だが、なぜかいきなり素顔に道着でリングイン。しかも胸には掣圏道のロゴまでついている（スーツ型の道着じゃなかったのが残念）。すると胸からいきなり虎のマスクを取り出して被り始めた。会場にいた誰もが呆気に取られた。（写真⑧）

紙のプロレスNEWS

その他の団体

チョイスマン　ジャイ子

①試合後、突如現われたキングダムの入江秀忠。高木三四郎に「勇気があるのなら僕と闘いましょう（ニコッ）」と丁寧に挨拶。対戦なるか？　右は、この日出場の「硬派!! 山崎金次郎」。

②どんなコスチュームで登場するか注目された谷津は、穴あきジーンズに初心者マーク入りデスマッチ記念NEWTシャツというものだった。しかし最後はボロボロに…。

③「指先まで、爪先まで選手の動きを見てやって下さい」との挨拶にシビれ、しっかりメモを取るジャイ子。

④一心不乱にメモを読み上げるだけのジニアス（何故か「紙プロ」Tシャツ着用）を優しく見守るフリのジャイ子（実は興味なし）。

5月29日（土）DDT

『オレたちDDT』東京・板橋区立産文ホール

■ネオ・レディースの篠社長率いるネオDDT、金にものを言わせ選手を募る篠社長のもとにチーム入りを表明する選手が殺到。国際プロモーションの佐野直もその一人だが、後日「雑誌に『貧乏脱出のために入りたがってる』って書かれましたけど、俺、貧乏じゃないッスよ！」と怒りの激白！　じゃあ入る必要ないじゃん!　というツッコミを入れられる前に加入を賭けたシャーク土屋戦が決定。これに勝てば悲願達成となるが、結果はいかに？（写真①）

5月30日（日）SPWF

『バトルリベンジ '99』埼玉・所沢市西武ドーム下駐車場

■西武ドームを下ること8分、西武下の駐車場で行われたターザン後藤＆矢口壹琅vs谷津嘉章＆高智政光の“ノーロープ有刺鉄線電流爆破監獄トルネードタッグデスマッチ”。革新十字軍の後藤＆矢口に道場を乗っ取られた谷津＆高智は奪回を誓い、初の電流爆破デスマッチのリングに上がった。一度目の金網への激突は不発、客席からは安堵とも失笑ともとれる声が上がったが、その直後に再び高智が金網に激突すると、景気のいい爆破音とともに高智は崩れ落ちた。さらに後藤と矢口が二人掛かりで谷津を金網に叩きつけ、谷津も見事に爆破。20分過ぎ、後藤＆矢口はダメージの残る谷津＆高智を二人まとめて爆破させると、そのまま両者ノックアウトが宣告された。いささかアッサリめの決着に物足りないのか後藤はニヤニヤしながらレフェリーのマーティー浅見を金網の中に閉じ込めるという暴挙にでた。慌てて脱出を試みるマーティーだったが、カウントダウンが進むと観念しリング中央で谷津＆高智と一緒に爆破を待った。カウントがゼロとなりスイッチが押されると大型爆弾が炸裂した……、のだったが大型爆弾の威力は所沢が吹っ飛ぶくらいのものではなかった。しかも後藤組が一度も被爆しなかったことで客席からは不満の声が多数あがった。そんなことはノー問題と勝ち誇った後藤は「これでＳＰＷＦは終わりだな。これからは革新十字軍が興行を仕切っていくからな。俺たちはＩＷＡも制圧してるから、２つの団体を手に入れた。６月27日のＩＷＡの南千住には、谷津、お前が来い！　わかったな!!（ニヤリ）」とブーイングのなか言いたい放題で引き上げていった。どうする谷津!?　早く取り戻せ道場、激！（写真②）（チョロ）

6月1日（火）つぼプロモーション

『真実一路』東京・北沢タウンホール

■「プロレスではなく、レスリングの好きな人間が集まりました」という小坪の言葉で始まった旗揚げ戦。試合前には「藤原教室」が開かれ、全選手が参加したとのこと。レスリングの巧さでは定評のあるニーハオvs内藤恒仁戦は、取り合い、極め合い、投げ合いと三拍子揃ったドキドキの一戦。ぜひ、再戦してほしいところ。（写真③）

6月13日（日）国際プロモーション

『第51回IWA定期戦スペシャル』神奈川・鶴見青果市場

■アフロがトレードマークだった「ゴローちゃん」こと鶴見五郎がストレートヘアーに。「鶴見さんの行ってる美容院、パーマ値上がりしたんスよ。だからッスよ！」（S選手・談）

■試合前、伊藤ニーヘーリングアナの「喧嘩十段改め、前科十犯！」のコールとともに二瓶組長が登場。観客の暖かい「十犯！」「おかえり！」という歓声の中、リングに上がった組長の第一声は「捕まっちゃいました（笑）」。裁判前で弁護士に止められているため、事件に関するコメントはなかったが「警察に捕まろうとも、二瓶組の看板という守るものがあったから頑張れた」という発言に、組員号泣（未確認）。

6月14日（月）UNW

『Goodbye Day～また逢う日まで～』東京・大田区民プラザ

■なぜか観戦に来ていた闘龍門のジュードー・スワに「シャーク土屋戦、頑張って下さい！」と声をかけられた、これまたなぜか観戦（のつもりが選手誘導係）に来ていた佐野直。「なんでそんなこと知ってるんだろう？」と、しきりに首をかしげるもニヤケ顔。

■この日のリングアナはアンドレ・ザ・ジャイ子。ロクに練習もせず、当日まで「めんどくさい」「わたしは別格なの！」などと言っていた罰か、燦々たる結果に。後日インターネットでの「リングアナとして最悪」「ひまわりをくわえての入場は寒かった」「ジャイ子全然つまんない」など大バッシングを受けまくり、編集部一同、大喜び。（写真④）

■肝心の試合の方は、ジニアスがマーク・フレミングをスパインブリーカー・オブ・ジニアスでKO勝ち。リアル・ワールド王座初防衛、バージニア王座を奪取した。

6月20日（日）WAR

『革命陽上・7～SEVEN～』東京・後楽園ホール

■天龍源一郎＆マグナムTOKYO組は、残念ながら一人ずつの入 場。天龍が入場時に踊りながらチップを集めるステキな場面はやはり夢でしかなかったが、試合後、天龍はゴキゲンで腰振りダンスを披露。さすが大将！

■観戦に来ていた二瓶組・幻がジャイ子と雑談中離婚を表明。女性ファン急募のこと（嘘）。

試合情報

告 7月4日（日）キャプチャー

『ＣＨＩＫＡＳＨＩＴＳＵ　ＭＡＴＣＨ太田区大会』
東京・大田区民プラザ体育室（19：30）
【主な対戦カード】
※キャプチャー初のタッグマッチ！

北原光騎＆紅林慎一郎 vs 仲野信市＆中村和信
ニーハオ　vs　青柳政司
モンゴルマン　vs　矢口壹琅
石井智宏　vs　タノムサク鳥羽　（他2試合を予定）

【問い合わせ】キャプチャー　044・959・3333

告 7月4日（日）EWF

『ＥＷＦ～二瓶組長エイド～』
神奈川・クラブチッタ川崎（18：00）
■ロイヤルランボー　時間無制限一本勝負
【出場選手】山下義也（ＩＷＡ）、佐野直（国際）、サバイバル飛田（埼玉プロレス）、前田光世（ＣＣレッスルアーツ）、藤沢一生（湘南プロレス）、高木三四郎、三上恭平、ゴールデンエイト（以上ＤＤＴ）、クラッシャー前泊（猛毒隊）、ハワイアン・ゴリ一号、ハワイアン・ゴリ二号、アジアン・クーガー、内藤恒仁、エキサイティング吉田、キャノンボールＫＡＺＵ、ポイズン澤田、ウルトラセブン（以上フリー）

■その他、キングダム入江秀忠の格闘技戦を含め、全４～６試合を予定。なお、本大会のサブタイトルは諸処の事情によりプロレス活動を自粛しているＥＷＦ川崎地区プロモーター、喧嘩プロレス二瓶組　組長・二瓶一将選手を励まそうといった主旨で付けられている。アメリカンプロレスを日本風に味付けしてお届けするＥＷＦ。果たして二瓶組長は現れるか？

【問い合わせ】ＥＷＦ事務局　03-3227-8145（代）

告 7月13日（火）DDT

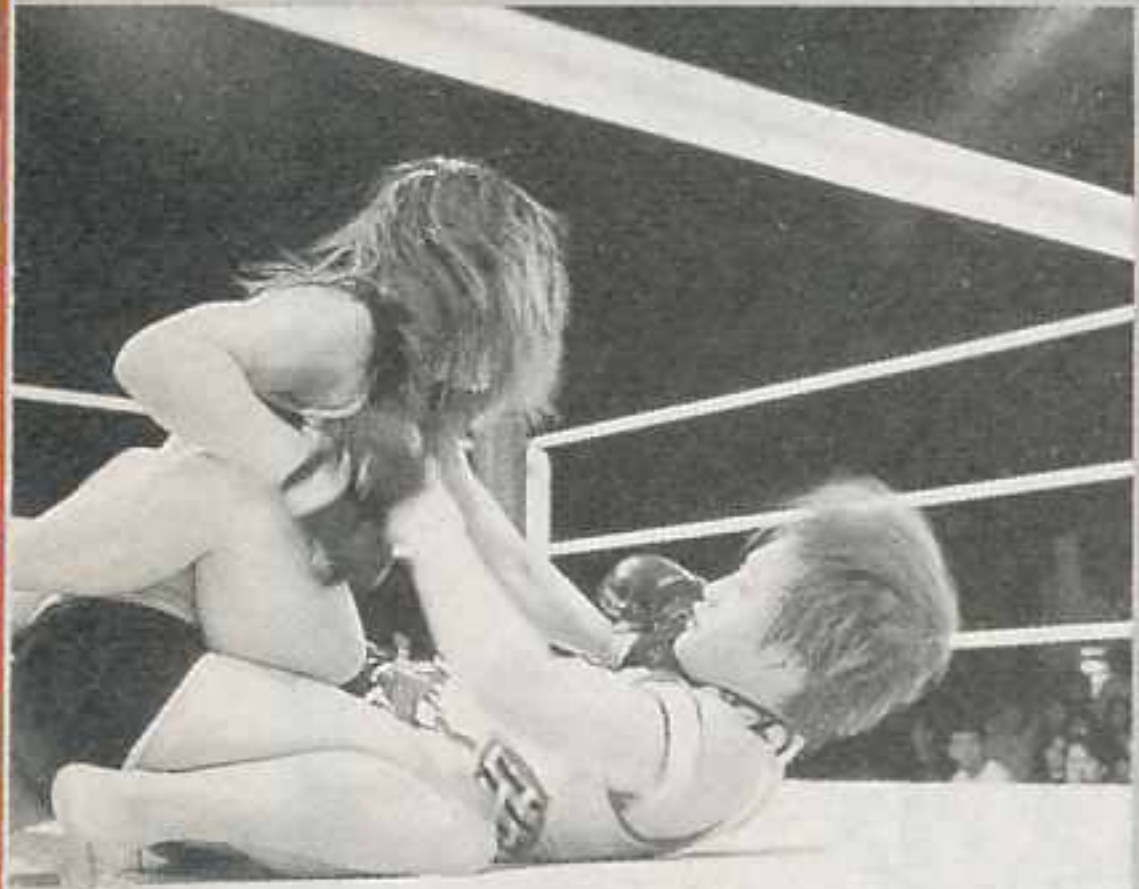
『ＮＯＷ　ＧＥＴ　ザ★チャンス!』
東京・板橋区立産文ホール（18:30）
【問い合わせ】ＤＤＴ　03・3356・8493

紙のプロレスNEWS

女子プロレス

チョイスマン　ジャイ子

①注目のZAP対決は場外カウントがないのをいいことに場外乱闘三昧。ZAP・Iの勝利に終わったが、試合中に覆面を脱いだZAP・Tこと渡辺智子にも要注目！

②大先輩の井上貴子から、見事にフォールを奪い、会心の笑顔を見せる中西百重。7月11日のWWWAスーパーライト選手権・チャパリータASARI戦への勢いがついたか。

③スタミナ抜群の両者だったが、後日「あと1時間やってたら中西が勝ってましたよ」と全女・今井リングアナは自信満々。2時間やるの？　長いっつーの!!

④6月15日、フジテレビにて全タイトルマッチの調印式が行なわれた。「いい試合をしたい」と京子、「ケンカマッチでツブす」と堀田。握手も拒否した。

5月20日（木）ネオ・レディース

『Neo New Wave'99』東京・後楽園ホール

■謎の覆面選手、オクトパス・エイト初登場。遠藤紗矢と対戦し、敗れたものの確実にインパクトだけは残した。それにしても正体が気になるところである。コンビニ強盗の相方説、ゴールデンエイトの彼女説もある。本誌は彼女とコンタクトを取ることに成功、コメントを求めると墨を吐きながら小声で「応援してください♥」と、ちょっぴり可愛い素顔を覗かせた。どっかで聞いたことある声だったのは気のせいか？　次回の参戦に期待したい。

5月23日（日）GAEA JAPAN

『WIPE OUT』大阪・IMPホール

■永島千佳世の張り手一発でダウン、3カウントを取られた沼尾マキエ。試合時間は僅か40秒。これを見た里村明衣子が激怒。泣きながら沼尾を殴りつけた。何度もチャンスをものにできず、周りの期待を裏切ってきた沼尾だけに、今回こそはキッチリ結果を出して欲しいところ。

■5月16日の後楽園大会でライオネス飛鳥に欠場を言い渡された長与千種。もうひとつの顔でもあるZEROで登場かと思われたが（妄想）、結局現われずじまい。後日、サンタモニカで肉体改造に取り組んでいたことが明らかになった。

5月23日（日）LLPW

『春闘～美闘家パラダイス』東京・後楽園ホール

■G.V.G.タッグリーグ戦は、若手の青野敬子が立野記代をフォールし、青野＆紅夜叉組の優勝となった。賞金の１００万円は「紅さんの結婚祝いに」と、泣かせることを言う青野に「貯金あるからアオちゃんにあげる」と、ステキな姉さんっぷり全開の紅。ちょっと前までは突然、「自分はいま、壁にブチ当たってます」と、わけのわからないマイクアピールをするなど、とにかく焦っていた青野だが、この日で確実に壁はブチ破れただろう。

6月6日（日）全日本女子プロレス

『ジャパン・グランプリ'99』東京・後楽園ホール

■毎年恒例の『ジャパン・グランプリ』がこの日開幕。いきなり堀田祐美子vs豊田真奈美の頂上対決が行なわれた。堀田の勝利の終わったが、この敗戦で熱くなった豊田の今後は要注目！（写真①、②）

6月13日（日）Jd'

『Let's JUMP』東京・後楽園ホール

■中西百重vs薮下めぐみがバーリ・トゥード・ルールで対戦。当初、時間無制限１本勝負だったが、試合開始から40分を過ぎた頃に本部席がザワつき始め、試合開始50分経過とともに「協議の結果、60分１本勝負に変更」とのアナウンスが。結局、試合は時間切れ引き分けに。驚いたのはこの後。両者とも２～３分休んだあと、ハキハキと取材陣の質問に答え、薮下に至っては次の試合のセコンドでリングサイドを走り回る始末。「元気が一番」ってことです。（写真③）

■セミのTWF世界タッグ選手権ではザ・ブラディー＆ファング鈴木組がCooga＆坂井澄江組を破り新王者に。試合中、ブラディー組セコンド・遠藤紗矢の度重なる乱入でキレたトミー蘭レフェリーが遠藤を場外で投げ飛ばす（しかも助走つき）一幕も。

6月20日（日）GAEA JAPAN

『TACTICS』東京・後楽園ホール

■当日発表となっていた長与の対戦相手Ｘは三田英津子。サンタモニカで10キロ以上の減量に成功した長与は身も心もリフレッシュしたのか、12秒で三田を破った。試合後、リング上で中島リングアナに彼女ができたことが発表された。

6月20日（日）全日本女子プロレス

『ジャパン・グランプリ'99』東京・全女事務所ガレージ

■『ジャパン・グランプリ』公式戦で番狂わせ２連発！　脇澤美穂が「大嫌い」と公言する豊田を破り、中西が堀田と引き分け。こうなったら高橋奈苗の先輩越えも見たいところ。

6月29日付

■『週刊プロレス』より。長与インタビューにて「トンちゃんは～」と衝撃発言。「トンちゃん」とはクラッシュ時代の飛鳥の愛称、ジャイ子の記憶ではそう呼んでいたのは長与だけ。クラッシュチルドレン的には懐かしさで涙、涙。

試合情報

告 7月4日（日）ネオ・レディース

神奈川・クラブチッタ川崎（13：00～）

■Neo Japan Cup'99公式戦＆オールパシフィック挑戦者決定戦として田村欣子vs元気美佐恵が決定。この試合の勝者が７月４日に前川久美子に挑戦する。

【問い合わせ】ネオ・レディース　03-3227-8144

告 7月10日（土）・11日（日）全日本女子プロレス

『お台場W EXPLOSION'99』

東京・フジテレビ内7F屋上庭園（両日17:00～）

7月10日

【WWWA世界タッグ選手権試合】

ZAP・I＆ZAP・T vs三田英津子＆下田美馬（フリー）

【オールパシフィック選手権試合】

前川久美子vs（7・4ネオ）田村vs元気の勝者

【全日本タッグ選手権試合】

脇澤美穂＆納見佳容vs美咲華菜＆倉垣翼

7月11日

【WWWA世界シングル選手権試合】

堀田祐美子vs井上京子（ネオ・レディース）

【WWWA世界スーパーライト選手権試合】

チャパリータASARI（ネオ・レディース）vs中西百重

遠方の女子プロファンも、フジテレビ見物、お台場見物を兼ねて、どうでしょう？　ちなみにフジテレビの隣はホテル。至れり尽くせりです。（写真④）

【問い合わせ】全日本女子プロレス　03-3493-6541

告 7月21日（水）

JWP & Neo PRESENTS ～EAST VS WEST～

東京・後楽園ホール（18:30～）

■JWPとネオの全面対抗戦。客席もネオ側とJWP側にわけて販売決定（一般席もアリ）。ダイナマイト・関西を破り絶好調の日向あずみが井上京子と対戦、大物食いになるか！

【問い合わせ】JWPプロジェクト　03-3839-4161
ネオ・レディース　03-3227-8144

告 9月15日（祝）GAEA JAPAN

横浜文化体育館（17:00～）

■6月20日、後楽園大会のあとにファン、マスコミを集めた公開会議が行われ、９月15日に長与と飛鳥の再戦が決定した。飛鳥が勝った場合は長与がSSU入り、長与が勝った場合は飛鳥がSSU全選手と反則なしでシングルマッチで対戦、現在SSUが持つGAEA JAPANの全権のうちの半分をGAEAに返すという条件も決まった。チケットは７月18日の後楽園大会（18:30～）より発売。

【問い合わせ】GAEA JAPAN　03-3795-2555

必読連載

石川雄規の闘いの美術館

あるいは「祭り好きの男たち」

第17回

観客が少なければ少ないほど燃える、バトラーツはそんな素敵な天の邪鬼集団なのだ

旗揚げの年、三つの『お祭りプロレス』があった。例えば市町村などの祭りイベントに演歌歌手が呼ばれて歌を唄ったりする、つまりそれと同じシステムである。祭りの予算の中でイベント出演料としてギャラを頂き、市民の人に無料で観戦してもらうのだ。

初めは地元越谷にある『焼肉やまと』の恒例夏祭りだった。住商さんに紹介して頂いた『やまと』の社長の飯島氏は、毎年夏に夏祭りを開催していた。越谷市役所の川向かいにある店の駐車場で歌謡ショーを開き、露店で焼き肉や焼きそば、ソフトクリーム等を販売したりする、賑やかなお祭りである。社長の格闘技好きも手伝って、その年は歌手の代わりに我々バトラーツを目玉にしてくれることになった。

当日、夏の夕暮れに浮かび上がるリングを囲み、地元の人々、そしてバトラーツファンが続々と集まってきた。駐車場はもとより川の土手の上まであふれた観衆は、初物であることも手伝って、おそらく『やまと祭り』歴代最高であったのではないだろうか。

人数は集まったものの、一つだけ残念だったのが露店の売上げが伸びなかったこと。これは飯島社長も半分笑い話でよく話している。昨年までの歌謡ショーでは人々はゆったりとあちこち歩き回って露店も繁盛したけれど、バトラーツの闘いは激しすぎて皆リング上に目が釘付けになり、ほとんどの人が席を動かないという現象がおきたのであった。

「いやぁ、今までで一番人が集まって宣伝には最高だけど、なにしろ露店の売上が伸びなくてねぇ……。嬉しいというか参ったというか……（笑）」

飯島社長は今でも何かにつけて差し入れをくださったり、我々を応援してくれている。

夏には私の故郷である小田原の夏祭り『ちょうちん祭り』で試合をした。藤原組時代からいろいろとお世話になっている、『カメラの光輝堂』の中山社長が祭りの実行委員であったため、「小田原出身の石川雄規の団体を小田原に呼ぼう」という働きかけをしてくださり、実現に至ったのであった。

場所は私の出身校、新玉小学校の校庭。思いがけない展開に心が躍った。まさに二十数年振りに足を運んだ校庭には新しい体育館が建っており、少しだけ違った風景になっていた。団扇を片手に集まる人々は家族連れや子供たちの姿が目立ち、皆期待と好奇心に満ちた顔で試合開始のゴングを待っていた。

おそらくプロレスを生で観戦するのが初めての人々が期待に胸を膨らましている。祭りの客層はいつでもそうだ。そんな状況に我々探偵員が燃えないはずがない。我々にとっては毎日の出来事が、人によってはもしかしたら一生に一回の機会かもしれない。それを思うと自然に燃えてくる。我々のファイトをその人の記憶に一生鮮明に焼き付けたい、いつもそう思っているが、お祭りプロレスの時はより一層その気持ちが強くなるのだ。

大好評を得た企画であったけれど、夏祭りの企画担当が中山さんから他の人に替わってから、祭りの目玉は再びもとの演歌歌手の歌謡ショーに戻った。残念である。

秋にはバトラーツの地元である『越谷祭り』に参加した。我々の道場を仲介している不動産屋の『アーバンハウス』の木村社長は越谷北ロータリークラブの役員であり、毎年行われる越谷祭りで、みんながびっくりするような企画をしたいという思いから、我々に話を持ちかけてくださったのが始まりであった。ロータリーの皆様も我々のことをたいへん好意的に理解してくださり、越谷祭りで行われる初のプロレスイベント開催に向けてあっという間に企画をまとめてくれた。

翌年も、またその次の年も越谷北ロータリークラブの企画するバトラーツプロレスは大好評を得、集客も毎年増え、メインのミス越谷コンテストに迫る勢いとなった。それはもとより、バトラーツがプロレス界で出世し、世間の評価が上がることを我がことのように喜んでくれたのが木村社長とその仲間の人たちであった。それ故、祭りの後に盛り上がるロータリークラブの皆さんとの打ち上げ飲み会が毎年楽しみなのである。

長野県の山ノ内町で行われた農協主催の秋祭り、奥多摩と山梨県の県境にある丹波山村の村おこし。埼玉県八潮市祭り。鹿児島県の牧園町のイベント。祭り好きの男たちは、呼ばれればどこへでも飛んでゆく。そして一人でも多くの人の

記憶に残るため、今日もまた闘うのである。

地方興行伝説の不入り、されど格闘芸術

無料なら観に来る。だけど有料だったら来ない。それが旗揚げ当時、バトラーツの知名度の現実であった。地方の大都市ならばプロレスファンも大勢いるけど、小さい市町村となるとそうもいかない。旗揚げから6ヶ月、チケットを手売りしてくれる協力者がいない興行は恐ろしいほどの不入りであった。

塩尻、ひたちなか、芳賀町、沼南町、会津坂下、旭川、函館、牛久、北川辺町、川島町、安中、南熱海。いずれも200人前後の観衆である。安中、南熱海にいたっては100人に満たなかった。リングサイドには3方向の座席、それも2列、2列、5列。それでも空席が目立つのだ。

旗揚げ当初は選手も少ない。試合もたった4試合を組むために一人2試合をこなすのも毎度のことであった。それでも我々は渾身の力を込めて殴り合い、蹴り合い、投げ合い、そして極め合った。

『俺たちを無視した奴らを死ぬほど後悔させてやる。そして今日来てくれた人には全員満足して帰ってもらう。観に来て良かったと絶対に思ってもらおう』

我々はいつもそう思って闘った。そして、もちろんその気持ちは今も変わらない。観客が少なければ少ないほど燃える、バトラーツはそんな素敵な天の邪鬼集団なのだ。

真夏の連戦、苛酷な移動、閑散とした客席。それでも我々は自らの手でリングを組み立て、試合をし、解体をして次の会場へと向かった。世間が我々に気づくのが先か、我々の身体がぶっ壊れるのが先か、そんな明日なき闘いであった。

成田空港のそばに、多古町というところがある。とても小さく、アクセスも悪いこの土地の体育館。ただ単に使用料があまりに安いという理由だけで使ったのがきっかけであった。観衆200人弱。いつもの人数であったが、その盛り上がりときたらこちらがびっくりしてしまう程であった。

そしてその時のメインが石川雄規&アレクサンダー大塚 vs 池田大輔&小野武志。観客のテンションの高さと選手のテンションの高さの相乗効果により、ベストバウトが生まれた。そして池田と小野はその時以来〝チーム・タコ〟を名乗り、バトラーツは何故か年に二回も多古町で興行を打つようになったのである。聖地・多古町伝説の始まりであった。

茨城の石下町、最小観客記録を塗りかえる事件がおきた。当地の〝その筋の人々〟の妨害により、前売り券は一枚も売れず（地元のプレイガイド店に「売るな」と圧力をかけていたらしい。当日までそのことを教えてくれなかったプレイガイドの店もたいがいではあるが……）、街頭ポスターもすべて剥がされたのだ。宣伝活動ができない大会、頼りはバトラーツファンだけであった（一般の人は地元で試合があることすら知らない）。

当日、56人の観客が集まってくれた。事情を知る参戦中の折原選手が、

「うお〜、なんか燃えてきたぜ！」

そう言って最高のファイトを約束してくれた。他の全員も同じ気持ちだった。闘いはいつにも増して激しく、そして観客も熱かった。会場全体の心が一つになった大会であった。

結果から言えば、たとえ宣伝活動ができたとしても、きっと観客数はほとんど変わりはなかったと思う。だから、一生懸命ポスターを剥がしたり、プレイガイドを回って圧力をかけたりした奴らはつまり『誠に無駄な労力を費やした』ことになる。ご苦労さん、そしてザマアミロ、である。我々はそんな妨害にあっても痛くも痒くもない。何故ならいつも不入りだから。

あと何年闘えるのか、その後はどうなってしまうのか。このスタイルでの連戦ははっきり言って『無茶だ』と人は言う。もしかしたらその通りかもしれない。

何かを手に入れるには、必ずその代償がついてまわる。前者が大きければそのぶん後者も大きい。おそらくは『選手生命の削減』というリスクの代わり我々が手に入れようとしている物。それは一体何であるのか。謎・謎・謎である。バトラーツを語るには、まずその『謎』から解明していかねばなるまい。

人はこの世に命を宿した瞬間『宿命』を背負う。そしてその命を運ぶことが『運命』なのだ。この二つをしっかりと自覚しているかどうか、それによってその人の人生は大きく変わる。私をはじめとする8名の若手レスラーがそれを自覚したとき、バトラーツが生まれた。我々は動乱のプロレス界において『浪人侍』になることにした。どこの藩にも仕えない、どこの誰にも仕えない。『フリーダム』という風に吹かれて、夢を探しに旅に出たのだ。そしてもちろん、その『自由』の重さを誰よりも知っているのは我々自身。自由という言葉に浮かれて足元をすくわれるほど子供ではない。だからこそ我々は我々自身の手でカンパニーを設立したのだ。

バトラーツはメンバー全員がそれぞれ全く違う価値観のもとに成り立っている。会社運営として本来あってはならない、いやあり得ない形態かもしれない。しかしそれが人間の本来あるべき姿であるのだ。大人にとってのガラクタでも赤ん坊にとっては宝物。赤ん坊にとっては一億円のダイヤなんてただの石。これは大人同士にも言えることである。自分にとっての真実が他人にとってはとるにたらない事であったり、他人の真実が自分にとってどうってことない事だったりする。自分の真実も他人も、当人にとっては愛すべき宝であると想うこと。無理に肯定する必要も、まして否定する必要もない。強いていうなら〝調和〟なのだ。

バトラーツが究極のナルシスト集団であり、それぞれの主張が恐ろしいほどのエネルギーとなりリング上でぶつかり合うという事実。逆に会社として類い稀なる結束力で突き進んでいる事実。一見全く逆のベクトルが何故か調和して成り立っている。その核心には、きっと全員に共通する何かがあるはずである。それもとてつもなく巨大な〝何か〟が……。

バトラーツという〝浪人集団〟はいつか必ず時代を動かす。そんな予感がしてならない。何故ならバトラーツを想うとき、我々は魂が震え、生きる喜びを感じるからだ。

『闘い』という本来最も原始的な行為が美しく見えるとき、〝芸術〟という言葉に昇華する瞬間。人は何を想い何を感じるのか。喜・怒・哀・楽・夢・愛・誇り・努力……。バトラーツの闘いに何を見るのか？　千の文字を持っても表現しきれない。万の言葉を使っても語り尽くせない。自分だけの宝物をきっと発見するはずだ。何故なら、我々が我々自身の〝真実〟を探偵している真っ最中なのだから。

夢を信じて何が悪い。愛を信じて何が悪い。一生懸命のどこが格好悪い。たった8名の若者が、現代社会の〝愚かな風潮〟に挑戦状を叩きつけたのだ。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

『本の雑誌』6月号「このライターが好きだ!」アンケートで、「とことん意地が悪いが、実はその指摘は的確で、何と云ってもボク的にはズバリ言って面白すぎるから全くノー問題なのだ（こういう文体）」と答えてくれた結城さん（37歳）、貴方は正しい！　でも、ボクの意地は悪くない！　というわけで、遂にフミ・サイトー先生&片岡“幻”亮記者と横一線に並んだ（この2人も同誌で絶賛されていた）書評コーナー。

あの話、書かせていただきます3 プロレス取材裏話

（日本スポーツ出版社）

普段は裏話をほとんど表に出さないゴングゆえ、予想以上に楽しめる人気シリーズ第3弾。

元ファイト赤平記者のシーク看病話や、**「今はまだウエイティングだよ」「ホットなヤング抗争」**などの横文字センスがいちいち抜群なドクトル・ルチャ清水のウルティモ浅井話。

そしてレディゴン原記者得意のジャパン女子話や、小佐野元編集長による幻のヒクソン対安生戦話（**「ヒクソンとは戦いたいけど、佐山のリングは嫌です」**と安生が言い出したりで消滅とのこと）、それにもちろん竹内宏介先生も含めて、ビッグネームたちのネタはさすがのクオリティなのである。

ギャラ問題で団体側と揉めていたマグニフィセント・ミミが日本を嫌いにならないように**「僅かなお金をそっと手渡して別れ」**ると、**「帰国したミミからプレゼントとメッセージが送られてきた」**と語る原記者の見事な男っぷりの良さにはボクも本気でシビレたね、実際。

「原稿ボツも覚悟！」と意気込みつつ不快な文体&ギャグで折原話を書いた木幡一樹君も、これっぽっちも裏話ではない小橋話を書いた鈴木淳雄君も、少しは偉大なる先人たちを見習って欲しいものなのである。

もちろんG・K金沢編集長も、我々の期待を裏切らない見事すぎるまでの仕事っぷりであった。

あの1・4UFO襲撃事件を**「ハッキリ言って小川はバカである」**と結論付けたことにより、新日の永田選手に**「あそこまで断定したモノの書き方をすると、今後、金沢さんが第二のターザン山本になっちゃうんじゃないかって、そういうふうに心配する奴もいましたよ」**と言われたことや、インターネット上で**「金沢は最悪のバカだ！」「長州と金沢は死んだ方がいい」「業界から追放したい男……ワースト3。1ターザン山本2佐山聡3ゴング金沢」**とバッシングされたことを、まずは男らしくカミングアウト。

そして長州との**「正常な関係」**ぶりをアピールすべく**「長州と食事や酒の席を共にしたのは数えるほど」**とキッパリ言い放つと、その後は長州に無茶飲みさせられたエピソードを次々と披露していくのである！　……って、ボクが思うにこれが世間で誤解される原因じゃないのか？

まあ、そんなことはどうでもいい。なにしろ金沢編集長が**「書くことより喋りの方が得意で、プライベートでは自他共に認める不良オヤジである」**という異常に男っぷりのいい自己紹介をブチかましているだけで、個人的にはもう万事OK（おい・金沢）な一冊なのである。

修斗オフィシャルブック

（光進社）

平成の道場本『ドージョー010』（原タコヤキ君・作）をリリースした光進社の格闘技本第2弾。『010』の巻末では「NOW PLANNING。昭和プロレスの逆襲、始まる――」と記して昭和道場本のリリースを匂わせていたのだが、出たのは修斗本。ここの社長はパンクラス好きだと聞いていたのだが、それでも修斗なのである。

恐るべし、修斗。これを馬場チックに表現すると「プロレスを超えたものがシューティングなんだよ」ということなのだろうか？

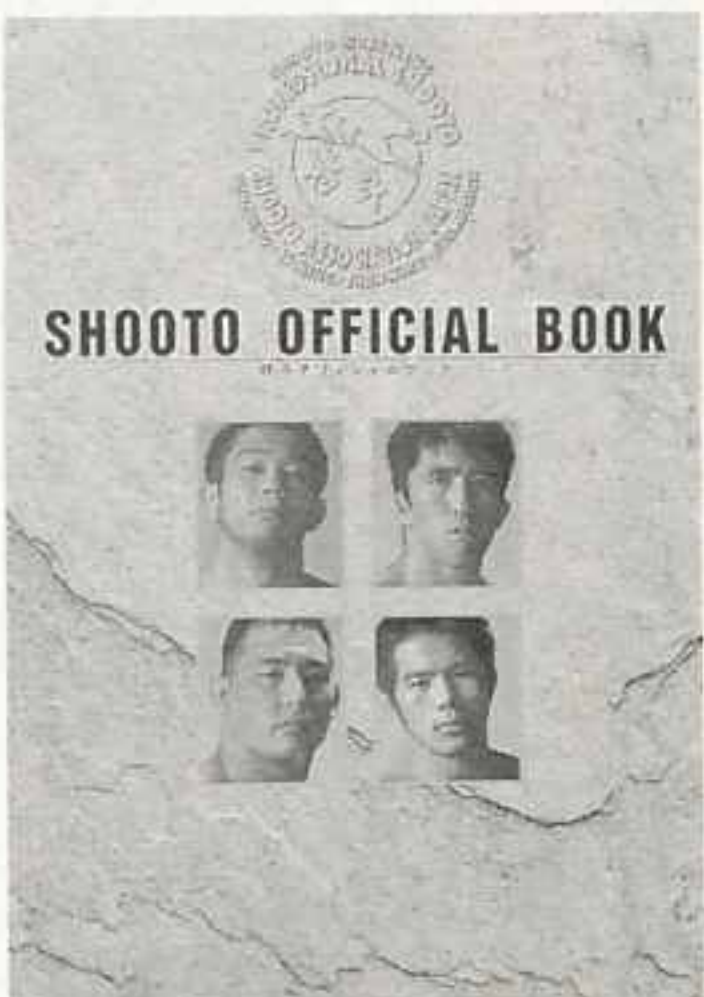
なお、アニメ好きシューターとして知られるレッド・スレイヤー・ガイもプロレス失望組のようで、**「入門するまでプロレスがどういうものか知らなかったから、アホやったんでしょうね。でも、あんまりプロレスにおったっていう話はしたくないんですよ。これから強くなって、トップになったときに『アイツはプロレスではへーへーやったのに、シューティングやったらトップやで』って言われたくないんで」**と剛軍団出身者らしく発言している。

まぁ、気持ちはわからないでもない。

中尾受太郎によると、彼に**「シューティングという格闘技があって、かなりハードな競技らしいってことを教えて」**あげたバイト先の**「インディー団体の食えないプロレスラー」**は、**「シューティングのオープントーナメントの1回戦で桜田（直樹）さんにヒールホールドで一本負け」**したというのだ！

さらにアマチュア時代の中尾がワンマッチで対戦した相手も**「元プロレスラー」**で、中尾は**「簡単に勝てました」**とまで断言する始末。

ちなみに軽く調べてみたところ、前者は**「小野和彦」**、後者は**「剛田武」**とのことである。何者だよ、これ？　ジャイアン？

よくわからないが、新格闘プロレス勢以外にもプロレスラーは水面下で修斗に負け続けていたのだろう。恐るべし、修斗！

しかし、ことインタビューに関してはまだプロレス側に勝てないのも事実である。

なにしろ、エンセン以外では、**「今の修斗は自分の理想の格闘技からはかけ離れてしまいましたね」「いるじゃないですか、打撃系の選手に寝技、すなわちルールで勝って、俺が最強だとか何とか言ってる奴が。俺に言わせれば、それで負けるような奴は犯罪ですよ！」「シューティングの連中もどこかの弱い外人から一本取って喜んでないで、他の格闘技に挑戦しろって言いたいですね」**などと全方位に向けて吠えまくる初代ライト級王者・田中健一が抜群なぐらいなのだから。

そういうわけで、今後のマッハに期待！

たたかう妊婦

（北斗晶／メディアワークス）

北斗のデビュー作『血塗れの戴冠』（ベヨトル工房）は時期的に彼女のピークと重なったためもあるだろうが、異常なまでの赤裸々さと壮絶さが入り交じった名著だった。

ところが、続く『北斗晶が嫌われる理由』（ベースボールマガジン社）は、時期も結婚後で悪しターザン&仁香夫人色は濃過ぎるし内容も薄いして、本当に駄目な本だったものだ。

そして、これは赤裸々さが違うベクトルに向いてしまった、男子が読むにはかなりヘヴィでしょうがない、女のための出産本なのである。

つまり、面倒臭がりの北斗が医者の言うことを無視したばかりに、出産でさんざん酷い目に遭うという非常に教訓的な内容なのだ。

なにしろ、いきなり**「女には『排卵日』っていうものがあるってことも知らず、『ヤレば出来る』と思っていた」**北斗が、いくらヤッても子供が出来ないため産婦人科に行き、**「下着を取って足を開いて横になると『診察しますね』って言っただけで急に指（だと思う）を入れられて痛ぇのなんの」**と医者に指を挿入されたことを告白するのだから、この描写だけでボクは思いっきり引いた。

確かに、**「プロレスラー同士は友達にはなれない。だって、プロレスは『闘い』なんだもん」**と言い切る部分など、全盛期を思わせるフレーズもないわけではない。それは事実だ。

しかし、母親学級でようやく友達のできた北斗は**「『妊娠するとおりものが多くなりますよね』っていうことを北斗晶は聞けないけど、佐々木久子は聞ける。『腹が出っぱっちゃって、自分じゃ毛が見えなくなるよねぇ』なんておしゃべりを佐々木久子は出来る」**などと言い出してしまうのである……。

この時点で、ボクはようやく気付いたのだ。これは北斗が書いた本なんかではなく佐々木久子、つまりチャコが書いた本だということに。

食事制限を無視した結果、やっぱり妊娠中毒症となり、**「陣痛を起こすために子宮に刺激を与える」**べく、アソコの**「中に手を全部突っ込まれてかき回され」**ることになるチャコ。

このときの痛みを、よりによって**「首の骨を折ったときに、頭蓋骨にドリルで六か所穴を空けてボルトを刺す手術をしたんだけど、その痛みよりも痛い」**と表現し、『血塗れの戴冠』で最も壮絶さを感じさせたデンジャラスクイーンらしい「頭蓋骨ドリル」のエピソードを全く無意味にしてしまうのも、チャコならではだろう。

そして、出産時。きばりすぎて**「ウンチ出ちゃうかもしれないよ〜」**と泣き言を口にするチャコと、なぜか**「ウンコぐらいどってことないよ。出しちゃえ、出しちゃえ」**と猪木譲りの「どうってことねえよ」節をこんなところで発揮して、旦那・佐々木健介はエールを送ったのだという。

夫婦で一緒に入浴しているらしい健さんは**「診察室にも一緒に入ってきて、私が足をおっぴろげて中を見られてる内診のときも、横に立って見ていた」**ほど好奇心に溢れた格闘探偵団のようで、もちろん出産時にもビデオ片手に最後まで撮影したそうなのである。ところでどうするんだよ、そのビデオ。客に見せる気か？　それとも子供に？

そんな旦那の前で、妊娠中毒症のため**「会陰切開をする間もなく」**チャコの**「膣もその奥も裂けてしまった」**そうだが、とにもかくにも無事出産。

やっぱり乳首マッサージも無視していたために**「助産婦さんに乳首をギュウギュウもまれた」**りもするんだが、おかげで母乳の出もよくなり、**「外出するときもけっこう平気でおっぱいポロン」**と授乳できるようになったそうである。

挙げ句の果てには、退院指導で**「いちばんの課題はセックスのことだった」**とまで発言。

さらば三禁！　こんにちはセックス！

最後にチャコは、こう締めるのであった。

「健之介の笑顔を見ていると、ママが大人になるにつれて増えていったイヤな気持ち、たとえば妬みとか人を嫌う気持ちとか、いっぺんに消えてしまいます。健之介はママの心の消しゴムです」

これらのネガティブな感情が彼女をデンジャラスクイーンに仕立て上げたのだとしたら、それが消えたのはレスラーとしては不幸でも人としてはとても幸福なことなのだろう、きっと。

おめでとう、チャコ！

そしてさようなら、北斗！

アントニオ猪木殺害計画（板坂剛／夏目書房）

旧『紙プロ』誌上ではフラメンコダンサー・ZORROとして活躍した板坂先生。彼が久々に放つ猪木本は、愛する猪木が醜く朽ち果てる前に自分の手で殺したいと考えた男が板坂先生に相談を持ちかけることから始まるという、あらすじを紹介するのもためらうほどに物騒な小説である。

なにしろ『プロレスファン』発行で知られていた「鹿砦社社長・松岡利康」なんて、リムジンを見せびらかす成金のSM狂で、ウンコも喰うし女子事務員とも社内で日夜SMプレイに励む完全な変態男として登場させられる始末。

そして猪木殺害に関わる**「二水会の鈴木邦明」**なる男は、モデルが誰だか小学生にだって特定できることも気にせず**「著作も、勝手な思い込みと妄想ばかりで事実に反することがほとんどだと関係各方面からつねに批判を浴びている」**し、**「超の字がつくマゾ」**だとまで表現してしまうのである。

そのため**「二水会の中では、内ゲバやら警察の拷問にも耐えられるように、いろいろなプレイを研究してた」**ら、**「あんまりきついSMやってたもんやから、とうとう死者まで出てしもうたらしい」**と、おそらく作家・見沢知廉先生が絡んだ内ゲバ殺人がモデルだと思われることまで平気でSM扱いする。相も変わらずの命知らずぶりには、こっちが怖くなるほどなのである。

とにかく全てがこの調子で、小説（フィクション）なのをいいことに**「講演中に暴漢に襲われて頭部を負傷したりという事件も、実は猪木自身が仕組んだヤラセだった」**だのと、板坂先生は力強く断言。

そして**「猪木がマゾヒストであるという説はジャイアント馬場の同性愛説と共に七〇年代以降の日本プロレス界の隠された定説であった。しかし、スカトロジイの愛好者であるとまではさすがに読めなかった」**だの、**「猪木さん、言ってたわ。タッグの試合で外人組につかまって二人がかりで反則攻撃されたりすると、自分でも気つかへんうちに股間が硬うなってしもてるて」**だのと、猪木までSM＆スカトロ趣味にしてしまうのだ。凄え！

プロディ刺殺事件も猪木側による殺人依頼だったと書くのはさすがにちょっと引いたが、最終的には「悪いのは馬場」という結論に至るオチに、猪木への歪んだ愛情を感じさせていただいた次第なのである。猪木チックに言うなら、「結局、あの人もアントニオ猪木のファンなんですよ！」というか。

必殺！　プロレス激本5（双葉社）

のっけから断言しておく（Show調）。

ハッキリ言って完敗である。

中田潤や田端到、バトルロイヤル風間といった読ませる原稿の書けるライターが姿を消したり、取材できる団体が順調に減ったりしたためか、膨大な量の座談会（ほぼ全ページに黒須田君もしくは須田君の顔写真入り！）で誌面を埋め尽くし、明らかに原稿が落ちたとしか思えない**「激本に登場した闘神たち」**なる有り合わせの写真だけで4ページ埋めたりしてみせる、巧みな編集技術。

そして、前号で『紙プロ』から挑戦状。次号で本誌と直接対決」と事実無根なことを勝手に騒ぎ出すなり、わざわざ表紙に**「しょうがないから、相手にしてあげます」**までと銘打って全23ページ＋αも割いた薄っぺらな『紙プロ』バッシングを強行する強気な姿勢も尋常じゃない。こんなデブ共に、ボクらが勝てるわけもないのである。

そのくせ**「宣戦布告」**しておきながら、**「この戦いはおそらく『激本』がお二人（山口＆吉田）に突っ込まれまくるものになるだろう」**なんて、いきなり弱気なことを言い出すのもキュートでいいぞ、編集長の黒須田君。やる前から負けることを考える馬鹿がいるかよ！　帰れ！

とにかく「誌面で直接対決」と勝手に煽り、勝手に自分らの雑誌で座談会をセッティングしてきた彼らの姿勢と、どうやら東大卒らしい須田君に敬意を表して、ウチでいちばん高学歴なカタブツ君とジャイ子（どちらも生意気に大卒）を派遣させていただいたのだが、この記事がまた凄いのだ。

当初、「とりあえずボクが負けて、豪さんたちの試合に繋げばいいんですよね」などとつまらないことを言っていたブチに、ボクはスーパーバイザー（この肩書、言うまでもなく激本のターザンへのオマージュである）らしく勝つための攻め所を伝授しつつ「潰せ」とアドバイスしておいた。

ところが黒須田君は戦術通りに闘うブチの言い分に対して、**「ハッキリ言って、しゃらくさいけど、これがなぜかそれなりの批評になっている（少なくとも吉田氏の書評よりは）」**と言い出すのだから、さすがと言うしかないだろう。もはやただのブサイクデブではない。とにかく完敗なのである。

この対談の原稿チェックも我々にさせないまま、自分らが批判された箇所を大幅にカットしたつまらない記事に仕立て上げた激本側は、「だったら、こっちがチェックしてない旨を記事に入れておくように」との主張も当たり前のように無視して、送本すらもしてこない。この無駄に喧嘩腰な姿勢もいいぞ、激本！

挙げ句の果てには黒須田君が執筆する**「拝啓吉田豪様。しょうがないから反論してあげましょう」**なるコーナーに、なんと4ページも割く始末なのである。なんで？

それによると、山口昇の批判に「反論は若干あるけど、ま、いいです」と答え、ボクの書評には「（反論は）まったくありません」と黒須田君が答えた理由は、なんと完敗宣言ではなく**「吉田豪の批判は反論するに値しない」「的を外しすぎ」**という意味だったのだそうである。そうだったのか！

黒須田君は**「吉田豪は原稿を読めない」**だの、**「文字になっていないルサンチマンやワープロを打つ手に込められた情念」**がたっぷりと込められたらしい**「行間を読むのが書評を記すモノの最低の資質であろう」**とプロ書評家のボクにわざわざ忠告してくれるわけなのだが、だったら頼むから行間の読める文章を書いてくれ。こっちは原稿すらも読めないんだから。……というボクの文章の行間も読みとってくれると幸いである。

そして、ボクが「完全に気が狂ったとしか思えない企画」と表現した、「プロレスは八百長だと30年以上も思い続けてきた」ライターに、ヒクソン戦は「どこまでマジだったのか」を追及させる高田インタビューを誌面でやった理由というのも、また抜群すぎだった。

何かと思えば、取材によってライターの中で変化が起きたため、**「高田は自力で新しいファンを一人獲得したわけである。それって、今のプロレスがもっともしなくちゃならないことのひとつだと思うけどな」**と言い張るのである。おめでとう、高田！

……って、たった一人のライターのためにやるなよ、そんな企画。しかも巻頭でページで。

それに、どうせやるなら継続させなきゃ意味はないのだから、前田でもマサでもいいからどんどん取材して、そいつに片っ端から「あの試合はマジなのか？」とか質問をぶつけさせるべきだとボクは思う。少なくとも「プロレスの進行性閉鎖」なるものをキミが本気で嘆くのであれば。

アマレス王・太田章を「敵か味方か!?」と無闇に煽って登場させて「（パンクラスは真剣勝負を）絶対にやってない」と言わせたのも、**「今のプロレス、本気でやってないように見えますよ」**という警告のためだったのだそうだが、その警告は読者ではなく団体側に向けられるものでしかない。

それを「あなたはプロレスファンをやめなければならなくなるかもしれない。ハッキリ言って太田氏の発言を通過するのは、茨の道を裸足で歩くのと同じである」などと「八百長だって言ってますよ、この人！　危ないですよ！」とばかりに煽ったのはキミだろう。それが不用意すぎるとボクは言ってるだけなのである。こんな姿勢だから太田章も激本に出なくなったわけなんだろうし。

下手な言い訳するぐらいなら、学生プロレス出身らしく「しょせんバンプ取ったことのない奴にプロレスはわからねえんだよ！　まあ、この俺様にはわかるけどな」ってぐらいに開き直った方がまだマシだ。

「プロレスファンよ、考えてくれ」だの**「吉田君はせめて考えてみていただけないもんですかね」**などと他者にいろいろ要求する前に、キミが一度じっくり何かを考えてみるべきなのだとボクは思う次第なのである。

なお、落武者・ターザンはボクの書評を見て**「クロスダさーん、吉田豪が単なるプロレスファンであることが、これでハッキリしたよぉ！」**と向こうに電話したそうだが、こっちには「豪ちゃん、ありがとう。豪ちゃんはプロレスをわかっているなあ。豪ちゃんの言ってることは全部正しい！『激本』がつまらないのは俺のせいじゃないんですよぉぉ！　あれは黒須田と須田がやってることだから」と電話してきたものだ。

つまり、この試合はターザンが勝手に仕掛けただけでしかないのだろう、きっと。

なぜなら執筆チーフ・須田君との対談で、ターザンは**「紙プロが須田さんと黒須田さんにアレルギーを起こすよねえ。それは須田さんも黒須田さんも業界の人間じゃないということなんだよ。業界の匂いとかしきたりとかわかってない人がプロレスの世界を語るのが許せないということなんですよ。あいつら、須田さんと黒須田さんはプロレスをわかってないと言うんだよな」**とまで発言しているのだから、ターザンのプロレス下手ぶりには呆れるばかりなのである。

言ってねえですよ、そんなこと。それを口にしたのは言うまでもなくターザン本人であり、ボクらは業界のしきたりなんか一切わかっちゃいねえんですから。わかってたら新日取材してるって。

そもそも、ボクは『週プロ』を毎週読むようになってまだ5年程度（買ってたのは半年ぐらい）であり、プロレス本を怒涛のように読み漁ったからどうでもいい知識は人並み以上にあるとはいえ、プロレス自体はそんなにわかっちゃいない。そんな若造に突っ込まれること自体が問題なのである。

さらに、ターザンは**「紙プロというのは、専門誌にしてみれば異端だったんだよ。ところがもう一個、異端が出てきた。だから、彼らにしてみれば、自分たちの存在を脅かす連中なんだよ」**とまで言い出すのだが、ぜひとも激本に脅かされてみたいものなのである。というか、頼むから脅かしてくれ。

結局、ターザンは両者を揉めさせることによって自分が脚光を浴びたいわけなのだろう。

自称・猪木のターザンにとっておそらく『紙プロ』は新日であり、『激本』はUFOなのだ。

自分を使わなくなった新日に対し、UFOを使って攻撃を仕掛ける。それは面白くていいんだが、そもそも紙プロ』を作ったのはターザンじゃない。そして何より、『激本』には小川役がいないのである。むしろ、いるのはサンボ浅子という完全USO状態なのだから、もはや話にならないだろう。

そう、ターザンは猪木ではなく大仁田なのだ。芸能活動への色気。芝居がかった大袈裟な言動。ワンパターンな発言。プロレスの下手さ（それ以外は面白い）。破廉恥さと下品さを好む芸風。著書のスカスカさ。U系団体との不仲ぶり（それでも馬場とは家族気分）。プロレス界での嫌われ具合（元部下含む）。すぐ開き直るしぶとさ。すべてがいちいち大仁田すぎて、何だか寒気すらしてくるほどである。

結論。ターザンが再び浮上するためには、天龍と電撃和解して長州の首でも狙うしかない。とすると、もう無理なのか。残念。

板坂剛
ITASAKA GO
アントニオ猪木殺害計画
A PROJECT to KILL ANTONIO INOKI
夏目書房

プロレス激本
5
What'sエンターテインメント!

お詫びと訂正：先月の本誌Ｎｏ．１８で初広告にして、とんでもないものをお見せしてしまい、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。本人も深く反省して歯を削ってますので、何卒お許し下さーい。なお、中村カタブツ君（３６歳）は、紙のプロレスの登録商標につき“チャンピオン”とは一切関係ありませんので、あしからずご了承くださーい。

突撃！隣のプロレスショップ

記念すべき第１回目は東京・水道橋の

★★★プロレス＆格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン Champion

ＪＲ水道橋駅西口を出て徒歩１分の場所にプロレス・ファン“第２の聖地”チャンピオンがある。店内は、まさに闘うコンビニエンス・ストア状態だ！！

▲エレベーターから出ると、既に闘いは始まっているのだ！

毎日がオールスター戦のレンタルビデオコーナー

Ｃｈａｍｐｉｏｎと言えば、圧倒的なレンタルビデオの品揃えだ。古くは日本プロレスから新日・全日のメジャー団体・Ｕ系・インディー・女子プロ・アメプロといったプロレス関係は当然ながら若者に大人気のＫ・１・シューティングにキックボクシング・極真・大道塾などのカラテ関係にバーリトゥード系のＵＦＣ・ＰＲＩＤＥシリーズなどの格闘技ビデオも完全網羅している。

しかも、日本全国宅配レンタルという掟破りのシステムで、地方のファンでも自宅にいながらレンタルが出来るのだ。

これは是非利用するしかないぞ。

▲１日に２〜３本借りても全部見るには何年かかるか？挑戦者求む！！

いつでも来い!!

東京店

〒101-0061
東京都千代田区三崎町３-８-１西田ビル６Ｆ
TEL03-3221-6237　FAX03-3221-6267
営業時間ＡＭ11：00〜ＰＭ22：20 年中無休

大阪店

〒556-0011
大阪市浪速区難波中３-３-２３桧ビル６Ｆ
TEL06-6645-5186　FAX06-6645-5187
営業時間ＡＭ11：00〜ＰＭ22：00 年中無休

オィ、オィ、オィ、オィ！プロレスファンよ、よく聞け！これがChampionの借り方じゃ！！

その１　店頭にてレンタル、店頭へのご返却じゃ
その２　店頭にてレンタル、宅配便でのご返却じゃ
その３　TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタルじゃ

※東日本地区にお住まいの方は東京店で、西日本地区の方は、大阪店をご利用ください。
※通信レンタル会員をご希望される方は、４００円切手を同封の上、住所・氏名・電話番号を必ず明記して当店までご郵送して下さい。
※通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、ＴＥＬ・ＦＡＸまたは、ハガキにてご注文下さい。代金は、代金引換になりますので、商品が届きましたら、代金＋送料を配送員にお支払いして下さい。
※在庫が無い場合があります。ＴＥＬで確認の上お申込み下さい。

グッズの種類もメチャメチャあるでぇー

ビデオの在庫もさることながら、グッズの品数も半端じゃないぞ。

某有名アーティストがライブで着ていた『大和魂』Ｔシャツを修斗・エンセン井上をまったく知らない女子高生までが買いに来るほど普及させた実績を持つ（？）Ｃｈａｍｐｉｏｎでは人気のＴシャツなどをいち早く大量入荷している。

また、ＷＷＦやＷＣＷなどの輸入物も当店独自の密輸ルート（？）で多数入荷し、ＷＷＦのスーパースター・ＳオースチンのＴシャツに関しては２０種類以上の品揃えだ。

近日、ＷＷＦ／ＷＣＷのニューＴシャツを大量入荷する予定でアメプロファンならずとも楽しみである。

もちろん、日本の各団体のオフィシャルグッズもあり、新日本プロレス・武藤敬司選手のＮＢＭや蝶野正洋選手のアリスト・トリストグッズにＵＦＯ Ｔシャツまでも取り扱っているので、品切れする前に是非とも買っておきたいところだ。

また、たまに掘り出し物もあるので、こまめにお店に来ることをオススメする。

迷わず買えよ、買えば分かるさ!!

▲Ｃｈａｍｐｉｏｎ売筋の人気Ｔシャツ。この他にもオリジナルＴシャツも好評発売中

▲左は修斗/ＰＲＩＤＥ、正面にＫ－１、右がWWF/WCWと既に格闘ボーダーレス状態

スパイ疑惑！営業妨害？本誌・坂井ノブを直撃！

前号にて掲載された『Ｃｈａｍｐｉｏｎ』の広告はピュアハートなお店のイメージをぶち壊したと当店を知る各団体及びファンから多くのブーイングが飛び、私は社長にまで怒られた。

しかもスタッフのｗＤｃまで利用するとは・・どうやらこの件には編集部・坂井ノブが自ら計画した営業妨害であることが判明。

本人に問い詰めたところ『俺は知らん。ノー問題、ノー問題！』とあくまでもしらをきり続けた。

そこで、少し手荒いが鉄拳制裁を加えたところ、あっさりと非を認めた。だが、今度は開き直って『だったら、お前やれんのか？』とその昔どこかで聞いたセリフを吐きすてた。そこですかさず『やりますよ！』とつい前髪を切りながら言い返してしまった為、今回は素人同然の私が入校するはめになった。

『この店に来ればどうなるものか』それは直接あなたの目で調べてみて。

（ノーマル店長）

史上最大のページ争奪戦激化!!

醜い争いも今回が最後!
勝者はどっちだ!?

姑息な最終兵器
松澤チョロ

ちょろの
ハガキ劇場

アイアムハガキング
坂井ノブ

ハガキ道場

ノブ僅差ながらも逆転! 新担当はどっちだ!!

チョロ「ノブ! ノーブッ!!　お前は『ハガキ劇場』と『ハガキ道場』どっちが好きなんじゃ!」
ノブ「わたくしは『ハガキ道場』が好きです!　サイキョ!!」
チョロ「それは本心か!? 心からそう思ってんのか? 思ってるのかって聞いとんじゃ!」
ノブ「思っております!　ノー問題!!」
チョロ「お前を『ハガキ道場』の代表として聞く。原稿を落としてまで読者ページをやりたいのか?」
ノブ「わたくしは読者ページをやりたいです。前号はゴメンネ、チュ、チュ、チュ♥」
チョロ「そうか、お前の言葉よ～く受け取った。『ハガキ道場』にお前みたいなバカがいるとは思わんかった。ホントに読者ページが好きなんじゃな。……あとは読者にまかせた。お前らは『ハガキ劇場』と『ハガキ道場』どっちが見たいんだ!?　応援したい方にハガキを送ってくるんじゃあ!
最終締切は……7月20日、午後5時!!(カメラ目線で)」

(平成11年6月18日現在)

ノブ	692枚
チョロ	639枚
抗議	59枚「お前ら、男なら真剣勝負で決着つけろ!」等

【ルール】今号の集計終了時に総得票数の多い方が新担当となる!!

ハガキ道場

読者が面白がって『ハガキ劇場』にハガキ出すからこういうことになるんだよ!!

（怒ったときのケロちゃん風に）

構成／坂井糖尿

「チョロは霊長類最低の男でしょう。その姑息なやり方はヒクソン以上だと思う。勝敗？ 読者ページは参加することに意義があるんです」はっ、ついつい弱気なことばかりを考えてしまう……もっと強気にならなければ！ もう一度言います、なぜあんな自分を売り込むタメだけの読者ページがウケているんですか？ 私にはわかりません。あんなもんはタダの売名行為です。底なし脱線ゲームです。女々しいオカマの掘りあいです。所詮、アリーナ・ラットちゃんです。単なるハイプです。気持ち悪い痴漢です。「じゃあじゃあ」言うのは焦ってる証拠ですね（©アントニオ文朱）。チョロは何を投げたんだ？ だいたい、チョロって何なの？ あいつホントはホモなんじゃないの？ あいつがくたばったら墓にクソぶっかけてやる!! というわけで、安心と信頼のハガキ道場は、今号も元気よく、善良なる読者様のハガキを紹介するぜ！

（大阪府　清原弘行　♂）5点
今号のベスト・オブ・スーパー・イラストその2。バカのロイヤル・ストレート・フラッシュ。それがハガキ道場です。

（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ　30歳　♂）5点
今号のベスト・オブ・スーパー・イラストその1。「ハガキ道場がなくなったら、オレの点数は？」ということでしたが、やる前から負けること考えるヤツがいるかよ!?　って負けそうなんだっけ？

（静岡県　田形友幸　25歳　♂）3点
次回は衣裳もドラゴンボール、さらに元気玉を作ってるところが見たい。ところで、誰か『魁！男塾』好きのプロレスラーor格闘家っていませんかね？ 絶対応援するのになあ…。

（熊本県　サヤマー　33歳　♂）5点
今号からペンネームになった熊本の巨匠。『PRIDE．6』のカードは、ファンの間でももっぱら「パンクラス潰した！」と評判ですね。ホントに桜庭の試合は安田拡了氏に解説してほしいです！

『ハガキ道場』に業務連絡でございます。（ブルドッグ　20歳　♂）に腕ひしぎをかけられるぐらいなら、クソぶっかけるか、声をかけてください。この前、古典の時間に「オマエら、幸せな結婚は出来ない！」と言われました。どなたか結婚してください。ノブさんはデブデブと言われてるそうですが、私も「4、5日何も食べなくても生きていけそう」と言われました。私、太った？ 太っているといろいろ得なことがあるそうなので、ガンバっていきまっしょい。ところで、武田いづみさん、連載開始おめでとうございます。いつも応援・オーエン・ハート（合掌）です。どんどん表舞台へ羽ばたいてください。『リン魂』「ここがヘンだよ大仁田厚」でのターザン山本さんのブーイングはキョンシーを思い出して懐かしくなりました。いやはや。あとジャイ子さんと乳しぼりがしたいです。最後に杉作J太郎さん、やっぱりエロだからラヴできません。

（千葉県　神子〝ちんこ姫〟佳代　16歳♀）　5点

★前号の「名前の後ろに『ちんこ』をつけるのが流行ってます」発言で、一躍『ハガキ道場』のSEXシンボルとなった神子佳代ちゃん。フォロアーが続々と続出中です。それにしても、「ジャイ子→乳」という連想ゲームは非常にシニカルですな。ジャイ子、カタくなってます。最後に佳代ちゃんに、というかこの『ハガキ道場』を読んでいる女子全員に業務連絡です。次号で『ハガキ道場美女世界一決定戦』を開催します。たったいま決めました。とにかく我こそはという人、エントリー待ってます。そのエントリーした美女の中から、ハガキ道場美女世界一を決めます。厳正なる審査でグランプリ&準グランプリに輝いた人には『ハガキ道場』オフィシャル・マスコットガールとして、物販を手伝ってもらったり、誌面に出てもらったりする予定。

神子佳代ちゃんの心意気やよし！ ジャイ子、妻に並び「愛する女」に任命します。おっちゃんがいっこ賢くしたるけどな、大人の男は「ちんぽ」やで（例＝キャプテン名倉ちんぽ、吉田豪ちんぽ）。

（福井県　イーガン西澤　♂）3点
『週プロ』でちゃぶ台&サスケマスク・イワシバージョンが当選したのを自慢してるのでしょうか？　本誌の読プレが当たったら、あぶ木に自慢してあげて。

（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ　30歳　♂）　5点

★『ハガキ道場』の投稿番長から、大人になるための性教育ハガキでした。ちなみに私は「ちんぽ」派ですので、まだまだヤングライオンです。

神子佳代さんへ……16歳のうら若き乙女が「ちんこ」なんて下品な言葉を使っちゃダメです。いますぐやめてください。「本当、お前バッカじゃないの」

（埼玉県　正義の味方　20歳　♂）　1点

★「出る杭は打たれる」じゃないですが、怖ろしいものですね。そもそも乙女かどうかなんて、誰が証明できるんでしょうか？ 『ハガキ道場』はバッカで結構！ 負けるな佳代ちゃん！

NO.18の花くまゆうさくさんの『リングの汁』の「長年、高見の見物を決め込み、オイシイところをもっていこうと狙っていた船木は、（桜庭に）だいぶ差をつけられてしまったか？」というフレーズ、死ぬほどシビれました。それがわからない格闘技関係者の何と多いことか。そこで花くまゆうさんにお願いです。RINGSはどうしたら客入りが復活するかをリングの汁で書いてください。お願いします。

（東京都　高島有治　29歳　♂）　4点

★確実に花くま先生に聞いときます。入ってる団体はごく一部だもんなあ。マスコミの力不足でしょうか。風が吹けば桶屋が儲かる方式で、客が増えれば『紙プロ』も売れる！ というわけで、まだまだ売れない『紙プロ』は「何でも手伝っちゃる！」という気前のいいボランティア・スタッフを募集します。「編集に少しでも関わりたい」「何でもいいから『紙プロ』の仕事がしたい」「プロレスに少しでも携わりたい」という意気込みのある人、ギャラは出ませんが他では得難い経験をしてみませんか？ 詳しい応募事項は欄外を参照！

以前、「垂れ幕は全女スタッフがヤラセで張っている」的に超勘違いしたレポートを載せたプロレス激本に抗議と訂正を求める手紙を送りましたが、いまだに無視されています。ムカつくのでテッテ的にイジメちゃってください。『紙プロ』は、いつも真っ先に読むのは『書評の星座』。作家の心の根っこを容赦なく引きずり出し、ズタズタに切り刻む豪さんの冷血さと料理の腕前にはいつも感心させられます。もっともそのお陰様をもちまして、ウチは危うく告訴されそうになったワケですが。

（神奈川県　悲しきFCシッド・タカバニ　♂）　5点

★いやいや、こちらこそお陰様です。ちなみに、今号で貴子選手をインタビューしたのは私。チョロはその昔、貴子選手の乳を揉んで、ブル中野にラリアットされた失礼な大馬鹿野郎です。今後は『ハガキ道場』一筋でお願いします。

ボク的には『噂の真相』の日明兄さんの記事はイメージダウンどころか、幻想を膨らませてくれただけでした（事実の真偽にかかわらず）。でも、日明兄さんがやると言うのなら、「女子便所説教事件」は断固支持！

（東京都　片岡健太郎　23歳　♂）　4点

★真偽の程はわかりませんが、結局日明兄さんの愛すべき非常識ぶりはリング内外を問わず、ファンが支持してきたもの。同様の意見は多数寄せられています。

『ハンマープライス』で1、2、3ダーマシンを買いましたが、サインがなかった。

（静岡県　青天目正浩　31歳　♂）　3点

★1、2、3ダーマシンって何？ 猪木さんのサインが入ってる車でしたっけ？ 詳細が知りたいので1、2、3ダーマシンの写真を送ってください。

お久しぶりです。座談会では見事なダメっぷりを発揮し、おまけに原稿を落とすなどという失態。そんなノブ様ですが応援しております。小林まこと先生だって原稿を落としたことあるし……。先日、近くにあるダムの展望台へ行ったのですが、そこの売店で『寒天こんにゃくめん』なるものを買いましたので送ります。54kカロリーとありますが、スープを飲まなければ限りなく0kカロリーに近いそうです。ダイエットの手助けになればと思いま

写真番長

たとえ二番煎じと言われても……

ハロー、アイラブユー。現在、絶賛取材拒否中の某パンクラスのパンク番長・美濃輪選手が手下2号ジミー・ザ・グレイト宅に来日したときに撮りました。「『紙プロ』ですか…○○が怒ってるんですよねぇ」とのことでした。
（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ　30歳　♂）　5点
★最近、急上昇中の美濃輪選手。本誌・吉田豪も他誌の取材で美濃輪選手に対面、「美濃輪はいい」と絶賛中です。

（神奈川県　坂井ノブ　22歳　♂）
★新コーナー誕生記念ということで、私の最近の記念写真も公開！　仮面貴族と写真を撮りました。いい人でした。ちなみに鶴田vsマスカラス（田コロのヤツ）のビデオに、マスカラスFCとして横断幕を掲げる本誌編集長が一瞬だけ写り込んでいるので探してみてください。

なぜか佐山のイラストが『道場』に集中!!　デブの道は佐山に通ず!?

（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ　30歳　♂）5点
今号のベスト・オブ・スーパー・イラストその3。なんと、キャプテンは10キロ減量に成功したことがあるらしい。

（熊本県　サクラバー　33歳　♂）3点
エンセンの「死亡OK！」発言も凄かったが、ここにももう1人の「シボウOK！」が……。

（熊本県　オガワー　33歳　♂）5点
今号のベスト・オブ・スーパー・イラストその4。この人のやったことには間違いがない。本物の天才だ！

（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ　30歳　♂）5点
「かっこわるいことがかっこいい」という言葉もありますが、「かっこわるいことは、本当にかっこわるい」と教えてくれたのが西田選手です。

（福島県　たく）4点
室町時代の水墨画タッチのヒクソン。ピリリと風刺が効いてる風流な1枚。

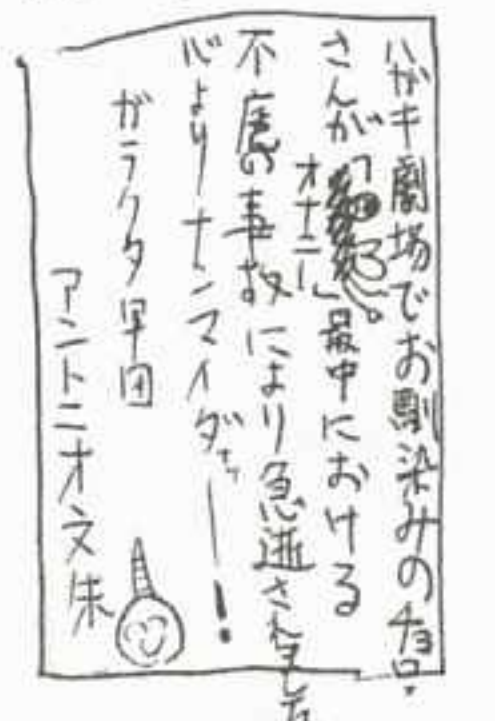
（岐阜県 今井麻実 23歳 ♀）5点
本誌ではあんまりなかった少女漫画タッチ（『週プロ』には多いけど）なノブ兄さん。『PRIDE．6』は見逃せない！　みんな、いい席取れよ！

（東京都 伊藤智彦 28歳 ♂）5点
本人が『ドラゴンボール』だって言ってるのに『ガンダム』ネタ。その心意気は好きです。しかし、ジェット・ストリーム・アタックならSASUKE組の方を評価します。奴等は本物だった

『ハガキ道場美女世界一決定戦』へのエントリーは、履歴書と顔写真＆全身写真を同封して、〒151－0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702「『ハガキ道場』美女でビルが建つ係」まで。応募資格は特になし。尚、応募した写真は『ハガキ道場』に誌面に載りますので、そこんとこヨロシク。誌面にのりたいヤツ集まれ!!

す。ノブ様のこと、今度から〝坂井糖尿〟って呼んでもいいですか？

（岐阜県　今井麻実　23歳　♀）5点
★『ハガキ道場美女世界一決定戦』には是非出て頂きたい今井麻実ちゃんから、細やかな心遣いのお中元が届きました。ありがとう！　「糖尿」でも「デブリン」でも「ボンコツ」でも好きなように呼んでくれ！　まったく全然これっぽっちもノー問題さ！

オイッ、オイッ、オイッ!!　オレはデブが嫌いじゃ!!　だからノブさんよ～、お前ももちろん嫌いなんじゃ!!　でもよ～、ノブさんよ～、BJWマニアのオレとしてはBJWに取材に来ていたアンタに敬意を表してアンタを支持する!!　焼き鳥はウマかったか？　もっとBJWのっけてくれよ!!　ノブさんよ、お前に読者ハガキコーナーは預けた。よく聞け!!　狙うはチョロのクビひとつ！　これは変わらんぞ！　ノブさん、勝てよ！

（破壊王の家や全日道場に程近い神奈川県　裏Kampfer　♂）4点
★「じゃあじゃあ」言ってる『ハガキ劇場』テイスト溢れるイヤ～な感じのハガキですが、私もBJW支持派です。というわけで、次回でBJWをガッチリ取り上げたいと思います。しかし、焼き鳥食ってるのもしっかり見られてるのが恥ずかしいなあ。でも、まあ、私の家も近いので、近所のよしみということでノー問題！

はじめましていつもⓟがお世話になっていることと思いマス。18号で有り難い賞を頂きましたが、ⓟと＆でくくったり、ボケチン「ども」でくくったりしないでください。読者の方々に申し訳ないのです……あの様なネタを。ダメですよねーⓟは。

（東京都　匿名希望　♀）
★おそらく、というか確実にⓟ（ぴのこ）の彼女＝「まっき」からのお手紙でした。相変わらず姑息な手段で勢力拡大を狙うⓟの『ハガキ劇場』だが、選手を巻き込んで安っぽく扱うその根性が気にくわない。こっちは金を払って参加したビンゴで当てたMDまでジャイ子担当の読プレにまわしてるのに、ねえ「まっき」？

やあ、ノブ。久しぶり～。何か『ハガキ劇場』に「ノブとは過去にいろいろあった武富さんじゃないですか」と書いてあったけど、何かあったの？　こちらとしては心当たりがないけど。まあ、そんなことはどうでもよくて、今月はバッタもん大和魂Tシャツ。別にくれって言ってるわけじゃなくて、その提供者の堀江将司さんにちょっと興味あります。この方はNO．13のP72とかP118に写っている人ですか？　もし、そうなら、昔UWFインターで高田が北尾をKOした日に泊めてもらった人のような気がします。当時、堀江さんが杉並区の浜

（埼玉県　アントニオ文朱　20歳　♂）1点
ということだそうです。明日、隣の席に花を飾っておこう……。

田山に住んでいて、私が北九州で大学生をやってたと思います。そうだったら、「元気ですかーっ!!（アントン調）」と言っておいてください。よろしく。PS．合い言葉「さっきはごめんね！　チュッ、チュッ……」ってノブにこんなことされても気持ち悪い。深田恭子ならノー問題だけど。

（茨城県　武富浩二　27歳　♂）1点
★久々、ハガキ道場にハガキをくれたと思ったら、単なる業務連絡ですか。人捜し、嫁募集、文通相手募集、同窓会の呼びかけ等、ハガキ道場は好きなように使ってください。**椎名基樹＆せきしろ、この2人はまさしく『紙プロ』の犬コンビだ。**

（神奈川県　瀬野勝彦　23歳　♂）3点
★とすると山田ゴメスさんが越中？

前号のイーゲンさんとエンセンさんの記事は面白かったです。エンセンさんは昔からファンだったし、イーゲンさんのことはまったく知らなかったし、しかも兄弟だなんて!!

（高知県　山中弘丈　16歳　♂）2点
★昔からエンセンのファンだったら、『VTJ'97』で乱入してきたイーゲンですが…まあ、いいや。イーゲンも切れると怖いというのが、もっぱらの評判です。まあ、普段怒らない人が切れると怖いという代表的なタイプかも。

リクエストはドリカムで『晴れたらいいね』!!

（埼玉県　アントニオ文朱　20歳　♂）1点
★リクエスト、どうもありがとう！　編集部では鼻歌が大流行！　山口日昇編集長がレベッカの『フレンズ』を歌えば、ジャイ子は『サントワマミー』越路吹雪バージョン。そして私は、エンセンの入場テーマ曲。そしてチョロは奇声をあげて暴れ回ってます。

ネット上ではオレがリングスを守りますから、マスでは『紙プロ』が守ってください。

（東京都　○　21歳　♂）3点
★ネット上でって、また随分と守備範囲を広げてますね。ガンバってください。

『紙プロ』劇団「日影」を勝手に、しかも独創的に独創的に設立しました。それでは第1回公演「マグロ～新人時代～」の配役を発表します。
マグロ＝加藤園子（ガイア）
必ず何らかの行動を起こすマグロ＝吉江豊（新日本）
再出発マグロ＝元川恵美（フリー）
中マグロ＝鶴田友美さん（アメリカ在住）
間グロ＝脇澤美穂（全女）
企画物マグロ＝ウェイン・シャムロック（WWF）
次回作は「タイガーウッズは特別な子」をお送りします。

（青森県　当然裏本　16歳　♂）1点
★マグロって中牧？　赤身が多そうってことなのかな？　とにもかくにも、劇団は作りたいですね。本誌編集長も3ヶ月に1回は「劇団作るぞ！」と言ってますから。そのときは力になってください。

夜の帝王　ノブ・カーマンのアフタヌーン道場

今号から登場する新道場「お前がしっかりしろ」というツッコミは、聞いたフリだけで、身の程知らずにもお悩みを解決してしまうコーナーです。

Q ノブさん、ボクの悩みを聞いてください。6月29日、私が尊敬させていただいているA・猪木氏のUFOが再び大阪にやってきます。とても行きたいのですが、4日後に期末テストという強敵がおり、中間テストで数学と英語の点が悪かった僕は絶対落とせません。どうしたらよいと思いますか？　教えてください。

（大阪府　清原弘行　♂）5点
A 高校の成績なんてものは、後でいくらでも改ざんできるのでノー問題。僕もそれで卒業できました。大事なのは先生との話し合いです。そんなことよりも、一生に一度しかない1999年6月のUFOを大事にしてください。あとはハガキ道場にハガキを出して心身ともに健康になることですね。

Q 最近、会社に行きたくありません。いつもより1駅前で降りて、途中で喫茶店に入ったりしながら、時間を掛けて歩きます。それでも会社のドアの前まで来ると、どうしても中に入れず、近所の喫茶店でまた時間を潰します。意を決して会社に行こうとするんですが、今度は建物に入れません。何だかとっても悲しくなって、近所の公園で20分ぐらい泣いていたら、なんだかお菓子が食べたくなってきて、おかしな気分になっちゃって…………「おかしい～」って思いました、アハハハ。私は何に対して悲しかったんでしょうか？

（東京都　ジャイ子　19歳　♀）3点
A 俗に言うキ○ガ○っていう症状かも知れませんね。ストレスがたまってるジャイ子さんみたいな人は、ハガキ道場にハガキを出してください。

「気にしてないけど、やっぱり「ロボコン0点」はツライよな」（by折原）な募集
毎号毎号、やってもやっても失敗ばかりのポンコツがお届けしている『ハガキ道場』。今号はミスなくできたかな？　というわけでいろんなものを募集します。似顔絵、ご意見、ご感想、オレにも言わせろという青年（別に中年でもいいけど）の主張、悩み相談、美女の写真、ハガキを使った一発芸などなどです。
〒151－0051渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
㈱ダブルクロス「ハガキ道場、ね？」
合言葉は「脂肪OK!!」

点数が間違ってる!?　ガリ勉野郎じゃあるまいし……
ハガキ道場と開き直った番付表

順位	名前	点数	
1位	キャプテン名倉	102点	Ⓟ
2位	中川雅博	94点	Ⓟ
3位	サヤマー	83点	Ⓟ
4位	またあうヒマで	71点	Ⓟ
5位	神子"ちんこ"佳代	30点	Ⓢ
5位	今井麻美	30点	Ⓢ
7位	武田いづみ	28点	Ⓢ
8位	ブルドッグ	27点	Ⓢ
9位	英加直純	25点	Ⓢ
10位	清原弘行	24点	Ⓢ

Pはプロフェッショナル・ファイター（40点以上）／Sはシニア・ファイター（20点以上）。掲載されたらプレゼントあげるカモン、ハガキ！

ボランティア・スタッフとして名乗りを上げたい人は、履歴書と400字詰原稿用紙2枚分の作文（テーマは「『紙プロ』と私」）を〒151－0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702「『紙プロ』ボランティアで蔵が建つ係」まで送ってください。ギャラは出ませんが、絶対他にはない貴重な体験が出来るのは保証付きです。

（大阪府　英加直純　28歳　♂）5点
圧倒的な画力で、投稿界の大巨人となっている英加さん。毎号1枚ずつという律儀さも忘れないナイスガイ。

（愛知県　キャプテン名倉ちんぽ　30歳　♂）3点
『バンバンビガロ』ではいまだにブロディTシャツは売れてるらしいです。かっこいいもんなぁ

（埼玉県　アントニオ文朱　20歳　♂）1点
渋すぎるチョイスだ。忠実なデフォルメに給心を感じます。じつは、デッサンとかメチャクチャ上手いんじゃないの？

紙のAMERICANプロレス

（埼玉県 アントニオ文朱 20歳 ♂）1点
スケール感ありまくりのアンドレ。それにしても、キミは載せられない危険なイラストが多すぎる！

（埼玉県　アントニオ文朱　20歳　♂）1点
初代リアル・アメリカン・ヒーローです。崩れちゃって、似てるのか、似てないのかさえもわかりません

（埼玉県　アントニオ文朱　20歳　♂）1点
アメプロもいけてるガラクタ番長。このラフなテイストにたまらなくアメリカンな匂いを感じてしまいます

ちょろの ハガキ劇場

(ゼーゼー) オイッ、オイッ、坂井ノブ！ お前は一体何がやりたいんじゃ！ それがオレには全く見えんのじゃ!! 死ぬ覚悟で闘う気があるのか？ どう見ても「ハガキ道場」は手抜きに見えるんよ。オレはどんなルールだって受けて立つつもりじゃ。プロレスだろうがバーリ・トゥードだろうが、アブダビルールでも高校生クイズでも構わんぜよ！ ノブさんよ、人間を見失うなよ。オレは、オレは「ハガキ劇場」の看板は絶っ対に、絶っ対に、渡さん!!

UNO王子

(愛知県／真下純子／29歳) 10点★宇野vsルミナを振り返り、SBの魅力を紹介？ そんなトンチの効いたことはヤスカクしかできないでチョンマゲ！ ……それとアントニオ文朱さんから真下さんの似顔絵も届いたんじゃ（3点）。

前号の感想とか……

■武田いづみ嬢のクールでとぼけた作風は相変わらず凄いね。天才だ。名付けて『紙の宇多田ヒカル』
（神奈川県／モン茂男／男／33歳）3点
★宇多田ヒカルに負け時とワールドワイドに活躍中のいづみちゃん。なんでも東南アジア系外人につきまとわれまくりの日々らしいんよ。んあー。

■チョロくん ハガキを載せてもらって、どうも有難うございました。でも余白埋めに描いたイラストが載るなんてびっくりです。そう、チョロ君がインタビューをとったダイアナの記事は印象深くて、頭の中に残っていたんで。スポーツ新聞で例の事件を知った時にも、すぐにピンときたと思いますよ。『紙プロ』の読者はね。チョロ君お手柄。『○×は目障りだから潰す』といった意図ビンビンの『PRIDE6』。DSEに好感度上昇中である。オナネタで好感度下落中のチョロもいつまでもイジッてないで早いとこノブを潰すべし!!
（福岡県／アジャライオン／女）4点
★アジャさんご忠告ありがとう。でもノブはほっといても勝手に潰れるよ。オレはこれからは自由にやらせてもらう。「ハガキ道場」、三下り半じゃ！ 坂井ノブの態度、人間を無視した態度、冗談にもほどがあるじゃろうが！

■どうも、こんにちわ。¥ショップ武富士です。「金原魚T」は、はずれて残念でしたが、未和さんなら仕方ないですね。5・22有明のリングスでは、目の前に桜庭ファミリーがいました。桜庭はニコニコしてるし、子供はかわいいし、奥さんは美人だし、理想の家族って感じでした。
（茨城県／武富浩二／男／27歳）4点
★オレも有明で初めてサクJrに会ったんじゃ！ ホント、サクJrは可愛い、未和さんは美しい、サクは会場をウロウロしてる、とまさに理想の家族なんじゃ！（なんでじゃ〜）ちなみに金原選手もTシャツ欲しがってました。

■久しぶりに『紙プロ』を買った。1年ぶりぐらいかな。98年4月4日、アントニオ猪木さまがリングを去った日、私も東京ドームに行ってたんじゃ〜 東京が恋しいんじゃ〜!! チョロファンより。応援して
（沖縄県／美和さん／女／25歳）5点
★なにっ、チョロファン2号!? 1号は誰なんじゃ？ マネージャーはいるのか!? お世辞でもほめられると調子にのるんじゃ。お前らがいる限り、オレは「ハガキ劇場」を絶っ対に潰さん!!

■青空アメプロ道場を見て、同じオナニストとして共感&勇気づけられた。明日を生きようと思った。
（神奈川県／笠井康弘／24歳）3点
★オレもノブもカタブツも（ジャイ子は実践派）、みぃんなオナニストなんじゃ。山口日昇も、35過ぎて1日3回もチャレンジするほどのスーパー・タフマン・オナニストなんじゃ（STO）。みんな悩んで大きくなったんじゃ！ 明日またイケるぞ!! 邪い邪い。

■面白かったのは「エンセン井上のマネージャー日記」。ペットの為に男と別れた経験もある私、愛犬を失ったエンセンの気持ちが良〜く分かった。修斗クン、エンセンの為にもいつまでも元気でいてくれ！
（川崎市／山内洋子／女／30歳）4点
★『プロレス激本』の読者ページにも載っていた山内さんじゃな。今度「ペットの為に男と別れた経験」を『ハガキ劇場』まで書いて送って欲しいんじゃ。オレも「マミー（ハムスター【メス】）と私のどっちが大事なの？」と言われて「ちっと考えさせて」と言ったっきりフラれた経験があるんじゃ。ちなみにその夜、淋しさのあまりマミーと一緒に寝た（強引に）。朝方、マミーと目が合った。オレは気まずかったので目をそらした。なんでかというと、マミーはすっかり空気が抜けて薄っぺらく潰れてしまっていたんじゃ。

■面白かったのは「フランク・シャムロック」。アンジェリーナの股間を心眼すればする程、妄想が膨らむぜ！ モー

前田CEO

■申し訳ありませんが「まっき」さんのハガキは良すぎます。ハイッ！ 全部アドカード（?）&かわいい切手&様々な感想、とほとんど、知らない人が見たら怪文書。日記になってるようだし、あたしと変わって日記書いてほしい。Pって?! ぴのこって意味?! さっそく改名しましょう、チョロさん!! お幸せに！
（千葉県／武田いづみ／18歳）5点
★前号を見たまっきは「私たちの3年間はネタだったの？」と言って号泣してしまったんじゃ。喜んでくれると思ったのに。まっきの心、ぴのこ知らず。

■「忙しい」とゆう理由だけで別れたワケじゃないし、載せる為のハガキじゃないし、ネタの為の仲良し期間じゃないし……。なのにⓅは、いつもいつもⓜが（仕様がない、仕方ない、この人は…）と脱力してあきらめるしかない事をして、更に更に開き直ってずるい。怒ったり、泣いたり、ぐずったりする方が、悪いのかな？？？と思わせるよーな、自分勝手とか判断のずれ方が、ずるい。「愛に飢えてるって何だそれ？」の一文で、あんまり余計なこと書いたりしないで下さいというアピールなのに。真面目な気持ちとか、大切なこととかをネタにしてしまっても、自分のことだけでどんなに恥をさらしても、それはⓅのしたい事だから、どんどんして下さいと思うけど、私は全うな小市民なのだから、あの様な意地の悪いことはしないで下さい。とても哀しい。打たれてないくせしてパンチドランカーだ、もうⓅは。
（東京都／まっき／女）10点
★前号はゴメンネ、チュ、チュ、チュ……ってオレはノブか？ 「ずるくて・意地悪くて・パンチドランカー」にプロレスも格闘技もない。「奇人と狂人のリアルファイト」。それが、それが、ハガキ劇場」（byアントニオ文朱）なんじゃ！

リーさん、いい仕事してますねぇ（笑）。♪今夜も愛をさがして……。
（北海道／藤原章男／男／26歳）4点
★ホントにアンジェリーナには、オレもモーリーも妄想どころかいろんなところも膨らみっぱなしだったんじゃ。皆さんも、アレクの様に格闘技雑誌からエロ雑誌まで幅広く活躍中のモーリーに適当にメッセージを書いてくれ。

■アクターフランク主演の洋ピンが見てぇ〜。相手はフランクの嫁さん。もち、ガチンコで。
（埼玉県／アントニオ文朱／男／20歳）3点
★ガチンコ、ガチンコ、ガチンコ、神子佳世ちんこってうるせぇなぁ。なんならオレが相手してやるよ。思いっきり、思いっきり膠着してやるんじゃ！

小路晃のキャッチフレーズを考える街角

(福岡県／アジャライオン／女) 4点★アジャさんにかかれは何もかもお見通しのようじゃな。確かにオレも不甲斐ないんじゃ！ だがな、ノブの不甲斐なさは筆舌に尽くせないんじゃ！ アジャさん、今度、福岡に行く時は、絶対に、絶対に、ごはんおごってくれー！

(青森県／青木雄大／23歳) 10点★ジャイ子の携帯には、何でかわからんけどレスラーからよく電話がかかって来るんじゃ。ジャイ子と仲良しのレスラーの皆さん、ジャイ子のどこがいいんじゃ！ 何が話すことあるの？ わけわからん（TK謹）

ハガキ劇場
紙プロRADICALは小生家族…だからジャイ子大好き

(青森県／青木雄大／男／23歳) 5点★今年はデブなノブ、ちっと前までは貫いてくれる女がいたんだって。関係ないけど、みんな「ティオ」の広末バッジは集めてるか？ 俺は、42本買ってようやく全12種類揃ったんじゃ。

カネ無し喧嘩する
復讐するは我にあり

(大阪府／英加直純／男／28歳) 10点★大将のイラストありがとよ。真鍋アナのオドオド感も良くててるんじゃ。中川画伯と英加画伯に続く本格派の画伯の登場を待つ！ と同時に、どおくまん直系のブッ壊れたイラストも「ハイ喜んで！」と受付中じゃ！

ダイエット・ブッチャー

(愛知県／タコ／男／31歳) 各4点・計8点★左のブッチャーになるのは何年後？ 時は来ない！ シンプル・イズ・ベスト・オブ・アキラっちゅうこっちゃ。みんなも名前の後に「CEO」をつけるように。例「タコヤキ君CEO」「カタブツ君CEO」「杉山清貴&オメガトライブCEO」

いづみちゃんはお前のこと相手にしてないらしいぞ。どうする？

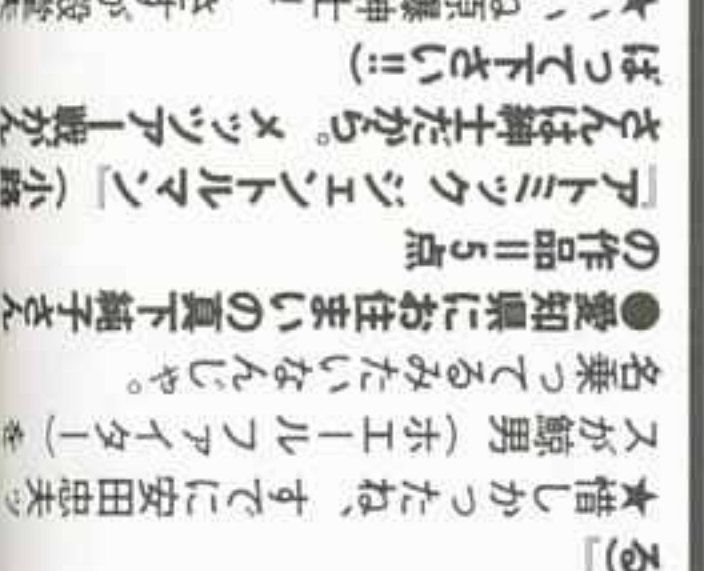
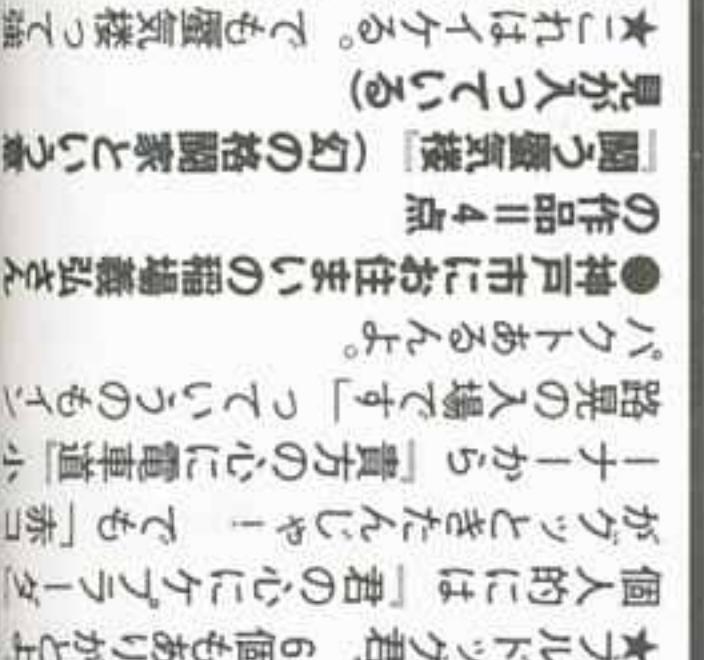
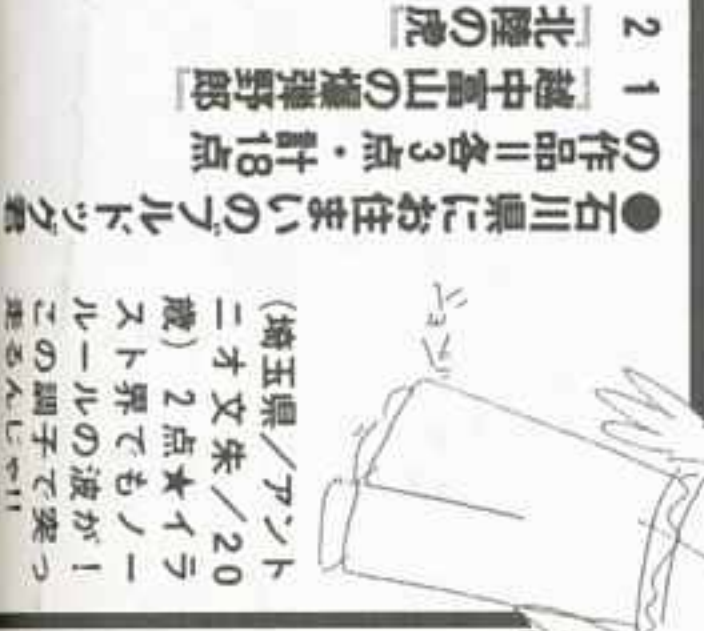
犬小屋から愛を込めて

「プロレスチックに宣戦布告したら、NO18で武田いづみちゃんにセメントを仕掛けられて目まいがします。CTとりに行こうかな。だけど俺はこのまま終わる人間じゃないから「武田いづみには『ハマのリングで勝負しろ』と伝えやがれ」
★「これからレポート5つと児童文学作品1つを今月中にやらなきゃいけなくていそがしいので犬にはかまってておれません。レポートでは主張したいことを明確にしないと減点ですから、彼も勝負について明確に主張したレポートでも提出して頂きたい。読まないかもしれないけど。ハガキ買う金あったらコンボに送れ!!」（by武田いづみちゃん=10点）「ブルドッグとしては特にどうしたということねぇんですが、NO18で坂井ノブとかぬかす輩がメガトン級のミステイクをブチかましてくれたために、ブルドッグの「ハガキ道場」断筆が決定的となった次第です。オレの中でノブは抹殺!! チョロ万歳!!」★ありがとよ。二枚舌には引き続き警戒するけどな。

(石川県／ブルドッグ／20歳) お勤めご苦労さん。敬意を表して20点あげるんじゃ！

●石川県にお住まいのブルドッグ君の作品=各3点・計18点
1『越中富山の爆弾野郎』
2『北陸の虎』
3『君の心にケブラーダ』
4『海鮮野郎一番星』
5『北陸特攻一番槍』
6『貴方の心に電車道』
★ブルドッグ君、6個もありがとよ。個人的には『君の心にケブラーダ』がグッときたんじゃ！ でも「赤コーナーから『貴方の心に電車道』小路晃の入場です」っていうのもインパクトあるんよ。
●神戸市にお住まいの稲場義弘さんの作品=4点
『闘う蜃気楼』（幻の格闘家という意見が入っている）
★これはイケる。でも蜃気楼って強いのか、どうなんじゃ？
●大阪府にお住まいの森敦史さんの作品=4点
『ファイティング ホエール（吠える）』
★惜しかったね、すでに安田忠夫ッスが鯨男（ホエールファイター）を名乗ってるみたいなんじゃ。
●愛知県にお住まいの真下純子さんの作品=5点
『アトミック ジェントルマン』（小路さんは紳士だから。メッツァー戦がんばって下さい!!）
★いいね原爆紳士！ さすが殿堂夫人じゃ。どーですか小路さん？

(埼玉県／アントニオ文朱／20歳) 2点★イラスト界でもノールールの波が！ この調子で突っ走るんじゃ!!

「菊田NEWTシャツ&サインプレ邪!」

この夏はキクターで決まり!

「菊田NEWTシャツ&サインプレ邪!」
「チョロさんが「キクター」をやめていないとわかったのでハガキ劇場にハガキを出すことにしました」「私はチョロ様と同じキクターでしたがハイブリットレスラーになっちゃったのでやめます」等々、読者からも何かと話題の菊田選手。パンクラス秒殺デビューを飾った試合後にサインをもらったんじゃ! それと菊田NEWTシャツ(S)を1名様にプレゼントじゃ!

何とでも言ってくれ! 俺は姑息だ!!

気が付いたら三つ目になっていました。私には女房も子供もいるのに…(涙)(川崎市／和田良覚／男／レフェリー)25点★その割にはやたらと増しそうだな。どうやら犯人は山本宜久選手みたいなんじゃ! コーション! 各自注意!!

投稿写真 デラックス

レスラー&格闘家との2ショット、合成写真、アイコラでもいい、「ハガキ劇場」まで送ってくれ! 恥ずかしい写真、ご機嫌な写真、どんな写真でもなんでもいいぞ! 説明文も忘れるんじゃないぞ! 楽しみなんじゃ! やってくれるかな!

車の色塗り替えたんで写真撮って下さいよ。(前田道場／金原弘光／格闘家&セコンドの達人)20点★今号の成瀬選手の取材時に撮りました。オレもビッグになってコルベットに乗れるようになってやるぜ! あっ、オレには免許がなかったんじゃ!

「ターザンはレッスルマニアで寝ていた」とありましたが、それは昔から変わりません。これは10年前のレッスルマニア5ツアーの写真ですが、ご覧の通りです。おそらく「試合は目でなく夢で観ろ」というターザンイズムなのでありましょう。(神奈川県／モンキー茂男／33歳)5点★貴重な写真ありがとよ。

便所から出てくるのを20分も待って撮ったS時代のジョージ兄さん。う〜ん長いぜ。しかも試合直前! ある意味Sはジョージ兄さんだろ。※身内を載せるんなら俺のを全部のせろ!! そうすれば俺の人生、お前にくれてやる!! 邪い邪い。(静岡県／横田賢ちん(ぼう))5点★人生までは背負いたくないので全部載せん! 邪い邪い。

中川画伯Tシャツプレゼントふたたび!!

「中川画伯の芸風の広さにはビックリ。中川さんで表紙作って下さい」「今度、中川画伯の全作品を一挙に載せていただけないでしょうか?」「Tシャツよろしくお願いします(微笑)」(by小路)など、各地で大反響の中川画伯。今回は「下のイラストは誰か?」を書いて「ハガキ劇場」まで送るんじゃ!(モデル／小路&宇野&JB?)(30点)

by 中川画伯

俺は『ハガキ道場』に勝った暁には、その勝利を「二瓶組長に捧げます(byカシン)」ってことでハガキ待ってるぜよ!

「ハガキ劇場」では、本誌へのご意見、ご感想、イラスト、街で見かけたプロレスラー&格闘家、投稿写真、あの人は今…、紙プロフレンドパーク等々、坂井ノブの腹まわりぐらいの幅の広さで胸一杯のハガキを大募集してるんじゃ! オイッ、オイッ、オイッ、お前は、坂井ノブの「ハガキ道場」と松澤チョロの「ハガキ劇場」どっちの読者ページが見たいんじゃ! しかし、我ながら「じゃあ、じゃあ」うるせえなあ。皆さん「じゃあ、じゃあ」言ってゴメンネ……チュ、チュ。　宛先は……

〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「ハガキ劇場」係まで。
合言葉は、「ひまわりと目玉焼」邪!!

ハガキ劇場オフィシャルランキング

順位	名前	得点
1位	ブルドッグ	87点
2位	中川雅博	85点
3位	真下絋子ちんこ	45点
3位	吉田豪	45点
5位	まっき	40点
6位	タコ(人気者の原タコヤキ君ではない)	31点
7位	武田いづみ	30点
8位	アジャライオン	29点
9位	塩本祐介	25点
9位	和田良覚	25点

紙プロ フレンドパ〜ク

アジャライオンさんから、「真下絋子さんとお友達になりたい」というハガキが届いたん邪! オイッ! オイッ! オイッ! 飲み仲間、文通、提文、メル友、お見合い、猫戦など、希望の相手がいたら、今すぐ「フレンドパーク」まで連絡してくれ!

●誰か一緒に合コンしましょう。星の王子様、白い稲妻さんも来るかも。写真は忘れずに(廣野副康／騒舟會／男／27歳)
●世界のプロレスのファンの方、誰か飲みに行ってくれませんか? あまりプロレス詳しくない方がいいです。性別は問いません。女性限定!(松澤チョロ／男／27歳)
●ナイトクラビングに一緒に行ってくれる男性募集(マジ)ロンドンナイト限定。(寺島千歳／大女／20歳)

Big Boss Man 塩本の部屋

(熊本県／塩本祐介／33歳)各5点・計15点★(左上)SWS(総合ワールドスポーツ)の構想は水面下で着々と進んでるらしいぞ。ノー問題じゃ!(右上)花くまさんじゃないけど、オレもオースチンにはなりたいんじゃ! でもオーエンできないよ。(右下)いや〜、こんなテレビ局があったらタマランぜよ! まさにドリームステージエンドーコーキチじゃなくてエンターテインメント! ノー問題じゃ!

シロウト勝ち抜き筆自慢！

PRIDE.0（ゼロ）

前号はレベルの高い三つ巴の激しい闘いとなりました。そんな中、勝利を収めたのが“ミセス・プライド”真下純子さん。真下さんは、武田いづみちゃんに次いで二人目となる『紙プロ』殿堂入りが決定したのです（P94参照）。月刊ペースでの非常にタイトなスケジュールの中、ハイクオリティな投稿を続けてくれた真下さん、本当におめでとうござい、ました。
え〜〜、話は変わり、『前号で面白くなかったのは『PRIDE.0』。そこに村田卓実氏がいなかったから……。わかる?』（神奈川県／名執栄城）といったハガキが多数寄せられました。わかってます。新生『PRIDE.0』は村田くんと共に発進いたします。「イーチ、ニーッ、サン、各自調査！」

前々号の最終結果！

ライセンスナンバー11 真下純子さん
『プロレステラピー』 119票

ライセンスナンバー15 村田卓実さん
『おがわえらい』 97票

ライセンスナンバー16 キャバクラ冥府魔道さん
『武道館観客概論』 92票

前号の結果発表！（6/17現在）

ライセンスナンバー11
真下純子さん
『難しい時期』
78票

ライセンスナンバー17
木村繁さん
『語ろう！　辻義就』
63票

ライセンスナンバー14
田上選手会長が三本じめさん
『ノールール全面支持』
60票

感　想

●「5戦勝ち抜きおめでとう」（神奈川県／名執栄城／25歳）●「プロレス雑誌らしからぬ文章がいい」（東京都／伊藤智彦／28歳）●「やはり真下純子さんでしょう」（東京都／荒木百合子／32歳）●「ルミナTシャツとテレタビーズポスターがマッチ!!　プロレスよゴールデンタイムへ戻れ」（大阪府／宮脇博司／30歳）●「ああ！　真下純子さん!!　私だって“胸かきむしられる思い”にさせられたプロレスラーは、あの人だけなんだよう（涙）」（福岡県／アジャライオン／16歳）●「母はエライって事よ」（岐阜県／今井麻実／23歳）●「俺もメインの時、鉄柱をボンヤリ見つめ、考え事をする自分にハッ！　とすることがよくあります」（静岡県／横田賢／31歳）●「すばらしいです。『学習のプラトー期』、その通りです。私もさいきん、まったく同じ気持ちです。プロレス見出して3年もたたずにこれとはちと早すぎて自分自身哀しいです。関係ないですが私は一生反抗期です。さっき決めました。」（千葉県／武田いづみ／18歳）●「とても小学校低学年のお子さんがいるようには見えない」（愛媛県／中山陽一／24歳）●「こんなステキな文章が書けたらいいなと思います」（香川県／後藤美保／31歳）

●「…まったくもって正論です…せいろん？　正露丸！　ウヒャヒャヒャ（桜庭風）冗談はさておき、俺もホントそう思いますね。ズバリ言って辻アナとヤ○カ○は俺の中で抹殺！」（愛知県／田原和幸／24歳）●「えぇこと言う！　あなたの言う通り！」（広島県／西島明弘／26歳）●「辻氏のダメッぷりを再確認！　ひゃほー!!」（京都府／杉本晃彦／21歳）●「うーん、今回は三者三様にメチャンコ共感しまくり文なんで悩みましたが、新日癌撲滅運動を支持する私としては木村繁君に一票」（神奈川県／モン茂男／33歳）●「辻アナウンサーが好き、というひとに会ったことがない」（愛知県／真下純子／29歳）●「僕は『保坂、アゲイン！』だね」（北海道／藤原章男／26歳）●「内容に共感。ただあまりに表現が吉田豪チック」（青森県／青木雄大／23歳）●「真下さんごめん、今回はしゃーないな」（愛知県／タコ／31歳）●「純子ママに『いっちゃって』欲しかったが木村繁。笑ったから」（愛知県／キャプテン名倉／30歳）

●「『格闘コロシアム』のヤ○カ○解説にイカリ狂っていたが、全てノールールとして包み込む田上選手会長さんが三本締めサンの懐の深さにビックリ!　なるほどねー」（神奈川県／山内洋子／30歳）●「結局自分も彼もパンクラスが好き?」（東京都／高島有治／29歳）●「微妙すぎるギャグが素敵です」（千葉県／神子佳代／16歳）●「笑うしかない」（奈良県／○／21歳）●「かわいいから」（宮城県／千葉裕美／14歳）●「同感同感同感三昧!」（福井県／藤井大二郎／27歳）●「5歳の坊やの屁理屈としては最高級だって!（越中調）」（鹿児島県／相島竜介／22歳）●「パンクラスっていうのは実は凄く面白いのかも知れない、かな?」（和歌山県／田崎みずき／20歳）●「でも村田君再登場希望」（北海道／大森伸也／24歳）●「『鈴木みのる写真集』にそんな深い意味があるなんてさっぱりわかりませんでした。私は勉強不足でした」（熊本県／本庄綾花／17歳）●「この文章を読んだときに、『多分、編集部の人が書いているんだろうなぁ』と思ったのと、格通のページ割りにブチ切れしながらも、けっこう買っている自分に一票入れておいた」（大阪府／森淳史／19歳）

2連発！

ライセンスナンバー15

『感想』

村田卓実（18歳）

テレビで宇野vsルミナ決定の文字を見た時はけっこう興奮しました。「ちょっと早すぎるかも……」などと思いもしましたが試合一週間前にいっしょに行く友達と話すとどっちが勝つかで語らいました。

5月29日になりバスと電車で横浜文化体育館に行きました。試合が始まる10分前程に着いたが舘前には人が多くTシャツ求める人の群れもありました（『紙プロ』の太った人と目が合っちまった）。

am／pmに行き、入館すると中にも人が多く試合開始時刻なのに始まる気すらなくRJWの阿部らの選手に少し失礼だと思った。アーメット・ラジジはちょっと良かった。特にテレフォンパンチ（シューティング入門で見た佐山流ダメなパンチの典型）だったのが良かった。

外人同士はつまんなかった。友達と「つまんねー」と言いあった。

それからいきなり入場式が始まった。

前三試合やった選手はちょっと空しいとカレーせんべいを食べながら思った。あとチャンピオンがたくさんいた。

試合は中尾はちょっと今日はだるいのかな？　と思った。ちょっと金返してほしいと思う。郷野は割と良かったと思うが見ている自分はだれていた。

ニュートンはとても良かった。寝技は極めるべくして極めていてTeam　Roninのシャツを買いたくなった。川口はものすごく悔しそうだった（雑誌を見たら「ヒールは決めていたのに……」と言っていた）。昔は強かったと聞くが強い川口を見たい。川口がんばれ（菊田も）。

また休み時間が入った時友達は目当ての郷野が勝ってなくて一本で終わった試合がたった一つなのもあってかなり沈んでいた。

マッハは動きはとても良い感じだったがやっぱり一本決めてほしいという思いはあった。

宇野vsルミナ、宇野はスリーパーをしのぎる姿が良すぎた。ルミナは疲れた様子でヒザに手をつく姿は良かった。とても格闘家らしい感じがした。何度か宇野の氏をさけんだ。打撃でフラついた所をスリーパーというのも良かった。マイクアピールの時もどうあげの時もとても幸せそうだった。

帰り、桜木町まで友達と「宇野は良かった」「ルミナは今どんな気持ちか」「郷野はどうか」「中尾はいかがなものか」などを話した。友達は「メインだけ観たとしても満足」と言っていた。悪いが自分も少しそう思った。渋谷の味●しで食事したが寿司が5種程しか回ってこず、しかも不味かった。

ここで「だが宇野vsルミナでもう胸いっぱい」的な締め方しか思いつかない自分に文才の無さを感じる。でも観終わってから知りたいのは、修斗の興行として当たりか？　セミ前休みに皆どんな気持ちだったか？　です。

『嫌な言葉』

最近の若者は（自分もまだくそがきだが）、本気になっている自分を見せるのがはずかしいようです。

とても嫌いな言葉があります。

友達同士が話をしていて

「ギャグだもん」

という言葉を聞いてすごく嫌でした。

それは真剣な事をしていた「自分を否定」する意味で出た言葉でした。何もない人間が本気になった自分を見られるのがはずかしいという意味の無い「照れ」で自分を（自分の出来る事）否定しているのがものすごく嫌でした。

そんな物は見たくないです。

だから「ギャグじゃない試合」が観たい。

その人が何かを持っていていてもいなくても。と思います。

編集員様へ　真下さんとかなり差がついてて「かませ犬（もうプロレス用語だと思う。あとは闘犬の人とかしか使っていない）」か？と思いました。すぐ朝が来るのであまり書けませんでした。しかも感想文。申し訳ないです。これをのせるのは無理かと思いますが一応送らせていただきます。次回までなんとかしたいができるかどうかも分かる事ございません。

ps花くまゆうさく様　ひっそりと御返事書いていただき、ありがとうございました。先号リングの汁RADICAL終盤すばらしかったです。ものすごい夢みすぎです。あと菊田はやはりもう視界の外ですか？

あと私の姉が大便をする際に私の『野良人』を持って便所に入り15分程して、便所から飛び出すや否や「花くまさんってこんなに気持ち悪いと思わなかった。そしてこの本を持ってるアンタも気持ち悪い」と言い放ちました。御気を悪くされたらごめんなさい。どう思いますか？　これからもがんばってください。

「写真がないのでこれで」と送られてきたイラスト。モノ凄くいいデキなんですが、一応、昔の写真も載せておきます。

ライセンスナンバー18

『僕と馬場さん』

森下潤一（26歳）

中島みゆきさんが、その昔、唄っていました。

「♪たたかう君の唄をたたかわない奴らが見て笑うだろう、ファイト」

これは隠れプロレスファンである（？）彼女が馬場さんに捧げた応援歌だったのでは？　と僕は推測しています。

思えば80年代の馬場さんは嘲笑の的でした。プロレス最強説を唱える猪木さんや前田さんの足を引っ張りまくっていました。

僕の姉など馬場さんの試合を観るたび、「やめたらええんや。年寄りなんやし。痛々しいわ。もうやめて」と、辺見マリさんのヒット曲よろしく、「やめて」を連発していました。

ちなみに姉は、ダンプ松本さんの大ファンでした。

「あんなチンタラしたプロレスやなく、もっと迫力のある、ごっついヤツ見せたろ！　ついてこい！」と、僕は一度だけ姉に連れられ、全女の観戦に行きました。

まだまだ観客席のほとんどが女の人で埋め尽くされている時代で、会場内にいる男といえば、僕とレフリーくらいなモンでした。

当時の全女はダンプさん率いる極悪同盟とクラッシュギャルズとの血を洗う激しい抗争で、かなり盛り上がっていました。

ド派手な殴り合い、しばきあい、罵り合いに会場は興奮のるつぼです。

「どうや？　これがプロレスというものや。1回チョップを出す度、5秒休むようなのはプロレスやないんや！」

試合後、姉はいかにも得意げにこの台詞を吐きました。しかも極悪同盟に影響されてか目つきを強烈に鋭くさせてです。

余りの悪党面に、僕はつい「お前は大日本プロレスの本間朋晃か！」と姉に突っ込んでしまいました（あ、時代が合わないか）。

それはさておき、この日の全女のファイトを見て、馬場さんへの思いは弱まるどころか逆にますます強まりました。というのも、僕自身、昔から非常に地味な性格で、派手なモノがとてつもなく苦手だったからです。

過剰にパフォーマンスはせず、マイクでお客さんを煽ることもけしてせず、リング上で起こったことがすべてだという馬場さんのスタイルに親近感が持てたのは、こういう理由からです。

90年代の馬場さんといえば、解説か、クイズ番組のパネラーでしかテレビでは見れなくなりました。

だけど、そこにいるだけで場を和ます馬場さんの姿に、僕はさらに魅了されました。

先日、東京ドームで馬場さんの引退試合が行われました。僕はテレビで観戦しました。

馬場さんのリングシューズがマットの真ん中に置かれ、テンカウントが始まりました。

僕は目をつむり、選手と同様に合掌しました。馬場さんの思い出を頭の中で振り返りました。自然と涙もあふれてきました。

ところが、そんな最中にとんでもない邪魔が入りました。姉です。去年、ダンナと離婚した、出戻りの姉がテレビの前に来てしまったのです。そして彼女はこんなことをのたまったのです。

「なんや。最後は靴のアップかいな。光ゲンジと一緒やがな」

さすがの僕もキレました。

「ひ、ひ、光ゲンジだと〜！」と、僕は姉に飛びかかり、全国三千万プロレスファンの怒りを込めた、かわづがけをくらわしてやりました。

完璧でした。キレといい、角度といい、文句なしでした。が、残念ながら、カウント2・9でかわされてしまいました。

「よくもやりやがったな！　このヤローー！」

黄金期の猪木さんのように吠えた姉は、まるで離婚のウップンをも晴らすかのように、僕に反撃のチョップをくらわしてきました。

それからどうなったかは、記憶がないのでよくわからないのですが、とにかく目を覚ますと「ルックルック」が始まっていました。

P・S　本間スマン

ライセンスナンバー17

格闘ペットントン 〜あるいは「謎のアストロノーツ」

木村繁（25歳）

押ッ忍、おらGOKU！（引退）

やぁみんな、「ペットントン」て知ってるかい？　「ロボット8ちゃん」や「バッテンロボ丸」と同じシリーズでやっていた子供向けTV番組なんだけど。何、知らない？　そうか。実は俺もよく知らないんだ。

それじゃ話になんねぇよ！

なんて言わないでね。でもね、一つだけ覚えてるのは「ペットントン」の主題歌の中に「パ〜パ〜や〜マ〜に〜は〜」（うろ覚え）ってとこがあるんだけど、ここの部分がザ・コブラのテーマ曲のメロディと一致するんだよね。だからどうしたって感じだけど、つまりは、子供達のアイドルという点でもコブラはペットントンと相通づるわけだよ。

ということは、コブラは闘うペットントン、格闘ペットントンなワケですよォォ（炎上）。

という訳で、ザ・コブラについて書きたいと思います。

俺はコブラが大好きだった。初代タイガーの赤パンタロン&寺西にマスク脱がされ時代しか知らない俺は、その後釜として大仰にデビューを飾ったコブラには否が応にも注目させられた。

マスカラスばりの肉体美、一世風靡セピアを彷彿とさせる素肌にジャケットというナイスなファッションセンス（昭和五十九年当時）、日本人離れした跳躍力、ヒロ斉藤・ドン荒川といった地味にも程があるライバル達、そして額に輝く意味不明な「忍」の文字……。

プロレス小僧黎明期の俺にとっちゃこれだけの素材を見せつけられたら、それだけでお腹一杯になること請け合いでしょ？

攻撃と無縁なところでの見せ場も多かった。コーナーからのバク宙、ショルダースルーに前宙、足を取られればバク宙、バク宙バク宙またバク宙、木村健悟はパクチュー、といった具合に。もはやバク宙がなけりゃあコブラじゃねぇんです！　とばかりのしつこいまでの跳びっぷり。

技だってないわけじゃない。ジャーマンだってとりあえずやってたし、フライングレッグラリアートの打点の高さも見事。そして武輝の魂を所持するモッチーよりも十年早かった三角式飛び蹴り・必殺「スカルドンサンダー」（うろ覚え）！　締めは超難技・スペースフライングタイガードロップ（失速つき）ときたもんだ。どーですかお客さん！

マシン軍団入りの噂にハラハラし、全日出身のサムライ越中に敗れ地団駄を踏み（ラリアートは無し）、高田にボコボコにされ悔し涙を流した俺にとっちゃ、なぜにコブラの人気が爆発しなかったのか不思議でならない。

試合がしょっぱい？　何を言うか貴様！　仮にもチャンピオンだぞ。NWA王者ということを意識した上で両リン防衛を連発してたんだ！　ただ単にアップアップだっただけなのかも知れんが。

確かにリキみ過ぎによる技のミスは目立った。その跳躍力ゆえに相手の頭の上をドロップキックで飛んでったり、目測を誤ってブランチャを自爆したり、ロープに足踏み外したり、あと別にミスした訳ではないがストンピングが異常にしつこかったり、何を思ったか唐突にラフに転じたり……。

でも、ちょっと待て。思えばそんなもの、相手の身長が3mあってロープの高さが30cmだったら済むこと。そりゃあパチンコにでも負ければストンピングの一つもしたくなるし、イスを振り上げたくなるのも当然というもの。

ロープや相手の所為であってコブラは悪くない！　コブラなら何をやっても許される！

試合がいくらしょっぱかろうが構わん。だいたいドン荒川に圧勝したところでファン喜ぶか？　荒川の大振りアッパーにもんどり打つのがコブラの真骨頂なんだよ！　もっと言えばマスク被ったアホファン共の御輿に乗ってバク宙かまして入場するだけで俺は満足さ。

そう、あの名曲「ペットントン……じゃなくてエイジアの「ザ・ヒート・ゴースオン」（うろ覚え）の旋律と共に……。

大好きと言いつつ、うろ覚えばっかりで申し訳ないが、ズバリ言って想い出とは美化されてゆくもの。細かいことは忘れて、おぼろげな残像だけが記憶に留まるもんです。だからこそ俺はこれからもコブラ馬鹿でいたい。「コブラジム」の響きだけで思わず北海道へ行こうとした様に。

俺のヒーローはコブラ唯一人！

コブラ最高！　コブラに乾杯！

でも烈風隊は嫌い。

オメエら、ドンドン投稿して来いっつーの！（byマグナム小菜野（ちっさいの））

にん！（byホーラス・ザ・サイコパス）

今回の男だらけの『PRIDE.0』はどうだった？　というわけで、今号参戦の三選手の中から一番良かったと思う作品と簡単な理由を書いて投票してください（応募方法はP143参照）。一番得票数を集めた選手は有無を言わさず次号も参戦してもらいます。『PRIDE.0』では賢明な『紙プロ』読者のみなさんからの投稿を首を長くしてお待ちしています。内容はアナタにおまかせ！　なお掲載者全員に泣く子も黙る『紙プロ』特製福袋をお送りします。

参戦希望選手は、400字詰原稿用紙に一言〜5枚程度、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（イラスト、顔面コピーでも可）を同封の上、

〒151−0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702
（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部
「そんなのわたし損じゃん！」係まで。

ただし、ページの都合上、文章を一部変更、割愛することもありますので各自注意！

●締切は7／15です（スペル・チョロ）

燃えろ!!

紙のプロレスRADICAL のバックナンバー 在庫一掃キャンペーン

ビールはサッポロ!! 雑誌は『紙プロ』!! デスマッチは大日本だ!! 覚えとけ、バカヤロウ!!

モデル／5月30日新川崎でデスマッチ王となった山川竜司選手と、惜しくも敗れたシャドウWX選手（ともに大日本プロレス）

BACK NUMBER LIST

No.8
■特集「さらば新日本プロレス」
【ワイド座談会】初登場ザ・グレート・【サスケにロングインタビュー】セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

No.11
■特集「狂気とは何か？」
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

No.12
■特集「色気とは何か？」
村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所で説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場

No.13
■特集「道場破りとは何か？」
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画　山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」S・デルフィン登場

No.14
■特集「神秘とは何か？」
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

No.15
■特集「インディペンデントの逆襲」
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人　高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

No.16
■特集「新日本凸凹大学校」
『紙プロ』的昭和新日総力検証　マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs田利徹対談

No.17
■特集「実況パワフル北朝鮮」
猪木×永島のナマハゲ対談（©大仁田）、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!?ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」

No.18
■特集「高田延彦さんへ愛をこめて」
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

No.19
■特集「さようなら紙のプロレス」
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会／ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

No.20
■特集「劇的格闘技」
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念　ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

No.21
■特集「幻的格闘技」
古武道を通じてプロレスを考えよう!前田日明も登場!／【スクープ】寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場

No.22
■特集「この人が喝っ!!」
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号

■猪木とは何か？
スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃!　どうってことねえよ節が炸裂!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場!　新間のPKO発言を誌上再録

■極真とは何か？
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリォ、黒澤浩樹、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

■パンクラス公式読本 ～矛～
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!

■パンクラス公式読本 ～盾～
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／偶然か、必然か?　G馬場がパンクラスを語る

■紙の前田日明 ～インタビューという名のエネルギー史～
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューをディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

炎のキャンペーンとは？

みんな燃えてるか～い?　仕事に疲れて元気のない社会人のみなさんも、恋人にフラれて落ち込んでる学生さんも、借金苦でクビを吊ろうとかバカなこと考えてるタコ社長のみなさんも、『紙プロ』読んで元気ハツラツ!というわけで、毎度おなじみバックナンバーの広告です。今回は版型が小さかった頃の旧『紙プロ』バックナンバーをお買いあげの方に、スペシャル特典としてワンダフルな粗品をプレゼントいたします。いまがチャンス!

●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か?　キラー編』は完売しました。5号の写真は載ってませんが絶賛発売中!!　●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円となります。●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留】
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替】
00130-3-769154　（株）ダブルクロス

※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。

拳の骨は折れても、心の牙は誰にも折れない!!
『PRIDE.6』高田vsケアー戦の
勝った方をボコボコにするヨ!!

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス=格闘技読本

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／森鷹博
photographs by Takahiro "andy" Mori
試合写真／長尾迪
photographs by Susumu Nagao

今号も“あの言葉”出るヨ!!

いまのエンセンには聞きたいことが山ほどある 本来ならば対戦するはずだったマーク・ケアーのこと、エンセンにかわってケアーと闘う高田延彦のこと、『PRIDE.』のこと、修斗のこと……じっくりと話を聞くはずだったのだが、エンセンは途中でいきなり本誌に噛みついた!!
よく理由を聞いてみると、エンセンの前号のインタビューで、発言の真意が、伝わっていないというのだ それならば、本誌は爆弾発言の真意を聞かないわけにはいかない
エンセンの発言は過激なものが多いが、いつも“筋”は通っている 怒りの中に真実があるのだ!! エンセンの怒りが、どこに向いているのか、じっくり読み取れ!

——ここ1週間ほどハワイに行ってたそうですね？
エンセン　そう。6月1日の『スーパーブロウル』に出場するイーゲン（井上＝エンセンの実兄）のセコンドに付くためにネ。でも、乱闘になりそうだったヨ。
——またやっちゃったんですか!?
エンセン　そう!!　オレ、ヘウソン（・グレイシー）のこと殴りに行こうとした！
——去年の2月に揉めた相手ですね。
エンセン　そうヨ!!　彼とオレの悪口を言ってるホイス（・グレイシー）を試合で殺したい。
——また物騒なことを（笑）。何があったんですか？
エンセン　ヘウソンは、オレのことをずっとからかってた。イーゲンの試合中でオレはセコンドに付いてるだけなのに!!　客席から、ずっとオレたち兄弟をバカにしてたヨ。
——どんなことを言ってたんですか？
エンセン　「ヘヘヘヘーッ」ってネ（からかう様子）。「お前の兄さん弱いぞ。かかってこいよ」って。オレはいくわけないじゃん！　我慢したヨ。なのにヘウソンは大声で「頭突きやれ！　肘打ちやれ！」（どちらも反則）って選手にアドバイスした。
——物騒な先生ですねぇ（笑）。
エンセン　対戦相手のブラジルの選手、頭脳は（傍らのピーナッツをつまみ）これ位しかないネ！　絶対バカだよ、彼！　イーゲンは疲れて、人形みたいだったヨ。普通にやってれば勝ってたヨ!!　それなのにヘウソンの指示に従って、頭蹴っちゃうんだヨ！　それで反則負け。バカじゃないの？　オレは頭にきて暴れそうになったけど、いろんな人に押さえられたヨ。
——相変わらず揉めてるんですね。
エンセン　イーゲンは優しすぎた。試合するのがオレだったら、許さない！　なんで、オレの生まれた島なのに、あの人たち偉そうにヒドいことをオレたち兄弟にする？　これ以上、ひどいことするんだったら、消しゴムみたいに消す！　大嫌いだ！
——でも、ヘウソンはエンセンさんの柔術の先生だったんですよね？
エンセン　そう。本当に信じられない……残念ヨ。昔はああじゃなかったのに。何も問題はなかったけど、イーゲンとの問題が、ここまでひどくなったヨ（前号のイーゲン井上インタビューを参照）。もとに戻って欲しいヨ。
——しかし、骨折しても相変わらずの闘犬ぶりですねぇ。
エンセン　オレは怒ると止まらないからネ。
——前号でも怒りまくってましたもんね。
エンセン　そういえば、前号のインタビューは何？　オレの言ったこと、オレの気持ち、ちゃんと書いてないヨ!!　バカヤロ〜だよ!!
——い、いや申し訳ありませんっっ!!　前号のエンセンさんのインタビュー記事で、エンセンさんの言いたいことが伝わってなかったということですか？
エンセン　そうだヨ!!　あの言葉出るよ!!　だから、今日はオレの気持ちを言うから、ちゃんと書いてヨ!!
——うわぁ……ボクが発言の真意をよく理解しないまま載せてしまったんですね。それは、エンセンさんにご迷惑を掛けてしまいました。申し訳ありません。さっそく、エンセンさんの前号での発言の中でエンセンさんから「ここは言いたいことと違うヨ」という部分を挙げていただきたいんですが。
エンセン　高田さんについての発言だヨ。

※前号で「PRIDE.5」の高田vs（マーク・）コールマン戦とその試合後の小川の乱入に発言した中でエンセンが「伝わっていない」という発言は以下のものだった。
「……私のやっている試合の内容とは違うネ。違うリングだったら素晴らしい試合だった」
「ちゃんと俺たちのような内容の試合をしてほしい。弱さとか強さをさらして本当に男らしく……勝負する」
「『PRIDE』のリングにプロレスのやり方を持ち込むのはやめてほしい」
たしかに過激といえば過激だが、それには理由がある。エンセンの〝伝わらなかった真意〟を改めて聞いてみた。

——『PRIDE．5』の高田さんの試合を「違うリングだったら素晴らしい試合だった」と発言していますよね。
エンセン　あれは素晴らしい試合だったんだヨ！　ロープエスケープがあれば、もっと試合的におもしろかったはずだヨ。コールマンが高田さんのヒール・ホールドをエスケープして、試合が続いてたらもっとスリリングだったと思うヨ。あの試合のフィニッシュはあっけなかったでしょ？
——エンセンさんはバーリ・トゥード（以下、VT）での高田さんをどう評価していますか？
エンセン　まだ高田さんは、あんまりたくさんVTのキャリアがないでしょ。VTには高田さんが闘った相手以外にも、いろんなタイプの選手がいる。高田さんは、まだVTの世界を広く体験してないヨ。
——では、あの発言はVTではエンセンさんのレベルまで達していないという意識から出たんですか？
エンセン　そんなのわかんないヨ。強いかもしれないし、弱いかもしれない。俺がやったら殺されるかもしれないヨ。だから、オレは高田さんの世界に入ったばっかりだから、高田さんはこの強さを見極めてみたい。桜庭（和志）さん、金原（弘光）さんとは練習したことあるけど、高田さんとは練習したことないし

『PRIDE.5』のコメントルームには、エンセンの話を聞こうと報道陣が殺到した。エンセンへの注目度は非常に高い！

『PRIDE.6』の高田vsケアー戦、勝った選手をオレが全力でツブす!!　ゴキブリみたいに（足をドンと踏み）ツブすヨ!!

ネ。（マーク・）ケアーとの試合で、強さが見極められると思うヨ。

——高田さんに「男らしく試合してほしい」とも発言してましたが。

エンセン 「男らしく」というのは、イーゲンにも、誰にでもオレは同じこと言うヨ。読んだ人がどういうふうにあれをとったかはわかんないけど、「男らしく」っていうのは、「殺しに行く」「殺されに行く」という姿勢のこと。『PRIDE.5』のイーゲンの試合にもそれはなかった。それが高田さんはできると思う。できるのに、『PRIDE.5』の高田さんは1Rで我慢してたでしょ？

『VTJ'98』の試合後「私が負けると思った人、くたばれ」と絶叫。ストレートな言動はファンの心を打つ。

——まあ、相手のスタミナ切れを待つ作戦だったみたいですけどね。でも、エンセンさんは「もっとアグレッシブに攻められたはずだ」と思ったと。

エンセン そう。高田さんは、技術を絶対に持ってる人だヨ。それなら"心"は絶対見せられるからネ。

——では、『PRIDE.6』の高田vsケアー戦は、正直言ってどちらが勝つと思いますか？

エンセン 高田さんの闘い方によると思う。長い時間闘って判定に持ち込むことはできると思うヨ。ただ、高田さんが殺しにいったら危ない。ケアーは、総合的な力はヒクソンより上だと思うけど、高田さんがケアーを倒しに行くなら男だヨ！ オレだってK-1のリングでピーター・アーツと闘うの怖いのに。

——K-1に上がったエンセンさんは、ムチャクチャ見たいですけどね！

エンセン 勝つ道はほとんどないから、オレはやらないヨ！ 高田さんもプロレスのチャンピオンだったけど、VT

どうなる?高田vsマーク・ケアー
エンセン井上の戦力分析

VTJ'98で、UFCヘビー級チャンピオン、ランディー・クートゥアーに腕ひしぎで勝った試合後、エンセンは「**これからは世界のトップと闘っていきたい**」と高らかに宣言した。そこで、「**クートゥアーより上は1人しかいない。マーク・ケアーだよ**」とvsケアー戦を熱望した。エンセンの中で、最も評価が高い格闘家、それがマーク・ケアーである。

エンセンは語る。「**試合で負けてない。逃げないし、特にバランスがいい。パワーとスピードと心も揃ってる**」と、ほぼパーフェクトに近い評価なのだ。これでは、かなり抽象的なので、他のトップクラスに対する評価と比べてみれば、いかにケアーの評価が高いかわかるだろう。

たとえばヒクソン・グレイシーについて「**彼は寝技のテクニックは凄い。でも、パワーがないし、立ち技がない。心もあるのかどうか、わからない。わからないところが多いんだヨ**」と、あまり試合に出ないヒクソンをいまひとつ評価しきれない様子。

前回の『PRIDE.』で高田に破れたコールマンについては「**タックルはすごいネ。でも、スタミナが不安だし、立ち技もない**」とこれまたケアーまでの評価はしていない。結局、「**すべてバランスがいいのがケアーだと思うヨ。だから高田も彼と闘いたいんだと思う**」ガイジン選手に対しては辛口の評価ばかりだったエンセンが、ここまで評価するのだから、間違いない。マーク・ケアーは正真正銘の超強豪と言っていいだろう。

一方、高田については、バーリ・トゥードの試合を多くこなしていない現段階で「**総合的な強さを見極められない**」と語っている。が、そもそも高田にはプロレスラーとして培ってきた技術がある。エンセンは今号のインタビュー中でも高田の技術は評価しているのだ。実際、『PRIDE.4』の高田vsヒクソン戦直後には「**高田さん、ヒクソンに勝てたよ!**」と断言していた。しかし、今回は相手が相手だけに高田の技術は通用するのだろうか?

それをわかりやすく解説したのが、以下の話である。「**たとえば、私のマネージャー（本誌でエンセンのこぼれ話を連載中のプナニ酒井）はラケット・ボール（スカッシュに似た室内競技）の日本チャンピオンになった人。でも、テニスの試合に出て、アンドレ・アガシに負けたとしたら、果たして彼のレベルが高かったのかどうかはわかんない。負けて彼がダメだとは言えないじゃない？ アガシはすごく強いからしょうがない。ヒクソンは自分でだけど『一番強い男』と言ってる。そいつと闘って負けたからって『弱い』とも『強い』とも言えないヨ**」。

相手は一部ではヒクソンをも凌駕した言われているケアーが相手である。高田が苦戦を強いられるのは日を見るより明かだ。

では、高田に必要なものは何か？ こうなると俄然、高田の戦略が気になるところである。エンセンは「**殺しにいってほしい**」と語るが……秘策はあるのだろうか?

エンセンが「プロレスのやり方」と指摘した小川のマイクアピール。果たして次もあるのだろうか？

Enson Inoue

の経験は少ない。ケアーはVTのトップ。違う競技のトップに挑むのは怖いはずだヨ。

――ホントに危険ですよね。

エンセン　ケアーはもちろん倒しにいくだろうから、高田さんも倒しに行ってほしい。蹴りでもいい、寝技でもいい、「倒すか？　倒されるか？」のギャンブルみたいな試合をしてほしい。

――『PRIDE．7』でエンセンさんが高田vsケアーの勝者と当たる可能性はありますね。

エンセン　そうネ。勝った方にオレが挑戦して、ボコボコにするヨ（笑）。

――うわっ、ボコボコにしちゃうんですか!!（笑）。

エンセン　高田さんも、ケアーもお互いに勝つつもりなら2試合分、オレとの試合の契約もして！　オレが出ていくヨ。勝った選手をオレが全力でツブす!!　ゴキブリみたいに（足をドンと踏み）ツブすヨ!!

――うわぁ、「ツブす」宣言まで！　ホントに怖いもの知らずですね。今回、どちらかのセコンドにつくということはあり得ないんですか？

エンセン　ないネ。いつもは日本人を応援するけど、ケアーと闘うのも夢だから。高田さんを完全に応援することもできないネ。

――やっぱり、ケアー戦をやるとファンに約束したエンセンさんとしては、ジェラシーは感じてますよね。

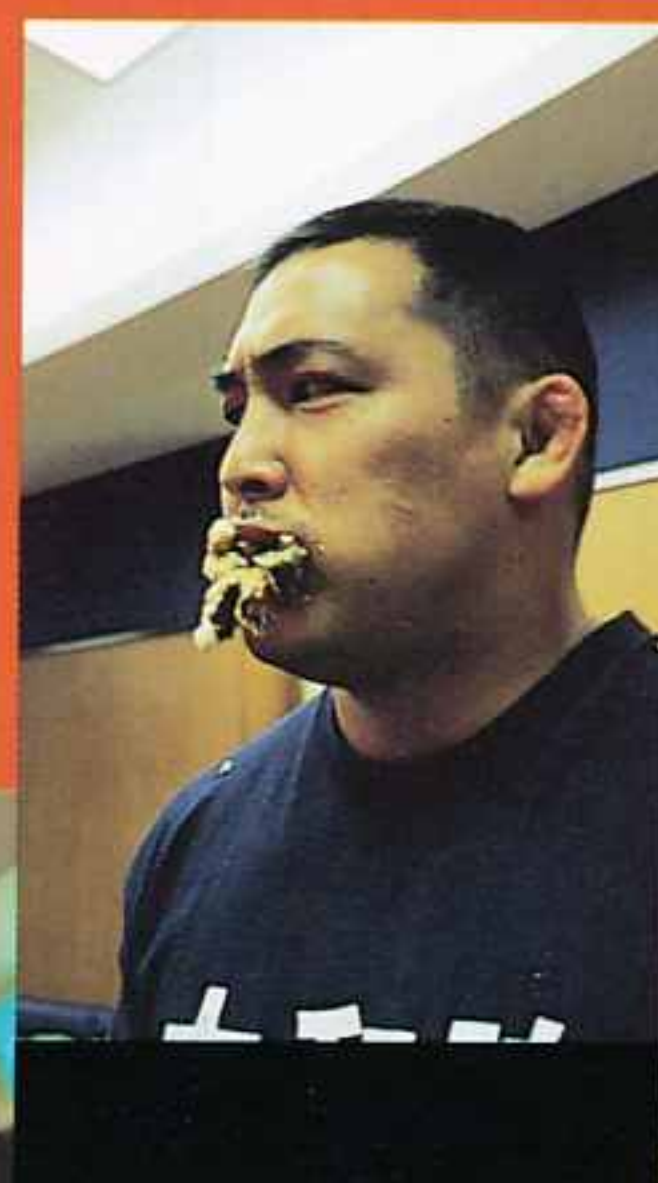
エンセン　そう、ケアーも好き、高田さんも好き。特に高田さんには日本人の強さ見せてほしいけど、オレはニュートラルな立場で見る。どういう気持ちになるかは見ないとわからない。ケアーと闘ったら、高田さんの強さを見極められると思う。ハート見せて欲しい。相手も人間なんだから、殺しにいってほしい。人間は誰でも倒せる。人間は誰でも倒される。それを認めたら、ケアーも怖くないヨ。

――では、前号のインタビューの話に戻しましょう。「『PRIDE．』のリングにプロレスのやり方を持ち込まないでほしい」というのは小川（直也）選手の乱入に対しての発言ですよね？

エンセン　そう、小川さんの試合後のマイクアピールだヨ。Tシャツ脱いで「闘え！」なんて言うのは……見たことないヨ。メインイベントで高田さんがジャパニーズヒーローみたいな感じで勝ったのに、なんで盛り上がった「波」をつぶしちゃう？　会場がかわいそう。小川さんに注意したいのは、オレにあれをやってたら、どうなっちゃうかわからない。もし、オレの試合後に挑発したら、オレはグローブ外して、控室の廊下で待つヨ。試合後の試合は試合じゃないネ（笑）。

――ファイトマネーも出ないし（笑）。

エンセン　もしも、小川さんがああいうことやりたいなら、オレのところに直接来て言えばいいヨ。喧嘩したいんだったらストリートでやろう！　試合やりたいんだったら、プロモーター通して、ファイトマネーやルール決めてやろう！　そういうことだヨ。

――エンセンさんはプロレスのリング上での小川さんの試合を見たことはありますか？

エンセン　プロレスのリングだったら、小川さんがああいうことするのも楽しんで見るヨ。小川さんと橋本の試合も面白かったし（笑）。プロレスはお客さんが盛り上がった方がいいでしょう？　でも、オレの試合は、お客さんのためにそういう態度は出さない。オレは相手を殺す気持ち！

――いや～、そこまで言えるエンセンさんは素敵ですね。前回のインタビューでエンセンさんの発言の真意が伝わってなかった部分もありましたけど、これからも吼え続けてほしいですね。

エンセン　そうネ。しっぽを後ろ足の間に入れて逃げる犬みたいになってしまうんだったら、闘って死んだ方がいいからネ。プードルやチワワは吠えるだけ吠えてでっかい犬が来たら逃げちゃうけど、オレがプードルなら闘って死ぬ。バカかもしんないけど。「ゴメンなさい」とは言わないヨ（笑）。こんなオレが今度、生放送のTVに出るヨ。どうする？　危ないでしょ？

――ハハハ、危険過ぎますね!!　お茶の間に向かって、問題発言をしないでくださいよ（笑）。では、ちょっと修斗のことをうかがいたいんですが、5・29の修斗プロ化10周年興行はセレモニーでリングに上がってましたね。

エンセン　よかったネ、『VTJ'98』並みに盛り上がったヨ。メインが日本人vs日本人だったのが残念。日本人vsガイジンだったらもっと盛り上がったと思うけどネ！　キレイな興行だったヨ。坂本（一弘・修斗プロデューサー）

プードルやチワワは吠えるだけ
でっかい犬が来たら逃げる。
でも、オレがプードルなら闘って死ぬ!!

修斗のプロ化10周年記念大会では歴代のチャンピオンが大集合した。修斗にフリーファイトの波が押し寄せたのはエンセンの存在抜きでは語れない

さん、よくできた！　格好つけるだけの男かと思ってたけど（笑）、彼は凄い素晴らしい。

――うわっ、そんなこと言っちゃっていいんですか？

エンセン　書いて！（笑）。ホントにすばらしかったヨ！　お客さんも入ったし。全部のチャンピオンが揃ったのも面白かったネ。

――エンセンさんも、石川（義将・第2代ミドル級チャンピオン）さんに「大和魂という素晴らしい言葉をファイティング・スピリットに使ってくれてありがとう！　実生活では、今度は義理人情という言葉を心におさめてほしい！」とか言われてましたね（笑）。

エンセン　ビックリしたヨ。先輩だし、嬉しかったネ。

――あの日の試合でいちばん良かったのは、誰の試合ですか？

エンセン　加藤（鉄史）君の試合（vs中尾受太郎、エンセンの弟子・加藤の勝ち）が良かったヨ！　もっと殴れたと思うけど、とりあえず勝つのが大事な試合だったからネ。「一発一発でいいヨ」って言ってたの。

――加藤選手とマッハ（桜井速人）の試合は見たいですね

エンセン　そうネ。この勝ちで近づいたと思うヨ。

――宇野（薫）選手とルミナ選手の試合は、どうでしたか？

エンセン　勝ちたい気持ち、宇野の方があったヨ。まだ技術的にはルミナの方が上だと思ってたから、宇野が勝てるならミスをバッと突くことだと思ってた。でも、あんなに2ラウンド、3ラウンドまでいって、宇野が勝てるとは思わなかったネ！　でも、ルミナのタップは、イメージが悪いヨ。タップすることでルミナは「宇野さん、今はあなたが私より上」って言ったヨ。タップすることができるなら、もっと逃げようとすればよかった。だって試合終わったときは2人の疲れは同じはずだヨ。同じように倒れたんだから。

――宇野選手のハートが凄かったということですね。

エンセン　いや、すごいよネ！　彼は苦しくても気持ちが負けていない‼負けそうな試合でも何とかする、すばらしいヨ！　ただ彼にお願い。かわいくかわいくするのはやめて！（笑）。女の子ファンは全部もってかれちゃうからもっと男らしくして！

――そんなこと言ったら、全員、エンセンさんみたいになっちゃいますよ（笑）。

エンセン　そうか（笑）。彼の自然な性格なのかな？　宇野はいいイメージをシューティングに与えてる。応援するヨ。ルミナももっと強くなって早く戻ってきて！

――エンセンさん自身は、修斗のリングに上がらないんですか？

エンセン　いま相手がいないから……オレが闘いたいと思う相手がいれば、どこにでも上がるヨ。

――ウチの雑誌の前号でフランク・シャムロックが、「もう一回エンセンとやってみたい」と言ってましたけど。

エンセン　嬉しいネ！　この体重でもいいんだ？　ハハハ、お願いしますヨ！　彼は何回闘っても自分が勝つと思ってるだろうけど、オレも勝つと思ってる。それは面白いネ！

――ぜひ見たいですね。では最後にうかがいますが、ケアー戦が実現したら、他には闘いたい相手はいますか？

エンセン　安西ひろこちゃん（笑）。あとルミちゃん‼

――え？　ルミナですか？　あの～、いま何て言ったんですか？

エンセン　ハハハ、これ以上は言えないネ。ケガを完璧にして次の試合がんばりま～す（笑）。

【99年6月10日、東京・水道橋某所にて収録】

エンセン『週刊ポスト』問題を語る!!

『週刊ポスト』５月21日号に、なんとエンセン不倫疑惑の記事が掲載されていた!!　記事は本誌ＮＯ．14に登場してもらった山本美憂さんの離婚問題を取り上げたもので、離婚の原因としてエンセンの名が挙がっているのだ。

エンセンが出場する試合を美憂さんが観戦に来たことや、たまに大宮ジムや日体大でお互いが練習しているという事実だけを取り上げ、点を無理矢理線でくっつけたかのような推測と、匿名関係者の証言によって記事は構成されている。これについて、エンセンは全面的に反論する。「ひどく書くネ！　はっきり言って美憂の離婚はエンセンが原因じゃないヨ。ちゃんとした理由が別にある!!」裁判でも判決が出て、エンセンが原因でないこともハッキリした。「美憂は友達ネ。でも、ああいう記事が出て、もう会えないヨ」エンセンの表情が暗くなった……と思った数秒後、「あ、でもこの前、雑誌の仕事で安西ひろこさんと会ったんだけど、顔も体も最高（笑）。性格もすごく明るいネ！　電話番号教えて下さい！（笑）。彼女に『紙プロ』送って!!」強い男はこうでなくてはならない。

Enson Inoue

――最近はフリマはどのくらいのペースでやってるんですか？

宇野　一月に一回はやってますね。

――なんか昨日もフリマやってたみたいですけど。2日連続なんですよね。

宇野　昨日今日は、若手中心の2連戦なんですよ。

――パンクラスじゃないんですから（笑）。

宇野　アハハハハ。ネオブラット・トーナメントみたいに（笑）。

――え～、ところで宇野さん、この間の佐藤ルミナ戦を自分で点数つけるとしたら百点満点で何点ぐらいですか？

宇野　う～ん、勝ったってことがあるんで、八十点ぐらいじゃないですかね。

――残りの二十点っていうのは？

宇野　残りの二十点は、打撃を結構もらっちゃったっていうのが反省点ですね。あとは、練習で考えた技が結構出せたんですけど、決まんなかったのもありますし。もうちょっと殴るのに固執しないで、パスガードとか早い段階のポジション取りとか……、それに寝技をあまりできなかったっていうのもありますね。

――ルミナ戦前にはいくら練習しても時間が足りない気がするって言ってましたけど、最終的に満足できる練習は出来たんですか？

宇野　そうですね。満足いく練習が出来ましたね。最後にちょっと風邪気味だったんですけど、技術とか練習の量とかに関しては自分の中では精一杯やったつもりですから、別に負けても悔いは残らなかったと思います。悔いが残るとしたら、たぶん試合の時に自分から妥協することだと思うんで。コンディション的な精神面的なものは、ボクとしては100％でリングに上がれましたね。

――昔は試合中に妥協したりすることが結構あったんですか？

宇野　なんか変に、決勝とか意識してたんじゃないですかね。「これに勝ったら優勝だ」とか（笑）。そういうことを考えるとダメなんで考えないようにしてましたね。アブダビでも、「もしかしてマチャドに勝ったら表紙かな？」とか思っちゃったんですよ（笑）。

――でもそういう気持ちを持てるのは逆にリラックスしてるからじゃないですか？

宇野　いや、やはり余裕っていうか、勝つと思うと負けるんで。それって勝つと思うっていう意識じゃないですか。実際、途中でちょっと妥協しそうになったんですけど、たくさんの人に練習に付き合ってもらったり、友達とかにも会場で売るTシャツをたたむのとか手伝ってもらったんで、やはりそれは出来なかったですね。

――今回はセコンドの指示通りというか、作戦通りって感じだったんですよね。

宇野　こっち（自軍の）のコーナーでやることばっかり心がけてましたね。

――セコンドの声はよく聞こえたんですか？

宇野　はい。ハッキリ聞こえました。

――ビデオで見ても、廣野（剛康）さんの声は目立ってましたからね。「3分経過で～

5・29修斗プロ化10周年記念大会で佐藤ルミナを破りチャンピオンに

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス＝格闘技読本

聞き手／チョロ
interview by Choro

撮影／大森大裕
photographs by Daisuke Ohmori

第4代 修斗ウェルター級王者
宇野薫
［和術慧舟會］

Kaoru Uno

ルミナのバッグマウントからのスリーパーを体を反転させて凌いだ宇野は、ガードを固めるルミナに対し、まるで桜庭が乗り移ったかのような猪木アリ状態からのローキックをブチ込んでいく（写真上）。スタンドでも激しい打撃戦となるが、宇野の右ストレート、右ジャブが度々ヒット（写真中）。残り1分となったところで、ルミナのタックルを切った宇野がバッグからスリーパーを極め、遂にルミナがタップ（写真下）。宇野薫が堂々の一本勝ちで修斗ウェルター級新チャンピオンに輝いた。

『家族や、バイト先の人とか道場の人とか、友達とか……みんなのおかげで勝てました』

5・29修斗横浜文体大会で、歴史に残る好勝負の末、佐藤ルミナからタップを奪い第4代修斗ウェルター級チャンピオンに輝いた和術慧舟會・宇野薫。宇野が休日にフリーマーケットで宇野商店を出店しているのは有名な話である。たくさんの友人と共に接客に励む宇野に営業中に話を聞いてきた。

す」って（笑）。

宇野　アハハハハ。廣野さんの時間の声はよく聞こえましたね。それで、差してる時は阿部（裕幸）さんの声、寝技になると守山（代表）さんの声で。守山さんは、試合中は難しいこと言わないんですよ。どうしても試合になると視野が狭くなっちゃうんで。「手を外せばいいじゃないか」とか、「足外して」とか、そういうのを的確に注意してくれるんですよ。相手はせっかく狙ってるのに、早い段階で潰されちゃって、イヤなんじゃないですかね。

――試合後は、いつものように「セコンドの力、およびバイト先の人たちの力で勝てました」って言ってましたけど。

宇野　バイト先に限らず、おかんもそうですし、道場の仲間も凄く手伝ってくれたんで、みんなの力ですね。あと友達も試合以外の、例えば会場で売るTシャツとかも今回はみんなに任せちゃってたんで。そういう意味でボクは試合にだけ集中できましたからね。

――そういえば、試合後さっそく廣野さんがベルトを巻いてましたよね（笑）。

宇野　みんなベルト巻いて撮影してましたね。一番面白かったのは、おばあちゃんがベルトを巻いたことですね（笑）。

――えっ、おばあちゃんが（笑）。

宇野　試合の次の日に、おばあちゃんのとこに報告に行ったんですよ。

――試合は見に行かなかったんですか？

宇野　はい。おじいちゃんとおばあちゃんは、ジンクスみたいに「私たちが会場に行かないで勝ってるから行かない」って。後でビデオで見てますけど。

――可愛い孫が、殴ったり殴られたりするのを見るのが怖いんですかね？

宇野　そういうのもあるんでしょうね。それで「おばあちゃん、これベルトだよ」って渡したら、いきなり巻いて（おばあちゃんのモノマネで）「なんだこれ、重たいねぇ～、腰に悪いよ」とか言ってるんですよ。ビックリしましたけど、あれは面白かったですね（笑）。

Kaoru Uno

一番面白かったのは、おばあちゃんがベルトを巻いたことですね（笑）

試合後、リング上でマイクを渡された宇野は「天国のお父さん、いつも見守ってくれてありがとう。やっと一番になれました」と憧れの船木のマイクアピールを意識しつつ、天国のお父さんに向かって勝利の報告。会場には涙を流し宇野の勝利を祝福するファンが続出した（写真右）。チャンピオンベルトを巻きリング上での撮影に応じる、宇野薫＆セコンドのフォーフォースメン。左から二人目が守山竜介（和術慧舟會東京本部代表）である。彼らが一丸となってつかんだ勝利だった。

――それはいい話だ（笑）。当然、ルミナさんともう一回っていう気持ちはありますよね？

宇野　向こうが、絶対思ってるんじゃないですか？

――ルミナ戦を終えた、宇野さんの今後の課題っていうと何なんでしょう？

宇野　まずは打撃ですね。後は、もうちょっと力をつけていかないと、と思いましたね。ずっと器具は使わなかったんですけど、これから少し器具使ってやろうかって話してるんですけど。それもボディビルの筋肉じゃなくって、もう一段階、力をアップさせようっていう。守山さんも結構鉄アレイとか使ってたらしいんで。ボクなんか守山さんに比べると、まだまだ子供みたいな感じなんで（苦笑）。

――守山さんも、試合後リングに上がってましたけど、さすが慧舟會っていうか、代表もストリート系でカッコいいですよね（笑）。

宇野　カッコいいですよね！　あの、これは冗談じゃなくて、スタイリストで知ってる人がいるんですけど、その人も「守山さん、凄いカッコいいよ！　ボタンダウンのシャツが凄く似合う」って。顔もハーフっぽいですし。今度そのスタイリストの人が海外行くんで、大きいサイズの服買ってきてもらうように頼んでるんですよ。

――それはまたプロレスラーみたいでいいですね（笑）。それで試合後の、天井を指さしての「天国の…」っていうマイクアピールは、船木（誠勝）選手を意識してたんですよね？

宇野　（恥ずかしそうに、うなずく）見ててどうでした？

――いや抜群でしたよ（笑）。

宇野　ありがとうございます（笑）。この前、某雑誌で船木さんと対談させてもらったんですよ。

――やっぱり緊張しました？

宇野　ドキドキでした。カメラマンの人に「顔が真っ赤だよ」って言われましたね。

――対談になったんですか（笑）。

宇野　も～う全然話せなかったです。ずっと下向いてましたね。女の子が好きな人に会うみたいな感じですね（笑）。

――別に女の子になることはないと思いますけど（笑）。でも実際、これまでずっと2位ばっかりで、天国のお父さんに1位になった姿を見せたことがなかったんですよね。

宇野　はい、そうです。お父さんが生きてる時は、シルバーマニアって言われるぐらい2位ばっかりでしたから。それで今回初めて1番になったんで報告したんですよ。……実はシルバーマニアTシャツのデザインも作ってたんですよ。

――それは負けた時を想定して？（笑）

宇野　負けた時っていうか……そうです（笑）。トーナメント・オブJとか、アブダビとか、アマチュア修斗とか、ボクが2位だったヤツを全部並べて（笑）。それをシルバーでプリントしようと思ってて。結構カッコ良かったんですよ。お蔵入りになりましたけど（笑）。

――先程、船木さんに会われたって言ってましたけど、宇野さんもパンクラスのテストを受けた時があったんですよね。

宇野　落ちちゃいましたけど（照笑）。

――それが今やウェルター級のチャンピオンですからね。あの時受かってたら、いま頃どうなってたんでしょうね。

この日は、友人＆知人の他にも、宇野おかんに廣野おかんも駆け付け、最高潮時には20名以上の仲間が集結。実際、宇野商店とはいっても、宇野は他の店を見るのに忙しく、自分の店にはあまりいないので宇野の接客姿を見るのは貴重かもしれない（笑）。お客さんの中には宇野と気付きサインを求める光景も見られた。チャンピオンはつらいよ、である。

宇野　う〜ん、どうだったんでしょうね。確かに遠回りしたのかもしれないですけど、その分かけがえのない友達がたくさんできましたし、ボクは良かったと思ってます。ボク中学校の時からあまり友達がいなかったんですよ。友達いないっていうか、高校は部活だけずっとやってたんで、友達は部活のヤツだけで。クラスの友達はほとんどいなかったんですよ。

──レスリング三昧だったんですか？

宇野　そうです。ホントそうでしたね。

──授業中は疲れて寝てたり？（笑）。

宇野　そうですそうです（笑）。よく寝てました！　ですから、いざ高校出た時、気付いたら友達がいなかったんですよ。

──「あれ？　オレ友達いないぞ！」って感じですか（笑）。

宇野　ホントそんな感じでしたよ。男子校だったんで、女の子ともほとんどしゃべらなかったし。

──宇野さんの通っていた横浜高校って、レスリングは盛んじゃないですか。女の子に人気あったんじゃないですか？

宇野　ないです！（キッパリ）。サッカー部とか、いいなぁって思ってました。だって合コンの話してるんですよ。（大きな声で）柔道部でさえ合コンの話とかしてんのに、自分のとこは全っ然なかったですからね。

──それは淋しい話ですね（笑）。

宇野　でも、ホントに専門学校入ってからいろんな人に出会えて友達がたくさんできたんですよ。その頃の友達は今でも大事にしてますし。おかんにも「友達の順番を間違えるんじゃないよ」ってよく言われるんですけど。

──出会いといえば、宇野さんは慧舟會以外にも、高田道場や、新宿スポーツセンターでも練習してますけど、確か、小川（直也）さんがスポーツセンターに練習に来た時、宇野さんもいたんですよね。

宇野　ボク、小川選手とスパーリングしましたよ。いろんな人とやってみたいんで、お願いしてやらせてもらいました。

──聞いた話によると、小川さんがデーンと寝転がって「かかって来なさい」みたいな感じだったらしいですけど（笑）。

宇野　そうですそうです（微笑）。

──宇野さんとは体格差もありますけど実際やってみてどうでした？

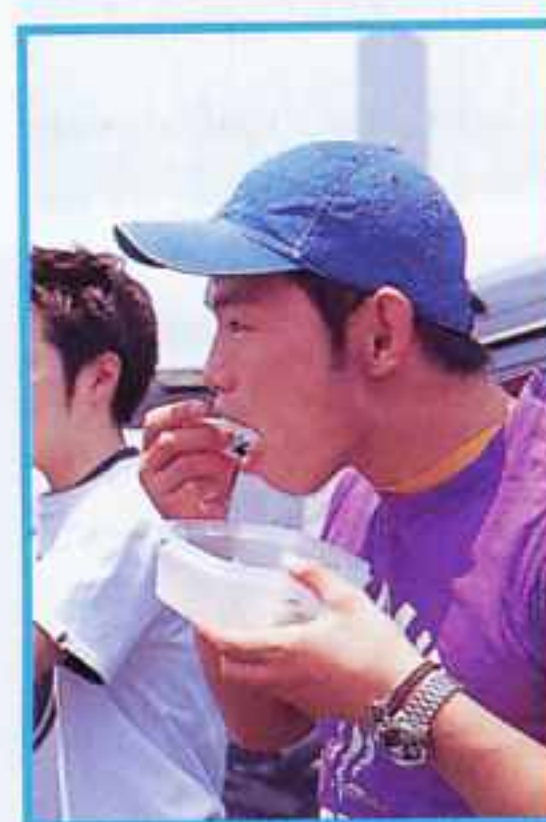
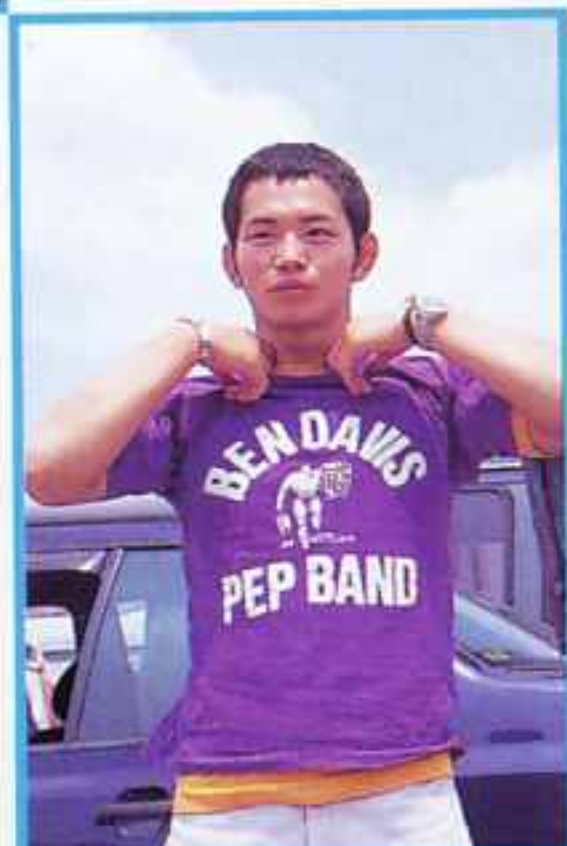
宇野　ボクは動くしかないんで、どんどん動いて。……でもそれ流行ってるんですか？　小川選手は強いかとか？

──流行ってるかは、わかりません（笑）。

宇野　ボクは小川選手は強いと思いますよ。あの体格であの動きは凄いと思います。凄いスピードありましたよ。

──宇野さんは、パンクラスに入団した菊田（早苗）さんとも、練習してるんですよね。

宇野　ルミナ選手とやる前も菊田さんとか佐々木（有生）君とか、他のプロじゃない選手もみんな手伝ってくれて、「ルミナ選手はアレが強い、コレが強い」って凄く教えてくれて。新宿（スポーツセンター）のみんなも凄く力になってくれましたね。

──ホントにみんな宇野さんのことを応援してくれるんですね。そういえば、坂本（一弘＝修斗プロデューサー）さんが『格闘技通信』で「ルミナはカリスマなんです。人間であって人間じゃない」って言ってましたけど、宇野さんは修斗界のカリスマっていうと、真っ先に誰を思い

浮かべますか？

宇野　カリスマっていうと……「涙のカリスマ」しか思い浮かばないですね（笑）。

――涙のカリスマ（笑）。

宇野　大仁田選手の場合は「涙」が付きますけど（笑）。ファッション界のカリスマだったら藤原ヒロシさんですね。やはりオーラを感じますからね。修斗では、やはり修斗＝ルミナ選手かエンセン選手ってイメージがあるんで、その二人のどっちかだと思いますね。

――宇野さんも、ルミナさんを下し、修斗を象徴する選手になったわけですけど。

宇野　（小声で）ボクは他団体なんで。

――失礼しました（笑）。それで、どうやら宇野さんからは「応援したくなる電波」が出てるらしいんですよ。

宇野　そうなんですか？（笑）

――気が付いたら宇野コールをしてるっていう（笑）。「宇野は嫌い」って言う人ってあんまり聞いたことないですから。ルミナさんは「キャーッ♥」っていうファンが多いけど「嫌い」って言うファンも結構いますからね。

宇野　好き嫌いがハッキリしてますよね、好きな人はホント好きですけど、嫌いな人は嫌いですからね。

――宇野さんとか小路（晃）さんはプロレスにも理解があるじゃないですか。プロレスファンは、そういう発言をしてくれると嬉しいし、好感を持つんですよ。その辺が、計算しての発言なのかどうかは、ボクにはわかんないですけど（笑）。

宇野　アハハ。どうなんでしょう（笑）。

――どうしても長いこと格闘技やってると「プロレスと一緒にしてくれるな」って言っちゃう人が多いんですけど。

宇野　ボクはプロレスは嫌いじゃないです。プロレスも好きですよ。……でもマイクはもうやんないです！

Kaoru Uno

なんか気持ち悪くなっちゃうんですよ、練習休んじゃうと

――え、やらないんですか？　それはもったいないですよ！

宇野　いや、今度はバク転ですから！　船木さんが、たまにやるじゃないですか。セカンドロープからのバク転。（嬉しそうに）アレを「やっていいよ」ってOKが出たんですよ。

――バク転は前から出来たんですか？

宇野　いや出来ないです。船木さんから教わったんですけど、まだちょっと怖いし。失敗したら恥ずかしいじゃないですか（笑）。まだやれるかわかんないんで、練習して。高田道場さんとか、リングがあるところで練習させてもらいます（笑）。

――そういえば、宇野さんはルミナ戦後、リング上から「修斗、総合格闘技をもっともっと応援して下さい」って言ってましたけど、「慧舟會で練習すれば強くなります」とか言って欲しかったんですけど。ヒクソンみたいに（笑）。

宇野　アハハハハ。そういえば慧舟會って言わなかったですね（笑）。でも、それも言おうと思ってたんですよ。ボクは、最初に修斗にちょっと入って基礎を習ってて、それから慧舟會に入ったんで、試合でいいところを出せれば、慧舟會でやってきたことは間違いじゃなかった……って。あれっ？　なんかプロレスでありましたよね。誰でしたっけ？

――ありましたね。う～、プリンス・トンガじゃないし。思い出せない！

宇野　Uインターと新日の対抗戦の時じゃなかったでしたっけ？　たぶん永田（裕志）選手だったと思うんですけど。

――あ～、各自調査！　そういえば試合後リング上での胴上げに、マッハ（桜井速人）さんも嬉しそうに参加してましたね（笑）。

宇野　いましたよね（笑）。ボクはマッハと同じ世代っていうか、デビュー戦では負けましたけど、それが刺激になりましたし、ホントいい意味でマッハも凄く頑張ってるんで、ボクもチャンピオンにな

宇野薫の6月13日、午前11時30分時点での収穫を一挙に大航海！　じゃなくて、大公開。フリマはスタートダッシュが重要、というわけで、購入商品を広げてもらうと出るわ出るわ、これだけで充分お店が開けそうな勢いだった。これだけ買って総額3万円なり。さっそく宇野は、手に入れた高性能トランシーバーで仲間達と連絡を取り合っていた。

りたいって思ってましたからね。

――宇野さんは、もちろん才能もあると思うんですけど、努力はハタから見ても凄いですよね。練習量とかもズバ抜けてますし。

宇野　えっ、そうなんですか？（笑）

――おそらくそうだと思います（笑）。

宇野　いや、ボクはまだまだと思いますけどね。もっとやってる人はやってますし、廣野さんとかも凄く練習してますから。

――宇野さん以上に練習してるんですか？

宇野　ていうか休まないんですよ。そういう意味で廣野さんも道場の中でいいライバルっていうか。廣野さんに「次いつ休むんですか？」って探り合ってるんですよ（笑）。

――休まないんだったらオレも休まないぞってことですね（笑）。

宇野　そういう駆け引きもあるんですよ。それで結局休まないで練習しちゃうんですよ。まあ休むのも大切なんですけど、2日連続では休まないですね。なんか気持ち悪くなっちゃうんですよ、練習休んじゃうと。不安になってくるし。

――宇野さんは、練習やってる時も、ケーキ焼いてる時も手を抜かないって話なんですけど、いったい、いつ気を休めてるんだっていう余計な心配しちゃうんですけど。

宇野　みんなにも「大丈夫？」って言われるんですよ、バイト先でも。「丸一日休むことあるの？」とかって言われるんですけど。

――それじゃあ、気が休まるのはフリマの時ぐらいですか？

宇野　そうですね。後は、ボクがいなくても友達がしょっちゅう家に来てるんで（笑）。帰ると「お帰り！」とか言ってウチのおかんと一緒に勝手にくつろいでますからね。メシとか勝手に食ってますから（笑）。そういう時はみんなと話して気が休まりますけどね。

――休まるのかなぁ（笑）。ところで宇野さんは、最近プロレスって見てます？

宇野　（小声で）ボクはプロレスでは、天龍さんとか、一発一発の技に説得力がある人が好きだったんで、今はあまり…。

――どっちかというと昔のプロレスが好きなんですよね。

宇野　はい。洋服でもそうだと思うんですけど、現行で出てるものよりはちょっと前のヤツの方が、いいテイストが出てますからね。

――宇野商店店長としては、修斗とかのグッズが飛ぶように売れてるっていう状況は、どう思います？

宇野　ボクはちょっと危機感がありますね。怖い感じがしますね。フリーマーケットとかやってると、ブームっていうかこれが人気があるっていうのはボクの中ではわかるんで。逆にこれだけ人気が出てると……、日本人ってすぐ冷めちゃうじゃないですか？

――若い人とかは特にそうですからね。

宇野　この間、某雑誌の編集後記で書いてあったのが、ルミナさんが負けたから「こんなTシャツ着れない」って言ってる人がいたとかあって、それが凄く印象に残ってますね。凄い淋しかったです。

――試合も見ずにTシャツだけ買って帰る人もいましたからね。実際、ブームと言われるものには、そういう浅いファンが多いものですからね。Ｋ－１とかはそういうファンも上手く取り込んでいきましたけど。

宇野　でもなんか、逆にＫ－１みたいにメジャーになり過ぎると、今度はホントに格闘技を好きな人が離れて行っちゃいそうな感じがしますし。難しいところですよね。まあボクは、団体が違うんであまり言えないですけど、個人的にはメジャーになりたいというのはなくて、例えばTシャツとかも他の団体とかでは、バーッといっぱい売ってるじゃないですか。でもボクは1カラーに対して100枚づつとか限定でっていうポリシーがあるんで、それを崩したくないですね。（Tシャツの）ボディーとかも自分が好きなところのを使ったり、そういったちょっとしたところにこだわりたいと思ってます。

――こだわりのチャンピオンとしては、ルミナ戦後「追う立場より、追われる立場の方が辛い」って言ってましたけど。

宇野　そうですね。その気持ちが今は強いですね。「エラいことしちゃったんだ」って終わった後に思って。だから今まで以上に練習しなきゃいけないですし、人から見られる立場になったんで、普段もヘタな行動は絶対できないですし、ホントにちゃんとした人間的な行動をしないといけませんね。

――宇野さんは人間的に以前からしっかりしてると思うんですけど（笑）。

宇野　いやいやいや。これからは、ちょっとした発言が天狗になってると思われたりすることもあるじゃないですか。だから言葉も選んで喋んないといけないですし、やはり態度とか行動とかも、より一層ちゃんとしなきゃいけないって感じましたね。

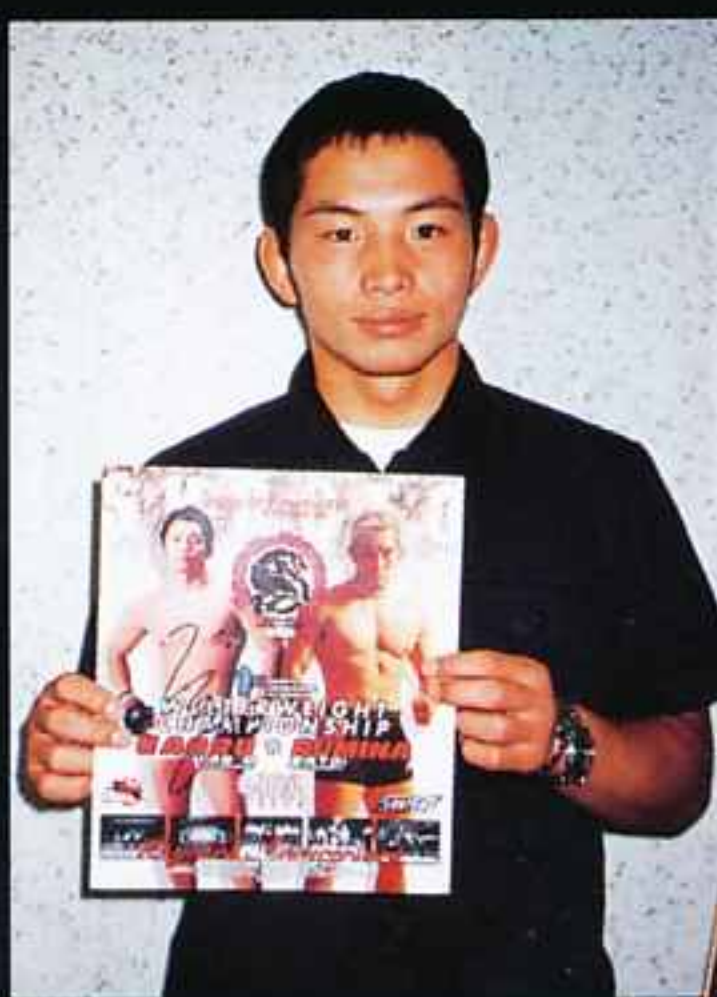
――今日は、宇野商店の営業中に協力して頂き、誠にありがとうございました。

【6月13日、有明国際展示場フリーマーケット会場にて収録】

宇野薫祝勝宴会

6月12日（土）和術慧舟會東京本部道場にて、5・29修斗興行にて佐藤ルミナを破り、第4代修斗ウェルター級チャンピオンとなった宇野薫の祝勝宴会が盛大に行われた。宇野の勝利報告と共に、『PRIDE.6』でガイ・メッツアーとの対戦が決定している小路晃、5・29修斗興行で判定ながらデビュー戦を勝利で飾ったＲＪＷの阿部裕幸も挨拶を行った。

同時にこの日、宇野の持つ修斗ウェルター級チャンピオンベルトもお披露目された。希望者には、なんと宇野とツーショットwithベルトという夢のような記念撮影会が行われた。廣野カメラマンのもとには撮影を希望する人で長蛇の列となったのだった。

宇野&宇野商店からの贈り物

宇野薫サイン入り5・29修斗パンフ&修斗オフィシャルブック初版限定スペシャル付録・宇野カードをセットで1名様にプレゼント。さらに宇野商店からは、激レアＳＷＳＴシャツ（L）【通りすがりのO太郎提供】、エル・サントTシャツ（S）、ナジーム・ハメドTシャツ（S）【廣野剛康提供】をそれぞれ1名様にプレゼント。応募方法はＰ１４３参照。

U系を盛り上げるって言っても
仲良しクラブでやる
つもりはないですから!!

GO!!

成瀬昌由
［リングス ジャパン］

5・22有明でのV・ハン戦を終えた成瀬は「U系に限らず真剣勝負が出来る格闘家、プロレスラーで中量級日本一を決めたい」と中量級日本一決定戦を提唱した。6・24後楽園での金原戦を控え、練習に余念のない成瀬に中量級ボーダレス化宣言の真意と今後のリングスについて話を聞いた。「リングスのあしたのために！」

—え〜、突然ですが、リングスジャパン勢の中でも、成瀬さんはしゃべりもイケる方ですよね（笑）。

成瀬　俺？　だって俺はタイトロープよ。常に綱渡りだから、脱線すると怖いよ（笑）。でも、インタビューとかに関しては、それなりに覚悟があって言ってますけどね。それについての責任もちゃんもとってるし。言ったら言いっぱなしってことは絶対に無いですから。

—それは十分理解してます（笑）。それで、ファンにとっては単純に残念だと思うんですけど、これからリングスは基本的に2ヶ月に1回という興行形態になるんですよね。

成瀬　そうですね。これから2ヶ月に1回の興行形態になって、早ければ半年以内にリングス革命じゃないけど……、マジで変えてく自信はあるし。俺とか山本（宜久）とかは特にね。

—確かに、山本さんの「小川（直也）さんと試合をしたい」という発言からも、その意気込みは感じますよね。

成瀬　俺は結構アンダーグラウンドな人間なんで、あまり表に出たくはないんだけどね（笑）。やっぱりウチでは、山本の方が闘魂伝承じゃないけど、前田イズムを継いでると思ってるファンが多いでしょ。ただ、リングスの生え抜きの俺らが、リングスに思い入れのあるファンの人たちにとっても思い入れが注ぎやすいと思うんですよ。それで、俺とか山本とか、前田（日明）さんが引退した後に残った選手がやるべきことっていうのは、その補完計画ですね。

—補完計画ですか。

成瀬　UWFスタイルを掲げてスタートして、UWFスタイルっていうものを作った本人たちは、現役生活の中で完全な形としてUスタイルを完成出来なかったわけじゃないですか。だから、佐山（聡）さんとか、前田さんとかで始まって、その後、前田さんがリングスを始めて、Uインター、藤原組と分かれてU系と言われるようになったじゃないですか。

—そうですね。

成瀬　前田さんもリングスの中で出来なかったことっていっぱいあるじゃないですか。だから、それをやるのが俺らの仕事だと思うんですよ。ファンもやっぱり夢を見届けたいっていうのがあると思うし、そうやって好きになって見続けてる人たちは、完璧なモノが見たいと思うだろうし。それは俺らの役目ですから。それがU系の補完計画！

—それは期待しましょう！

成瀬　でも俺も、いまいち結果が出せてないから説得力がないんだけどね（笑）。この間の有明（5・22）での発言も、けっこう賛否両方あって、称賛してくれる人たちは、「期待してるぜ！」って言いますけど、「お前なんか結果も出してないくせに、そんなの言う資格はねえ！」って言う奴もいるし。あと、おそらくアンチリングスファンだと思うけど、「リングスは格闘技として認めていない」とか。でも別に小川（直也）さんじゃないけど、「いろんなご意見、ありがとうございま〜す」って（笑）。

【5・22有明コロシアムvsヴォルク・ハン】ランキング戦として行われたハンとの一戦は、掌底でダウンを奪うなどポイントではハンを上回った成瀬だったが最後は腕ひしぎでタップ。「ハンは今までで一番弱かった」と試合後語った成瀬は、パンクラス、高田道場、修斗らの選手に対し「中量級で誰が一番強いか決めよう」と呼び掛けた。

OVER THE PRO-WRES
戦国プロレス＝格闘技読本
聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda
出演／成瀬昌由とリングス裏トレーナー・和田丹平

GO! NARUSE!!

――ヒャハハハ。どんな辛辣な意見に対しても聞く耳を持つと。

成瀬　はい。でも、いろんな意見はホントにバンバンぶつけて欲しいですね。そうじゃないと盛り上がらないしね。ただ、勘違いして欲しくないのは、リングスのためとか、俺がこうやって言ってるのは、自分のためとかじゃないんです。何回も言ってることだけど。

――業界全体のためなんですよね。

成瀬　業界全体っていうかUスタイルですね。いわゆるU系です。なんか因縁みたいなところがあるんですけど…。バーリ・トゥード系とか修斗系で活躍する人たちって、昔プロレスラーになりたくてもなれなかったっていう人が多いですよね。なんか因縁を感じるんですよ。

――そういう過去を消したがる人もいますし、悪く言う人もいますからね。

成瀬　だから、多かれ少なかれ、可愛いというか…、U系も嫌いじゃないと思ってると思うんですよ。好きだからこそ、悪く言うところもあるんだろうし。

――嫌い嫌いも好きのうちって言いますからね。

成瀬　好きだからこそ、歯痒くて、苦言を呈するっていうのもあるだろうし。気が付いたらU系以外の選手なんかが活躍しだして、ファンから見たらそっちの方がカッコいいなんて言われてますからね。

――修斗やバーリ・トゥード系の選手たちの活躍によって、そういう選手たちも注目されるようになってきてますし。

成瀬　それはそれで、みんな頑張ってるからとてもいいことなんですけど、前田さんたちが現役のうちに出来なかったこと、やりたくても出来なかったことを俺らが後を継ぐと。近いうちにやらなきゃいけないと思うんですよ。それで興行が2ヶ月に1回になったら、俺たちというか、リングスの面々は、やれることはいっぱいあると思うし。例えば、リングスは格闘技って言ってるのに格闘技雑誌に載ってないという異常な事態はこれからなくなりますよ。

――ごくごく近い将来ですか？（笑）

成瀬　逆に取材拒否しますから（笑）。俺なんか、もしバーリ・トゥードやって勝って、某格闘技雑誌がインタビューしに来たら、「ちょっと待ってくれ、●●は出て行け！」って言いますもん（笑）。

――ヒャハハハ！

成瀬　それか条件出しますよ。今後リングスの試合を、公平な立場で報道を載せるんならいいですけど、都合のいい時だけ載せるんだったら協力できませんって（笑）。でも何で載せないんですかね？　リングスは嫌いなんですかね。純プロレスだと思われてるのかなぁ。

――なんでですかね？　詳しくはわかりません（笑）。ただ、今は公平、不公平という以前の段階ですからね。

成瀬　ねぇ。そういうのも含めて、リングスは、とにかく変わるし、変えるし、変えなきゃいけない！　結果は出してないけど（笑）。

――ヒャハハハ。そういえば前田さんも、決定じゃないですけど、「ルールもワンエスケープでワンダウン」みたいなこと言ってましたね。

成瀬　もう、それはジャパンの全選手が言っていますよ。前田さんも歯痒くて注文つけたくなることもいっぱいあるだろうけど、今現役で、現場でやっているのは俺らなんだから。まあ、交渉事とか会社のことは前田さんに任せて。前田さんは御大として、腕組みして上の方から睨みをきかせてればいいんです。それで充分です。ただでさえメチャメチャ怖いんだから（笑）。

――ヒャハハハハ。

成瀬　まあ、こんなこと言ったらいけないのかもしれないけど、会社が生き残らないといけないというのはもちろん大切なんですけど、選手が生き残らないといけないっていうのもあると思うんですよ。会社のために選手が犠牲になっちゃいけないと思うし。限られた選手生命の中でどれだけ輝けるか、どれだけ実績を残せるかっていうとね……。

前田道場近くをランニング中、偶然発見した素敵なお花畑。周りに人がいるのも気付かず大声で吠える成瀬。撮影／和田団平

――現役選手として輝ける時期ってそんなに長いものじゃないですからね。

成瀬　そうなんですよ。でもやっぱり好きで入った世界だから、より良いものにしていきたいと思いますしね。それでこの間、前田さんの『ゴング』（ＮＯ７７０）のインタビューを読んだら、中量級のボーダレス化のことを、「何でもやればいいじゃないですか」とか言ってて。「プロなんだから交流するためだけにやると言ったら、仲良しクラブじゃないんだから」とか「勝たないと意味がないんだよ」って言ってたけど。俺だってそんな仲良しクラブでやるつもりは全然ないんですよ。俺が言ってるのは、そんな小っちゃなことじゃなくて、もっと大きな意味で言ってるわけだから。それを理解していただきたいッスね。仲良しこよしで、一緒に肩組んで「さあやっていこう」、「U系をやっていこう」じゃないからね。

――例えばリングスの初期の頃は、正道会館との殺伐とした試合とかがあったり……。

成瀬　ファンもあの頃の殺伐とした試合を見たいだろうし。ひとつの統一ルールを作って、パンクラスの東京道場とか横浜道場とやるとか。だから俺がやりたいのは、仲良しこよしじゃなくって、極限状態じゃないけど、そういう絶対に負けられない状態で闘う状況を作れば、お客さんも呼べるし、話題にもなるわけだし。今のU系とかで足りない面を補えばいいんですよ。それこそ本当の意味での道場対抗戦ですよ。

――リングス前田道場vsパンクラス横浜道場の全面対抗戦とか、前田道場vsパワーオブドリーム……はヤマケン（山本喧一）さん一人か（笑）。

成瀬昌由
ある日の
練習風景

リングスでも他のところでも強い者だけが残ればいいんです！

Masayuki Naruse

成瀬　アッハッハッハッ。でも本当にファンも見たがってると思いますよ。仲良しこよしじゃないんだから、絶対負けられないのは当たり前の話なんですよ。リング上では殺し殺されて殺伐としていて、リングを降りたら「実るほど頭を垂れる稲穂かな」でいいんですよ。アイツが嫌い、コイツが嫌いと言っていたら、あっという間に時代に置いていかれる。現に今もそうなりつつあると思うしね。

――成瀬さんは、チャンピオン（トーナメント21）ではあるけれども、中量級のトーナメントが行われるとしたら1回戦から出たいと言ってましたし、負けたら負けたでそれはしょうがないと。

成瀬　そうそう。だから、リングスでも他のところでも、強い者だけが残ればいいんですよ。それで強い者が引っ張って行けばいいんですよ。今はタイトルマッチも、ランキング戦も、意味のないことが多いじゃないですか。

――審議委員会認定試合で、いきなり初登場1位に輝いた（ギルバート・）アイブルとかですか（笑）。

成瀬　アレは少し驚きましたね！　それで、俺がこの間、何でWOWOW主催でもいいって言ったかというと、今のところ民放以外で、ギャラがちゃんと払えて、テレビで放映して、興行のノウハウがあってとか、それが出来るのはWOWOWくらいだと思うんですよ。民放には俺らはツテも何もないですから。だから、一番可能性があるのはリングスを放映しているWOWOWだと思うんです。ファンの声とか、インターネットとか見てると、「リングスのマットでやるなんておこがましい」なんて言う奴もいるけど、そういうことをいちいち気にしてたらしょうがないんで無視しますけどね。それで釈然としないんだったら、別にリングス主催じゃなくても、WOWOW主催でいいだろうし。これを聞いた、頭がキレて賞金を出せる人が「（馬場さん口調で）じゃあ俺がプロモートしてあげよう」って言ってくれれば一番いいんですけどね（笑）。

――そうですね（笑）。逆に成瀬さんにプロレスのジュニアのトーナメントに出てくれって要請があったら検討するんですか？

成瀬　アハハハ。俺は飛んだり跳ねたりは出来ないですからね。なんて言うのかな、そういう才能はないと思ってますから。

――話は飛びますけど、成瀬さんはUFOには興味ありますか？

成瀬　UFO？　未確認飛行物体や（笑）。

――ヒャハハハハ。それはこの間、前田さんが言ってましたよね。

成瀬　えっ、そうでしたっけ（笑）。

――実際、山本対小川戦て言う話がありますけど。

成瀬　みんな「やれやれ」って言ってますよ。だからさあ、小川（直也）選手に対しても、山本なんかが言ってんのは、プロレス感覚を……。UFOに上がって挑戦状とかそういうのやっちゃうと、マスコミ的には面白いしファンも喜ぶだろうけど、俺らは格闘技畑の人間なんだから、格闘技畑の人達の目線を気にするんですよ。山本なんかそうですし、俺なんかもそうですから。それで向こうのペースではまって、やっちゃうとね。だってやってることは真剣勝負、格闘技なのに、格闘技じゃないって思われるほど悔しいことはないですからね。だから、山本もボクもそれは極力避けたいと思ってるんですよ。ただ、試合が決定すればもうやるだけですよ。変なリングの中のパフォーマンスは必要ないですよ。

――この間も『PRIDE・5』のリングで、高田（延彦）さんの試合後に小川さんが乱入してマイクアピールをしたわけですけど、そういうのは、成瀬さん的には好ましくないと？

成瀬　それはエンセン（井上）と一緒ですね。あんな前田さんにやったら、1時間試合した後でも殴りに行くと思いますよ。もしリングスであんなことやったら、前田さんの目を見て確認を取って…。まあ見るまでもないかもしれないですけどね。そんなことやったらリングの下に引きずり落とします。でも、小川選手もやっぱり度胸あるだろうし。小川選手もいろんなもんを背負ってるからね。ある意味あれもプロでいいと思うんですけど。ただ、あれをその場の独断でやってたらスゲーと思っちゃいますけど。

――山本さんがUFOの大阪大会（6・29）に挑戦状を持っていけば盛り上がることは間違いないんですけど、それはやって欲しくないと？

成瀬　それだともう別でしょ。格闘技じゃ普通そんなことやんないでしょ。格闘技でそれをやってもね。……やってもプロだと思うんだけど、でも、それを見る目を考えたら、やるべきじゃないと思う。リングスが今までやってきたことを考えたら。小川戦ってやっぱり大事な試合だと思うから、そこでそういうことをやっちゃうと、格闘技って言われなくなってくるでしょ。それは（高阪）剛も山本も言ってるし。

――前田さんも、山本vs小川戦は「リングスのマットでしか考えられない」って言ってましたけど。成瀬さんはその試合に興味はあるんですか？

成瀬　もちろん見たいですよ。山本は今ジャパン勢の中で一番ケガもないし、五体満足だしね。

――五体満足（笑）。

成瀬　五体不満足じゃないですよ（笑）。山本は一番充実してる選手だと思うんですよ。田村（潔司）さんなんかは連戦連戦で身体ボロボロだし。あの人はプロだから表に出さないけど、結構キツイと思

取材日は、成瀬の他に、山本宜久、金原弘光、滑川康仁なども道場で練習に打ち込んでいた。6・24後楽園で対戦する成瀬と金原は、距離をおいて練習に励みつつも、時折、相手の様子をうかがい牽制しあっていた（様な気がする）。闘いは既に始まっているのだ（たぶん）。1時半を過ぎ、ちゃんこTIMEに突入。本日のちゃんこ（だんご入りポン酢醤油）は森田トレーナーが担当。和田良覚レフェリーはみんなの人気者でした（意味不明）。

うんですよ。山本は周りの選手と見比べて、体格的にも近いし、一番元気だからやるべき人間ですよね。

――UFOも「元気が一番!」ですから（笑）。この本の発売時には金原（弘光）戦（6・24後楽園）の結果が出ちゃってますけど、次の8月の横浜文体で闘いたい選手って誰かいます？　まだだいぶ先の話ですけど（笑）。

成瀬　やっぱりバーリ・トゥードをやりたいッスね。でも金原さんに勝ってからでいいや。金原さんに勝ったら、バーリ・トゥードをやりたいですね。それで、リングスジャパン勢、初の一本勝ち！

――有明で、金原さんのバーリ・トゥードが流れたんで、まだジャパン勢一番乗りの可能性がありますからね。

成瀬　金原さんに勝てばその可能性もあるでしょう。これから2ヶ月に1回の試合で、満足な試合が見せられなかったらファンも納得しないでしょ。「お前、2ヶ月間何やってたんだ！」ってなりますよ。だから、その辺は逆にリングスは窮地に立たされたんですよ。もう言い訳できないんですから。でも、それは逆にいいんですよ、俺にとっては。

――それが、いい意味でのプレッシャーにもなるでしょうしね。

成瀬　俺はギリギリの感じが好きなんですよ。崖の上を歩くようにね。フラフラするかもしれないですけど、俺の場合は大丈夫だと思うんですよ。たまに苦しくて痛いのが気持ち良かったりなんかしたりするんで。だから、それで強い奴が光っていけばいいんですよ。俺も変にボーダレス化でね、爽やかなことばっかり言ってる訳じゃないから。俺と前田さんの考えてることとは、ちょっと違うかもしれないけど。

――前田さんとはちょっと違う（笑）。

成瀬　ちょっとね（笑）。それで、スパイスを加えるとしたら、仲良しクラブって言うんじゃなくて、ルールも決まって、エントリーする選手も決まったら、仲良しクラブになるはずがないですもん。腕が伸びたって絶対ギブアップしないヤツもいるだろうし、シバかれたって歯を食いしばって前に出てくるヤツもいるだろうしね。そういう試合をファンは見たいんだろうし。格闘技っていうのは、俺も前田さんと一緒で、もっとメチャクチャなドロドロしたものだと思うし。……ただ、カッコ悪い泥臭さもあるんですよ。あっ、またこんなわけわかんないこと言ってると前田さんに怒られちゃう（笑）。

――「女々しい！」って（笑）。

成瀬　そうそう（笑）。最近使いすぎですよ。女の子に失礼です。

――ヒャハハ！　女の子に失礼（笑）。

成瀬　まあそれはいいとして（笑）。だからトーナメントに参加して欲しいのは、とにかく根性があるヤツ。やるんだったら半端な覚悟で来て欲しくないし、俺はもう十分燃え尽きるくらいの覚悟は出来てますから。そんな長くない現役生活の中で、もっと納得した格闘技人生が送りたいだけなんですよ。高校卒業して、格闘家としてメシが食えたらいいなって思ってリングスに入ったんだから。それで格闘技はどんなものかって8年もやってきて、少しずつだけどやっと分かってきたわけだし。その中で、周りが納得して自分も納得してっていう試合は、そんなにないと思うんです。時にはつまんない試合もあるけど、根性対根性の試合ってやっぱり面白いですからね。ホントに格闘技は魂とか感情だと思うんですよ。ホントそれでいいじゃないかと。将来を憂いて、危険なことをしないで身の保身をするんじゃなくてね、細く長くじゃなく、太く短い格闘技人生にしたい。そういう選手が集まれば、これから全然面白くなりますよ。

トーナメントに参加してほしいのは とにかく根性があるヤツ！

成瀬昌由【なるせ・まさゆき】昭和48年3月15日、東京都杉並区出身。平成3年の第1回前田道場入門テストに合格。平成4年5月16日、有明大会で、唯一の同期でもある山本宜久戦でデビュー（結果は時間切れ引き分け）。成瀬にはイーゲン＆エンセンの井上兄弟を大幅に上回る6人の兄弟がいる。成瀬6兄弟のそろい踏みが見たい。上の写真は成瀬の愛車ＢＭＷである。

――ゴチャゴチャ言わんと中量級の日本一を決めればええやんっていう（笑）。

成瀬　そうですね（笑）。ホントにリスクはみんな同じですよ。俺だって温室に入ってるわけじゃないし、負ければ地に落ちるわけだし。リングに上がったら勝者と敗者、二つに一つしかないですし。だから目先の小さなことに不安になるんじゃなくて、どうせいつかは死ぬんだから、思いっきり好きなことをやれるうちに、後悔しない生き方を選んだ方がいいと思うんですよ。

――ボクもそう思います。今日はありがとうございました。

成瀬　最後に一言いいですか？

――恒例の（笑）。どうぞお願いします。

成瀬　最近読んだ司馬遼太郎の本の中で心に残ってるフレーズがあるんですけど、「人間の毒性ばかりをこせこせと見るのは小人のすることで、大人はすべからく相手の効能の面を見抜かねばならん」っていう。業界全体というか、人生そのもの、今の世の中のことについても当てはまると思うんですけどね。

――いや〜、勉強になります（笑）。

【6月12日、前田道場にて収録】

Masayuki Naruse

闘龍門ジャパン、クレイジーMAX所属、TARU本誌初登場!!

TARU激論集

成りあがり

聞き手／中村カタブツ君（36歳）
interview by Katabutsukun Nakamura

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

スーパーバイザー／吉田豪
photographs by Go Yoshida

How to be BIG

T.YOSHIKAZU

闘龍門JAPAN、クレイジーMAX所属のTARU。
このアクの強いツラ構えはタダモノじゃあないはずと、
ちょっと調べてみたら、イイ話がザクザク出てくる出てくる。
若い頃はかなりの豪勢な暮らしっぷりを
己れの才覚と腕力だけでつかみとっていたらしい。
昭和のレスラーが持っていた色気と破天荒さが漂う
TARUの"成り上がり"人生に迫る。
ちなみにT.YOSHIKAZUロゴは永ちゃんイメージでこちらが作ったもので、
リングネームはあくまでTARUです。お間違いのなきよう。

男だったらゴージャスな車に乗って旨いモンをたらふく食って、イイ女をはべらせたいと思うのは至極当然。愛だとか、恋だとか、清く正しくとだとか、ゴチャゴチャ御託を並べてみても、これも男のロマンであることに間違いはなし。そのためには——

成りあがり！

いい言葉だね。せめて、やってみろって言いたいよ（by矢沢永吉）。

当然、男ならやるべき!! ここに不遇な子供時代をバネにBIGなマネーを手にした男がいる。クレイジーMAXのTARUだ。タルちゃんマンだ。

TARUの豪快な〝成りあがり人生〟&〝How to be BIG〟に男の生きざまを感じてほしい。

（TARU選手の知り合いのカウンターバーでの写真撮影を終えて）

——撮影に協力いただいてありがとうございました。それにしてもTARUさんは顔が広いですね。

TARU そんなことないですよ。

——いやいや、神戸生まれで六本木にまで顔が利くんですから（笑）。

TARU いや、利くって程じゃないですけどね。みんな慕ってくれて、子分みたいに（笑）。

——子分みたいに（笑）。ちょっとある所から聞いたんですが、TARUさんって、若い頃はかなり豪勢な生活してたらしいじゃないですか。

TARU 金ボケしてる時代はありましたね、19か、20歳くらい（笑）。

——金ボケ！ 一度は言ってみたいシビレるセリフです（笑）。

TARU 20人ぐらい仲間を連れて毎日のように飲みに行っちゃあ、何十万と金を落としてましたよ、当時で。

——15年ぐらい前に（笑）。その頃の何十万っていうと使い手があったでしょ。

TARU 簡単に消えてましてたね。

——素敵ですね。当時は店を何軒か持ってたんですよね。

TARU 持ってましたね（笑）。

——やっぱり〝成りあがり〟って感覚だったと。

TARU そうですね。良い言葉ですねぇ（笑）。その言葉にあこがれて、中学時代は過ごしましたから。

——永ちゃんの『成りあがり』は読みました？

TARU 読みました（笑）。もう、何回も読みましたねぇ。絶対に富士山の麓に別荘を建てて門のところにT・YOSHIKAZUってタイルを貼りたいって思ってましたからね（笑）。

——〝How to be BIG〟（笑）。アレはかっこいいですよね。男の生きざまの最高峰！って感じですよね。まずはじゃあ、順を追って子供時代から聞せてください。

TARU 子供時代ですか。子供時代はあんまり家庭環境に恵まれない、ごく普通の不良っスよ。父親と母親が別居状態で、僕自身も別居状態でどちらにも引き取られないという。

——何でまた？

TARU 何でですかね。邪魔だったんですかね。兄弟もいるんですけど、みんなもうバラバラで。母親が結構頑張り屋なんで、いろんなところで男作って（笑）。

——兄弟みんなお父さんが違うと（笑）。

TARU ええ。でも、それが普通の家庭やと思ってましたから（笑）。

——普通じゃない、普通じゃない（笑）。

TARU だから、小学校ぐらいから商売始めてましたからね。

——はぁ!? どういうことですか？

TARU 池からオタマジャクシとかカニとかザリガニを取ってきて、スーパーの横で売ってたんですよ。一匹10円とか20円で。

——うわぁ〜、メチャクチャ生活力溢れてますね（笑）。

TARU だったんですけど通報されて……。

——ワハハハハ！ 抜群ですね（笑）。

TARU 金持ちの子供のローラスケートを借りて、そのままパクってそれを友達に「1回100円や」ゆうて貸したり（笑）。

——なんか、〝How to be BIG〟というより〝商いのやり方〟って感じになってきましたね（笑）。単純にお金がなかったんですかね？

TARU そうです。単純にお金がなかったんですよ。子供時代の僕の主食はパンの耳だったんですから。当時5円か10円で売ってたんですよ。それが主食でしたから。

——エェェェ!? メシ食ってないんですか？

TARU 学校行くと給食がありましたけど、あとはパンの耳（笑）。

——家でメシが食えなかったんですか？

TARU あちこちタライ回しにされて結局祖母に預けられたんですけど、あんまり家に帰らないで公園で暮らしてました（笑）。

——なんでまた？

TARU いや、それが普通やと思ってましたからね。夕飯時とかに、お姉ちゃんとかが呼びにきて帰っていく友達を見ながら「大変やなぁ、自由がなくて」って思ってましたから。

——鎖につながれてお前は生きるのかい？ と（笑）。なんか「オレだけ違うじゃん、寂しいじゃん。お父さんお母さんいないし」とかは思わなかったんですか？

TARU そういうスネた考え方はしたことはなかったですね。「僕は自由があってエエな」って思ってましたもん（笑）。

——自分一人で生活できるし（笑）。一人の時とかは何をやってたんですか。

TARU なんか、創作するのが好きだったんですよ。潰れたボーリング場とかに行って、機械を分解するのが好きやったですね。そういうことばっかりしてましたね。

——へぇー。

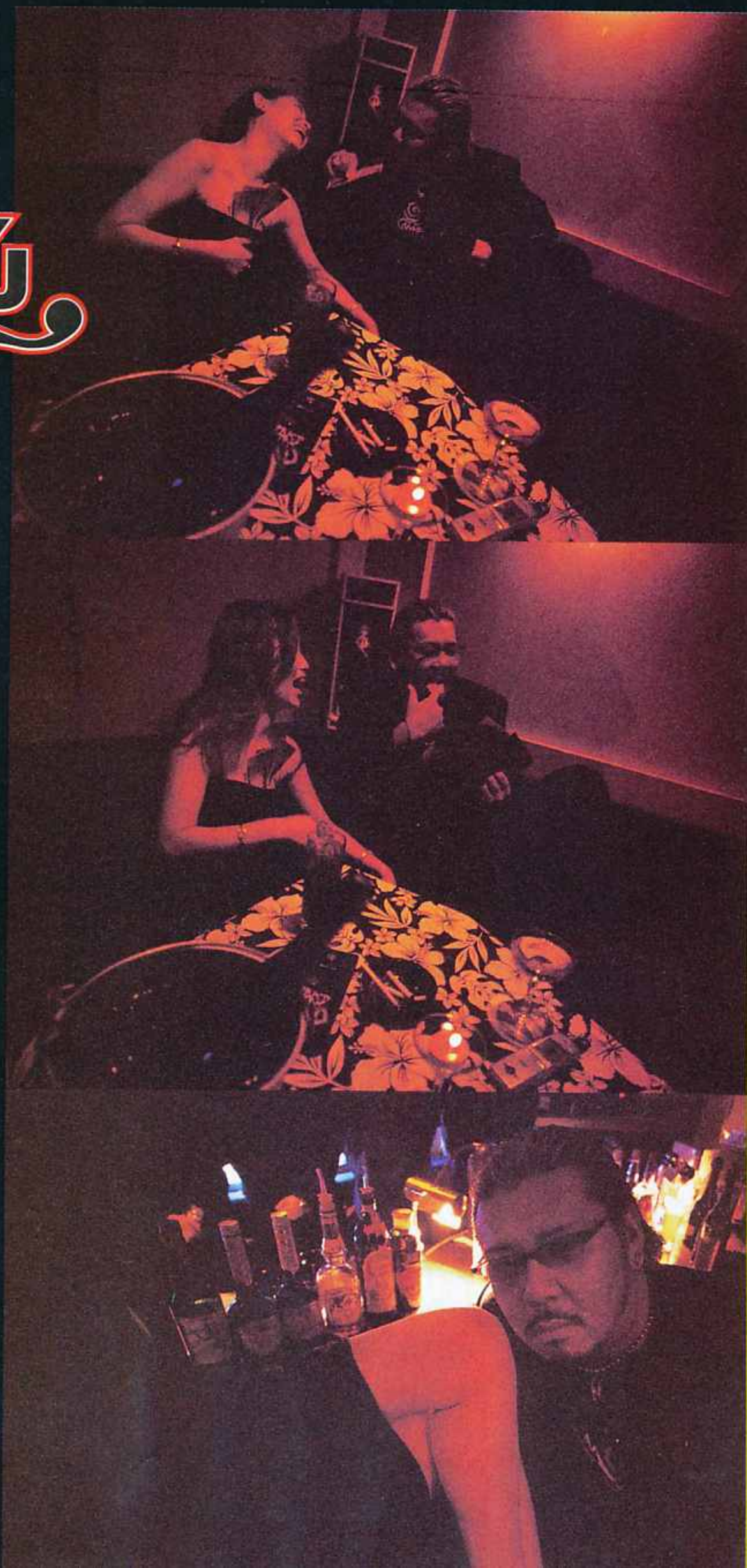
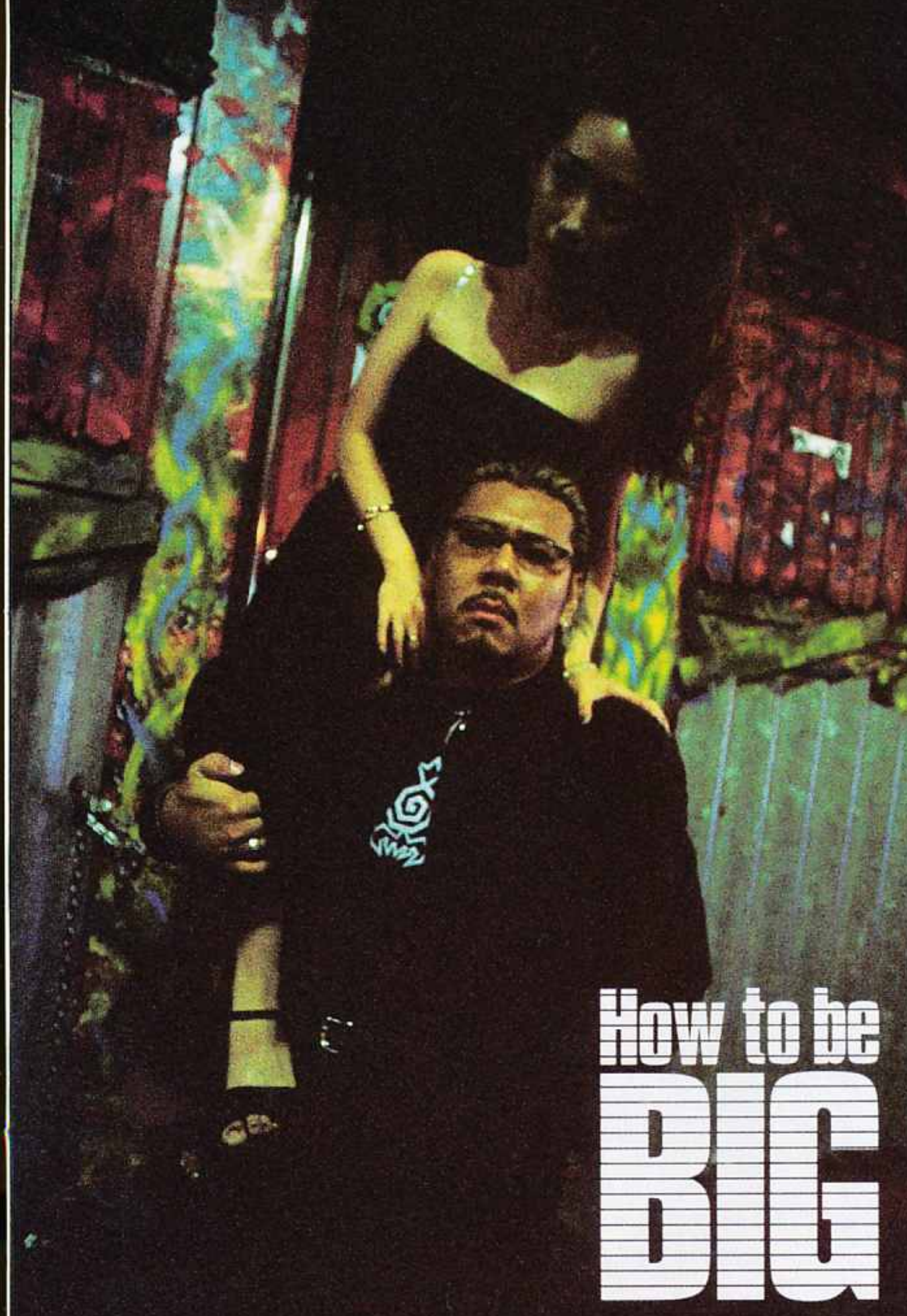
TARU 変わってますかね？

——いや、圧倒されます（笑）。じゃあ、一人でも全然寂しくなかったと？

TARU 忙しかったですね（笑）。「あれを分解せなあかん」といった意識がいつも働いてまして。分解して、それを売って、というような。

——ワハハハハ！ 結局、最後は商売（笑）。

協力：Craze　東京都港区六本木3-15-24BOX六本木202　TEL　03-3423-3344

How to be BIG

AYAKA【あやか】クレイジーMAXの女子マネジャー。メキシコ人の祖父をもつクォーター。数年前のレディース時代は関西圏でかなりブイブイいわせつつ、モデル業もキッチリこなしていた裏表のある人生を送る。心は凶悪、外面は非常に良しというC（クレイジー）ガール。

バレンチノのベルトとか、ディオールのシャツを着てましたね、高校時代。

TARU そうです、商売。そうしないと生活できないですから（笑）。
――なんで、そんなに生活力があったんですか。不思議なくらいにありますねぇ。
TARU なんや、分かんないですけどねぇ。周りの子がみんな金持ちやったからじゃないでしょうか（笑）。
――ワハハハハハ！ 物を売りつける相手がいっぱいいたと（笑）。もっと直接的にカツアゲとかも？
TARU もちろん！
――ワハハハ！ 言い切りますね（笑）。
TARU 近所の年上のお兄ちゃんをヌンチャク振り回しながらしょっちゅう追い掛けてました（笑）。
――で、そのヌンチャクももちろん自分で？
TARU 手作り（笑）。ブルース・リーのファンだったんでどうしても欲しくて。で、丸い木の棒を拾ってきて鎖でつないで。
――だけど結局、カツアゲの道具に（笑）
TARU はい（笑）。道具にしました。
――すべて道具にしますね（笑）。凄い人生を歩んでますねぇ（笑）。
TARU ですねぇ（笑）。
――高校の時はどんな悪さを繰り広げてきたんですか？
TARU 小学校の時から、どっか行っちゃあカランでお金貰ったりとかしてたんで、なんかあるとすぐに問題沙汰になるんですよ。だけど、僕、バレーの推薦で学校に入ってたんで。
――じゃあ、おとなしくしてないと学校をクビになっちゃいますね。
TARU あんまり大きくなるようなワルい事はしてないです。窃盗とかですね。
――ワハハハ！ 控えめにして窃盗ですか（笑）。
TARU 単車盗んで、乗り回してましたね。
――で、飽きたらそれを……。
TARU 売ってましたね（笑）。
――最終的には必ず銭に結びつけますね（笑）。
TARU ええ（笑）。
――商売っ気はホントにありましたねぇ。で、高校時代はその商売っ気は開花したんですか。
TARU もう高校時代は凄いですよ。部活終わってから、居酒屋に行って、そのあと、ホストクラブみたいなとこ行って、そのあと新聞配達やってましたから。だからまるっきり寝る時間がなかったですね。授業中に寝てましたから。
――ホストはどうですか？ モテたでしょ？
TARU「何なんかな？」っていう世界やったんですよ。女の人がお客さんで来て、ちょこっとおしゃべりして、お酒作って。そしたら、何万と貰えたんですよ。「えぇーっ！」って思いましたね。
――突然お金持ち（笑）。
TARU 新聞配達で1ヵ月6万、7万っていう世界なのに、ちょこっと2、3時間話しただけで、何万とか貰えたり、チップとか貰えたりして。「うわぁ、これは悪いことや」と思って罪悪感ありましたからね。
――ウソォ！ それまではもっとヒドイ事してたのに（笑）。
TARU いやぁ、女の人からお金貰えるっていうのがね、信じられなかったんです。毎回プレゼントとかもあるんですよ。
――めちゃくちゃモテてたんですね（笑）。
TARU いや、モテるというか、それが当たり前ような感じやったですからね。バレンチノのベルトとか、クリスチャンディオールのシャツとかを普通に着てました。
――それ、高校時代の生活だったんですか？
TARU そうです、そうです。
――スゲェ！
TARU いや、だけど年を偽って仕事してたんでちょっと心が痛んで辞めたんですよ。16〜7の時に、19やと偽ってたんで。
――でも、だけど一番実入り的には良かったんじゃないですか？
TARU 怖かったんですよ。
――怖かった？
TARU 今まで、何かを取ってきて、売って、とか苦労があったわけじゃないですか。
――確かに苦労ですね（笑）。
TARU それが座っただけでお金をもらえるということに「ちょっと怖いな」と思いまして。
――そんな楽チンに儲けるのはイヤだ、と。
TARU そうですね。イヤです。
――盗みはするけれども、女から銭取ったりのは。
TARU イヤですね。
――硬派だったんですねぇ。
TARU それが硬派と言えるのかどうかは、分かんないですけど変なとこに潔癖症だったんです。
――女性関係はどうだったんですか。
TARU 中学、高校時代を通して7年間ひとりの女性と遊び明かしましたね。
――一筋だったんですね。
TARU 一筋ですよ。その時は。ずーっと。
――その彼女のためにも、いろんなものを買ってあげようとか。
TARU というか、結婚しようと思ってましたもん。ガキ時分ってあるじゃないですか、そういうの。高校時代の学ランまだ持ってるんですけど、そこのところの裏に刺繍がしてあるんですよ。その子の名前が刺繍してあるんですよ。
――〝なんとか命〟みたいな。
TARU ええ。だけど、仲間はコロコロ変えるから学制服の内側がもうボロボロになってるんだけど僕は一本でやっていきました。
――じゃ、そいつのためにビッグになろうと。
TARU その時からもう、働きましたね。働きに働いて。
――馬車馬みたいに（笑）。
TARU そうそう（笑）。18〜9の頃は思いっきり働きました。本当に寝る時間、睡眠時間がないくらい、働きましたね。それでも元気でしたからね。なんか、ガムシャラに働きましたね。で、その時にお金をためたんですよ。結婚式のためにためたんですけど、終わってしまったんですよ。
――彼女とですか？
TARU 結婚してしまったんですよ（笑）。他の男に取られてしまったんですよ。
――働きすぎて（笑）。
TARU 働きすぎて会える時間も少なくなって、「あららーっ」て言っているうちに、他の男に取られてしまったんですよ。
――うわぁー、一番切ないパターンですね。
TARU ええ。それでもう、馬鹿らしくなって「何かやったれ」と思ってそっから商売始めたんですよ。
――それで店を持つようになって。

TARU　貯めた金もあったんで。ショーハウスとかがまだなかった時代で、「これがエエな」と思ってやりだしたら、なんか当たってしまったんですよ（笑）。

――儲かりました？

TARU　いやー、もうウソみたいに儲かりましたよ（笑）。

――それで金ボケ時代が始まると（笑）。

TARU　左うちわでしたね（笑）。

――どんな生活してたんですか。例えば服とかは？

TARU　学校の講堂のカーテンあるでしょ？　キラキラしたヤツ？　そんなスーツ着てましたからね（笑）。

――あのビロード地みたいヤツ？（笑）

TARU　はい。当時、DCブランドって流行りまして、あの系統の服とか、全部。

――高いヤツだと20万30万軽くするような。

TARU　そうそう。その20万30万の服、着てましたね。

――豪勢ですねぇ（笑）。貴金属は？

TARU　もう、成りあがりでしたからね。こんなね、200gの金の喜平とか買ってましたけどね（笑）。

――いやぁ、抜群ですね。

TARU　ギラギラしてましたよ（笑）。もう、今は考えただけで恥ずかしいですけど、見ただけで「ああー、コイツ成り上がり」っていうようなん買ってました。

――やっぱり成りあがりですよね（笑）。

TARU　ええ。もう、永ちゃんの世界に憧れてましたから。

――じゃあ女性関係の方も、それはもう。

TARU　彼女と別れてからはメチャクチャになりましたね。真面目なんが、どっかでもうプッと切れて。

――とっかえひっかえ。

TARU　とっかえひっかえ、やりましたからねぇ。ガンガン行きまくってましたからね。

――女は抱き放題、いいもんも食ってと（笑）。車はどんなのに乗ってたんですか。

TARU　最初の頃はRX―7に乗ってたんですけど、すぐに飽きてベンツに。あっ！　その前にBMWに乗ってました。

――ワハハハハ！　その前にBMWですか（笑）。

TARU　なんか、子供の時にひとりでいた反動があったんでしょうね。たいがい、仲間と遊んでましたね。

――で、何10万もメシをおごって（笑）。

TARU　そういうのが好きやったんですよ。みんなでメシ食うのが。

――そういうのって気持ち良いですよね。

TARU　やっぱり寂しかったんでしょうね。ちっちゃい頃の反動が来たんだと思います。それで、この年になって、慕ってくれる人がいっぱい出来て。だから良いな、と思うんで。お金よりも人が……。

――じゃあもう、その時はお金の良い部分、悪い部分を知り尽くしたって感じですか。

TARU　そうですね。あのままで来とったらダメになったと思うんですよ。だけど幸か不幸か早い時期にポシャッたんで。

――最高の時期ってどれくらい年収があったんですか？

TARU　ご想像にお任せします。軽くビルが建つくらい（笑）。

――スゲェ～！　その時、店は1軒だけだったんですか。

TARU　2、3軒ぐらいですね、その当時。

――どんなとこに住んでたんですか？

TARU　いや、僕、住んでるとことか食べるものは質素なんですよ。賃貸に住んでたし。

――家賃はいくらぐらいですか？

TARU　20万くらいのところに住んでました。

――20万って！　当時の20万っていったらかなりの額じゃないですか（笑）。

TARU　そうですね。

――でも、その当時はそれで質素って言えるぐらいのものだったと（笑）。

TARU　そうですね。質素でした（笑）。ご飯も質素でした。お好み焼きでした。

――ウソォ（笑）。

TARU　お好み焼き好きなんですよ。

――でも、ちょっと贅沢はしてたんでしょ？

TARU　ええ。伊勢エビが1匹乗ってるやつ。

――ワハハハハ！　伊勢エビが乗ったお好み焼き（笑）。だけど、それだけバブリーだとかなり危険な目にもあってるんじゃないんですか？

TARU　裏の道っていうか……。例えばお店1軒出すにしても知らなきゃいけない裏の道のルールがあるんですよ、あの世界は。だけど、そういうのと繋がるのが嫌だったんで自分で自分を守ってかないかんな、と。無駄なお金を出したくなかったんですよ。

――真樹日佐夫先生が梶原一騎先生とふたりでバーをやってた時も絶対にみかじめ料とか払わなかったらしいですね。

TARU　一緒ですよ。それが嫌やったんですわ。自分ひとりでずっとやってきてたんで。

――その当時、まだ10代ですよね？　ヤクザと渡り合うつもりでいたんですか？

TARU　そういう考えは持ってましたね。

――だけどヤクザ関係ともめるのって怖いですよね？　簡単には済まないじゃないですか。

TARU　モメましたねぇ。連れていかれましたよねぇ（笑）。

――うわぁ～。連れてかれたんですか。

TARU　ええ。でも、逆に下っ端の人とはそういう事になりますけど、上の人と会えば気に入ってもらったり、あるいはこっちの気持ちを分かってもらったりで。最初はモメますけど、そのうち仲良くなったりするパターンがありますから。「何かあったら言うてやるよ」て形になって、だんだんそれから広がっていって「あそこには手を出さん」っていうようになっていったんですよ。

――それは人間性と腕力って言う感じだったんでしょうか？

TARU　そうですねぇ。若かったから、そういうのがあったんでしょうね。ホント、毎日ケンカしてましたからね。

――しかも負けられないですからね。

TARU　ビン持ってましたからね。

――え？

TARU　ビン持って殴り合ってました（笑）。

――怖ぁー！

TARU　怖いですよ。いつ刺されてもおかしくないような時期ありましたからね。

――ホントに刺されたことはなかったんですか？

TARU　かすったくらいはありますけど。ガタイがデカイじゃないですか。だから、そこまで危険な事はなかったですけど。

――今まで、1番凄い喧嘩って言うのはどんな喧嘩だったんですか。

TARU　殺る殺られへんていう話ですね。家まで来たりとか、囲まれたりとか。

――狙われたりしたことはないんですか？

TARU　いや、ありますよ。

――ありますか（笑）。ところで、TARUさんは空手の武輝道場出身ですよね。だけどそこまで実戦を積んでたら空手というか武道の道には興味なくなるんじゃないですか。

TARU　いやいや、空手は子供の頃から好きでしたからね。『空手バカ一代』とか読んでましたから。もう空手が世界で一番強いと思ってましたから。小学校の時から自分で練習して巻ワラ叩いたりとか（笑）。

――あの当時は空手最強説が高まってましたからね。

TARU　ええ。で、中学になると極真に入ってどーのこーのって奴がいっぱい現れたんですよ。もう、なんやかんやってケンカ売ってくるしね。そういうのが悔しくってねぇ。公園で木があるやないですか、松の木とか。そういうのを相手に蹴りの練習とかよくやってましたよ。夜遅くまで。

TARU

闘龍門興行では武輝時代の空手スタイルは封印し、ストーカー市川とのからみでタルちゃんマンというお笑いギミックまで披露。メキシコでプロレスの幅の広さを十分に吸収した結果だ

How to be BIG

ヤクザとはモメましたよねぇ。連れていかれましたよ。

——勝つために?

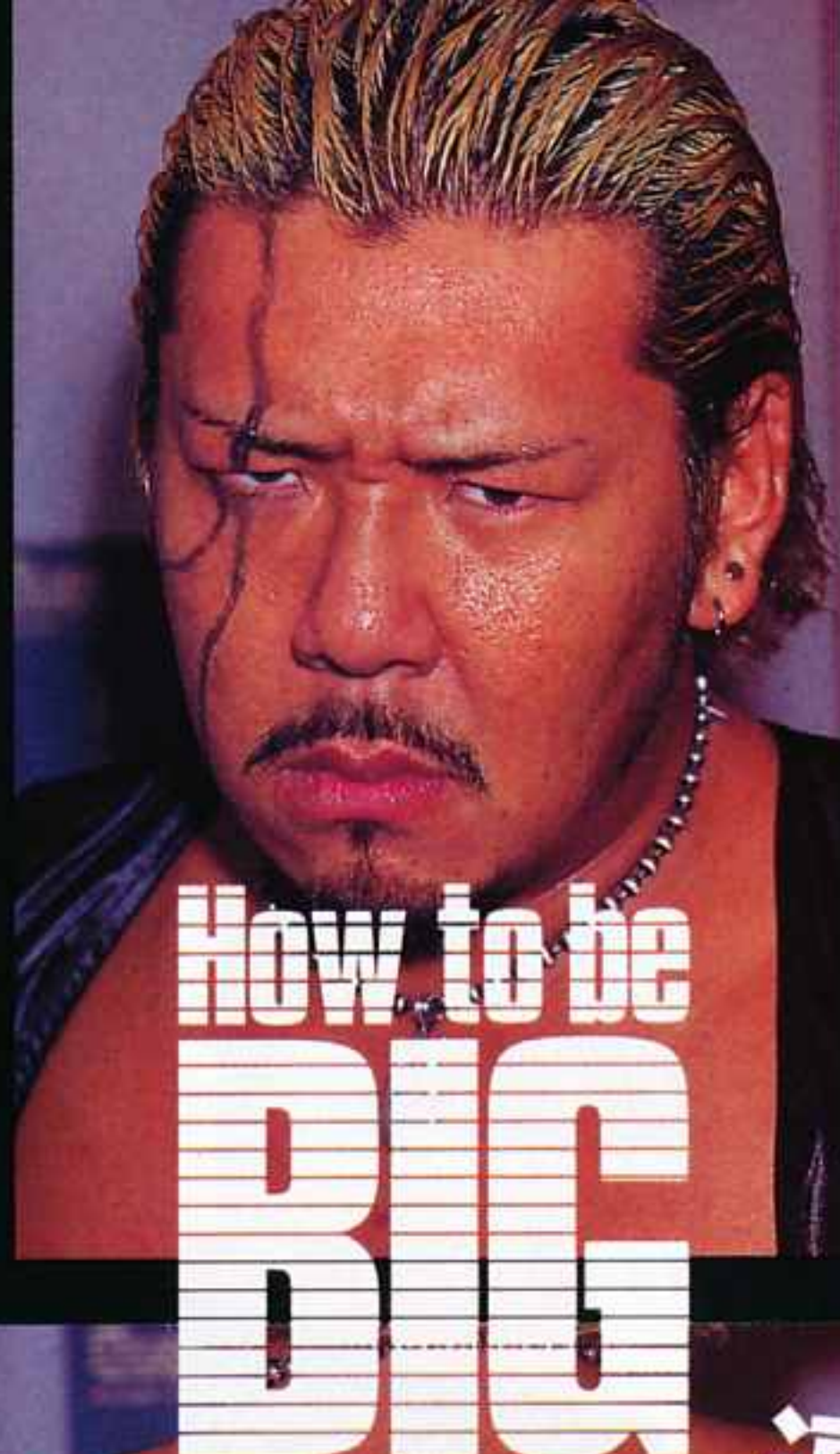
TARU というか、殴られてお金取られたら生きていけないんで(笑)。

——そうでしたね(笑)。生きていくために。で、実際に道場に入ったのはいつ頃なんですか。

TARU 22ぐらいの頃ですね。岡村(隆志)と知り合って。だけど道場に入ると看板守らなあかんし、絶対街でもケンカできんやないですか。それが嫌なんで(笑)。「空手だけ教えてくれ」って言ったんですよ(笑)。

——またずいぶん都合のいいお願いですねぇ(笑)。

TARU それで岡村が「街でケンカするんやったら、リングでケンカしたらどうなんや!」って。で北尾道場を紹介されたんですよ。

——それがきっかけだったんですか。それじゃ、プロレスに入りたいとかは思っていなかったんですか?

TARU 憧れてはいましたよ。タイガーマスクのファンだったし。だけど、自分がプロレスの世界に入っていくなんて、夢にも考えてなかったですから。

——ところで店の方はどうなったんですか。

TARU もうバブルな時代はとっくに終わってましたわ(笑)。だから、北尾道場に入ってしばらくして畳みました(笑)。

——じゃあ、そこから今度はプロレスラー一筋に。デビューは遅いですよね。

TARU 31ですね。(笑)。

——結局、空手は何年ぐらいやったんですか。

TARU 7年ぐらいですかね。

——店をやりながら。

TARU ええ。

——街で喧嘩しながら(笑)。

TARU そうですね(笑)。

——それで店辞めて31歳でレスラーデビューですか。波乱万丈っていうより無茶ですよ(笑)。

TARU 無茶ですよねぇ(笑)。ムチャクチャですねぇ。

——ねぇ(笑)。で、北尾さんとは一緒に練習したんですか。

TARU やりましたね。上に乗られて動けなくなったり、ウェートのやり方とか蹴りとかやらされましたよ。

——蹴りとかパンチとか効きました?

TARU 重かったですね。ズシン、と。でも蹴るとこ蹴ったら倒れますからね。

——頼もしい発言ですね(笑)。

TARU だから、アレなんですよ。プロレスラーと試合して、例えばWARの選手とやった時に大型選手がいるじゃないですか太刀光さんとか、嵐さんとか、天龍さんとか。肌合わしたときに「コレがプロレスか!」って思ったんですよ。これじゃいかんと。

——勝てない?

TARU 勝てないというか、1発の蹴りで倒しても、2発3発目は返してくるっていう怖さがあるんですよ。蹴っても、立ちあがってくるというか。そんな怖さがあって、それで「いかん!」と思ったんですよ。実際問題、1発張り手喰らったり、ラリアット喰らったりした時に腰が飛びましたからね。

——腰が飛ぶ?

TARU 背骨が折れましたからね。背骨の横の細かい骨が。記憶無くなりましたから。病院送りになりましたから。もう、「何しても勝てないんじゃないか?」って。それよりも、それに耐えられるだけの体力をつけようと思ってそこからメシを食いましたね。

——じゃあ、体で分からせられちゃったっていう。

TARU そうですね。

——その前まではまだ……。

TARU そうですね。顔面にハイキック入れたら、あるいは倒れるんじゃないかって考えましたけど、タックル1本で吹っ飛びましたからね。

——身体がデカイっていうのは凄いことですからね。

TARU それは浅井さんに連れられてWCWに行った時も感じましたからね。肌を合わせるまでは「なんだ、コレ?」って思ってましたから。

——俺の蹴り1発、パンチ1発を見せつけてやるみたいな?

TARU 相手は2メートル近くあるバリー・ウィンダムとかいう選手だったんですけど、全然効かないんですよ。実際痛いとかいう場所はあるんですけど、試合してるうちに「そんなことしたからって何や?」って気になってしまいましたね。大きなモノを見せられましたね。

——パンチが効いたとか、効かないとかなんていうのは小さいことだと。

TARU ええ。効かすとか、勝つとか、倒すとか。そんなんじゃないんですよね。雰囲気。すべての雰囲気。お客さんから何から。これを見て、お客さんはどう思っているのか、どう見えているのか。何か、いろんなものが見えたんで。自分の考えてることが小っちゃいなと思って。

——商売人のカンでそっちの面白さに気づいたってことですか?

TARU そりゃ面白いですよ、客商売は。難しさもよく知ってるし。

——当たればデカイのも知ってるし(笑)。

TARU そうですね(笑)。

——ところでTARUさん、結構身体はボロボロなんじゃないですか?

TARU 今までレスラーで頑張ってきて35歳やったら良いんですけど、31歳でデビューして35歳ですからね。あちこち痛いですよ(笑)。

——そりゃそうでしょ。

TARU まぁ、入った以上は当然頑張りますよ(笑)。(その言葉通り、6月13日みちのくの新崎人生戦では体育館の2階から飛び降りる、膝ケガしてるのに。凄ぇぜ、TARU!!)

——じゃあ、今度はプロレスでBIGになってください。

TARU 成りあがりますよ(笑)。

——ゴールドラッシュを掴んでください(笑)。

【99年6月9日 六本木『Craze』にて】

T.YOSHIKAZU

TARU【たる】1964年8月23日神戸生まれ。21の頃より岡村隆志の元で空手を学び、1996年31歳の時に武輝道場よりプロデビュー(空手時代の成績がないのは本文を参照していただきたいが、岡村いわく実力は黒帯3段クラス。そりゃそうだ空手やる前からヤクザと喧嘩してたんだから)。北尾光覇らにプロの洗礼を受け、プロレスを学び直すために昨年メキシコに渡り、ウルティモ・ドラゴン率いる闘龍門に留学。その介あって空手スタイルのほかにタルちゃんマンというお笑いギミックをも身につけ、現在、シーマ・ノブナガらとともクレイジーMAXとして『みちのくプロレス』ほかに参戦中。

“成り上がり”TARUが見たければここだ!! 闘龍門『ドラゴンキャラバン99』 7月4日:福岡スターレーン 7月11日:兵庫・神戸ワールド記念ホール 7月16日:神奈川・横浜文化体育館
【お問い合わせ】078-362-0707(闘龍門ジャパン)

読プレのファッション革命宣言!!

kämper カンパー

みなさ～ん、ジャイ子間違ってました。プロレスファンだけに甘えていてはダメなんです！　これからは読プレも世間を意識しなければ！　というわけで、これからはオシャレでグラフィックな読プレ作りをモットーにやっていきたいと思う所存であります。オシャレなグッズをみなさんにカンパしちゃいますので、オシャレなハガキをお待ちしてま～す（ちょっとクドかったぁ?）。ジャイ子

オシャレな T-Shirtコーナー

浅草キッド血塗れTシャツ

セットで7名様

「浅草キッド路上襲撃事件」（前々号ピンナップ参照）でターザン山本に襲われたときに着てたTシャツをプレゼント。ご希望であればターザンのサインも付けます。

【浅草キッド提供】

オーチャンTシャツ

各3名様

飛行機ポーズがラブリーなオーチャンTシャツ、黒はM・L。ラグランはXS・S・M・Lで6・29のUFO大阪大会から3000円で発売されます（他では3500円。同時発売のウォーリーTシャツは次号でドドーンとプレゼント予定。乞うご期待！

【UFO提供】

モデル／和術慧舟會・廣野剛康選手

HAOMING Tシャツ

各1名様

最近はオシャレ雑誌にも頻繁に登場、猿岩石のどっちかも愛用中でお馴染みの（?）HAOMINGの新作。アディオスTシャツ、寝技Tシャツともに3400円でチャンピオン東京店、渋 谷クアトロのブレーンバスターでも販売中です。通販希望のかたは☎090-8173-2261まで 。

【HAOMING提供】

大和撫子Tシャツ、加藤鉄史Tシャツ

各1名様

女子のみなさん、お待たせしました。大和撫子Tシャツです。大和魂ボーイとペアで着ればステキなデートになることうけあい。ところで大和撫子ってどういう意味か知ってる?辞書によると「日本の女性」だって。なんだそれだけか。そして5月29日の修斗横浜大会では見事勝利を飾った加藤鉄史選手のTシャツも登場。両方ともお問合せはイーフォース・ジャパン☎047-378-6403まで。

【イーフォース・ジャパン提供】

梵婆家Tシャツ

各1名様

デカい!!　アンドレ・ザ・ジャイアントの実物大手型がプリントされた梵婆家オリジナルTシャツ。バックに梵マーク入り。梵婆家でも販売してます。お問合せは☎03-3323-5629・梵婆家まで。

【梵婆家提供】

マサカレッジTシャツ／シンTシャツ バンディTシャツ／ブッチャーTシャツ

各1名様

根強い人気のマサTにまたまた新色登場！　シックな色あいがステキ。オトナなあなたに。通販も受付中なので、まずは☎03-3460-1145バンバンビガロに在庫確認を。

【バンバンビガロ提供】

ブロディ&スヌーカTシャツ SWSTシャツ ダイナマイト・キッドTシャツ マスカラスTシャツ マードックTシャツ

各1名様

恐竜マークTシャツが大好評のノーザンライトの新作でーす。本誌山口日昇はキッドTシャツ愛用中で～す。各3800円で通販も受付中。お問合せは☎0422-20-9567またはホームページhttp://www.ask.ne.jp/nort/hwa.htmまで。

【ノーザンライト提供】

TARUさんTシャツ

TARUさんが背中でイカツク微笑んでくれるこのTシャツは非売品の鬼レアグッズ!!　フロントはクレイジーマックスのマークが入ってます。

【TARUさん提供】

ごめんなさーい。ジャイ子まちがえちゃいましたぁ。
●ビガロの上段、中の写真はノーザンライトのブロディ&スヌーカTシャツです。
●前号で加藤鉄史選手の名前がまちがってました。反省してます。ジャイジャイ。

RADICAL No.19 逆半レプリンセス 応募券

オシャレな

Videoコーナー

2名様

『武藤敬司・橋本真也・蝶野正洋 闘魂三銃士見参』
91年に発売されたビデオの復刻版。蝶野vs破壊王のヤングライオン杯決勝戦、武藤のテレビ初登場試合など、レアな映像がテンコ盛り。
【東芝EMI提供】

2名様

アントニオ猪木30周年メモリアル
『猪木vsシン遺恨抗争三決戦』
これまた復刻版。昭和49年、50年に行なわれた猪木vsタイガー・ジェット・シンの3試合を収録。裏ジャケのサーベル持って半笑いのシン、怖いッス。
【東芝EMI提供】

セットで2名様

『STRONG STYLE SYMPHONY NEW JAPAN SPIRIT 1999』PART1&PART2
4・10東京ドーム大会を全試合ノーカット収録! もちろん第0試合はサスケ社長の解説入り。ライガー&サスケ組のIWGPジュニア・タッグ奪取、石川&アレク組登場など、ボリューム満点。4時間かけて見てください。
【東芝EMI提供】

3名様

『大谷晋二郎特集』
スーパーJr.でも熱戦を繰り広げた「名勝負製造機」こと大谷晋二郎を大特集。独占イン タビューでは大谷節炸裂です!!
【VALiS提供】

2名様

『STARLET'99 新世紀の舞姫登場!』
3月16日、4月14日の後楽園大会を収録。故・門恵美子選手vs東樹広弓戦、藤田愛デビュー戦、CAZAI結成シーンなど見どころ満載。
【クエスト提供】

3名様

『ゴールドバーグ WHO'S NEXT?』
WCWのスーパースター、ビル・ゴールドバーグの大特集! 衝撃のデビュー戦、ホーガン とのタイトルマッチなどなど、アメプロ初心者からマニアまで満足させちゃいます。
【VALiS提供】

2名様

『修斗バイブル 奇人・朝日昇のスーパーテクニック』
朝日先生が修斗のテクをみんなに伝授! 構えからタックル、関節まで、お茶の間で修斗が勉強できます。家族団らんにも最適。
【クエスト提供】

2名様

『エンターテイメント・レスリング・パワーライブ』
大混乱となったFMW創立10周年記念大会を全試合収録。控室でのインタビューもバッチリ入ってます。ゲストに冬木、島田レフェリーも登場。コッ!
【東芝EMI提供】

5名様

『1999年のヤマトダマシイ』発売記念Tシャツ
エンセンのビデオが2本組で登場! 修斗、バリジャパから「PRIDE.5」まで、エンセン本人が解説してます。8000円で絶賛発売中。今回は発売記念のヤマトダマシイTシャツをドドーンとプレゼント!
【クエスト提供】

オシャレな

Figureコーナー

1名様

タイガーマスクフィギュア
翻したマントがなんともステキなタイガーマスクのフィギュア。なんと覆面ワールドリーグ戦チャンピオンベルト付き。伊達直人にもなるよ。お問合せは1/6計画☎03-5489-3495まで。
©梶原一騎・辻なおき/講談社・東映動画
【メディコムトイ提供】

1名様

矢吹ジョーフィギュア
憂いのある表情に胸キュンな女子多数との情報もあるジョーも再登場。う〜ん、語呂がいい! コスチューム付きなので着せ替え好きなアナタもどうぞ。お問合せは1/6計画☎03-5489-3495まで。
©高森朝雄・ちばてつや/講談社 対象年令10歳以上
【メディコム・トイ提供】

1名様

力石徹フィギュア
好評につき再登場! 写真のコスチューム姿の他に、野性味溢れる東光特等少年院の制服もついてます。ジャンジャン着替えさせてください。お問合せは1/6計画☎03-5489-3495まで。
©高森朝雄・ちばてつや/講談社 対象年令10歳以上
【メディコム・トイ提供】

1名様

あしたのジョーフィギュア
『丹下拳闘クラブ 〜あしたのために〜』
こちらは新作。ジョー&丹下段平with子どもたちのジオラマセット。段平フィギュアは業界初だそうです。フィギュアマニアはマストだ! 泪橋の看板(?)も付いてるよ。お問合せは1/6計画☎03-5489-3495まで。
©高森朝雄・ちばてつや/講談社
対象年令10歳以上
【メディコムトイ提供】

応募要項

欲しい商品が決まったオシャレさんは、ハガキに右の要領で記入の上送ってチョンマゲ。締切は7月20日必着。あ、やっぱ消印有効にします。ヨロピク。(応募券のないハガキは無効です。気を付けてね。ジャイジャイ。)

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名 ❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼『PRIDE.0』(P118〜)の勝者は誰?
❽ハガキ道場(ノブ)とハガキ劇場(チョロ)あなたはどっち派?
❾ジャイ子初インタビュー(P86〜)の感想は?

[宛先は]
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「そしたら私が損じゃん!!」係 まで

オシャレな

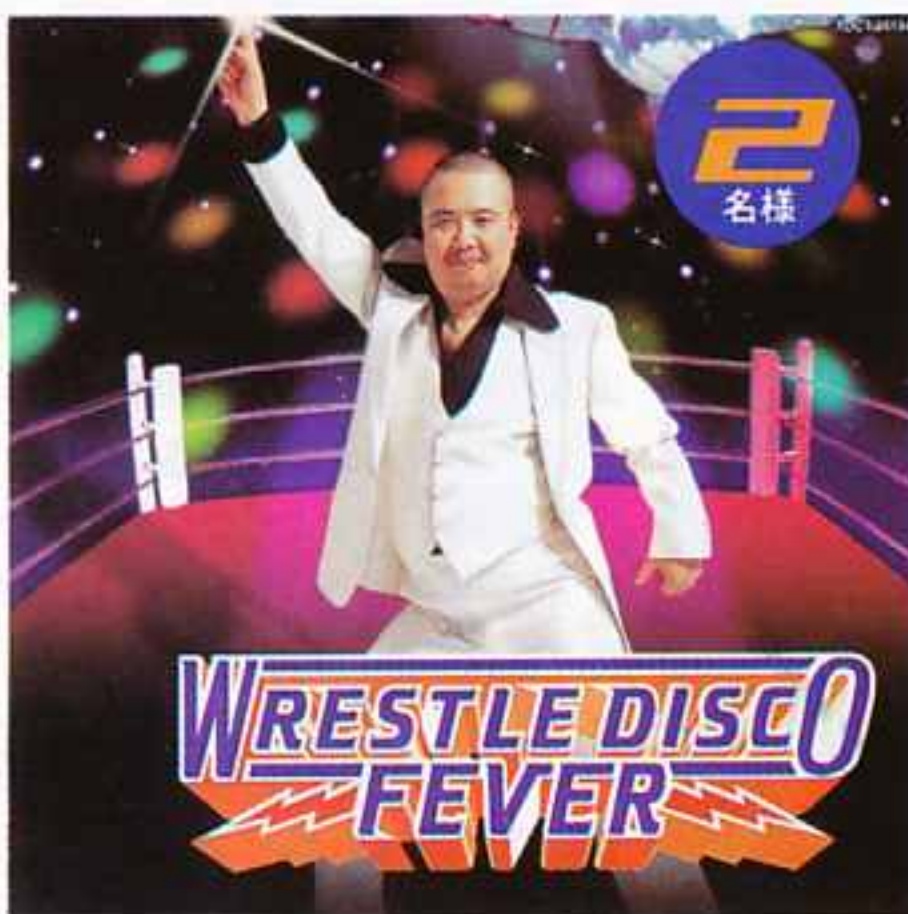
Goodsコーナー

5名様

つぼプロモーション旗揚げ記念
『ツボつぼ押し携帯ストラップ』
6月1日、めでたく旗揚げ戦を終えたつぼプロモーションの記念グッズ、携帯ストラップでありながらツボも押せるというまさにツボを突いた一品。ジャイ子も絶賛愛用中。
【つぼプロモーション提供】

3名様

プレステソフト
『ファイヤープロレスリングG』
ファイプロ新作ついに登場! いやぁ〜、今回も凄いッス。金網あり、オクタゴンありで、あの選手とあの選手の金網デスマッチも自由自在。カードと場所決めるだけでもメチャメチャ楽しい! マニアの皆さんは、今回も名前を入れ替えるとこから始めましょう。
【HUMAN提供】

2名様

『レッスル・ディスコ・フィーバー』
Jさんステキィィィ! ジャケだけでもマストだけど、もちろん中身もすごい!! 『炎のファイター』『パワーホール』『ワイルドシング』など、おなじみのプロレステーマがディスコヴァージョンになっちゃいました。中ジャケではJさんがディスコのステップを指導してくれてます。
【東芝EMI提供】

5名様

『ジャイアントグラム〜全日本プロレス2 in日本武道館〜』発売記念QUOカード
ドリームキャストから全日ゲームが発売されましたぁ。すっごいリアルでしょ、でも実写じゃないよ。発売記念の特製QUOカード(コンビニ、スタンド等で使えます)をプレゼント! 使う? 取っとく?
【セガ・エンタープライゼス提供】

3名様

アミノコンプレックスEXタブ
みんなぁ、健康ですかぁ? これは植物性たんぱく質をベースに作られたタブレット。筋肉づくりに欠かせない岐鎖アミノ酸の含有量が多いので、これ飲んで運動すればキミもヤセマッチョ間違いなし! 600粒入4300円で絶賛発売中。お問合せはGGP 03-3699-6364
【ゴールドジム提供】

5名様

富家孝先生著
『「小太り」のすすめ』
「これからの男は太りぎみがいいんです!」と男らしく言い切る新日リングドクター・富家先生の本。あくまでも「小太り」なので1冊盛んだ大太りの坂井ノブ君返してください。
【ダイヤモンド社提供】

紙のプロレス RADICAL
No.19
1999年7月25日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井ノブ
松澤チョロ
八木賢太郎（真夜中のドライブで非番）

スーパーバイザー
吉田豪

元パンクス
佐藤恵美

助っ人
恒遠バカツネ
中村愚乱
青柳スコラ氏
阿部哲也
松浦大輔
金田謙太郎
熊倉萬

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
出前持ち入江
セッキー＆グッチー（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上早乙女の事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
戸成ぶつぞう
愛甲タケシ
大森大祐
黒田史夫

試合写真
平工幸雄
長尾迪

お勘定
林ヘックション一枝

泣かし屋
中村カタブツ君（36歳）

フィニッシュ
ツー・スリー／早乙女の事務所

印刷
図書印刷株式会社

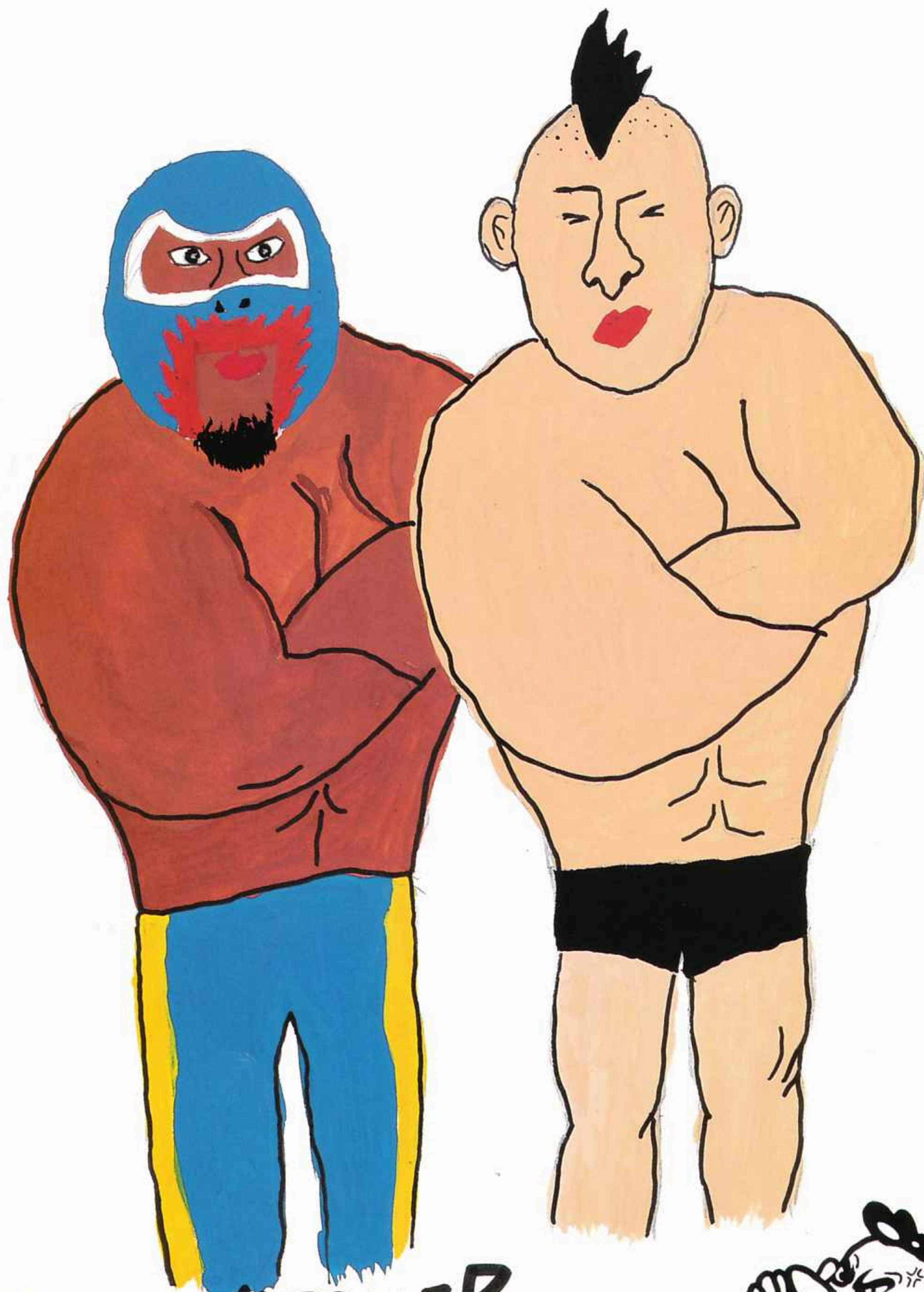
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ニクボウ
ジャイ子

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-0014 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）

No.20は7月下旬発売予定!!あとは各自調査!!

※地域によっては3〜4日発売日が異なります

限られたスペースですが東芝EMIは、先日不慮の事故で急逝された
オーエン・ハート選手に対し心より哀悼の意を表します。そしてがんばれWWF!

新日本プロレスリング オフィシャル・ビデオ

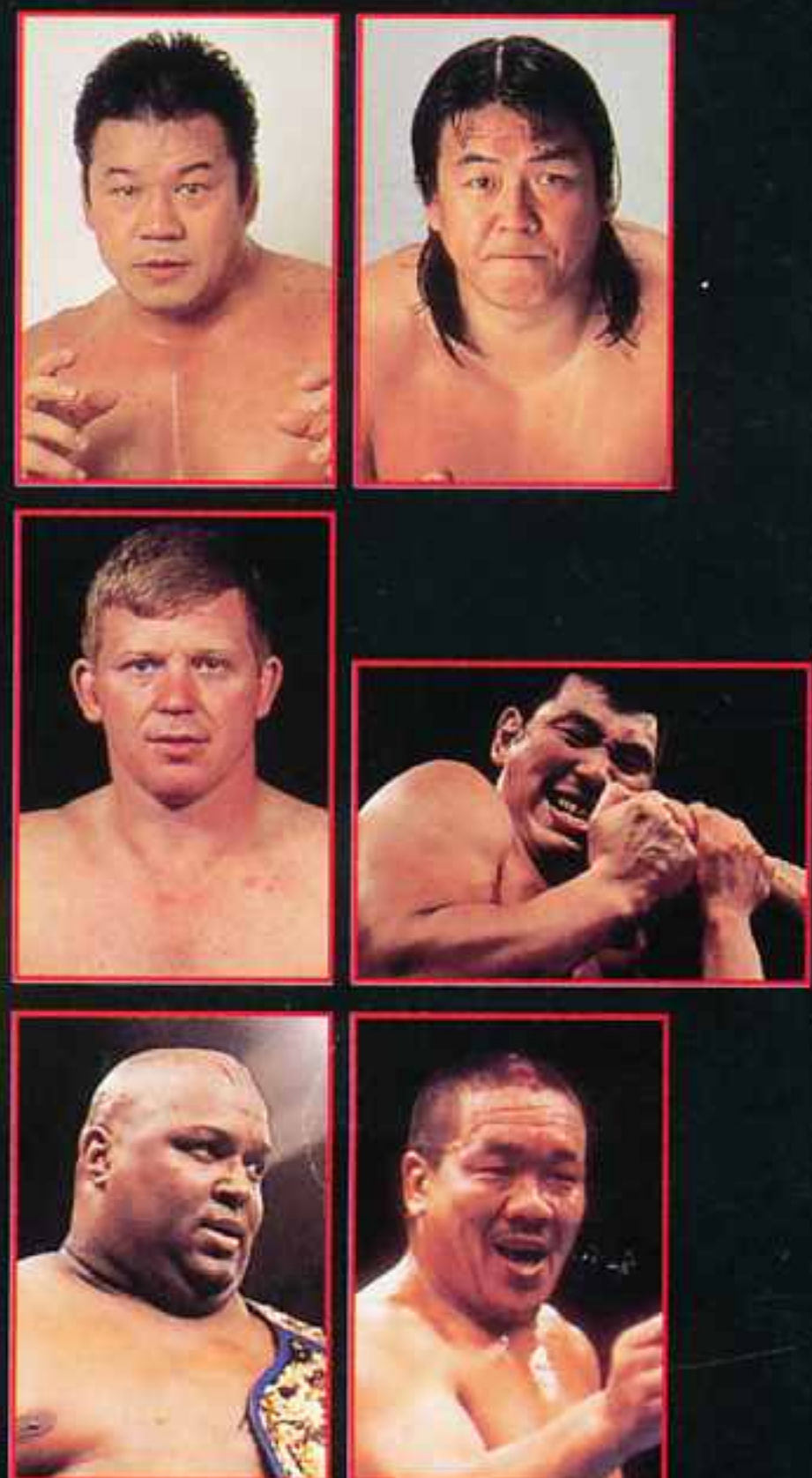
テレビの前で心を躍らせた あの"金曜夜8時"が帰ってきた!

ワールドプロレスリング ザ・ゴールデンアワー

昭和48年4月、新日本プロレスリングの興行をTV番組にした「ワールドプロレスリング」がスタート!
放送時間帯は、力道山以来プロレス中継のメッカとされた金曜夜8時。
高度成長期に登場した番組の一つとして、「ワールドプロレスリング」はファンの熱い支持にささえられ、高視聴率を獲得。
昭和40年代から50年代へとプロレス黄金時代を築きあげていくことになる。
そして、当時の金曜夜8時はプロレスの"ゴールデンアワー"と呼ばれていた。

TOVH-1391 ¥10,200(税込) カラー/ステレオ/Hi-Fi/約135分収録

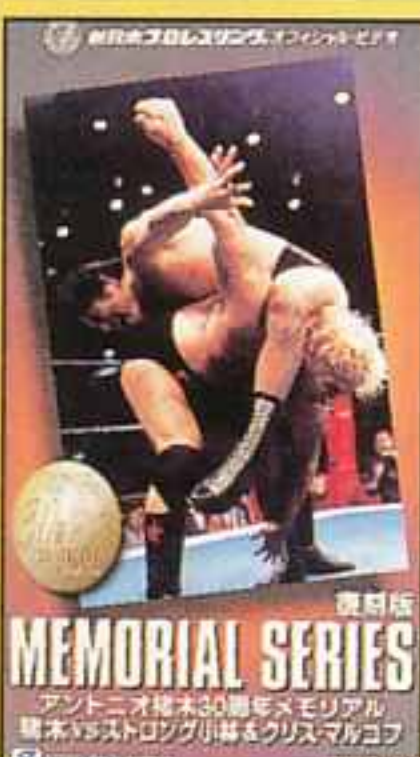
昭和57年1月1日/後楽園ホール/3,300人(超満員)
新春プロレス スペシャル・三大スーパーファイト
放送日:昭和57年1月1日㈮ 生放送特番 夜7時30分～9時

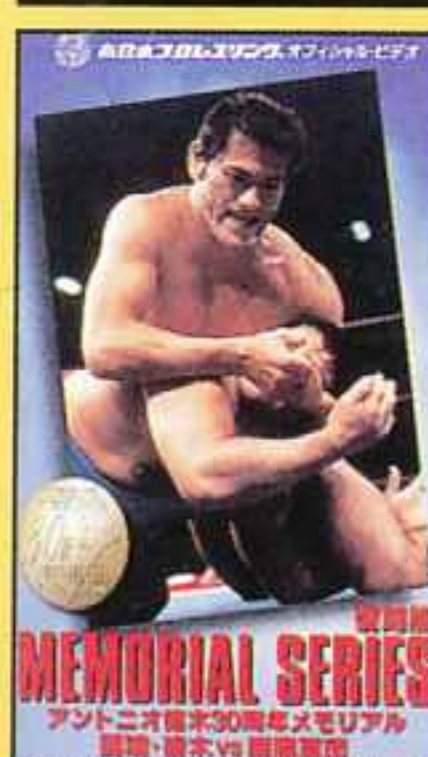
■エキジビション・マッチ30分1本勝負
×藤原喜明 vs カール・ゴッチ○
(3分27秒 ジャーマン・スープレックス・ホールド)
■45分1本勝負
△長州 力 vs アニマル浜口△
(8分46秒 両者リングアウト)
■WWF認定ジュニア・ヘビー級王座決定戦60分1本勝負
○タイガーマスク vs ダイナマイト・キッド×
(8分31秒 エビ固め)タイガーマスクが新チャンピオンとなる
■飛龍十番勝負第1戦/WWF認定ヘビー級選手権試合
×藤波辰巳 vs ボブ・バックランド○
(12分36秒 エビ固め)
■特別試合5分10R
○アントニオ猪木 vs ローランド・ボック×
(3R3分16秒 猪木反則勝ち)

昭和57年1月28日/東京体育館/9,000人
新春黄金シリーズ
放送日:昭和57年1月29日㈮ 夜8時00分～9時(中継録画)

■IWGPアジア・ゾーン予選リーグ45分1本勝負
△坂口征二 vs ラッシャー木村△
(8分58秒 両者リングアウト)
■WWF認定ジュニア・ヘビー級選手権試合60分1本勝負
○タイガーマスク vs ダイナマイト・キッド×
(12分38秒 ジャーマン・スープレックス・ホールド)王者初防衛
■時間無制限1本勝負
○アントニオ猪木 vs アブドーラ・ザ・ブッチャー×
(14分52秒 猪木反則勝ち)

全試合完全収録 好評発売中

復刻版 プロレス・ビデオの永遠のベストセラーが待望の復刻発売中!

アントニオ猪木30周年メモリアル 猪木vsストロング小林&クリス・マルコフ

力道山 対 木村政彦以来の日本人超大物対決、日本マット史上ベスト10に入る小林戦と猪木が初優勝した日本プロレス第11回ワールド大リーグ戦決戦以来の因縁の対決、クリス・マルコフ戦がメモリアルシリーズでドッキング!
TOVH-1392 ¥6,200(税込) カラー/モノラル(一部ステレオ)/56分収録
■昭和49年3月19日/蔵前国技館
NWF世界ヘビー級選手権試合
アントニオ猪木 vs ストロング小林
■昭和53年11月1日/愛知県体育館
NWF世界ヘビー級選手権試合
アントニオ猪木 vs クリス・マルコフ

アントニオ猪木30周年メモリアル 闘魂・猪木vs国際軍団

アントニオ猪木と国際軍団に抗争が勃発!ラッシャー木村、アニマル浜口、寺西勇の国際プロレスの残党が、新日本マットに登場、打倒・猪木を目論み、嵐を巻き起こしたのである。軍団大将のラッシャー木村との血で血を洗う一騎打ち、そして軍団3人との変則マッチと、猪木の闘魂は爆発した。
TOVH-1393 ¥6,200(税込) カラー/ステレオ/64分収録
■昭和57年2月9日/大阪府立体育会館
■昭和58年9月21日/大阪府立体育会館
アントニオ猪木 vs ラッシャー木村
■昭和57年11月4日/蔵前国技館 <1対3ハンデキャップマッチ>
アントニオ猪木 vs 寺西 勇/アニマル浜口/ラッシャー木村

●1991年に発売された作品の復刻版です。
大好評発売中

通信販売でのお求めは
闘魂SHOP
問:TEL.03(5411)5959

企 画:新日本プロレスリング㈱
発売元:㈱ビデオ・パック・ニッポン
販売元:東芝EMI㈱

お求めは全国のCDショップ、書店、プロレス・ショップ及び闘魂SHOPにて受付中!
●内容についてのお問い合わせは:東芝EMI㈱ ST本部・映像部☎03-5512-1749
●ご注文についてのお問い合わせは:同営業本部・販売推進部3グループ☎03-5512-1558
TOSHIBA EMI

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK 111 1999 No.19 オーバー・ザ・プロレス
平成11年7月25日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体743円+税
雑誌 69862-11
ISBN4-89829-561-4
C9476 ¥743E
9784898295618
1929476007438
印刷:図書印刷株式会社

紙プロ夏の大特集　予告編ポートレート

「ほんまかいな？」本間朋晃インタビュー次号で堂々掲載！

■かなり偏差値の低い見出しでスイマセン。なぜ、いきなり大日本プロレス・本間選手のポートレートが出てきたのか？　そんな疑問にお答えしましょう。ここ最近も、大会場でアブドーラ・ザ・ブッチャーや山川竜司を相手に潰されても壊れない頑丈ぶりと「頭、大丈夫か？」と、頭の中と外が同時に心配になる、いろんな意味でのキレっぷりを見せつけ、現在急上昇している。今年の夏の成長株NO.1だ。そんな本間選手のインタビューを今号で掲載する予定で収録したのだが、少ないページでチマチマやるよりも、ドカンと充実したものにした方が面白かろうというわけで次号送りにさせてもらいました。その他の企画も水面下で鋭意進行中なので、待て待て待て待てコノヤロー!!

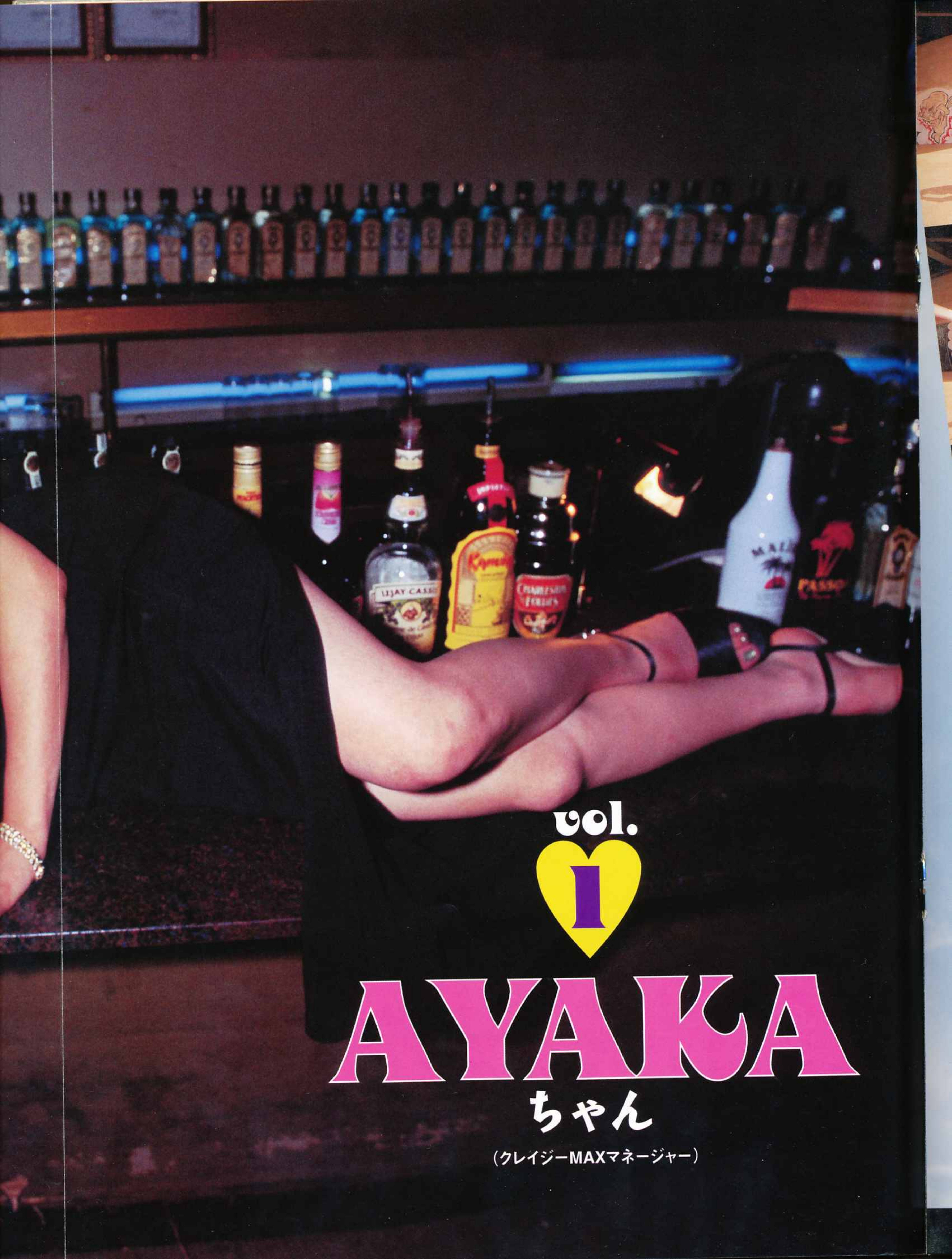
モデル／眉は細いがハートはぶっとい本間朋晃選手

To be cotinued......

BIG JAPAN WARS
EPISODE I

近日公開!!

vol.

1

AYAKA

ちゃん

（クレイジーMAXマネージャー）

マット界美女紀行